

揖保郡太子町

觴 遺 跡

- (国) 179 号 (太子道路) 道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -



令和 5 (2023) 年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

鶴 遺 跡

— (国) 179 号(太子道路) 道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



令和 5 (2023) 年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

例　　言

1. 本書は兵庫県揖保郡太子町に所在する鯨遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および出土品整理作業は、兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所による、(国) 179号社会資本整備総合交付金事業、(国) 179号太子道路地域自主戦略交付金事業および、(国) 179号(太子道路)道路改良事業に伴うもので、発掘調査は兵庫県西播磨県民局長(龍野土木事務所)の依頼を受けた兵庫県教育委員会が調査主体となり、調査機関として委託を受けた公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した。
出土品整理作業についても、兵庫県西播磨県民局長(龍野土木事務所)から依頼を受けた兵庫県教育委員会が公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センターに委託して、兵庫県立考古博物館において実施した。
3. 本発掘調査は、平成24(2012)年度が寛幸建設(たつの市龍野町堂本147-2)に、平成25(2013)年度は有限会社 山本工業(揖保郡太子町糸井187-1)にそれぞれ工事請負委託して実施し、下請業者の安西工業 株式会社(神戸市西区上新地3-3-1)が主として発掘調査業務にあつた。
4. 発掘調査結果の地形および遺構の実測は空中写真測量図化およびポール写真測量図化として、平成24(2012)年度は株式会社 八州 関西支社 姫路営業所(姫路市安田1丁目68番地の1)に、平成25(2013)年度は伸栄開発 株式会社(たつの市揖西町小犬丸2168番地の1)にそれぞれ委託して実施した。
その他の詳細実測は調査員が行い、現場事務員として高橋和子が事務および出土遺物の洗浄等にあつた。
5. 本書に使用した写真的うち、遺構については発掘調査担当者が撮影したもの、空中写真是株式会社 八州、伸栄開発 株式会社にそれぞれ委託して撮影したものを使用した。
また、遺物写真については株式会社 地域文化財研究所に委託して中本照雄氏が撮影したものおよび、国際文化財 株式会社に委託して九鬼みづほ氏が撮影したものを使用した。
6. 鯨遺跡出土金属器は公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部整理保存課で保存処理を実施した。
7. 本書の執筆は岸本一宏が行い、自然科学分析については報告文を掲載した。また、編集は嘱託員の高瀬敬子の補助のもと、岸本が行った。
8. 本報告で使用した図面・写真および遺物は、兵庫県立考古博物館および魚住分館で保管している。
9. 発掘調査にあたり、芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課(当時)の森岡秀人氏、太子町教育委員会社会教育課文化財係(当時)の三村修次氏にお世話をなった。記して感謝の意を表します。

凡　例

1. 本書で使用した方位は第V系国土座標（世界測地系）を基準とし、北は座標北をさす。標高の数値は国土地理院1等水準点を利用した海拔高（T.P.）を使用した。
2. 鳥遺跡の調査について、兵庫県教育委員会が設定した調査別の遺跡調査番号は以下の通りである。

確認調査	平成23（2011）年度	遺跡調査番号	2011306
本発掘調査	平成24（2012）年度	遺跡調査番号	2012146
本発掘調査	平成25（2013）年度	遺跡調査番号	2013112
3. 土層断面の色調名は『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）によるものである。また、土層名のうち、堆積物の粒度区分については、調査担当者が経験的に触感により判断したものである。
4. 遺物番号は本文・図版・写真図版とも同一とし、遺物の種類ごとに通し番号としている。
遺物番号のうち、土器類・土製品は数字のみ、石器・石製品には「S」、金属器には「M」をそれぞれ冠し、種類ごとに通し番号としている。
5. 土器類実測図のうち、須恵器は断面黒塗り、磁器は35%、陶器は20%の断面網掛けにしている。
また、土器に赤色顔料等が塗布してある部分については20%の網掛けにしている。
6. 本書に掲載した挿図のうち、第1図は国土地理院発行の1/25,000電子図「龍野」「網干」、図版1は兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所から提供をうけたものをそれぞれ使用した。

本文目次

第1章 遺跡の位置と環境	
第1節 位置と地理的環境	1
第2節 遺跡の歴史的環境	2
第2章 調査の経緯・経過と体制	
第1節 発掘調査に至る経緯と調査の経過	7
第2節 出土品整理作業の経過と体制	9
第3章 調査の結果	
第1節 遺構	
1 I 区.....	11
2 II 区.....	14
3 小結.....	22
第2節 遺物	
1 I 区.....	23
2 II 区.....	42
第4章 自然科学分析結果	
第1節 鶴遺跡出土土器・石製品の赤色顔料分析	(株式会社 古環境研究所) 53
第5章 総括	
第1節 出土遺物のまとめ	
1 弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器分類	57
2 出土裝飾器台について	84
3 他地域系土器について	85
4 流路3出土土器の比率について	95

挿図目次

第1図	周辺の遺跡分布図	3	第11図	出土土器の分類(底部)	73
第2図	赤色顔料の蛍光X線分析結果	55	第12図	出土土器の分類(高坏①)	77
第3図	赤色顔料の生物顕微鏡写真	56	第13図	出土土器の分類(高坏②)	78
第4図	出土土器の分類(甕①)	59	第14図	出土土器の分類(器台)	79
第5図	出土土器の分類(甕②)	61	第15図	出土土器の分類(脚(裾)部)	81
第6図	出土土器の分類(甕③)	63	第16図	出土土器の分類(脚台部・製塙土器)	81
第7図	出土土器の分類(盃①)	65	第17図	出土土器の分類(有孔鉢)	82
第8図	出土土器の分類(盃②)	67	第18図	出土土器の分類(盃)	83
第9図	出土土器の分類(鉢①)	69	第19図	装飾器台の比較	84
第10図	出土土器の分類(鉢②)	71	第20図	北近畿系土器の類例と土器の構成比率	94

表目次

第1表	遺跡名表	4	第2表	分析対象となる赤色顔料付着遺物	53
-----	------	---	-----	-----------------	----

図版目次

図版1	調査区の位置		図版38	I区 流路3出土土器 (26)	
図版2	検出遺構全体		図版39	I区 流路3出土土器 (27)	
図版3	I区平面・土層断面		図版40	I区 流路3出土土器 (28)	
図版4	I区 流路3埋土土層断面 (1)		図版41	I区 流路3出土土器 (29)	
図版5	I区 流路3埋土土層断面 (2)		図版42	I区 流路3出土土器 (30)	
図版6	II区平面・土層断面		図版43	I区 流路3出土土器 (31)	
図版7	II区南部平面		図版44	I区 流路3出土土器 (32)	
図版8	I区 溝4埋土・II区 南壁土層断面、II区 井戸1		図版45	I区 流路3出土土器 (33)	
図版9	II区 井戸2・井戸3		図版46	I区 流路3出土土器 (34)	
図版10	II区 井戸3上層土器出土状況		図版47	I区 流路3出土土器 (35)	
図版11	II区 流路1・流路2埋土土層断面		図版48	I区 流路3出土土器 (36)	
図版12	II区 溝1・溝2・溝3・溝5埋土土層断面		図版49	I区 流路3出土土器 (37)	
図版13	I区 流路3出土土器 (1)		図版50	I区 流路3出土土器 (38)	
図版14	I区 流路3出土土器 (2)		図版51	I区 流路3出土土器 (39)	
図版15	I区 流路3出土土器 (3)		図版52	I区 流路3出土土器 (40)	
図版16	I区 流路3出土土器 (4)		図版53	I区 流路3出土土器 (41)	
図版17	I区 流路3出土土器 (5)		図版54	I区 流路3出土土器 (42)	
図版18	I区 流路3出土土器 (6)		図版55	I区 流路3出土土器 (43)	
図版19	I区 流路3出土土器 (7)		図版56	I区 流路3出土土器 (44)	
図版20	I区 流路3出土土器 (8)		図版57	II区 流路1-1出土土器 (1)	
図版21	I区 流路3出土土器 (9)		図版58	II区 流路1-1出土土器 (2)	
図版22	I区 流路3出土土器 (10)		図版59	II区 流路1-1出土土器 (3)、流路1-2出土土器 (1)	
図版23	I区 流路3出土土器 (11)		図版60	II区 流路1-2出土土器 (2)	
図版24	I区 流路3出土土器 (12)		図版61	II区 流路1-2出土土器 (3)	
図版25	I区 流路3出土土器 (13)		図版62	II区 流路2出土土器 (1)	
図版26	I区 流路3出土土器 (14)		図版63	II区 流路2出土土器 (2)	
図版27	I区 流路3出土土器 (15)		図版64	II区 流路2出土土器 (3)、溝1・溝2出土土器	
図版28	I区 流路3出土土器 (16)		図版65	II区 井戸1・井戸2出土土器、井戸3出土土器 (1)	
図版29	I区 流路3出土土器 (17)		図版66	II区 井戸3出土土器 (2)、ビット出土土器	
図版30	I区 流路3出土土器 (18)		図版67	II区 溝3・I区 溝4・II区 包含層・搅乱他出土土器	
図版31	I区 流路3出土土器 (19)		図版68	I区 流路3出土石器・石製品 (1)	
図版32	I区 流路3出土土器 (20)		図版69	I区 流路3出土石器・石製品 (2)	
図版33	I区 流路3出土土器 (21)		図版70	I区 流路3出土石器・石製品 (3)、 II区 流路1-1・流路1-2・流路2出土石器・石製品	
図版34	I区 流路3出土土器 (22)		図版71	II区 流路2・井戸3・包含層、 I・II区 搅乱出土石器・石製品、 I区 流路3出土鉄器	
図版35	I区 流路3出土土器 (23)				
図版36	I区 流路3出土土器 (24)				
図版37	I区 流路3出土土器 (25)				

写真図版目次

- 写真図版1上 調査区遠景（南上空から、2013年3月撮影）
 下 調査区遠景（西上空から、2013年3月撮影）
- 写真図版2上 I区全景（上が東、2013年3月撮影）
 下 II区西半部全景（上が東、2013年2月撮影）
- 写真図版3上 I区全景（南上空から、2013年3月撮影）
 下 I区全景（北上空から、2013年3月撮影）
- 写真図版4上 II区西半部全景（南上空から、2013年2月撮影）
 下 II区西半部全景（西上空から、2013年2月撮影）
- 写真図版5 2012年度調査 I・II区（左）と
 2013年度調査 II区（右）全景（上が北）
- 写真図版6上 I区 流路3全景（南から）
 下 I区 流路3全景（北から）
- 写真図版7上 流路3（1区）II層下面・IV層下面 土器出土
 状況（南西から）
 下 流路3（1区）II層下面・IV層下面 土器出土
 状況（東から）
- 写真図版8上 流路3（1・2区）II層下面～IV層上面 土器出
 土状況（北西から）
 下 流路3（1区）II層 土器出土状況
 （北西から）
- 写真図版9上 流路3（1・2区）土器出土状況
 （南南西から）
 下 流路3（1・2区）土器出土状況（西から）
- 写真図版10上 流路3（A-A'）理土土層断面（北から）
 中 流路3（B-B'）理土土層断面（北から）
 下 流路3（C-C'）理土土層断面（北から）
- 写真図版11上 流路3（C-C'）理土土層断面詳細
 （北から）
 中 流路3（D-D'）理土土層断面（北から）
 下 流路3（D-D'）理土土層断面詳細
 （北から）
- 写真図版12上 流路3（E-E'）理土土層断面
 （北から）
 ① 流路3（3区）IV-7層 214出土状況（北から）
 ② 流路3（4区）IV-5層 326・363出土状況
 （東から）
 ③ 流路3（4区）IV-3層 451出土状況（南から）
 ④ 流路3（4区）IV-2層 594出土状況（東から）
- 写真図版13① 流路3（4区）IV-2層 757・774ほか出土状況
 （東から）
 ② 流路3（2区）II-3層 950ほか出土状況
 （北から）
 ③ 流路3（2区）II-3層 土器出土状況（南西から）
 ④ 流路3（2区）II-3層 953ほか出土状況
 （北から）
 ⑤ 流路3（2区）II-3層 966・974・990ほか出土
 状況（西から）
 ⑥ 流路3（2区）II-3層 971ほか出土状況
 （西から）
 ⑦ 流路3（2区）II-3層 981・983ほか出土
 状況（西から）
 ⑧ 流路3（2区）II-3層 982・984ほか出土
 状況（西から）
- 写真図版14① 流路3（1区）IV-1層 土器出土状況（南から）
 ② 流路3（1区）II-2層 1047・1152・1154ほか
 出土状況（東から）
 ③ 流路3（1区）II-2層 1047・1152・1154ほか
 出土状況（北東から）
- 写真図版14④ 流路3（1区）II-2層 1108ほか出土状況
 （東から）
 ⑤ 流路3（1区）II-2層 1141ほか出土状況
 （南西から）
 ⑥ 流路3（1区）II-2層 1174・1287出土状況
 （西から）
 ⑦ 流路3（4・5区）II-1層 1365出土状況（北から）
 ⑧ 流路3（1区）I層 1434ほか出土状況（東から）
- 写真図版15① 流路3（1区）I層 1437ほか出土状況
 （北東から）
 ② 流路3（1区）I層 1441出土状況（北東から）
 ③ 流路3（2区）I層 1442出土状況（北から）
 ④ 流路3（5区）東壁理土土層断面（西から）
 ⑤ 流路3（4区）東壁北半部土土層断面（西から）
 ⑥ 流路3（4区）東壁南半部土土層断面（西から）
 ⑦ 流路3（3区）東壁理土土層断面（西から）
 ⑧ 流路3（2区）東壁理土土層断面（西から）
- 写真図版16上 II区西半部全景（南から）
 下 II区西半部全景（北から）
- 写真図版17上 II区西半部土土層断面（北から）
 下 II区西半部全景（北から）
- 写真図版18上 II区西半部 流路1-1および埋土土層断面
 （南西から）
 下 II区東半3区全景（北から）
 中 II区東半3区 流路1-1部分（真上から、上が北）
 下 II区東半3区 流路1-1および埋土土層断面
 （南西から）
 ① II区西半部 流路1-1内 埋土部分割ち割り断面
 （南から）
 ② II区東半3区 流路1-1内 下層埋土被ち割り断面
 （南から）
- 写真図版20上 II区東半1・2区全景（南から）
 下 II区東半1・2区全景（北から）
- 写真図版21① II区東半1・2区全景（真上から、上が北）
 ② II区東半2区 流路1-2理土土層断面（北から）
 ③ II区東半2区 流路1-2理土土層断面（南西から）
 ④ II区東半2区 流路1-2 第4層 1544出土状況
 （西から）
- 写真図版22上 II区東半5区 流路2（南から）
 下 II区東半5区 流路2（北から）
- 写真図版23① II区東半5区全景（真上から、上が北）
 ② II区西半部南端 流路2・溝1埋土土層断面
 （北から）
 ③ II区東半5区 流路2理土土層断面（北から）
 ④ II区東半5区 流路2上面土器出土状況（北から）
 ⑤ II区東半5区 流路2西側壁第4層（北東から）
- 写真図版24① II区東半5区 流路2 第7層 1653出土状況
 （東から）
 ② II区東半5区 流路2 1656・1686出土状況
 （東から）
 ③ II区東半5区 流路2理土土層断面（北から）
 ④ II区東半5区 流路2 1725出土状況（南から）
 ⑤ II区東半5区 流路2 1725出土状況（北から）
 下 II区西半部南端 流路2・溝1（南から）
- 写真図版25上 II区東半4区 流路1-1・溝1（南から）
 ① II区東半4区 流路1-1・溝1（北から）
 ② II区東半4区全景（真上から、上が北）
- 写真図版26① II区東半4区 溝1（a-a'）理土土層断面
 （南から）

写真図版26②	II区西半部 構1 (b-b') 埋土層断面 (北から)	写真図版36④	粘土探査掘削状況 (II区西半部、北西から) ⑤ 全景写真撮影のための清掃状況 (II区西半部、南から)
③	II区西半部 構1 (c-c') 埋土層断面 (北から)	⑥	I区 流路3 掘削状況 (南東から)
④	II区西半部 構1 (b-b') 下層埋土層断面 (北から)	⑦	土器精査状況 (I区、流路3、北東から)
下	II区西半部 井戸1～井戸3 (北から)	⑧	土器精査状況 (II区西半部 井戸3、北東から)
写真図版27①	II区西半部 井戸1～井戸3など検出状況 (西から)	写真図版37①	ボーラー写真撮影状況 (II区東半1区、 北東から)
②	II区西半部 井戸1など検出状況 (西から)	②	高所作業車からの写真撮影状況 (II区東半4区、 南から)
③	II区西半部 井戸2 1749 出土状況 (北西から)	③	機工板設置状況 (II区東半4区、西北西から)
④	II区西半部 井戸2 (北から)	④	埋め戻し状況 (II区東半2区、北北東から)
下	II区西半部 井戸1 埋土層断面 (北から)	⑤	井戸2 土層断面実測状況 (北から)
写真図版28上	II区西半部 井戸2 埋土層断面 (北から)	⑥	森岡秀人氏による現地指導状況 (南から)
下	II区西半部 井戸2 底の状況 (南西から)	⑦	地元説明会開催状況 (南東から)
写真図版29上	II区西半部 井戸2 底の繩 (南から)	⑧	地元説明会終了後の発掘体験 (北西から)
①	II区西半部 井戸2 底の繩 (西から)	写真図版38上	流路3 出土 壺
②	II区西半部 井戸2 底の繩 (北から)	下	流路3 出土 壺
③	II区西半部 井戸2 蔊ち割り断面 (北から)	写真図版39上	流路3 出土 鉢・有孔鉢ほか
④	II区西半部 井戸2 蔊ち割り断面詳細 (北から)	下	流路3 出土 高壺・器台
写真図版30上	II区西半部 井戸3 上面の土器群 (西から)	写真図版40上	流路3 出土 盖
下	II区西半部 井戸3 埋土層断面 (南から)	下	流路3 出土 韓式系土器ほか
写真図版31上	II区西半部 井戸3 底付近の繩 (西から)	写真図版41上	流路2 出土 土器
下	II区西半部 井戸3 完成状況 (西から)	下	井戸3 出土 土器
写真図版32上	II区西半部 井戸3 上面の土器群 (東から)	写真図版42上	流路3 出土 山陰系甕
下	II区西半部 井戸3 上面の土器群詳細 (東から)	下	出土 唐岐系土器
写真図版33①	井戸3 上面の土器群 北東部 (西から)	写真図版43上	出土 北近畿系土器
②	井戸3 上面の土器群 南東部 (西から)	下	出土 北近畿系土器C 1
③	井戸3 1753・1755・1758・1773・1776・1790・ 1798 出土状況 (西から)	写真図版44上	出土 北近畿系土器C 2・C 3
④	井戸3 1753・1755・1773・1790 ほか出土状況 (北から)	下	出土 北近畿系土器C 4～C 6
⑤	井戸3 1753・1755・1758・1773・1790・1798 出土状況 (北東から)	写真図版45上	出土 北近畿系土器A・B
⑥	井戸3 1753・1755・1758・1773・1790・1798 出土状況 (北から)	写真図版46上	出土 北近畿系高壺
⑦	井戸3 1753・1755・1758・1773・1790 ほか 出土状況 (北から)	下	出土 北近畿系器台
⑧	井戸3 1753・1755・1758・1773・1790 ほか 出土状況 (北東から)	写真図版47上	出土 北近畿系と想定される壺A・B・C
写真図版34①	井戸3 1753・1755・1758・1773・1790 ほか 出土状況 (北から)	写真図版48	流路3 出土土器 (1)
⑦	井戸3 1753・1759・1774 出土状況 (南西から)	写真図版49	流路3 出土土器 (2)
⑧	井戸3 土理下層 1757 出土状況 (東から)	写真図版50	流路3 出土土器 (3)
写真図版35①	井戸3 1776 出土状況 (北東から)	写真図版51	流路3 出土土器 (4)
②	井戸3 埋土中層 1776 出土状況 (北東から)	写真図版52	流路3 出土土器 (5)
③	井戸3 土器群南西部 1775・1789 出土状況 (西から)	写真図版53	流路3 出土土器 (6)
④	井戸3 1789 出土状況 (南から)	写真図版54	流路3 出土土器 (7)
⑤	井戸3 1788・1796 出土状況 (東から)	写真図版55	流路3 出土土器 (8)
⑥	井戸3 埋土中層 1794 出土状況 (北東から)	写真図版56	流路3 出土土器 (9)
⑦	井戸3 底部繩帯内 1792 出土状況 (西から)	写真図版57	流路3 出土土器 (10)
⑧	井戸3 底部繩帯断面 (北から)	写真図版58	流路3 出土土器 (11)
写真図版35②	II区東半1区 構2 (a-a') 埋土層断面 (北から)	写真図版59	流路3 出土土器 (12)
②	II区西半部 構2 (b-b') 埋土層断面 (南から)	写真図版60	流路3 出土土器 (13)
③	II区西半部 構3 埋土層断面 (北から、図は反転)	写真図版61	流路3 出土土器 (14)
④	I区 構4 (A-A') 埋土層断面 (北から)	写真図版62	流路3 出土土器 (15)
⑤	I区 構4 (F-F') 埋土層断面 (北から)	写真図版63	流路3 出土土器 (16)
⑥	II区東半1区 構5 (南東から)	写真図版64	流路3 出土土器 (17)
⑦	II区東半1区 構5 埋土層断面 (南東から)	写真図版65	流路3 出土土器 (18)
⑧	II区西半部 ピット2 ほか蔵ち割り土層断面 (南西から)	写真図版66	流路3 出土土器 (19)
写真図版36①	I区 調査前現況 (南から)	写真図版67	流路3 出土土器 (20)
②	II区西半部 調査前現況 (北北東から)	写真図版68	流路3 出土土器 (21)
③	機械掘削状況 (II区西半部、南から)	写真図版69	流路3 出土土器 (22)
		写真図版70	流路3 出土土器 (23)
		写真図版71	流路3 出土土器 (24)
		写真図版72	流路3 出土土器 (25)
		写真図版73	流路3 出土土器 (26)
		写真図版74	流路3 出土土器 (27)

写真図版 75	流路 3 出土土器 (28)	写真図版135	流路 3 出土土器 (88)
写真図版 76	流路 3 出土土器 (29)	写真図版136	流路 3 出土土器 (89)
写真図版 77	流路 3 出土土器 (30)	写真図版137	流路 3 出土土器 (90)
写真図版 78	流路 3 出土土器 (31)	写真図版138	流路 3 出土土器 (91)
写真図版 79	流路 3 出土土器 (32)	写真図版139	流路 3 出土土器 (92)
写真図版 80	流路 3 出土土器 (33)	写真図版140	流路 3 出土土器 (93)
写真図版 81	流路 3 出土土器 (34)	写真図版141	流路 3 出土土器 (94)
写真図版 82	流路 3 出土土器 (35)	写真図版142	流路 3 出土土器 (95)
写真図版 83	流路 3 出土土器 (36)	写真図版143	流路 3 出土土器 (96)
写真図版 84	流路 3 出土土器 (37)	写真図版144	流路 3 出土土器 (97)
写真図版 85	流路 3 出土土器 (38)	写真図版145	流路 1-1 出土土器 (1)
写真図版 86	流路 3 出土土器 (39)	写真図版146	流路 1-1 出土土器 (2)
写真図版 87	流路 3 出土土器 (40)	写真図版147	流路 1-1 出土土器 (3)
写真図版 88	流路 3 出土土器 (41)	写真図版148	流路 1-1 出土土器 (4)
写真図版 89	流路 3 出土土器 (42)	写真図版149	流路 1-1 出土土器 (5)
写真図版 90	流路 3 出土土器 (43)	写真図版150上	流路 1-1 出土土器 (6)
写真図版 91	流路 3 出土土器 (44)	下	流路 1-2 出土土器 (1)
写真図版 92	流路 3 出土土器 (45)	写真図版151	流路 1-2 出土土器 (2)
写真図版 93	流路 3 出土土器 (46)	写真図版152	流路 1-2 出土土器 (3)
写真図版 94	流路 3 出土土器 (47)	写真図版153	流路 1-2 出土土器 (4)
写真図版 95	流路 3 出土土器 (48)	写真図版154	流路 1-2 出土土器 (5)
写真図版 96	流路 3 出土土器 (49)	写真図版155	流路 1-2 出土土器 (6)
写真図版 97	流路 3 出土土器 (50)	写真図版156上	流路 1-2 出土土器 (7)
写真図版 98	流路 3 出土土器 (51)	下	流路 2 出土土器 (1)
写真図版 99	流路 3 出土土器 (52)	写真図版157	流路 2 出土土器 (8)、
写真図版100	流路 3 出土土器 (53)		流路 2 出土土器 (2)
写真図版101	流路 3 出土土器 (54)	写真図版158	流路 2 出土土器 (3)
写真図版102	流路 3 出土土器 (55)	写真図版159	流路 2 出土土器 (4)
写真図版103	流路 3 出土土器 (56)	写真図版160	流路 2 出土土器 (5)
写真図版104	流路 3 出土土器 (57)	写真図版161	流路 2 出土土器 (6)
写真図版105	流路 3 出土土器 (58)	写真図版162	流路 2 出土土器 (7)
写真図版106	流路 3 出土土器 (59)	写真図版163	流路 2 出土土器 (8)
写真図版107	流路 3 出土土器 (60)	写真図版164	流路 2 出土土器 (9)
写真図版108	流路 3 出土土器 (61)	写真図版165上	溝1・溝2 出土土器
写真図版109	流路 3 出土土器 (62)	下	井戸1 出土土器、井戸2 出土土器 (1)
写真図版110	流路 3 出土土器 (63)	写真図版166	井戸2 出土土器 (2)、井戸3 出土土器 (1)
写真図版111	流路 3 出土土器 (64)	写真図版167	井戸3 出土土器 (2)
写真図版112	流路 3 出土土器 (65)	写真図版168	井戸3 出土土器 (3)
写真図版113	流路 3 出土土器 (66)	写真図版169	井戸3 出土土器 (4)
写真図版114	流路 3 出土土器 (67)	写真図版170上	井戸3 出土土器 (5)
写真図版115	流路 3 出土土器 (68)	下	柱穴・溝3 出土土器
写真図版116	流路 3 出土土器 (69)	写真図版171	溝4 出土土器 (1)
写真図版117	流路 3 出土土器 (70)	写真図版172上	溝4 出土土器 (2)
写真図版118	流路 3 出土土器 (71)	下	II区包含層 出土土器 (1)
写真図版119	流路 3 出土土器 (72)	写真図版173上	II区包含層 出土土器 (2)
写真図版120	流路 3 出土土器 (73)	下	粘土採掘場 出土遺物 (1)
写真図版121	流路 3 出土土器 (74)	写真図版174	粘土採掘場 出土遺物 (2)、表採土器 (1)
写真図版122	流路 3 出土土器 (75)	写真図版175	粘土採掘場 出土遺物 (3)、表採土器 (2)
写真図版123	流路 3 出土土器 (76)	写真図版176	粘土採掘場 出土瓦 (1)
写真図版124	流路 3 出土土器 (77)	写真図版177	粘土採掘場 出土瓦 (2)
写真図版125	流路 3 出土土器 (78)	写真図版178	粘土採掘場 出土瓦 (3)
写真図版126	流路 3 出土土器 (79)	写真図版179	流路 3 出土石器・石製品 (1)
写真図版127	流路 3 出土土器 (80)	写真図版180	流路 3 出土石器・石製品 (2)
写真図版128	流路 3 出土土器 (81)	写真図版181	流路 3 出土石器・石製品 (3)
写真図版129	流路 3 出土土器 (82)	写真図版182	流路 3 出土石器・石製品 (4)
写真図版130	流路 3 出土土器 (83)	写真図版183	流路 1・流路 2 出土石器・石製品
写真図版131	流路 3 出土土器 (84)	写真図版184	流路 2・井戸3 出土石製品
写真図版132	流路 3 出土土器 (85)	写真図版185	包含層・粘土採掘場 出土石器・石製品
写真図版133	流路 3 出土土器 (86)		
写真図版134	流路 3 出土土器 (87)		

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 位置と地理的環境

本書で報告する鷦遺跡は、兵庫県南西部の揖保郡太子町鷦に位置する遺跡で、西播磨にあたる太子町中心部の平野に所在する。

太子町の人口は33,732人（令和4年9月30日での町による集計）を有し、1951（昭和26）年に旧斑鳩町と石海村・太田村が合併して誕生した。その後1955（昭和30）年に龍田村が合併編入され、面積22.8平方キロメートルの現在の町域となった。町名は、日本書紀の推古天皇14（606）年条記載の、聖德太子が法華経の講義を行ったことから、天皇から播磨国のこの地を与えられ、斑鳩寺（法隆寺）領としておさめたことに由来し、聖德太子ゆかりの地であることからつけられた。この地は法隆寺鷦荘の範囲として莊園絵図が残されており、境界を示す榜示石が現地で確認できることなどから、全国的にも代表的な在園遺跡として知られる。

太子町は北側から東部にかけて山塊がひろがっており、西側をたつの市と接し、それ以外の北・東・南側の大半は姫路市と接している。西側のたつの市との境には揖保川水系の林田川が流れている。

太子町は多くの部分が完新世の沖積平野で占められており、西側にはたつの市との境になっている揖保川水系の林田川、東側には独立小河川の大津茂川が榎特山の東を南流し瀬戸内海へとつながっている。平野部には榎特山、立岡山、前山などの孤立山丘が多くあり、すべて流紋岩で構成されている。榎特山は標高165m、平地との比高は約155mで地域に親しまれており、山頂までの散歩道が整備されている。山頂からは太子町全体や瀬戸内海島諸島まで眺望でき、山頂には弥生時代中期の高地性集落も存在している。

太子町内にはJR山陽本線や山陽新幹線、国道2号線などの主要交通網がめぐり、近畿各地や西日本との広域的な橋渡し的役割を担っている。山陽新幹線は榎特山や立岡山などを貫き町の中央部を東西に横切っており、町域の南端を走る山陽本線では町内に駅がなく、最寄り駅は姫路市の網干駅となっている。古代山陽道は太子町域の北側を東西に走っているが、元寇の際の筑紫大道が太子町域北部を通っていることが判明している。

太子町域北側から東部には山塊がひろがっており、中国山地の南縁部分に相当する。山塊の尾根上や支尾根には古墳など多くの遺跡が存在し、丘陵裾の麓層面にも遺跡が認められる。また、平地部には孤立山丘も含め多くの遺跡が存在し、平地部の氾濫原にも遺跡がひろがっている。

第2節 遺跡の歴史的環境

旧石器時代

太子町域およびその周辺には旧石器時代の遺跡は少ないが、たつの市御津町にある碇岩南山遺跡で石器群が調査され、坊主山遺跡（41）で段丘面の発掘調査によりナイフ形石器が出土している。そのほかには広板向池遺跡・原新池遺跡・北山池遺跡・下山池遺跡・山田岬遺跡でナイフ形石器などが採集されているが、ため池を中心とした部分での採集品である。また、坊主山遺跡・広板向池遺跡では有舌尖頭器も出土しており、縄文時代草創期まで継続しているようである。

縄文時代

縄文時代前期の遺跡では、たつの市譽田町片吹遺跡で住居跡が検出されている。

中期以降は遺跡の増加傾向がうかがえる。中期の遺跡には平方遺跡（42）で中期末の住居跡や船元III・IV式の土器群が検出されており、後期以降も引き続いて存続する代表的遺跡の一つといえよう。丁柳ヶ瀬遺跡（28）では中期中葉以降晩期後半から弥生時代までの長期間におよぶ土器が出土しているが、遺構は未発見である。また、矢田部遺跡（19）では縄文中期土器が発見されているようである。

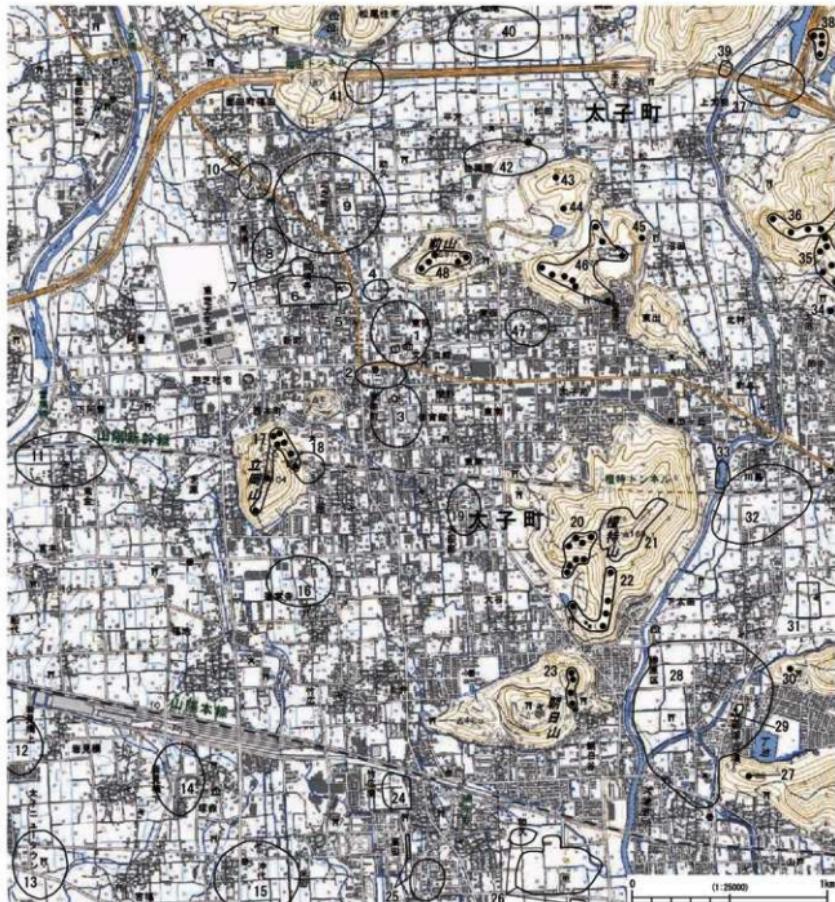
後期になると遺跡数は増大する。東南遺跡（3）が町を代表する遺跡で、後期・晩期を中心とする遺跡である。後期中葉の堅穴住居跡3棟、後期の堅穴住居跡2棟の居住域のほか、墓域の調査も行われ、多くの埋葬や土塙墓のほか配石墓も検出されている。出土土器は中部瀬戸内地域との共通性が指摘されている。また、女性上半身部分の土偶も出土している。平方遺跡（42）では後期の住居跡が調査され、後期後半からの立岡遺跡（18）で晩期の埋葬も発見されている。常全遺跡（11）でも後期～晩期の埋葬が出土しているようである。福地相坂遺跡（14）で後期後半の土器、松尾遺跡（40）で後期土器、城山遺跡（9）や常全遺跡（11）では後期後半～晩期の土器が出土している。なお、鶴北遺跡（4）や大津茂川床遺跡（33）でも縄文土器が出土している。

晩期以降弥生時代前期へと続く遺跡には、城山遺跡（9）の範囲内にある重枝・助久遺跡のほか、丁柳ヶ瀬遺跡（28）、沖代遺跡（15）で土器が出土しており、福地相坂遺跡（14）でも出土がみられるようである。また、鋸治田遺跡（24）では検出された水田跡が縄文晩期～弥生前期のものとされている。

弥生時代

弥生前期の遺跡は上述の5遺跡のほかに縄文時代後期からの常全遺跡（11）があり、鶴遺跡（1）は前期後半からはじまる遺跡のよう、平方遺跡（42）の弥生時代も前期後半からはじまり、土壙から土器が出土している。また、中期土器も多数出土している。他に前期からはじまる遺跡には鶴北遺跡（4）、斑鳩小学校遺跡（5）、斑鳩寺遺跡（6）、福地相坂遺跡（14）があり、すべて中期まで継続しているようで、鶴遺跡から北西側の沼澤原微高地が集中する一地域となっている。

中期になると、城山遺跡（9）範囲内にある重枝・助久遺跡では中期初頭の土壙、中期末の円形住居跡のほか、中期全般の土器が出土している。また、鶴遺跡（1）では住居跡等は検出されていないが、溝・流路から多量の中期後半の土器が出土しており、分銅形土製品も出土している。また、中期初頭の土器も認められる。櫛特山山頂遺跡（21）では山頂周辺や山塊の広範囲から中期中葉・後葉の土器が出土しており、標高165m、比高約155mの高地性集落である。土器のほかに分銅形土製品・筋鍤車・銅劍形石劍の細片などが出土している。櫛特山北東裾に位置する大津茂川床遺跡（33）では鹿・高床建物を描いた中期中葉の窓口縁部が出土している。鋸治田遺跡（24）では中期前半の遺構が発見されておらず、



第1図 周辺の遺跡分布図

中期後半の堅穴住居跡・土器棺が調査されている。和久遺跡（26）は中期後半に始まる遺跡で住居跡・河川跡・木棺墓が調査されている。亀田遺跡（37）も中期からはじまる遺跡で中期後葉を中心としている。33棟もの住居跡が発見され、張り出しをもつものが2棟みられた。分鋼形土製品3点や銅剣形石劍も出土し、石器の石材は讃岐産がほとんどであった。川島遺跡（32）では中期後葉の方形周溝墓・円形周溝墓が検出され、立岡遺跡（18）では中期末の堅穴住居跡が検出されている。弥生時代前期まで続いた常全遺跡（11）では中期の土器がごく少量で中期後葉である。

ほかに、東南遺跡（3）で中期の流路が検出されており、鵜石田遺跡（2）や馬場遺跡（8）、上構

第1表 遺跡名表

1 鵜遺跡	13 吉福西遺跡	25 前田遺跡	37 亀田遺跡
2 鵜石田遺跡	14 福地相坂遺跡	26 和久遺跡	38 内山戸古墳群
3 東南遺跡	15 沖代遺跡	27 山戸4号墳	39 茶屋ノ前遺跡
4 鵜北遺跡	16 蓬常寺北遺跡	28 丁柳ヶ瀬遺跡	40 松尾遺跡
5 斑鳩小学校遺跡	17 立岡山古墳群	29 丁瓢塚古墳	41 坊主山遺跡
6 斑鳩寺遺跡	18 立岡遺跡	30 丁葉司古墳	42 平方遺跡
7 斑鳩寺北遺跡	19 矢田部遺跡	31 下太田庵寺	43 松田山古墳
8 馬場遺跡	20 櫻特山西古墳群	32 川島遺跡	44 坊主山古墳
9 城山遺跡	21 櫻特山山頂遺跡	33 大津茂川床遺跡	45 沼田古墳
10 橋ノ上遺跡	22 櫻特山古墳群	34 黒岡神社古墳	46 丹生山古墳群
11 常全遺跡	23 朝日山古墳群	35 黒岡古墳群	47 東保遺跡
12 上構遺跡	24 錫治田遺跡	36 城山古墳群	48 東保山古墳群

遺跡（12）、松尾遺跡（40）で中期の遺物が出土しており、平方遺跡（42）では多数出土している。

後期以降のうち、蓬常寺北遺跡（16）は後期前半の遺跡とされている。また、庄内期頃と思われる多くの土器が入ったピットが調査されている。後期後半以降は遺跡数が多くなる。鵜遺跡（1）は後期後半～庄内期・布留期にピークを迎える遺跡で、溝・路跡などから多量の土器が出土している。また、北近畿系、山陰系、讃岐系、吉備系の土器が比較的多く含まれ、庄内型甕も一定量出土している。城山遺跡（9）の重枝・助久遺跡では弥生後期末かその直後の方形堅穴住居跡、庄内期～布留期の長方形堅穴住居跡。後期の土壙が調査されている。常全遺跡（11）では後期後半～古墳時代前期土器が出土している。沖代遺跡（15）では弥生時代末～古墳時代初頭の堅穴住居跡が複数調査され、立岡遺跡（18）でも後期後半～末頃の方形堅穴住居跡が調査され、焼失住居であった。また、溝も検出されている。和久遺跡（26）は後期～古墳時代初頭に最盛期を迎える。100棟を超堅穴建物が重複して検出され、多角形堅穴建物2棟からはガラス製小玉、碧玉製管玉がそれぞれ出土し、大型の方形堅穴建物からはガラス製勾玉が出土している。また、小規模な青銅器生産も行われていたことが指摘されている。出土土器には讃岐、阿波、吉備、山陰などからの搬入土器がみられる。茶屋ノ前遺跡（39）では自然流路から磨製石鏃が出土し、後期後半から布留期にかけての土器が多く出土し、北近畿系、讃岐系、吉備系、山陰系など各地からの搬入品や影響を受けた土器が含まれている。後期後半からの遺跡では庄内期へと続く遺跡が多く、布留期にも続いているものが多い。

弥生時代末～古墳時代初頭の庄内期にあたる遺跡には、鵜遺跡南側の鵜石田遺跡（2）で庄内期前後の他地域土器を含む遺物が溝や路跡から多く出土しており、鵜遺跡と一連である可能性が高い。また、太子郵便局建設に伴う調査で土器が埋まつた土壙が検出されている。東南遺跡（3）では古墳時代初頭の路跡が検出されており、斑鳩小学校遺跡（5）や上構遺跡（12）、吉福西遺跡（13）でも庄内期の土器が出土しており、東保遺跡（47）でも庄内系の甕が出土している。また、前田遺跡（25）では古墳時代初頭の堅穴建物跡から山陰型甕形土器が出土しており、堅穴建物跡は丁柳ヶ瀬遺跡（28）でも検出され、一部重複した庄内期の堅穴建物跡2棟が調査されている。川島遺跡（32）では20溝から庄内期の多量の土器が出土し、B型土器群とされた一群は讃岐系の土器群で、搬入品以外に在地の胎土で製作された土器も含まれている。亀田遺跡（37）では庄内期～布留期の遺物が多く出土しており、方形堅穴住

居跡床面から庄内期～布留期の土器や滑石製勾玉2点が出土し、自然流路からは吉備系、北近畿系の土器なども出土している。古墳時代前期になるが、平方遺跡(42)では布留期の方形堅穴住居跡が2棟調査されている。また、弥生後期の土器も出土している。なお、樋ノ上遺跡(10)の北側にあるたつの市福田小川原遺跡では弥生時代の堅穴建物が調査された。

古墳時代

弥生時代末～古墳時代初頭の時期には墳墓が目立つようになる。この時期の墳墓はたつの市にある養久山墳墓群に代表され、太子町域では黒岡山墳丘墓が指摘できる。延長16mの列石を有する長方形の墳丘墓で、3箇所で埋葬施設の可能性がある地点が検出されており、多数埋葬の可能性がある。庄内期の壺口縁部が出土している。調査された例では、養久山5号墓では中方双方形を呈し、榎特山39号墓の墳丘は不整円形で、方形系は多数埋葬、円形系では単一埋葬が指摘できよう。

前期前半に突如として現れる丁瓢塚古墳(29)は、全長98.8m(104mともいわれる)で前方部が壇形に聞く前方後円墳で、後円部の埋葬施設は堅穴式石室といわれる。墳丘形態は讃岐系であるが、墳丘から山陰系とされる竹管文の壺が採集されている。丁瓢塚古墳より小規模であるが、榎特山古墳群(22)中の1号墳は全長約52mの前方後円墳である。後円部から讃岐船の壺棺が発見されているが、中心主体ではないようである。榎特山3号墳は全長約35mの前方後円墳である。また、山戸4号墳(27)も前方後円墳で、全長約28mである。後円部の約1.9m×約1.3mの石室内から讃岐系の大型壺棺、小規模石室からは壺底部が出土している。

この地域では、この時期の集落遺跡で讃岐や阿波、吉備、山陰、北近畿など各地域系の土器が出土していることから、各地域との交流が頻繁であったことが窺える。その交流とその差配統括する首長層の存在が拠点に形成され、畿内地域の政治中枢の一翼を担う関係であったと推定されている。

その他、前期前半の古墳を広域でみれば、たつの市にある全長43mの權現山51号墳(前方後方墳)や全長32mの前方後円墳である養久山1号墳があげられる。

前期中頃には松田山古墳(43)が築造されている。墳形は不明であるが、全長約4mの堅穴式石室で、斜縁二神二獸鏡、筒形銅器、柳葉式銅鏡8、鐵鐵多数、鐵劍、鐵斧、硬玉製勾玉と碧玉製管玉の首飾りなどが出土している。たつの市域では推定全長99mの前方後円墳の奥塙古墳、全長36mの前方後円墳である龍子三ツ塚1号墳が特筆できる。前期後半では鷺山古墳が全長47mの前方後円墳で、円筒埴輪が採集されている。なお、立岡山古墳群(17)の1号墳(消滅)は前期古墳と推定されている。

中期の古墳には黒岡山古墳があり、箱式石棺から鳳龍鏡・鐵劍3・刀子1・鉗2・平根式鐵鍼20などが出土している。5世紀後半とされている。榎特山西古墳群(20)の8号墳は全長26mの小規模な前方後円墳で、5世紀後半の円筒埴輪や須恵器片が出土している。目立った中期古墳は認められない。

中期の集落遺跡では、前田遺跡(25)で堅穴建物跡から初期須恵器が出土した。最上部に特殊な装飾付須恵器を置いた土器埋設を伴う井戸や、土器埋設し木製枠をもつ井戸、初期須恵器器台など多くの土器が置かれた井戸もあり、調査者は一般的な農村とは異なる性格を有していたと想定している。鎌治田遺跡(24)でも前田遺跡と同時期および後続する堅穴建物群が検出されている。川島遺跡(32)では5世紀後半の壺を有する堅穴住居跡が調査され、亀田遺跡(37)では古墳時代の多くの遺構が調査された。

古墳時代後期では鶴遺跡(1)で壺を有する堅穴住居跡、鶴石田遺跡(2)でも6世紀前半の方形堅穴住居跡5棟のうち3棟に壺が付設され、東南遺跡(3)で後期の遺構、鶴北遺跡(4)で土器、城山遺跡(9)で土器、立岡遺跡(18)で古墳時代の構、鎌治田遺跡(24)で中期～後期の堅穴住居跡・木

棺墓群・土坑、龜田遺跡（37）では堅穴住居跡が調査されており、中期よりも遺跡数が増加している。

後期の古墳は横穴式石室墳に代表される。6世紀中頃の古式横穴式石室は丁薬司古墳（30）で、全長約22mの前方後円墳で、榎特山西古墳群（20）の5号墳も全長23mで同時期の前方後円墳で、横穴式石室である。丹生山古墳群（46）の1号墳は6世紀前半で勾玉・鍾錘車のほか鶴形埴輪や人物埴輪の部分が出土している。2号墳～7号墳・9号墳は横穴式石室、8号墳は堅穴式石室である。立岡山古墳群（17）は8基のうち6世紀後半の2基の横穴式石室墳が調査された。2号墳からは須恵器・耳環・刀子・玉類・滑石製鍾錘車などが出土し、3号墳は全長11.2mの石室で玄室幅は2.7mあり、耳環・鉄鍊・須恵器などが出土した。東保山古墳群（48）は5基で構成され、2号墳は無袖式横穴式石室で幅1.2mである。3号墳は内長1.66mの箱式石棺で蓋石内部に赤色顔料が塗布されていた。4号墳は方形プランの片袖式横穴式石室で玄室長2.8m、奥壁幅2.9mである。5号墳は玄室幅1.93mの片袖式横穴式石室である。黒岡神社古墳（34）は片袖式横穴式石室内に竜山石製家形石棺が存在し、石室前にも別の家形石棺蓋が立てられている。黒岡古墳群（35）からは6世紀後半頃の子持持台が出土し、同時期の坊主山古墳（44）では珠文鏡や鏡が出土した。内山戸古墳群（38）は終末期の小規模横穴式石室墳で4基が調査された。

歴史時代

姫路市域に所在する下太田庵寺（31）は7世紀末から9世紀後半まで存続した、四天王寺式伽藍配置と推定される寺院跡で、塔心礎のほか多くの礎石が残り、通有の瓦以外に鶴尾・瓦塔も出土した。南西にある丁柳ヶ瀬遺跡（28）では8世紀前半の土器が出土しており、墨書き土器も認められる。前田遺跡（25）では律令期の掘立柱建物跡群が調査され、拠点的な施設と推定されている。吉福西遺跡（13）では8世紀頃の軒丸瓦や平瓦、須恵器、灰釉陶器も採集されている。また、常全遺跡（11）では古墳時代から平安時代の須恵器が多数出土している。なお、平方遺跡（42）では石製丸輪の破片が出土している。

中世の遺跡のうち、鶴遺跡（1）では中世の掘立柱建物跡4棟、溝・土壙などが調査され、溝は東西・南北方向に流れていた。桶ノ上遺跡（10）では平安時代後期から鎌倉時代の土坑・溝、北に隣接する福田小川原遺跡（10）では鎌倉時代の掘立柱建物跡や溝・土坑などが調査された。他に掘立柱建物跡が検出された遺跡には吉福西遺跡、鎌治田遺跡、平方遺跡があり、吉福西遺跡（13）では鎌倉時代の土壙墓など、平方遺跡（42）では鎌倉時代の井戸・土壙など、鎌治田遺跡（24）では平安時代後期～鎌倉時代の木棺墓・土坑もそれぞれ発見されている。

なお、斑鳩寺北遺跡（7）では、斑鳩寺の塔頭寺院に関連する近世の遺構が検出されている。

主要参考文献

- 『太子町史』第3巻 太子町 1989年
- 『姫路市史』第7巻下 資料編 考古 姫路市 2010年
- 『兵庫県史』考古資料編 兵庫県 1992年
- 『船石田遺跡』兵庫県文化財調査報告 第363冊 兵庫県教育委員会 2009年
- 『鎌治田遺跡』兵庫県文化財調査報告 第519冊 兵庫県教育委員会 2022年
- 『兵庫県の古代遺跡』1 梶津・播磨 神戸新聞総合出版センター 2021年
- 岸本道昭『播磨の前方後円墳と倭王權』同成社 2022年
- 『播磨国鶴在現況調査報告』III 太子町教育委員会 1990年

第2章 調査の経緯・経過と体制

第1節 発掘調査に至る経緯と調査の経過

鶴遺跡は揖保郡太子町鶴に所在する弥生時代から中世の遺跡で、弥生時代中期から古墳時代前期にピークがあるようで、弥生時代末～古墳時代初頭の遺物が特に多い。発掘調査は1968年の調査を嚆矢として数十回の調査が行われている。第1次調査では溝から庄内～布留期の土器が多数出土し、弥生時代中期から後期の遺物も検出された。第4・5次調査では竪穴住居跡や掘立柱建物跡などのほか多くの溝が調査され、分銅形土製品も出土している。また、他地域系の土器が多く含まれることが特筆される。

なお、第22次調査では旧河道から柳葉式の銅鏡が庄内期前後の土器とともに出土している。

調査に至る経過

鶴遺跡（兵庫県遺跡地図番号：450017）の範囲内において、兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所による（国）179号社会資本整備交付金事業（平成24年度）および（国）179号太子道路地域自主戦略交付金事業（平成25年度）の工事が予定された。

遺跡範囲内のうち、道路予定地内で用地買収が完了した箇所について平成24年1月に確認調査を実施したところ、遺跡範囲の南半分にあたる部分で遺構・遺物を検出した。その結果を受けて、遺構・遺物が検出された地区について本発掘調査を実施することになった。

本発掘調査は西播磨県民局（龍野土木事務所）からの依頼により、平成24(2012)年度と平成25(2013)年度の2回に分けて実施した。なお、各年度における依頼文書番号は以下のとおりである。

平成24(2012)年度 平成24年9月13日付け西播（龍土）第279号

平成25(2013)年度 平成25年9月6日付け西播（龍土）第273号

調査の方法

本発掘調査区は、町道を挟んで南北二つの調査区（I・II区）に分かれ、道路予定地であるためどちらも南北に細長い形状を呈する。北側のI区は平成24(2012)年度に調査を実施した。調査区延長47.0m、幅は7.7m～9.6mで、東側は道路用地の東端まで調査範囲を設定することができたが、西側には水路が存在しており、その形状により調査区幅は一定ではない。調査面積は386m²である。

南側のII区でも平成24(2012)年度に調査を開始したが、タクシー会社の駐車場が道路用地に接して東側に存在していたことから自動車の出入口を確保する必要が生じ、道路用地東端から約4mの幅分を控え、その部分については平成25(2013)年度に調査を実施した。平成24(2012)年度調査II区について調査予定の幅8.0m～9.0mから幅4.0m～5.8mに減じた結果、調査面積は428m²になり、同年度調査予定の約65%の面積となった。なお、平成24(2012)年度調査II区の延長は76.0mである。

平成24(2012)年度調査区は当初I・II区を同時に調査する予定であったが、II区部分が南西に存在する自動車整備工場の駐車場への通り道として使用されていたことと、先述のタクシー会社駐車場への出入り口でもあったことから、龍野土木事務所の要望によりII区の調査終了後の埋戻しを早急におこなうことになった。また、II区の掘削廃土置場がI区の北側に位置しており、掘削廃土運搬および埋戻しの運搬にI区内を通過するため、II区の埋め戻し終了を待ってI区の掘削を開始せざるを得なくなり、I区の調査開始時期が大幅に遅れることとなった。

平成25(2013)年度調査区は平成24(2012)年度調査区の東に接した部分で、南北延長は71.5mの

細長い形状であるが、タクシー会社駐車場の車の出入りを確保する必要から、調査区全体では5箇所に調査区を分割して調査を実施し、北から1区～5区と呼称した。駐車場前では駐車場の柱間にあわせて2区～4区の3地区に調査区を分割して、順次調査をおこなった。また、駐車場前調査の際には調査区上に覆工板を設置して車の通行を確保した。同時に、3・4区については駐車スペースへの進入の関係から、3・4区の東側は1・2・5区よりも70cm～30cm程度控えた。調査は5区→1・2区→4区→3区の順に実施し、各地区的調査終了後には埋戻しをおこない、基本的には埋戻し完了後に新たな調査区の掘削をおこなった。調査区幅は2.8m～3.7mで、調査面積は214m²である。

なお、平成24（2012）年度・平成25（2013）年度を合わせた調査面積は1,028m²である。

調査の経過

調査はI・II区ともに厚さ約1.0m～1.2mの盛土および旧耕土・旧床土の下面までバックホーにより掘削し、機械掘削終了後は、遺構が検出できる面まで人力により掘削した。ただし、旧耕土・旧床土直下に遺構面が存在する部分が大半であったことから、この人力掘削土層は、機械掘削により一部残存した旧耕土・旧床土の残存部分および遺構検出のために遺構面を少し削り下げる程度にとどまる。

人力掘削後は、人力により地表面を精査して遺構検出を実施し、溝・柱穴・井戸といった遺構のほか、流跡や近世後期以降の瓦粘土探査壙を検出した。遺構検出後は人力により遺構掘削をおこない、出土遺物の回収および記録を作成した。

検出・掘削した遺構については、調査区全体の平板実測および調査区壁面の土層断面実測をおこない、個別遺構の埋土層断面図作成や、遺物出土状況および個別遺構の平面・断面の写真撮影をおこなった。広範囲の写真については足場の設置および高所作業車を使用して撮影した。また、調査区全体について、平成24（2012）年度は空中写真測量を委託して実施し、II区を2月9日に、I区を3月13日にそれぞれ実施し、平成25（2013）年度についてはポールによる空中写真測量を委託して実施し、1・2区、3区、4区、5区の合計4回実施した。

なお、調査の成果を地元住民に知ってもらうための地元説明会を平成25年3月16日に開催した結果、約80名の見学者があった。II区については埋戻しが終了していたため写真パネルにて説明し、I区の流跡については出土土器を残した状態で見学できるようにした。また、説明会終了後に土器の取り上げの一部を小学生にも手伝ってもらうこととした。

なお、年度ごとの調査期間・調査担当者は次のとおりである。

平成24（2012）年度

調査期間 平成24年12月25日～平成25年3月22日

調査担当者 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部 調査第2課

副課長 岸本一宏

技術職員 大本朋弥

平成25（2013）年度

調査期間 平成25年12月20日～平成26年3月14日

調査担当者 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部 調査第1課

副課長 岸本一宏

技術職員 垣内拓郎

第2節 出土品整理作業の経過と体制

鶴遺跡の出土品整理作業は、平成30（2018）年度から開始し、令和4（2022）年度まで実施した。出土品整理作業は西播磨県民局長（龍野土木事務所）から兵庫県教育委員会への依頼によるもので、年度ごとの依頼文書番号は以下のとおりである。

平成30（2018）年度 平成30年2月1日付け西播（龍土）第1187号

平成31・令和元（2019）年度 平成31年3月18日付け西播（龍土）第272号

令和2（2020）年度 令和2年3月3日付け西播（龍土）第1277号

令和3（2021）年度 令和3年3月1日付け西播（龍土）第1327号

令和4（2022）年度 令和4年3月25日付け西播（龍土）第257-1号

兵庫県教育委員会は出土品整理作業を公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターに委託して、兵庫県立考古博物館で実施した。

主として嘱託員等が整理作業を担当し、発掘調査担当者が作業指示等を行い、これに工程管理の職員が加わって実施した。また、金属器保存処理については保存処理担当職員と嘱託員により兵庫県立考古博物館で実施した。

年度ごとの整理作業工程は以下のとおりである。

平成30（2018）年度：水洗い、ネーミング、金属器保存処理

平成31・令和元（2019）年度：接合・補強、土器・石器（石製品含む）実測および金属器実測

令和2（2020）年度：土器復元、遺物写真撮影、写真整理、遺構図補正、遺構図・遺物図のトレース

令和3（2021）年度：土器復元、遺物写真撮影、写真整理、遺物図のトレース、

分析鑑定（土器・石製品の赤色顔料）

令和4（2022）年度：遺物写真撮影、写真整理、レイアウト、報告書印刷

ネーミングは、土器の出土遺構名や出土位置などを出土単位ごとに台帳に整理した番号を土器に書き込む作業で、接合・補強は、土器片を接合し、欠損している部分をモルタルで補強する作業である。また、実測のうち金属器は保存処理後におこなった。土器等の実測後にはモルタルを使用して土器の欠損部分の復元作業を行い、遺物写真撮影を実施した。撮影後の遺物写真は出土遺構・出土場所や種類ごとに整理を行った。また、現場で作成した実測図等について補足・修正を実施した。金属器保存処理は出土状態での形状観察、エックス線写真撮影、脱塩作業を実施し、鈎取り作業の後、樹脂含浸作業を実施した。分析鑑定は、出土した土器や石製品の表面に塗布されていたあるいは付着していた赤色顔料の成分分析について委託実施した。また、発掘調査現地で作成した実測図や測量図、出土品整理作業により実施した遺物実測図のトレースを行った。

令和4年度には、報告書原稿執筆を行い、トレースした遺構・遺物の図面や、調査で撮影した写真・空中写真および、空中写真測量図・遺物写真のレイアウト作業を経て、報告書印刷を実施した。

5年間を通じた出土品整理作業の体制は下記のとおりである。

事業主体 兵庫県教育委員会

実施場所 兵庫県立考古博物館（加古郡播磨町大中1丁目1番1号）

整理担当 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター

整理担当職員 （工程管理） 菱田淳子 深江英憲 大嶋昭海 西口圭介（担当年度順）

(作業指示) 岸本一宏

(金属器保存処理) 大本朋弥

整理作業担当嘱託員等

(実測・トレース・レイアウト) 池田悦子 高瀬敬子 宮田麻子 柏木明子 平宮可奈子

八木和子 前田陽子

(ネーミング・接合補強・復元) 栗山美奈 藤尾裕子 藤田久範

荻野麻衣 小野潤子 石原香苗 岡崎真子 小林礼子

森松沙耶香 菅生真理子

(金属器保存処理) 大前篤子 桂 昭子 大本昌子 香山玲子

遺物写真撮影 株式会社 地域文化財研究所 中本照雄

国際文化財 株式会社 九鬼みづほ

分析鑑定 赤色顔料成分分析 株式会社 古環境研究所

第3章 調査の結果

第1節 遺構

1. I 区

北側のI区では自然流路跡（流路3）が調査区とほぼ並行して検出され、弥生時代中期～古墳時代前期の土器が大量に捨てられた状態で出土し、一部古墳時代中期～後期前半の土器も含まれていた。流路の底は、土器を含まない層の上面まで調査した。流路以外には、調査区西側壁ラインに沿って条里関係と思われる南北方向の溝（溝4）の東側部分を検出した。なお、調査区南西部や北東部といった、流路跡等の外側部分には瓦粘土探掘のための擾乱壙やピット（ピット9）が認められた。

遺構を検出した面は、厚さ1m前後の盛土および厚さ約16cmの旧耕土直下で、標高は13.1m～13.2mである。調査区東側壁面の土層図は図版2・3、写真は写真図版8・9・12・15に示した。

以下、遺構別に調査結果を述べる。

（1）流路（河道）

① 流路3（図版2～5、写真図版2・3・5～15）

検出状況 流路3は調査区北西隅部分から調査区南東隅方向にのび、調査区のほぼ全面にわたって斜めに縱断し、南流していたものと思われる。流路3の南東端は南東方向に向きを変える上で西肩がカーブを描いている。埋土には多量の土器が含まれていたことから、流路3を6分割して南から1区～6区と呼称して区間の埋土土層断面観察・記録や遺物の取り上げをおこなった。出土量は280入りコンテナ約200箱にのぼる。なお、流路内の掘削は土器を包含しなくなる深さまで実施した。

粘土探掘壙（擾乱）については、流路3の中央部あたりで重複していたものが1箇所認められたが、流路3の外側にあたる南端西側と北端東側で掘削されていた。このことから、流路3外側の地山の粘土（シルト質極細粒砂や粗粒シルト）を採集したものと判断される。

流路3の方向を南東にたどれば、1986年の第2次調査で検出された溝II、1968年の第1次調査で検出された溝、さらには1988年の第4・5次調査で検出された溝IIの方向にのびて続く可能性がある。ただし、第2次溝IIや第1次溝および第4・5次溝IIは流路幅が1.5m～2.6m、深さ45cm～60cmで規模に差はないが、今回の流路3は推定幅が9mに近く、流路幅が大きく異なる。なお、出土土器の時期はほぼ同じである。あるいは、流路3内にある小さな流れの一単位の幅が約1.5m、深さは50cm～70cmであることから、この流れの一単位が第1次・第2次・第4・5次調査で検出された溝に続くのかもしれない。

なお、流路3南部の2区で北東～南西方向の流路と重複していることが判明した。この流路は流路3と重複して流路3よりも古いものである。流路3-2と呼称しておく。

形状・規模 流路3の検出した延長はI区の南北全体において、約45mである。検出面から流路跡の最も深い部分までの深さは1.1mである。流路は片岸ずつ検出されたが、流路幅は9mに近いものと推定される。幅が広いことから、断面形は部分的には急に深くなる部分や2条に分流している箇所も認められるが、概ね皿状に近い形状である。流路3-2としたものは幅約3m、検出面からの深さ約50cmである。

堆積状況 流路跡にはシルト・砂・砂礫などが堆積しており、多量の土器を含んでいた。土器を多く含んだ埋土は大きくI～VIの6層に分けることができ、遺物の取り上げもこの分層でおこなった。

最下層であるVI層のうち砂礫層のVI-2層や、下層にあたるシルト系堆積土であるV層には弥生時代中期中葉を中心とした多くの土器が多く含まれており、北側から砂礫とともに流されてきたもの可能性が高い。また、中層にあたるIV-6層は調査時にIV下（西）層と呼称していた層（図版5埋土土層断面Cライン断面の第9・10層、Dライン断面の第8層）にあたり、黄灰色や暗灰黄色の中粒砂～粗粒砂や粗粒シルトおよび、暗灰黄色の細礫混じり粗粒砂～極粗粒砂で、ともにラミナを伴っている。この層は幅1.5m前後の溝状部分（図版4上部の西側IV層部分）の埋土下半部にあたり、この層から多くの弥生中期土器が出土した。IV-6層がV層やVI層を削りながら流れた流路の埋土下半部であることから、弥生中期土器が含まれたものと思われる。

中層はIV層およびIII層にあたり、弥生後期後半から庄内期にかけての土器が多量に含まれていた。IV層は上述の溝状部分埋土および溝肩の部分である。溝肩部分はIV-5層としたIV（東）層（Cライン土層断面図の第11・12・14層）にあたり、にぶい黄褐色の砂礫層や黒褐色の極粗粒砂および暗灰黄色の粗粒砂である。いずれも流路堆積層中であることから軟質で、溝状にも見える部分（図版4上部の東側IV層部分）にあたる。西側溝状部分埋土の上半はIV上（西）層にあたるIV-2層（Cライン土層断面図の第7・8層）で、灰黄褐色の粗粒シルトや細粒砂～粗粒砂である。III層は1区と2区での特定は難しいが、図版4のAライン土層断面図第3層、Bライン土層断面図の第6層、図版5のDライン土層断面図の第3層で、これも幅1m弱、深さ20cm程度の溝状にみえる部分にあたる。

上層はII層およびI層で、庄内期から布留期の土器と、I層からは古墳時代中期・後期の土器も出土した。II層はBライン土層断面図の第2層から第5層、Cライン土層断面図の第3層から第5層、Dライン土層断面図の第2層および第6層・第7層、Eライン土層断面図では第3層・第4層および第6層にあたる。I層はBライン土層断面図の第1層、Cライン土層断面図の第1層・第2層、Dライン土層断面図の第1層、Eライン土層断面図の第1層・第2層にあたる。II層は土層断面の分層状況および遺物取り上げ単位からII-1層からII-3層に分割した。I層・II層部分も流路3がほとんど埋まつた状態での堆積で、浅い崖地状を呈している。I層部分は幅1.4m～1.7mで5cmから一部10cmの深さ、II層部分は幅1.8m～3.2m、検出面からの深さ20cm～27cmを測る。

流路3-2の埋土は3層に分けられた。最下層はほぼ砂礫層で、溝底に薄く堆積していた。中層は中粒砂混じりの極粗粒砂でやや薄い層である。最上層は2.5Y4.3/2 暗灰黄色のシルト質極粗粒砂でよく締まっていた。

なお、今回の調査で流路肩としたのは暗褐色の細粒シルト～中粒シルトの土層である。

遺物出土状況 流路埋土から多量の土器が出土したが、小さな破片が多く、埋土に混じったかたちであり、わずかに南端の1区・2区で出土状況を示すために土器を残したが、疎らな状態部分が多く、1区東部で細片の集積状況を示すことができたにすぎない。

前述のように、土器を多く含んだ埋土は大きくI～VIの6層に分け、遺物の取り上げもこの分層でおこなった結果、流路跡の堆積層とそれらに含まれる土器集積の単位により、4期に分けることができた。

弥生時代中期中葉を中心とした時期の土器は173点報告できたが、面積が最も広い4区での出土数が最も多く、中期土器全体の約半数を占める。次いで5区、2区、6区、3区、1区の順で、5区では4分の1の数量に近い。土層別ではVI-2層が58点で全体の約3分の1、次いで多いのがIV-6層で約6分の1である。なお、V層全体では出土弥生中期土器全体の4分の1を超える。

中層および上層では弥生後期後半から布留期の土器が多く出土したが、明確に分離できないものの、

中層のIV-4層からIV-7層の出土土器の様相が弥生後期後半から庄内期にかけての土器を多く含んで古相を示し、III層およびIV-1層からIV-3層には庄内期を中心とした時期の土器が多くみられ中相を示す。また、上層にあたるII-1層からII-3層およびI層では庄内期から布留期にかけての土器が出土し、新相を示す。

出土地区別では、IV-7層出土土器は2区でほぼ9割を占め、IV-6層では4区・5区で出土量が9割を占める。IV-5層では8割が4区で出土し、IV-4層では出土数が少ないものの3区に限られた。なお、数が少ないと、V層出土土器は4区・5区にはほぼ限られ、VI層出土土器はほぼ6区限定である。

IV-3層出土土器は3区・4区で7割を占め、約4割が4区から出土している。IV-2層出土土器は282点を報告したが、その95%が4区出土である。IV-1層出土土器は2区出土が6割以上を占め、1区と合わせると8割を超える。III層出土土器は1区・2区で4割が出土し、3区から5区で残りが出土した。

II-3層では2区出土分で7割近くを占め、残りは1区と5区である。II-2層では309点のうち1区で54%、2区の10%を合わせると6割以上が1区・2区から出土し、残りは4区が3割近く、5区でもわずかに出土している。II-1層は126点を報告したが、9割近くが1区から4区で出土し、特に集中した様相は認められない。また、少ないものの、5区などでも出土している。I層では数が少ないと、1区・2区で7割以上が出土している。

以上のように、古相を示すVI層・V層・IV-6層・IV-5層出土土器は北半部にはほぼ限られ、IV-4層出土土器は中央部の3区、IV-7層は南部の2区に限って出土していることが明らかとなった。また、中相のIV-3層・IV-2層では中央部の4区に多く認められたが、IV-1層では南部の1区・2区出土が多くを占め、III層では1区・2区が多いものの、6区を除いた全体に広がって出土していることが判明した。新相では、II-3層は南部に多いが、II-2層では北部以外にひろがり、II-1層ではほぼ全体にひろがって出土している。なお、6区では遺物出土量は少なく、6区の北側に行くにつれさらに少なくなっていた。

以上のことから、古い時期には北部が中心で、次いで南部に移動したのち、北端を除く全体に広く出土していることが判明し、その時点での流路の状態によって出土位置が変化しているものと思われるが、土層断面をみると限り、少なくともIII層以上は人為的な廃棄状態と判断している。

出土遺物 流路3からは大量の土器が出土し、28ℓ入コンテナ約200箱分にのぼった。報告した遺物は1～1462の土器1462点と、S1～S25に示したサスカイト製石鏃や楔形石器、スクレイバー、磨石・敲石などの石器・石製品25点と鉄器1点（M1）である。

出土土器のうち弥生時代後期～古墳時代前期のものには甕・壺・高坏・鉢・器台などの器種が認められ、それらの多くが小さな破片となって層状に集積した状態で出土した。また、出土した土器の中には山陰系や丹波・丹後系（北近畿系）の土器のほか、吉備や讃岐の胎土で作られた土器も含まれており、他地域からの移動が盛んだったことが窺える。

最上層は薄く堆積した砂層で、古墳時代中期の土器のやや大きな破片も含まれていた。この時点では流路跡は流路の状態ではなく、帯状のごく浅い窪地であったようである。この層で出土した土器も大きな破片で、韓式系軟質土器の長胴甕と、陶質土器あるいは初期須恵器の高坏または蓋と想定される器種で、土師器甕も認められた。近くに朝鮮半島からの渡来人の住居跡が存在していたことを示している。

なお、流路3-2からは遺物は出土しなかったが、I区の瓦粘土採掘場からも土器や石器が出土しており、土器16点（1831～1846）、石鏃2点（S37・S38）を報告した。

時期 流路は弥生時代中期初頭には存在していた可能性があるが、溝底を削りながら何度も流れてい

たようであることから、断言はできない。ただし、庄内期墳から古墳時代中期までは存続していたようである。なお、平安時代末頃とみられる溝4と重複し、溝4が新しいことから、遅くとも中世初頭までには埋没していたと考えられる。

流路3-2からは遺物が出土しなかつたため時期は不明であるが、流路3以前であろう。

(2) 溝

① 溝4 (図版2~4・8、写真図版2・3・5・6・35)

検出状況 I区の調査区西側壁に沿って検出した溝4は、東側の肩から落込み下端付近までの一部しか調査できなかつたが、真北方向に直線的にのびており、調査区外西隣の現代溝とほぼ平行である。

堆積状況 溝の埋土は大きく二つにまとめることができる。溝内側部に堆積した比較的明るい色の土壤化層（下層）と、それを切るようにして溝中央部に堆積し、腐植が進んだ暗い色を呈する上層である。

形状・規模 深さは50cmまで確認でき、底の形状からほぼその深さであったと思われる。溝幅は不明であるが、方向および直線的な形状と溝の位置から、条里に閑連する溝と判断でき、鶴荘の区画と合わせると、西隣の現在溝とともに18条10坊の西端部分坪境の南北溝と位置的に合致する。

遺物出土状況 詳細な出土土層は不明であるが、平安時代～鎌倉時代の青磁碗や、鎌倉時代～室町時代の備前焼鉢の破片が弥生中期の土器片とともに埋土から出土している。

出土遺物 出土した土器類1805～1817のうち、国示できた土器は1805・1807～1809・1813～1815の弥生土器片と、1816の青磁碗片、1817の備前焼鉢片の9点である。

時期 鎌倉時代（13世紀後半）の青磁碗が出土していることから、遅くともこの時期には溝が掘削され、備前焼鉢（III期）が示す13世紀中頃～14世紀末の鎌倉時代後半～南北朝までこの溝が存続していたことが窺える。なお、弥生時代中期の土器は流路3埋土である溝肩に含まれていたものであろう。

(3) その他の遺構

① ピット（柱穴） (図版3・4)

I区の調査区南部の西端に近い位置でピット（ピット9）を検出した。流路3西側の溝の肩付近で単独で存在し、他にも存在していたかもしれないが溝により破壊された可能性もある。

規模・形状 ピット9は柱穴と思われ、平面やや歪な円形で、掘形の検出面での直径約19cm、深さ約12cmで、底もやや歪な円形を呈し、直径約8cmである。

出土遺物・時期 埋土から遺物は出土しなかつたため時期は不明である。

2. II区

II区においてもI区と同様に厚さ1.2m前後の盛土があり、その下に旧耕土および床土が遺存していた。遺構検出面は床土直下で、明黄褐色の極細粒砂をベースとしていた（図版2・6、写真図版17・19・23）。

II区では瓦粘土の採掘がほぼ全面にわたって行われており、採掘場が各所に掘削されていた。そのため、遺構が残存していたのはII区南部で、それ以外の部分では一部に限られた。粘土採掘は上記のベース土を採掘するため、溝などの検出遺構との重複は少なかつことから、あらかじめ平面的に確認し、砂などが混じった層といった遺構埋土は採掘しなかつたことが窺える。

II区で検出した遺構は、流路、溝、井戸、ピットである。そのうち、南部で検出した遺構には、弥

生中期前半の土器が出土した流路1-1と、南端の流路2、溝1のほか、庄内期で素振りの井戸3基とピット4基がある。調査区中央部では、2013（平成25）年度調査2区で流路1-1の延長上に流路を検出した。この流路は西側に膨らんだ形状を示し、庄内期の土器を多量に含んでいたことから、流路1-2の別称を与えて今回報告する。中央部では流路1-2と重複してピット5を検出している。調査区北部では南北方向の溝2と小規模な古墳時代溝3と溝5、ピット6～ピット8のピット3基を検出した。

II区では江戸時代後期～近代頃と思われる瓦粘土を探掘するための土壌が数多く認められ、埋土からは焼瓦・陶磁器のほか、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代中期～後期の土器も出土している。

以下、遺構別に調査結果を述べる。

（1）流路（河道）

① 流路1-1（図版6・7・11、写真図版2・4・5・16～19・25）

検出状況 II区中央南寄りで検出した北東～南西方向の自然流路である。北東端の2013（平成25）年度調査の2区～4区の幅約4mの流路は同一流路で、2012（平成24）年度調査の流路1-1の継ぎにあたる。2区で庄内期の土器を多く含む流路と重複していたことから、その部分を流路1-2とし、弥生時代中期前半の土器が出土した部分を流路1-1として分離した。

なお、2012（平成24）年度調査部分北岸には焼土部分が認められた。

形状・規模 流路1-1は、幅約6.5m、検出面からの深さ約80cmで、北東から南西方向に流れていたものである。流路肩は傾斜が急で、底はほぼ平らであるが、数回の水流で深く抉られた状況が認められる。

なお、流路底の調査は、下部の土器をほとんど含まない層の上面まで実施した。

堆積状況 流路1-1の埋土には砂礫が多く含み、その中に弥生時代中期前葉の土器を多く含んでいた。

埋土層の堆積状況を詳細にみると、上層にあたる第2層は褐色灰色の砂層、第3層は灰黄褐色でシルト質極細粒砂majiriの細粒砂、第4層は灰黄褐色の細粒砂でこれらの第1～第4層では土器はほとんど出土していない。土器が最も多く含まれていたのは第5層の褐色灰色砂礫層と第12層の暗灰黄色の砂礫層で、報告した土器の大半を占めている。次いで土器の出土量が多いのが第11層の灰色のシルト質極細粒砂や、第7層の灰オリーブ色の砂礫層および第14層の灰色砂礫層である。また、第13層の灰色礫混じり砂層にも比較的土器を多く含んでいた。

なお、第6層・第14層・第16層も砂礫層で、砂礫の堆積部分は埋土下半のほぼ全体におよぶ。流路底は第10層の明黄褐色のシルト質極細粒砂であることから、これほど大量の砂礫の供給源がいざれであったか気になるところである。

遺物出土状況 砂礫層中から大半が出土した弥生時代中期前葉の土器は、いずれも破片が砂礫層中に混じった状態であるといった出土状況から、調査した部分に捨てられたものではなく、上流側から砂礫とともに流れてきたものと思われる。

なお、2013（平成25）年度3区の流路1-1では、弥生時代中期前葉の土器は少量の出土にとどまった。

出土遺物 出した遺物には土器のほかにサヌカイト製石器がある。報告した土器は1463～1531の69点で、壺・甕・鉢・有孔鉢・底部・高杯がある。1531を除き弥生時代中期前葉の土器で、一部に前期にさかのぼる可能性があるものも含まれる。サヌカイト製石器にはS-26・S-27がある。

時期 流路1-1の正確な時期は不明であるが、弥生時代中期前葉を大きく降らない時期と想定している。流路は弥生時代中期初頭には存在していた可能性があるが、溝底を削りながら何度も流れている

ようであることから、断言はできない。

② 流路1-2（図版6・11、写真図版5・20・21）

検出状況 調査区中央南寄りで検出した北東-南西方向の自然流路である。2013（平成25）年度調査の2区で検出したもので、流路1-1と重複関係にあるようである。

形状・規模 流路1-2は西岸が弧状を描くが、東岸は調査区外にあり検出できなかつた。最大幅約2.0m、検出面からの最大深は36cmで、溝肩の傾斜は緩やかで底は平らに近い。

堆積状況 流路1-2の埋土は5層確認できたが、3層に集約できる。第1層と第2層はともに黒褐色を呈し、第3層は暗褐色である。いずれにも庄内期の土器片を含んでいた。第3層の下部にあたる第4層も暗褐色を呈する砂質土で、庄内期の土器片を多量に含んでいた。第5層は基盤層が土壤化した部分と思われる。なお、基盤層にあたる第6層はにぶい黄褐色の細粒砂～中粒砂混じりの極細粒砂である。

遺物出土状況 埋土最下層にあたる第4層には多量の土器片を含み、なかにはかなり大きな破片も認められたことから、近くで捨てられたものと思われる。

出土遺物 流路1-2の埋土から出土した遺物には庄内期の土器がある。1532～1626の95点を報告した。

山陰系・讃岐系・北近畿系など他地域系のものも存在し、手彫形土器片も存在した。また、磨石・蔽石のS28も第4層から出土した。なお、僅かながら弥生中期土器も出土している。

時期 時期は庄内期の出土土器が溝底に近い部分であったことから、庄内期の所産と思われる。

流路1-1とは時期が大きく異なり、全く別の流路であったと判断できよう。ただし、一部分しか調査できなかつたため、確実とはいえない。

③ 流路2（図版6～8・11、写真図版5・16・17・22・23・24）

検出状況 2013（平成25）年度調査の5区で検出した流路で、2012（平成24）年度調査区では一部分しか調査できなかつたため、流路として認識できず、落込みとしていたものである。流路底の調査は、下部の土器をほとんど含まない層の上面まで実施した。

なお、2012（平成24）年度調査の結果により、流路2が完全に埋まつたのちに溝1が掘削されていたことが判明している。

形状・規模 II区南端で北北東-南南西方向の延長約10mを検出したのみであるが、2013（平成25）年度調査の5区で流路東肩、2012（平成24）年度調査区で流路西肩を検出しており、幅は約3.5mである。流路肩の傾斜はやや急で、底は平らに近いが中央部は窪んでいるようであり、検出面からの最大深は約80cmである。

堆積状況 図版8は2012（平成24）年度調査II区南壁の土層断面図で、流路2埋土のうち最終埋土である第11層の極細粒砂～中粒砂でにぶい黄褐色を呈する土層、同色で第12層のシルト質極細粒砂～中粒砂、第13層の暗褐色砂礫層から弥生中期前半の土器小片が出土している。また、図版11の2013（平成25）年度調査5区での流路2埋土断面図で、にぶい黄褐色で細粒砂～粗粒砂の第1層、暗黃色で粗粒砂～極粗粒砂の第2層、オリーブ褐色で細粒砂～極粗粒砂の第3層、オリーブ褐色で細粒砂～中粒砂と中粒砂～粗粒砂のラミナ互層である第4層からは弥生中期土器小片が出土し、土器転用の紡錘車も破片となつて出土している。また、上記の第1層～第4層および極粗粒砂～細礫で褐色の第7層からは庄内期の土器が多量に出土した。特に第4層と第7層中には完形品に近いような大きな破片も多く出土した。

遺物出土状況 埋土上面では面上にひろがつた状態で庄内期の土器片が出土し、中・下層である第4層・第7層では厚い堆積層中からほぼ完形の土器が単独に近い状態で数点出土した。

出土遺物 報告した土器のうち、弥生時代中期前葉～中葉の土器は1627～1643の17点で、1646の土製紡錘車もある。庄内期の土器は1644・1645・1647～1733の89点で、東四国系・北近畿系といった他地域系の土器も認められた。また、サヌカイト製石器（S 29）や石鏃（S 36）、磨石敲石のS 30～S 33のほか、石器素材のようなS 34も出土した。

時期 弥生時代中期前葉～中葉の土器は埋土各層から出土しており、小片が多い。また、庄内期の土器も同様の層に加えて下層からも出土している。弥生時代中期土器はほぼ小片に限られ、埋土上部からの出土も多く認められることから、流路2は弥生時代中期初頭には存在していなかった可能性がある。中層・下層で完形品に近い庄内期の土器が出土していることから、流路2は庄内期の所産とすべきであろう。また、溝1との関係では、重複せず方向もほぼ同じであることから、溝1と一緒に存在していた可能性は少ないと考えている。

（2）溝

① 溝1（図版6～8・12、写真図版2・4・5・23～26）

検出状況 II区南部で検出した溝1は北北東から南南西方向に流れていたもので、溝が埋まった後に後述の井戸が掘削されている。2年度にまたがる調査により延長約23mを検出した。

堆積状況 2012（平成24）年度調査部分での埋土層はbライン・cラインとともにほぼ水平堆積を呈しているが、2013（平成25）年度調査部分のaラインではやや複雑な様相を呈している。埋土の色調はaラインの上層では10YR4/3にぶい黄褐色（第1層・第2層）や10YR4/4褐色（第3層）で比較的明るい色を呈し、第7層で10YR3/4暗褐色とやや暗い色を呈するが、下層は2.5Y4/4オリーブ褐色（第10層・第11層・第13層）の明るい色を呈している。2012年度調査部分でも中層にあたる第3層が10YR4/2灰黄褐色でやや暗い色調であるが、上層の第1層・第2層では2.5Y5/2暗灰黄色のやや明るい色調、下層でも10YR4.5/3にぶい黄褐色の明るい色調を呈する。

形状・規模 溝肩の傾斜は急角度で、一部オーバーハングしている箇所がある。底には少し丸みがある。溝の平面形状は少し湾曲するが直線的で、幅は約1.2m～約1.4mとほぼ一定である。検出面からの深さは約70cmである。

遺物出土状況 溝1埋土には土器を含んでいたが、少量の小片であり、まとまりは認められなかった。小片であることから、埋土中に混入した可能性が高い。

出土遺物 報告できた土器は1734～1738の5点で、弥生時代中期前半の土器である。壺・甕がある。

時期 溝が埋まった後に後述の井戸が掘削されていることから、庄内期以前の時期のものと思われる。ただし、埋土の色調が比較的明るい色であることから、弥生中期までは適らないと推定している。

② 溝2（図版6・12、写真図版2・4・5・16・20・21・35）

検出状況 II区北部で検出した北北東～南南西方向に直線的にのびる溝で、2年度にまたがる調査により約25mにわたって検出した。II区北部は瓦粘土採掘のための擾乱が多く認められたが、溝2部分は無傷であった部分が多い。埋土に砂礫を含んでいたためと思われる。

形状・規模 2012（平成24）年度調査区では幅約60cm～1.2m、2013（平成25）年度1区部分では溝の東肩が擾乱により消滅しているものの、幅も1.4m以上であったことが窺える。2012（平成24）年度調査区では検出面からの深さは浅く約5cmであったが、2013（平成25）年度1区部分では深さ約18cmの部分があり、検出面に10cm程度の高低差があったためである。溝底の高さは2012（平成24）年度

調査区と2013(平成25)年度1区部分ではほぼ同じであった。溝肩は緩い傾斜で底はやや丸みがある。

堆積状況 2012(平成24)年度調査区では埋土は砂礫層の單一層で、2013(平成25)年度1区部分では第3層以外が中粒砂～極粗粒砂といった砂層である。この埋土の関係で瓦粘土探掘部分から外されたものと思われ、粘土探掘を行う部分は前もって上層を一定の範囲で除去するなど土層を確かめたうえでおこなわれたと判断できる。

遺物出土状況 2012(平成24)年度調査区でのみ埋土から弥生土器が出土した。2013(平成25)年度1区部分では遺物は出土しなかった。

出土遺物 報告できた土器は1739・1740の2点で、弥生時代中期の土器である。壺および高杯である。

時期 出土土器は弥生時代中期前半であるが、溝2の時期を示しているとは思えず、埋土からも時期を推定するには不十分であることから、時期は不明である。

③ 溝3 (図版6・12、写真図版2・4・5・16・35)

検出状況 II区北部で2012(平成24)年度調査区でのみ検出した。瓦粘土探掘壙ぎわで、からうじて残されていたものである。方向はほぼ南北である。

形状・規模 中央部が西側に少し張り出す、平面「T」字に近い形状を示しており、全長約2.8m検出した。中央部での幅は約20cm、最も広がった部分では幅約40cmである。深さは検出面から約20cmで、溝の両端は急に深さを減じて消滅している。削平された遺構の下部である可能性もあると思われる。

堆積状況 埋土は5層に分けられ、ほぼ水平に堆積していた。灰を多く含む砂質土で、黒褐色を呈するやや暗い色調を呈するシルト～極細粒砂や極粗粒砂までの土層である。

遺物出土状況 2012(平成24)年度調査区部分の埋土には須恵器小片が含まれていた。

出土遺物 1803・1804の2点を報告する。どちらも須恵器の蓋である。1803は坏蓋であろう。

時期 出土した須恵器片は古墳時代中期末～後期前半のTK47型式～MT15型式で、溝3の時期も同じであろうと判断している。

④ 溝5 (図版6・12、写真図版5・20・21・35)

検出状況 II区北部の2013(平成25)年度1区部分で検出した。南側にもう1条別の短い溝がある。溝5の西端は2012(平成24)年度調査区の溝2に続くようであるが、検出していない。東端は粘土探掘の攪乱により切られている。

形状・規模 平面「く」字状に鈍角に折れた溝で、検出した総延長は1.6m以上。幅は20cm前後で、検出面からの深さは約13cmである。溝肩は急角度で溝底は丸い。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 確証はないが、古墳時代後期に埋没した可能性がある。

⑤ その他の溝 (図版6、写真図版5・20・21)

検出状況 溝5の南側で検出した。西端は2012(平成24)年度調査区の粘土探掘壙により切られている。

形状・規模 検出した長さは約60cm、幅20cm前後で、検出面からの深さは約10cmである。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 確証はないが、古墳時代後期に埋没した可能性がある。

(3) 井戸

① 井戸1 (図版6～8、写真図版2・4・5・16・17・24・26・27)

検出状況 II区南部で溝1と重複して検出した。溝1が埋まった後で掘削されていた。また、ピット1と重複しており、井戸1が完全に埋まった後でピット1が掘削されている。

規模・形状 楕円形の井戸で、素掘りである。平面は直径1.7m～1.25m、検出面から井戸底まで60cm程度で、底面はやや丸みがある。井戸底は砂礫層に達しておらず、湧水の有無は不明である。深さが浅いことから井戸とするには躊躇を覚えるが、一応、井戸として報告しておく。

堆積状況 井戸内は水平堆積で主として4層が認められた。最下層の第11層は灰黄褐色の中粒砂質の細粒砂で、その上の第9層も同色で同質の土層である。第5層は褐色を呈する中粒砂質極細粒砂、最上層の第3層はにぶい黄褐色の細粒砂で中粒砂を含んだ層である。

遺物出土状況 埋土中に庄内期を中心とした土器片が含まれていた。

出土遺物 報告したのは1741～1745の土器で、1745が弥生時代中期の壺体部片、その他は庄内期の土器で、山陰系や北近畿系および讃岐系と推定されるものが含まれるが、いずれも小片である。

時期 出土土器は小片で時期を限定することは難しいが、他の遺構の時期に合わせて弥生時代末～古墳時代初頭の庄内期としておきたい。

② 井戸2 (図版6・7・9、写真図版2・4・5・16・17・24・26～29)

検出状況 II区南部で溝1と重複して検出した。溝1が埋まった後で掘削されていた。検出した井戸3基のうち最も北に位置するものである。

規模・形状 平面楕円形を呈し、長径2.5m、短径1.7m以上で、検出面からの深さは約1.5mである。井戸底の北側に偏った部分の井戸底周囲に合計数十個の砾を積み上げて、平面円形で径約65cmの水溜とした部分がある。水溜の深さは約30cmで、井戸底は湧水層である第7層の砂礫層の下部まで掘削されていることから、浄水を得ると同時に崩落を防ぐ機能もあったと思われる。

堆積状況 井戸内は水平堆積で大きく3層に分けられた。水溜内に堆積していた最下層の第5層は、暗灰黄色の中粒砂質粗粒砂で層中に水溜構築材である砾の落ち込みがみられた。中層の第2層はにぶい黄褐色を呈する中粒砂質極細粒砂で、最上層の第1層は細粒砂質極細粒砂～中粒砂で暗褐色を呈していた。なお、第4層は井戸の外壁が剥がれたものと判断している。

遺物出土状況 井戸埋土上部の北半部から土器(1749)が出土した。また、埋土中には庄内期の壺・甕片などが少量含まれていた。

出土遺物 井戸2から出土した土器については1746～1752の7点を報告した。壺・甕・蓋・底部・脚部などがあり、山陰系の可能性があるものが含まれている。1749の壺体部、1750の蓋以外は小片である。

時期 井戸2は井戸内から遺物がほとんど出土しなかつたことと出土した土器が小片であることから時期は不明であるが、先述の溝1が埋まった後に掘削されていることと、他の井戸との関連から、弥生時代末～古墳時代前期初頭と推定している。

③ 井戸3 (図版6・7・9・10、写真図版2・4・5・16・17・24・26・27・30～34)

検出状況 II区南部の井戸1の西側、調査区西壁直下において粘土探査 sondageの南側に接して、井戸がほとんど埋まっていた時点で多くの土器が捨てられた状態で検出した。

規模・形状 井戸の平面形状はほぼ円形を呈し、検出面での規模は径約1.5mを測る。底面の平面形は径約1.2mのやや歪な円形を呈し、検出面から底までの深さは約1.2mを測る。井戸の形状はバケツ形を呈する。井戸底の南東部分には井戸壁に接して約25cmの一段深く掘り込まれた部分があり、水溜と思われる。水溜部分上端の平面形は長径約70cm、短径約60cmの楕円を呈し、底面も同様の形状で長径約

55 cm、短径 40 cm 程度を測り、断面は逆台形を呈する。その他の底面部分はほぼ平坦であるが、5 cm～10 cm 程度の礫が敷かれたような状態で認められ、一部 25 cm 程度の礫も認められた。この礫は汲み上げる水が底の泥を巻き上げないようにするために入れられたものと判断され、水溜内にも礫が存在していた。

なお、井戸底は砂層や礫層まで達していないが、調査時には僅かながら湧水が認められた。

堆積状況 井戸内は最下層が水平に近い堆積状況で、下層のうち最上層である第 8 層の上面が U 字状に壅み、その上に中層が U 字状に堆積していた。中層の最上層である第 3 層・第 3^丁 層の上面は水平に近い U 字状で、その上に上層がほぼ水平に堆積していた。いずれも大量の土で人為的に埋めた痕跡は認められず、自然堆積に近い状況を示していた。

最上層にあたる第 1 層は 10YR3/1 黒褐色で粗粒シルト～シルト質極細粒砂の炭化物が僅かに混じる土層で、井戸検出面にあたる。この土層には捨てられた状況で多量の土器が含まれており、井戸上面出土土器として 15 点の土器を報告した。これらの土器は完形品に近い状態まで復元できたものが多い。第 2 層は 10YR4/2.3 灰黄褐色の粗粒シルト～シルト質極細粒砂で第 1 層と同じ粒度を示すことから上層に含めた。第 1 層に含まれていた土器は第 2 層にまで及んでいるものも認められ、3 点の土器を報告した。

中層としたのは第 3 層～第 7 層で、焼土や炭化物を多めに含んでいた。上半の第 3^丁 層・第 3 層・第 4 層はシルト質極細粒砂かシルト質極細粒砂～細粒砂で、下部の第 5 层・第 6 層は粗粒シルト～極細粒砂や細粒砂で、最下部の第 7 層はシルト質極細粒砂である。出土土器は第 3 層・第 4 層の 1 点、第 4 層の 1 点、第 6 層・第 7 層の 3 点の計 5 点を報告した。

下層は第 8 層・第 9 層の灰黄褐色のシルト質極細粒砂～細粒砂とシルト質極細粒砂～粗粒砂と、第 10 層の極細粒砂～中粒砂で黒褐色の土層で、炭化物を少量含んでいた。土器は第 6 層～第 8 層の 2 点、第 8 層・第 10 層の 1 点、第 8 層～第 10 層の 2 点および下半と下層の各 1 点で、合計 7 点を報告した。

最下層は黒褐色で中粒シルト～シルト質極細粒砂の第 11 層で、焼土・炭化物を多量に含み、この層の上面に礫が敷かれていた。出土土器は第 10 層・第 11 層の 1 点を報告した。

なお、埋土であるが詳細な出土層が不明な土器もあり、14 点を報告した。

遺物出土状況 井戸検出面から約 20 cm 下の埋土に多量の土器が捨てられた状態で出土し、これらは西側から捨てられたような傾きをもった出土状況を示していた。また、井戸底に近い下層からは釣瓶と思われる甕も出土した。

出土遺物 井戸 3 出土土器のうち報告したのは 1753～1798 の 46 点で、井戸上面で検出した土器群には接合後完形品となった壺や鉢を中心に壺や高杯などが認められ、庄内形播磨型甕のほか、山陰系、吉備系など他地域系の土器も含まれていた。最下層の礫間からは脚台部分（1792）が出土し、釣瓶と思われる甕（1757）は口縁部の一部を打ち欠いている。これら 2 点の土器は井戸が使用されていた時期を示し、上面出土土器は最終廃絶時期を示している。また、特筆すべき遺物として、赤色顔料の精製に使用されたと思われる石杵（S-35）が下層から出土した。

時期 釣瓶と想定した土器や礫敷間から出土した土器の詳細な時期は不明であるものの、庄内期頃ととらえておきたい。また、上面出土土器が示す時期は庄内併行期の最終末で、布留期までは降らないことから、井戸が機能していたのはその直前の時期と想定している。

(4) その他の遺構

- ① ピット（柱穴）（図版 6～8、写真図版 2・4～6・16・20・21・24・26・27・35）

II区調査区内ではピットを8基検出した。特筆できる柱穴には南部のピット1とピット2および中央部で検出したピット5がある。その他のピットは調査区南部と調査区北部で検出したピット3・ピット4・ピット6～ピット8である。

規模・形状・遺物出土状況 検出したピットは柱痕が伴っていたものは柱穴と判断できる。ただし、建物跡として組み合う検出状況は示していない。粘土探掘壙による搅乱の影響によるのかもしれない。

ピット1は井戸1の埋土上面で検出したことから、井戸1が完全に埋まった後に掘り込まれたものである。ピット1の平面は直径約37cmの円形で、検出面からの深さは約30cmである。柱痕は直径約24cmの円形である。柱痕部分埋土から甕の小破片が出土した。

ピット2は流路2と重複しており、流路2が完全に埋まった後に掘削されたものである。ピット2の平面は直径45cm程度のほぼ円形で、検出面からの深さは約22cmである。柱痕は検出できなかった。埋土からは高坏口縁部小片が出土した。

ピット2の南東側で検出したピット3も流路2が完全に埋まった後に掘削されたものである。柱痕は検出できなかった。長径約34cm、短径約30cmのやや歪な平面形である。検出面からの深さは約22cmを測る。遺物は出土しなかった。

ピット4は溝1と重複して検出したもので、溝1が完全に埋まった後に掘削されたものである。掘削は平面円形を呈し、径約30cm、検出面からの深さは約20cmである。柱痕は平面円形で直径約13cmである。埋土から遺物は出土しなかった。

II区中央部に存在したピット5は、流路1～2内で検出した。流路1～2が完全に埋まった後に掘削されたものである。掘形は平面楕円形を呈し、長径約20cm、短径約15cmで、検出面からの深さは約15cmである。柱痕は南西に偏った部分で検出し、平面楕円形を呈する。長径は約8cmである。ピット5では柱痕部分埋土から甕口縁部小片が出土し、掘形埋土からは甕の底部片が出土した。

II区北部で検出したピット6～ピット8のうち、ピット6は調査区西端に位置し、平面は円形に近く直径約25cm、検出面からの深さ約5cmである。埋土から遺物は出土しなかった。

ピット7は長径約30cm、短径約24cmの楕円に近い平面形で、検出面からの深さは約10cmである。柱痕は平面円形で、直径約15cmである。遺物は出土しなかった。

ピット8は溝2と重複し、溝2が埋まった後に掘削されたものと判断している。掘形平面は円形で、直径約25cm、検出面からの深さは約10cmである。柱痕は平面円形で、直径約15cmである。遺物は出土しなかった。

出土遺物 ピット1の柱痕部分から出土した甕小片(1799)は庄内期頃の山陰系甕である。

ピット2の埋土から出土した高坏口縁部小片(1802)は庄内期頃のもので、流路2埋土に含まれていたものが入り込んだ可能性がある。

ピット5での柱痕部分理土から出土した甕口縁部小片(1800)は北近畿系と思われる庄内期のものである。また、掘形埋土から出土した甕の底部片(1801)は尖底のもので、庄内期のものである。これらは流路1～2の埋土に含まれていたものが入り込んだ可能性を考慮する必要がある。

時期 検出したピットの所属時期の判断は難しいが、重複した遺構との関係から、庄内期頃以降の可能性が高く、今回の調査で他の遺構などから出土した遺物の時期から、古墳時代後期頃の可能性があることを指摘しておきたい。

② 粘土探掘壕（図版6、写真図版2・4・5・16・17・20・21・26）

検出状況 II区では瓦粘土を探掘するための土壙が数多く認められたが、調査区中央部～北部にかけての粘土探掘壕は、連続して掘削されており、掘削されていないのは溝が存在する部分に限られている。

堆積状況 粘土探掘後は一気に埋め戻されたと思われ、若干斜め方向の縦状堆積が認められた。なお、掘削された深さは検出面から40cm～80cmで、底が平らなものが多い。

出土遺物 瓦粘土探掘壕の埋土からは弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代中期～後期前葉の土器のほか、桟瓦を含む焼瓦や染付磁器、ガラス片も出土している。

時期 粘土探掘壕の埋土から出土した桟瓦や染付磁器・ガラスなどから、江戸時代後期（18世紀後半）以降で、近代頃と思われる。また、瓦粘土探掘壕の埋土からは弥生時代後期末～古墳時代前期初頭、古墳時代中期～後期前葉の土器が出土していることから、その時期の遺構が存在していたことが想定でき、粘土探掘によりそれらの遺構が破壊された可能性が高い。

ただし、この瓦粘土探掘は、耕土・床土下の土の状況を平面で確認したうえで行われたと想定され、II区北部の溝2といった、砂質部分や礫を包含している部分では粘土探掘壕は認められなかった。また、流路跡や溝の端ラインに沿って掘削されていたことからも上記の判断を首肯できるであろう。

3. 小結

以上のように、今回の調査で検出した遺構は、弥生時代中期前葉と弥生時代中期中葉・後期末～古墳時代初頭・古墳時代中期の土器を含んだ流路や溝、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の井戸、詳細時期不明の柱穴、古墳時代中期の溝、中世まで存続していた条里に伴う溝などであり、同時に、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の土器が大量に出土した。また、調査区の多くの部分に瓦粘土探掘壕が存在していたが、その埋土には弥生時代～古墳時代にかけての遺物を包含していたと同時に、遺構が存在していた可能性がある地層部分に位置していたことから、他にも遺構が多く存在していたことが想定される。

鶴遺跡は昭和43（1968）年の第1次調査から、太子町教育委員会により多くの回数にわたる調査は行われてきた結果、弥生時代後期末～古墳時代初頭の時期を代表とする遺跡として、これまでに大量の土器が出土している。また、弥生時代中期の遺物には分銅形土製品があり、亀田遺跡とともにその出土分布域のほぼ東端となっている。

鶴遺跡ではこれまで流路は多く検出されているものの、堅穴住居跡などの生活に直接関連した遺構は古墳時代や中世に限られるようである。このことは、平面的な削平および瓦粘土の探掘により遺構が破壊されていることに起因すると思われる。今回の調査では、西側から土器が捨てられた状態の井戸を検出したことにより、II区のすぐ西側に住居が存在することが想定でき、I区の流路3の東西両側にも住居群が存在している可能性が高いと思われた。

鶴遺跡が存在する一帯は、北西方向から南東方向の旧流路が数多く存在することが町史などで指摘されているが、今回の調査のような大量の土器の存在は、旧流路に挟まれた微高地に多数の住居を有する集落が存在していたことを示しているものと思われ、出土土器が示すように、他地域からの人的流入を中心とした交流が盛んな集落であったことを物語っていよう。

第2節 遺物

出土遺物のうち、弥生時代後期末～古墳時代前期の土器については、第5章第1節で器種ごとに分類を行っており、それらの土器についてはその分類類型名称にしたがって記述する。

また、土器類については第5章末に観察表を付けている。

なお、都合により実測図が作成できずに写真のみ報告した土器類が196点存在する。

1. I 区

(1) 流路3

流路3から出土した遺物には弥生時代中期土器、弥生時代後期前半の土器、弥生時代後期末～古墳時代前期の庄内期を中心とした土器、古墳時代中期～後期の土器があり、報告できた点数は1,462点にのぼる。ほかに石器・石製品25点や、混入の可能性がある鉄器1点がある。

流路3の埋土を分層して遺物を取り上げたことから、出土層にもとづいて下層から順に提示した。ただし、弥生時代中期の土器については明確に庄内期前後の土器と分離できることから、まとめている。

遺物の出土層は、V層の一部、VI層、VII層およびVIII層については埋土層断面図土層名の通りにし、それら以外は、土層名が煩雑になることを避けるため略称を用いてまとまりを作つて記述することとした。また、V層については、「上層」、「下層」、「東」、ラベルに記載して取り上げたものはすべてV層として表記した。

それらの埋土層断面図の土層名および土器取り上げ時のラベル記載土層名との対照は下層から順に以下の通りである。

- IV-7層～IV下層
- IV-6層～IV下（西）層
- IV-5層～IV（東）層
- IV-4層～IV（西）層
- IV-3層～IV層
- IV-2層～IV上（西）層
- IV-1層～IV上層
- III層～III層、III下層、III層かIV層
- II-3層～II下層からIV上層、II下層かIV上層、II層・IV層
- II-2層～II層下、II層（～III層）
- II-1層～II層
- I層～I層、最上層

なお、そのほか流路3の北端部分（6区）のV下層として取り上げたものと、出土層位不明の土器はそれぞれ分離して掲載している。

① 土器

流路3から出土し報告できた土器のうち、弥生時代中期の土器は1～172・185・617・897・970・1353・1446・1447・1451の180点、弥生時代後期前半の土器は510・727・738・993の4点、古墳時代中期～後期の土器は1440～1445の6点で、弥生時代後期～古墳時代前期の庄内期を中心とした時期の土器は前記を除いた1,272点にのぼる。

なお、詳細は観察表に譲ることとする。

弥生時代中期（図版13～18・31・40・42・53・56、写真図版48～57・87・106・112・137・144）

1～172の172点のほかに2区Vd層出土の185、4区IV-2層出土の617、5区III層出土の897、2区II-3層出土の970、5区II-1層出土の1353といった5点、出土層位不明のものの1446・1447・1451の3点がある。

1～172・185・617・897・970・1353・1446・1447・1451の土器は流路3全体から出土しているが、1区では5点、3区で8点、6区で14点とやや多いものの、5区で30点と多く、4区にいたっては81点が出土し、セクション内出土土器を除いた出土地区が明確な総数158点中の51%と半数以上が4区から出土し、19%が5区から出土している。4区の延長が長いものの、1区～3区を合わせた数量を大きく凌駕する。

出土土器を出土層位からみると、流路3埋土の各層から出土しているものの、VI-2層出土が最も多く、177点中の55点で31%、次いでVI-1層出土が11点で6%と多く、VI層・VIa層・VI-3層も含めたVI層全体で出土総数の39%を占める。次いで47点出土のV層全体が出土総数の27%を占める。出土総数の7割近くをVI層とV層が占めていることと、出土量が多いことから、V層とVI層は弥生時代中期に堆積した層と推定できよう。

出土土器を機種別にみると、壺・甕・鉢・有孔鉢のほか、蓋または甕などの底部、高坏の脚部がある。以下蓋から順に述べるが、詳細は観察表に譲ることとする。なお、弥生土器の器種名および時期比定については篠宮正氏による編年案（篠宮2007）に拠るところが大きい。

壺 壺の口縁部および頭部は、鉢の可能性がある26や甕の可能性がある27も含めて1～44・83・617・897の47点報告できた。

中期前葉 装飾性が高い口縁内突帯を有し、中期初頭頃と思われる1や、中期前葉（II様式）に属すると判断できるものには2がある。また、頭部突帯を数多く貼り付けた3や、外面口縁部直下に断面台形の突帯を貼り付けた直口壺のような6、口縁部下に櫛描波状文と直線文を施した細頭壺7は中期前葉でもやや時期が降るものであろう。なお、40の頭部にヘラ描沈線文と刺突文を施した頭部や口縁端面に刻目を加えた897も中期初頭と思われる。

中期中葉（III様式） 判断したものには回線文を有しないことを基本とした広口壺8～10、13～18、20～23、617のほか、31の口縁端部小片、端面に斜格子の33、無文の38がある。31には押圧文を加えた口縁内突帯が貼り付けられており、注ぎ口部分と思われる。なお、18や20・21のように口縁端部を大きく拡張するものや、頭部に押圧文突帯を有する42・43は中期後葉（IV様式）に降る可能性もある。

無頭壺の5は外面の口縁部下に押圧文突帯（指頭圧痕文突帯）を3条貼付け、直下に櫛描の直線文・波状文を施している。口縁部が外反する無頭壺では櫛描文様を施す28のほか、甕の可能性がある無文の27があり、27はやや時期が降るかもしれない。

直口壺では頸部に押圧文突帯を有する 24 のほか、口縁部外面に刺突文を施す 25・26 があるが、26 は鉢の可能性もある。ほかに、口縁下に櫛描波状文を施す 39 や直線文も加えた 83 がある。

受口壺には 29 のほか頸部に押圧文突帯がある 44 があるが、IV 様式に降る可能性もある。

中期後葉 広口壺では口縁部に回線文を施すものを基本とし、口縁内突帯や刻目・円形浮文といった装飾性が高い 11 のほか 12 や 19 があり、羽状文を口縁端面に施した 32 も中期後葉であろう。また、回線文が認められる 34～37 がある。

口縁部が内折する無頭壺 30 は、細い回線文を多く施し棒状浮文を貼付するものである。

壺体部 壺の肩部を中心とした部分の破片は、高坏の可能性が高い 60 も含めて 45～82 および出土層位不明の 1451 の 39 点報告できた。肩部や体部に櫛描直線文や波状文、刺突文などで装飾を加えたもので、半截竹管文や櫛描廉状文を施したものもあり、82 のように無頭壺と思われる体部で回線文を施して棒状浮文や押圧文突帯を貼り付けたものもある。

中期前葉 45 のように半截竹管で弧文を描くもの以外には、胎土に大粒の砂粒を含み文様の施し方に中期前葉の特徴を示すものには 46・49・55・58・59・64・67・71・74 があり、67 には三角形文を刺突している。

中期中葉～後葉 高坏脚部の可能性がある 60 も含めて、47・48・50～54・56・57・61～63・65・66・68～70・72・73・75～81・1451 の 28 点と無頭壺と思われる 82 があり、82 の中期後葉を除いて中期中葉と中期後葉の分離ができないものである。

大半は櫛描による直線文と波状文を施し、61・75～77・80・81 の 6 点には櫛による刺突文を施している。48 には櫛描の廉状文を施し、61 と 75 は櫛刺突文を廉状文風に施している。78・79・1451 では竹管を 2、3 本束ねた櫛状工具による刺突文を施している。48 はやや特異な印象を受ける土器である。

壺 壺の口縁部などは 84～122 と 185 および出土層位不明の 1446 の 41 点を報告した。口縁部が逆 L 形や如意形を呈するもの以外に口縁端部を大きく肥厚・拡張させるものは、95 の口縁端面に斜め方向の刻目を施すものを除いて、他には認められない。

中期前葉 84・87～91 のように逆 L 形口縁部を有するものと、85・97 のように如意形あるいはそれに近い形状を示すものが中期前葉と判断した。これらの胎土には大粒の砂粒を含むことが共通している。

外面口縁部下にヘラ描き直線文を施すのは 85・86・88・92～94 の 6 点で、92～94 は条線が太く沈線と呼べるものである。櫛描直線文を施すものには 84・91 があり、84 には波状文も施している。

口縁端部に刻目を加えるものは 84・85・87・88・90 の 5 点で認められる。

なお、104・111・118・120 の胎土にも大粒の砂粒を含んでいることから中期前葉の可能性があるが、「く」字形口縁であることから、時期が降るものであろう。

中期中葉～後葉 鉢の可能性がある 96 も含めて 95・98～103・105～110・112～117・119・121・122・185・1446 が中期中葉～後葉と思われる。

口縁端部に斜め方向の刻目をもつ 95 や、鉢の可能性がある 96 にも口縁端面に刻目を施しているが、その他は無文である。

中期中葉と後葉の明確な分離ができないが、口縁端面が回線状になる 101 や、端部を上方に少し拡張する 109・112、端部を上方に折り曲げたような 110 や 185、口縁端部を少し肥厚させた 95・113、口縁端部を下方に折り曲げて玉縁状にした 115 といった計 7 点は中期後葉に降る可能性がある。

鉢 鉢には 123・124 の 2 点がある。123・124 ともに「く」字状の口縁部をもつ無文の土器で、内面に

縦方向のハケ目を深く刻むことを特徴としている。中期中葉（Ⅲ様式）の所産と判断している。

なお、124は茶色の色調を示すが、金雲母や角閃石は含まない。

有孔鉢 底部に穿孔したもので、全容をうかがえるものはない。底面とは異なった場所に穿孔がある127も含めて125・126があり、3点を報告する。

125は底部外面が上げ底状になっており、その形状や器厚から中期前葉のものと思われる。126は薄い器壁で底部の形状から中期中葉か後葉のものと思われる。125・126ともに底面中央に穿孔されている。

127は底面から約2cm上の体部下端付近に穿孔されているが、有孔鉢として扱った。弥生時代中期中頃の可能性もあるが、詳細な編年的位置づけは難しい。

底部 壺や壺などの底部は128～159と970および出土層位不明の1447の34点を報告できた。外面に付着した煤や内面のオコゲ状の付着物により壺と判断できたものには139・144・145・156の4点と、壺の可能性があるものには138・140・146・1447の4点がある。また、体部の角度などから壺と判断したものには136・148・149・157～159・970の7点があり、壺と推定できるものには128・147・155の3点がある。

中期前葉 底部が突出したような形態や底面が凹面をなすもののうち、胎土の大粒の砂粒を含む128～130・133・153・154・157が中期前葉の所産と判断される。また、大粒砂粒を含まないが131・132・138～141・1447は形態的に中期前葉の可能性があるものの、中期中葉のものかもしれない。また、158・159には胎土に大粒砂粒が含まれるが、大型の器形であることに起因する可能性があり、中期中葉以降に降る可能性が高い。

なお、その他は中期中葉～中期後葉のものであるが、詳細な編年の分離は難しい。さらに、135は回転台形土器の可能性もある。

高坏脚部 高坏と思われる脚部では160～171の12点を報告したが、160、161、169、170はそれぞれ無頸壺、把手付鉢、台付鉢、無頸壺の脚部である可能性も残される。163・166には複合縦齒文が描かれている。

171は胎土に大粒砂粒を含むことから中期前葉の可能性があり、164は中期中葉と推定される。165・166は脚端部を大きく拡張し、166は脚端面が凹面をなすことから中期後葉と判断され、162もその時期の可能性が高い。また、中期後葉の可能性があるものには、脚部端面が凹面となる160・161や163・167・168があげられる。169の詳細時期は不明で、170の断面三角形の突帯を貼付し突帯間とその上下に竹管文を刺突する脚柱部は中期中葉～中期後葉であろう。

回転台形土器 172は底部とするには底径が大きくあまり広がらない形態であることから、回転台形土器と判断した。同様の特徴を示す135も回転台形土器の可能性がある。ただし、两者とも台部はあまり広がらない。中期中葉～後葉と推定される。

弥生時代後期前半（図版28・34・35・43、写真図版81・94・95・115）

510・727・738・993の4点がある。510・993は壺口縁部で、510は口縁端部を下方に拡張し端面に凹線文を施すもので、993は口縁端部を大きく拡張するものである。727は壺と思われる底部である。738は高坏の口縁部で壺上部の高さが低いものである。

出土地区・層位は、510・727・738が4区のIV-2層、993は5区のII-2層出土である。

ほかに後期前半の可能性があるものとして、壺では237・332・509・512の4点、壺底部の675・731、高坏の200、壺の826があり、200・731は後期中頃、237は後期前葉、他は後期前半の可能性があるも

のであるが、弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器に含めて記述している。

弥生時代後期後半～古墳時代前期 (図版 17 ~ 56、写真図版 57 ~ 144)

弥生時代後期・庄内期・布留期の土器が流路 3 埋土の各層から多量に出土しており、弥生時代中期～後期前半、古墳時代中期～後期の土器を除いた 173 ~ 184・186 ~ 509・511 ~ 616・618 ~ 726・728 ~ 737・739 ~ 896・898 ~ 969・971 ~ 992・994 ~ 1352・1354 ~ 1439 のほかに、出土層位不明の 1448 ~ 1450、1452 ~ 1462 の計 1,272 点を報告できた。なお、323 の土錐 1 点を含んでいる。

出土土器のうち弥生時代後期～古墳時代前期のものには甕・壺・鉢・高坏・器台・有孔鉢・蓋・製塩土器といった器種と底部や脚部が認められるが、それらの多くは破片である。器種別報告数では甕が 355 点、壺 207 点、鉢 90 点、高坏（脚部含む）86 点、器台（脚部含む）66 点、有孔鉢 57 点、蓋 15 点で、製塩土器と判断したものは 6 点であるが、その可能性のあるものがいくつか認められた。甕や鉢・壺の底部は 295 点、脚（裾）部については高坏か器台の判断ができるないもの 44 点、脚台部は器種が特定できないものの 17 点を報告する。

また、出土した土器の中には山陰系や北近畿系（丹波・丹後地域など）、讃岐系、吉備系のほか、西部瀬戸内系と思われる他地域系の土器が含まれている。

この時期に限った出土土器層別の報告土器数は、VI 層 12 点、V 层 18 点、IV-7 层 31 点、IV-6 层 89 点、IV-5 层 63 点、IV-4 层 6 点、IV-3 层 116 点、IV-2 层 282 点、IV-1 层 89 点、III 层 43 点、II-3 层 64 点、II-2 层 309 点、II-1 层 126 点、I 层 10 点である。II-2 层と IV-2 层の出土土器が非常に多く、出土層が判明しているものの半数近くを占める。次いで II-1 层と IV-3 层が多く、IV-4 层は最も少ない。なお、VI 层・V 层や I 层でのこの時期の数量が少ないと、それぞれの土層堆積に時期差があることを示していると判断できよう。

出土土器の時期別様相については、第 1 節で述べたように、混在が多く明確に分離できないものの、IV-7 层から IV-4 层の出土土器の様相が弥生後期後半から庄内期にかけての古相を示し、IV-3 层から IV-1 层および III 层には庄内期を中心とした時期の土器が多くみられ中相、I 层および II-3 层から II-1 层では庄内期から布留期にかけての土器が含まれており新相を示す。

以下、出土層別に土器の特徴について特記できる部分を記述するが、詳細は観察表に譲ることとする。
VI 层出土土器 173 ~ 184 の 12 点を報告する。

甕 甕は 173・174 の 2 点である。甕 B 6 で口縁端面外面に回線や擬回線を施す。

壺 壺は長頸壺 175 と頭部片の 183 の 2 点で、175 は壺 C 1 である。ほかに壺体部下半の 177 がある。

有孔鉢 有孔鉢は 176 の 1 点で、有孔鉢 A に分類した。底面外周はタキにより七角形状を呈する。

底部 底部には 178 ~ 181 の 4 点があり、178 は底部 A 2 a α で体部径が小さい。179 は底部 A 1 a β 2 に分類される。180 は底部 A 1 a α で底面に 5 条のヘラ描直線がある。181 は脚台の底部 D 1 に分類した。

鉢 鉢は 182 の 1 点で、皿形の鉢 G で口縁端部に面をもつ。

脚（裾）部 184 は高坏か器台の脚（裾）部で、端部に面を有する A 1 に分類した。

V 层出土土器 186 ~ 203 の 18 点を報告する。

甕 186 ~ 189 の 4 点で、口縁端部に面をもつ甕 B である。186・189 は甕 B 2、187 は甕 B 4、188 は甕 B 1 である。V 层出土の甕は口縁端部に面をもつもので、古式のものである可能性がある。

壺 壺は 190 ~ 192 の 3 点である。190 は外反口縁の広口壺で、D 5 に分類した。191 は D 3 で、口縁端部をひきのばして外面が凹面となり、擬回線を施すといった北近畿系の特徴を示す。192 は壺 A 3

で、複合口縁壺で、口縁部外面に櫛描波状文を描き、端部外面に2条の凹線を施している。

鉢 鉢は193、201、202の3点で、201・202は浅い皿状の鉢Gの大型のものである。193は鉢A 2の口縁部の可能性がある。

底部 底部は194～199の6点で、194・196はA 2 a α、195はA 2 a β 2に、197はA 3 a β 2、198はA 3 a α、199はA 2 a β 1に分類した。195は胎土に角閃石を含んでおり、讃岐系の胎土である。讃岐系Bに分類した。198は器壁が薄く小型であることから鉢の可能性がある。

高坏 高坏は200と203の脚部があり、200は形態から推定判断してA 3 bに分類したが、後期中頃の可能性もある。

IV-7 層出土土器 204～234の31点を報告する。

壺 壺は204～210の7点で、208が壺A 1、209・210が壺A 3、204が壺B 5、206が壺C 1、207が壺C 2、205は壺C 5に分類される。205～207は北近畿系と判断している。

壺 壺は211～218の8点で、214～216の3点は口縁端部付近が外反する長頸壺の壺C 2で、214は比較的大きな破片で表面の色調は非常に赤い。216は角閃石・金雲母はほとんど含まないが、讃岐系色調を呈し、形態的にも讃岐系の特徴を示すことから讃岐系Cとした。212と217は壺C 3で、211は壺D 4、213は広口壺の壺D 5である。218は壺Cの体部と思われ、底部形態は突出ぎみの平底でA 2 b αである。

底部 底部は219～228の10点で、底部が突出するA 2が多い。222・223が底部A 2 a α、226・227が底部A 2 a β 1、221・224・225がA 2 a β 2、219が壺底部のA 2 b α、228がA 3 a α、220が壺底部A 3 b β 1でドーナツ状上げ底である。222の底面にはヘラによる十字の線刻がある。

高坏 高坏は229～233の5点あり、230が高坏A 1 a、229が塊形の高坏D 1である。231～233は高杯脚部で、231は中空、232・233は中実の脚部である。

脚（裾）部 234は脚（裾）部のA 1である。高坏か器台の脚（裾）部である。

IV-6 層出土土器 235～323の89点を報告する。323は土鍾。

壺 壺は235～258の24点で、235・236は壺B 2で、235は古式の可能性がある。237は壺B 4で、後期前葉の可能性がある。238はB 1、239～241は壺A 1、242～245は壺B 3で245は色調のみの判断で讃岐系Dとした。246・247は壺A 2で北近畿系の可能性があり、248はB 7である。249は壺C 5、250は壺C 2、251・252は壺C 3、253・254は壺C 1で、壺C 1～壺C 5は北近畿系の口縁部である。255は壺A 3、256は北近畿系の可能性がある壺C 7で、257は壺Gで吉備系かも知れないが判断できず、他地域系としておく。胎土には微細砂粒を多く含む。備中V-3に編年されている（高畠知功 1992）県北山間部のものに類例がある。258は大型の壺C 6で、北近畿系である。口縁部外面に凹線文を施す。

IV-6 層出土壺の口縁端部 是をもつものから丸く仕上げるものまで認められるが、口縁端部に面を有する壺Bの比率が少なくなっている。

壺 壺は259～277の19点で、広口壺の259・261は壺D 1、264・266～268は壺D 2で、260・262は壺D 4、263・265は壺D 5に分類した。266・267は同一個体であろう。直口に似た形態の269、271、273は壺E 1、270は壺E 3、272は口縁部が短い二重口縁壺B 1で、269・272・273は北近畿系の特徴を示す。274、275は複合（二重）口縁壺でそれぞれA 3、A 2で、274の口縁部外面には櫛描波状文を施し、胎土にクサリ礫を含み、目立つ。275は口縁端部の特徴から北近畿系の可能性がある。277は製埴土器にも似るが、長頸壺のC 1とした。276は壺肩部片と思われ、把手の剥離痕が残る。

鉢 鉢は278～285の8点で、278・279は中型口径で平底のA 2 a、280はA 2より小さい中型口径

のA 3、281は脚台付の鉢C、282は口縁部が外反し大型の鉢F 3、283・284は鉢A 1や鉢Cの口縁部である。285は口径4.7cm、器高3.45cmのミニチュア製品である。

有孔鉢 有孔鉢は286～290の5点で、286は丸底に近いE、287は尖底に近いC、288～290は尖底のDである。286の外面底面には未貫通の孔があり、289の孔上部は漏斗状に広げている。

底部 底部は291～307の17点である。291・293・300はA 2 a β 1、292はA 2 a α、294はA 2 a β 2、296はA 1 a α、297はA 3 a α、299はA 3 a β 2、301・302はA 1 a β 1である。蓋底部の295はA 1 b α、298は尖底系のB 1、303～307は脚台が付く底部Dで、D 1の304・306とD 1の303、D 2の307とD 2の305がある。298は鉢の可能性が高く、307は蓋の可能性も残る。

蓋 蓋は308～310の3点である。308は外径がやや大きい蓋D、310は外径が小さい蓋Aで、309は口縁部が欠失しているため不明である。309は形態的には弥生時代中期に似る。

高坏 高坏は311～316の6点と、脚部の320・321の2点がある。311は高坏A 3 a、312・314は高坏A 1 a、313は高坏A 2に分類した。311は胎土に砂粒を非常に多く含むが、山陰系甕に含まれる砂粒よりも粒が大きい。また、沈線状の凹線を施す。315は典型的な北近畿系高坏のC 1、316は塊形高坏D 2である。315は浅後谷南2式（高野陽子 2006）あたりで、庄内式新相を示す。兵庫県内では丹波市七日市遺跡（種定淳介 1990）、丹波篠山市上板井遺跡（村上泰樹・久保弘幸 編 1990）でも多く出土しているものである。

320・321は中空の高坏脚部で、321の外面上部にはヘラ描き直線文を施す。

脚（裾）部 322は脚（裾）部A 1に分類した。胎土に細かい砂粒がやや多く入る。

器台 器台は317～319の3点で、317は装飾を多く施す特殊な器台D、318・319は器台A 2 bである。317は吉備系とされている器台で、菱形格子文や刺突列点文およびS字状浮文で加飾し、口縁部を大きく拡張するものである。外面にベンガラの赤色顔料を塗布している。赤穂市有年原・田中遺跡（宮崎素一・藤田忠彦 1991）例や有年牟礼・山田遺跡（山中良平 編 2014）例に酷似し、備中V-5（高畑知功 1992）に類例が認められる。この器台については後述する。318・319は北近畿系の口縁部に酷似するが北近畿系のものより拡張部分が小さいことから、318は北近畿系A亜種とし、319はさらに拡張部分が小さいが、北近畿系と推定している。

土鍤 323は有孔土鍤で、この1点のみ出土した。直径5cm弱のもので、ほぼ球状を呈するが、一部を欠損する。残存部分の重量は71.3gである。

IV-5層出土土器 324～386の63点を報告する。

甕 甕は324～341の18点である。324～331の8点は複合口縁の山陰形甕Eで点数が多い。332は甕B 2で口縁端面にベンガラの赤色スリップがみられる。333と339は甕B 7、334・336～338は甕A 1、335は甕B 1、340は甕C 1、341は甕C 8である。324～331の8点は山陰系の複合口縁甕で、332～338・340・341の甕などと比較して、胎土に微細な砂粒を非常に多く含んでおり、内部のヘラケズリが右方向で他と異なることから山陰系Aとした。山陰地域からの搬入品、あるいはこの型式用の胎土を使用して製作されたものと判断できる。340は北近畿系Aで、333・339・341は北近畿系の可能性がある。なお、332は後期前半に遡る可能性がある。

壺 壺は342～354と357・358の15点である。342・343は複合口縁の壺A 1で、胎土には微細砂粒を非常に多く含むことと形態から、山陰系Aとした。344・347は壺B 2で、347は北近畿系の口縁部である。345は壺B 1で北近畿系と判断した。346は壺B 3で口縁部の形状から西部瀬戸内系の可能性が

ある。348は壺E 3、349は壺D 5で赤色のスリップを口縁部内面に塗布している。350は壺E 1で北近畿系かも知れない。351は壺C 1で胎土に微細砂粒を非常に多く含み、体部内面のヘラケズリは右方向である。352は壺H、353は壺C 2で口縁部内面にヨコナデによる凹凸がみられ、胎土・色調・技法とともに讃岐系Aに分類した西川津B類（大久保徹也 1990）である。354は丸底の壺I 2で、底部打ち欠きの可能性もある。357の頸部外面にはヘラ描き文様、358の肩部には突帯を貼付し刺突文と直線文を施す。

器台 器台は355・356、375～379の7点である。355は器台A 1 aで、355・356には波状文を施す。356は北近畿系の可能性がある。375は器台A 2 aで、庄内式直前の時期と思われる北近畿系Aである。376は器台Fで、山陰にはない器形で、1280と同じ形態である。377～379は小型の器台Gである。377はG 4で、北近畿系Bでも丹波波系の可能性が高く、丹波篠山市口阪本遺跡（松下 勝・岡田章一 編 1981）の土壙301出土土器に類似がある。378は器台G 1、379は器台G 3である。

鉢 鉢は359～362の4点で、359・360は口縁部が外反する鉢F 1で、359は形態から甕の可能性もある。361は口縁部が外反する大型の鉢F 3で、注口部分が造出されている。362は鉢A 2かBかCの口縁部である。

有孔鉢 有孔鉢は363の1点で、丸底に近い有孔鉢Eに分類される。

底部 底部は364～369の6点で、364は壺底部でA 2 b α、365はA 2 a α、366はA 2 a β 1、367はA 1 a β 2、368は脚台のD 1で、製塙土器に似るが、二次被熱など確認は認められない。369は底部が剥離しているが、C 2とした。金雲母・角閃石を僅かに含むことから讃岐系Dとした。

高坏 高坏は371～374の坏部と、380・384～386の脚部の計8点である。371は高坏A 2、372は一部分のため分類不明で、高坏以外の器種の可能性もある。内外面に赤色スリップを塗布している。373は高坏A 5 aで、胎土に小さい砂粒を非常に多く含むが山陰系より粒が大きい。374は高坏C 1で、北近畿（丹後）系Aである。374よりも少し屈曲が大きいが、赤坂今井出土土器（石崎善久・岡林峰夫・三好 玄ほか 2004）や橋爪遺跡（石井清司・黒田恭正ほか 1981）の高坏D bに類似がある。380・384～386は脚部で、380は中空、384～386は中実のものである。

脚（裾）部 高坏あるいは器台の脚（裾）部は381～383の3点である。381はA 1で胎土には細かい砂粒がやや多く入っている。382・383はA 2に分類した。

蓋 蓋は370の1点で、外径の大きさからCに分類される。

IV-4層出土土器 387～392の6点を報告する。

壺 壺は387・388の2点である。387は壺D 5、388は壺E 1で、387の内面には赤色スリップ塗布の可能性がある。端面には凹線文を施す。388は口縁端部の形状から北近畿系かも知れない。

鉢 鉢は389の1点である。口径35cmを越える特大型で複合口縁の鉢H 1に分類される。

底部 底部も390の1点で、A 2 b αに分類でき、壺底部である。

脚（裾）部 高坏あるいは器台の脚（裾）部は391・392の2点である。391はA 2で、裾部に複合鋸歯文と5条の凹線あるいは沈線を施す。392はA 1である。壺口縁部の可能性もある。

IV-3層出土土器 393～508の116点を報告する。

壺 甕は393～425の33点である。甕C 7は393・394で、417もC 7に含めた。394は北近畿系の可能性がある。395はC 5、396はC 3、397・398はC 4、399・402～404はC 1、400はC 2である。395～400・402～404は北近畿系Aである。401・423・424は甕Gで、そのうちの423・424は吉備系の甕で、胎土に角閃石や微細な金雲母も比較的多く含んでおり、薄茶色を呈するものである。401は吉

備系の判断ができず、他地域系としておきたい。405～409の5点は山陰系の壺Eで、微細砂粒を非常に多く含み、内面へラケズリが右方向であることから山陰系Aと判断した。411・418は壺B 1、410・414は壺B 2、413・416は壺B 4、412は壺B 5で、410・411は壺かも知れない。421・422は壺A 1、415は壺A 2とした。419は壺D 1で、細筋のタタキを施す庄内形播磨型壺で口縁端部外面に凹線を施さないものである。胎土に微細な砂粒を非常に多く含む。復元による完形品である。420も庄内形の壺でD 3、425は讃岐系の壺Fで、大きめの破片である。西川津B類で讃岐系Aに分類した。IV-3層出土の壺では、壺Bの比率は少なく、壺Cの比率が高い。

壺 壺は427～444と口縁端部以外の頭部などの破片445・446・448・449の計22点で、449の満巻状浮文も壺の装飾の可能性がある。427・428・444は壺D 1で、444には竹管文・円形浮文で加飾しており、器台の可能性もある。429はD 3、430・439・440はC 2で、439・440は東四国系である。440は端部が少し異なるが、黒谷川郡頭遺跡（菅原康夫 1987）に例がある。431はD 2、432はE 2、433・434はD 5である。435は大きな破片で、A 3である。口縁部外面に部分的にヘラまたは櫛描きで波状文を施し、胎土に金雲母・角閃石をわずかに含み茶色の色調を呈することから讃岐系Bとした。436は胎土に微細砂粒を含まないことからA 1'とした。437は器台の可能性もあるが壺A 1とした。複合口縁で胎土には微細砂粒を非常に多く含むことから、山陰系Aである。438はA 2で、北近畿系Bである。なお、1113と接合する可能性が高い。441はB 1で北近畿系Aである。442は不明、443はGにそれぞれ分類した。445の頭部外面には竹管文、446には複合繩文を描いている。448の肩部には列点文を刺突している。

鉢 鉢は426・451～458の9点と450の大型鉢の把手がある。426は大型で口縁部が外反する鉢F 4、451は鉢A 1 c、453・454は鉢A 2 a、455・456は鉢A 5で、小型である。458は口縁部が外反するF 1に分類したが、壺の可能性もある。452は鉢A 2かBかCの口縁部。457は鉢A 1の口縁部である。

有孔鉢 有孔鉢は459～464の6点で、459・461・462はBで、462の内面には未貫通の孔がある。460はA、463・464はDである。459～462は平底であるが、464は下端が突出し、著しい尖底になっている。

底部 底部は465～487の23点である。465はA 2 a β 1で、外面のタタキ目は格子状になっている。466～468・471はA 2 a α、469はA 2 a β 2、470・473はA 3 a αである。475はA 1 a β 1、476・478～481はA 1 a α、477・483はA 1 a β 2、484はB 2、485はB 3である。壺底部では472がA 3 b a、474・482はA 1 b a、486はC 2、487はC 1にそれぞれ分類した。482・487の壺底部は、茶色の色調を呈し、胎土に角閃石・金雲母を含むが、角閃石の量が少ないとから讃岐系A'に分類した。

脚台部 脚台部には488の脚台部B、507・508の脚台部Aがある。

蓋 489の蓋Dの1点のみである。つまみ部分が小さいものである。

高坏 高坏は490～492と505の脚部の4点である。490はA 3 a、491はA 2、492はA 1 aにそれぞれ分類した。505は中空の脚柱部である。

器台 器台では447・493～497・500と498・499の同一個体脚部の計8点報告した。447は器台か壺の破片で、外面に複合繩文を描いている。493はA 1 aで、拡張した口縁端部に櫛描波状文と竹管円形浮文で加飾している。拡張部上端は断面が四角である。494はA 1 bで、色調が茶色であることから讃岐系Cに分類した。壺口縁の可能性もある。495・496はA 2 bで、北近畿系A亜種である。497は分類不明の口縁部で、内外面に赤（橙）色のスリップを塗布している。500は小型器台のG 3である。498・499は有段脚部で、稜部分に細かい刻目を施している。

脚（裾）部 高坏か器台の脚（裾）部は501～504・506の5点がある。501・502はA 1、503・504はA 2、

506 は内湾ぎみの B 1 である。

IV-2 層出土土器 509・511～616・618～726・728～737・739～794 の 282 点を報告する。

壺 は 509・511～578 の 69 点を報告した。509・512・513 は壺 B 2 で 523 も含めた。509・512 は後期前半の可能性があるものである。511・514・517・518 は壺 B 3、515・521 は壺 B 1 で 571 も含めたが、521 は鉢かもしれない。516・524・525 は壺 B 4、519・520・522・559 は壺 B 5、533～535 は壺 B 7 で北近畿系の可能性があり、535 は壺の可能性がある。壺 B の古式を示すものの比率は少なくなっている。526～529・531・532・536 は壺 A 2、560～562・564～570 は壺 A 1 で、壺 A 1・A 2 の占める割合が高い。556 は壺 A 3、557・558 は壺 A 5 である。530 は壺 H とした。537～541 は壺 C 5 で 539 は不明だが、他は北近畿系のものである。542・543・548・553 は壺 C 3 で北近畿系 A である。544・550・551 は壺 C 2 で、544 は吉備系の可能性があり、550・551 は北近畿系 A で、550 は壺の可能性がある。545～547・549・577 は北近畿系の壺 C 4、552・554・555 も北近畿系の壺 C 1 である。563 は壺 C 8 で北近畿系の可能性があり、572 は壺 C 6 で壺の可能性もある。573 は壺 C 9 とした。574～576 は壺 F で、575・576 は角閃石を多く含み金雲母も含まれる胎土で、讃岐系 A すなわち西川津 B 類に位置づけられるものである。574 は比較的大きな破片であるが、色調・形態・技法により讃岐系 C と判断した。578 は壺 G に分類した。形態的に吉備系もしくは北近畿系と思われる。

壺 壺は 579・581～616・618・620・769 の 38 点を報告する。579・584 は壺 A 3 で、579 は口縁部外面に櫛描波状文施文後に 2 個一対の竹管円形浮文を貼付する。頭基部には突帯の剥離痕がある。584 は口縁端部に刻目を施し、文様のようにヘラミガキを施したやや特異な土器である。581～583 は壺 A 2 で、581 と 582 は同一個体である。581・582 と 583 は北近畿系 B で、583 の外面にはヘラ描き文様を加える。585・598・599・601・602・604 は壺 D 1 で、585・598 は器台の可能性があり、585 は口縁部上端が剥離欠損している可能性がある。口縁部外面には直線文・波状文かと想定される文様を施し、口縁端部下端に刻目を加えている。601・602 は北近畿系かも知れない。586・588・589 は壺 B 4 で、588・589 は同一個体で北近畿系 A である。587 は口縁部が内傾する壺 A 6 である。西部瀬戸内系の内折する口縁部のもので、櫛による刺突や波状文、押圧を加えた突帯で加飾する。比較的大きな破片で、頭部下半以外の外面と口縁部上半内面に赤色スリップを塗布している。伊予中部地域では V-3・4 様式（梅木謙一 2000）、伊予東部で地城は VI-1 様式～VI-2 様式で、古墳時代初頭になる（柴田昌晃 2001）。安芸地域では後期 III-1 期（庄内期古相）～III-2 期（庄内期新相）とされる（伊藤実 2001）。590 は壺 E 3、591・596・597 は壺 B 3 で、596・597 は東四国系と思われ、597 は吉野川下流域の形態（菅原康夫 2006）である。592 は壺 B 2 で、頭部外面には不明ヘラ描き文様が施されている。593～595 は壺 C 2、600・603 は壺 D 4、605・606 は壺 D 3 で、北近畿系 A である。607・608・769 は壺 D 2 で、769 は器台の可能性もある。609 は壺 D 5、610 は壺 F、611・612 は壺 H、613・614 は壺 C 1、615 は壺 E 1 にそれぞれ分類した。616 は壺体部下半の比較的大きな破片で、底部形態は A 1 b a である。618 の肩部上端には刺突列点文をめぐらす。620 の頭部と思われる外面には複合鋸歯文状のヘラ描きの文様がある。

鉢 鉢は 621～647・652 の 28 点で、完形品やそれに近いものが多い。621・623 は口縁部が外反する鉢 F 3 で、623 は北近畿系かも知れない。622 は外反する特大型の鉢 F 4 である。625 は鉢 A 1 a で、624・625・628・630 は鉢 A 1 や鉢 C の口縁部である。634・635・638 は鉢 A 2 a、637 は鉢 A 2 b で、627・629・631～633・636 は鉢 A 2 や鉢 B、鉢 C の口縁部である。639～641 は鉢 A 3、642・643 は小型の鉢 A 4、644 は尖底で鉢 B、645 は浅い形態の鉢 D 1、646 は大型で複合口縁の鉢 H 1、647 は小片のため推定径で

あるが、特大型で複合口縁の鉢H2で、652は脚台付の形態で、口径4.6cm、器高4.2cmのミニチュアである。

蓋 蓋は653～656の4点で、やや大きい破片の653は蓋D、他は口縁部欠損のため不明である。

有孔鉢 有孔鉢は657～670・725の15点で、657・660は有孔鉢B、658・659は有孔鉢Hで、659の孔径は約4mmと小さい。大きな破片の661と662は有孔鉢Cで、661の孔上部は漏斗状に開く。663～668は有孔鉢Dで、664はほぼ完形、665は大きな破片で、668の孔上部は大きく開く。ほぼ完形品の669は有孔鉢E、670は有孔鉢Fで、孔上部は大きく開く。725は底面形態ではCに分類されるが、孔の位置が底面ではなく、底部側面の体部下端近くであることから、C亜種とした。

底部 底部は648～651・671～724・726・728～735・737の68点で、そのうち壺や鉢の底部は671・673～682・685～693・697・699・700・702～706・712・715・717～724・726・731の40点、器壁が薄く鉢と思われる底部は648～651・672・707～709・733・734の10点、壺と判断した底部は683・684・694～696・698・701・710・711・713・714・716・728～730の15点である。また、器種が不明なものは732・735・737の3点がある。

鉢と判断した底部も含め、壺や鉢の底部50点のうち、671・700は底部A3αα、672・674・715は底部A1αβ2、673は底部A1αβ1、675・676・679・712は底部A1ααで、675は後期前半の可能性があり、712は壺の可能性も残る。突出する平底のA2ααには677・681・686～690・697・699・703・706～708・717・721の15点があり、多くを占める。それらのうち、697は壺の可能性もあるもので、699は色調と微量の角閃石・金雲母を含むことから讃岐系Dとした。678・709はA3αβ2、680・682・685・691・704・705はA2αβ1で、682は壺底部の可能性も残る。704の底面にはヘラ描き直線が描かれている。692・693・702・731はA2αβ2で、692は壺の可能性も残り、731は後期中頃の可能性がある。718～720・722はB1、723・726は尖底でB2、724は丸底に近いB3に分類した。鉢の底部にはD1に分類した734、D1'の651・733の他、D2に分類した648～650がある。

壺と思われる底部では、683がA2bβ1、684・694～696・698がA2bα、701がA3bβ1、710・711・713・714がA1bαで、713は壺の可能性もある。716・730がA3bβ2で、716の底面には十字と思われるヘラ描きがある。729はA2bβ2、728はC1に分類した。

器種不明の底部では、脚台が付くD1で732・735・737がある。

IV-2層出土底部に限ったことではないが、底面に木葉の葉脈痕が残るものが多く認められる。例えば、報告したIV-2層出土土器では鮮明な705をはじめ12点に認められる。突出する平底に残るもののが大半で、ドーナツ状上げ底にも認められる。また、底面にタタキ痕を残すものが平底に認められたが、尖底に近い平底にも残され、IV-2層では5点で観察できた。

高坏 高坏は739～751・753～757の16点と脚部の752・759・771～773の5点の計21点がある。739・740・742～744は高坏A3bで、739・740は同一個体で北近畿系Bである。745～749は高坏A2で、747・748は同一個体である。750・751は高坏A3cで、752はA3cの脚部である。胎土に角閃石・金雲母を多く含み茶色の色調を呈し、口縁部内面にヨコナデによる凹凸がみられることから下川津B類であり、ここでは3点とも讃岐系Aとした。753・754は高坏C2で、753は北近畿系A、754は北近畿系の可能性がある。755・756は高坏A6、757は高坏D3、741は一部分のため分類不明である。759・771～773は中空の脚部である。773は黒谷川郡頭遺跡の黒谷川I式（菅原康夫 1987）に類似があり、東四国系とした。

器台 器台は580・619・758・760～768・770・774・793の14点がある。760・770・774・793は器台の脚部である。不確実であるが器台とした。580はやや大型の器台Eで、二重口縁部の外側に波状文

を描く。619は器台の可能性がある破片で複合三角文がヘラ描きされている。758は小型器台でG 2、761は器台A 1 bで、沈線文と竹管円形浮文状の貼付を行っている。この浮文は竹管ではなくヘラで周囲を切り取って中央を残す方法を採用している。762・763は同一個体の北近畿系の装飾器台で器台C、764・765は器台A 2 bで、北近畿系A亜種とした。766・767は器台A 4で、山陰系の可能性があり、山陰地域で平行線と呼ばれる文様があるものの、胎土には砂粒はあまり含まない。同一個体の可能性がある。768は器台A 3で、北近畿系の有段口縁のものである。769は器台脚部で、高坏や台付鉢の可能性もある。タタキ仕上げは波路形器台に似るが、中空になつてない点で異なる。770・774は器台脚部である。793は小型器台G 1かG 2の脚部である。

脚(裾)部 775～792・794の19点は高坏または器台の脚(裾)部である。775～778・780・781はA 1、779・782・783・785はA 2、784・786～792はB 1、794はB 2にそれぞれ分類した。776の内面には竹管文が1箇所認められる。

製塙土器 736の脚台部の1点である。二次被熱で赤化しており、やや粗雑なつくりである。

IV-1層出土土器 795～883の89点を報告する。

甕 甕は795～824の30点である。795はB 1、796・797はA 1、798・799はA 2、800・805はB 4、801・803はC 5で、北近畿系のものである。802・804・806はC 3で、北近畿系である。807はB 7で、北近畿系と推定している。808・809はC 2で、北近畿系である。810・811・813・815は北近畿系の有段口縁甕で、810は完形に復元できた。812も北近畿系でC 4に分類した。814は口縁部がA 3の形態である。816はC 8に分類した。北近畿系の可能性がある。817～820は讃岐系の甕Fで、817は口縁部が今回出土の讃岐系Aの形態と異なるが、西川津B類にも認められ、胎土に角閃石・金雲母を微量含み、讃岐胎土の色調を呈することから、讃岐系A⁺とした。818～820は讃岐系Aである。821は吉備系の甕と思われ、甕C 2とした。822は山陰系の甕Eで、砂粒を多く含む山陰系Aである。823は甕体部下半であるが、甕の可能性も残る。824は甕体部の大きな破片で、外面上半に煤が付着している。

壺 壺は825～832の8点である。825は広口壺のD 1、826はD 4であるが、後期前半に遡る可能性がある。827・828はC 2とした。829は大型の壺F、830はE 1で、北近畿系Aとした。832はI 2で、小型丸底壺の分類であるが、平底になっている。831の壺体部下半は突出する平底で、底部形態ではA 2 b aになる。

鉢 鉢は833～837の5点である。833は口径からA 3に分類され、837は口径が大きく、口縁部が外反するF 4で、讃岐系Bである。834は鉢A 1や鉢Cの口縁部、835は鉢Cの脚と推定している。836は類型不明であるが、口縁形態からA 1の口縁部かもしれない。

有孔鉢 有孔鉢は838～843の6点で、838はBに分類され、839～842は尖底に近いC形態で、占める割合が多い。843は丸底に近いGで、穿孔方法が他とは異なり上下が打ち欠き状になっている。讃岐系A⁺である。

底部 底部は844～866・871の24点で、大半が甕または鉢の底部である。844は壺でA 2 b β 2である。壺底部はこの1点である。A 3 a αには845～847・850・851・859の6点がある。847の底部外面にはヘラで十字を描いている。壺の可能性も残る。851の底部外面では木葉痕にタタキを重ねている。848はA 2 a α、849はA 3 a β 2、852～857はA 1 a αである。853は壺の可能性もある。856の底部外面にはタタキを3回加えている。871もA 1 a αとしたが、細長い形態で、製塙土器の可能性も残すが、つくりに粗雑さは感じられない。858はA 2 a β 1、860はB 1、861はA 1 a γで、讃岐

系Aである。862はA 2 a β 2である。底部外面に木葉の葉脈痕を残すものが5点認められた。脚台を有する863・834はそれぞれD 1'・D 1で、865・866はD 2である。

脚台部 脚台部は867～869・882の4点である。867・882は脚端径が大きい脚台部A、868・869は脚端径が小さい脚台部Bである。

蓋 蓋は870の蓋B 1点のみである。

高坏 高坏は872～879と880・881の脚部の10点で、872はA 2、873はA 3 a、874はA 4としたが、壺の可能性もある。875はA 6で、北近畿系でも丹波地域の特徴を示す。876はC 1で、典型的な北近畿系で、丹後地域の形態である。877はA 7に分類した。878はD 4で、國上復元である。879はD 2である。880・881は脚部で、880も中空のものと判断した。

脚(襠)部 883のB 1に分類した1点のみである。

III層出土土器 884～896・898～927の43点を報告する。

壺 壺は884～896の13点である。884はB 3、885・886はA 1である。庄内形～布留形の壺Dでは、完形に復元できた887がD 1、888はD 3、889はD 4、890は布留形のD 5と判断した。891はB 6の北近畿系Aで、古い形態の可能性がある。892はC 3、893はC 1で共に北近畿系Aである。894はEで砂粒を多く含む山陰系Aである。895は吉備系のGであるが、胎土に角閃石や金雲母を含み、薄茶色を呈する。896は口縁部が直立するIである。

壺 898～903・927の7点である。898・900は壺D 1としたが、器台の可能性もある。899・927はD 2で、927は器台の可能性もある。901はB 1で北近畿系A、902はC 2で口縁部内面の凹凸といった技法的な面も含めて讃岐系Aである。903は直口に近いE 2である。

鉢 904・905の2点で、904は鉢A 2か鉢B・鉢Cの口縁部で、905は鉢A 1や鉢Cの口縁部である。

有孔鉢 2点あり、906はC、907はHである。

底部 底部は908～918の11点報告する。壺か鉢の908・909はA 2 a αで、910はA 1 a α、911はA 1 b αで壺底部である。912はB 1で壺底部と思われる。913も壺底部と思われるC 1である。914・915はA 2 a β 2、916はD 1、917はD 1'で、脚台部があまり開かないことから蓋の可能性も残す。918は器壁が厚い脚台のD 2である。

脚台部 919・925の2点である。919は脚端径が小さい脚台部Bで、925は脚端径が大きい脚台部Aに分類した。

高坏 高坏は920と、921・926の脚部の計3点である。920は坏部が小型のD 2で、表面に赤色スリップ塗布の痕跡が残る。921・926はともに中空の高坏脚部で、921は高坏D 2の脚部であろう。

器台 922と、923・924の脚部の計3点である。922は口縁端部を丸くおさめる小型器台のG 2である。923は器台G 1やG 2の脚部で、924は器台Gの脚部であろう。

II-3層出土土器 928～969・971～992の64点を報告する。

壺 壺は928～945の18点である。928・938はB 2で、やや古いタイプである。929・930はB 1、931～933は口縁端部を丸くおさめるA 1である。934～937のD類型のうち、934・936はD 3、935は庄内形のD 1、937が布留形口縁のD 5である。939はB 6である。940はC 2で北近畿系A。941はいわゆるナデ壺で北近畿系のC 3である。942～945は山陰系の壺Eで、内面ヘラケズリ方向はすべて右方向であるが、胎土中の砂粒量が比較的少ない944は山陰系A'で、他は山陰系Aとした。

壺 壺は946～957の12点である。946はC 2、947・956はD 3で北近畿系Aとした。948はD 2で、

769・927と同一個体の可能性がある。949はA2で北近畿系Bとした。器台の可能性がある。950は大きな破片で、A1[~]である。951は口縁拡張部の小破片で、波状文を施しており、器台の可能性もある。952はB4で北近畿系Aである。953はB3で、東四国系の形態を示す。954はB2で北近畿系の可能性がある。955はD2で讃岐系Cの形態である。完形品に復元した957はHで、丸底に近い。

鉢 鉢は958～963で、958・959が同一個体のため5点である。958・959は浅い皿状のG、961はA2aで、960はA2やB・Cの口縁部である。962は小型のA4、963は小型丸底鉢のE1である。

製塙土器 964～966の3点がある。964・965は内溝する口縁部で、器壁の薄さと形態から製塙土器とした。966は棒状の突起が付くもので、形態は少し異なるが、西部瀬戸内系の製塙土器と推定した。

有孔鉢 有孔鉢は967～969の3点で、967はB、968はC、969は尖底のDである。

底部 底部は971～981の11点を報告する。平底系の底部Aには、971の壺のA2b_a、972・973のA2a_a、974のA1a_b1_c、979の壺のA2b_b1_c、980のA2b_b2_cがある。尖底系の底部Bでは、975・976のB1_a、977のB2があり、975は鉢と思われる。978は丸底系のC2で、讃岐系A[~]である。鉢と思われる981は端部があまり開かないD1[~]である。

高坏 高坏は982～984の脚部3点で、982は中空の脚柱部で高坏Bの有段高坏の脚であろう。983・984は中実の脚柱部である。

器台 器台では985・986・989の3点と、987・988・990の脚部3点がある。985はA1b、986はA3で北近畿系Aである。989はG1の小型器台である。990は器台G1かG2の脚部で、外面に橙色のスリップを塗布している。

脚(裾)部 991のB1の1点がある。

不明 992は山陰型瓶形土器の可能性がある鈎状の部分で、図の上部が内溝する点で疑問が残る。

II-2層出土土器 994～1302の309点を報告する。

壺 壺は994～1061・1063～1102の108点と、1103・1104の体部2点および壺の可能性がある1164の計111点を報告する。壺Bでは、994・1000がB2、995がB3、996～998がB1、999がB4、1001・1003はB5、1002がB7である。古い形態を示す994・996なども含まれるが、壺Bの量は10点で少ない。995・1000は壺以外の可能性もある。壺Aは21点あり、A1が1005～1013・1016・1019の11点、A2は1021～1023、A3は1004・1014・1015、A4は1017・1018・1059・1061である。1059・1061は口縁上半の形態から北近畿系の可能性がある。庄内～布留系の壺Dは21点認められる。1028はD1、D2は1024・1027・1029～1031・1033・1043・1044で、1024などは庄内形播磨型壺である。D3は1026、D4は1032・1034～1038、D5は1039～1042、D6には1025がある。北近畿系が多く含まれる壺Cは17点である。C1は1058で北近畿系A、C2は1053で北近畿系A、C3は1050・1051・1055で、すべて北近畿系Aである。C4は1045・1052・1054・1056・1057で、1054・1056が北近畿系Aで、他は北近畿系の可能性がある。C5は1049で北近畿系の可能性があり、1063のC6は北近畿系Aである。C7は1046～1048・1060で、1048は北近畿系の可能性がある。1064はC9である。山陰系の壺Eは1065～1089の25点と多く、内面のヘラケズリ方向が判明したものはすべて右方向である。胎土に含まれる砂粒が比較的少ないものは1073・1075・1078・1079・1082の5点で、山陰系A[~]とした。他はすべて山陰系Aである。なお、1164の体部破片も山陰系である。讃岐系の壺Fは1090～1095の6点で、1090・1091・1095が讃岐系A、1094は讃岐系A[~]、1092・1093が讃岐系Cである。吉備系の壺Gは1096～1102の7点で、1102は口縁部上半を欠失する。口縁部外面に櫛描文を施すものである。

が、1096には施されておらず、吉備系の可能性があるものとした。なお、1020は壺Iである。

壺 壺は1062・1105～1157・1159・1160・1281の57点と、体部の1162・1165の2点の計59点を報告する。壺A1は山陰系Aの1108・1109・1111・1112で、微細砂粒を含まない壺A1'には1105・1115のほか、讃岐系Bの1110がある。壺A2には北近畿系と思われる1113、壺A3には1106・1107・1117・1118・1159・1160があり、1159・1160は器台の可能性もある。1106の外外面には赤色スリップを塗布している。壺A4には1116、壺A7には讃岐系A'の1120がある。1119は壺Fとした。なお、1114・1121の口縁部は不明である。広口壺のDでは、D1が1122・1123・1125・1157で、1122や加飾する1123は器台の可能性もある。D2は1126～1129・1139・1142があり、1129は讃岐系Cである。D3は1131・1133・1134・1146で、1134は北近畿系Aである。D4は1124、1130はD5である。長頸壺のC1には1140があり、突帯が付く点で山陰系Bとした。C2には1132がある。有段口縁とも称すべき複合（二重）口縁の壺Bでは、B2に1135・1136・1138の北近畿系Aがあり、B1には北近畿系Aの1137がある。口縁部があまり開かないE1には讃岐系A'の1145、E2には1141・1143・1144・1147・1150がある。直口壺のHには1148・1149・1151があり、1149は鉢の可能性がある。小型丸底壺のI2には1152～1154があり、1152は台付きのもので、吉備系かもしれない。1281も東西国系で脚付きの小型丸底壺と判断した。口縁がすぼまるGには1155があり、台付きの可能性がある。1156はミニチュアである。1162は回線・波状文・円形浮文で加飾する。1165には櫛描直線文を描いている。

鉢 鉢は1166～1181・1185の17点である。1181は讃岐系BのA1bで、1180はA1やCの口縁部、高坏の可能性もある1176はA2やB・Cの口縁部の可能性がある。1174はA3、1173はA4、浅い形態のD1には高坏の可能性もある1175のほか1178・1179があり、完形品で讃岐系Aの1177はD2である。小型丸底鉢のEでは、1168・1169がE1、口縁が屈曲するE2には1170・1171がある。鉢Eは橙色や赤系の色調が多い。口縁が外反するFのうち、F1は讃岐系CかDの可能性がある1167があり、讃岐系Bの1185はF2で高坏の可能性もある。中型～大型のF3には1166・1172がある。

不明土器 波状文や列点文で加飾し、開口部がある1163は、手焙形土器の可能性がある。1264は山陰型埴形土器の可能性がある端部である。

有孔鉢 有孔鉢は1186～1197の12点である。突出した平底のAは1186・1187・1194で、平底のBは1190、尖底に近いCは1191・1192・1195で、1195は復元完形品である。尖底のDは1193、丸底に近いEは1196、丸底に近い平底のGは1197、底面上げ底状のHは1188・1189である。

底部 底部は1198～1257・1259の61点あり、そのうち壺の底部は7点で、その他は壺や鉢の底部である。外面底面には木葉の葉脈痕を残すものが、ドーナツ状上げ底を含む平底のもの14点に認められる。底面タキのものは2点あり、1212は明瞭である。また、1245ではケズリを施している。突出しない平底A1では、A1a-aが1201・1222・1240・1246・1248・1249で、1201の色調は讃岐系を呈し、1222の底面には初圧痕が残る。壺A1b-aは1200・1204、A1a-b1が1226・1228・1229・1233～1236・1238・1244、A1a-b2が1202・1237、讃岐系AのA1a-yが1205である。突出する平底A2では、A2a-aに壺の可能性もある1206と、1208～1210・1212～1214・1219・1227・1231・1232・1239・1241および小さな1243があり、数が多い。なお、1213の断面では底部輪台技法にみえるが、他の多くは最後に底部外周にタキを加える技法などから底部再成形技法と判断される。壺A2b-aは1199・1207・1211、A2a-b1は1215・1218・1220・1224・1242・1254、A2a-b2が1216・1217・1230・1259で、1259は製塙土器の可能性もある。短く突出する平底A3では、A3a-aが1203・1223・1225

と壺の可能性もある 1247 で、壺 A 3 b α が 1221、壺 A 3 b β 1 が 1198 である。尖底系の B では、B 1 が 1245・1251・1252 で、壺の可能性もある。B 2 は讃岐系 B の 1250・1253 で、色調では讃岐系の可能性がある。脚台が付く D では、D 1 が 1255・1256、D 2 が 1257 で製塙土器の可能性もある。

製塙土器 1258 は製塙土器の脚台部で、二次被熱が認められる。

蓋 1260～1263 の 4 点あり、1261 は口径から蓋 B で、他は口縁部欠損のため型式不明である。1262 は蓋以外の可能性もある。

高坏 高坏は 1183・1265～1272・1283 の 10 点と、1273・1288・1289・1302 の脚部がある。有棱高坏 A のうち、1265 は A 2、1266 が A 1 b で讃岐系 B、1267 が小型の A 5 b である。有段高坏の B は 1268、二重口縁状の C では、1269 が C 1 で丹後地域に多い北近畿系である。塊形坏部の D では讃岐系 C の 1272 が D 1、1183・1271 は D 2 で、1183 は小型の器台である可能性も残す。1270 は突帯を貼付したもので、全体形状が不明なため E に分類した。1283 は口縁部欠損のため型式不明である。1273 は讃岐系の色調を呈し、1288・1302 は中実、1289 は中空の脚部で高坏 A の脚部の可能性がある。

器台 器台は 1158・1161・1274～1280・1284～1286 の 12 点と、1282・1291・1297 の脚部 3 点の計 15 点を報告する。口縁部が大きく開き端部を拡張する A では、1274・1275 が A 1 a で 1274 は壺の可能性もある。1275 は北近畿系 A である。1276 は A 2 b の北近畿系 A 亜種である。鼓形器台の B は 1277・1278 で、1277 は胎土に細かい砂粒を多く含む山陰系 A、1278 は山陰系 B と判断した。1279・1280 はやや小型の器台 F で、1279 は山陰系の形態で B とした。小型器台 G では、1286 が G 2、1285 が G 3 で讃岐系 C、1284 は G 5 である。1158・1161 の小片は器台と判断した。1161 は壺の可能性もある。ともに複合鋸歯文を描き、1161 は刻目も加える。1158 は天地逆の可能性も残る。どちらも型式は不明である。1282 の脚部内外面にはベンガラのスリップを塗布している。1291 は器台 G 1 か G 2 の脚部で、1297 は器台 G 5 の脚部の可能性がある。

脚（裾）部 1287・1290・1292～1294・1298・1300・1301 の 8 点は高坏または器台の脚（裾）部である。1287・1290 は端部に面をもつ A 1、1298・1300・1301 は端部が丸い A 2、1292・1293 はあまり大きく開かない B 1 で、1294 は脚径が小さい B 2 である。

脚台部 1182・1184・1295・1296・1299 の 5 点である。1182・1184 の 2 点は脚台部 B、1295・1296・1299 の 3 点は脚端径が大きい脚台部 A である。

II-1層出土土器 1303～1352・1354～1429 の 126 点を報告する。

壺 壺は 1303～1331・1333・1334・1345 の 32 点である。壺 B では、B 1 が 1306 と讃岐系 D の 1309 および 1310、B 2 は 1311～1313、B 3 が 1305、B 4 が 1304、B 5 が 1308、B 6 が 1303 で北近畿系 B である。壺 A 1 は 1314～1318、壺 C では、C 1 が北近畿系 A の 1326 と 1345、C 2 は北近畿系 A の 1327、C 3 は北近畿系の可能性がある 1325 と 1328、C 4 は北近畿系 A の 1329、C 5 が北近畿系 A の 1322～1324、C 7 は 1319～1321 で、1320・1321 は北近畿系の可能性がある。壺 D では、1307 が D 1、1334 が D 5 で布留形口縁に近いものである。壺 E は山陰系 A の 1333、壺 F が讃岐系 A の 1330・1331 である。

壺 壺は 1332・1335～1344・1346～1349 の 15 点である。壺 A では、1338 が A 1'、1336・1337・1339 が A 3、1340 が A 5、微砂粒を多く含む山陰系 A の 1332 が A 6、1341 が A 7 である。壺 B 4 は北近畿系 A の 1344 で、壺の可能性もある。1346 は壺 C 2 である。壺 D では、1335 が D 1、1347 が D 5 である。1348 は壺 H で、1349 は器高 4.7 cm のミニチュアの壺である。1342・1343 は型式不明の頭部で、1343 は天地逆の可能性がある。

鉢 鉢は1354・1355・1357・1358・1424・1425の6点がある。1355はA 4、1424は鉢A 5の口縁部である。1354はBで、1357はD 1で高坏の可能性もある。1358はE 2亜種に分類した。1425は型式不明脚部で、山陰系かもしだれない。

製塙土器 製塙土器は1356の口縁部の1点で、二次被然がある。

有孔鉢 有孔鉢は1360～1362の3点で、尖底に近いCは1361、尖底のDは1362、上げ底のHは1360で、孔の垂直な側面長は極めて短い。

底部 底部は1359・1363～1410の49点で、1363～1405のうち壺底部は3点で、他は甕や鉢の底部である。また、木葉底はA 1やA 2に6点認められ、ドーナツ状上げ底で半数を占めた。底部A 1 a αは1380・1393～1395で、1394の底面には棒状压痕がある。A 1 a β 1には1388・1389・1392があり、A 1 a β 2は1381・1382・1390で、1390は壺の可能性もある。A 1 a γは讃岐系Aで、1403・1404があり、1403は壺の可能性もある。壺底部のA 1 b αには大型の1405がある。A 2 a αは1363・1364・1370・1371・1378・1383～1386で、突出する平底の比率が高い。同時に、A 2 a β 1には1367～1369・1377・1379の5点、A 2 a β 2には1372～1374、A 2 b β 2には1365・1366があり、上げ底状のものや甕も含めてA 2型式が多い。A 3 a αには1375・1376、A 3 a β 2には1387・1391がある。尖底系のBでは、B 1の1397・1398、B 2の1399・1400、B 3の1396・1401があり、丸底系のCにはC 2の1402がある。脚台が付くDでは、D 1の1407～1409、D 1'の1406、D 2'の1359・1410があり、1359は蓋の可能性も残す。

蓋 1412の蓋Dで、復元完形品である。

高坏 1413～1415の3点で、高坏Aのうち、A 1 aが1413、A 5 bが1414、A 7が1415である。1415は高坏以外の可能性がある。

器台 器台は1350～1352・1416～1423の11点がある。1350・1416・1417はA 1 bで、1350は波状文を櫛描し、1416・1417には間線文、1417には竹管円形浮文も貼付する。1418はA 2 aで北近畿系A、1420は鼓形器台のBで山陰系Bである。1419はFで北近畿系の可能性がある。1422・1423は小型のG 1である。1421は型式不明で、北近畿系の可能性があるが、器台以外かもしだれない。1351と1352は同一個体の可能性があり、壺の可能性もある。ともに波状文を描く。

脚台部 1411・1426・1427の3点がある。いずれも脚端径が7.5 cm以上の脚台部Aで、1427は脚端径が11.0 cmと大きいものである。

脚(裾)部 高坏または器台の脚(裾)部には1428・1429の2点がある。1428はB 1で、内外面に赤色スリップを塗布している。1429はA 2で、色調は橙色を呈している。

I層出土土器 1430～1439の10点を報告する。

壺 壺は1430～1434の5点である。1431・1433はA 3で、1433には波状文を描く。1430はA 7で讃岐系A'である。1432はD 3で、北近畿系の可能性がある。1434は復元完形品で、I 1に分類した。

甕 1435の1点で、A 1であるが、庄内式の形態を示す。内面は左右方向のヘラケズリである。

有孔鉢 1436の有孔鉢Cの1点がある。

高坏 高坏は1437・1438の2点で、1437は棱部分外面に幅の狭い突帯を貼付しているが、A 5 aに分類した。色調は赤色を呈する。1438はA 6である。

器台 器台は1439の小型器台G 1の1点である。

出土層位不明土器 1448～1450と1452～1462の14点を報告する。

甕 甕は1448～1450の3点である。1448は甕Eで山陰系A'である。1449は甕C 5で北近畿系の

可能性がある。1450は壺Iである。

高坏・器台 高坏は1452・1461・1462の3点で、1453は器台か高坏の脚部である。1461は坏部が浅いA7で、1462は壺形坏部のD1である。口縁端部が少し外反する。1452は器台の可能性もある小片で、外面に斜格子で埋めた複合锯齿文をヘラ描きする。1453の外面裾部近くに複合锯齿文を連續的に描く。

鉢・有孔鉢 鉢は1454・1455の2点で、有孔鉢は1456である。1454は比較的大きな破片で図上完形品である。上げ底のA2bで、V層出土の可能性がある。1455は台付鉢の可能性があるが、詳細不明である。1456は丸底に近いEである。

底部 壺や鉢の底部は1457～1460の4点である。1458はA1aα、1457・1460はA2aβ2で、1457の底面には木葉の葉脈痕があり、1460は鉢の可能性もある。1459は壺の底部で、B1の形態である。

古墳時代中期～後期（図版55・56、写真図版142～144）

流路3のI層には古墳時代中期～後期の土器も含まれていた。また、6区V下層のラベル記載がある出土土器には古墳時代中期～後期の須恵器片があり、記載間違いの可能性が高い。

I層出土土器 1440～1442の3点を報告する。

土師器 1440は長胴壺で、体部の約半分と底部を欠失する。韓式系軟質土器で、外面は格子タタキを基本とするが、一部繩文のように見える部分がある。1441は瓶で約半分残存している。蒸気孔は円形で、把手に切り込みはみられない。外面調整はハケである。

陶質土器 1442は蓋の可能性も残るが、有蓋高坏と思われ、半分割が残存している。口縁部は幅が狭く、坏底部外面はカキ目状の回転ナデである。韓式系陶質土器または初期須恵器と思われる。

6区V下層出土土器 1443～1445の3点を報告する。

須恵器 1443は須恵器の坏蓋、1444・1445は坏身である。いずれも小片で、1443はTK23型式と思われ、1444の口縁部はさらに小さい破片であるが、口径からTK47型式と判断している。1445はTK23型式～TK47型式であろう。

② 石器・石製品（図版68～70、写真図版179～182）

流路3から出土し報告できた石器にはS1の石鐵のほかS2～S5があり、石製品にはS6～S25の砥石・磨石・敲石・台石など、合計で25点がある。

石鐵S1はやや凹基を呈するもので、完形品である。サヌカイト製で金山産と思われる。流路3の2区II-3層出土である。長さ35.0mm、幅19.0mm、厚さ3.5mm、重さは2.4gを計る。S2・S3は二次加工のある剥片で、それぞれ4区のIV-5層、VI-2層出土である。S2は図の上部が折損し、残存長25.0mm、幅26.0mm、厚さ6.0mm、残存重量は3.8gである。サヌカイト製で金山産と判断している。S3はサヌカイトと思われる石材で、明らかな折損は認められない。長さ・幅とも34.0mm、厚さ6.2mm、重量は7.8gである。S4はサヌカイト製剥片で、上端が折損している。残存長19.2mm、幅14.1mm、厚さ3.0mm、残存重量0.8gで2区のVI-2層からの出土である。S5はサヌカイト製の可能性がある石核で、表面風化により黄土色を呈する。長さ45.0mm、幅25.0mm、厚さ20.5mm、重量17.1gで4区IV-6層出土である。

S6は砥石片で凝灰質砂岩か砂岩製と思われる。下面は2面残存し、残存長31.5mm、残存幅38.0mm、残存厚9.0mm、残存重量9.2gである。4区のIV-6層出土で庄内期前後の土器が多く出土している。

S7～S13は磨石・敲石で、卵形のS7は長さ51.0mm、幅39.0mm、厚さ35.5mm、重量96.6gで、

特に平滑な部分が認められる。1区II-2層出土である。S8も卵形を呈し、長さ66.2mm、幅44.8mm、厚さ37.5mm、重さ156.4gで全面平滑である。1区出土で層位は不明。S9は花崗岩製と思われ、被熱や風化により磨面不明瞭で一部欠失する。残存長78.0mm、幅91.0mm、厚さ54.6mm、残存重量561.6gである。2区II-3層出土で庄内期前後の土器が多く出土した層にあたる。S10は約半分に割れしており、残存長104.5mm、残存幅53.5mm、残存厚46.8mm、残存重量304.4gである。表面は平滑で1区II-2層出土である。S11は折損しており、残存長72.5mm、幅51.8mm、残存厚41.0mmで残存重量は165.2gである。残存表面は平滑になっている。2・3区間畔のII-1層から出土した。S12は花崗岩製と思われ、2区～4区のII-1層から出土した。平面部分は平滑で、先端部分は後世の欠損の可能性がある。途中で折損し、残存長67.0mm、残存幅63.0mm、残存厚33.5mm、残存重量205.8gである。S13は幅73.0mm、厚さ40.0mm、長さ161.5mmと長く、重さは711.8gである。敲石の可能性がある。1区IV-1層出土である。

S14～S25は台石で、石皿や砥石の可能性があるものも含む。S14は石皿の可能性もあり、中央部が若干窪む。長さ203.0mm、幅172.0mm、厚さ69.5mm、重量は3,938.0gである。2・3区間畔のIV-5層出土である。S15も石皿の可能性があり、中央が若干窪む。4区IV-2層出土で長さ181.0mm、幅165.0mm、厚さ66.0mm、重さ2,995.0gである。S16も同様であるが半分折損する。残存長90.1mm、幅144.0mm、厚さ38.0mm、残存重量690.6gで花崗岩製と思われる。1区II-2層出土である。S17も台石か石皿の破片で一部である。残存長109.0mm、残存幅107.0mm、残存厚59.0mmで残存重量は1,005.0gである。流紋岩製の可能性があり、4区VI-2層出土である。S18も破片で、残存長164.0mm、残存幅73.5mm、残存厚36.0mm、残存重量721.3gである。5区IV-6層出土で流紋岩製の可能性がある。S19は砂岩製と思われ、上下面が極めて平滑で砥石の可能性もある破片である。2・3区間畔内のIV-5層出土で、残存長105.0mm、残存幅143.2mm、残存厚68.0mmで残存重量は1,590.0gである。S20は礫岩のような石材で、4区IV-2層から出土した。破片で、残存長160.5mm、残存幅104.0mm、残存厚32.0mm、残存重量604.0gである。S21の石材は砂岩か泥岩と思われ、1区IV-1層から出土した。砥石の可能性もある破片で、残存長110.5mm、幅108.0mm、残存厚31.0mm、残存重量は663.1gである。S22は小片で、残存長117.0mm、残存幅80.0mm、残存厚28.0mm、残存重量は364.4gである。1区でII-2層出土である。S23は5区II-2層出土の小片である。残存長79.0mm、残存幅57.0mm、残存厚38.0mm、残存重量220.7gである。小片のS24は4区IV-2層出土で流紋岩製の可能性がある。残存長72.0mm、残存幅70.5mm、残存厚40.0mmで残存重量は148.0gである。小片のS25も流紋岩製のようで、4区VI-1層から出土した。残存長60.5mm、残存幅42.5mm、残存厚6.0mmで残存重量は20.8gである。

③ 鉄 器 (図版71)

流路3から出土し報告できた鉄器は、M1の1点である。角釘と思われ、残存長4.0cmでIV層から出土しているが、混入した可能性も捨てきれない。

(2) 溝4

① 土 器 (図版67、写真図版171・172)

溝4から出土し報告できた土器・陶磁器は1805～1817の13点である。溝4は流路3と重複していることから、流路3に含まれていた土器が混入したものと思われる。陶磁器は土器とは別に記述する。

弥生時代中期

1805～1815の11点である。

壺 1806～1812・1814の8点がある。中期初頭の可能性がある1806は、壺口縁部で端面に刻目を施す。中期前葉の1808は頸部片で、櫛描直線文を多く施す。中期前半の可能性がある1810は肩部の細片で、直線文と波状文を櫛描する。中期中葉のものは1807と1809・1811である。1807は壺頭部で、細い突帯を5条以上貼付し棒状浮文で加飾する。1809は体部片で、直線文と斜格子文を櫛描する。1811は肩部の小片で、櫛描波状文を多段に施す。中期中葉～後葉と思われる1812は体部小片で、刺突列点文を押し引きのように施す。1814は中期の壺底部である。

甕 1805と1813の2点である。1805は逆L形に近い口縁部で、中期前葉の可能性が高い。1813は底部で、形態から中期前葉と判断される。

高坏 1815の脚柱部である。坏部下端外面に小さな段をもつ。詳細時期は不明である。

② 陶磁器 (図版67、写真図版172)

構4から出土し報告できた陶磁器には、1816・1817の2点がある。

1816は龍泉窯系青磁碗で、見込み部分に微かに「金玉満堂」の刻印が確認できる。13世紀後半と思われる。1817は備前焼捕鉢で、口縁端部は拡張しない。備前Ⅲ期で鎌倉時代後半～南北朝である。

2. II 区**(1) 流路1-1****① 土 器** (図版57～59、写真図版145～150)**弥生時代中期**

1463～1530の68点を報告する。

出土土器を出土層位からみると、流路1-1埋土の上面や第11層(上層)からは中期中頃の土器が多く、庄内期も1点認められる。また、第13層には中期前葉～中葉の土器が含まれていた。土器が最も多く含まれていたのは、中層にあたる第5層・第12層で、報告する中期初頭から中期中葉の土器は48点で大半を占める。下層にあたる第7層・第14層からは中期初頭から前葉の土器が含まれており、5点報告する。

甕 甕の口縁部などは1463～1484の22点がある。これらのうち、上層出土は1478、第13層からは1467・1473・1480が出土し、下層からは1475が出土している。その他はすべて中層出土である。

中期前葉 中期初頭を含む中期前葉の甕口縁部には、逆L形口縁部の1463・1465～1467と逆L形口縁部に近い形態の1469の5点、如意形口縁部の1464・1468がある。1464・1466は鉢の可能性もあるが、甕に含めた。1467の口縁端部には刻目を施し、口縁端部の外側に竪描直線文を10条施す。甕体部の破片には1475～1477があり、1475・1476には多条のヘラ書き直線文を施し、1477には櫛描直線文を多段に施す。これらの土器の胎土には大粒の砂粒を含むことが共通している。

中期中葉～後葉 1470～1474・1478～1484の12点である。く字形に開く口縁部で、端部に面をもつものが多い。1472の体部には竹管による刺突列点文、1474の口縁端部に刻目文を施す。1478の外側には粗状压痕が認められる。1481～1483は時期がやや降ると思われ、口縁端部を拡張する1484は中期後葉のIV様式であるが、甕の可能性もある。

壺 1485～1492・1498～1501の口縁部と、1493～1497・1502～1510の体部片がある。これらのうち、

上層出土は1504、第13層からは1489、下層からは1494が出土し、層序不明の1487を除いた他はすべて中層出土である。前期に遡ると判断されるものから、少量であるが中期後葉のものまで認められる。

中期前葉 肩部片の1493は低い削り出し突帯が認められることから前期に属する。中期初頭の口縁部には、口縁内に断面四角形の突帯を貼付し、突帯端部および口縁端部に刻目を施す1492、口縁端面に指頭による押圧を施す1498や、口縁端部付近の内面に突帯を多条に貼付し刻目を加えた1499がある。体部では、肩部に貼付突帯を多条に貼付した1494や、刻目を加えた1495、体部に貼付突帯を貼付した1496・1497があり、1496には刻目を加えているようである。中期前葉と判断されるものには1485があり、体部片では櫛描直線文と竹管文を施した1502、半截竹管で山形文と直線文を描いた1505、櫛描で直線文と波状文を施した1507がある。1505はやや遡る可能性がある。

中期中葉～後葉 中期中葉の口縁部には1486と、頸基部に押圧文突帯を貼付した1487、口縁端面に斜格子文を施した1488、口縁外端部直下に竹管列点文を刺突した1500があり、内面に扇形の櫛描文が遺存する1491も中葉であろう。破片では頸部に櫛描直線文を描いた1501、肩部に竹管列点文を刺突した1503、肩部に櫛描波状文と列点文を施した1508・1509、肩部に直線文と波状文を櫛描した1510、体部に櫛描直線文を施した1504、体部に直線文と波状文を櫛描きし、刺突列点文を加えた1506がある。なお、1489は口縁端面に刻目を加えたもので、端面下部が凹線状になることから後葉と判断している。底部 壺や壺などの底部には1512～1519・1521～1528の16点がある。土器の状態から壺と判断したものは1512～1514・1516～1519の7点、壺底部と判断したものは1521～1524・1527・1528の6点で、その他は壺か甕である。体部下端が内湾して底部が突出したような形態や、底径が小さいものおよび底面が凹面をなす1512～1519・1522は中期前葉の可能性が高い。また、1525も前葉の可能性がある。その他は中期中葉のものであろう。

有孔鉢 底部中央に穿孔があるので、1511と1520の2点がある。底部の形態からともに中期前葉の可能性が高い。

高坏 1529と1530の2点がある。形態や円板充填技法などから中期の所産と思われるが、詳細時期は不明である。

弥生時代後期末～古墳時代前期

流路1-1出土で報告した土器のうち、当該時期のものは1531の脚台部Aが1点認められた。

(2) 石器 (図版70、写真図版183)

流路1-1から出土し報告できた石器はサヌカイト製使用痕のある剥片S26・S27である。

S26は長側縁に使用痕が認められる。長さ54.0mm、幅29.2mm、厚さ6.5mm、重量8.8gである。S27も長い一側縁に使用痕が認められる。長さ45.0mm、幅36.0mm、厚さ6.0mmで重量は8.2gである。S26・S27とともに2013年度3区の流路埋土第2層出土で、ともに金山産と思われる。

(2) 流路1-2

① 土器 (図版59～61、写真図版150～157)

弥生時代中期

第4層から出土した1626は高坏の水平口縁部で、端部は下方に曲がる。讃岐系Bである。

弥生時代後期末～古墳時代前期

流路1-2から出土し報告した当該時期の土器は1532～1625の94点である。大半が第4層から出土しており、土器の様相から、流路3の新相とほぼ同じ時期の可能性が高い。以下、器種ごとに述べる。

甕 甕は1532～1556・1565の26点である。1532～1540の9点は甕Eで、それらのうち1534・1535・1538が山陰系Aで、その他は山陰系A'である。甕A1は1541～1545・1565の6点で、1545は胎土から讃岐系A'である。甕A4は1552で、北近畿系の可能性がある。甕B1は1546・1547・1549・1550の4点で、甕B3は1551である。庄内形の甕D3には1553、布留形の甕D5には1548がある。1554は讃岐系の甕Fで、色調・混和材・技法により讃岐系Aである。甕体部の1555・1556のうち、1556は丸底のもので、外面のハケが著しい。布留期と思われる。

壺 壺は1557～1564・1566～1569・1625の13点である。壺Aでは、1557がA4である。1558はA3で、口縁部外面に波状文を描きしている。1564は破片部分が限られるためA1'だと推定した。壺Dでは、1560・1561がD3で、1560は北近畿系の可能性がある。D2は1562で東四国系である。また、1563は口縁部を欠失するが、讃岐系A'であることからD2形態であると判断した。復元完形品の1566は甕の可能性もあるが、壺I1に分類した。1567は壺Hで、1568もHの可能性が高い。1569の肩部片は山陰系Aで、直線文と波状文を描いている。1625は頸基部の貼付突帯と刻目および竹管文に加え波状文で加飾している。

鉢 鉢は1570～1573の4点がある。1570は大型でH1に分類できる。1571はBで、1572は小型丸底鉢のE2である。脚部の1573は鉢Cの脚と思われる。

有孔鉢 1574・1575の2点で、どちらも尖底のDである。

底部 底部は1576～1598の23点で、それらのうち壺底部は1576・1577・1581・1587・1591・1597の6点であるが、1576・1577は甕の可能性も残す。突出ないし突出ぎみのA2では、A2a α が1578・1579・1582・1583・1588の5点、ドーナツ状上げ底のA2a β 1は1585、壺のA2b β 1は1576、中央が窪む皿状上げ底のA2a β 2は1580である。突出しないA1では、1584・1594がA1a β 2である。短く突出するA3では、A3a α が1586、壺のA3b α が1577・1581・1587の3点である。尖底系のBには、1591～1593のB1、丸底に近いB3の1595がある。丸底系のCには、1589・1590のC1、1596・1597のC2がある。脚台付のDには、D2'の1598がある。

蓋 1599～1602の4点と、蓋の可能性がある1621で、ほぼ完形品1600はA、1599はBである。

高坏 1603～1606の4点と、高坏の可能性がある1616があり、高坏脚部には1607～1610・1617・1622・1623の7点がある。1604は有稜高坏のA5aで、内外面に赤褐色のスリップを塗布している。1605は塊形のD1とした。1603は不明、1606は塊形の可能性もあるが不明とした。1607～1610・1617・1623は中空の脚部であるが、1617は高坏Dの脚部である可能性があり、1610は中期のものかもしれない。1622は中実の脚部である。

器台 1611～1614の4点と、脚部の1620がある。1611はA2a、1612はA3で、共に北近畿系Aである。1613はG3で、丹波地域にみられる北近畿系かもしれないが、類例に乏しく保留しておきたい。1614はG2に分類される。1620はG5の脚であろう。

脚台部 1615の1点で、脚台部Aである。

脚（裾）部 1618・1619は高坏か器台の脚（裾）部B2である。どちらも器台の脚の可能性があり、1618は混和材により讃岐系Dである。

手培形土器 1624は手培形土器の縁部片で、幅約2cmの面を有する。讃岐系の色調を呈する。

② 石製品 (図版70、写真図版183)

流路1-2から出土し報告できた石製品は磨石・敲石のS-28で、2013年度2区の第4層出土である。

直方体のような形状で、長さ113.5mm、幅94.0mm、厚さ62.5mmで、重量は1020gである。あまり平滑ではないが磨石・敲石と判断した。

(3) 流路2

① 土器 (図版62~64、写真図版156~164)

流路2から出土した土器には1627~1733の107点があり、弥生時代中期のものと弥生時代後期末~古墳時代前期のものがある。また、土器転用紡錘車片(1646)も出土しており、弥生時代中期と思われる。

弥生時代中期

弥生時代中期の土器は1627~1643・1646の18点である。

壺 壺の口縁部などは1627~1631・1639の6点を報告した。逆L形口縁部には1627~1629があり、1630もその可能性が高い。1627・1628の外縁口縁部下には櫛描直線文を施す。1630では竜描直線文が5条以上認められる。1629は口縁部のみの破片である。1631は甕と思われる体部で、外面に半截竹管による直線文を施し、刺突文を加える。1627~1631は中期初頭と思われる。1639の甕口縁部は端部を拡張し回線文を施すことから中期後葉のものである。

壺 口縁部や体部など1632~1638の7点がある。1632~1635は体部や肩部に断面三角の突帯を3条以上貼付するもので、中期初頭と判断される。1632では間隔の広い突帯間に3条の沈線状直線を加えている。1636は広口壺頭部の破片で、頸下部に7条以上の突帯を貼付し、棒状浮文を加える。中期前半の所産であろう。1637は中期中葉の広口壺口縁部で、大きく外反する口縁部の端面に刻目文を施し、3個単位の円形浮文を貼付する。1638は広口壺口縁端部で、端面に刻目を羽状に施す。詳細時期は不明である。

底部 壺底部は1640~1643は甕底部である。いずれも体部下端から弯曲して突出した底部になる形態で、底面は凹面を呈している。甕口縁部や体部の時期から、中期初頭である可能性が高い。

紡錘車 1646は土器転用紡錘車で、約半分が欠失している。甕体部の転用と思われる。残存部分の径は5.2cm、孔径は約6mmである。

弥生時代後期末~古墳時代前期

弥生時代後期末~古墳時代前期のものは1644~1645・1647~1733の89点がある。土器の時期的様相は流路3に相当するようである。

壺 1647~1668の22点である。それらのうち1657は完形品で、1653・1656・1662は復元完形品である。1647・1648・1650・1651は甕A1、1649・1652は甕A4である。甕Bでは、第4層出土の1662がB1、1663がB3、第7層出土の1653がB5である。北近畿系の様相を示す甕Cでは、ほぼ尖底の1656がC2、丸底に近い1657がC3、1654・1655がC5で、いずれも北近畿系Aである。同じくC5の1658も北近畿系と思われ、口縁部の刻みが部分的に残存している。平底の1653は下層の第7層、1656や1657の尖底や丸底に近いものは中層にあたる第4層出土である。庄内系の甕Dでは、1660のD1、1661のD2、1659のD3があり、1659は庄内形播磨型甕に非常に近似した形態である。山陰系の甕Eには、山陰系

Aの1666と山陰系A^αの1667がある。壺Fでは、東四国系の1664、讃岐系Aの1665がある。

壺 壺は1669～1679の11点である。複合（二重）口縁の壺Aでは、A3の1673、A4の1672、A5の1671があり、1673は口縁端部に細かく刻目を施す珍しい例である。二重（有段）口縁の壺Bでは、B4の1675があり、山陰系の可能性もある。長頭の壺Cでは、C2の1676がある。広口の壺Dでは、1669・1670がD1、東四国系の1678は口縁部を欠失するが、体部～頸部の形態からD2と判断した。直口壺のHが1677、1679は丸底壺のI2である。加飾する1674は型式不明で、器台の可能性もある。

鉢 1680～1683の4点がある。1682はA2aであるが、壺の可能性も残す。1683はA5である。口縁部が外反する1681はF1である。大型の1680はH1で、山陰系Aである。

底部 1644・1645と1684・1690～1716の30点のうち、壺底部と判断したのは1644・1690・1696～1698・1711～1714の9点である。それらのうち、A1b^αには讃岐系Dで大型底部の1644と讃岐系Aの1713がある。1690はA2b^β1で、1696・1698はA3b^α、1697はA3b^β1、1714はA3b^β2である。尖底系のB3には壺の可能性もある1711、丸底系のC1には1709・1712がある。壺や鉢の底部のうち、平底系のAでは、讃岐系Cの1704と1706がA1a^α、1705がA1a^β1、1703がA1a^β2である。1645・1702はA2a^α、1691～1693・1701がA2a^β1、1694・1695がA2a^β2である。A3a^αには1699・1700・1707の3点がある。尖底系のBでは、1708・1710がB1、1684がB2である。底面にもタタキを施すものが1700・1701・1710の3点ある。脚台付の1715・1716はD1である。

有孔鉢 1685～1689の5点で、1688は平底のBで、尖底のDには1685とほぼ完形の1686がある。1686の内面には未貫通の孔も存在する。1689は丸底のEで、1687は上げ底のHである。

高坏 1717～1719は有稜の高坏A3aである。1721は塙形の高坏D2で、内外面に赤褐色のスリップを塗布している。中空の脚部は1720・1727・1730・1731で、1720・1731は脚部内面以外に、1730は外面にベンガラを含んだ赤褐色のスリップを塗布している。1728は中実脚部で、高坏Dの脚部と推定できる。

器台 1722～1726の5点である。北近畿系Aの1722はA1a、復元完形の1723と受部破片の1724は小型器台のG1で、1724の内外面には赤褐色のスリップを塗布している。復元完形の1725と受部破片の1726はG4で、1725は北近畿系Bである。

脚（根）部 1729・1732は高坏または器台の脚（根）部で、A2である。

脚台部 1733は脚台部Aである。

② 石器・石製品（図版70・71、写真図版183～185）

流路2から出土し報告できた石器はサヌカイト製石包丁S29、サヌカイト製石鎌S36、石製品は磨石・敲石や台石S30～S34がある。S30～S34は2013年度5区で第1層出土である。

S29は打製石包丁片と判断した。折損し、片側には自然面が残存している。下端のみ刃部を形成している。残存長51mm、幅48mm、厚さ9.5mm、残存する重さは24.4gである。2012年度調査区出土である。

S36は凹基ないし平基のもので、片側逆刺部分を欠失している。残存長21.0mm、残存幅14.8mm、厚さ4.0mmで残存重は1.0gである。S29とともに金山産と判断している。2012年度調査II区南部の礫混じり包含層出土であるが、位置および出土土層名から流路2埋土出土と判断した。

S30は卵形の礫で、長さ67.5mm、幅48.0mm、厚さ43mm、重さ191.0gを計る。全面が平滑になっており、磨石・敲石と判断した。2013年度5区で第1層から出土した。S31は長さ141.0mm、幅66.7mm、厚さ56.5mmの長い形状で重さは703.5gである。S32は折損しており、残存長109.5mm、残存幅79.0mm、

残存厚 33.0 mmで、独鉛石の一部を彷彿とさせるような形状である。流紋岩製の可能性がある。S 33は花崗岩製の台石で一部欠失するが、残存重量は 5,920 g を測る。残存長 241.5 mm、残存幅 173.0 mm、厚さ 93.0 mmである。S 34は風化のため緑灰色を呈するが、二上山産のサヌカイトの可能性がある。台石片としたが、平滑な部分があり、砥石として使用された可能性もある。残存長 133.5 mm、残存幅 87.0 mm、残存厚 67.0 mm、残存重量は 780.4 g である。

(4) 溝 1

① 土 器 (図版 64、写真図版 165)

弥生時代中期

溝 1 からは 1734 ~ 1738 の 5 点が報告できた。いずれも小片である。

壺 1734・1735・1737・1738 の 4 点がある。ヘラ描き直線文を体部に施す 1738 は中期初頭で、体部に流水文を描く 1737 は中期前葉、広口壺の 1735 は中期前半である。広口壺で頸部に押圧文突帯を貼付する 1734 は中期中葉である。

甕 1736 は口縁端部を肥厚させ、端面に沈線状のものが認められる。中期後葉であろう。

(5) 溝 2

① 土 器 (図版 64、写真図版 165)

弥生時代中期

溝 2 では 1739・1740 の 2 点の土器を報告する。いずれも小片である。

壺 1739 は頸部外面に櫛描直線文を深く刻んでいる。中期前半のものであろう。

高坏 1740 は水平口縁高坏の口縁部片で、端部は下外方に曲げている。詳細時期は不明である。

(6) 井戸 1

① 土 器 (図版 65、写真図版 165)

井戸 1 から出土した土器のうち、1741 ~ 1745 の 5 点を報告する。

弥生時代中期

1745 は波状文と直線文を櫛描きする壺体部小片である。

弥生時代後期末～古墳時代前期

甕 2 点と壺底部および器台が出土している。いずれも破片である。

甕 1741 は山陰系の甕 E で、山陰系 A⁺ である。内面のヘラケズリ方向は左になっている。1742 は讃岐系 C で、口縁端部を肥厚させる甕 H とした。

底部 1743 は A 2 b α で、底部外面にケズリを加えている。

器台 1744 は北近畿系 A の器台 A 3 で、口縁部外面に擬回線を施している。

(7) 井戸 2

① 土 器 (図版 65、写真図版 165・166)

井戸 2 から出土し報告する土器は 1746 ~ 1752 の 7 点である。甕 1 点、甕底部 1 点、壺 3 点、蓋 1 点、

脚（裾）部 1 点がある。1749・1750 以外は小片である。

弥生時代後期末～古墳時代前期

壺 1746 は甕 B 2 で、時期的に古い要素を残すものである。

底部 1751 は A 1 a α で、突出しない平底である。底部外面にケズリを加えている。

壺 壺の可能性もある 1747・1748 は甕 B 1 で、ともに山陰系の可能性がある。埋土上面出土の 1749 は頭部～体部の破片で、内面が右方向のヘラケズリである。山陰系 B である。

蓋 1750 は比較的大きな破片で、推定外径が大きな蓋 E である。

脚（裾）部 1752 は高坏か器台の脚（裾）部 A 1 である。

（8）井戸 3

① 土 器（図版 65・66、写真図版 166～170）

井戸 3 出土で報告する土器は 1753 ～ 1798 の 46 点で、各器種があり、上面で出土した土器は遺存率が高いものがみられる。

弥生時代後期末～古墳時代前期

壺 壺は 1753 ～ 1774 の 22 点があり、最も多い。甕 A 1 には 1759 ～ 1761・1767 の 4 点があり、1759 は底部以外の復元完形品で、他は小片である。甕 D は 9 点と最も多く、庄内形播磨型甕で、端面が圓面や凹線を施す D 2 には、復元完形品の 1753 と、約半分の破片の 1756 および破片の 1765 がある。細筋タタキ成形で体部下間にハケを加えるもので、内面はヘラケズリで薄く仕上げている。口縁端面が丸みを帯びる D 3 には、1762・1763 がある。布留傾向甕の D 4 には、復元完形品の 1754 と、体部が布留形甕の形態を示し約半分残存する 1755 の 2 点がある。D 6 では 1764・1766 の 2 点認められる。山陰系の E は 1768 ～ 1770・1772 の 4 点で、山陰系 A に近い量の砂粒を含むことから山陰系 A' である。甕 B 1 では、上半部復元完形品の 1757 や、1758 があり、下層出土の 1757 は口縁部に弧状の打ち欠きがあることから釣瓶として使用されていたと推定している。籠目は確認できない。1771 は甕 C 1 で、北近畿系の可能性がある。上半部の大きな破片の 1773 は、吉備系の甕 G である。

井戸上面土器群は、その土器様相から流路 3 の新相と時期が重なると判断され、庄内期新相から布留期の初期にかけての時期である。また、井戸下層出土の 1757 は井戸 3 が機能していた時期を示すと思われ、1 点のみで判断するには躊躇されるが、弥生時代後期末から庄内期初期と推定している。

壺 1775 ～ 1777・1779 の 4 点がある。1775 は井戸上面出土の復元完形品で甕 E 2 である。1776・1777 は口縁部片で、甕 A 6 である。口縁部や胎土の特徴から、1776 は山陰系 A、1777 は備後系の可能性がある。1779 は甕 B 4 の口縁部小片である。

鉢 1780・1787・1788・1790・1791 の 5 点と大型鉢か壺の 1778 がある。半分以上残存する 1788 は鉢 A 2 b、上面出土で復元によるほぼ完形品の 1790 は鉢 B、1780 は鉢 A か鉢 B の口縁部である。1787 は鉢 C で、約半分残存の 1791 は鉢 E 1 で上面出土である。内外面に橙色スリップ塗布の可能性がある。

底部 壺や甕の底部 1781 ～ 1783 の 3 点を報告する。1782 は A 2 a α、1783 は A 2 a β 1 で、1781 は A 3 b α である。

高坏 1785・1789・1793 ～ 1796 の 6 点と、脚柱部の 1798 がある。1785 と、坏部の半分以上が残存する 1793 は A 5 a である。1794 は B の有段高杯で、内面中央に未貫通穿孔がある。台付鉢の可能性も残し、坏部がほぼ残存の 1789 と、1795 は D 1 とした。中層～下層出土で坏部がほぼ完存する 1796 は D 2 である。

器台 器台G 1 や器台G 2 の脚部である1797は、井戸上面出土で、残存部分が多い。

有孔鉢 1786の1点で、ほぼ丸底で平底のFである。孔は中心からややずれた位置に穿っている。

脚台部 1792の脚台Bが1点ある。最下層の礫間出土である。

不明品 1784は器種不明の下端部破片であるが、山陰型瓶形土器の可能性がある。

(2) 石製品 (図版71、写真図版184)

井戸3から出土し報告できた石製品は石杵S 35の1点である。

S 35はL形石杵と称されるものに近い三角形状を呈する。下端から1cm前後の上側に赤色顔料が水平に近い帯状に付着残存している。分析の結果ベンガラであるとの報告を得た。下端底面は掠られて平滑になっている。高さ160.5mm、幅137.0mm、厚さ80.0mmで重量は2,370g、石材は不明である。井戸3の土層觀察用畔内の下層から出土した。

(9) ピット

① 土器 (図版66、写真図版170)

ピット出土土器は1799～1802の4点が報告できた。いずれも小片である。

弥生時代後期末～古墳時代前期

甕 甕にはピット1の柱痕から出土した1799と、ピット5の柱痕から出土した1800がある。1799は山陰系の甕Eで、山陰系Aである。1800は甕C5で、北近畿系の可能性がある。

底部 甕の底部と思われる1801はピット5の掘形出土である。尖底のB2である。

高坏 1802はピット2の埋土から出土した坏部の小片である。類型不明であるが、内外面にベンガラを含んだ赤褐色のスリップが塗布されている。

(10) 溝3

① 土器 (図版67、写真図版170)

溝3からは1803・1804の2点が出土し、それらを報告する。いずれも小片である。

古墳時代後期

坏蓋 いずれも須恵器の坏蓋小片で、1803は天井部のヘラケズリ範囲が広く、口縁端部が凹面を呈することから、MT 15型式～TK 10型式で6世紀前半と思われる。1804は天井部下端の段と稜が鋭く、口縁端部が外側にひろがって、端面が凹面になることから、TK 47型式で5世紀末～6世紀初頭と判断できる。流路3出土土器よりも少し時期が降るものである。

(11) 包含層

包含層から出土した遺物のうち1818～1830の土器と、石器のS 36を報告する。主として遺構面検出時に出土したものである。

① 土器 (図版67、写真図版172・173)

包含層出土土器には弥生時代中期のものと、弥生時代後期末～古墳時代前期のものがある。

弥生時代中期

弥生時代中期に属するのは、1818～1826の9点である。1820は2012年度II区、その他はすべて

2013年度4区出土であることから、1820以外は流路1-1や溝1に関わる土器である可能性がある。

壺 1818～1821の4点が壺である。いずれも小片で逆L形口縁部のものである。1819は無文であるが、1818の外面部縁部下には5条の直線文、1820では櫛描直線文を上下2段にそれぞれ施し、如意形口縁との中間形態を示す1821では、1条以上の箆描直線文を施している。いずれも中期初頭の時期である。

壺 1822～1826の小片5点を報告する。1822・1823は肩部や体部に3条以上の突帯を横位に貼り付けるもので、1824の肩部には2重～3重の溝文形に突帯を貼り付けている。1822～1824の3点は中期初頭と判断されるが、1824は前期末に遡る可能性もある。

1825は、壺頭部の破片と推定しているが、5条以上の横位の突帯に縦位の棒状浮文を貼付するもので、横位突帯の一部分には縦位の短い突帯が複数残存している。中期前半の可能性がある。

1826は肩部片で、櫛描波状文と廉状文を施している。中期中葉と思われる。

弥生時代後期末～古墳時代前期

弥生時代後期末～古墳時代前期に属するのは、1827～1830の4点である。

壺 1827・1830がある。1827は広口壺のD2で、口縁端面に擬凹線状の凹線を施す。2012年度II区出土である。1830は壺C2で、北近畿系Aの可能性がある。2013年度5区出土であることから流路2に関わる土器であろう。

壺 1828・1829の2点である。1828は2013年度1区出土で、壺A1である。1829は壺B1の破片で、2013年度4区出土である。

3. I・II区共通

(1) 瓦粘土採掘壙（攪乱）

瓦粘土採掘壙および攪乱からは1831～1846・1848～1857の土器、1858～1862の陶器・磁器、1847・1863～1874の瓦、石器・石製品が出土した。

① 土 器（図版67、写真図版173～175）

弥生時代中期

1849の有孔鉢片がある。底面中央からややずれた位置に穿孔している。中期前半のものである。

弥生時代後期末～古墳時代前期

1831～1845・1848・1850～1854の21点の土器が出土した。

壺 1831～1835の5点がある。1831は壺A1であるが、壺の可能性もある。1832は壺B1である。1833は受口状の口縁部でC7である。1834は讃岐系の壺Fで、口縁部の凹凸も含めて讃岐系Aである。1835も壺Fで、讃岐系Aの西川津B類である。

壺 1836・1841・1844・1848・1853の5点である。1853は壺A1で、山陰系Aである。1836・1848は壺A3である。1836の口縁部外面には、3個1単位の竹管文を間隔をあけて複数個所に施している。1848は口縁端部の破片である。端部外面には櫛描波状文を施しているが、波状文は上下半円ずつ繰り返して組紐文か弧帶文のように描いている。端部上端には刻目も加えている。1841は壺A4である。1844は壺E4としたが、器台である可能性も残す。

高坏 1840・1842・1843・1852・1854の5点と脚部の1845がある。1840は高坏A4としたが、壺や

器台の可能性もある。口縁端部内外面に櫛描波状文を施し、端部上端には刻目があるようにもみえる。坏上部外面下端には2個一対の竹管円形浮文を貼付し、稜部分に斜め方向の刻目を施しているようである。1842・1843は高坏A 3 bで、壺が器台の可能性もある1843では、坏部外面稜部分に刻目を斜め方向に施している。1852は讃岐系Aの高坏で、後期前半の可能性もある。坏上部が欠失していることから、分類不明である。1854は脚部に透孔があることから小型の高坏と判断した。手捏ね成形で坏部は塊形である。1845は中空の脚柱部で、下端に2条の沈線を施している。

鉢 1838は鉢Aか鉢Bの口縁部で、タタキ成形である。

底部 壁底部A 1 a αの1839が1点認められる。

有孔鉢 1850の有孔鉢Bが1点である。底部内面に未貫通の孔が存在している。失敗孔と思われる。

製塩土器 脚台部の1851がある。つくりはやや丁寧だが、二次被熱が認められることから製塩土器と判断した。

器台 器台または壺と思われる口縁部小片の1837がある。外面には櫛描波状文を施している。

古墳時代後期

韓式系軟質土器1点と須恵器が3点出土している。

韓式系土器 1846は甕の底部付近の破片で、軟質土器である。外面には格子タタキ目が残る。古墳時代中期後半から後期の可能性がある。

須恵器 1855～1857のうち、1857は鉢形器台の鉢底部から脚部にかけての破片である。筒部に透孔の上部が半円形で残存している。外面に突帯も認められる。古墳時代中期の可能性も残る。1855は坏身の破片で、たちあがり部上端は凹面を呈し、ヘラケゼリ範囲も広いことからTK 47型式期と思われるが、口径が大きいことから少し時期が降るかもしれない。1856は無蓋高杯の坏部小片で、外面に突帯と段が認められるが、櫛描文様は観察できない。6世紀前葉のMT 15型式期の可能性がある。

(2) 陶器・磁器（写真図版175）

1858～1862の5点が出土した。

中世

青磁 1858は細蓮弁文碗の小片である。外面に細線と劍頭を意識した細蓮弁文を描いている。上田秀夫氏分類（上田秀夫 1982）のB IV類で、16世紀の時期が与えられる。

近世～近代

無釉陶器 1859・1860は陶器製の捕鉢で、明石焼の可能性もある。口縁部を拡張し、外面に沈線を施す。内面の捕目は櫛で密に施し、底内面の捕目は三角形状に施す。両者ともに注口部分が認められる。

施釉陶器 1862は肥前系陶器で、いわゆる刷毛目唐津の鉢片である。内外面は褐色の釉で、外面には白釉で4条の直線を描き、内面には白釉をハケで塗っている。

磁器 1861は肥前系の染付碗である。外面には菊花文と、折松葉と思われる文様があり、下部には圓線を描く。内面見込み部の釉は搔き取っている。波佐見産であろう。

③ 瓦（写真図版 174・176～178）

瓦は 1847・1863～1874 があり、すべて焼瓦である。

近世～近代

軒丸瓦 1847・1868～1871 の 5 点が軒丸瓦である。すべて巴文・珠文が表出され、無文で帯状の周縁になるものである。左巴と右巴があり、1868 は遺存部分が最も大きく、丸瓦の一部分まで残存している。右三つ巴といわれる巴文で、周間に 14 個の珠文を配する。文様の種類はすべて同じであるが、1868 と同じ右巴と呼称されるものは 1847 で、他の 1869～1871 は左巴になっている。1871 は焼しが不十分で褐色に近い。珠文は比較的小さいものである。

軒平瓦 軒平瓦は 1863～1867 の 5 点がある。1863 は一部分を欠失するのみであるが、他の 4 点は瓦当部分の破片で、すべて唐草文である。ただし、同じ文様のものは認められない。1863 は最大幅 25.5 cm、長さ 27.25 cm である。唐草文の範囲は瓦当中央部分の約 14.5 cm の長さで、中心飾は五葉の花である。他の 4 点ではそれぞれの瓦の幅が不明であるが、瓦当幅に対する唐草文の範囲が最も多くの割合を占めるものは 1864 で、最も低い割合のものは 1867 である。

五十唐草瓦 1872 は棟瓦の軒瓦である。丸瓦に相当する棟の軒部分には左巴文と無文周縁帯が付き、平瓦部分の軒は確認できないが、唐草文の可能性がある。

平瓦 1873 は 4 分の 1 程度を欠失する平瓦で、幅 24.7 cm、長さ 26.0 cm である。凸面は焼しが不十分で褐色を呈している。

棟瓦 1874 は多くの部分を欠失する棟瓦片で、幅は 26.8 cm である。

④ 石器・石製品（図版 71、写真図版 185）

瓦粘土採掘廃などから出土し報告できた石器はサヌカイト製石鉄 S 37・S 38、石製品には砥石片 S 39 がある。

石鉄 S 37 は平基の完形品である。長さ 27.5 mm、幅 16.5 mm、厚さ 5.0 mm、重さは 1.9 g を計る。未成品の S 38 は長さ 25.5 mm、幅 14.0 mm、厚さ 3.5 mm で、重さは 1.4 g である。ともに金山産と判断しており、I 区北端の擾乱から出土した。

砥石片 S 39 は 3 面の底面が残存しており、残存長 21.0 mm、残存幅 42.0 mm、残存厚 29.5 mm、重さは 23.4 g を計る。凝灰質砂岩か砂岩製と思われる。II 区の瓦粘土採掘廃埋土から出土した。

(2) 表面採集

① 土器（図版 67、写真図版 174・175）

1875・1876 の 2 点がある。どちらも 2013 年度 II 区北部での採集品である。

弥生時代後期末～古墳時代前期

高坏 1875 は高坏 D と思われる脚部である。透孔は観察できない。

底部 1876 は壺底部で、A 2 b β 1 の突出する底部でドーナツ状上げ底であるが、中央の窪みは小さい。

第4章 自然科学分析結果

第1節 鵜遺跡出土土器・石製品の赤色顔料分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

鵜遺跡は掛保郡太子町鵜に所在する。発掘調査において、赤色物の付着する土器および石製品が出土した。ここでは、付着する赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討する。

2. 試 料

分析対象は、鵜遺跡より出土した弥生土器、土師器、石片に付着する赤色顔料8点である（第2表）。

分析試料は、それぞれの遺物の赤色部の付着物をセロハンテープに貼り付けて採取した後、実体顕微鏡下で赤色物を確認の上、極微量を抽出した。

第2表 分析対象となる赤色顔料付着遺物

分析 No.	報告 番号	種別	器種	法量(cm, g)			残存			調査 番号	出土 地区	出土 遺構	層位	備考	
				口径	器高	底径	重数	口縁	脚						
1	1282	弥生土器 ～土師器	器台 脚部	—	(3.65)	—	—	—	2/5	2012146	I区 南部	流路3 1・2区	II-2層		
2	332	弥生土器	甌 B 2	(16.4)	(3.25)	—	—	1/8	—	2012146	I区	流路3 5区	IV-5層		
3	317	弥生土器	器台 D	(24.3)	(26.6)	(31.0)	—	1/5	1/4	2012146	I区	流路3 5区	IV-6層		
4	1802	弥生土器 ～土師器	高坏	(16.6)	(3.2)	—	—	1/15	—	2012146	II区 南部	ピット2	埋土	クリーニング	
5	1730	弥生土器 ～土師器	高坏 脚部	—	(5.8)	—	—	—	脚住部	2013112	II区	流路2	第1層	コンクリートよ り北側・石あり	
6	1720	弥生土器 ～土師器	高坏 脚部	—	(8.0)	—	—	—	—	2013112	II区	流路2	第1層	コンクリートよ り北側	
7	1731	弥生土器 ～土師器	高坏 脚部	—	(3.7)	—	—	—	脚部 1/8	2013112	II区	流路2	第1層	セクション除 去・石あり	
8	S35	石製品	石片	—	—	—	2,370	—	—	完形	2012146	II区	井戸3 セクション	下層	ベンガラ精製用 石片

3. 方 法

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、0.82～1.00mA（自動設定による）、ビーム径100μm、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

4. 結 果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を第2図に示す。

分析の結果、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、

チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe) 等が検出された。

生物顕微鏡観察により得られた画像を第3図に示す。赤色パイプ状の粒子は、いずれも観察されなかつた。

5. 考 察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱（水銀朱）とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀 (HgS) で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄 (Fe_2O_3)、鉱物名は赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（III）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬、2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約 $1\ \mu m$ のパイプ状の粒子形状からなるものが多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており（岡田、1997）、鉄バクテリア起源の含水硫酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬、1998）。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

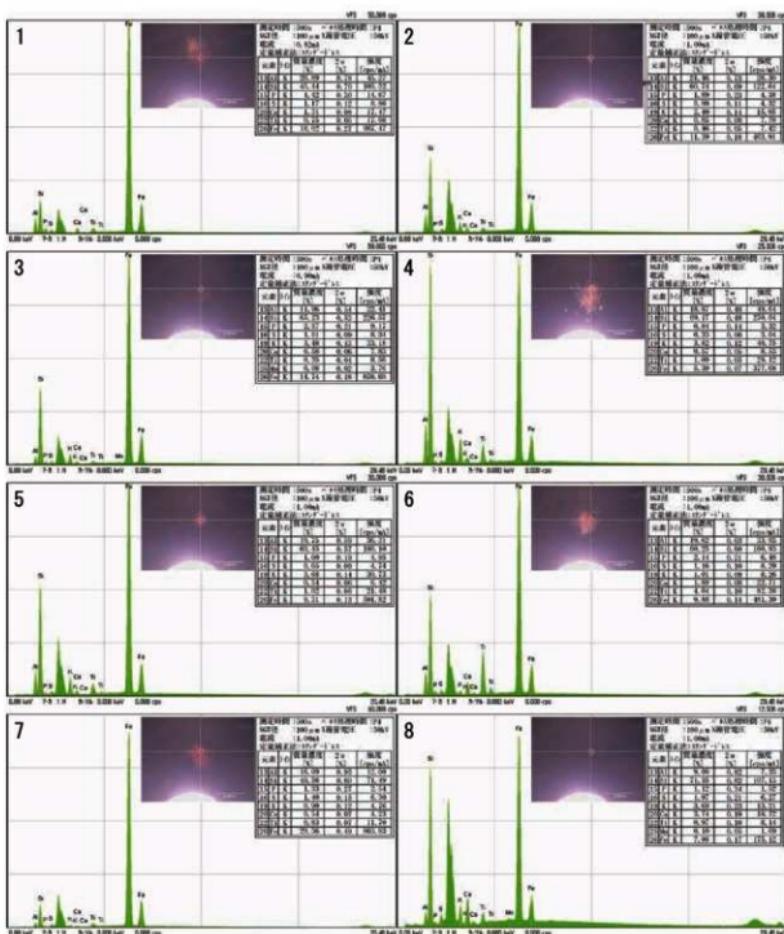
今回分析した試料からは、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかつた。一方で鉄が検出されているため、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。パイプ状粒子は観察されず、いわゆるパイプ状ベンガラではなかつた（第3図）。

6. まとめ

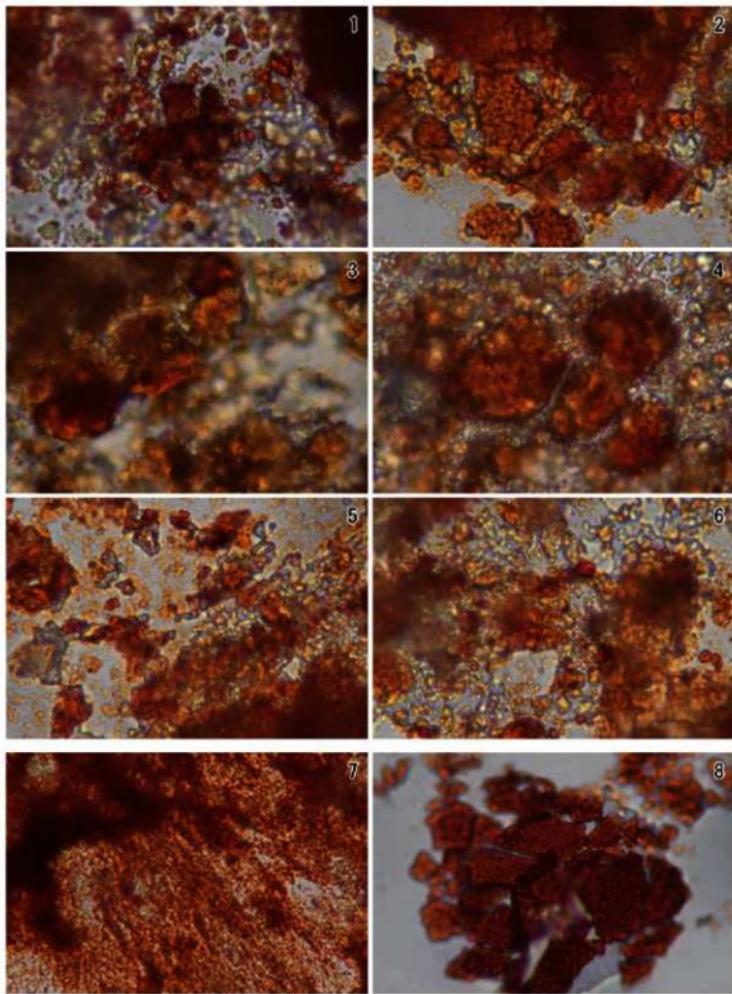
土器および石製品に付着する赤色顔料を分析した結果、8点いずれも鉄（III）による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。

引用文献

- 成瀬正和（1998）讃文時代の赤色顔料I—赤彩土器—、考古学ジャーナル、438、10-14。
- 成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料、正倉院紀要、26、13-61。
- 岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元、日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集、38-39。



第2図 赤色顔料の蛍光X線分析結果（左上数字は分析%）



第3図 赤色顔料の生物顕微鏡写真 (右上数字は分析No.、スケール: 10 μ m)

第5章 総 括

第1節 出土遺物のまとめ

1. 弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器分類

今回の調査の結果、流路3をはじめとして非常に多量の土器が出土したことから、器種・型式分類をおこなって、型式ごとの特徴を述べることとし、個別の詳細は観察表にゆずる。

なお、出土した土器の大半が破片や小片であるため、口縁部の特徴を基準として分類したものがほとんどであることをお断りしておきたい。

土器の器種分類および特徴

甕（第4図～第6図）

甕A…体部から「く」字状に外上方にのびる口縁部をもつもので、口縁端部は概ね丸くおさめるものである。直線的にのびるものと外反気味のものがある。体部外面はタタキまたはタタキの後にハケを重ねるものがある。体部内面はヘラケズリするものと、ハケやナデのものがある。

甕A 1…口縁端部は単純に丸くおさめるものである。

甕A 1には、208・239～241・334・336～338・421・422・560～562・564～570・796・797・885・886・931～933・1005～1013・1016・1019・1314～1318・1435・1541～1545・1565・1647・1648・1650・1651・1759～1761・1767・1828・1831の60点がある。

甕A 2…端部を外上方につまみ上げたように先端が尖り気味のものである。北近畿系と想定されるものがある。

甕A 2には、246・247・415・526～529・531・532・536・798・799・1021～1023の15点がある。

甕A 3…口縁部外面中央が少し張り出し、波打つようになったものである。口縁端部は単純に丸くおさめるものである。

甕A 3には、209・210・255・556・814・1004・1014・1015の8点がある。

甕A 4…主として口縁部内面側から端部に向かって厚さを減じるもので、口縁部先端は尖り気味になっているものである。北近畿系と想定されるものがある。

甕A 4には、1017・1018・1059・1061・1552・1649・1652の7点がある。

甕A 5…口縁端部を上方に緩く曲げるものである。

甕A 5には、557・558の2点がある。

甕B…体部から「く」字状に開く口縁部で、口縁端部に面をもつものである。

甕B 1…口縁部がのびる方向に対して口縁端部が直角の面となるものである。

甕B 1には188・238・335・411・418・515・521・571・795・929・930・996～998・1306・1309・1310・1546・1547・1549・1550・1662・1757・1758・1829・1832の26点がある。

甕B 2…口縁端面に面をもち、主として端面を上下に拡張するもので、弥生後期前半の形態を残すものである。大きく拡張して凹線や擬凹線を施すものや、拡張が小さいものは凹面となるものが多い。

甕B 2には、186・189・235・236・332・410・414・509・512・513・523・928・938・994・1000・1311～1313・1746の19点がある。

甕B 3…口縁端面やその付近のみ下方に拡張するものである。

甕B 3には、242～245・511・514・517・518・884・995・1305・1551・1663の13点がある。

甕B 4…口縁端面がヨコナデにより上端がつまみあげられたようになり、端面が凹面となっているものである。

甕B 4には、187・237・413・416・516・524・525・800・805・999・1304の11点がある。

甕B 5…口縁端面が垂直面となって、端部の断面が三角形状を呈するものである。

甕B 5には、204・412・519・520・522・559・1001・1003・1308・1653の10点がある。

甕B 6…口縁端部を上方に拡張し主として端面に凹線や擬凹線を施すものである。北近畿系のものや、北近畿系と想定されるものがある。

甕B 6には、173・174・891・939・1303の5点があるが、939は時期が遅る可能性がある。

甕B 7…口縁端部を跳ね上げるように上方に拡張し、端面が外反するものである。端面に凹線や擬凹線を施すものがある。北近畿系と想定されるものが多くを占める。

甕B 7には、248・333・339・533～535・807・1002の8点がある。

甕C…北近畿系の有段口縁部をもつものである。北近畿に多く認められるものを北近畿系Aとし、北近畿系と想定されるものを北近畿系Bとする。ただし、甕C 9は北近畿系とは異なるようである。

甕C 1…口縁部上半が外上方に外反しながら、あるいは外反気味に長くのびるもので、口縁部上半の長さは、概ね口縁部長の2分の1以上のものである。

甕C 1には、206・253・254・340・399・402～404・552・554・555・810・811・813・815・893・1058・1326・1345・1668・1771の21点がある。1668・1771は北近畿系Bで、それら以外は北近畿系Aである。

多賀茂治氏による兵庫丹波地域編年（多賀茂治 2000）のVI-1新段階で、弥生終末期に位置付けられている形態である。

甕C 2…口縁部上半が外反気味にのびるもので、口縁部上半の長さは概ね2分の1弱のものである。口縁部屈曲部の稜はやや鋭い。

甕C 2には、207・250・400・544・550・551・808・809・821・940・1053・1327・1656の13点がある。544と821が吉備系の可能性がある以外はすべて北近畿系Aである。

1656は七日市遺跡S B 27に類似し、多賀編年（多賀茂治 2000）のVI-1古段階に位置付けされ、弥生時代末とされている。

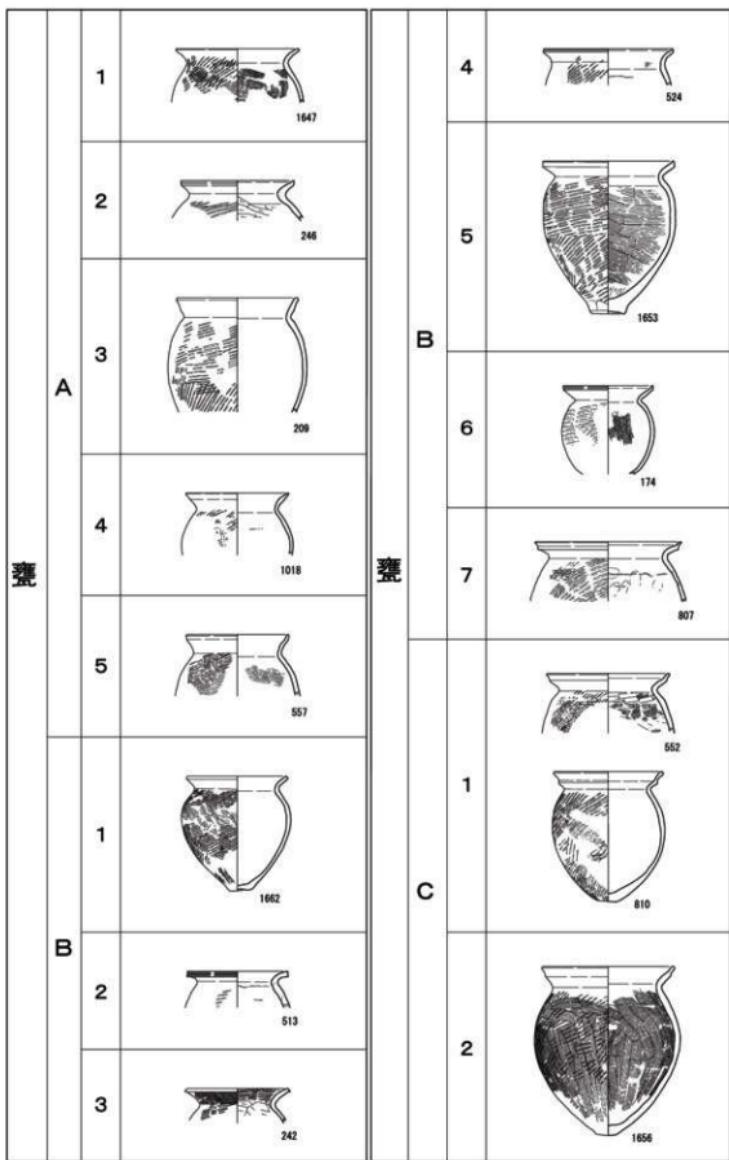
甕C 3…口縁部上半が外反気味に短くのびるものである。

甕C 3には、251・252・396・512・543・548・553・802・804・806・892・941・1050・1051・1055・1325・1328・1657の18点がある。1325・1328が北近畿系Bで、その他はすべて北近畿系Aである。

多賀編年（多賀茂治 2000）のVI-1古段階にあたり、弥生終末期に位置付けられている。

甕C 4…屈曲部の稜が鋭く、口縁部上半が外反し、口縁先端は尖り気味になるものである。

甕C 4には、397・398・545～547・549・577・812・1045・1052・1054・1056・1057・1329・



第4図 出土土器の分類（壺①）

の14点がある。1045・1052・1057は北近畿系Bで、その他はすべて北近畿系Aである。

壺C 5…口縁端部上部が薄くなり、短くのびるものである。

壺C 5には、205・249・395・537～541・801・803・1049・1322～1324・1449・1654・1655・1658・1800の19点がある。1049・1449・1658・1800は北近畿系Bで、その他のうち不明な539以外はすべて北近畿系Aである。

壺C 6…口縁部を大きく上部にひきのばし、外面に凹線や擬凹線を加えるものである。

壺C 6には、258・572・1063の3点がある。3点とも北近畿系Aである。

572は多賀編年（多賀茂治2000）のVI-1古段階に相当する。

壺C 7…受口状の口縁部を有するものである。北近畿系の可能性がある形態のものも含んでいる。

壺C 7には、256・393・394・417・1046～1048・1060・1319～1321・1833の12点がある。
256・394・1048・1320・1321は北近畿系Bである。

壺C 8…口縁部下面が少し屈曲し、その部分に凹線や擬凹線を施すものである。北近畿系Bと判断したものである。

壺C 8には、341・563・816の3点がある。

壺C 9…体部から屈曲するように外上方にのびる口縁部で、内湾して上方にのびるものである。
北近畿系とは異なるものと思われる。

壺C 9には、573・1064の2点がある。

壺D…庄内形～布留形の壺である。

壺D 1…庄内形播磨型壺である。上方につまみ上げた端面には凹線を施さないものである。流路3での出土層は、新相とした上層部分に多い。

壺D 1には、419・887・935・1028・1307・1660の6点がある。

壺D 2…庄内形播磨型壺である。上方につまみ上げた端面に凹線を施すものや、凹面にするものである。流路3での出土層は、新相とした上層部分に限られ、井戸3と流路2からも出土している。

壺D 2には、1024・1027・1029～1031・1033・1043・1044・1661・1753・1756・1765の12点がある。

壺D 3…つまみ上げた端部がわずかに内上方に向き、口縁端面が丸みを帯びるもので、庄内形播磨型壺に近い形態のものである。流路3での出土層は、新相とした上層部分に多く認められる。流路1-2・流路2・井戸3からも出土している。

壺D 3には、420・888・934・936・1026・1553・1659・1762・1763の9点がある。

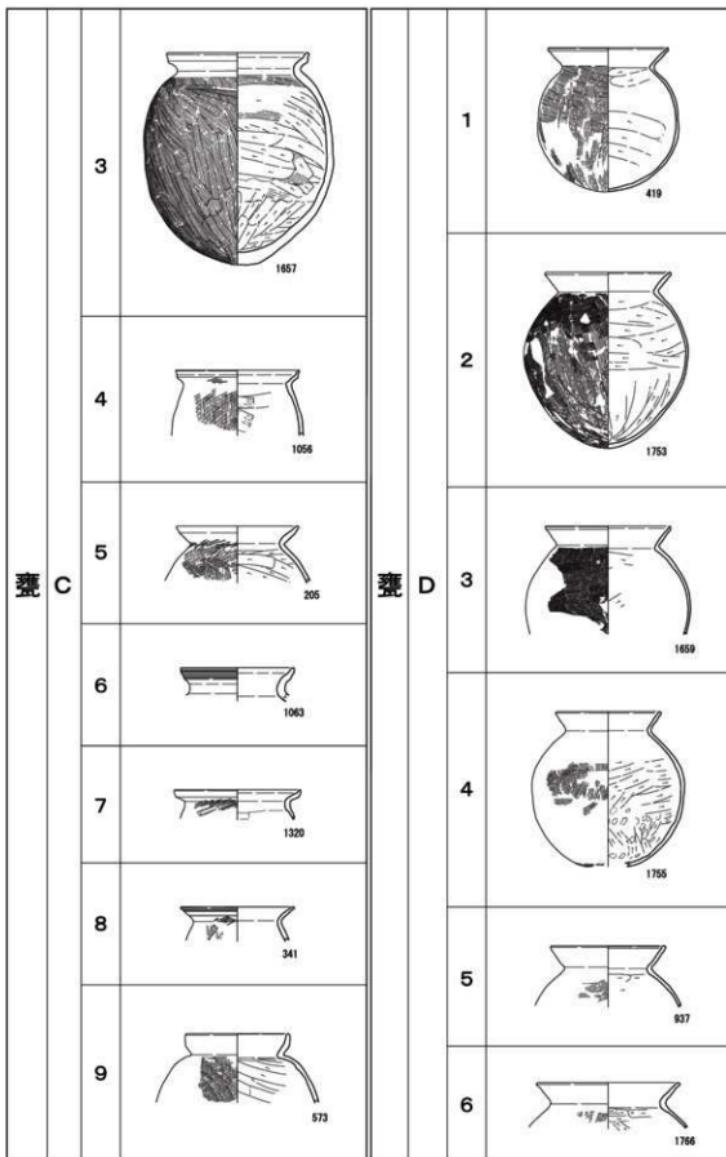
壺D 4…布留傾向壺である。端部内側を内上方につまみだし、端部に面をもつものである。流路3での出土層は、新相とした上層部分がほとんどであり、井戸3からも出土している。

壺D 4には、889・1032・1034～1038・1754・1755の9点がある。

壺D 5…布留形壺である。口縁部が内湾し、口縁端部内側を丸めて玉縁状にするもので、上端部に内傾する面をもつ。流路3での出土層は、新相とした上層部分が大半である。

壺D 5には、890・937・1039～1042・1334・1548の8点がある。

壺D 6…庄内形に近い口縁部であるが、端部をひきのばさないものである。井戸3出土分が3点中2点である。



第5図 出土土器の分類（壺②）

甕D 6には、1025・1764・1766 の3点がある。

甕E…山陰系の複合口縁甕である。多くの遺構から出土している。流路3では新相とした上層部分から多くが出土している。肩部内面のヘラケズリ方向は殆どが右方向である。

甕Eには、324～331・405～409・822・894・942～945・1065～1089・1333・1448・1532～1540・1666・1667・1741・1768～1770・1772・1799 の63点と、可能性が高い体部片1164 がある。

胎土に細かい砂粒を非常に多く含むもの（山陰系A）と、そうでないもの（山陰系A'）の2種があり、前者は324～331・405～409・822・894・942・943・945・1065～1072・1074・1076・1077・1080・1081・1083～1089・1333・1534・1535・1538・1666・1799 の44点で、多くを占める。

甕F…讃岐系・東四国系の甕である。流路3以外には流路1-2・流路2からも出土している。

甕Fには、425・574～576・817～820・1090～1095・1330・1331・1554・1664・1665・1834・1835 の21点がある。

讃岐系・東四国系の土器については、色調をはじめ角閃石・金雲母が含まれる量や形態により、「讃岐系A」・「讃岐系A'」・「讃岐系B」・「讃岐系C」・「讃岐系D」・「東四国系」の6種類に分けることができた。

「讃岐系A」は、下川津B類（大久保徹也 1990）と同様の形態で角閃石を多く含むものである。

讃岐系Aの甕Fには、425・575・576・818～820・1090・1091・1095・1330・1331・1554・1665・1834・1835 の15点が認められる。

「讃岐系A'」は、下川津B類と同様の形態であるが、角閃石を少量含み、金雲母を多量もしくは少量含むものである。

讃岐系A'の甕Fには、817・1094 の2点がある。

「讃岐系B」は、讃岐系の色調を呈し、角閃石等を含むが、下川津B類とは形態が異なるものである。ただし、甕Fには讃岐系Bは認められない。

「讃岐系C」は、讃岐系の色調であるが、角閃石・金雲母をほとんど含まないものの、東四国系の形態のものである。

讃岐系Cの甕Fには574・1092・1093 の3点がある。

「讃岐系D」は、讃岐系の色調を呈するのみで東四国系の形態かどうか不明なものである。

讃岐系Dは甕Fには認められない。

「東四国系」は、東四国系の形態を呈するものである。

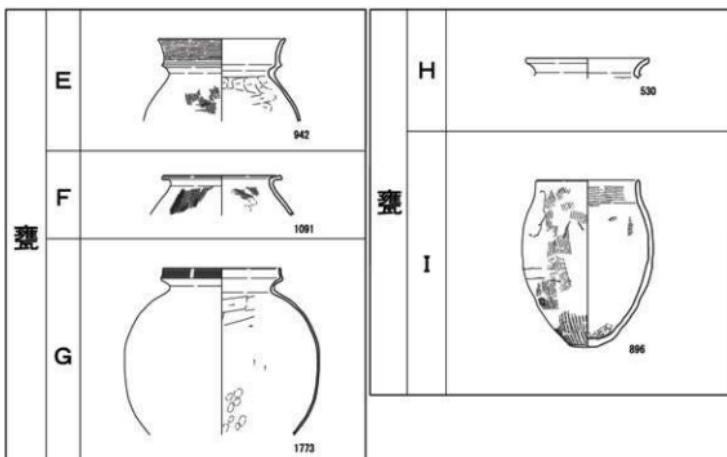
東四国系の甕Fには1664 がある。

甕G…吉備系の甕で、折り曲げた口縁部の外間に櫛描文を施すものが大半である。流路3以外に井戸3からも出土している。

甕Gには、257・401・423・424・578・895・1096～1102・1773 の14点があるが、257・401は吉備系かどうか不明である。また、423・424・895は讃岐系の胎土と思われる。

甕H…口縁端部を下方に肥厚・拡張するものである。

甕Hには、530・1742 の2点があり、1742は讃岐系Cである。



第6図 出土土器の分類（壺③）

壺 I …口縁部が外反せず直口のものである。

壺 I には、896・1020・1450 の 3 点がある。

壺体部…壺体部で、口縁部を欠失するものである。

壺体部には、823・824・1103・1104・1555・1556・1774 の 7 点がある。1556 は丸底で、1774 は讃岐系 C の可能性がある。

壺（第7図・第8図）

壺 A …複合（二重）口縁壺

壺 A 1 …外上方に長くのびる口縁部で、山陰系のものである。胎土に微細砂粒を多く含むことから山陰系 A である。1853 以外は流路 3 出土である。

壺 A 1 には、342・343・437・1108・1109・1111・1112・1853 の 8 点がある。

壺 A 1' …壺 A 1 の口縁部に似た形態で、胎土に微細砂粒を含まないものを A 1' とした。他地域系のものを含んでいる。1564 以外は流路 3 出土である。

壺 A 1' には、436・950・1105・1110・1115・1338 の 6 点があり、残存状況が悪い 1564 も含めておく。1110 は讃岐系 B で高坏の可能性もある。また、口縁部が開かない 1105 は山陰系かもしれない。

壺 A 2 …外反する口縁端部の器厚を薄くして段状に仕上げるものである。壺 C 5 の口縁端部と同じ技法である。北近畿系と推定しており、有段口縁と呼ぶべきかもしれない。

壺 A 2 には、275・438・581・582・583・949・1113 の 7 点がある。すべて北近畿系 B で、流路 3 出土である。

壺 A 3 …屈曲部の器壁が厚いもので、口縁部外面を文様帶とするものが大半である。流路 3 以外に流路 1-2・流路 2 などからも出土している。

壺A 3には、192・274・435・579・584・1106・1107・1117・1118・1159・1160・1336・1337・1339・1431・1433・1558・1673・1836・1848の20点がある。435は讃岐系Bである。

壺A 4…口縁部の屈曲がにぶいもので、口縁端部を単純に丸くおさめるものである。流路3・流路1-2・流路2などから出土している。

壺A 4には、1116・1557・1672・1841の4点がある。

壺A 5…口縁部の屈曲が緩く、口縁部が大きく外側に開くものである。流路3・流路2出土である。壺A 5には、1340・1671の2点がある。

壺A 6…口縁部が内傾するものである。他地域系のものが含まれる。流路3と井戸3出土である。

壺A 6には、587・1332・1776・1777の4点がある。587は西部瀬戸内系、1332・1776は山陰系A、1777は備後系と推定している。

壺A 7…大型壺である。他地域系のものが含まれる。すべて流路3出土である。

壺A 7には、1120・1341・1430の3点がある。1120・1430は讃岐系Aである。

壺B…二重（有段）口縁壺で、上部が壺Aと比較して短いものである。

壺B 1…口縁部が短いものである。屈曲部が鈍いものが大半で、口縁部外面に凹線・擬凹線を施すもので、北近畿系の特徴を示すものが多い。流路3と井戸2から出土している。

壺B 1には、272・345・441・901・1137・1747・1748の7点がある。1747・1748は山陰系C、その他は北近畿系Aである。

壺B 2…口縁部が短く、屈曲部の稜が鋭いもので、壺C 4と同じような口縁形態である。すべて流路3出土である。北近畿系の形態である。

壺B 2には、344・347・592・954・1135・1136・1138の7点がある。954が北近畿系Bで、344・592以外は北近畿系Aである。

壺B 3…口縁部が短く直立するものである。瀬戸内～東四国系の形態を示すものと思われる。すべて流路3出土である。

壺B 3には、346・591・596・597・953の5点がある。596・597・953は東四国系と判断した。346は西部瀬戸内系かもしれない。

壺B 4…屈曲部がきわめて鈍く、外上方に長くのびる口縁部である。1675は流路2、1779は井戸3出土で、その他は流路3出土である。北近畿系が多い。

壺B 4には、586・588・589・952・1344の4点で、1675・1779の2点も含めておく。同一個体の588・589と952・1344は北近畿系Aで、1675は山陰系の可能性がある。

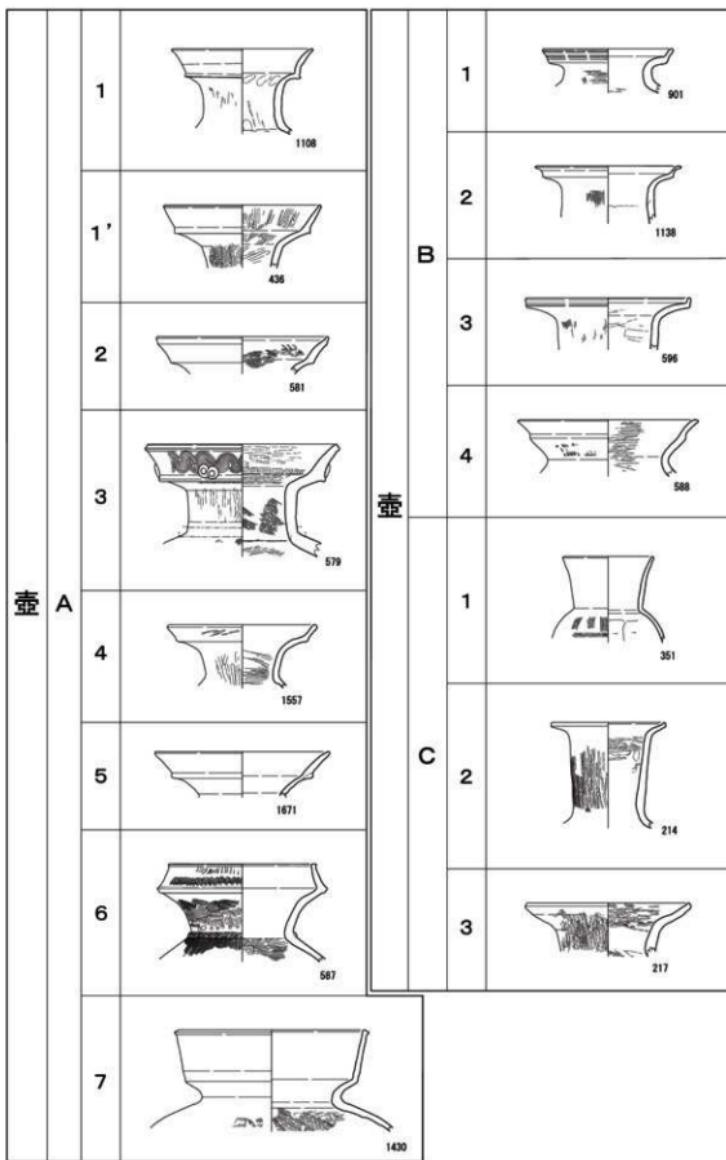
壺C…長頸壺である。

壺C 1…口縁が直口するものである。すべて流路3出土である。

壺C 1には、175・277・351・613・614・1140の6点がある。1140は頸基部突帯を有する形態から、山陰系Bと判断した。

壺C 2…口縁端部付近を短く外傾・外反させるものである。讃岐系・東四国系が含まれる。流路3出土ではほぼ占められ、流路2と包含層からも出土している。

壺C 2には、214～216・353・430・439・440・593～595・827・828・902・946・1132・1346・1676・1830の18点がある。353・902は讃岐系A、216は讃岐系C、439・440は東四国系である。1830は北近畿系Bである。



第7図 出土土器の分類（壺①）

壺C 3…口縁部が長く、大きく外傾または外反するものである。すべて流路3出土である。

壺C 3には、212・217・1062の3点がある。

壺D…広口壺である。

壺D 1…端部を拡張し、端面に回線文等の文様を施すものである。器台の可能性があるものも含んでいる。殆どが流路3出土で、流路2出土が2点である。

壺D 1には、259・261・427・428・444・585・598・599・601・602・604・825・898・900・1122・1123・1125・1157・1335・1669・1670の21点がある。601・602は北近畿系Bである。

壺D 2…端部は拡張しないか拡張してもわずかなものである。東四国系のものが一部含まれる。すべて流路3出土である。

壺D 2には、264・266～268・431・607・608・769・899・927・948・955・1126～1129・1139・1142・1562・1563・1678・1827の22点がある。266・267は同一個体の可能性が高く、948は769・927と同一個体の可能性がある。1563は讃岐系A[▲]、955・1129は讃岐系C、1562・1678は東四国系である。

壺D 3…口縁端部が受口状になるものである。北近畿系が目立つ。大半が流路3出土で、流路1-2からも少量出土している。

壺D 3には、191・429・605・606・947・956・1131・1133・1134・1146・1432・1560・1561の13点がある。191・605・606・947・956・1134が北近畿系A、1432・1560が北近畿系Bである。

壺D 4…頸部が短く端部を拡張するものである。すべて流路3出土である。

壺D 4には、211・260・262・600・603・826・1124の7点がある。

壺D 5…頸部が短いもので、口縁端部の拡張が僅かか、または拡張しないものである。すべて流路3出土である。

壺D 5には、190・213・263・265・349・387・433・434・609・1130・1347の11点がある。

壺E…口縁部があまり開かないものを基本とする。

壺E 1…口縁があまり開かないもので、口縁端部形状にバラエティーが多いものである。北近畿系のものが多く含まれる。すべて流路3出土である。

壺E 1には、269・271・273・350・388・615・830・1145の8点がある。269・273・830が北近畿系A、350が北近畿系Bで、1145は讃岐系A[▲]である。

壺E 2…直口に近い口縁部で、直線的に長くのびるものである。井戸3から1点、他は流路3から出土している。

壺E 2には、432・903・1141・1143・1144・1147・1150・1775の8点がある。

壺E 3…口縁端部付近で内湾するものである。すべて流路3出土である。

壺E 3には、270・348・590の3点がある。

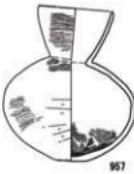
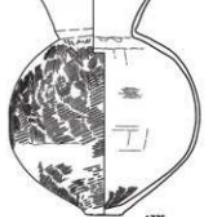
壺E 4…E 2に近いが筒状の頸部を有すると思われるものである。擾乱出土である。

壺E 4には、1844の1点がある。器台の可能性も残す。

壺F…大型の直口壺である。すべて流路3から出土している。

壺Fには、610・829・1119の3点がある。

壺G…口縁が内傾してすぼまる形態のものである。流路3出土である。

		1			3		
		2			4		
D		3			F		
		4			G		
壺		5		H			
	E	1		I	1		
	E	2			2		

第8図 出土土器の分類（壺②）

壺Gには、443・1155の2点がある。

壺H…直口壺で、丸底と思われるものである。流路1-2・流路2から3点出土し、他は流路3出土である。流路3では新相の上層出土が多くを占める。

壺Iには、352・611・612・957・1148・1149・1151・1348・1567・1677の10点に1568を含めた11点がある。

壺I…丸底壺である。

壺I 1…中型の丸底壺である。体部径12cm～15cm程度で、流路3と流路1-2から出土している。

壺I 1には、1434・1566の2点がある。

壺I 2…小型丸底壺である。口縁部が長いものと短いものがあるが、一括した。流路2から1点出土し、他はすべて流路3出土である。

壺I 2には、354・832・1152～1154・1281・1679の7点がある。1152は吉備系の可能性があり、1281は東四国系である。

不明口頭部…口縁端部ないし口縁下部が不明で、分類できなかったものである。

不明口頭部には、442・1114・1121・1342・1343・1351・1352・1559・1674の9点がある。

1351・1352は同一個体の可能性があり、1674とともに器台の可能性がある。

体部…体部で、口縁部が不明なものである。

体部には、177・616・831・1162・1749の5点があり、ほかに肩部破片の276・358・448・

618・1165・1569の6点がある。頭部片では183・357・445・446・620・1625の6点、口

縁部の951、いわゆるミニチュアの1156・1349がある。1749は山陰系Bで、1569は山陰系Aである。446は器台の可能性がある。

鉢（第9図・第10図）

鉢A…口縁部が直線的ないし内湾気味のものである。

鉢A 1…口径が17cm以上の大型である。

鉢A 1 a…小さな平底を有するものである。

鉢A 1 aには、626の1点がある。流路3出土である。

鉢A 1 b…大きな平底を有するものである。

鉢A 1 bには、1181の1点がある。流路3出土で、讃岐系Bである。

鉢A 1 c…上げ底状の底部を有するものである。

鉢A 1 cには、451の1点がある。流路3出土である。

鉢A 1や鉢Cの口縁部…鉢A 1や鉢Cの口縁部と判断されるものである。

鉢A 1や鉢Cの口縁部には、283・284・457・624・625・628・630・834・

905・1180の10点がある。すべて流路3出土である。

鉢A 2…口径10cm～13cm程度の中型のものである。

鉢A 2 a…平底のものである。流路2出土の1点を除き、他はすべて流路3出土である。

鉢A 2 aには、278・279・453・454・634・635・638・961・1682の9点がある。

鉢A 2 b…突出した平底や上げ底のものも含めた。台付鉢に近い形態のものである。

鉢A 2 bには、637・1454・1788の3点がある。流路3・井戸3などから出土した。

鉢 A	1	a	
		b	
		c	
	2	a	
		b	
鉢 B	1	1	
		2	
	2	1	
	2	2	
	3	1	
鉢 C	2	1	
		2	
	2	1	
	2	2	
	3	1	
F 4	F	4	
	G		

第9図 出土土器の分類（鉢①）

鉢A 2 や鉢B・Cの口縁部…鉢A 2 や鉢B・Cの口縁部と判断されるものである。

鉢 A 2 や鉢 B・C の口縁部には、193・362・452・627・629・631～633・636・904・960・1176 の 12 点がある。流路 3 出土である。

鉢 A 3 …口径 9 cm～10 cm の中型のものである。すべて流路 3 から出土している。

鉢 A 3 には、280・639～641・833・1174 の 6 点がある。

鉢 A 4 …口径 8 cm～9 cm の小型のものである。すべて流路 3 出土である。

鉢 A 4 には、642・643・962・1173・1355 の 5 点がある。642 は讃岐系 D である。

鉢 A 5 …口径 8 cm 以下の極小型のものである。1 点のみ流路 2 出土で、他は流路 3 出土である。

鉢 A 5 には、455・456・1683 の 3 点と、鉢 A 5 の口縁部の 1424 がある。

鉢 B …尖底ないし丸底気味のものである。流路 1-2 と井戸 3 から各 1 点出土、他は流路 3 出土である。

鉢 B には、644・1354・1571・1790 の 4 点がある。

鉢 A か鉢 B の口縁部…鉢 A か鉢 B の口縁部と判断されるものである。井戸 3 などからの出土である。

鉢 A か鉢 B の口縁部には、1780・1838 の 2 点がある。

鉢 C …脚台が付くものである。井戸 3 と流路 1-2 から各 1 点、流路 3 から 2 点出土している。

鉢 C には、281・1787 の 2 点がある。鉢 C の脚と思われるものには、835・1573 の 2 点がある。

鉢 D …浅い形態のものである。

鉢 D 1 …浅い形態と思われるが、底部が確認できないものである。流路 3 出土のものである。

鉢 D 1 には、645・1175・1178・1179・1357 の 5 点がある。

鉢 D 2 …D 1 よりやや深い形態で、丸底のものである。流路 3 出土である。

D 2 には、讃岐系 A の 1177 の 1 点がある。

鉢 E …小型丸底鉢である。

鉢 E 1 …外折する口縁部が内湾気味に外上方にのびるものである。流路 3 と井戸 3 から出土しており、流路 3 では新相を示す土層からの出土である。

鉢 E 1 には、963・1168・1169・1791 の 4 点がある。

鉢 E 2 …口縁部が屈曲して有段口縁状になるものである。流路 3 の新相の土層と流路 1-2 から出土している。

鉢 E 2 には、1170・1171・1572 の 3 点がある。

鉢 E 2 亜種…口縁部が北近畿系のような形態になるものである。流路 3 出土である。

鉢 E 2 亜種には、1358 の 1 点がある。

鉢 F …口縁部が外反するものである。

鉢 F 1 …口径が 18 cm 以下のものである。流路 2 で 1 点出土し、他は流路 3 出土である。

鉢 F 1 には、359・360・458・1167・1681 の 5 点がある。1167 は讃岐系 C か讃岐系 D の可能性がある。

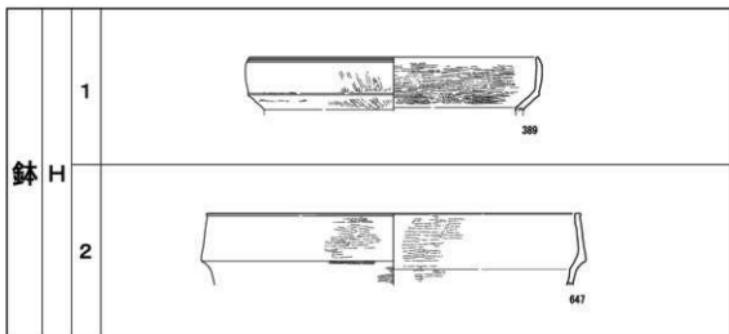
鉢 F 2 …讃岐系のものである。体部が不明のため、高坏の可能性も残す。流路 3 出土である。

鉢 F 2 には、1185 の 1 点がある。讃岐系 B である。

鉢 F 3 …口縁部が外反し、大型～中型のものである。口径は 21 cm～28 cm のものである。

鉢 F 3 には、282・361・621・623・1166・1172 の 6 点がある。すべて流路 3 出土である。

623 は北近畿系 B である。



第10図 出土土器の分類（鉢②）

鉢F 4…特大型のものである。口径は32 cm～38 cmのものである。すべて流路3出土である。

鉢F 4には、426・622・837の3点がある。837は讃岐系B、622は北近畿系かもしれない。

鉢G…皿形を呈するものである。口径28 cm程度の大型と、口径19 cm～22 cm程度の中型がある。

鉢Gには、182・201・202と、958・959の同一個体の計4点がある。すべて流路3出土である。

鉢H…複合（二重）口縁を呈するものである。

鉢H 1…口径31 cm～36 cmの大型のものである。流路3・流路1-2・流路2・井戸3の出土である。

鉢H 1には、389・646・1570・1680・1778の5点がある。1680は山陰系A、1778は山陰

系の形態で山陰系Bである。

鉢H 2…口径46 cm程度の特大型のものである。流路3から出土している。

鉢H 2には、647の1点がある。

鉢その他…いわゆるミニチュアの2点で、285・652の2点がある。流路3出土である。

その他…不明形態の836、脚部の1425の2点がある。流路3出土で、1425は山陰系Cとした。

底 部（第11図）

底部A…平底系のものである。

底部A 1…突出しない底部のものである。

底部A 1 a…甕や鉢の底部と判断したものである。

底部A 1 a α…底面に凹凸がなく、平底のものである。流路3・流路2・井戸2などから出土している。

底部A 1 a αには、180・296・476・478～481・675・676・679・712・852～857・871・910・1201・1222・1240・1246・1248・1249・1380・1393～1395・1458・1704・1706・1751・1839の34点がある。1395は鉢の底部で、871は製塙土器かもしだれない。1201は讃岐系の可能性があり、1704は讃岐系Cである。

底部A 1 a β…底面が上げ底になっているのものである。

底部A 1 a β 1…ドーナツ状上げ底のものである。流路2は1点、他は流路3出土である。

底部A 1 a β 1には、301・302・475・673・974・1226・1228・1229・1233～

1236・1238・1244・1388・1389・1392・1705 の 18 点がある。1705 は鉢底部である。

底部 A 1 a β 2 … β 2 は皿状に中央部が上げ底になったものである。流路 3 出土が大半で、流路 1-2 から 2 点、流路 2 からは 1 点が出土している。

底部 A 1 a β 2 には、179・367・477・483・672・674・715・1202・1237・1381・1382・1390・1584・1594・1703 の 15 点がある。483 は鉢底部である。

底部 A 1 a γ … γ としたのは讃岐系の特徴を示し、讃岐系胎土のものである。

底部 A 1 a γ には、861・1205・1403・1404 の 4 点があり、すべて讃岐系 A である。すべて流路 3 から出土している。

底部 A 1 b … 蓋と判断した底部である。

底部 A 1 b α … 底面に凹凸がなく、平底のものである。流路 2 は 2 点出土、他は流路 3 である。

底部 A 1 b α には、295・474・482・710・711・713・714・911・1200・1204・1405・1644・1713 の 13 点がある。1713 は讃岐系 A、482 は讃岐系 A'、1644 は讃岐系 D である。

底部 A 2 … 突出しない突出気味の底部である。

底部 A 2 a … a としたのは蓋や鉢と思われる底部である。

底部 A 2 a α … 底面に凹凸がなく、平底のものである。流路 1-2 から 5 点、流路 2 から 4 点、井戸 3 から 1 点出土しており、その他はすべて流路 3 出土である。

底部 A 2 a α には、178・194・196・222・223・292・365・466～468・471・677・681・686～690・697・699・703・706～708・717・721・848・908・909・972・973・1206・1208～1210・1212～1214・1219・1227・1231・1232・1239・1241・1243・1363・1364・1370・1371・1378・1383～1386・1578・1579・1582・1583・1588・1645・1702・1782 の 62 点がある。707・708・1219・1371・1386・1702 は鉢底部である。699 は讃岐系 D である。

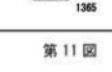
底部 A 2 a β … 底面が上げ底のものである。

底部 A 2 a β 1 … ドーナツ状上げ底のものである。流路 1-2 から 1 点、流路 2 から 4 点、井戸 3 から 1 点出土し、その他はすべて流路 3 出土である。

底部 A 2 a β 1 には、199・226・227・291・293・300・366・465・680・682・685・691・704・705・858・1215・1218・1220・1224・1242・1254・1367～1369・1377・1379・1585・1691～1693・1701・1783 の 32 点がある。鉢底部には 691・1220 がある。

底部 A 2 a β 2 … 中央が丸く窪んだ、上げ底状のものである。流路 1-2 と流路 2 から 3 点、その他は流路 3 からの出土である。

底部 A 2 a β 2 には、195・221・224・225・294・469・692・693・702・731・862・914・915・980・1216・1217・1230・1259・1372～1374・1457・1460・1580・1694・1695 の 26 点がある。914・1374 は鉢底部である。195 は讃岐系 B で、731 は後期中頃の可能性もある。1259 は製塙土器の可能性もある。

		α		
	a	$\beta 1$		
1		$\beta 2$		
		γ		
	b	α		
底部 A		α		
	a	$\beta 1$		
		$\beta 2$		
2		α		
	b	$\beta 1$		
		$\beta 2$		
底部		α		
A	a	$\beta 2$		
	3	α		
	b	$\beta 1$		
		$\beta 2$		
1				
B	2			
	3			
	1			
C	2			
D				

第11図 出土土器の分類（底部）

底部A 2 b …壺と思われる底部である。

底部A 2 b α…底面に凹凸がない平底のものである。流路3出土で、1点が井戸1出土である。

底部A 2 b αには、218・219・364・390・684・694～696・698・971・1199・

1207・1211・1743の14点がある。

底部A 2 b β…上げ底のものである。

底部A 2 b β 1…ドーナツ状上げ底のものである。流路3・流路1-2・流路2で出土した。

底部A 2 b β 1には、683・979・1576・1690・1876の5点がある。

底部A 2 b β 2…中央が窪む皿状上げ底のものである。すべて流路3出土である。

底部A 2 b β 2には、729・844・1365・1366の4点がある。

底部A 3 …短く突出する底部である。

底部A 3 a …壺や鉢と思われる底部である。

底部A 3 a α…凹凸がなく平らな底面のものである。流路1-2で1点、流路2で3点出土し、

その他は流路3出土である。

底部A 3 a αには、198・228・297・470・473・671・700・845～847・850・851・

859・1203・1223・1225・1247・1375・1376・1586・1699・1700・1707の23点

がある。1223・1225・1699は鉢の底部である。

底部A 3 a β…上げ底のものである。

底部A 3 a β 2…β 2は中央が窪む皿状上げ底のものである。底部A 3 a では中央部が皿状

に窪んだβ 2のみで、ドーナツ状上げ底のβ 1は認められない。

底部A 3 a β 2には、197・299・678・709・849・1387・1391の7点がある。

709は鉢底部である。すべて流路3出土である。

底部A 3 b …壺と思われる底部である。

底部A 3 b α…凹凸がなく平らな底面のもので、流路3・流路1-2・流路2他出土である。

底部A 3 b αには、472・1221・1577・1581・1587・1696・1698・1781の8点

がある。

底部A 3 b β…上げ底のものである。

底部A 3 b β 1…ドーナツ状上げ底のものである。流路2で1点、他は流路3出土である。

底部A 3 b β 1には、220・701・1198・1697の4点がある。

底部A 3 b β 2…中央が窪む皿状上げ底のものである。流路3と流路2で出土している。

底部A 3 b β 2には、716・730・1714の3点がある。

底部B …尖底系の底部である。

底部B 1…尖底に近い平底のもので、原則として壺と思われるものに限られる。流路1-2から3点、

流路2から2点出土し、その他は流路3出土である。

底部B 1には、298・718～720・722・860・912・975・976・1245・1251・1252・1397・

1398・1459・1591～1593・1708・1710の20点がある。298は鉢底部である。

底部B 2…尖底あるいは尖底にごく近いものである。流路2・ピット5から各1点、他は流路3出土である。

底部B 2には、484・723・726・977・1250・1253・1399・1400・1684・1801の10点がある。

1250 は讃岐系 B、1253 は讃岐系の色調である。

底部 B 3 …尖底系で丸底に近いものである。流路 1-2・流路 2 で各 1 点、他は流路 3 出土である。

底部 B 3 には、485・724・1396・1401・1595・1711 の 6 点がある。

底部 C …丸底系のものである。

底部 C 1 …丸底に近い平底のものである。原則壺しかないようである。流路 3 の他、流路 1-2・流路 2 から出土している。

底部 C 1 には、487・728・913・1589・1590・1709・1712 の 7 点がある。487 は讃岐系の A⁺ である。

底部 C 2 …丸底のものである。流路 3 と流路 1-2 から出土している。

底部 C 2 には、369・486・978・1402・1596・1597 の 6 点がある。978 は讃岐系 A⁺、369 は讃岐系 D である。

底部 D …脚台が付くもので、脚端が外側に張り出すものである。

底部 D 1 …脚台部分が開くものである。製塙土器の可能性があるものも含まれる。流路 2 出土が 2 点、他は流路 3 出土である。

底部 D 1 には、181・304・306・368・732・734・735・737・864・916・1255・1256・1407 ~ 1409・1715・1716 の 17 点があり、368・1256 は製塙土器の可能性がある。

底部 D 1' …脚部があまり開かないものである。すべて流路 3 出土である。

底部 D 1' には、303・651・733・863・917・981・1406 の 7 点がある。

底部 D 2 …突出した厚い脚台の下端から開くものである。すべて流路 3 から出土している。

底部 D 2 には、307・648 ~ 650・865・866・918・1257 の 8 点があり、1257 は製塙土器の可能性がある。

底部 D 2' …脚台部の器壁がやや薄いものである。流路 1-2 で 1 点、他はすべて流路 3 出土である。

底部 D 2' には、305・1359・1410・1598 の 4 点がある。

高 壕 (第12図・第13図)

高壙 A …有棱高壙である。

高壙 A 1 …壙部上半が短いものである。

高壙 A 1 a …口縁端部が丸いものである。すべて流路 3 出土である。

高壙 A 1 a には、230・312・314・492・1413 の 5 点がある。

高壙 A 1 b …口縁端部に面をもつものである。流路 3 から出土している。

高壙 A 1 b は、1266 の 1 点である。讃岐系 B である。

高壙 A 2 …壙部上半が A 1 より長いものである。すべて流路 3 から出土している。

高壙 A 2 には、313・371・491・745 ~ 749・872・1265 があるが、747・748 が同一個体であるため、計 9 点である。

高壙 A 3 …壙部外面の棱線の上側に幅狭い面を有するものである。

高壙 A 3 a …口縁端部が丸いものである。流路 3 と流路 2 から出土している。

高壙 A 3 a には、311・490・873・1717 ~ 1719 の 6 点がある。

高壙 A 3 b …b は口縁端部に面をもつもので、端面に凹線施すものも僅かながら認められる。

流路3と搅乱から出土している。

高坏A 3 bは、200・739・740・742～744・1842・1843で、739・740は同一個体であることから7点である。739・740は北近畿系Bである。

高坏A 3 c…口縁部内面に凹線状の凹凸をもつもので、讃岐地域の下川津B類にあたる。

高坏A 3 cには、750・751の2点がある。讃岐系Aである。流路3出土である。

高坏A 4…形態はA 2に近いが端部に面をもつもので、壺の可能性もあるものである。

高坏A 4には、874・1840の2点がある。流路3と搅乱出土である。

高坏A 5…壺部上半が長いもので、A 2との分離が曖昧な部分もある。

高坏A 5 a…通常の大きさのものである。流路3・流路1-2・井戸3から出土している。

高坏A 5 aには、373・1437・1604・1785・1793の5点がある。

高坏A 5 b…小型のものである。流路3から出土している。

高坏A 5 bには、1267・1414の2点がある。

高坏A 6…壺部外面の棱が鈍いもので、壺上半部が外反しないものである。流路3出土である。

高坏A 6には、755・756・875・1438の4点がある。875は丹波地域の北近畿系Aである。

高坏A 7…壺部の深さが口径に較べて浅いものである。すべて流路3から出土している。

高坏A 7には、877・1415・1461の3点がある。

高坏B…有段高坏である。流路3と井戸3から出土している。

高坏Bには、1268・1794の2点がある。

高坏C…壺部が有段口縁になるもので、北近畿系の形態である。

高坏C 1…口縁部外面に擬回線を施すものである。すべて流路3出土である。

高坏C 1には、315・374・876・1269の4点がある。315は北近畿系A、その他も北近畿系Aであるが、丹後地域にみられるものである。

高坏C 2…有段口縁部分が鈍く屈曲気味で、擬回線を施さずにナデ仕上げするものである。流路3出土である。

高坏C 2には、753・754の2点がある。753は北近畿系A、754は北近畿系Bである。

高坏D…壺部が塊形の高坏である。

高坏D 1…口径13cm～20cmの通常サイズのものである。流路3・流路1-2・井戸3出土である。

高坏D 1には、229・1272・1462・1605・1789・1795の6点がある。1272は讃岐系C。

高坏D 2…口径13cm未満で壺部が小型のものである。流路3・流路2・井戸3出土である。

高坏D 2には、316・879・920・1183・1271・1721・1796の7点がある。1183は器台の可能性も残す。

高坏D 3…壺部が深いものである。流路3から出土している。

高坏D 3には、757の1点がある。

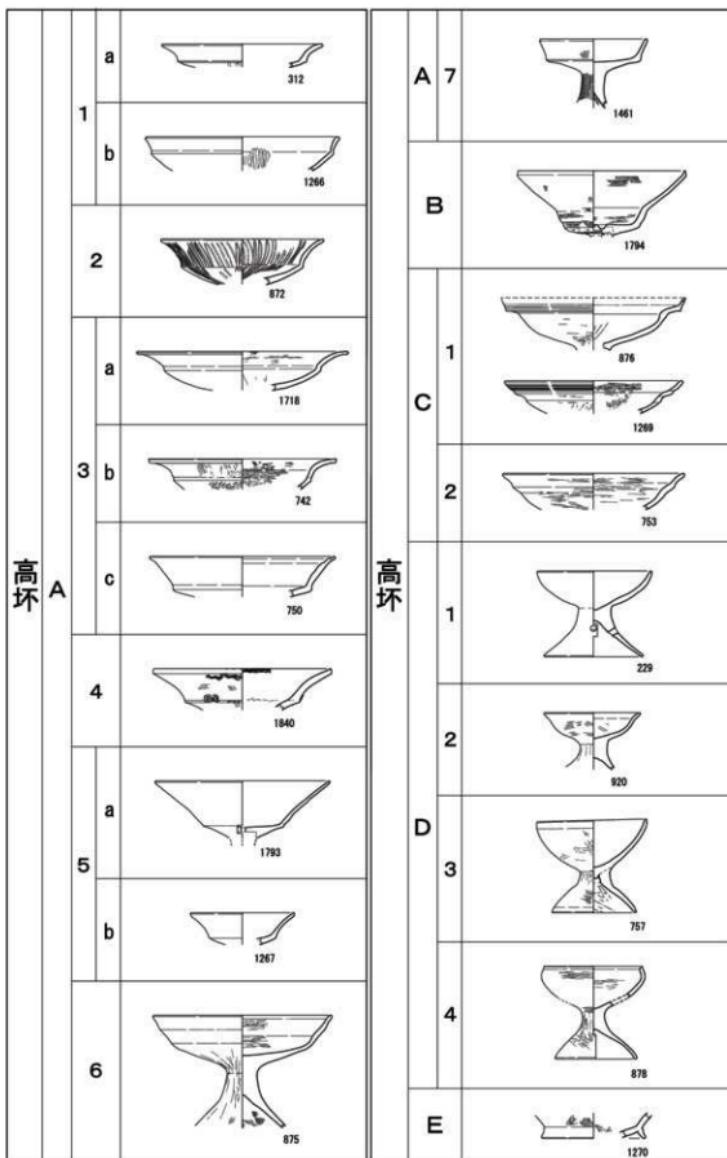
高坏D 4…口縁部が内湾するものである。流路3から出土している。

高坏D 4には、878の1点がある。

高坏E…外面の棱部分に幅の広い突帯を貼付したもので、全体形状は不明である。流路3出土である。

高坏Eには、1270の1点がある。

高坏型式不明…残存部分が限定され、分類型式が特定できないものである。



第12図 出土土器の分類（高坏①）



第13図 出出土器の分類（高坏②）

高坏型式不明には、372・741・1283・1452・1603・1606・1616・1802・1854 の 9 点がある。

高坏脚部…高坏脚部で、中空のものと中実のものがある。

中空脚部…脚柱部が中空のものである。

中空脚部には、203・231・320・321・380・384・505・752・759・771～773・880・881・921・926・982・1273・1289・1607～1610・1617・1720・1727・1730・1731・1798・1845・1852 の 31 点がある。752 は高坏 A 3 c の脚で、讃岐系 A である。1852 も讃岐系 A で、後期前半の可能性もある。1273 は讃岐系 C、773 は東四国系である。1289 は高坏 A、982 は高坏 B、921・1617 は高坏 D のそれぞれの脚部の可能性がある。

中実脚部…脚柱部が中実のものである。

中实脚部には、232・233・385・386・983・984・1288・1302・1622・1623・1728・1875 の 12 点がある。1728 は高坏 D の脚部の可能性があり、1875 は高坏 D の脚部である。

器台（第14図）

器台 A …受部が大きく開く形態で、口縁端部を拡張あるいは段状に屈曲するものである。

器台 A 1 …口縁端部を拡張するものである。

器台 A 1 a …口縁端部を上下に拡張するもので、端部に施文するものが多い。流路 3・流路 2 から出土している。

器台 A 1 a には、355・493・1274・1275・1722 の 5 点がある。1275・1722 は北近畿 A である。

器台 A 1 b …口縁端部を下方に拡張するものである。流路 3 から出土している。

器台 A 1 b には、494・761・985・1350・1416・1417 の 6 点がある。494 は讃岐系 C。

器台 A 2 …口縁端部を下方に拡張し、ほぼすべてに凹線・擬凹線を施す北近畿系のものである。

器台 A 2 a …下方に大きく拡張するものである。流路 3・流路 1-2 から出土している。

器台 A 2 a には、375・1418・1611 の 3 点がある。すべて北近畿系 A である。

器台 A 2 b …a より拡張が小さいもので、北近畿系 A 亜種が大半である。流路 3 出土である。

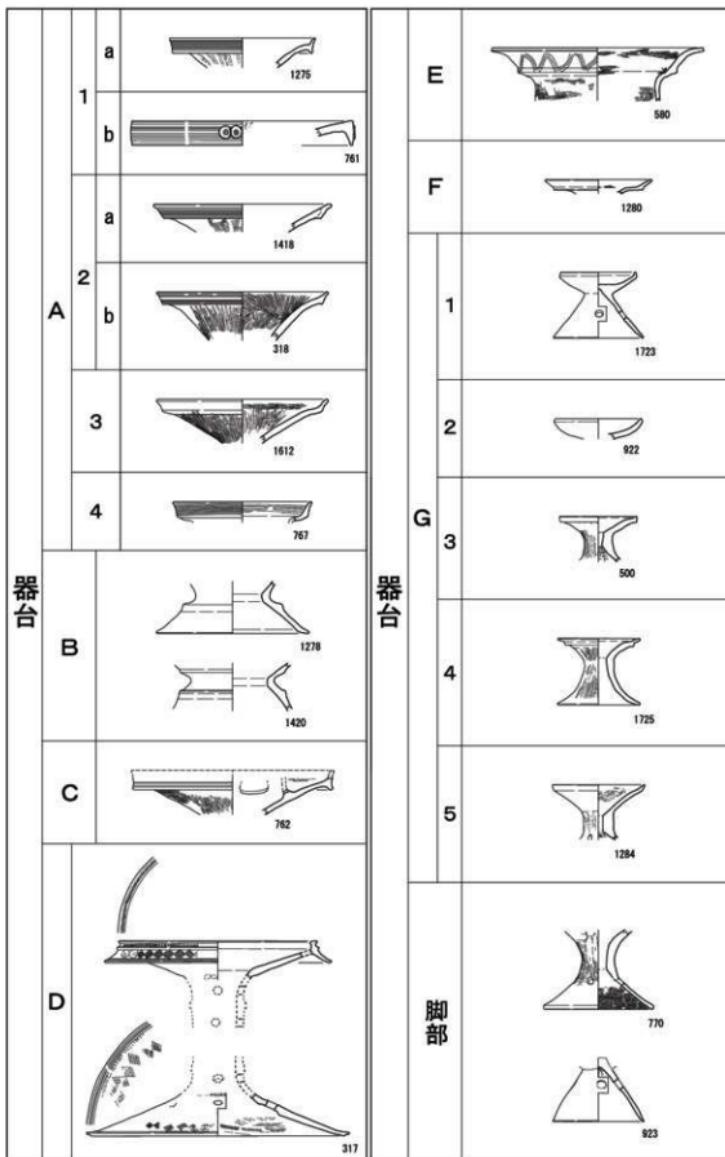
器台 A 2 b には、318・319・495・496・764・765・1276 の 7 点がある。

器台 A 3 …口縁が屈曲して有段口縁となるもので、北近畿系 A の特徴を示すものである。

器台 A 3 には、768・986・1612・1744 の 4 点がある。流路 3・流路 1-2・井戸 1 出土。

器台 A 4 …A 4 は複合口縁部を主として上方に拡張し、外面に「平行線」状の筋を施すものである。

器台 A 4 には、766・767 の 2 点があり、同一個体の可能性が高い。山陰系かもしれない。



第14図 出土土器の分類（器台）

器台B…山陰系の鼓形器台である。流路3出土である。

器台Bには、1277・1278・1420の3点がある。1277は山陰系A、他は山陰系Bである。

器台C…北近畿系や北陸系の装飾器台である。流路3から出土している。

器台Cには、762・763の2点があるが、同一個体である。北近畿系Aである。

器台D…装飾を多く施す特殊な形態の器台で、吉備系の装飾器台とされているものである。

器台Dには、317の1点がある。流路3から出土している。

器台E…大型の筒形器台で、口縁部外面に文様を施している。流路3出土である。

器台Eには、580の1点がある。

器台F…小型器台よりも少しきいが、器台としてはやや小型に近いもので、複合口縁のものである。

器台Fには、376・1279・1280・1419の4点がある。流路3出土である。1279は山陰系Bで、

1419は北近畿系の可能性がある。

器台G…小型器台である。

器台G 1…口縁部外側に面をもつもので、その部分が凹面を呈するものが多い。

器台G 1には、378・989・1422・1423・1439・1723・1724の7点がある。流路3・流路

2から出土している。

器台G 2…口縁端部を丸くおさめるものである。流路1-2から1点出土。他は流路3出土である。

器台G 2には、758・922・1286・1614の4点がある。

器台G 3…口縁端部を上下に少し拡張し、面をもつものである。流路3・流路1-2出土である。

器台G 3には、379・500・1285・1613の4点がある。1285は讃岐系C、1613は北近畿

系かもしれないが、不明である。

器台G 4…口縁部が屈曲するような有段口縁になるものである。流路3・流路2から出土している。

器台G 4には、377・1725・1726の3点がある。377・1725は北近畿系Bである。

器台G 5…口縁部形態が器台G 1に近いが、受部が深く脚柱部が中空のものである。

器台G 5には、1284の1点がある。流路3出土である。

器台不明…その他、破片の部分が限られるため上記分類することができず、不明なものである。

器台不明には、356・447・497・619・1158・1161・1421・1837の8点がある。356・1421

は北近畿系かもしれない。

器台脚部…器台と判断した中空の脚部である。

器台脚部には、498・499・760・770・774・793・923・924・987・988・990・1282・1291・1297・

1453・1620・1797があるが、498・499は同一個体であることから16点である。793・923・

924・990・1291・1297・1620・1797は器台Gの脚である。

脚（裾）部 （第15図）

脚部および裾部で、高坏か器台かの判別ができないものである。

脚（裾）部A…脚部から裾部にかけて外反しながら、あるいは外反気味に聞く形態のものである。

脚（裾）部A 1…脚端部に面を有するものである。井戸2では1点、その他は流路3出土である。

脚（裾）部A 1には、184・234・322・381・392・501・502・775～778・780・781・

1287・1290・1752の16点がある。

脚 (裾) 部	A	1		322
	B	2		783
脚 (裾) 部	B	1		788
	B	2		1618

第15図 出土土器の分類（脚（裾）部）

脚（裾）部A 2…脚端部を丸くおさめるものである。流路2では2点、その他は流路3出土である。

脚（裾）部A 2には、382・383・391・503・504・779・782・783・785・1298・1300・1301・1429・1729・1732の15点がある。

脚（裾）部B…裾部が直線的または内湾ぎみにあり大きく開かないもので、脚端部を丸くおさめるものである。

脚（裾）部B 1…脚端部径が14cm以上のものである。すべて流路3出土である。

脚（裾）部B 1には、506・784・786～792・883・991・1292・1293・1428の14点がある。

脚（裾）部B 2…脚端部径が10cm以上のものである。流路3・流路1-2から出土している。

脚（裾）部B 2には、794・1294・1618・1619の4点がある。

脚台部（第16図）

器種が判別できなかった脚台部分である。

脚台部A…脚端径が7.5cm以上のものである。

脚台部Aには、507・508・867・882・925・1295・1296・1299・1411・1426・1427・1531・1615・1733の14点がある。流路1-1・流路1-2・流路2で各1点、他は流路3出土。

脚台部B…脚端径が6cm以上のものである。井戸3から1点、他は流路3から出土している。

脚台部Bには、488・868・869・919・1182・1184・1792の7点がある。

脚台部	A		1411
	B		1184
製塙土器			964
			1258

第16図 出土土器の分類（脚台部・製塙土器）

製塙土器（第16図）

製塙土器…製塙土器の可能性が高い脚台部で、二次被熱のものもある。ほぼすべて流路3出土である。

製塙土器には、736・1258・1356・1851の4点があり、西部瀬戸内系の形態と思われる966もある。ほかに口縁部片964・965の2点がある。

有孔鉢（第17図）

有孔鉢A…突出した平底のもので、外面にタタキ目を残すものである。すべて流路3出土である。

有孔鉢Aには、176・460・1186・1187・1194の5点がある。

有孔鉢B…突出しない平底のもので、外面にタタキ目を残すものが大半である。流路2で1点、その他は流路3出土である。

有孔鉢Bには、459・461・462・657・660・838・967・1190・1688・1850の10点がある。

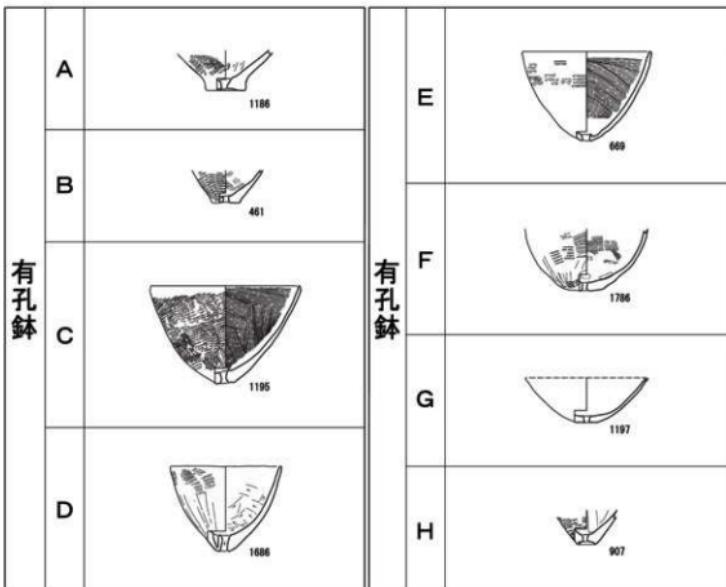
有孔鉢C…尖底に近い平底のもので、外面にタタキ目を残すものが大半であるが、ハケを加えるものも認められる。また、亜種も存在しており、分離しておく。すべて流路3出土である。

有孔鉢Cには、287・661・662・839～842・906・968・1191・1192・1195・1361・1436の14点がある。

有孔鉢C亜種…亜種としたのは、底面ではなく体部下端に穿孔があるので、725の1点がある。

有孔鉢D…尖底のもので、外面タタキ成形後にハケやナデを加えるものが半数近く。

有孔鉢Dには、288～290・463・464・663～668・969・1193・1362・1574・1575・1685・



第17図 出土土器の分類（有孔鉢）

1686 の 18 点がある。流路 1-2 と流路 2 で各 2 点、流路 3 でその他が出土している。

有孔鉢 E…丸底に近い尖底のものである。流路 2 で 1 点、他は流路 3 出土である。

有孔鉢 E には、286・363・669・1196・1456・1689 の 6 点がある。

有孔鉢 F…丸底のものである。流路 3 と井戸 3 から出土している。

有孔鉢 F には、670・1786 の 2 点がある。

有孔鉢 G…丸底に近い平底のものである。流路 3 から出土している。

有孔鉢 G には、843・1197 の 2 点がある。843 は讃岐系 A⁷ である。

有孔鉢 H…底面が上げ底状になったものである。流路 2 で 1 点あり、その他は流路 3 出土である。

有孔鉢 H には、658・659・907・1188・1189・1360・1687 の 7 点がある。

蓋（第18図）

蓋 A…口縁端部の外径が 9 cm弱のものである。流路 3 と流路 1-2 から出土したものである。

蓋 A には、310・1600 の 2 点がある。

蓋 B…口縁端部の外径が 10 cm～10.5 cm 程度のものである。流路 3 と流路 1-2 から出土している。

蓋 B には、870・1261・1599 の 3 点がある。

蓋 C…口縁端部の外径が 11.5 cm 程度のものである。流路 3 から出土したものである。

蓋 C には、370 の 1 点がある。

蓋 D…口縁端部の外径が 12.5 cm～13.5 cm 程度のものである。流路 3 から出土したものである。

蓋 D には、308・489・653・1412 の 4 点がある。

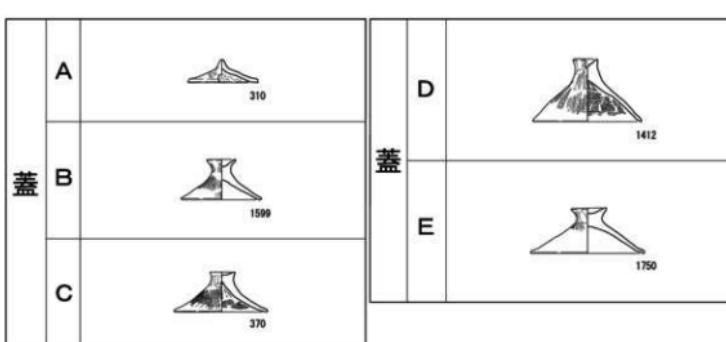
蓋 E…口縁端部の外径が 14 cm 程度のものである。井戸 2 から出土したものである。

蓋 E には、1750 の 1 点がある。

蓋 型式不明…口縁部欠損により外径が不明なため、分類にあてはめられないものである。

型式不明の蓋には、309・654～656・1260・1262・1263・1601・1602・1621 の 10 点がある。

309 は弥生中期の可能性がある。流路 3 と流路 1-2 出土である。



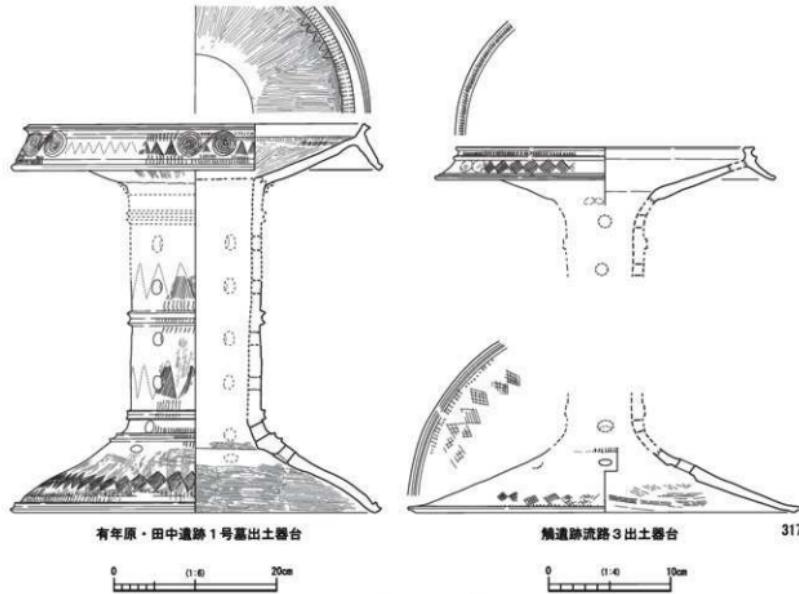
第18図 出土土器の分類（蓋）

2. 出土装飾器台について

今回調査を行った鶴遺跡の流路3からは、装飾を多く施した器台の317が出土した。この器台は筒部を欠失しているためその形状は不明であるが、赤穂市有年原・田中遺跡1号墓から出土した器台で、特殊器台や大型装飾器台と呼称されているものと文様構成や口縁部形状が非常に良く似ている。口縁部の文様では、S字状浮文や竹管状工具による櫛刺突列点文を施す点、脚部文様では、細部は異なるが、菱形の文様と櫛刺突列点文を施す点である。ただし、大きく異なる点はその大きさである。鶴遺跡流路3出土器台の推定口径は24.3cmであるが、有年原・田中1号墓出土器台は口径41cm程度と大きな違いがある。

この種の器台は、これまで弥生時代後期前半か中頃といった弥生時代後期中頃以前のものと理解されてきた。しかし、この種の大型装飾器台の検討はほとんど行われておらず、有年原・田中1号墓の時期についても十分に明らかにされているとはい難い状況にある。庄内式期前半段階とされる、有年牟礼・山田1号墓出土大型装飾器台との比較検討（山中良平 編 2014）において、有年原・田中1号墓の時期については、有年牟礼・山田1号墓出土器台が有年原・田中1号墓出土器台と酷似するとしながらも退化形態であることから、前段階に位置づける可能性が指摘されたが、詳細時期までは言及されていない。

今回鶴遺跡流路3から出土した装飾器台の出土層位はIV-6層である。流路3の埋土に含まれていた土器様相から、IV-6層出土土器は流路3出土土器の古相を示す様相であることを指摘した。明確に土器が時期別に分離できるものではなく、その時期の土器の比率が高い程度の様相認識であるが、古相は弥生時代後期後半から庄内期にかけての土器が多量に含まれていたことから、出土器台もその時期と認識している。さらに、今回出土器台は有年原・田中1号墓出土器台よりも複雑な口縁部形状であることから、有年原・田中1号墓出土器台よりも時期が遅り、古くとも後期後半であると推定している。



第19図 装飾器台の比較

3. 他地域系土器について

調査の結果、流路3において非常に多量の土器が出土し、流路1-2、流路2、井戸3などにおいても多くの土器が出土した。それらの中には、胎土・色調を基準として讃岐系、形態的には東四国系、山陰系、吉備系、北近畿系、西部瀬戸内系といった他地域系と判断される土器が少なからず含まれていた。

それらは器種ごとの型式分類によりある程度明確にしたが、さらに器種をまとめるかたちで他地域系土器の様相について詳述していきたい。

以下、讃岐系を含む東四国系、山陰系、吉備系、西部瀬戸内系、北近畿系と分けて、順に述べる。

(1) 讃岐系土器、東四国系土器

讃岐系土器は茶褐色系の色調を示し、胎土に角閃石や金雲母を含むもので、東四国系土器は讃岐を含む東四国でみられる器形の土器である。これらの色調・胎土・形態を基準にして、今回出土した土器を以下のように分類した。

① 讃岐系A

下川津B類の形態的特徴を有すると判断し、角閃石を多く含んだ茶褐色系の胎土のものを讃岐系Aとした。同時に金雲母も含むものが大半である。下川津B類（大久保徹也 1990）とは、讃岐の一地域の胎土で、角閃石を多く含み、金雲母を含むものが多く、茶褐色系を呈するものである。また、高坏・壺、甕の口縁部内面には「口縁部内面の凹凸」や「凹線状の凹凸が付くナデ」と表現される技法を用いるものである。なお、下川津B類は角閃石を多く含むものとされることから、土器に含まれる角閃石の量を観察して、多いものは讃岐系Aとし、少量のものは讃岐系A' として分割した。

讃岐系Aには、甕Fに分類したものの中に、425・575・576・818～820・1090・1091・1095・1330・1331・1554・1665・1834・1835の15点があり、甕底部では底部A 1 a γに分類したすべてにあたる、861・1205・1403・1404の4点があり、壺では壺C 2 口縁部の353・902の2点、壺底部では底部A 1 b αの1713の1点がある。高坏ではA 3 cに分類した750・751に加え、後期前半の可能性がある1852があり、高坏脚部の752は高坏A 3 cの脚部である。高坏A 3 cの口縁部内面には、ヨコナデにより凹線状の凹凸を有する。鉢では丸底で鉢D 2 の1177がある。全体で27点あり、うち21点は流路3出土である。

甕は口縁部などの特徴から、下川津II式あたりからV式甕（大久保徹也 1990）と判断され、下川津B類が多く出土している徳島県黒谷川郡頭遺跡の編年（大西浩正 編 1990）では、黒谷川I式の末頃からIII式の間でとらえることができる。したがって、弥生時代後期末頃から古墳時代前期初頭にあたり、353・902の甕口縁部や体の1177についても上記時期の範疇でとらえることができる。また、高坏では脚部752は讃岐V-6様式に例があり、下川津III式古段階に相当する（真鍋昌宏 2000）とされている。

讃岐系Aは、流路3出土が最も多く、流路1-2や流路2のほか撹乱壙からも出土している。流路3から出土した量は報告した土器の約1.7%で、甕口縁部のうちでは約3.1%を占め、壺口縁部の約1%、高坏の約3.5%、鉢の約1.1%である。流路1-2では讃岐系Aは約1.1%、流路2では約2.2%である。

讃岐系A' としたのは下川津B類形態と判断し、角閃石は少量、金雲母は多量もしくは少量含み色調も茶褐色系のものである。讃岐A' としてもよいかもしれないが、下川津B類は厳密には角閃石を多く含むものであることから、一応分離した。甕Fでは817・1094の2点があるが、817は厳密には下川津B類とは異なるとすべきかもしれない。底部では甕底部A 1 b αの482、丸底系C 1 の甕底部487、C 2 の甕底部978の3点、大型甕のA 7に分類した1120・1430、甕E 1に分類した1145、流路1-2出土

で壺D 2 の 1563 がある。また、有孔鉢G の 843 も讃岐系 A⁺ である。1点以外は流路 3 出土である。

流路 3 から出土した量は報告した土器の約 0.7%で、甕口縁部のうちの約 0.6%を占め、壺口縁部では約 1.4%、底部全体の約 1.0%、有孔鉢の約 1.1%である。流路 1-2 では約 1.1%である。

② 讃岐系 B

讃岐系 B としたのは、茶褐色系の胎土で角閃石等を含むが、下川津 B 類とは形態が異なるものである。

讃岐系 B には、甕か鉢底部で A 2 a β 2 の 195 と B 2 の 1250、壺 A 3 で文様がある 435、壺 A 1⁺ の 1110、鉢 F 4 の 837、鉢 F 2 の 1185、鉢 A 1 b の 1181、高坏 A 1 b の 1266 の計 8 点がある。いずれも流路 3 から出土している。なお、中期高杯の 1626 も讃岐 B で、流路 1-2 から出土している。

1110 は土佐出土東阿波型土器（栗林誠治 2001）の中に例があるため壺としたが、高杯であれば下川津 V 式新相にあたる。外反口縁の鉢 837 は下川津遺跡 SH II 07 出土土器（藤好史郎・西村尋文 編 1990）に少し似ており、鉢の 1181 は黒谷川 I 式あたりの可能性がある。高坏 1266 は後期前半かもしれない。

流路 3 から出土した量は報告した土器全体の約 0.6%で、壺の約 0.9%、鉢の約 3.3%を占め、底部の約 0.7%、高坏の約 1.2%である。

③ 讃岐系 C

讃岐系 C としたのは、茶褐色系を呈し角閃石・金雲母をほとんど含まないが東四国系の形態のものである。

流路 3 出土土器のうち、甕 F では 574・1092・1093 の 3 点、壺では壺 C 2 の 216、壺 D 2 の 955・1129 の 3 点、高坏 D 1 の 1272、高坏脚部の 1273、器台 A 1 b の 494、小型器台 G 3 の 1285 の合計 10 点があり、1167 の鉢 F 1 は讃岐系 C か讃岐系 D の可能性がある。他に井戸 1 出土で甕 H の 1742 や、井戸 3 出土の甕体部の 1774、流路 2 出土の底部 1704 がある。時期的には讃岐系 A の甕でみた時期幅でとらえている。

流路 3 から出土した讃岐系 C の量は、報告した土器全体の約 0.8%で、甕の約 0.8%、壺の約 1.4%、高坏の約 2.3%を占め、器台の約 3.0%である。

④ 讃岐系 D

讃岐系 D としたのは、茶褐色系を呈するが、角閃石・金雲母をほとんど含まず、東四国系の形態かどうか不明なものである。流路 3 出土土器では、甕 B 3 の 245 と B 1 の 1309、鉢 A 4 の 642 がある。底部では、A 1 a α の 1201、A 2 a α の 699、B 2 の 1253、C 2 の 369 の 4 点があり、流路 3 では合計 7 点がある。他に流路 1-2 出土の脚（裾）部 B 2 の 1618、流路 2 出土の底部 A 1 b α の 1644 がある。

流路 3 から出土した讃岐系 D の量は、報告した土器全体の約 0.6%で、甕の約 0.6%、鉢の約 1.1%、底部の約 1.4%である。

⑤ 東四国系

東四国系としたのは、金雲母や角閃石を含まないが、東四国系の形態と判断したものである。流路 3 出土土器では、壺 B 3 の 596・597・953、壺 C 2 の 439・440、壺 I 2 の 1281、高坏脚部の 773 があり、合計 7 点である。流路 1-2 では壺 D 2 の 1562、流路 2 では甕 F の 1664 と壺 D 2 の 1678 が出土している。

流路 3 出土で東四国系とした量は、報告土器全体の約 0.6%で、壺の約 2.8%、高坏の約 1.2%である。

以上の讃岐系土器、東四国系土器のうち、中期土器を除外して、可能性があるものもすべて含めると、甕口縁部 25 点、壺口縁部 19 点、鉢 6 点、底部 16 点、高坏 8 点、器台 2 点、有孔鉢 1 点、脚（裾）部 1 点で合計 78 点になる。これらのうち流路 3 出土のものは合計 63 点で、流路 3 出土土器全体の約 5.0%になる。器種別では、甕口縁部約 5.1%、壺口縁部約 7.4%、鉢約 0.5%、底部約 4.4%、高坏約 8.1%、器台約 3.0%、有孔鉢約 1.8%である。さらに、東四国系とした土器を除いた数は 56 点で、流路 3 出土

土器全体の約4.5%、器種別で割合に変化があるのは壺と高杯で、壺口縁部約4.6%、高杯約7.0%になる。

(2) 山陰系土器

山陰系土器で、形態から明確に山陰系と判断できるのは壺と鼓形器台および壺の一部などである。

① 壺E

壺は形態により壺Eに分類したが、その胎土には微細砂粒を非常に多く含むものと目立たないもの2者があり、前者を山陰系A、後者を山陰系A'とした。前者が埋入土器の可能性が高いとみている。ただし、両者の肩部内面へラケズリが右方向になっているものが殆どを占め、他の多くの壺とその技法が異なっていることは、その技法をもった山陰系の人が存在していた可能性があろう。

壺Eのうち、山陰系Aは324～331・405～409・822・894・942・943・945・1065～1072・1074・1076・1077・1080・1081・1083～1089・1333の39点が流路3から出土しているほか、1534・1535・1538の3点が流路1-2から、流路2からは1666、ピット1から1799が出土しており、合計44点である。

山陰系A'の壺Eは、流路3から944・1073・1075・1078・1079・1082・1448の7点の他、壺Eの体部片と判断した1164が出土しており、流路1-2からは1532・1533・1536・1537・1539・1540の6点、流路2からは1667、井戸1から1741、井戸3から1768～1770・1772の4点がそれぞれ出土し、合計20点認められる。したがって、A'も含めた山陰系の壺Eは流路3出土分が47点、合計では64点になる。

流路3出土で報告した壺全体に占める割合は、山陰系Aが約11.0%、山陰系A'が約2.3%、両者を合わせた割合は約13.2%である。讃岐系よりも高い割合を占めている。

② 壺・鉢・器台

壺以外の器種では、山陰系A～山陰系Cの3種に分けた。山陰系Aは壺Eと同様で山陰系の形態を呈すると同時に胎土に微細砂粒を非常に多く含むもの、山陰系Bは形態が山陰系のもの、山陰系Cは形態が山陰系の可能性があるものである。

壺のうち流路3出土分では、342・343・437・1108・1109・1111・1112の壺A1の7点すべてと、壺A6の1332が山陰系Aである。山陰系Bでは壺C1の1140がある。壺のうち流路3出土以外には、流路1-2出土の壺体部片1569、井戸3出土の壺A6の1776、搅乱出土の壺A1の1853の3点が山陰系A、井戸2出土の壺体部1749が山陰系B、流路2出土壺B4の1675と井戸2出土壺B1の1747・1748が山陰系Cである。鉢のうち流路3出土は脚部の1425が山陰系C、流路2出土鉢H1の1680は山陰系A、井戸3出土鉢H1の1778が山陰系Bである。器台では、鼓形器台であるBの1277が山陰系A、1278・1420は山陰系B、器台Fの1279も山陰系Bで、すべて流路3出土である。

山陰系土器のうち流路3から出土し報告できた土器は、山陰系の可能性があるものも含めて61点であり、流路3出土土器の約4.9%である。讃岐系土器とはほぼ同じ割合になっている。

(3) 吉備系土器

壺Gに分類した吉備系の壺は、短く立ち上がる口縁部を有し、柳状工具で口縁部外面に施文する有段口縁壺で、角閃石を含み薄茶色～薄薄茶色を呈し、微細な金雲母もごく少量含むものである。ほかに、装飾器台や壺がある。壺Gのうち典型的な形態のものを吉備系A、それに近いものを吉備系B、可能性があると判断したものを吉備系Cと仮称することとした。

① 壺

壺Gのうち、流路3から出土した423・424・895・1097～1102の9点と、井戸3から出土した1773が吉備系Aである。1102は口縁部を欠失するが、体部の形態からX-b期～X-c期にあたり（高橋謹 1988 a・1988 b）、10b期～10c期は下田所式で、庄内3式とされている（亀山行雄 2006）。井戸3出土の1773は体部形態が丸いことからX-c期～X-d期（高橋謹 1988 a・1988 b）で、10d期は布留1とされている（亀山行雄 2006）。また、吉備系Aとした他の土器も概ね庄内期後半～布留初期と思われる。なお、1097～1102の6点は新相を示すII-2層出土である。

壺C2としたIV-2層出土の544とIV-1層出土の821は櫛描文が凹線状になっているが、微量の角閃石を含み、薄薄茶色～橙色を呈することから吉備系Bとした。この口縁部形態は高橋編年のIX-b期（高橋謹 1988 a・1988 b）に類例があるようで、9b期は庄内直前のような（亀山行雄 2006）。また、備中地域編年のV様式末にあたるV-5様式（高畑知功 1992）に口縁部形態が類似するものがある。

流路3のIV-2層出土で壺Gとした578は、胎土に角閃石を含まず、色調が異なり、肩部内面のヘラケズリ方向が逆で、口縁外面に櫛描文を施さないことから、吉備系Cとした。模倣品と考えている。体部外面にタタキを施す壺Gの401・1096も吉備系Cとした。

流路3のIV-6層出土の257は、備中地域V-3様式（高畑知功 1992）に岡山県北部の山間部例に似たものがあり、吉備系Bとしておきたい。

吉備系Aおよび吉備系Bとした壺は13点あり、流路3出土の点数は12点である。これらが流路3出土の壺全体に占める割合は約3.4%である。

② 装飾器台・壺

流路3から出土した器台Dの317は、微細な金雲母状のものを含み、角閃石は1個確認できた。有年原・田中遺跡1号墳丘墓出土の大型装飾付高杯や大型装飾付器台（宮崎素一・藤田忠彦 1991、山中良平 編 2014）に似ているが、317と比較すると、口縁部上端面の列点文の有無や口縁部外面中央の突帯の有無、口縁部外面の鋸歯文と菱形文の差といった細部で異なる。また、有年原・田中遺跡1号墓出土の器台とは口縁部の形状がやや異なるものの、裾に菱形文・櫛刺突列点文を施す点は高杯とともに同じである。ただし菱形文の内部は、有年原・田中1号墓例は斜線のみ、鶴遺跡出土の317では斜格子となっている。

有年原・田中遺跡1号墓出土例は、当初報告（宮崎素一・藤田忠彦 1991）では、雄町遺跡出土高杯との類似と後期前半まで集落が営まれていた場所であることから、後期中葉と考えられていた。山中良平氏は庄内併行期の前段階とされ（山中良平 編 2014）、明確な時期の言及は避けられている。また、岸本道昭氏は後期後半とされている（岸本道昭 2022）。有年原・田中遺跡1号墓出土例は時期比定に統一をみていない状況である。一方、本遺跡出土317の口縁部は、第V様式末にあたる備中V-5様式（高畑知功 1992）に類例があり、黒宮大塚出土土器（間壁忠彦・間壁葭子・藤田恵司 1977）の黒宮IIの壺・器台の口縁部が似ている。鬼川市IIIに比定され、備中V-5様式にあたる。備前地域では第V様式後半にあたるV-3様式（正岡睦夫 1992）に類似例があり、V-2様式でもよいような記述になっているが、V-3様式の高杯や器台も口縁部の形状が似ているものがある。後期後半から庄内期と判断している。

流路3出土の台付小型丸底壺1152は、赤褐色で角閃石を含まないものである。吉備系かどうか不明であるが、豊中市穂積遺跡で類例があり吉備系とされている（桐井理揮 2016）。また、黒宮大塚（間壁忠彦・間壁葭子・藤田恵司 1977）出土土器に似た例がある。

(4) 西部瀬戸内系土器

流路3のIV-2層出土の587は口縁部が内折する形態で、壺A6とした。いわゆる安国寺式土器の壺であり、橙色で角閃石を含まない。口縁部外面を櫛により加飾し、頸部に突帯を貼付するものである。色調が他の土器とは異なることから明確に分離できるものである。安芸地域では後期III-1期から2期(伊藤 実 2001)で、庄内期にあたる。伊予東部地域ではVI-1様式からVI-2様式(柴田昌児 2001)にあたり、古墳時代初頭とされている。一方、伊予中部地域ではV-3様式からV-4様式(梅木謙一 2000)とされるものに類似し、第5様式末から布留式以前とされている。

壺A6で井戸3出土の1777は、胎土に微細砂粒を含み乳黄色を呈する。口縁部の特徴は、備後地域で第V様式末にあたるV-3様式(伊藤 実 1992)に類似例があることから、備後系と推定している。

壺B3の346は流路3のIV-5層出土で、瀬戸内系の可能性があるかもしれない。

流路3のII-3層出土の製塙土器脚部966は、長さ約5cmの棒状の支脚をもつもので、形態から製塙土器と判断した。西部瀬戸内以西や伊勢清治岸、北陸地域にみられる形態であるが、管見では庄内期まで遡る資料は認められない。ただし、淡路地域で後期後半の中葉以降と推定される脚台I式のなかに円柱形の脚柱部のものがあるとされている(伊藤宏幸 2022)が、下端部が中空となって大きく開くものであることから形態的に異なる。したがって、当該時期までさかのぼる他の地域系土器の地域的状況から、西部瀬戸内系としておきたい。

(5) 北近畿系土器

北近畿系土器は、その分布図は丹後地域を中心とし、丹波山地から日本海沿岸部の但馬地域・丹後地域・若狭地域であり、有段口縁の外面に擬凹線文を施す壺が分布する地域とされている。同時に、擬凹線文系土器の様式圏を形成し、古墳時代初頭に至るまで強い地域色を維持(高野陽子 2002)している。兵庫県内では、西丹波地域、南但馬地域、北播磨地域に広く認められ、播磨平野部分でも比較的多く出土している。

以下では、北近畿系と判断した土器のうち、形態的にはほぼ同様のものは北近畿系A、形態的に近いものを北近畿系Bとした。北近畿系Bは北近畿系の可能性がある、または北近畿系かもしれないと判断したものである。北近畿系土器については、丹後地域を中心にした土器編年(高野陽子 2006)や、西(兵庫)丹波地域の土器編年(多賀茂治 2000)などがあり、編年の位置付けについては大略それらに従うこととする。なお、高野氏の編年では庄内期を弥生時代と古墳時代に分けているが、多賀氏の編年では庄内期を弥生時代終末期としている点を付け加えておく。

なお、多可郡多可町の田野口・笠町遺跡の報告において、安平勝利氏により広範囲の北近畿系壺について整理を行い(安平勝利 2008)、弥生時代後期後半以降、丹波、南但馬、多可・西脇地域では口縁部外面に擬凹線文を施さない壺(C2)が主体になっていることに注目している。この点は、今回報告の鶴遺跡の壺Cも同じ様相であり、北近畿系とした壺Cの元地域を推定するうえで重要な指摘である。

① 北近畿系A

壺 北近畿系Aの壺には、壺C1~壺C6がある。また、壺B6の891も北近畿系Aと判断した。壺C1では、206・253・254・340・399・402~404・552・554・555・810・811・813・815・893・1058・1326・1345の19点があり、壺C1の大半にあたる。すべて流路3出土である。なお、壺C1の残り2点の1668・1771は北近畿系Bとした。壺C1は口縁部上半が外上方に外反しながら外反気味に長くの

びるもので、口縁部上半の長さは概ね口縁長の2分の1以上のものである。甕C 1は多賀編年（多賀茂治 2000）のVI-1新段階にあたり、弥生終末期（庄内式並行期前半）に位置付けられている。兵庫県内の丹波地域では、丹波市七日市遺跡S B 26（種定淳介 1990）や、丹波篠山市板井寺ヶ谷遺跡のSK 41出土（池田正男・村上泰樹 編 1992）甕に類似例がある。北播磨地域では、多可郡多可町の糓屋・土井の後遺跡SK 1（宮原文隆 1997）などにも出土例がある。北近畿の高野編年では西谷1式あたりで、庄内期を含まない弥生時代後期後葉～末となろう。

甕C 2には、207・250・400・550・551・808・809・940・1053・1327・1656の11点があり、甕C 2の大半である。それらのうち、1656は流路2出土で、他はすべて流路3出土である。甕C 2は口縁部上半が外反気味にのびるもので、口縁部上半の長さは概ね2分の1弱のものである。1656は丹波市七日市遺跡S B 27（種定淳介 1990）出土甕に類似し、多賀編年（多賀茂治 2000）のVI-1古段階に位置付けされ、弥生時代末で庄内並行期前半とされている。ほかに、西丹波地域では丹波市大岡遺跡（山田清朝 編 1995）の溝状構造ないし旧河道の埋土から出土した甕A 4～A 6の一部に同様の例がある。これらの甕は弥生時代後期後半から庄内期を含む弥生時代後期末までに位置付けられている。北播磨の多可郡多可町田野口・鎌町遺跡（安平勝利 2008）や糓屋・土井の後遺跡（宮原文隆 1997）でも一定の割合で出土しており、南に下った加東市家原・堂ノ元遺跡溝2（森下大輔 編 1984）出土土器中にも認められる。南但馬地域では、朝来市加都遺跡の伊豫田地区SD Y 001（甲斐昭光 編 2005）からも一定の割合で認められる。京都府丹後地域では京丹後市古殿遺跡SE 03出土土器（平良泰久・石井清司 1989）中に認められ、北丹波地域の綾部市小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）でSK 02出土土器などに類例があり、南丹波地域の亀岡市北金岐遺跡（石井清司 1989 b）でも例がある。小西町田遺跡では小西町田I期にあたり、青野西I式期（庄内期の古い段階）に新しい要素が入る前の段階とされている。

甕C 3には251・252・396・542・543・548・553・802・804・806・892・941・1050・1051・1055・1657の16点があり、甕C 3の大半である。1657のみ流路2、他は流路3からの出土である。甕C 3は口縁上部が外反気味に短くのびるもので、多賀編年（多賀茂治 2000）のVI-1古段階にあたり、弥生終末期に位置付けられている。丹波市氷上町大岡遺跡旧河道土器群C上層（山田清朝 編 1995）の甕A 4 bや甕A 7とされている土器のなかに類例があり、後期後半から庄内期を含む後期末にかけての時期とされ、一部布留期に降るものもあるようである。京都府の北丹波地域でも綾部市小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）に類例があり、他にも類例が多く認められる形態のものである。

甕C 4は口縁端部が尖り気味で、段部分の外面の稜が鋭いものである。397・398・545～547・549・577・812・1054・1056・1328の11点すべてが流路3出土である。甕C 4の大半で、残りは北近畿系Bとした。甕C 4は、西丹波地域にあたる丹波市青垣町田井縄遺跡天神地区出土土器（徳原多喜雄 1997）に類例があり、丹波市七日市遺跡の旧河道2出土土器（種定淳介 1990）や丹波篠山市板井寺ヶ谷遺跡のSK 17出土土器やSK 28出土土器（池田正男・村上泰樹 編 1992）に類似例が認められる。北播磨地域では、多可町糓屋・土井の後遺跡SK 1-1（宮原文隆 1997）や西脇市大垣内遺跡10号住居跡や溝1出土土器（山下史朗 編 1991）、家原・堂ノ元遺跡溝2出土土器（森下大輔 編 1984）に類似例があるが、北播磨地域でも加西市域ではほぼ見当たらない。

甕C 5は口縁端部上部が薄くなつて短くのびるものである。甕C 5には、流路3出土の205・249・395・537・538・540・541・801・803・1322～1324と、流路2出土の1654・1655の合計14点があり、甕C 5の多くを占める。丹後地域では京丹後市橋爪遺跡SD 21出土土器（石井清司・黒田恭正ほか

1981)、北丹波地域の綾部市小西町田遺跡SK 04出土土器(三好博喜ほか 1993)や南丹波地域の亀岡市北金岐遺跡B地点SD 01出土土器(石井清司・田代弘・中坪央境 1985)に類例が認められる。南但馬地域では朝来市加都遺跡伊豫田地区出土土器(甲斐昭光編 2005)、西丹波地域では丹波篠山市板井寺ヶ谷遺跡SK 18出土土器(池田正男・村上泰樹編 1992)にそれぞれ類例があり、北播磨地域では、多可町思い出遺跡SB -3出土土器(宮原文隆 1998)のほか、やや南に位置する加東市家原・堂ノ元遺跡溝3出土土器(森下大輔編 1984)にも類例がある。

壺C 6には258・572・1063の3点があり、壺C 6のすべてで、流路3から出土している。壺C 6はひきのばした口縁部外面に凹線や擬凹線を加えるもので、それらのうち572は多賀編年(多賀茂治 2000)のVI-1古段階に相当し、七日市遺跡SB 36出土土器(種定淳介 1990)が指標となっている。弥生時代末で庄内並行期前半とされている。京都丹波地域では綾部市青野西遺跡土壙6出土土器(小山雅人 1985)、亀岡市北金岐遺跡B地点SD 01出土土器など(石井清司・田代弘・中坪央境 1985)に類例がある。

壺 北近畿系Aの壺には、壺B 1、壺B 2、壺B 4、壺D 3、壺E 1がある。

壺B 1には、272・345・441・901・1137があり、壺B 1の多くを占め、流路3から出土したものである。有段口縁の外面に凹線・擬凹線を施し、屈曲部が鈍いものである。壺B 2は屈曲部の稜が鋭いもので、347・1135・1136・1138があり、すべて流路3出土である。壺B 1や壺B 2は北近畿で広く存在する器形で、丹後地域では京丹後市林遺跡(高橋美久二ほか 1977)、京丹後市裏除遺跡(杉原和雄ほか 1979)、京丹後市正垣遺跡(石井清司 1989 b)などで認められ、西谷式の段階(高野陽子 2006)にあたると思われる。北丹波地域では、小西町田遺跡に類例があり、I期～II期の庄内並行期(近澤豊明・三好博喜 1996)とされ、南丹波地域の亀岡市北金岐遺跡(石井清司・田代弘・中坪央境 1985)にも類例がある。兵庫県側では西丹波地域の丹波市七日市遺跡(種定淳介 1990)や丹波市大岡遺跡(山田清朝編 1995)などで出土しており、北播磨地域でも大垣内遺跡(山下史朗編 1991)などに類例がある。

壺B 4は屈曲部が鈍く、口縁上部が外上方に長くのびるもので、588・589・952・1344があり、588・589が同一個体のため3点である。すべて流路3から出土している。壺B 4の類例はほとんど認められないが、北丹波の小西町田遺跡SK 14出土壺(三好博喜ほか 1993)のなかに類似した口縁部のものが認められ、同じく綾部市の庄村遺跡3号周溝墓出土壺(近澤豊明・井口一三 1993)の口縁部ともよく似ている。庄内並行期(近澤豊明・三好博喜 1996)の後半であろう。

壺D 3は広口の口縁端部が受口状に曲がるもので、外面に凹線・擬凹線を施す191・605・606・947・956・1134の6点を北近畿系Aとした。流路3からの出土である。壺D 3は形態的な類似資料は多くあるが、擬凹線や凹線を施すものは、管見では南丹波の北金岐遺跡(石井清司・田代弘・中坪央境 1985)、北播磨の田野口・笠町遺跡(安平勝利 2008)に例がある程度である。

壺E 1では口縁端部外面直下が凹面になるものを北近畿系Aとした。269・273・830の3点があり、388も含めてもよいかもしれない。すべて流路3出土である。これも類例は多くないが、北丹波の青野西遺跡(小山雅人 1985)、北播磨の田野口・笠町遺跡(安平勝利 2008)などに例がある。

高坏 北近畿系Aの高坏には、高坏A 6、高坏C 1、高坏C 2などがある。

高坏A 6のうち北近畿系としたのは875の1点で、流路3出土のものである。管見では丹後地域では認められず、丹波篠山市上板井遺跡出土高坏(村上泰樹・久保弘幸編 1990)に酷似する。南丹波地域の北金岐遺跡(石井清司・田代弘・中坪央境 1985)や北播磨地域の加東市下三草・諏訪ノ下遺跡(森下大輔 1991)にも類似例があることから、丹波系としておきたい。

高坏C 1には、315・374・876・1269の4点があり、流路3出土で、高坏C 1のすべてである。口縁部外面に擬回線を施すもので、374を除き、丹後地域を中心として丹波地域全域から北播磨地域の広範囲に多く認められる形態のものである。丹後地域の編年（高野陽子 2006）では、876が西谷1式新段階から西谷2式新段階の後期末～庄内式古段階、1269が西谷2式新段階から浅後谷南1式の庄内式前半、315は浅後谷南2式的庄内式新相にあたるようである。兵庫県内では丹波市七日市遺跡（種定淳介 1990）、丹波篠山市上板井遺跡（村上泰樹・久保弘幸 編 1990）でも多く出土しているものである。374は京丹後市橘爪遺跡SD 09出土高坏D b（石井清司・黒田恭正ほか 1981）に酷似し（第20図）、京丹後市赤坂今井墳丘墓第4埋葬出土高坏（石崎善久・三好 玄・高野陽子ほか 2004）に類似する。丹後地域に限定的にみられるようであり、西谷式新段階のようである。

高坏C 2のうち流路3出土の753を北近畿系Aとした。京丹後市浅後谷南遺跡土器溜まりN出土土器（石崎善久・黒坪一樹・福島孝行 2000）中に類例があり、浅後谷南1式として庄内式中相に位置付け（高野陽子 2006）られている。

器台 北近畿系Aの器台には、器台A 1 a、器台A 2 a、器台A 2 b、器台A 3、器台Cがある。

器台A 1 aのうち北近畿系Aには、1275・1722があり、流路3と流路2から出土している。北近畿各地でみられる器形で、後期末から庄内期のものであろう。

器台A 2 aの口縁部を拡張し外面に擬回線や回線を施すものはすべて北近畿系Aで、375・1418・1611の3点である。器台A 2 bは北近畿系A亜種とし、拡張部分の幅が狭いものである。技法的にはA 2 aと同じである。318・495・496・764・765・1276の6点があり、器台A 2 bの大半である。1611は流路1-2、他はすべて流路3からの出土である。器台A 2 aは庄内期直前の西谷1式（高野陽子 2006）頃と推定している。また、亜種としたA 2 bも同時期であろう。

器台A 3は口縁が屈曲して段状口縁になる形態で、768・986・1612・1744のすべてが北近畿系Aである。流路3から2点と流路1-2、井戸1から各1点出土している。器台A 3は北近畿から北播磨にかけて認められるもので、庄内期中頃の浅後谷南1式（高野陽子 2006）頃と思われる。

器台Cは北陸から北近畿でみられる装飾器台で、762とその口縁部である763があり、流路3出土である。口縁部の形態から後期末から庄内式古段階の西谷2式（高野陽子 2006）と判断され、多賀編年（多賀茂治 2000）ではVI-1期古段階で、庄内式並行期前半の弥生時代終末期である。

② 北近畿系B

北近畿系と判断する根拠に乏しいが、可能性があるものを北近畿系Bとした。

甕 北近畿系Bとした甕には、甕A 2、甕A 4、甕B 6、甕B 7、甕C 1、甕C 3～甕C 5、甕C 7、甕C 8がある。甕A 2で北近畿系Bとしたものには、流路3出土の246・247がある。北丹波の綾部市青野西遺跡（小山雅人 1985）、綾部市小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）や、西丹波の丹波市七日市遺跡（種定淳介 1990）、丹波市犬岡遺跡（山田清朝 編 1995）、および北播磨の多可町田野口・籠町遺跡（安平勝利 2008）などに出土例があるが、兵庫県内の広域で認められる口縁形態である。あまり明確な特徴でないことから北近畿系Bとした。他に415・529・531・532・536も可能性がある。

甕A 4には1059・1061・1552があり、1552以外は流路3出土である。口縁部上半の器厚が薄くなるものは北丹波の小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）（第20図）、南丹波の亀岡市北金岐遺跡（石井清司・田代 弘・中坪央塊 1985）で認められ、北播磨の加東市家原・堂ノ元遺跡（森下大輔 編 1984）でも出土例がある。あまり明確な技法でないため北近畿系Bとした。なお、1017・1018もその可能性がある。

甕B 6で流路3出土の1303のように、口縁端部外面に擬回線を施す土器は綾部市青野西遺跡（小山雅人 1985）や小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）などで例があり、北近畿に広く認められる技法であることから、北近畿系Aとすべきかもしれない。

甕B 7のうち北近畿系Bとしたものには、333・339・533～535・807の6点があり、甕B 7の大半を占める。流路3から出土している。跳ね上げるような口縁端部で外面が凹面をなすものは丹波篠山市板井寺ヶ谷遺跡（池田正男・村上泰樹 編 1992）（第20図）、丹波市国領遺跡（吉識雅仁・村上泰樹 1993）、多可町蛭屋・土井の後遺跡（宮原文隆 1997）、多可町田野口・竜町遺跡（安平勝利 2008）、加東市家原・堂ノ元遺跡（森下大輔 編 1984）で出土例があり、西丹波から北播磨にかけてみられるようである。

甕C 1・甕C 3～甕C 5で北近畿系Bとしたものは、細片や小片で、特徴部分が鈍いものや、その類型の中で分類基準から少し外れたもので、北近畿系Aと判断する際に躊躇したものである。ただし、特徴からみると北近畿系Aとしてもよいように思われる。それらには、甕C 1の1668・1771、甕C 3の1325・1328、甕C 4の1045・1052・1057、甕C 5の1049・1449・1658・1800があり、1658・1668は流路2から、1771は井戸3から、1800はビット5から、他はすべて流路3から出土している。

甕C 7のうち北近畿系Bとしたものには、256・394・1048・1320・1321の5点があり、甕C 7の半数近くを占め、流路3出土である。口縁端部を曲げて受口状にするものは広い地域で認められるが、甕C 2や甕C 3・甕C 5と共に通する部分が多いことから北近畿系の可能性があるものとしておきたい。北丹波地域の小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）に近いものがあり、綾部市青野A地点（沢 龍雄・中村孝行 ほか 1976）などでは鉢の口縁部に似た形態が多い。また、417と似た形態に板井寺ヶ谷SK 05出土土器（池田正男・村上泰樹 編 1992）がある。なお、393・1319・1833も北近畿系Bの可能性もある。

甕C 8には341・563・816があり、すべて北近畿系Bで、流路3出土である。口縁部下面に特徴があり、丹波篠山市板井寺ヶ谷遺跡（池田正男・村上泰樹 編 1992）で類似例が多く認められ、綾部市の青野西遺跡（小山雅人 1985）や小西町田遺跡（三好博喜 ほか 1993）（第20図）にも類似例がある。

壺 北近畿系Bの壺には、壺A 2、壺B 2、壺D 3、壺E 1がある。

壺A 2のすべてで、275・438・581～583・949・1113の7点があり、類例は管見では認められなかったが、有段口縁で、口縁端部は甕C 5と同じ技法である理由で北近畿系Bと判断した。流路3出土である。

壺B 2は多くが北近畿系Aであるが、流路3出土の954は北近畿系Bとした。薄手で屈曲が大きい壺口縁部は管見では見当たらず。口縁上部の長さが異なるが、京丹後市裏陰遺跡（杉原和雄 ほか 1979）や丹波市大岡遺跡（山田清朝 編 1995）に類似例がある。壺D 3も約半数が北近畿系Aであるが、北近畿系Bには1432・1560がある。形態的に不明確であることにより判断した。流路3と流路1-2から出土している。壺E 1の350は、口縁部外面に回線を施す点が甕C 8と共に通することから北近畿系Bとした。

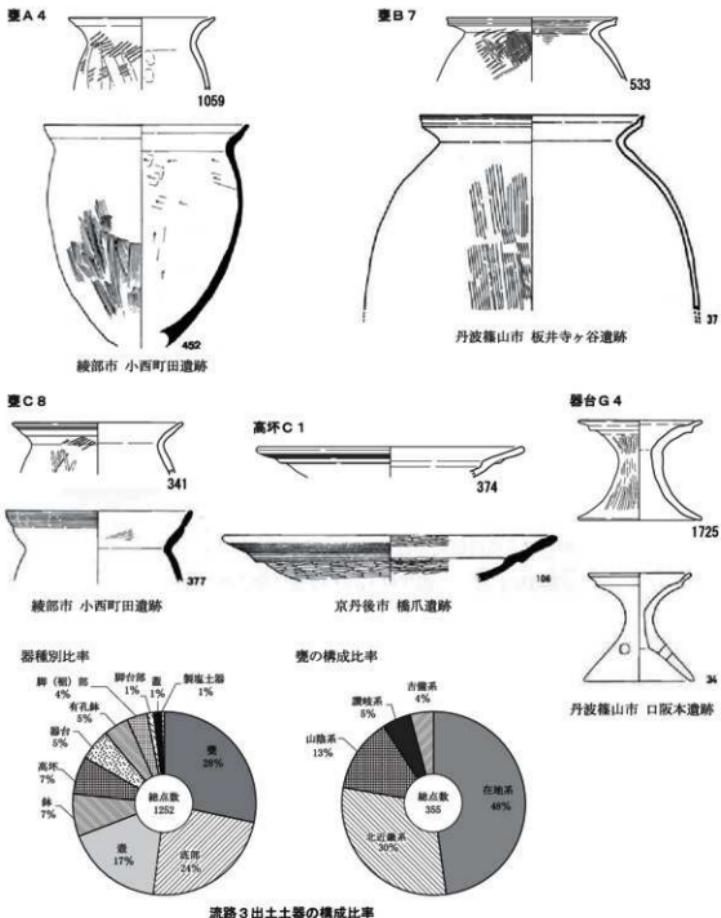
鉢 北近畿系Bの鉢には、鉢F 3の口縁上部が受口状になった623がある。流路3出土である。

高坏 北近畿系Bの高坏には、高坏A 3 b、高坏C 2がある。高坏A 3 bでは739・740の同一個体1点で、流路3出土である。口縁端面を少し拡張し回線を施すものは北近畿系の壺や壺などによくみられるが、管見では類例が認められないが、加西市殿原辻井遺跡で酷似例が出土しているようである。高坏C 2の754は口縁端部が受口に近いことから北近畿系Bとした。擬回線は施さない。流路3出土である。

器台 器台A 2 bで口縁部外面に回線や擬回線を施さない319と、器台Fで口縁部形態が特異な1419を北近畿系Bとした。どちらも流路3出土である。小型器台のG 4では377・1725が北近畿系Bで、流路3と流路2からの出土である。丹波篠山市口阪本遺跡土壤301出土（松下 勝・岡田章一 編 1981）

器台（第20図）に口縁部が類似し、多賀編年（多賀茂治 2000）ではVI-2期古段階で、庄内式並行期後半の弥生時代終末期とされている。ほかに、不明口縁部の356・1421がある。

流路3から出土した土器のうち、北近畿系Aとした甕口縁部は71点、壺口縁部は21点、高坏は6点、器台は12点である。これらの各器種に占める割合は甕口縁部の約20.0%、壺口縁部では約10.1%、高坏では約7.0%、器台では約17.9%である。これらに北近畿系Bやその可能性があるものも加えると、甕口縁部は106点、壺口縁部は31点、高坏は8点、器台は17点になり、各器種に占める割合は甕口縁部の約29.9%、壺口縁部では約14.3%、高坏では約9.3%、器台では約25.4%になる。



第20図 北近畿系土器の類例と土器の構成比率

4. 流路3出土土器の比率について

鵜遺跡の流路3から出土し報告した土器のうち、庄内期およびその前後の土器の器種別構成比率は第20図下左のようになる。それらのうちの甕について、これまでみてきた他地域系土器の比率を示したのが第20図右のグラフである。北近畿系としたものは約30%と非常に多くの比率を占め、次いで山陰系が約13%、讃岐系と吉備系はそれぞれ約5%と約4%である。他地域系かどうか判別できないものは在地系とし、それらは約48%を占める結果となった。また、他地域系の甕のみの構成比率は、北近畿系が約57%、山陰系は約25%、讃岐系が約10%、吉備系は約8%である。北近畿系が多くを占めるという点では、姫路市長越遺跡や姫路市丁柳ヶ瀬遺跡に近い（岸本道昭 2022）が、両遺跡では讃岐系が約半数を占める点や、山陰系土器の比率においても鵜遺跡流路3出土土器の様相とは大きく異なる。

今回、甕の他地域系土器の認定について、多くは形態や技法の部分によって判断したが、讃岐系や吉備系では胎土も含めて根拠にした。讃岐系・吉備系については搬入品と判断するのが通常であり、山陰系もその可能性があるが、北近畿系としたものは、すべてを搬入品と判断しているのではなく、技法的に影響を受けた土器と認定したものも多くある。このことは、鵜遺跡をはじめその周辺の遺跡、ひいては播磨の土器の様相が明確にできなかつたためであり、今後の課題としておきたい。同時に、他地域における播磨系土器の出土例の様相を明らかにできなかつたことから、土器の搬入や人の移入の可能性が高いものの、「交流」について言及できなかつた。これも今後の課題としておきたい。

流路3出土土器のうち、報告しなかつた甕口縁部は細片も含め2,556点にのぼる。それらを他地域系別にみると北近畿系が約36.4%で最も多く、次いで山陰系の約4.9%、讃岐系は約0.9%、吉備系が約0.7%、残り57.2%が在地系になり、報告分より在地系と北近畿系が多く、他は少ない結果となった。

なお、流路3出土甕のうち庄内形播磨型としたものは、米田敏幸氏の「庄内播磨型」の提唱（米田敏幸 1992）にもとづく名称であるが、播磨型庄内形ともいわれるこの器形については、伝統的甕とは異なる点で明確に区別できたものの、田中元浩氏の分析（長友朋子・田中元浩 2007、田中元浩 2008）による庄内形甕のa・b両者の存在は認められず、あえて言えば、内面ヘラケズリが屈曲部までおよぶ庄内形甕aのみであった。ただし、外面タタキ目の条数密度は11条/cm～13条/cmの極細のもので、田中氏による鵜遺跡の分析結果に合致した。土器の様相は集落ごと、さらには集落内の居住箇所（出土部分）によって異なるという点は、集落内居住者がすべて一律で同一の製作技法を用いて土器を作製していたわけではなかつたためであろう。

今回の流路3出土土器の報告では、出土層位による土器の時期的変遷を明らかにするべく、出土層位別に整理したが、結果的には明確な区分ができなかつた。土器量が多く、大半が小片であったことと時間的余裕がなかつたためもあるが、土器分類を優先して図示した方が理解しやすかったと思われる。

参考文献

- 池田正男・村上泰樹 編 1992『板井寺ヶ谷遺跡－绳文時代～中世の調査－』兵庫県文化財調査報告 第96-2冊 兵庫県教育委員会
- 石井清司 1989 a 「大宮町正垣遺跡」『京都府弥生土器集成』財京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 石井清司 1989 b 「亀岡市北金丸遺跡」『京都府弥生土器集成』財京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 石井清司・黒田恭正ほか 1981 「鴨遺跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』第2分冊 京都府教育委員会
- 石井清司・田代 弘・中坪央焼 1985 「北金丸遺跡」『京都府遺跡調査報告書』第5冊 財京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 石崎勝久・黒坪一樹・福島孝行 2000 「1淡路谷南遺跡」『京都府遺跡調査概報』第93冊 財京都府埋蔵文化財調査研究センター

- 石崎善久・三好 玄・高野陽子ほか 2004『赤坂今井塙丘墓発掘調査報告書』京都府山口町埋蔵文化財調査報告書 第24集 峰山町
教育委員会
- 伊藤 晃 1995『III 土器・陶磁器 9. 中世陶器 [4] 備前』『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真島社
- 伊藤宏幸 2022「古代淡路島の土器製造研究の現状と課題」『ひょうご歴史研究紀要』第7号 兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史
研究室
- 伊藤 実 1992「各地域の様式と編年 備後地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 正岡謙夫・松本岩雄編 椿木印社
- 伊藤 実 2001『安芸(西条盆地)地域の庄内期の土器標相』『庄内式土器研究 XXV』四国地方を中心として 庄内式土器研究会
- 上田哲也・中瀬康則 編 1971『山陽新幹線建設地内 兵庫県埋蔵文化財調査報告書』兵庫県文化財調査報告 第5冊 兵庫県教育委
員会・龍野市教育委員会
- 上田哲也・中瀬康則 1973『揖保郡太刀町跡』『播磨の土師器の研究』東洋大学付属姫路高等学校 第3冊 東洋大学付属姫路高
等学校考古学教室
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁輪の分類について」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
- 梅木謙一 2000「各地域の様式と編年 伊予中部地域」『弥生土器の様式と編年』四国編 岩原康夫・梅木謙一編 椿木印社
- 梅木謙一 2009「3世紀の伊予と西部瀬戸内との土器交流」『福馬台跡付近の西部瀬戸内上近畿』ふたかみ福馬台国シンポジウム9 資
料集 香芝市二上山博物館 編 香芝市教育委員会
- 大久保徹也 1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『下川津遺跡』瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文
化財発掘調査報告Ⅷ 香川県教育委員会・瀬戸香川県埋蔵文化財調査センター・本州西端鉄道株公团
- 大久保徹也 2006「諭杖及び河辺地域の前方後円墳成立期の土器標相」『古式土師器の年代学』瀬戸大阪府文化財センター
- 大崎和則 2001「高松平野における庄内併行期の土器標相」『庄内式土器研究 XXIV』四国地方を中心として 庄内式土器研究会
- 大西浩正 編 1990『黒谷川跡遺跡』V 徳島県教育委員会
- 甲斐昭光 編 2005『加都遺跡I』兵庫県文化財調査報告 第285冊 兵庫県教育委員会
- 亀山行雄 2006「吉備地域の古式土師器」『古式土師器の年代学』瀬戸大阪府文化財センター
- 河合 忍 2021「吉備南部の精製輪縁群と布底式土器との関係について－弥生時代後期中葉～古墳時代前期前葉土器の分析から－」
『古墳出現期土器研究』第8号 古墳出現期土器研究会
- 岸本道昭 1996「西播磨の庄内期前後」『庄内式土器研究 X』浜田・播磨を中心とする庄内併行期の土器 庄内式土器研究会
- 岸本道昭 2006「播磨の集落と初期古墳」『福馬台跡付近の河内・播磨・播磨と大和』ふたかみ福馬台国シンポジウム6 資料集 香
芝市二上山博物館 編 香芝市教育委員会
- 岸本道昭 2022『播磨の前方後円墳と優玉旗』同成社
- 柄井理輝 2016「古墳出現期の猪名川流域・外來系土器の検討を中心としてー」『古墳出現期土器研究』第4号 古墳出現期土器研
究会
- 栗林誠治 2001「四國の東阿波型土器」『庄内式土器研究 XIV』四国地方を中心として 庄内式土器研究会
- 小山雅人 1985「青野西遺跡」『京都府道路調査報告書』第4冊 瀬京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 近藤 琴 2001「阿波東部(吉野川下流域)」『庄内式土器研究 XIV』四国地方を中心として 庄内式土器研究会
- 篠宮 正 2007「東播磨地域の編年」『弥生土器集成と編年－播磨編－』大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究
報告 第5号 大手前大学史学研究所
- 柴田昌児 2000「各地域の様式と編年 伊予東部地域」『弥生土器の様式と編年』四国編 岩原康夫・梅木謙一編 椿木印社
- 柴田昌児 2001「伊予東部地域における古墳時代初頭前後の土器標相と地域間交流」『庄内式土器研究 XIV』四国地方を中心とし
て 庄内式土器研究会

- 积 龍雄・中村孝行 ほか 1976『青野遺跡A地点発掘調査報告書』総部市文化財調査報告 第2集 青野遺跡調査報告書刊行会
- 菅原康夫 1987『黒谷川郡御遺跡』II 徳島県教育委員会
- 菅原康夫 2006『阿波の集落と初期古墳』『邪馬台群解説/阿波・讃岐・播磨と大和』ふたかみ邪馬台国シンポジウム6 資料集 香芝市二上山博物館編 香芝市教育委員会
- 菅原康夫・池山雄一 2000『各地域の様式と編年: 阿波地域』『弥生土器の様式と編年』四国編 菅原康夫・梅木謙一編 梅木耳社
- 杉尾和雄 ほか 1979『霧除道路発掘調査概報』大宮町文化財調査報告 第1集 大宮町教育委員会
- 妹尾周三 1992『各地域の様式と編年: 安芸地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 正岡謙夫・松本岩雄編 梅木耳社
- 平良泰久・石井清司 1989『崎山古戦遺跡』『京都府弥生土器集成』財京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 多賀茂治 2000『兵庫丹波における庄内式併行期の土器類相』『庄内式土器研究』XXII 丹波・丹後・但馬を中心とした庄内式併行期の土器の移動 庄内式土器研究会
- 第20回播磨考古学研究集会実行委員会編 2019『土器からみた3世紀の播磨』第20回播磨考古学研究集会 資料集
- 高野陽子 2002『近畿地方北部の土器』『考古資料大綱』第2巻 弥生・古墳時代 土器II 赤坂次郎編 小学館
- 高野陽子 2006『丹後地域—播磨理線文土器の様式と変遷—』『古式土器の年代学』財大阪府文化財センター
- 高野陽子 2015『弥生首長墓の供獻土器と地域間関係—赤坂今井埴丘墓の供獻土器—』『古墳出現期土器研究』第3号 古墳出現期土器研究会
- 高橋 譲 1988 a『弥生時代終末期の土器編年』『研究報告』9 岡山県立博物館
- 高橋 譲 1988 b『岡山県南部地方の土器編年と庄内式』『八尾市文化財紀要』3 八尾市教育委員会文化財室
- 高橋美久二 ほか 1977『林道跡発掘調査報告書』網野町文化財調査報告書 第1集 網野町教育委員会
- 高畠知功 1992『各地域の様式と編年: 備中地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 正岡謙夫・松本岩雄編 梅木耳社
- 田中元浩 2008『庄内形態の地性—播磨地域の検討から—』『吾々の考古学』和田晴吾先生讃嘆記念論集刊行会
- 谷口恭子 2000『因幡における弥生時代後期から庄内式併行期の土器について』『庄内式土器研究』XXII 丹波・丹後・但馬を中心とした庄内式併行期の土器の移動 庄内式土器研究会
- 谷口恭子・前田 均 編 1991『若吉遺跡III』鳥取市文化財報告書 30 鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査班
- 鴨治守介 1990『七日市遺跡(1)』第2分冊一 兵庫県文化財調査報告 第72-2号 兵庫県教育委員会
- 近澤豊明 2000『北丹波における庄内式併行期のタキ焼について—丹後系土器様式の変容と崩壊—』『庄内式土器研究』XXII 丹波・丹後・但馬を中心とした庄内式併行期の土器の移動 庄内式土器研究会
- 近澤豊明・井口一三 1993『庄村遺跡発掘調査概報』『総部市文化財調査報告』第19集 総部市教育委員会
- 近澤豊明・三好博喜 1996『由良川下流域の庄内式併行期の土器について』『庄内式土器研究』XII 梶津・播磨を中心とする庄内併行期の土器 庄内式土器研究会
- 次山 淳 2007『古墳時代初頭の瀬戸内ルートをめぐる土器と交流』『考古学研究』第54巻第3号(通巻215号) 考古学研究会
- 徳原多喜雄 1997『田井繩遺跡(天神地区・朝井地区)』『水上郡埋蔵文化財発掘調査概要報告書I』水上郡埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集 水上郡教育委員会
- 長友朋子・田中元浩 2007『西播磨地域の編年』『弥生土器集成と編年—播磨編—』大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究報告 第5号 大手前大学史学研究所
- 西岡達哉 編 1989『四国開拓自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』第6号 稲木遺跡』香川県埋蔵文化財研究会
- 横本誠一 編 1971『川島・立岡遺跡』太子町教育委員会
- 藤好史郎・西村尋文 編 1990『下川田遺跡』瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VII 香川県教育委員会・瀬戸川田埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡会

- 間堀忠彦・間堀寛子・藤田憲司 1977『岡山県真備町黒宮大塚古墳』『倉敷考古館研究集報』第13号 貢倉敷考古館
- 牧本哲雄 1999『古墳時代の土器について』『長瀬高浜道跡Ⅳ 圖版6道路』鳥取県教育文化財調査報告書61 貢鳥取県教育文化財調査・建設省倉敷工事事務所
- 牧本哲雄 2020「第3節 土器の編年」『新鳥取県史(資料編)』考古2 古墳時代 鳥取県
- 正岡睦夫 1992『各地域の模式と編年 備前地城』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 正岡睦夫・松木謙三編 横木社
- 松下 勝 編 1978『播磨・長越道路』兵庫県文化財調査報告 第12冊 兵庫県教育委員会
- 松下 勝・岡田章一 編 1981『丹波・ロ阪本道路』多紀郡西紀丹波町教育委員会
- 松本正信・中嶽康則・今里幾次 1989『考古学からみた太子町』『太子町史』第3巻 太子町
- 真鍋昌宏 2000『各地域の模式と編年 諸割地城』『弥生土器の様式と編年』四国編 菅原康夫・梅木謙一編 横木社
- 三村修次・田村三千夫 1989『播磨道路』『播磨国鴨庄現況調査報告 II』太子町教育委員会
- 三村修次・田村三千夫 1990『東南・東保・東出郷Ⅰにおける考古学的調査の概要』『播磨国鴨庄現況調査報告 III』太子町教育委員会
- 宮崎清一・藤田忠彦 1991『有原・田中遺跡』赤穂市教育委員会
- 宮原文隆 1997『荒屋・土井の後遺跡』中町文化財調査報告 14 多可郡中町教育委員会
- 宮原文隆 1998『思い出遺跡群Ⅰ』中町文化財調査報告 17 多可郡中町教育委員会
- 三好博喜(ほか) 1993『京都府遺跡調査報告書』第18冊 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 村上泰樹・久保弘幸 編 1990『上板井道路発掘調査報告書』兵庫県文化財調査報告 第76冊 兵庫県教育委員会
- 森岡秀人 1999『折衝における土器交換燃心的性格』『庄内式土器研究 XXI』折衝・播磨地域 庄内式土器研究会
- 森下大輔 1991『下三草・調附ノ下遺跡』加東郡埋蔵文化財報告 12 加東郡教育委員会
- 森下大輔 編 1984『和原・兼ノ元遺跡』加東郡埋蔵文化財報告 5 加東郡教育委員会
- 安平勝利 2008『弥生後期後半～庄内期の土器の地盤』『田町口・荒町遺跡III』多可町文化財調査報告 6 多可町教育委員会
- 山下史朗 編 1991『大河内遺跡』兵庫県文化財調査報告 第98冊 兵庫県教育委員会
- 山田清朝 編 1995『犬岡遺跡』兵庫県文化財調査報告 第147冊 兵庫県教育委員会
- 山田隆一 2006『大阪府出土の調岐・阿波・播磨系土器』『邪馬台国時代の阿波・調岐・播磨と大和』ふたかみ邪馬台国シンポジウム6 資料集 香芝市二上山市教育委員会
- 山中良平 編 2014『有原半礼・山田道跡発掘調査報告書』赤穂市文化財調査報告書78 赤穂市教育委員会
- 吉職雅仁・村上泰樹 1993『國府遺跡(II)』兵庫県文化財調査報告 第122冊 兵庫県教育委員会
- 米田敏幸 1992『庄内播磨型焼の提唱－松下勝氏の計画に接して－』『庄内式土器研究 III』庄内式併行期の土器生産とその移動庄内式土器研究会
- 溝畠健太 2017『飯田遺跡』兵庫県文化財調査報告 第488冊 兵庫県教育委員会
- 溝畠昇 1994『播磨における庄内式土器について』『庄内式土器研究 V』関東における庄内式併行期の土器の移動 庄内式土器研究会
- 溝畠昇 1999『庄内期の播磨の基盤』『庄内式土器研究 XXI』折衝・播磨地域 庄内式土器研究会
- 溝畠昇 2010『播磨・長越道路II』兵庫県文化財調査報告 第375冊 兵庫県教育委員会
- 溝畠昇 編 1990『上構遺跡』兵庫県文化財調査報告 第69冊 兵庫県教育委員会
- 溝畠昇 編 2009『鶴石田遺跡』兵庫県文化財調査報告 第363冊 兵庫県教育委員会
- 溝畠昇 編 2012『播磨・長越道路III』兵庫県文化財調査報告 第432冊 兵庫県教育委員会

番号	種別	種類	類型	構造	部位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	高さ	腹径	底径						
1	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	V形	16.30	(2.40)	-	1/30	口縁部の外脚に削り足を施す。内側に溝状凹文	1~2mm大の砂粒。くさり	13	48	締合む
2	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-2層	16.70	(3.70)	-	1/9	口縁部底上半に削り足。頭部外縫ハック	2mm以下の中砂粒	13	48	
3	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	-	(6.70)	-	1/6	頭部に3条以上の横筋を付けて脚部を加える。外縫ハックア。	1mm以下の中砂粒。長石、チャート中砂粒む	13	48	
4	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	-	(5.80)	-	1/7	頭部に脚部に4条ずつの横筋と直文。頭部タグハック	3mm以下の中チャート・石英多く含む	13	48	
5	新生土器	直	無脚壺 上半部	洞脚3 4-5区	V-1層 V形	14.40	(2.75)	-	1/8	頭部下に押収文突起を2条付ける。下部に横筋直縫	1~2mm大の砂粒。石英含む	13	48		
6	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-6層	11.20	(6.25)	-	1/8	横筋下に2条の削り足突起を1つ付ける。下部に横筋直縫	0.5mm程の砂粒と小石含む	13	48	
7	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 4区	VI-1層	15.70	(8.20)	-	1/4	頭部に2ヶ所の横筋を付けて脚部を加える。外縫ハックア。	1.5mm以下の中砂粒	13	48	
8	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-1層	12.00	(3.10)	-	1/7	頭部に脚部に4条ずつの横筋と直文。頭部タグハック	砂を多く含む	13	48	
9	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	IV-6層	(26.30)	(1.45)	-	1/8	頭部下に4箇所以上のかづらつ。全周がカクナホ	2mm以下の砂粒含む	13	48	
10	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層 外縫	(14.35)	(1.30)	-	1/8	頭部下に4箇所以上のかづらつ。全周がカクナホ	2mm以下の砂粒含む	13	48	
11	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2-3区	Ⅴ層	(18.00)	(8.40)	-	1/12	1条以上の口縫内垂幕筋付し。内側に横筋以上の小孔づつ。小孔の内縫の縫き不正確	3mm以下のくさり砂や多い。1.5mm以下の石英、チャート中砂粒含む	13	48	
12	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4-5区	IV-5層 内縫+外縫	(17.20)	(2.90)	-	1/8	下端面に3条の凹縫を施す。肩部加え後、4個の内縫の内縫文を主に両方に施す。縫上端と口縫内縫に削り足を施す。間に2箇所の小孔を4方に開けた。頭部に脚部に2ヶ所突起を兼ねる	1~2mm大の砂粒。石英含む	13	48	
13	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	VI-1層	12.50	(6.70)	-	1/8	口縫部下に斜筋子文。頭部に押収文突起付	0.5~1mmの小石と砂粒を多量に含む	13	48	同じ同一個体の可逆性あり
14	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	(21.40)	(5.70)	-	1/6	口縫部下に斜筋子文。頭部に押収文突起付。外縫ハックア。	2mm以下の中チャート・石英他多く含む	13	48	
15	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	16.70	(9.20)	-	1/3	頭部に2ヶ所の横筋を施す。頭部に削り足2段付	1~2mm大の砂粒。石英含む	13	48	
16	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	(26.30)	(5.60)	-	1/7	頭部下に2条の凹縫と外縫に削り足。外縫ハックア	0.5~1mmの小石と砂粒を多量に含む	13	49	
17	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	(24.10)	(4.10)	-	1/8	頭部に削り足	2mm以下の中チャート他中砂粒含む	13	49	
18	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	(25.30)	(5.80)	-	1/6	頭部に円形浮文剥離面あり。外縫タグハック、内縫横ヘラギモ	砂を多く含む	13	49	
19	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	IV-2層	-	(1.55)	-	1/8	頭部に3条の凹縫	砂を多く含む	13	49	
20	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	VI-1層	(16.00)	(3.30)	-	1/5	頭部に削り足と横筋が残る	1mm以下の小石と砂粒を多量に含む	14	49	
21	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	(18.20)	(5.60)	-	1/7	頭部下にによる削り足。頭部に削面三角筋突起1条以上付ける。外縫タグハック	1.5mm以下の中チャート・石英他多く含む	14	49	
22	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2区	VI層	(15.90)	(9.65)	-	1/6	頭部下に削面三角筋突起1条以上付ける。頭部下部外縫横ヘラックア。頭部内縫横ヘラギモ	2mm以下の砂粒含む	14	49	
23	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	VI-1層	(14.00)	(4.20)	-	1/4	頭部は無く、頭部外縫タグハック。内縫にタグハック	1mm以下の小石と砂粒を多量に含む	14	49	
24	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2区	VI-2層	(15.00)	(8.35)	-	1/4	頭部内縫タグハック。内縫にハックア。頭部に3条以上の押収文突起付	1~2mm大の砂粒。石英含む	14	49	
25	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2区	VI-2層	(15.70)	(4.70)	-	1/6	頭部に壓突文。頭部に削り足2段付	0.5~1mmの砂粒。石英他多く含む	14	49	
26	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	(19.40)	(6.05)	-	1/6	頭部底上に削り足。頭部に削面三角筋突起1条以上付ける。外縫タグハック	1mm大の砂粒。石英含む	14	49	
27	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 4区	V形	-	-	-	1/6	頭部底上に削り足。頭部はわずかに削面。頭部横ヘラギモ	砂を多く含む	14	49	
28	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	(15.90)	(8.00)	-	1/30	頭部外縫タグハック。内縫にハックア。頭部に3条以上の押収文突起付	1~2mm大の砂粒。石英含む	14	49	
29	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 4区	IV-2層	(25.60)	(8.50)	-	1/8	頭部底上に削り足。頭部に削面三角筋突起1条以上付ける。内縫タグハック	0.5~1mmの砂粒。石英他多く含む	14	49	
30	新生土器	直	無脚壺	口縁部	洞脚3 4区	IV-6層	(17.10)	(2.65)	-	1/8	頭部底上に削り足。頭部に削面3条以上付ける。内縫横ヘラギモ	頭部を多く含む	14	49	
31	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	-	(2.00)	-	1/8	頭部底上に削り足。頭部は2箇所付ける。頭部横ヘラギモ	0.5~1.5mmの砂粒含む	14	50	
32	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	(19.60)	(2.95)	-	1/12	頭部底上に削り足。頭部を2箇所付ける。頭部横ヘラギモ	1mm以下の砂粒含む	14	50	
33	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	-	(1.40)	-	1/8	頭部底上に削り足。頭部に削面3条以上付ける。内縫タグハック	4mm大以下の砂粒含む	14	50	
34	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2区	IV-7層	(25.30)	(2.40)	-	1/8	頭部底上に削り足。頭部に削面3条以上付ける。内縫横ヘラギモ	1.5mm大以下の砂粒。石英含む	14	50	
35	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 4区	IV-6層	-	(2.10)	-	1/4	頭部下に3条の凹縫。土端と口縫内突起上端に削り足	0.5mm以下の中砂粒含む	14	50	
36	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-6層	-	(1.60)	-	1/4	頭部底上に削り足。頭部に3条以上の押収文突起付	2mm以下の中砂粒含む	14	50	
37	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 5区	IV-3層	-	(1.55)	-	1/4	頭部底上に削り足。頭部はわずかに削面。頭部横ヘラギモ	2mm以下の中砂粒含む	14	50	
38	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 4区	VI-2層	(15.90)	(8.00)	-	1/30	頭部外縫タグハック。内縫にハックア。頭部を交差する3条以上の押収文突起付	2mm以下の砂粒含む	14	50	
39	新生土器	直	壺形	口縁部	洞脚3 4区	IV-2層	-	(1.40)	-	1/8	頭部底上に削り足。頭部に削面3条以上付ける。内縫タグハック	4mm大以下の砂粒含む	14	50	
40	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2区	VI-2層	-	(3.30)	-	1/8	頭部と底部の間に1条の付粘突起付し削り足を加える	0.5~1.5mmの砂粒含む	14	50	
41	新生土器	直	広口壺	口縁部	洞脚3 2区	IV-6層	-	(6.10)	-	1/8	頭部と底部の間に1条の付粘突起付し削り足を加える	4mm以下の砂粒・石英含む	14	50	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	基高	腹径	底径						
42	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	IV-6層	-	(3.50)	-	-	肩部 若干	頭部と底部の壺に押圧変形。体部外縁カタハケ 有り。	2.5mm以上の砂粘・石英含む	-	50	
43	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	V上層	-	(4.40)	-	-	肩部 若干	頭部と底部の壺に押圧変形。体部外縁カタハケ 有り。	0.5~1mmの砂粒・石英少 量含む	IV層までの 土壠基盤 に於ける	50	
44	新生土	森	受口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(4.20)	-	-	肩部 若干	頭部と底部の壺に押圧変形	4mm以下の大砂粒多く含 み、石英含む	広口壺の 可能性あり	50	
45	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 5孔	VI-2層	-	(4.50)	-	-	肩部 若干	半管竹管による瓶文	6mm以下の大砂粒・石英含 む	便の可能 性あり	50	
46	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 5孔	VI-2層	-	(5.90)	-	-	肩部 若干	頭部から底部にかけて6条の網状波状又は直線文を 交互に2~3部以上呈す	0.5~1.5mmの砂粒含む	網状文の 可能性あり	14	50
47	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(6.40)	-	-	肩部 若干	肩部に6本甲側の網状波状文と直状文を交互に2部 以上呈す。頭部にタリマー調節。底部内面ハゲ剥離	2.5mm以下のチャート・石英 中量含む	1/8 地帯の 可能性あり	50	
48	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	IV-2層	-	(5.60)	-	-	肩部 若干	頭部下端から底部にかけて網状波状文・直状文、瓶 文片、頭部下端に網状テラモリ	砂粒・細砂を少量含む	他地域系 か	50	
49	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI層	-	(4.55)	-	-	肩部 若干	土から6条の網状波状文と3条の直線文、3条の直 状文を2部以上呈す	1~3mmの大砂粒含む	-	50	
50	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(4.70)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直線文・直状文を呈す。内面剥離はハ カク。	1mm以下のチャート中量含 む	-	50	
51	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	Vc層	-	(3.70)	-	-	肩部 若干	外縁タフヘケ後、網状波状文・直状文・直線文を呈 す。内面剥離はハカク。	1~2mmの砂粒含む	色調か ら内糞か 調節系の 可能性	50	
52	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(7.95)	-	-	肩部 若干	内面タリマー後、網状波状文・直状文・直線文を呈 す。瓶吹きの直後部分あり。	石英など1mm以下の大砂 粒含む	-	50	
53	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(7.55)	-	-	肩部 若干	内面タリマー後、網状波状文・直状文・直線文を呈す。 直状文の直後部分あり。内面剥離タリマー	0.5~2.5mmの砂粒含む	-	50	
54	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 5孔	IV-6層	-	(5.70)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直状文が2段びつ現存。瓶吹きに直後 部分あり。内面タリマー	2mm以下の砂粒・褐色粒子 含む	-	50	
55	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 5孔	VI-2層	-	(4.10)	-	-	肩部 若干	網状波状文、直状文又は直線文を呈す	8mm以下の砂粒含む	-	50	
56	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI-2層	-	(4.40)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直状文又は直線文を呈す。	4mm以下の砂粒・石英含 む	-	50	
57	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI-2層	-	(4.10)	-	-	肩部 若干	内面タリマー	4mm以下の砂粒・石英含 む	-	50	
58	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(3.30)	-	-	肩部 若干	網内タリマー後、網状波状文・直状文又は直線 文を呈す。	3mm以下の大砂粒含む	-	50	
59	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI層	-	(2.90)	-	-	肩部 若干	網状波状文、直状文又は直線文を呈す。	4.5mm以下の砂粒含む	-	50	
60	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI-2層	-	(4.70)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直状文	3mm以下の大砂粒含 む	-	50	
61	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(4.20)	-	-	肩部 若干	網状波状文を幾度吹き風に施す	1.5mm以下の砂粒含む	-	51	
62	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 5孔	V-1~ 2層	-	(4.40)	-	-	肩部 若干	内面タリマー後、網状波状文・直状文	0.5mm以下の砂粒含む	-	51	
63	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI層	-	(3.10)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直状文又は直線文を呈す。	1mm以下の砂粒・石英含 む	-	51	
64	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	V層	-	(2.60)	-	-	肩部 若干	網状波状文と瓶吹きを交互に施す	4mm以下の砂粒含む	-	51	
65	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI上層	-	(2.50)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直状文	3.5mm以下の大砂粒含む	IV層まで の土壠基盤 に於ける	51	
66	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(3.80)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直状文各1基微存	2.5mm以下の砂粒・石英含 む	-	51	
67	新生土	森か かく	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(3.90)	-	-	肩部 若干	網状波状文2基以上、三角形剥離文。内面ナデ ガ	0.5~2mmの砂粒をや や多く含む	-	51	
68	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI層	-	(2.90)	-	-	肩部 若干	網状波状文・瓶吹き各1基微存	2mm以下の砂粒含む	-	51	
69	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	IV-5層	-	(2.15)	-	-	肩部 若干	網状波状文X1基、直線文2基微存	2.5mm以下の砂粒含む	-	51	
70	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	IV-6層	-	(3.05)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直線文各1基微存	2mm以下の砂粒含む	-	51	
71	新生土	森か かく	頭部膨	深窓3 2孔	IV-7層	-	(4.60)	-	-	肩部 若干	丸ぶりの網状波状文	2.5mm以下の砂粒含む	-	51	
72	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI層	-	(3.10)	-	-	肩部 若干	網状波状文・瓶吹き各1基微存	2mm以下の大砂粒不含む	-	51	
73	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI層	-	(2.10)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直線文・新葉文	2mm以下の大砂粒含む	-	51	
74	新生土	森か かく	頭部膨	深窓3 4孔	VI-2層	-	(2.60)	-	-	肩部 若干	網状波状文・直線文各1基微存	3mm以下の大砂粒多く含む	-	51	
75	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	VI層	-	(5.10)	-	-	肩部 若干	内面タリマー後、瓶による列点文2基。内面タリマ ー小片	1~2mmの大砂粒含む	-	51	
76	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 2孔	VI層	-	(6.75)	-	-	体部 小片	内面右上部のハケ後、瓶による剥離文を具微施文狀 に施す。	2mm以下の砂粒・赤色粒子 含む	V層まで の土壠基盤 に於ける	51	
77	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 2孔	II-5層	-	(8.95)	-	-	体部 小片	内面タリマー後、瓶による剥離文・直線文を施す。	2mm以下の砂粒含む	-	51	
78	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 4孔	Vc層	-	(8.70)	-	-	体部 小片	内面タリマー後、2本の竹管網状工具により剥離文。 内面には瓶のタリマー	1mmの砂粒・くさり織合む	-	51	
79	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 6孔	VI層	-	(2.50)	-	-	体部 若干	木本の竹管網状工具による剥離文	1mm以下の大砂粒含む	-	51	
80	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 2孔	VI-1層	-	(5.90)	-	-	体部 若干	外層タリマー後。瓶による剥離文を具微施文狀 に施す。	2mm以下の砂粒・石英含 む	同... 個体か	51	
81	新生土	森	広口壺 頭部膨	深窓3 2孔	VI層	-	(3.80)	-	-	体部 若干	外層タリマー後。瓶による剥離文を具微施文狀 に施す。内面タリマー	1mm以下の大砂粒・石英含 む	同... 個体か	51	

番号	種別	種類	類型	構造	部位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	高さ	横径	底径						
82	衛生土器	林か 苔	無筋造 体部	圓筒形	II-2層	-	(5.55)	-	-	底部 小片	上部に2cm以上の脚部と伸長洋芋付、回織文部 下に押立変形部付	堆積物を少含む	-	51	
83	衛生土器	苔	無筋造 口縁部	圓筒形	VII層	(16.05)	(3.90)	-	-	(1)縦部 小片	内側する(1)縦部、端面に削れ、外側に横織文模様 直線	3mm以下の砂粘合む	-	51	
84	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(16.80)	(5.60)	-	-	(1)縦部 1/2	(1)縦部端部に削付、体部外側に横織文模様2本・直斜 丸・直線・透鑿式変形	7.5mm以下のチャート・若 高地小量含む	-	52	
85	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	-	(4.00)	-	-	(1)縦部 1/8	(1)縦部端部に直線も削付加える。体部外側に横織文模 様3本以上	0.5mm以下の砂粘合む	-	52	
86	衛生土器	葉	体部上部	圓筒形	IV-6層	-	(5.20)	(9.00)	-	体部 1/2	体部外側面に横織文模様直線3本	2.5mm以下のチャート・石 面・些少中量含む	-	52	
87	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	IV-6層	(16.70)	(1.20)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部に削付	1mm以下的小石と粗砂を多量に 含む	-	52	
88	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	II-1層	(16.70)	(2.45)	-	-	(1)縦部 1/2	(1)縦部端部に削付	3mm以下の砂粘合む	-	52	
89	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	II-2層	(21.90)	(3.70)	-	-	(1)縦部 1/30	体部外側面に横織文模様	2mm以下の砂粘合む	-	52	
90	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	IV-6層	-	(1.20)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部に削付	3.5mm以下の大粒の砂粘合む	-	52	
91	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	-	(2.05)	-	-	(1)縦部 直付	体部外側面に横織文模様	4.5mm以下の大粒の砂粘合む	-	52	
92	衛生土器	葉	体部上部	圓筒形	VII-1層	-	(3.00)	-	-	体部 直付	体部外側面に横織文模様2条以上	4mm以下の砂粘合む	-	52	
93	衛生土器	葉	体部上部	圓筒形	VII-2層	-	(2.10)	-	-	体部 直付	体部外側面に横織文模様6条以上	2mm大の砂粘合む	-	52	
94	衛生土器	葉	体部上部	圓筒形	VII層	-	(2.30)	-	-	体部 直付	体部外側面に横織文模様4条以上	3.5mm以下の大粒の砂粘合む	-	52	
95	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-1層	-	(0.95)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部を下に若干削付し端面に斜めの削付	2mmの大粒の砂粘合む	-	52	
96	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	-	(2.10)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部を上に若干削付し端面に斜め	2.5mm以下の大粒の砂粘合む	-	52	
97	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(26.70)	(2.95)	-	-	(1)縦部 1/6	直線に近いV字形で無文、外側面ナタで調整。直線	石面・チャートなど1~3 mmの砂粘合む	-	52	
98	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(16.60)	(16.00)	(26.70)	-	(1)縦部 1/6	(1)縦部端部を少し削きまさる。体部外側面ナタでハケ	石面など0.5~1cm程度 の砂粘合む	-	52	
99	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	-	(2.18)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部に僅く削付	0.5~1mmの砂粘合む	-	52	
100	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(24.10)	(6.70)	-	-	(1)縦部 直付	体部外側面ナタハケか。口縦端部にやや丸みもつ	1mm以下の小石と粗砂を多 量に含む	-	52	
101	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(21.50)	(6.40)	-	-	(1)縦部 直付	口縦端部附近に二次熟成により 変色	2.5mm以下のチャート・若 高地や多少含む	-	52	
102	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(26.70)	(3.90)	-	-	(1)縦部 直付	体部外側面ナタハケ。内面ナタ。	1~2mmの大粒の砂粘合む	-	52	
103	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-1層	(19.10)	(6.85)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部を丸みあり。体部外側面ハケ。外金環部 部分に埋理	1mm以下の小石と砂粘合む	-	52	
104	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(27.50)	(4.40)	-	-	(1)縦部 直付	体部外側面ナタハケか。口縦端部附近に二次熟成により 変色	2.5mm以下のチャート・若 高地や多少含む	-	52	
105	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(31.60)	(8.50)	-	-	(1)縦部 直付	口縦端部削り大形變形。体部外側面ナタハケ	0.5~1mmの砂粘合む	-	52	
106	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(21.40)	(5.60)	-	-	(1)縦部 直付	体部外側面ナタハケ。内面ナタ。	1~2mmの大粒の砂粘合む	-	52	
107	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-1層	(28.30)	(4.30)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部を丸みあり。体部外側面ハケ。外金環部 部分に埋理	1mm以下の小石と砂粘合む	-	52	
108	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(30.60)	(8.40)	-	-	(1)縦部 直付	体部外側面ナタハケか。口縦端部附近に二次熟成により 変色	1mm以下の小石と砂粘合む	-	52	
109	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(18.20)	(7.20)	-	-	(1)縦部 直付	口縦端部上方にのみ少し削張。体部外側面ナタハ ケ2次被撃により赤色	1~2mmの大粒の砂粘合む。石面	-	52	
110	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(25.45)	(6.90)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部上方に削付。体部内面ハケ。外側ハケ か	1.5mm以下のチャート・石 面・中量含む	-	52	
111	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(27.40)	(6.10)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部上方に若干削張。体部内面ナタか	1mm以下の小石と砂粘合む	-	52	
112	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(31.50)	(9.00)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部上方に若干削張。体部外側面ハケか	1~3mmの砂粘合む	-	52	
113	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(22.30)	(7.50)	-	-	(1)縦部 直付	口縦端部削り少し厚張。体部内面削りハケ。外側ナタハ ケか	1mm以下の石面・長石・ チャート・中量含む	-	52	
114	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(29.90)	(6.70)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部上方に若干削張。体部内面削りハケか	石面など1~3mmの大粒以下の砂粘 合む	-	52	
115	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-6層	(19.30)	(4.10)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部下方に削り曲げてナタ状。体部内面ナタハ ケ2次被撃	2mm以下のチャート・石面 中量含む	-	52	
116	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-6層	(19.00)	(6.90)	-	-	(1)縦部 直付	泡しに近い口縁部。無文。体部内外面ナタか	3.5mm以下の砂粘・石面や 少含む	-	52	
117	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-2層	(26.90)	(5.45)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部削り少し厚張して削張りに面つ。器直筋減	2mm以下の大粒の砂粘・石面含 む	-	52	
118	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-6層	-	(5.10)	-	-	(1)縦部 直付	和風形態で無文。体部外側面ナタか	5mm以下の大粒の砂粘多含む	-	52	
119	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII-6層	(19.80)	(4.40)	-	-	(1)縦部 直付	(1)口縁端部を上方に若干削張。体部内面ハケか	3mm以下の大粒の砂粘含む	-	52	
120	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(24.50)	(4.90)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部に凹凸が器直筋。口縦部外側に複数有 る	3.5mm以下の砂粘・石面や 少含む	-	52	
121	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(24.50)	(2.70)	-	-	(1)縦部 直付	(1)縦部端部に近いが器直筋。口縦部削り直筋。内面ナタハ ケ2次被撃	1mm以下の砂粘含む	-	52	
122	衛生土器	葉	口縁部	圓筒形	VII層	(28.90)	(6.70)	-	-	(1)縦部 直付	器直筋端部に凹凸あり。器直筋減。要すれば逆 に削り直す	3mm以下の砂粘多含む	-	52	
123	衛生土器	林	口縁部	圓筒形	VII-7層	(16.80)	(5.10)	-	-	(1)縦部 直付	曲折する口縁部で端面は少し削張。体部外側面は継か ないハサウエ	0.5mm以下の小石とさじ	-	52	
124	衛生土器	林	口縁部	圓筒形	VII-2層	-	(4.50)	-	-	(1)縦部 直付	曲折する口縁部で端面は少し削張。体部外側面は継か ないハサウエ	2mm以下の大粒の砂粘含む	-	52	

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
125	弥生土器	有孔 林	底盤	深窓3 5区	V層	-	(6.05)	-	6.90	底盤 完全	突出する部屋で底面に凹面、底中央に凸部から穿孔。孔径 6mm程度。体部外表面はV字形。	0.5~1.5mmの砂粒含む	16	53	
126	弥生土器	有孔 林	底盤	深窓3 5区	VI-1層	-	(5.00)	-	8.30	底盤 完全	底盤中央部から少し偏った位置に側孔と穿孔。孔径 8mm程度。体部外表面はV字形。	1mmのツラリ縫は小石と 粗砂を多量に含む	16	54	
127	弥生土器	有孔 林	底盤	深窓3 4区	Ve層	-	(3.70)	-	6.25	底盤 完全	底盤は少し傾斜。体部内に各所から丁寧に穿孔。 孔径6mm程度。体部外表面はV字形。	1~2mmの砂粒含む	16	53	
128	弥生土器	有孔 林	底盤	深窓3 4区	V上層	-	(6.45)	-	8.35	底盤 完全	底盤は少し傾斜。体部内に各所から丁寧に穿孔。 孔径6mm程度。体部外表面はV字形。	5mm以下の砂粒多く含む	16	53	
129	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 5区	IV-6層	-	(8.20)	-	(7.75)	底盤 1/3	底盤は窓として焼成されていてある。表面粗粒。底盤外表面 ハラケ。	2mm以下のチャート・右美 他多く含む	16	53	
130	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 3区	IV-3層	-	(4.20)	-	7.65	底盤 完全	底盤少し削減。体部内表面はV字形。	4mm以下の砂粒多く含む	16	53	
131	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 2区	VI-2層	-	(8.20)	-	8.40	底盤 完全	底盤少し削減。体部内表面はV字形。外側の一部 に二次焼成部分あり。	1~2mmの砂粒含む	16	54	
132	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(5.60)	-	(5.80)	底盤 完全	窓が焼成された底盤。体部外表面はV字形。内面ナガ。 外側に二次焼成による変色部分あり。	1.5mm以下の砂粒含む	16	54	
133	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 5区	IV-6層	-	(3.80)	-	5.35	底盤 完全	窓が焼成された底盤。表面粗粒。	1.5mm以下のチャート・右美 他多く含む	16	54	
134	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 2区	IV-7層	-	(3.65)	-	6.90	底盤 完全	底盤若干削減。体部外表面はV字形。	1mm以下の砂粒含む	16	54	
135	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 5区	IV-6層	-	(5.30)	-	(12.40)	底盤 1/4	体部外表面タハゲ後ナギ。内面糊状向かい幅狭いナギ とナガ。	1.5mm以下のチャート・右美 他やや多く含む	16	54	
136	弥生土器	岩	体部下部 ~底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(8.50)	-	7.40	底盤 完全	底盤は窓。体部外表面はV字形。	粗砂少、細砂を多く含む	16	54	
137	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	VI-1層	-	(6.60)	-	8.55	底盤 完全	底盤若干削減。体部外表面はV字形。	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	16	54	
138	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(6.70)	-	5.50	底盤 完全	底盤若干削減。下端は少し粗粒。底盤は削減。体部外面 はV字形。内面ナガ。	粗砂~細砂を多く含む	16	54	
139	弥生土器	窓	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(7.15)	-	5.95	底盤 完全	底盤下端削減して底盤は少し削減。体部外表面タハ ゲ。内面ナガ。内面はややカキナタナ。	粗砂少、細砂が多く含む	16	54	
140	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(7.00)	-	(6.00)	底盤 1/2	窓が焼成された底盤。体部外表面はV字形。内面ナガ。	粗砂少を多く含む	16	54	
141	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 5-6区	VI-2層	-	(5.95)	-	5.80	底盤 完全	底盤若干削減。体部外表面はV字形。	0.5mm程の砂粒含む	16	54	
142	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 2区	VI-2層	-	(4.10)	-	6.40	底盤 完全	窓が焼成された底盤。体部外表面はV字形。	1mm以下の砂粒含む	16	54	
143	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 5区	VI-2層	-	(5.40)	-	(5.40)	底盤 2/3	窓が焼成された底盤。体部外表面はV字形。内面ナガ。	2mm以下の砂粒・右美含む	-	54	
144	弥生土器	窓	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(4.35)	-	(4.90)	底盤 1/2	窓が焼成された底盤。内面ナガ。	1mmの砂粒含む。4mm以 下の砂粒・右美含む	-	54	
145	弥生土器	窓	底盤	深窓3 5区	IV-6層	-	(4.65)	-	(5.20)	底盤 1/3	窓が焼成された底盤。内面ナガ。外側に縦。内面 にオガロ状物質多く付着	4mm以下の大粒の砂粒・右美等 含む	-	54	
146	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	V上層	-	(5.30)	-	6.30	底盤 3/4	体部外表面はV字形。	3mm以下の大粒の砂粒・右美含 む	-	54	
147	弥生土器	窓か 竪	体部下部 ~底盤	深窓3 4-5区	壁面	-	(13.60)	-	8.50	底盤 完全	体部外表面はV字形。	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	17	54	
148	弥生土器	窓	底盤	深窓3 2区	Ve層 とVI-1層	-	(7.10)	-	(13.90)	底盤 2/3	体部外表面はV字形。	1~2mmの砂粒含む	17	54	
149	弥生土器	窓	体部 ~底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(14.90)	-	5.70	底盤 完全	体部外表面はV字形。上半は削み。下半は削り。断面 はV字形。	粗砂~細砂を多く含む	17	55	
150	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	V上層	-	(4.55)	-	15.70	底盤 1/3	底盤若干削減。内面はV字形。	右美など大以下の砂粒 含む	17	54	
151	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 5-6区	IV-3層	-	(4.30)	-	7.90	底盤 完全	底盤若干削減。内面はV字形。	1.5mm以下の右美・チャ ートや少く含む	17	55	
152	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	Ve層	-	(4.70)	-	9.50	底盤 完全	底盤若干削減。体部外表面はV字形。	3mm以下の大粒の砂粒・右美含 む	-	55	
153	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(6.55)	-	16.20	底盤 1/2	窓が焼成された底盤。体部外表面はV字形。	4.5mmのチャートは少砂粒 含む	-	55	
154	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 2区	VI-2層	-	(4.30)	-	6.30	体部外表面はV字形。	3.5mm以下の砂粒・右美含 む	-	55		
155	弥生土器	窓か 竪	底盤	深窓3 4区	VI-2層	-	(5.30)	-	(7.40)	内面糊状底盤。	5.5mm大以下の砂粒・右美 含む	-	55		
156	弥生土器	窓	底盤	深窓3 2区	V層	-	(4.10)	-	5.40	体部外表面はV字形。内面はV字形。	2mm以下の大粒の砂粒・右美 含む	17	55		
157	弥生土器	窓	底盤	深窓3 6区	V層	-	(5.20)	-	(12.40)	底盤若干削減して大型底部。底面削減。体部外表面はV 字形。	9.5~12mmの砂粒含む	17	55		
158	弥生土器	窓	底盤	深窓3 2区	VI-2層	-	(5.00)	-	(16.20)	底盤 1/3	大型底部。底面ナギである圓田。体部外表面はV字形。 内面はV字形。	4mm以下の大粒の砂粒・右美含 む	-	55	
159	弥生土器	窓	底盤	深窓3 1区	II-2層	-	(5.20)	-	10.60	底盤 完全	大型底部。底面ナギである圓田。体部外表面はV字形。 内面はV字形。	粗砂を多く含む	17	55	
160	弥生土器	窓坪	解剖	深窓3 4区	V上層	-	(10.00)	-	9.30	解剖盤 4/5	中空で脚窓を少し拡張し縁部は削除。底面には3条 の脚窓溝。体部外表面はV字形。	1mm以下の砂粒少含む	17	55	
161	弥生土器	林か 窓坪	解剖	深窓3 1-4区	II-2層	-	(7.90)	-	(9.30)	解剖盤 1/8	脚窓溝は内外面に削除。内面糊状底盤。	角開口・ツラリ縫・右美など 少く含む	17	56	
162	弥生土器	窓坪	解剖	深窓3 4区	VI-2層	-	(10.50)	-	(12.30)	脚窓溝は内外面に削除。内面はV字形。	1.5mm大以下の砂粒含む	17	55		

番号	種別	種類	難型	構造	部位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	園面	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
363	野生土器	窓坪	脚部	窓坪	窓坪3 4.0K	IV-5層	-	(2.90)	-	(16.00)	脚部は内部に折れ曲がり、脚部外縁に複合脚歯と直脚 支えへラッカシ	1~2mmの砂粒・チャート・ 石英含む	-	56	
364	野生土器	窓坪	脚部	窓坪	窓坪3 4.0K	V1-2層	-	(11.40)	-	(16.40)	脚部 脚部は大きく外側に侈る脚部は少し膨張、脚部外縁ハゲ。 3/5	石英など3.5mm大以下の砂 粒含む	-	56	
365	野生土器	窓坪	脚部	窓坪3 2.0V-1 層	II-2層	-	(12.20)	-	(11.30)	脚部 脚部は上方に大きめ、脚部外縁ハゲ、内面へ ラッカシ上部にはシザリ目	0.5~1.5mmの砂粒含む	-	56		
366	野生土器	窓坪	脚部	窓坪	窓坪3 4.0K	IV-6層	-	(2.60)	-	(13.50)	脚部 脚部は上部に少し膨張、脚部外縁ハゲ、内面へ ラッカシ上部にはシザリ目	粗砂を少許含む	-	56	
367	野生土器	窓坪	脚柱部	窓坪3 4.0K	V1-2層	-	(9.30)	-	-	脚柱部 脚柱部は直角脚柱形、外縁へラッカシか、球状部 立2本	3.5mm大以下の砂粒・直角 脚柱含む	-	56		
368	野生土器	窓坪	脚部	窓坪3 2.0K	Vd層	-	(13.10)	-	(11.90)	脚部 脚部は上部に少し膨張、脚部外縁ハゲ、内面は横へ ハゲ	1mmの砂粒・石英含む	-	56		
369	野生土器	不明	脚部	窓坪3 4.0K	V1-2層	-	(12.20)	-	(9.90)	脚部 脚部は斜めの面を持つ。解説より裏剥削不規則、ヨコ ナガサキ、直角脚柱部か	2.5mm大以下の砂粒・くさ カシ・直角脚柱含む	-	56		
370	野生土器	窓坪	脚柱部	窓坪3 1.0K	II-2層	-	(4.90)	-	-	脚柱部 少子脚柱部第三脚柱部三角柱要害を有す付し、要塞開 小片 口上部にヨコ文理めぐらす。断面部はビザギヤで 円錐形	石英など2mm大以下の砂粒 多く含む	無鉛無色	17	56	
371	野生土器	窓坪	坪・脚 接合部	窓坪3 4.0K	IV-6層	-	(5.20)	-	-	脚柱部 外縁しながら大きく脚部開き、脚柱部は円錐形 小片 脚柱部外縁ハゲ、内面へ立脚柱含む	4mm以下の砂粒を多く含む	-	56		
372	野生土器	上部	台形 土器	窓坪3 2.0K	IV-7層	(11.90)	(6.00)	-	-	台部 白い胎はナガサキ、脚部外縁へラッカシ。内面ハゲ。黒 泥あり	1~2mmの砂粒含む	底部の可 能性あり	17	56	
373	野生土器 →土器類	甕	B 6	窓坪3 6.0K	V1層	(16.75)	(5.65)	-	-	口縁部 口縁部外縁に2条の縦筋、脚部外縁ハゲ、内面黒 泥アリ	2mm以下の砂粒含む	-	17	57	
374	野生土器 →土器類	甕	B 6	窓坪3 6.0K	V1層	(16.85)	(5.90)	-	-	口縁部 口縁部外縁に2条の縦筋、脚部外縁ハゲ、内面黒 泥アリ	2mm以下の砂粒含む	-	17	57	
375	野生土器 →土器類	甕	C 1	窓坪3 6.0K	V1層	(16.65)	(6.40)	-	-	口縁部 外縁タマハケ、内面ヨコタマ	3mm以下の砂粒含む	-	17	57	
376	野生土器 有孔 甕	A	窓坪3 6.0K	V1層	-	(4.20)	-	3.90	-	底部 タマキ成形、内面ヘラケツリヨウナガサキ。口縁部ヨコナガ セ	3mm以下の砂粒・赤色粒子 含む	-	17	57	
377	野生土器 →土器類	甕	体形	窓坪3 1.0K	疊壁 か砂粒	-	(5.30)	(9.60)	(2.30)	底部 底部は最大幅を横方向に、下部は縱方向のヘラミガ キ。内面は横方向のヘラミガキ。	1~2mmの砂粒含む	-	17	57	
378	野生土器 →土器類	A 2 × α	窓坪3 6.0K	V1層	-	(4.30)	-	(3.00)	-	底部 底部は2層 外縁タマキ成形後ナダ。内面ハケ。近赤木葉形	2mm以下の砂粒含む	ミニチャ ア静か	17	57	
379	野生土器 →土器類	A 1 × β	窓坪3 6.0K	V1層	-	(4.05)	-	3.35	底部 底部 外縁タマナダ。内面ハケ。底面少し上げげ。外縁に 黑泥	2mm以下の砂粒含む	-	17	57		
380	野生土器 →土器類	A 1 × α	窓坪3 6.0K	V1層	-	(4.25)	-	3.60	底部 底部 タマキ成形後外縁タマタケ。内面ヘラケツリ。外縁 面にヘラミガキと黒泥5条入り	2mm以下の砂粒含む	-	17	57		
381	野生土器 →土器類	D 1	窓坪3 6.0K	V1層	-	(3.90)	-	5.15	底部 底部 脚柱が付いた底盤。外縁タマハケ、内面ヨコタマ セ	2mm以下の砂粒含む	-	17	57		
382	野生土器 →土器類	G	窓坪3 6.0K	V1層	(27.55)	(4.95)	-	-	底部 底部 口縁部外縁干欄出し面をもつ。口縁部ヨコナガサ キ。底部外縁へラミガキ	2mm以下の砂粒含む	-	17	57		
383	野生土器 →土器類	甕	窓坪3 4.0K	V1-2層	-	(3.20)	-	-	-	口縁部 外縁タマハケ。内面剥離により不明	2mm以下の砂粒・石英含む	-	57		
384	野生土器 脚部 部	A 1	窓坪3 4.0K	V1-2層	-	(3.70)	-	(11.70)	脚部 1/7	外縁タマハケ。内面ヨコタマ。脚部平行ヨコナガ セ	2mm以下の砂粒・石英含む	-	57		
385	野生土器	甕	B 6	窓坪3 2.0K	Vd層	(14.90)	(8.30)	-	-	口縁部 口縁部外縁は無意、体部外縁タマハケ、内面はイ タタマサキ。外縁付着	0.5~1mmの砂粒含む	-	18	57	
386	野生土器	甕	B 2	窓坪3 4.0K	V上層	(13.80)	(4.00)	-	-	口縁部 1/3	口縁部端面2条の縦筋、脚部外縁面のナガサキ。 内面不定形のタマナダ。脚部外縁面のナガサキ。 ヨコナガサキ。底部内面に黒泥	1mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58
387	野生土器	B 4	窓坪3 4.0K	V上層	(13.80)	(5.65)	-	-	口縁部 1/4	底部 底部 タマキ成形後内縁タマタケ。内面ヨコタマ。底部平行ヨ コナガセ。内面はヨコタマ。内面ヨコタマ	石英など3mm大以下の砂粒 含む	-	18	58	
388	野生土器	B 1	窓坪3 5.0K	V下層	(16.20)	(5.10)	-	-	口縁部 1/5	口縁部端面1条分に横に凹む。タマキ成形後内縁 面にヨコタマ。内面ヨコタマ。内面ヨコタマ	4mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	
389	野生土器	B 2	窓坪3 4.0-5.0 K	Vc層	(14.00)	(6.10)	-	-	口縁部 1/5	口縁部端面に2条の横筋、脚部外縁面のナガサキ。 内面不定形のタマナダ。脚部外縁面のナガサキ。 ヨコナガサキ。底部内面に黒泥	4mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	
390	野生土器 →土器類	D 5	窓坪3 5.0K	V下層	(15.80)	(4.35)	-	-	口縁部 1/3	口縁部端面に横筋2条。タマキ成形後内縁タマタ ケ。内面ヨコタマ	石英など3mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	
391	野生土器 →土器類	D 3	窓坪3 4.0K	V上層	(15.40)	(4.70)	-	-	口縁部 君主	口縁部端面に横筋2条。口縁部平行ヨコナ ガセ。内面ヨコタマ	石英など2mm大以下の砂粒 含む	北近畿系 A	18	58	
392	野生土器 →土器類	A 3	窓坪3 2.0K	Vd層	(18.90)	(4.20)	-	-	口縁部 君主	口縁部端面に凹む。口縁部内面に不規則な凹凸によ る底状。内面ヨコタマ後横と斜めの方向のヘラミガ キ	2mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	
393	野生土器 脚部 部	A 2 × 5	窓坪3 5.0K	V下層	(15.80)	(5.90)	-	-	口縁部 1/8	口縁部端面に横筋2条。タマキ成形。内面ヨコタマ セ	2mm以下の砂粒・石英含む	-	18	58	
394	野生土器 脚部 部	A 2 × α	窓坪3 2.0K	Vd層	-	(5.10)	-	(6.30)	底部 2/5	内面ヨコタマ。内面ヨコタマ。内面ヨコタマ	2mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	
395	野生土器 脚部 部	A 2 × β	窓坪3 4.0K	V上層	-	(4.70)	-	(5.00)	底部 1/2	タマキ成形後内縁タマタケ。内面ヨコタマ	鏡面系B	18	58		
396	野生土器 →土器類	A 2 × α	窓坪3 5.0K	V下層	-	(4.35)	-	4.40	底部 2/3	タマキ成形後内縁タマタケ。内面ヨコタマ	3mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	
397	野生土器 脚部 部	A 3 × β	窓坪3 4.0K	V上層	-	(4.95)	-	4.80	底部 完形	タマキ成形後内縁タマタケ。内面ヘラケツリ。	2mm以下の大粒を多く含 む	-	18	58	

番号	種別	種類	類型	構造	部位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	器高	腹径	底径							
396	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 3 ± a	流域 3 5区	V下層	-	(4.05)	-	3.30	流域 完全 生存	流域に於て面積不明、内部ハケ難波放射状、 内部に面積不明	石面など3mm大以下の砂粘 含む	4cm	18	58
399	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± b1	流域 3 2区	Vd層	-	(4.35)	-	3.35	流域 完全 生存	タクシ成形後各底ナガ。下端はご整形、内部ハ ケ。外底部は上斜面。	2mm大以下の砂粘含む	18	58	
400	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 3b	流域 3 3区	V上層	-	(15.35)	-	-	柱社部 生存	河岸部外縁へテミガキ。内部ヨコナガ。底端外縫 部に向てハケミガキ。内部ハケ難波。直折 して深く屈曲形で、直折に2条の比較。柱社部外縫 ナガハケ。直縫前面ハケミガキ。ヨコナガ。内部ハケ。 直縫2個縫合4個縫合。	1~4mmの砂粘含む	18	57	
201	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	G	流域 3 5区	V F層	(27.80)	(6.45)	-	-	口縫部 L10	タクシ成形後各底ナガ。口縫部ヨコナガ。内部ハ ケ。外底部は上斜面。	3mm以下の砂粘含む	18	58	
202	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	G	流域 3 5区	V上層	(22.30)	(4.90)	-	-	口縫部 L6	タクシ成形後各底ナガ。口縫部ヨコナガ。内部ハ ケ。外底部は上斜面。	1~3mmの砂粘含む	18	58	
203	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	無	流域 3 4区	V上層	-	(8.45)	-	-	柱社部 生存	中縫部外縫部に横縫合。内部ヨコナガ。底端外縫 部ナガハケ。内部ヨコナガ。底端外縫部斜状 ヨコナガハケ。直縫ヨコナガ。	2mm大以下の砂粘含む	18	59	
394	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	B 5	流域 3 2区	IV~7層	(11.00)	(3.95)	-	-	口縫部 L6	口縫部前面に2条の横縫合ナガ。ヨコナガ成形後 部ナガハケ。内部ヨコナガ。直縫部外縫部、内部直縫 部ナガハケ。	3mm以下カチャート・石英 含む	18	59	
395	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 5	流域 3 2区	IV~7層	(14.70)	(7.00)	-	-	口縫部 L7.5	タクシ成形後各底ナガ。口縫部ヨコナガ。内部ハ ケ。外底部は上斜面。	1mm以下カチャート・くさ 岩粘含む	北近畿系 A	18	59
396	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 1	流域 3 2区	IV~7層	(16.60)	(3.40)	-	-	口縫部 L9	口縫部外縫部に横縫合。内部ヨコナガ。直縫部ヨコナ ガ調整。直縫部内ハケ。	2mm以下カチャート・石英 含む	北近畿系 A	18	59
397	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 2	流域 3 2区	IV~7層	(14.90)	(5.50)	-	-	口縫部 L9	口縫部外縫部に横縫合した各種複合。タクシ成形後 部ナガハケ。内部ヨコナガ。口縫部ヨコナ ガ。	0.5~1mmの砂粘を多 く含む	北近畿系 A	18	59
398	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 1	流域 3 2区	IV~7層	(13.20)	(6.00)	-	-	口縫部 L6	タクシ成形後各底ナガ。内部ヨコナガ。直縫部外縫 部直行する。	0.5~1.5mmの砂粘を多 く含む	18	59	
399	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 3	流域 3 2区	IV~7層	(14.30)	(4.05)	-	-	口縫部 L8	直縫に向てタクシ。外底部下斜部は料科の上方向て 重を垂らす。内部ヨコナガ。	0.5~2mmの砂粘を多く 含む	18	59	
400	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 3	流域 3 2区	IV~7層	(8.50)	(4.40)	-	-	口縫部 L7.5	タクシ成形後各底ナガ。口縫部ヨコナガ。	2mm以下カチャート・石英 含む	18	59	
401	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	D 4	流域 3 2区	IV~7層	(13.40)	(3.60)	-	-	口縫部 L6	口縫部前面に2条の横縫合。直縫部外縫部は直向。内 部内縫部のヘーティガキ。	0.5~1mmの砂粘と小石 を含む	18	59	
402	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 3	流域 3 4区	IV~7層	(19.20)	(7.45)	-	-	口縫部 L6	口縫部前面に2条の横縫合。直縫部外縫部は直向。内 部内縫部のヘーティガキ。	0.5~2mmの砂粘と小石 を含む	18	59	
403	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	D 5	流域 3 2区	IV~7層	(12.70)	(2.50)	-	-	口縫部 L7	口縫部前面に2条の横縫合。直縫部外縫部の傾向。内 部内縫部のヘーティガキヨコナガ。	石面など2.5mm大以下の砂 粘含む	18	59	
404	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 2	流域 3 3区	IV~7層	(13.80)	(22.95)	-	-	口縫部 若干	口縫部壁を下方にまき上げる。口縫部ヨコナ ガ。直縫部外縫部方向にヘーティガキ。濃い赤色の色調	1~4mmの砂粘含む	19	59	
405	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 2	流域 3 2区	IV~7層	(13.30)	(11.15)	-	-	口縫部 L5	口縫部壁を形成。頭部ヨコナガ成形後内部ハケ。口縫 部ヨコナガ。脇部ヨコナガあり。やや赤い色の色調	0.5~2mmの砂粘と小石 を含む	19	59	
406	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 2	流域 3 2区	IV~7層	(15.00)	(3.60)	-	-	口縫部 L5	口縫部前面に直縫部の条件。ヨコナガ。頭部ヨコナ ガ。脇部ヨコナガ調整。糸糸系が角削 れ、全表面は含むない	2mm以下カチャート・石英 含む	測定系C	19	60
407	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	C 3	流域 3 2区	IV~7層	(19.90)	(6.60)	-	-	口縫部 L9	口縫部前面に直縫部の条件。ヨコナガ。頭部ヨコナ ガ。脇部ヨコナガ調整。糸糸系が角削 れ、全表面は含むない	石面など3mm大以下の砂粘 含む	19	60	
408	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 b ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(21.15)	(34.60)	6.90	流域 完全 生存	タクシ成形後、外縫一部ハケ後内部等ナガ。ヨコ ナガ。内部ヨコナガ。底端外縫部斜状。直縫部の直折 あり。外部底部左側に直縫部直行。	3mm大以下の砂粘含む	19	60	
409	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 b ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(7.90)	-	(6.80)	流域 完全 生存	タクシ成形後各底ナガ。内部ハケ。	1.5mm以下の石英・チャ ート・長石含む	19	60	
410	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 3 b ± 1	流域 3 2区	IV~7層	-	(5.10)	-	6.30	流域 完全 生存	タクシ成形後各底ナガ。内部ナガ。直縫部ヨコナ ガ。直縫部外縫部直行。頭部ヨコナガ。糸糸系が角削 れ、全表面は含むない	石面など3mm大以下の砂粘 含む	19	60	
411	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(4.90)	-	3.35	流域 完全 生存	タクシ成形後タクシで一部ナガし。内部ハケ 等ナガ。ヨコナガ。直縫部直行。	2mm以下カチャート含む	神か	19	60
412	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(2.70)	-	4.90	流域 完全 生存	内縫タクシ。内部直縫部の頭部ハケ。内部進行タク シハケ。直縫部前面に十字形のハケ構造と縦一長い(右 折)状の圧多底あり	1.5mm以下の石英・チャ ート・長石含む	19	60	
413	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(2.35)	-	4.30	流域 完全 生存	タクシ成形後各底部内ハケヨコナガ。内部ハケミガキ 等。底部部分が小さいドーナツ状ナガ。	石面など2~3mm大以下の砂粘 含む	19	60	
414	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(4.40)	-	4.35	流域 完全 生存	タクシ成形後、外縫一部ハケ後内部等ナガ。ヨコナ ガ。内部ヨコナガ。直縫部直行。	5mm大きくさり織合む 1.5mm以下の石英・チャ ート・中空含む	19	60	
415	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(5.50)	-	4.60	流域 完全 生存	タクシ成形後各底ナガ。内部ハケミガキ。直縫部ヨコナ ガ。内部ヨコナガ。直縫部直行。	0.5~1mmの砂粘を含む	19	60	
416	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(4.65)	-	3.35	流域 完全 生存	タクシ成形後各底部内ヨコナガ。内部ヨコナガ。直縫部ヨ コナガ。直縫部外縫部リーナ。	石面など3mm大以下の砂粘 含む	19	60	
417	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 2 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(5.55)	-	4.15	流域 完全 生存	内縫タクシ。内部直縫部の頭部ハケ。内部進行タク シハケ。	2mm以下カチャート含む	19	61	
418	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 3 ± a	流域 3 2区	IV~7層	-	(4.50)	-	4.35	流域 完全 生存	タクシ成形後内縫部ヨコナガ。内部ヨコナガ。直縫部 ヨコナガ。	1.5mm以下の石英・チャ ート・中空含む	19	61	
419	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	D 1	流域 3 2区	IV~7層	(13.80)	(6.55)	-	(12.20)	口縫部 1/4 難波 部 2/3	全面部器剥離のため調査不明。3方向の円形通孔	0.5~1.5mmの砂粘を多 く含む	19	61	
420	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	A 1 ±	流域 3 2区	IV~7層	(21.70)	(3.70)	-	-	口縫部 L9	口縫部外縫部に1条の直縫。上部外縫部ヘーティ ガキ。内部ヨコナガ。	1mm以下の石英・チャ ート・中空含む	19	61	
421	弥生土器	流域	(變・ 土・ 林)	高	流域 3 2区	IV~7層	-	(8.50)	-	-	柱社部 生存	中縫部の柱社部。全面部器剥離により調査不 明。直縫は5方向。	1.5mm大以下の砂粘含む	19	61	

番号	種別	種類	難型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
232	乳生土器	高所	脚部	深窓	IV-7層	-	(2.49)	-	-	脚部 完全	小半の脚部。脚部外表面はケギリ後ハゲ陶へタガキ。 内面はヘタガキ、脚部内面ハゲ。内面イタナ 透孔あり。底面透孔有り。下方透孔有り。	1.5mm以下のチャート・石英 質穴芯	19	61	
233	乳生土器	高所	脚部	深窓 3 316	IV-7層	-	(4.95)	-	(4.50)	脚部 1/4	中半の脚部。脚部前面に3条の縦溝有り。脚部裏 面ヘタガキ。脚部内面コナザ。脚部内面ハゲ。 透孔付近コナザ。透孔方向不明。	1~2mmの砂粘含む	19	60	
234	乳生土器	高所 ±上部	脚(1脚) A1	深窓 3 216	IV-7層	-	(2.65)	-	(4.80)	脚部 1/3	A7方向円通孔。2面調理。外面部端部付近裏方向。 内底模様方向のハゲ。底面あり。	2mm以下のチャート・石英 中質穴芯	19	60	
235	乳生土器	甕	B 2	深窓 3 516	IV-6層	(14.30)	(1.95)	-	-	口縁部 1/3	口縁部前面に3条の縦溝。脚部裏面 タナ透孔コナザ。一部ヘタガキ。内面コナザ。 体部内面ハゲ。透孔方向不明。	2mm以下の砂粘含む	19	61	
236	乳生土器	甕	B 2	深窓 3 416	IV-6層	(17.50)	(2.85)	-	-	口縁部 前下	口縁部前面に3条の縦溝。脚部裏面 タナ透孔コナザ。一部ヘタガキ。内面コナザ。 体部内面ハゲ。透孔方向不明。	2mm以下の砂粘含む	19	61	
237	乳生土器	甕	B 4	深窓 3 416	IV-6層	(16.85)	(3.40)	-	-	口縁部 1/4	口縁部裏面に4~5条の縦溝。脚部裏面。 脚部裏面ハゲ。透孔方向不明。	2mmの大右知・透孔多く 含む	19	62	
238	乳生土器	甕	B 1	深窓 3 416	IV-6層	(13.00)	(3.80)	-	-	口縁部 1/5	口縁部裏面に4~5条の縦溝。西側は模様のもの。 口縁部裏面に内面透孔付近コナザ。口縁部裏面 透孔タナ透孔コナザ。体部裏面タハタハ。 内底ハゲ。透孔方向不明。	椎根砂少量。椎根砂を多く 含む	19	61	
239	乳生土器	甕	A 1	深窓 3 416	IV-6層	(15.80)	(5.50)	-	-	口縁部 1/9	口縁部裏面コナザ。内底コタケナ。体部タキ 透孔外露ハゲ。内面イタナをハゲタリ状に施 す。	4mm以下の大右知多く含む	19	61	
240	乳生土器	甕	A 1	深窓 3 416	IV-6層	(12.60)	(4.90)	-	-	口縁部 1/4	口縁部裏面コナザ。タキ成形後内面ナナデ。内面 コビオサチ・透孔タナ。	椎根砂少量砂を多く含む	19	62	
241	乳生土器	甕	A 1	深窓 3 416	IV-6層	(11.40)	(3.90)	-	-	口縁部 1/4	口縁部裏面内イタナと脚部裏面ともにコナザ。 内底タハタハ。内面コビオサチ。口縁部裏面に 透孔タナ。	椎根砂少量砂を多く含む	20	62	
242	乳生土器	甕	B 3	深窓 3 416	IV-6層	(12.30)	(4.25)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形後。体部裏面ヘタタリ。内底コタ ハタハ。内面コビオサチ。口縁部凹出し。	椎根砂少量含む	20	61	
243	乳生土器	甕	B 3	深窓 3 316	IV-6層	(12.80)	(6.25)	(12.60)	-	口縁部 1/4	タキ成形後内面イタナ。口縁部裏面 一筋黒斑。	1~3mmの砂粘多く含む	20	61	
244	乳生土器	甕	B 3	深窓 3 416	IV-6層	(13.30)	(4.10)	-	-	口縁部 1/8	体部裏面イタナまたはハゲ。内面コハケ能動 的向イタナ。口縁部コナザ。口縁面に脚部 透孔が散在するうらうら透孔減りにより不明	1~2mmの砂粘・石英含む	20	61	
245	乳生土器	甕	B 3	深窓 3 316	IV-6層	(12.70)	(4.30)	-	-	口縁部 1/7	タキ成形後内面タハタハ。内底タナガ成形後 内面タハタハ。内面コビオサチ。口縁部裏面に 透孔タナ。	透孔砂少量。透孔砂多く含む	20	61	
246	乳生土器	甕	A 2	深窓 3 416	IV-6層	(13.70)	(4.90)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形後体部裏面内イタナとハゲタリ。口縁 部コナザ。口縁部裏面に1条の黒斑。	石英少量。透孔砂多く含む	20	61	
247	乳生土器	甕	A 2	深窓 3 416	IV-6層	(12.90)	(3.55)	-	-	口縁部 1/7	口縁面に沈澱物の跡。口縁部コナザ調整。タク シ底成形後外露ハゲ。内面コナザ。	石英など2mm以下の砂粘 小型型	20	61	
248	乳生土器	甕	B 7	深窓 3 216	IV-6層	(16.20)	(4.00)	-	-	口縁部 1/8	口縁面に1条の黒斑。透孔タナ。	1~2mmの砂粘・石英含む	20	61	
249	乳生土器	甕	C 5	深窓 3 416	IV-6層	(13.80)	(3.80)	-	-	口縁部 1/9	口縁部上1/2コナザ調整。透孔下外壁にタハタ ハ。内底コナザ。	北近畿系 石	20	61	
250	乳生土器	甕	C 2	深窓 3 416	IV-6層	(15.30)	(7.25)	(16.60)	-	口縁部 1/5	口縁部裏面に内面透孔タハタハ。内底コナザ 透孔方向タケタリ。口縁部裏面に點状接合部 のハラタケタリ。口縁部裏面に内面透孔タハ タハ。	石英など2mm以下の砂粘 含む	20	62	
251	乳生土器	甕	C 3	深窓 3 416	IV-6層	(14.70)	(3.65)	-	-	口縁部 1/9	タキ成形後。透孔タナ。透孔タハタリ。内底コナザ 透孔はなき2条のヨコナナデ。	北近畿系 石	20	61	
252	乳生土器	甕	C 3	深窓 3 416	IV-6層	(16.30)	(4.45)	-	-	口縁部 1/5	タキ成形後体部裏面ナナデ。	石英など2mm以下の砂粘 含む	20	61	
253	乳生土器	甕	C 1	深窓 3 416	IV-6層	(16.60)	(4.45)	-	-	口縁部 1/8	口縁部タナガ成形。体部裏面ハゲタハ。内底は横 方向イタナ。口縁部裏面に透孔タナ。	北近畿系 石	20	62	
254	乳生土器	甕	C 1	深窓 3 416	IV-6層	(15.90)	(5.65)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形後内底全体イタナ・タナナ。口縁部外 面コナザ。外底には透孔タハタハ。	2mm以下の砂粘含む	20	62	
255	乳生土器	甕	A 3	深窓 3 416	IV-6層	(17.80)	(4.35)	-	-	口縁部 1/5	タキ成形後内底全体タナナ。内底イタナを 透孔タナに施す。口縁部コナザ。	石英など3mm以下の砂粘 含む	20	62	
256	乳生土器	甕	C 7	深窓 3 516	IV-6層	-	(12.05)	-	-	肩部 1/4	タキ成形後体部裏面ユカナダ。口縁部コナザ。 透孔部裏面に透孔付着。	3mm以下の砂粘含む	20	62	
257	乳生土器	甕	G	深窓 3 416	IV-6層	(13.40)	(2.95)	-	-	口縁部 1/2	口縁部裏面に5条の回文跡。口縁部裏面12コハタ ハ。内底は透孔により不明。	2mm以下の砂粘含む	地城系 石	20	62
258	乳生土器	甕	C 6	深窓 3 416	IV-6層	(24.33)	(6.10)	-	-	口縁部 小片	口縁部裏面に5条の回文跡。(3段単位 を下2段)。口縁部裏面ヘタガキ。体部裏面 タハタリ。	北近畿系 A	20	62	
259	乳生土器	甕	D 1	深窓 3 416	IV-6層	(21.45)	(2.00)	-	-	口縁部 1/2	口縁部裏面に2~3条の横溝。口縁部下面ハゲ透孔 コナザ。内底コナザ・タナナデ。	椎根砂少量砂を多く含む	20	62	
260	乳生土器	甕	D 4	深窓 3 416	IV-6層	(21.70)	(6.40)	-	-	口縁部 1/2	口縁部裏面に2条以上の横溝。脚部裏面タハタハ、内 底透孔ヘタガキ。	1~2mmの砂粘・さく織 石英含む	20	62	
261	乳生土器	甕	D 1	深窓 3 416	IV-6層	(18.60)	(3.95)	-	-	口縁部 1/8	口縁部裏面に2条の横溝。口縁部裏面ヘタガキ。 内底透孔ヘタガキ。	3mm以下の砂粘含む	20	62	
262	乳生土器	甕	D 4	深窓 3 516	IV-6層	(12.20)	(5.30)	-	-	口縁部 1/8	口縁部裏面に2~3条の横溝。口縁部下面ハゲ透孔 コナザ。外底透孔ヘタガキ。内底ナナデ・タハタリ。	少量化	-	62	
263	乳生土器	甕	D 5	深窓 3 416	IV-6層	(12.90)	(3.65)	-	-	口縁部 1/6	口縁部裏面に2条の横溝。脚部裏面タハタハ、内 底透孔ヘタガキ。内底ナナデ・タハタリ。	1.5mm以下の砂粘・雲母少 量穴芯	20	62	
264	乳生土器	甕	D 2	深窓 3 416	IV-6層	(14.90)	(4.55)	-	-	口縁部 1/4	口縁部裏面はタハタケヘタモガタ。内底は ハナ・イナナデ・タハタリ。	1mm以下の大右知少量化	20	62	
265	乳生土器	甕	D 5	深窓 3 416	IV-6層	(12.85)	(4.35)	-	-	口縁部 1/2	口縁部裏面に2条の横溝。脚部裏面ハゲ。内底は 透孔ナナデ。	椎根砂を多く含む	20	62	
266	乳生土器	甕	D 2	深窓 3 416	IV-6層	(11.85)	(4.10)	-	-	口縁部 1/4	口縁部裏面内面コナザ。脚部裏面タハタハ内 底コナザ。	透孔を多く含む	267と同一 透孔から	20	62
267	乳生土器	甕	D 2	深窓 3 416	IV-6層	(12.00)	(4.00)	-	-	口縁部 1/3	口縁部裏面内面コナザ。脚部裏面タハタハ内 底コナザ。	透孔を多く含む	266と同一 透孔から	-	63
268	乳生土器	甕	D 2	深窓 3 516	IV-6層	(15.80)	(6.50)	-	-	口縁部 1/8	口縁部裏面内面タハタリ。脚部裏面内面はコハタハ。 内底は透孔により不明。	5.5mm以下の砂粘・石英含 む	-	63	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	有真菌
						口径	基高	腹径	底径						
269	衛生土器	瓶	E 1	直筒	3 4.1K	IV-6層	(11.00)	(6.40)	-	1)縦隔部外側に横隔板の袋、丁字脚ヨコナダ調査、 全体表面が内面・外側一面にハバ、内面ナダ	5 mm以下の石・砂粒含む	北沢畠系 A	20	63	
270	衛生土器	瓶	E 3	直筒	3 5.1K	IV-6層	(12.30)	(6.95)	-	1)縦隔部外側に横隔板の袋、丁字脚ヨコナダ。 縦隔部内側半径にタキ、下手はヨコナダ。縦隔部内 上半はヨコハケ。	0.5~2 mm粒の砂粒を多く 含む	20	62		
271	衛生土器	瓶	E 1	直筒	3 3.1K	IV-6層	(11.20)	(4.90)	-	1)縦隔部 2)口部器具調査、体部内面ナダ	1~3 mmの砂粒・石英含む	20	63		
272	衛生土器	瓶	B 1	直筒	3 4.1K	IV-6層	(10.20)	(4.15)	-	1)縦隔部外側に5~6条の筋隔板、頭部外側タカハ テモ模様にタキ、底部はヨコナダヨコハケ	2 mm以下の大粒含む	北沢畠系 A	20	63	
273	衛生土器	瓶	E 1	直筒	3 3.1K	IV-6層	(15.80)	(7.20)	-	1)縦隔部 2)内面底部に横隔板の袋、内面ハバ	1~2 mmの砂粒、黑色粒、 雲母含む	北沢畠系 A	20	63	
274	衛生土器	瓶	A 3	直筒	3 5.1K B-3層	IV-6層	(20.10)	(6.90)	-	1)縦隔部 2)5層 3)1条の筋隔板、内面内面ヨコナダ調査	3 mm以下の石粒・黑色粒子 含む	20	62		
275	衛生土器	瓶	A 2	直筒	3 4.1K	IV-6層	(25.30)	(5.65)	-	1)縦隔部外側に横隔板の袋、内面ハバ 2)内面底部に横隔板の袋、内面内面ヨコナダヨコハ ケ	5 mm以下の大粒含む	北沢畠系 B	21	63	
276	衛生土器	瓶	筒III	直筒	3 5.1K	IV-6層	-	(2.70)	-	1)縦隔部 2)内面底部に横隔板の袋、内面ハバ	3 mm以下の石粒、石英含 む	-	63		
277	衛生土器	瓶	C 1	直筒	3 4.1K	IV-6層	(10.00)	(6.70)	-	1)縦隔部 2)内面底部に横隔板の袋、内面ハバ	1~2 mmの砂粒、黑色粒、 雲母含む	21	63		
278	衛生土器	瓶	A 2±	直筒	3 3.1K	IV-6層	-	7.05	-	1)縦隔部 2)内面底部に横隔板の袋、内面ハバ	3 mm以下の石粒・砂粒を多 く含む	21	63		
279	衛生土器	瓶	A 2±	直筒	3 4.1K	IV-6層	(11.00)	(6.25)	-	1)縦隔部 2)前下部直筒、後部直筒に内面ハバ、ドーナツ状 3)直筒	1~2 mmの砂粒、黑色粒、 クラリ織含む	21	63		
280	衛生土器	瓶	A 3	直筒	3 4.1K	IV-6層	(10.90)	3.80	-	1)縦隔部 2)5層 3)直筒 4)直筒	タキ成形後内外ナダ、内面ハケで下部はイタナ ダ、外面部下部に黒斑	0.5~3 mm粒の砂粒を含む	21	63	
281	衛生土器	瓶	C	直筒	3 4.1K	IV-6層	(12.30)	6.90	-	1)縦隔部 2)1/2 3)直筒 4)直筒	内面画面に内面ヨコマゼ、口縦隔部外反、腰部部 内面ハケタキ。体部内1/2縦隔にかけて外面に頭面 内面黒斑にヨコナダ、縦隔に黒斑	堆積物→細砂を多く含む	21	63	
282	衛生土器	瓶	F 3	直筒	3 4.1K	IV-6層	(27.80)	(4.10)	-	1)縦隔部 2)内面ヨコナダ	内面ヨコナダヨコマゼ、ヨコナダ、ヨコハケ。内 面黒斑にヨコナダ、縦隔に黒斑	1~3 mmの砂粒含む	21	64	
283	衛生土器	瓶	A 1±C の口縦隔	直筒	3 3.1K	IV-6層	(17.80)	(5.60)	-	1)縦隔部 2)内面ヨコナダ	内面ヨコナダヨコマゼ、ヨコナダ、ヨコハケ。内 面黒斑にヨコナダ、縦隔に黒斑	0.5~2 mm粒の砂粒を含む	21	64	
284	衛生土器	瓶	A 1±C の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	(21.90)	(4.80)	-	1)縦隔部 2)内面ヨコナダ	内面ヨコナダヨコマゼ、ヨコナダ、ヨコハケ。内 面黒斑にヨコナダ、縦隔に黒斑	1~2 mmの砂粒、石英含む	21	64	
285	衛生土器	瓶	-	直筒	3 4.1K	IV-6層	(4.70)	(3.45)	-	1)縦隔部 2)前下部直筒、後部直筒 3)直筒	タキ成形後内外ナダ、腰部ヨコオチニ。内面ヨビ タキ、サウエーブ等	粗砂少、細砂を多く含む。 クラリ織含む	ニアラ ア	21	63
286	衛生土器	有孔 瓶	E	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(6.90)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ハケタキ、近付定イタナ。外 面端部端のタキが黒斑に屬す。孔径約1 cm、約6 mm の直筒に腰部に横隔板の袋、内面ハケタキ、内面 ヨコナダ	堆積物→細砂を多く含む	21	64	
287	衛生土器	有孔 瓶	C	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(10.40)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ハケタキ、内面ヨコナダ、ヨコハケ。 内面ハケタキ。ヨコ隔板上下に少し衝突。外面に黒斑 あり	0.5~2 mm粒の砂粒を含む	21	63	
288	衛生土器	有孔 瓶	D	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(4.95)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	内面ヨコナダヨコマゼ、ヨコナダ、ヨコハケ。内面黒斑 にヨコナダ	1~2 mmの砂粒、石英含む	21	64	
289	衛生土器	有孔 瓶	D	直筒	3 5.1K	IV-6層	-	(5.05)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内外下部ナダ、内面ヨコナダ、ヨコハケ。孔 径約1.5 cm、約6 mmの直筒に腰部に横隔板の袋、内面ハ ケタキ、サウエーブ等	0.5 mm以下石粒・砂粒を含む	21	64	
290	衛生土器	有孔 瓶	D	直筒	3 5.1K	IV-6層	-	(4.20)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内外ハケタキ、外面ヨコナダ、ヨコハケ。孔 径約6 mm、黒斑あり	0.5~1.5 mm粒の砂粒を含 む	21	64	
291	衛生土器	瓶	A 2±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(6.80)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	内面ヨコナダ、ハケタキ、内面器具剥離。直筒若干 上部直	0.5~2.5 mm粒の砂粒と小 石を含む	ヒニナル ア	21	64
292	衛生土器	瓶	A 2±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(3.95)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面タケタケ。内面凹陥の異状に近 いハケ。直筒若干上部直	1 mm砂粒・石英含む 堆積物	ヒニナル ア	21	64
293	衛生土器	瓶	A 2±a の口縦隔	直筒	3 3.1K	IV-6層	-	(6.00)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内外ナダ、内面ヨコナダとナダ。内面 ヨコナダ外端にタキあり。若干ノーマル上升直	0.5~1 mm粒の砂粒含 む	21	64	
294	衛生土器	瓶	A 2±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(3.20)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後、内面凹陥の異状ハケ。底面木葉層、 少し上部直	1~2 mmの砂粒、石英含む	21	65	
295	衛生土器	瓶	A 1±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(5.30)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内外ハケタキ。内面ヨコナダとユビオ タキ。直筒若干上部直	1~3 mmの砂粒含む	21	64	
296	衛生土器	瓶	A 1±a の口縦隔	直筒	3 5.1K	IV-6層	-	(6.15)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ハケタキ。内面ヨコナダとユビオ タキ。直筒若干上部直	0.5~2 mm粒の砂粒を含む	21	64	
297	衛生土器	瓶	A 3±a の口縦隔	直筒	3 5.1K	IV-6層	-	(4.75)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ハケタキ。外端・部端着生着 する	3 mm以下の砂粒含む	21	64	
298	衛生土器	瓶	H 1	直筒	3 3.1K	IV-6層	-	(3.95)	-	1)縦隔部 2)直筒	タキ成形後内面ハケタキ。内面ハケ	1~2 mmの砂粒含む	21	65	
299	衛生土器	瓶	A 3±a の口縦隔	直筒	3 5.1K	IV-6層	-	(11.40)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ナダ、内面ハケ。底面器具剥離。直筒若干 上部直	1 mm砂粒・石英含む 堆積物	21	65	
300	衛生土器	瓶	A 2±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(6.20)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ナダ、内面ハケ。外端直筒に ビニカル、底面若干上部直	0.5~2 mm粒の砂粒を含む	21	65	
301	衛生土器	瓶	A 1±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(3.70)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ハケタキ。部端若干上部直 端に器具剥離か	1~3 mmの砂粒含む	21	65	
302	衛生土器	瓶	A 1±a の口縦隔	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(2.55)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ハケタキ。内側にシリコン油直 端に器具剥離か	1 mm大以下の砂粒含む	21	65	
303	衛生土器	瓶	D 1	直筒	3 4.1K	IV-6層	-	(4.65)	-	1)縦隔部 2)直筒 3)直筒	タキ成形後内面ナダ。底面若干上部直	堆積物→細砂を多く含む	21	65	

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				堆存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	基高	腹高	底径						
364	野生土器	流甌	D 1	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(4.10)	-	5.90	底部 内壁面	外側面はビザナダ、内面ナダ。底面に黒斑。	1~3mmの砂粒含む	21	65	
365	野生土器	流甌	D 2 *	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(4.40)	-	4.10	底部 内壁面	外側面はビザナダ、内面ナダ。底面に黒斑。	2mm以下の大砂粒含む	21	65	
366	野生土器	流甌	D 1	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(4.20)	-	5.80	底部 内壁面	タキナダと底部の黒斑が目立つ。	堆積砂を少許含む	21	65	
367	野生土器	流甌	D 2	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(3.70)	-	5.10	底部 内壁面	底部外側面はビオサナ。底面有千石上げ底でナゲ仕様。	粗砂を少許含む	21	65	
368	野生土器 ～土器類	甌	D	圓錐 3 3.1K	IV-6層	(12.60)	6.05	-	-	内壁面	口縁部外側面にいり、内面面ナダ。内面天井部分に黒斑有り。	0.5~2mmの砂粒を多く含む	21	65	
369	野生土器 ～土器類	甌	不明	圓錐 3 3.1K	IV-6層	(5.20)	-	-	-	全体 内壁面	つまみ部分の外側面はビオサナ。覆部外側タキ後ハグ。	2mm以下の大砂粒含む	21	65	
370	野生土器 ～土器類	甌	A	圓錐 3 3.1K	IV-6層	8.45	2.80	-	-	内壁面	開口部のえみ有り。外側ナゲ後へテミガキで磨かれた部分にハグ有り。内面ニコハグ。	3mm以下の砂粒含む	21	65	
371	野生土器	甌	A 3 a	圓錐 3 4.1K	IV-6層	(26.00)	(4.10)	-	-	底部 内壁面	底部の内壁に横溝の2箇所有る。	粗砂へ細砂を多量に含む	22	65	
372	野生土器	甌	A 1 a	圓錐 3 3.1K	IV-6層	(19.40)	(2.85)	-	-	底部 内壁面	底部内壁にヨコナダ。片端部有り上端を盛る。	1mmの大砂粒含む	22	65	
373	野生土器	甌	A 2	圓錐 3 3.1K	IV-6層	(25.40)	(4.30)	-	-	底部 内壁面	底部内壁にヨコナダ。内面ナダ。	3mm以下の砂粒含む	22	65	
374	野生土器	甌	A 1 a	圓錐 3 3.1K	IV-6層	(20.40)	(3.10)	-	-	底部 内壁面	内面面ナダ。	1~2mmの砂粒含む。全表面に有り。	22	65	
375	野生土器	甌	C 1	圓錐 3 4.1K	IV-6層	(23.60)	(5.35)	-	-	底部 内壁面	底部外側に擦(4条)有りによる擦痕。複数箇所に盛る。	1mm以下の大砂粒含む	北近畿系 A	65	
376	野生土器 ～土器類	甌	D 2	圓錐 3 4.1K	IV-6層	(12.90)	3.85	-	-	底部 内壁面	タキ成形後外側面はナダ。内面方舟向ナダ。両面に1/5の砂粒有り。	石英など3mm以下の大砂粒含む	22	66	
377	野生土器 ～土器類	甌台	D	圓錐 3 3.1K	IV-6層	(24.30)	(20.60)	-	(30.95)	内壁面	口縁部を大きく削り出し。底盤裏面に凹凸形を有する。底部S字形スカルプト。上段に口縫部の網状構造有り。受部の直角斜面ハグ後ナガキ。	0.5~2mmの砂粒を含む	古墳系 B	66~68	
378	野生土器 ～土器類	甌台	A 2 b	圓錐 3 4.1K	IV-6層	(20.70)	(6.00)	-	-	底部 内壁面	口縫部の外側に沿うて擦痕あり。受部内面ハグ後ナガキ。	2.5mm以下の大砂粒含む	北近畿系 B	66	
379	野生土器	甌台	A 2 b	圓錐 3 4.1K	IV-6層	(18.00)	(1.30)	-	-	底部 内壁面	口縫部の外側に沿うて擦痕あり。受部内面ハグ後ナガキ。	1mm以下の大砂粒含む	北近畿系 B	66	
380	野生土器 ～土器類	甌	難存	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(9.60)	-	-	底盤 内壁面	中間の擦痕跡。外側タキハグ後ナガキ。内面ナダ。	3mm大粒砂へ細砂多く含む	22	68	
381	野生土器 ～土器類	甌	難存	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(5.65)	-	-	底盤 内壁面	中間の擦痕跡。外端部に口縫部有り。脚柱部外側に擦痕有り。	細砂を少許含む	22	68	
382	野生土器 ～土器類	甌	難存	圓錐 3 4.1K	IV-6層	-	(4.00)	-	(21.55)	底盤 内壁面	脚柱部外側に擦痕有り。脚柱部外側に擦痕有り。脚柱部外側に擦痕有り。	細砂を少許含む	22	66	
383	土器品	-	-	圓錐 3 4.1K	IV-6層	長:4.15	径:4.85 Tl:26	-	-	3/4 堆存	外側ナゲ上げのよう。孔径約1.1cm。	0.5~3mm程度の砂粒含む	22	68	
384	野生土器	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(15.10)	(5.35)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面の横溝の2條約ヨコナダ。脚柱部内面有りカゲズリ。	1mm以下の大砂粒含む。石英等。	山陰系 A	69	
385	野生土器	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(15.40)	(4.35)	-	-	底盤 内壁面	口縫部内面ヨコナダ。底部内面右方向と思われる。	2mm以下の大砂粒含む。石英等。	山陰系 A	69	
386	野生土器 ～土器類	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(15.00)	(5.40)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	0.5~1mm程度の砂粒を含む。石英等。	山陰系 A	68	
387	野生土器 ～土器類	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(17.00)	(5.30)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	2mm以下の大砂粒を非常に多く含む。石英等。	山陰系 A	69	
388	野生土器 ～土器類	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(16.00)	(4.25)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダ。外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	2mm以下の大砂粒を非常に多く含む。石英等。	山陰系 A	69	
389	野生土器 ～土器類	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(18.80)	(6.90)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	0.5~1mm程度の砂粒を含む。石英等。	山陰系 A	69	
390	野生土器	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(13.50)	(4.90)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	1mm以下の大砂粒を非常に多く含む。石英等。	山陰系 A	69	
391	野生土器	甌	E	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(16.40)	(6.50)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	1~2mm以下の大砂粒。石英等。	山陰系 A	69	
392	野生土器	甌	B 2	圓錐 3 5.1K	IV-5層	(16.40)	(3.25)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	0.5~2mmの砂粒を含む。石英等。	22	69	
393	野生土器 ～土器類	甌	B 7	圓錐 3 2.3	IV-5層	(14.80)	(5.40)	-	-	底盤 内壁面	口縫部ヨコナダで外側面は擦痕の底付ヨコナダ。肩部内面右方向カゲズリ。	1~2mmの砂粒や多く含む。石英等。	北近畿系 B	69	
394	野生土器	甌	A 1	圓錐 3 2.3	IV-5層	(13.60)	(6.95)	-	-	底盤 内壁面	タキ成形後底盤内面ナダ。口縫部ヨコナダ。	1~3mmの砂粒や多く含む	22	69	
395	野生土器	甌	B 1	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(17.70)	(3.65)	-	-	底盤 内壁面	口縫部内面ヨコナダ。内面ナダ。口縫部ヨコナダ。	3mm以下の砂粒含む	22	69	
396	野生土器	甌	A 1	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(11.80)	(4.20)	-	-	底盤 内壁面	タキナダと底部外側面カゲズリ。内面ナダ。	1~2mmの砂粒含む	22	69	
397	野生土器	甌	A 1	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(15.40)	(4.60)	-	-	底盤 内壁面	タキナダと底部外側面カゲズリ。内面ナダ。	1mmの砂粒含む	22	69	
398	野生土器 ～土器類	甌	A 1	圓錐 3 4.1K	IV-5層	(13.80)	(3.45)	-	-	底盤 内壁面	タキナダと底部外側面カゲズリ。内面ナダ。	3mm以下の大砂粒含む	22	69	

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
329	弥生土器	甕	B 7	深皿 3 5.5K	IV-5層	(13.90)	(6.40)	(14.20)	-	1/6 1/6 1/6	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコカケ。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1.5mm以下のチャート・石英・くさり繩合む	北近畿系 B	23	69
340	弥生土器	甕	C 1	深皿 3 2・3 14層	IV-5層	(16.30)	(6.50)	-	-	1/6	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1~3mmの砂粒・石英含む	北近畿系 A	23	69
341	弥生土器	甕	C 8	深皿 3 2・3 14層 (区間)	IV-5層	(13.90)	(6.25)	-	-	1/4	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1~3mmの砂粒や多く含む	北近畿系 B	23	69
342	弥生土器	甕	A 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(18.40)	(6.25)	-	-	1/6 1/9 1/6	内面ヨコナギで脚部の凹溝状の僅み多数あり。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	石英など1.5mm以下の砂粒非常に多く含む	山陰系 A	23	49
343	弥生土器	甕	A 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(19.40)	(6.45)	-	-	1/6	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1~2mmの砂粒・くさり繩合む	山陰系 A	23	69
344	弥生土器	甕	B 2	深皿 3 4.1K	IV-5層	(20.80)	(3.50)	-	-	1/6 1/9	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。	1mm以下の砂粒含む	西都原 内側 A	23	70
345	弥生土器	甕	B 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(18.30)	(3.60)	-	-	1/6	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1~2mmの砂粒含む	北近畿系 A	23	70
346	弥生土器	甕	B 3	深皿 3 4.1K	IV-5層	(19.80)	(3.70)	-	-	1/6	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1~3mmの砂粒含む	西都原 内側 A	23	68
347	弥生土器	甕	B 2	深皿 3 2・3 14層	IV-5層	(18.60)	(3.60)	-	-	1/12	口縁部外側に2条の脚部。瓶底部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	1~2mmの砂粒・くさり繩・石英含む	北近畿系 A	23	70
348	弥生土器	甕	E 3	深皿 3 3・4 14層	IV-5層	(13.50)	(5.30)	-	-	1/6	口縁部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。	1~2mmの砂粒や多く含む	23	70	
349	弥生土器	甕	D 5	深皿 3 2・3 14層	IV-5層	(15.90)	(5.00)	-	-	1/6	内面ヨコナギ。口縁部内面へミヨギカ。口縁部内面ヨコナギ。	1~2mmの砂粒・くさり繩・石英含む	23	70	
350	弥生土器	甕	E 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(14.65)	(5.90)	-	-	1/6	口縁部外側上半部に2条の脚部。口縁部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。脚部外側ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	北近畿系 小	23	70
351	弥生土器	甕	C 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(18.80)	(6.60)	-	-	1/6 カラクリナ	口縁部外側ヨコナギ。体部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。	2mm以下の砂粒非常に多く含む	23	70	
352	弥生土器	甕	H	深皿 3 4.1K	IV-5層	(16.10)	(4.60)	-	-	1/4	口縁部外側ヨコナギ。口縁部外側面、内面横ヨコナギ。	1mm以下の砂粒含む	23	70	
353	弥生土器	甕	C 2	深皿 3 4.1K	IV-5層	(15.75)	(3.70)	-	-	1/6	口縁部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒・角閃石含む	渡隈系 A	23	70
354	弥生土器	甕	I 2	深皿 3 4.1K	IV-5層	(17.20)	3.95	8.10	-	1/6	口縁部上半部ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。体部下外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	23	70	
355	弥生土器	甕	A 3 a	深皿 3 4.1K	IV-5層	(18.90)	(1.95)	-	-	1/6	口縁部下端に下垂し直前にハラ書きのような複数の突起有り。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	23	70	
356	弥生土器	甕	不明	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(2.30)	-	-	1/6	口縁部上半部外側に牛筋状の突起有り。骨管状工具による上部削痕有り。瓶底下端は直線的有り。	1~3mmの砂粒含む	北近畿系 2a	23	70
357	弥生土器	甕	器	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(3.95)	-	-	1/6	瓶底部外側不規則な突起有り。瓶底下端は直線的有り。内面ヨコナギ。	1~2mmの砂粒・くさり繩含む	23	70	
358	弥生土器	甕	同三	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(2.40)	-	-	1/6	瓶底部外側に3箇所削痕有り。外側に複数の直線文或文字有り。外側削痕部を直線的に削除。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒・くさり繩含む	23	70	
359	弥生土器	林	F 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(11.70)	(5.60)	(11.00)	-	1/6	口縁部ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。	1~4mmの砂粒・くさり繩含む有り。金雲母微細含む	便か	23	71
360	弥生土器	林	F 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	(17.90)	(5.65)	-	-	1/6	口縁部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下での砂粒含む	23	71	
361	弥生土器	林	F 3	深皿 3 4.1K	IV-5層	(27.10)	(6.40)	-	-	1/6	口縁部外側ヨコナギ。内面裏ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒・くさり繩含む	24	70	
362	弥生土器	林	A 2・C Cの 口縫部	深皿 3 4.1K	IV-5層	(11.60)	(4.70)	-	-	1/4	口縁部成形内面ハラ下部にヨタナア加える。内面ヨコナギ。	1~3mmの砂粒や多く含む。石英含む	24	71	
363	弥生土器	有孔	E	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(8.20)	-	1.30	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	1~2mmの砂粒含む	24	71	
364	弥生土器	底部 (底)	A 2 b a	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(5.35)	-	(7.35)	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	24	71	
365	弥生土器	底部 (底)	A 2 a a	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(3.90)	-	4.05	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	24	70	
366	弥生土器	底部 (底)	A 2 a β	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(3.75)	-	2.20	1/6	口縁部外側ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	1mmの砂粒・石英含む	24	71	
367	弥生土器	底部 (底)	A 1 a β	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(3.40)	-	2.15	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	24	71	
368	弥生土器	底部	D 1	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(3.60)	-	(5.90)	1/6 2/3	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	1mm以下の砂粒含む。二度練熱なし	24	71	
369	弥生土器	底部	C 2	深皿 3 4.1K	IV-5層	-	(3.40)	-	6.35	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	1mm以下のチャート・石英・金雲母微細含む	24	71	
370	弥生土器	底部	C	深皿 3 4.1K	IV-5層	(11.15)	(4.90)	-	-	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	24	71	
371	弥生土器	高环	A 2	深皿 3 4.1K	IV-5層	(27.40)	(4.50)	-	-	1/6	口縁部剥離により調整不明	2mm以下の砂粒含む	24	72	
372	弥生土器	高环	一部分の ため不明	深皿 3 4.1K	IV-5層	(19.65)	(3.25)	-	-	1/6	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	若桜未確 定	24	72
373	弥生土器	高环	A 5 a	深皿 3 4.1K	IV-5層	(21.70)	(3.75)	-	-	1/10	口縁部成形内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。内面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	24	72	

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
374	弥生土器 ～土師器	湯舟	C 1	深皿	IV-5層	(22.60)	(2.50)	-	-	口縁部外側に1条の崩壊線。底近く崎き継ぎ 1/2 い。器底堅膜、外曲変形に見出しなる。	1～2mmの砂粒・石片、 さり織合む	北沢系 (丹後)系 A	24	72	
375	弥生土器 ～土師器	器台	A 2 s	深皿	IV-5層	(18.00)	(3.80)	-	-	口縁部外側に1条の崩壊線。口縁部ヨコナギ。底部 1/8 内面ハゲ、内面ナガ。	3mm以下の砂粒含む	北沢系 A	24	72	
376	弥生土器 ～土師器	器台	F	深皿	IV-5層	(11.30)	(2.25)	-	-	口縁部外側ヨコナギ。底部下端に底ハゲ。その相部 1/7 分はハゲトキヨリ調整。底部外側はハゲ	細粒を多量に含む	24	72		
377	弥生土器 ～土師器	器台	G 4	深皿	IV-5層	(16.80)	(2.35)	-	-	口縁部 受面内面ハケ剥離。それ以外の部分の剥落は少 ない。	1～2mmの砂粒・石片含む	北沢系 (丹後)系 B	24	72	
378	弥生土器 ～土師器	器台	G 1	深皿	IV-5層	(14.70)	(2.60)	-	-	口縁部外側の内面上側に1条の崩壊線。口縁部ヨ コナギ。底部内面ハゲヨリギ。底部ナガ。	2mm以下の砂粒含む	24	72		
379	弥生土器 ～土師器	器台	G 3	深皿	IV-5層	8.70	(6.30)	-	-	底端元 存	2mm以下の大砂粒含む	24	71		
380	弥生土器 ～土師器	湯舟	器皿	深皿	IV-5層	-	(10.15)	-	-	鰐柱部 突起部。外面ハケ後ハマヨリギ。内面下平ハ ギ。円錐孔ヨリカ。	3mm以下の砂粒含む	24	72		
381	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器 器台 A 1	深皿	IV-5層	-	(3.95)	-	(12.40)	-	窯部 陶器ハケ後ハマヨリギ。内面下平ヨリカヘ。上半 1/6 ハマヨリギ。窯端ヨリナガ。	0.5～1mmの砂粒含む	24	72		
382	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器 器台 A 2	深皿	IV-5層	-	(4.20)	-	(13.85)	-	窯端部 外面タハケ後方ヨリ崩壊ハマヨリギ。内面ハ ギ。窯端ヨリカ。	2mm以下の砂粒含む	24	72		
383	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器 器皿 A 2	深皿	IV-5層	-	(1.90)	-	(15.10)	-	窯部 1/8の崩壊部。外面ナゲテ後は壁面方向。下部は 窯端部ヨリハマヨリギ。内面ヨリカヘ。内面透孔1個 1/8 有り。窯端部。方位不明。	1mmの砂粒含む	24	72		
384	弥生土器 ～土師器	湯舟	器皿	深皿	IV-5層	-	(8.20)	-	-	鰐柱部 突起部外側タハケ。内面にシリゴリ。下部にヨリカ ハギ。円錐透孔有り。底延部ヨリタハケヨリカ。	1mmの砂粒含む	24	72		
385	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器	深皿	IV-5層	-	(6.15)	-	-	-	窯柱部 突起部外側は能力のハマヨリギ。窯内面 は方向によりタハケで凹部はヨリカヘ。窯底部は 窓合面。窓透孔は4方向	1～2mmの砂粒・石片含む	24	72		
386	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器	深皿	3・4 回輪	IV-5層	-	(4.60)	-	-	窯柱部 突起部。外窓部ハマヨリギ。窓内面ナガ。 窓外側下端はヨリカ。	1～2mmの砂粒含む	24	72		
387	弥生土器 ～土師器	蓋	D 5	深皿	IV-4層	(15.40)	(6.25)	-	-	口縁部外側に2条の崩壊。口縁部へ窓延部ヨリカナギ。 内面ハマヨリギ。窓延部外側タハケ後ハマヨリカヘ。 窓内ハギ。窓延部ヨリカ。	3mm以下の大砂粒含む	24	72		
388	弥生土器 ～土師器	蓋	E 1	深皿	IV-4層	(13.00)	(4.55)	-	-	口縁部ヨリカナギ。口縁部外側ヨリカナギ。窓延部 ハマヨリギ。窓延部外側タハケ。内面ハマケズヘリチ子。	2mm以下の砂粒含む	24	72		
389	弥生土器 ～土師器	林	H 1	深皿	IV-4層	(35.30)	(6.65)	-	-	口縁部外側に2条の崩壊。(口縁部外側ヨリカナギ。 内面ハマヨリギ。内面ハマケズヘリチ子)。	2mm以下の大砂粒含む	24	72		
390	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器 A 2 b a	深皿	IV-4層	-	(6.30)	-	(6.30)	-	窯部 内窓部ハマヨリギ。内面ハケ後ハマヨリカヘ。内面 透孔ヨリカナギ。内面透孔ヨリカ。	2mm以下の大砂粒含む	24	72		
391	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器 器皿 A 2	深皿	IV-4層	-	(1.70)	-	(17.50)	-	窯端部外側面に複数崩壊文を運び、5条の沈淵(暗 窓)施す。内外窓ヨリカナギ調整。	1mm以下の砂粒含む	24	72		
392	弥生土器 ～土師器	窯(焼)器 A 1	深皿	IV-4層	-	(3.85)	-	(13.85)	-	窯部 内窓部ハマヨリカナギ調整。外面上部に 窓内側ヨリカヘ。	3mm以下の大砂粒少量化含む	1)窓部の 性質も あり	24	73	
393	弥生土器 ～土師器	甕	C 7	深皿	IV-3層	(12.80)	(5.60)	-	-	口縁部外側に2条の崩壊。口縁部後側ヨリカナギ。 体部外側と 口縁部内側に保付	3mm以下石粉散脱。砂粒を 多く含む	25	74		
394	弥生土器 ～土師器	甕	C 7	深皿	IV-3層	(12.65)	(5.30)	-	-	口縁部外側に4条の崩壊(窓延部ヨリカナギ)成体部 内面ハギ。	2mm以下石粉→堆積砂を多く含む	北沢系 か	25	74	
395	弥生土器 ～土師器	甕	C 5	深皿	IV-3層	(17.40)	(4.90)	-	-	口縁部内側ヨリカナギ。体部外側保付	2mm以下的小石と粗砂を多く含む	北沢系 A	25	74	
396	弥生土器 ～土師器	甕	C 3	深皿	IV-3層	(15.70)	(3.90)	-	-	口縁部内側ヨリカナギ。体部外側内面ハギ。口縁部内側ヨリカ ナギ。内面ヨリカ。	堆積砂を少し含む	北沢系 A	25	74	
397	弥生土器 ～土師器	甕	C 4	深皿	IV-3層	(12.80)	(4.20)	-	-	口縁部外側内面ハギ。内面左方向ハマヨリカヘ。口縁部 内側ヨリカナギ。内面透孔有り。	堆積砂少量化含む	北沢系 A	25	74	
398	弥生土器 ～土師器	甕	C 4	深皿	IV-3層	(15.45)	(3.00)	-	-	口縁部外側に3条の崩壊現象。タハケヨリ成体部内面 ヨリカ。	3mm以下石粉→堆積砂を少量化含む	北沢系 A	25	74	
399	弥生土器 ～土師器	甕	C 1	深皿	4・5 回輪	IV-3層	(17.20)	(8.20)	(18.00)	-	体内成体部内面ハギ。多孔化ドスト接合部立つ。瓶底 内面に左方向ハマヨリカヘ。口縁部内側ヨリカナギで 堆積砂が入る。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	北沢系 A	25	74
400	弥生土器 ～土師器	甕	C 2	深皿	1・2 回輪	(15.00)	(2.80)	-	-	口縁部内面は3~4層目が入るヨリカナギ。瓶底内 面ヨリカヘ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	北沢系 A	25	74	
401	弥生土器 ～土師器	甕	G	深皿	3・4 回輪	(13.70)	(5.90)	-	-	タハケヨリ成体部内面ハギ。内面ヨリカナギ。口縁部 内側ヨリカナギ。内面左方向ハマヨリカヘ。口縁部内側ヨリカ ナギ。	粗砂を多く含む	他地域系	25	74	
402	弥生土器 ～土師器	甕	C 1	深皿	4・5 回輪	IV-3層	(13.70)	(4.80)	-	-	タハケヨリ成体部内面ハギ。内面ヨリカナギ。口縁部 内側ヨリカナギ。	1mm以下的小石と粗砂を多く含む	北沢系 A	25	74
403	弥生土器 ～土師器	甕	C 1	深皿	4・5 回輪	IV-3層	(16.60)	(4.60)	-	-	タハケヨリ成体部内面ハギ。内面ヨリカナギ。	1mm以下的小石と粗砂を多く含む	北沢系 A	25	74
404	弥生土器 ～土師器	甕	C 1	深皿	4・5 回輪	IV-3層	(15.20)	(5.90)	-	-	タハケヨリ成体部内面ハギ。内面ヨリカナギ。口縁部 内側ヨリカナギ。	1mm以下的小石と粗砂を多量に含む	北沢系 A	25	74
405	弥生土器 ～土師器	甕	E	深皿	4・5 回輪	(16.40)	(5.45)	-	-	口縁部内面は3~4層目が入るヨリカナギ。瓶底内 面ヨリカヘ。	1mm以下的小石と粗砂を多く含む	山陰系 A	25	74	
406	弥生土器 ～土師器	甕	E	深皿	3・4 回輪	(14.60)	(5.30)	-	-	口縁部内面ヨリカナギ。体部外側タハケ後ナガ。 内面右方向ハマヨリカヘ。	1mm以下的小石と粗砂を多く含む	山陰系 A	25	74	
407	弥生土器 ～土師器	甕	E	深皿	3・4 回輪	(12.90)	(5.70)	-	-	口縁部内面は3~4層目が入るヨリカナギ。瓶底内面ヨリ カナギ。	3mm以下石粉散脱。堆積砂を多く含む	山陰系 A	25	74	
408	弥生土器 ～土師器	甕	E	深皿	4・5 回輪	(14.70)	(4.60)	-	-	口縁部内面は3~4層目が入るヨリカナギ。瓶底内面は右 方向ハマヨリカヘ。	1mm以下石粉散脱。堆積砂を多く含む	山陰系 A	25	74	

番号	種別	種類	難易度	構造	層位	法量(cm)				堆存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	高さ	横幅	底深						
409	弥生土器	甕	E	圓筒3 41K	IV-3層	14.40	(6.80)	-	-	口縁部 2/3	器物軸部、口縁部内面ヨコナギ。体部底面タケハク。 内面有方向ヘテカズリ。	粗砂+細砂を非常に多く含む	山陰系A	25	75
410	弥生土器	甕	B 2	圓筒3 3×4 41K	IV-3層	(15.85)	(2.25)	-	-	口縁部 1/70	口縁端面に3条の横凹部、口縁部外側面タケハク。 内面ヨコナギ。器底内面ヨコナギ。底部有孔部があるヨコナギ。	3mm以下石灰を含む 他の可溶性物質あり	山陰系A	25	74
411	弥生土器	甕	B 1	圓筒3 41K	IV-3層	(15.25)	(3.55)	-	-	口縁部 1/8	口縁端面に横凹部、口縁部底面タケハク。口縁部外側面ヨコナギ。内面は表面無理ありと不明。	2mm以下石灰+粗砂を多く含む 他の可溶性物質あり	山陰系A	25	74
412	弥生土器	甕	B 5	圓筒3 21K	IV-3層	(13.80)	(2.60)	-	-	口縁部 1/6	口縁端面に横凹部は細かい。器底内面ヨコナギ。 内面ヨコナギで、口縁端部では2条の横凹部・横凹部に沿う	1~2mmの砂粒、黑色沈灰	山陰系A	25	74
413	弥生土器	甕	B 4	圓筒3 5×6K	IV-3層	(15.75)	(4.25)	-	-	口縁部 前下	タケハク成形後端面タケハク。内面ヨコナギ。口縁部外側面ヨコナギ。器底内面ヨコナギ。底部あり	2mm以下のチャート・石灰 や粘土質含む	山陰系A	25	74
414	弥生土器	甕	B 2	圓筒3 4×5 21K	IV-3層	(13.00)	(4.50)	-	-	口縁部 1/5	口縁端部に2条の横凹部、タケハク成形後端部外側面 にヨコナギ。内面は方向ヘテカズリ。口縁部内面ヨコナギ。	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	山陰系A	25	74
415	弥生土器	甕	A 2	圓筒3 21K	IV-3層	(13.20)	(6.25)	-	-	口縁部 1/6	タケハク成形後端部外側面。体部内面方向にイタナギ。 タケハク成形後端部外側面は目が付けるヨコナギ。口縁部 には2条の横凹部の余材があり	粗砂少量化	山陰系A	25	74
416	弥生土器	甕	B 4	圓筒3 1×2 21K	IV-3層	(17.00)	(3.30)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナギ。口縁端部外側面に2条の横凹部 あり。器底全体無理	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	山陰系A	25	74
417	弥生土器	甕	C 7	圓筒3 21K	IV-3層	(16.40)	(4.65)	-	-	口縁部 1/6	受凹状の口縁部。タケハク成形後端部外側面ヨコナギ。 内面ヨコナギ	2mm以下の砂粒含む	山陰系A	25	74
418	弥生土器	甕	B 3	圓筒3 41K	IV-3層	(16.30)	(3.90)	-	-	口縁部 1/4	口縁端部方に若干低部。タケハク成形後端部外側面ヨコナギ。 内面左側に向へタケハク。口縁部外側面ヨコナギ	1mmの小石と粗砂を多く含む	山陰系A	25	74
419	弥生土器	甕	D 1	圓筒3 41K	IV-3層	(14.60)	(7.70)	(17.35)	-	口縁部 2/3	口縁端部方に付いたぼし。内面ヨコナギ。体部 内面底部は細かい。器底内面タケハク。内面左側に向へタケハク。 内面右側は若干低部。細凹部タケハクはヨコハクの可能性あり。 内面に付着看。特に下部に多い。二次被焼により 変色	2mm以下の砂粒多く含む 庄内形繩	庄内形繩 變型甕	25	75
420	弥生土器	甕	D 3	圓筒3 41K	IV-3層	(14.40)	(4.90)	-	-	口縁部 1/10	口縁部外側面タケハク。内面ヨコナギ。口縁部外側面 -端部ヨコナギ。内面ヨコナギヨコナギ	粗砂	庄内形繩 變型甕	25	74
421	弥生土器	甕	A 1	圓筒3 31K	IV-3層	(16.00)	(6.45)	-	-	口縁部 1/5	タケハク成形後端部内面ヨコナギ。口縁部内面タケハク。 口縁部内面ヨコナギヨコナギ	砂粒を少量化	山陰系A	25	74
422	弥生土器	甕	A 1	圓筒3 41K	IV-3層	(15.10)	(5.00)	-	-	口縁部 1/6	タケハク成形後端部内面ヨコナギ。口縁部内面タケハク。 口縁部内面ヨコナギヨコナギ	3mm以下石灰を多く含む	山陰系A	25	74
423	弥生土器	甕	G	圓筒3 1×2 21K	IV-3層	(15.40)	(3.10)	-	-	口縁部 前下	口縁部外側に難解工具による施又。施又は8条。内 面下ヨコナギ。内面付着看	1mmの小石と粗砂を多量に 含む。専用洗洗用色葉色染 する	古備系A	25	74
424	弥生土器	甕	G	圓筒3 41K	IV-3層	(13.90)	(3.10)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側に付いたぼし。内面ヨコナギ。内面左側に向へタケハク。 内面右側に向へタケハク。施又より上の口縁部 内面に巻きシラビソ巻き	粗砂多く含む。角開右 み薄茶色染	古備系A	25	74
425	弥生土器	甕	F	圓筒3 41K	IV-3層	(14.10)	(8.30)	-	-	口縁部 1/4	口縁部内面ヨコナギ。体部底面タケハク。内面コ ビサキタケハクタケハク。施又より上部の口縁部 内面に巻きシラビソ巻き	微細砂多く含む。微細 な角開。全盤含む	綱岐系A	26	75
426	弥生土器	甕	F 4	圓筒3 41K	IV-3層	(37.25)	(6.90)	-	-	口縁部 1/8	タケハク成形後体部内面タケハク。口縁部内面タケハク。 口縁部内面ヨコナギヨコナギ	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	山陰系A	26	75
427	弥生土器	甕	D 1	圓筒3 3×4 21K	IV-3層	(14.20)	(5.10)	-	-	口縁部 若干	口縁端面に2条の横凹部。内面ヨコナギ。下 部ヨコナギ。内面付着看	粗砂少量化。細砂多く含む 山陰系A	26	75	
428	弥生土器	甕	D 1	圓筒3 1×2 21K	IV-3層	(20.90)	(2.90)	-	-	口縁部 1/6	口縁端部外側に2条の横凹部。外側面部ヨコナギ。外 面ヨコナギ。内面付着看	粗砂多く含む	山陰系A	26	75
429	弥生土器	甕	D 3	圓筒3 1×2 21K	IV-3層	(14.60)	(7.45)	-	-	口縁部 若干	口縁端部外側に2条の横凹部。内面ヨコナギ。 内面付着看	1mmの小石と粗砂を多量に 含む。クリア含む	山陰系A	26	75
430	弥生土器	甕	C 2	圓筒3 41K	IV-3層	(14.40)	(5.55)	-	-	口縁部 1/2	口縁端部外側面に1~2条の横凹部。外側面ハケ後ヨ コナギ	粗砂少量化。細砂多く含む	山陰系A	26	76
431	弥生土器	甕	D 2	圓筒3 41K	IV-3層	(14.70)	(6.00)	-	-	口縁部外側面ハケ。器底外側面ハケ。内面ヨコナギで施又 ヨコナギ	1~5mmの砂粒や多く含む	山陰系A	26	76	
432	弥生土器	甕	E 2	圓筒3 41K	IV-3層	(16.40)	(8.50)	-	-	口縁部外側面ヨコナギ。器底外側面タケハクヨコナ ギ。内面ヨコナギタケハクタケハク	1mmの小石と粗砂を多く含む	山陰系A	26	76	
433	弥生土器	甕	D 5	圓筒3 5×6K	IV-3層	(16.20)	(3.30)	-	-	口縁部外側面に横凹部と網状強固1~2条あり。器 底部ヨコナギ	2mm以下石灰。くさり繩 チャコリ入り多い	山陰系A	26	75	
434	弥生土器	甕	D 5	圓筒3 41K	IV-3層	(16.30)	(7.40)	-	-	口縁部 1/8	口縁端部外側面2条か。口縁部外側面ヨコナギ。 内面ヨコナギタケハク。内面ハラヨコナギ	3mm大石粒を少量含む	山陰系A	26	75
435	弥生土器	甕	A 3	圓筒3 41K II-1層 II-2層	IV-3層	(20.90)	(7.60)	-	-	口縁部 3/4	口縁部外側面内面ヨコナギ。内面付着看。内面付 着看。内面ヨコナギタケハク。内面ヨコナギタケハク。	1mmの砂粒をわずかに含む。全盤含む	綱岐系B	26	76
436	弥生土器	甕	A 1	圓筒3 41K IV-6層	IV-3層	(18.60)	(7.70)	-	-	口縁部 2/5	口縁部外ヨコナギ。内面や内縫などヨコナギ。器 底部ヨコナギタケハク。内面付着看タケハク	1mmの小石と4mm以下の 砂粒を多量に含む	山陰系A	26	76
437	弥生土器	甕	A 1	圓筒3 31K	IV-3層	(16.70)	(3.20)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナギ。器底外側面ハケ。内面ヨコナギで施又 ヨコナギ	細砂少量化。細砂多く含む	山陰系A	26	73
438	弥生土器	甕	A 2	圓筒3 41K	IV-3層	(19.40)	(5.10)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側面ヨコナギ。器底外側面タケハクヨコナ ギ。内面ヨコナギタケハクタケハク	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	山陰系B	26	75
439	弥生土器	甕	C 2	圓筒3 1×2 21K	IV-3層	-	(5.55)	-	-	口縁部 1/2	口縁端部外側面ヨコナギ。内面付着看タケハク。 内面付着看ヨコナギ	1mmの小石と粗砂を多量に 含む。くさり繩含む	東国系	26	77
440	弥生土器	甕	C 2	圓筒3 31K	IV-3層	(13.70)	(5.70)	-	-	口縁部 1/6	口縁端部内面ヨコナギ。内面付着看タケハク。 内面ヨコナギタケハク	細砂少量化。細砂多く含む	東国系	26	75
441	弥生土器	甕	B 1	圓筒3 31K	IV-3層	(16.30)	(5.35)	-	-	口縁部 1/6	口縁部外側面ヨコナギ。内面ヨコナギタケハク。 内面横模様	3mm以下砂粒を含む	北近畿系 A	26	75
442	弥生土器	甕	不明口崩 甕	圓筒3 1×2 21K	IV-3層	(20.20)	(2.50)	-	-	口縁部 1/9	口縁部外ヨコナギ。内面ハラヨコナギ	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	山陰系	26	75

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	有効面積
						口径	高さ	横径	底径						
443	衛生土器 ～土器類	蓋	G	圓錐3 4×4cm	IV-3層	(6.80)	(4.30)	-	-	1級錐	口縁内側の凸、外側タハケ後へラミガキ、内面イタダケ等、部へラミガキ。	細砂～粗砂を多く含む	26	75	
444	衛生土器 ～土器類	蓋	D 1	圓錐3 4×4cm	IV-3層	-	(1.60)	-	-	1級錐	口縫部内部の凸、外側タハケ後へラミガキ、内面イタダケ等、部へラミガキ。	粗砂～細砂を多く含む	26	76	
445	衛生土器 ～土器類	蓋	扇	圓錐3 3×6cm	IV-3層	-	(7.70)	-	-	扇形	頭部外縁に竹管又は竹籠を配し、凹部外縁に竹管又は竹籠を配する。	1mm以下の大粒砂含む	26	76	
446	衛生土器 ～土器類	蓋	扇	圓錐3 4×4cm	IV-3層	(5.25)	幅(5.1)	-	-	扇形	内面に筒状の耐食土、外面ナラ、内面イタダケ調	粗砂を多く含む	26	76	
447	衛生土器 ～土器類	蓋	扇	圓錐3 4×4cm	IV-3層	(4.15)	幅(4.3)	-	-	扇形	内面に筒状の耐食土、外面ナラ、内面イタダケ調	粗砂を多く含む	26	76	
448	衛生土器 ～土器類	蓋	圓錐	圓錐3 4×5cm 区間	IV-3層	-	(3.60)	-	-	圓錐	頭部に瘤による刺突又連続して築す、外面タハケ、若干、外側底部のナラとイタダケ	1mm以下砂粒を含む	-	76	
449	衛生土器 ～土器類	蓋	一	圓錐3 4×4cm	IV-3層	長 (2.95)	幅(1.55)	-	-	全形	口縫部内側の凸、外側タハケ後へラミガキ、内面イタダケ等、部へラミガキ。	0.5～1mmの砂粒・雲母含む	-	76	
450	衛生土器 ～土器類	蓋	一	圓錐3 5×6cm	IV-3層	長 (6.10)	幅(6.20)	-	-	把手部	把手部の約半分	4.5mm以下砂粒・長石含む	-	76	
451	衛生土器 ～土器類	林	A 1 c	圓錐3 4×4cm	IV-3層	17.40	8.75	-	4.50	1級錐	口縫部タハケ、体部内面ヘラミガキ、内面ナラ	3mm以下砂粒・赤色粒子を含む	26	77	
452	衛生土器 ～土器類	林	A 2' B' C' Cの 口錐部	圓錐3 1×2cm 区間	IV-2層	(13.30)	(4.00)	-	-	1級錐	口縫部外表面コナヂ、体部外表面コハケ後ナラ、内面ナラ	1mm以下小石を少暈含む	26	78	
453	衛生土器 ～土器類	林	A 2 s	圓錐3 5×6cm	IV-3層	(11.50)	5.65	-	2.90	1級錐	口縫部端部整然、タカキ成形後体部外表面タハケ後 若干、内面ナラ、外側底部ナラ等、体部外表面イタダケ等、口縫部行リヨウダ。底面少しナラ・灰土等	1mm以下チャート・石英中量含む	26	77	
454	衛生土器 ～土器類	林	A 2 s	圓錐3 3×4cm	IV-3層	(11.00)	4.70	-	3.90	1級錐	口縫部端部整然、タカキ成形後体部外表面タハケ後 若干、内面ナラ、外側底部ナラ等、木筋痕等、表面あり	3mm以下砂粒～粗砂を多く含む	26	77	
455	衛生土器 ～土器類	林	A 5	圓錐3 4×5cm 区間	IV-3層	-	(5.10)	-	3.30	底部 充てん	口縫部上端の凹面整然、外側タハケ後ナラ、内面凹凸のハケ後多方向ナラ、底面ドーナツ状上昇行	1mm以下小石を少暈含む	27	77	
456	衛生土器 ～土器類	林	A 5	圓錐3 3×3cm	IV-3層	(6.55)	4.75	-	(2.20)	1級錐 若干 区間	口縫部端部ヨコナナヂ、体部内面タハケ後ナラ、内面ナラ	2mm以下小石を少暈含む	27	77	
457	衛生土器 ～土器類	林	A 1 の 口錐部	圓錐3 4×4cm	IV-3層	(18.40)	(2.70)	-	-	1級錐	タカキ成形後外表面ナラ、内面イタダケ、口縫部内 若干	2.5mm以下砂粒若干含む	-	78	
458	衛生土器 ～土器類	林	F 1	圓錐3 4×4cm	IV-3層	(16.00)	(3.00)	-	-	1級錐	口縫部端部上に少し削る、口縫部外表面コナヂ、体 若干	1.5mm以下砂粒・石英含む 變の可変性あり	-	78	
459	衛生土器 ～土器類	有孔 B	圓錐3 4×4cm	IV-3層	-	(3.85)	-	4.00	-	底部 充てん	タカキ成形後内面イタダケ、底面中央から少し偏つ 位信頼性、孔径約6mm	4mm以下砂粒～粗砂を多く含む	27	79	
460	衛生土器 ～土器類	有孔 A	圓錐3 4×4cm	IV-3層	-	(4.05)	-	3.60	-	底部 充てん	タカキ成形後体部外表面斜面状にイタダケ、ドーナツ状上昇行リヨウダ、孔径1.5cm	1mmの砂粒を含む	27	78	
461	衛生土器 ～土器類	有孔 B	圓錐3 5×6cm	IV-3層	-	(4.00)	-	3.60	-	底部 充てん	タカキ成形後内面ハク、孔径約6mmでやや小さい 内面凹凸のハク	2mm以下チャート・石英中量含む	27	78	
462	衛生土器 ～土器類	有孔 B	圓錐3 4×4cm	IV-3層	-	(3.30)	-	4.30	-	底部 充てん	タカキ成形後内面ヨコサエナギイタダケ、孔径約9mmでやや大きい 内面凹凸のハク	粗砂～細砂を多く含む	27	78	
463	衛生土器 ～土器類	有孔 D	圓錐3 2×5cm	IV-3層	-	(2.95)	-	2.40	-	底部 充てん	タカキ成形後内面ナラ、底面周辺は丸く削る。孔径約7mm	2mm以下の砂粒・赤色粒子を含む	27	78	
464	衛生土器 ～土器類	有孔 D	圓錐3 1×2cm 区間	IV-3層	-	(1.90)	-	-	-	底部 充てん	下端が削られた形態、タカキ成形後外表面タハケ、内面ヨコサエナギイタダケ。孔径約9mm	1mm以下の小石を少暈含む。粗砂を多く含む	27	77	
465	衛生土器 ～土器類	有孔 A 2' b 3 l	圓錐3 4×4cm	IV-3層	-	(5.90)	-	5.90	-	底部 充てん	タカキ成形後内面タハケ、一部藤子状タハケ。ドーナツ状上昇行リヨウダ、孔径1.5cm	1mmの砂粒を含む	27	77	
466	衛生土器 ～土器類	A 2' c	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(5.65)	-	6.10	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面に隙間にタハケ施す内面 イタダケがタハケ状に施す。底面丸く削る。外側付着部	4mm以下砂粒～粗砂を多く含む	27	77	
467	衛生土器 ～土器類	A 2' c	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(6.55)	-	4.90	-	底部 充てん	タカキ成形後内面タハケ、一部藤子状タハケ。ドーナツ状上昇行リヨウダ、孔径1.5cm	3mm以下の砂粒、粗砂を多く含む	27	77	
468	衛生土器 ～土器類	A 2' c	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(5.65)	-	6.10	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面に隙間にタハケ施す内面 イタダケがタハケ状に施す。底面丸く削る。外側付着部	3mm以下の砂粒、粗砂を多く含む	27	77	
469	衛生土器 ～土器類	A 2' c	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(4.60)	-	(4.60)	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面タハケ。内面ナラ、底部各洞口 ヨコサエナギイタダケ。外側付着部を次第削り、粗砂を多く含む	1mm以上の小石と粗砂を多量に含む	27	78	
470	衛生土器 ～土器類	A 3 ± a	圓錐3 3×4cm	IV-3層	-	(5.75)	-	(5.90)	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面タハケ。内面ヨコサエナギイタダケ。外側各洞口ヨコサエナギイタダケ。孔径約6mm	石英など3mm以下砂粒を含む	27	78	
471	衛生土器 ～土器類	A 2 ± a	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(4.55)	-	5.20	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面タハケ。内面イタダケ、内面に黒斑あり。 外側の一部に縦行け	1mmの小石を少暈含む。粗砂を多く含む	27	78	
472	衛生土器 ～土器類	A 3 b ± a	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(4.60)	-	(5.75)	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面タハケ後へラミガキ、イタダケ、内面ナラ、外側各洞口ヨコサエナギイタダケ。孔径約6mm	粗砂を少暈含む	27	78	
473	衛生土器 ～土器類	A 3 ± a	圓錐3 4×4cm	IV-3層	-	(4.40)	-	4.30	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面タハケ。内面イタダケ、内面ナラ、外側各洞口ヨコサエナギイタダケ。孔径約6mm	0.5～1mmの砂粒を含む	27	78	
474	衛生土器 ～土器類	A 1 b ± a	圓錐3 3×4cm 区間	IV-3層	-	(5.30)	-	(5.70)	-	底部 充てん	タカキ成形後外表面の上部ヘラミガキ、内面ナラとイタダケで内面ヨコサエナギイタダケ。孔径約6mm	2mm以下砂粒を少暈含む	27	78	
475	衛生土器 ～土器類	A 1 ± b	圓錐3 1×2cm 区間	IV-3層	-	(3.60)	-	3.50	-	底部 充てん	タカキ成形後内面タハケ後ヘラミガキ、内面ナラ、外側各洞口ヨコサエナギイタダケ。孔径約6mm	1mm以下の小石と粗砂を多く含む	27	79	
476	衛生土器 ～土器類	A 1 ± a	圓錐3 3×3cm	IV-3層	-	(3.30)	-	3.65	-	底部 充てん	タカキ成形後内面ヨコサエナギイタダケ。内面ナラ、ヨコサエナギイタダケ。孔径約6mm	石英など3mm以下砂粒を含む	27	79	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	幅員	底深							
477	排水土器	成形(壁・底)	A 1 ± 22	流域 3 4.5m 区間	IV-3層	-	(4.10)	-	4.50	底部 完全	タキ成形外側に底付タキナガ、内側タキナガを タツリ状で強く施す。底付少し上げ張	I mm 小石を少量、粗砂を 多く含む		27	78	
478	排水土器	成形(壁・底)	A 1 ± a	流域 3 3.16	IV-3層	-	(3.90)	-	3.30	底部 3/4	タキ成形外側一部タキナガ。内側ハゲで、凹部 側の底付、標準断面付近に施す。底面もとはジニアツ 部だが中盤部がまっ平底化	粗砂をへ粗砂を少量含む		27	79	
479	排水土器	成形(壁・底)	A 1 ± a	流域 3 5.616	IV-3層	-	(5.10)	-	3.90	底部 完全	タキ成形外側部分にハゲ、底付タキナガ。底 部付内面タキ施す。	1.5 mm 以下チャート・石英 を含む		27	79	
480	排水土器	成形(壁・底)	A 1 ± a	流域 3 4.16	IV-3層	-	(6.45)	-	3.90	底部 完全	外端ハゲ。内面タキナギ。リタナガ。外側表面層 底付。	0.5~1 mm 程の砂粒と小石 を含む		27	79	
481	排水土器	成形(壁・底)	A 1 ± a	流域 3 1.2	IV-3層	-	(4.60)	-	3.45	底部 完全	タキ成形裏面ナガ。底面に3回ほどタキを 施す。底付。	I mm の小石と粗砂を多量 に含む		27	79	
482	排水土器	成形(底)	A 1 b-a	流域 3 4.16	IV-3層	-	(5.40)	-	(4.90)	底部 1/3	底面外側にタキナガ後づきガタ。内面ビオサウ イタナガ。底部外側にハゲ粗縫直線あり	粗砂少額、細砂へ粗砂を 多く含む。水雲母多量、角 閃石多量含む	測定系 A'	27	78	
483	排水土器	成形(壁・底)	A 1 ± 22	流域 3 1.2	IV-3層	-	(4.20)	-	3.15	底部 完全	タキ成形外側タキナガ。底付ハゲを複数の見狀 に施す。リタナガ付柱底で葉状底を残す	I mm の小石を少量含む		27	79	
484	排水土器	成形(壁・底)	B 2	流域 3 4.5	IV-3層	-	(3.70)	-	1.50	底部 完全	いびつな底面。底面周辺ヒビサエ後づき。外面ナ ゲ。内面ハゲ	粗砂を多く含む		27	79	
485	排水土器	成形(壁・底)	B 3	流域 3 3.16	IV-3層	-	(2.90)	-	1.60	底部 完全	丸底に近い尖底。タキ成形裏面タキナガ。内面ハ ゲ。外側表面層に底面凹みあり	粗砂へ細砂を多く含む		27	79	
486	排水土器	成形	C 2	流域 3 4.16	IV-3層	-	(6.35)	-	-	底部 完全	ほぼ丸底。底面外側ハゲタキナガ。内面タキナガ。	0.5~1 mm 程の砂粒を含む		27	79	
487	排水土器	成形	C 3	流域 3 3.16	IV-3層	-	(5.30)	-	8.40	底部 完全	内面器底粗縫、イタナガから内面タキナガを複数 施す。外面ハゲ粗縫あり。底付ハゲ粗縫あり	細砂へ細砂の、金雲母、角 閃石を含む	測定系 A'	27	79	
488	排水土器	成形	B	流域 3 3.16	IV-3層	-	(2.70)	-	6.90	鷹嘴端 底付内面	底面内面器底粗縫、鷹嘴端外側ヨコヨガ、内面ヨ コナガ等でハゲを伏せ	粗砂少額、粗砂を多く 含む		27	79	
489	排水土器	成形	D	流域 3 4.5	IV-3層	13.40	5.10	-	-	口縁部 1/2	口縫部付ヨコヨガ、外端ハゲ後づきタキナ ガ。内面多方向ハゲタキナガ。之また底部ヨコナ ガ。	I mm の小石と砂粒を多量に 含む		27	79	
490	排水土器	溝岸	A 3 a	流域 3 3.4	IV-3層	(26.90)	(5.00)	-	-	口縫部 若干	口縫部付ヨコヨガ。上部断面外側丸底且が入る ヨコナガ底付ハゲタキナガ。底付周辺ヨコナガ 底付方向ハゲタキナガ、内面ハゲタキナガ	粗砂を少量含む		27	80	
491	排水土器	溝岸	A 2	流域 3 3.4	IV-3層	(21.65)	(4.20)	-	-	口縫部 若干	口縫部付ヨコヨガ外側に底付周囲底の縦ヨコヨ ガ2本ある。上部断面外側ハゲタキナガハゲタ キナガ。底付内面ハゲタキナガ。底付内面ヨコナ ガ。	粗砂を少量含む		27	80	
492	排水土器	溝岸	A 1 a	流域 3 3.4	IV-3層	(21.55)	(3.25)	-	-	口縫部 1/2	口縫部付ヨコヨガ。耳上部断面ヨコナガ。内面イ タナガ。耳上部断面ヨコナガ。山背ハゲ後づきタキナ ガ。	3 mm 以下石粒へ粗砂を多 く含む		27	80	
493	排水土器	溝岸	A 1 a	流域 3 3.16	IV-3層	(24.30)	(3.35)	-	-	口縫部 1/4	口縫部付下土に大きな底面。縦ヨコナガは2本も り、外面ハゲ2列、内面ヨコヨガ底付周囲ハゲタキナ ガ。底付又は、受部外側タキナガヨコナガ。内面 周囲方向ハゲタキナガ。	2 mm 以下の大砂粒含む		27	80	
494	排水土器	溝岸	A 1 b	流域 3 4.5	IV-3層	(17.50)	(1.60)	-	-	口縫部 1/1	口縫部付下土に肥厚。縦横断面に底付の縦を設 け置し、縦横下土壁にやや斜行的前日目筋。縦面下 土に竹管付周辺ヨコナガ。受部底付ヨコナガ。	粗砂を多く含む	測定系 C 他の考慮 事項	27	80	
495	排水土器	溝岸	A 2 b	流域 3 4.16	IV-3層	(21.40)	(4.20)	-	-	口縫部 若干	口縫部断面ヨコナガ。受部外側ハゲ後づきヨ コナガ。底付ヨコナガ。外面ヨコナガ。	I mm 小石と砂粒を多量 に含む 北紫系 A種		27	80	
496	排水土器	溝岸	A 2 b	流域 3 3.16	IV-3層	(20.80)	(4.30)	-	-	口縫部 1/3	縦横断面外側ヨコナガ。受部外側ハゲタキナ ガ。下部ヨコナガ。耳下部ヨコナガ。外面ヨコナ ガ。	石英など2 mm 以下の大砂粒 含む 北紫系 A種		27	80	
497	排水土器	溝岸	不明	流域 3 3.4	IV-3層	(19.55)	(2.60)	-	-	口縫部 1/9	口縫部付内側ヨコナガ。外端タキハゲ後づき ハゲタキナガ。内面ヨコナガを2ヶ所。内面ハ ゲタキナガ。	粗砂を少量含む		27	80	
498	排水土器	溝岸	A 2 b	流域 3 4.16	IV-3層	(21.40)	(4.20)	-	-	縫隙 1/3	縫隙断面ヨコナガ。受部外側ハゲ後づきヨ コナガ。底付ヨコナガ。外面ヨコナガ。	粗砂を多量に含む	600と同 個体	28	80	
499	排水土器	溝岸	A 2 b	流域 3 4.16	IV-3層	-	(4.50)	-	(21.40)	縫隙 1/3	縫隙に縫隙ハゲ付。内面タキナガ後づきヨ コナガ。底付ヨコナガ。	I mm 以下砂粒含む	600と同 個体	28	80	
500	排水土器	溝岸	G 3	流域 3 4.16	IV-3層	9.30	(5.60)	-	-	縫隙 柱状 完全	受部内面ヨコナガで2ヶ所と2ヶ所付合たるナガ。外 面ハゲタキナガ。柱状断面ハゲタキナガ。内面下 ハゲタキナガ。	石英など2 mm 以下の大砂粒 含む		28	80	
501	排水土器	溝岸	縫隙(壁) 柱 台	流域 3 3.16	IV-3層	-	(2.85)	-	(15.70)	縫隙 1/10	縫隙ヨコナガ。各面下ハゲ。上平ハゲタキナ ガ。内面ハゲ。縫隙1.2倍程度の円筒断面4方柱。底面 ヨコナガ。	石英など1 mm 大以下の砂粒 含む		28	80	
502	排水土器	溝岸	縫隙(壁) 柱 台	A 1	流域 3 4.16	IV-3層	-	(2.50)	-	(14.70)	縫隙 若干	縫隙ヨコナガ。外面ヨコナガ。内面ヨコナ ガ。縫隙ヨコナガ。	粗砂を多く含む		28	80
503	排水土器	溝岸	縫隙(壁) 柱 台 A 2	流域 3 5.616	IV-3層	-	(2.90)	-	(16.80)	縫隙 1/9	縫隙ヨコナガ。縫隙付柱状底付ヨコナガ。内面ハ ゲ。内面ヨコナガ。内面ハゲ付柱状底付ヨコナ ガ。	I mm 大以下チャート・石英他 中量含む		28	80	
504	排水土器	溝岸	縫隙(壁) 柱 台 A 2	流域 3 5.616	IV-3層	-	(2.45)	-	(12.30)	縫隙 1/5	縫隙上面に広い凹面。外面タキハゲ後づきタ キナガ。内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。内面ハ ゲ付柱状底付ヨコナガ。	0.5 mm 以下石粒・チャート 他中量含む		28	80	
505	排水土器	溝岸	縫隙(壁) 柱 台	のみ	流域 3 4.16	IV-3層	-	(7.10)	-	縫隙柱 台のみ	縫隙柱上面ヨコナガ。内面ハゲ付柱状底付ヨ コナガ。	粗砂を多く含む		28	80	
506	排水土器	溝岸	縫隙(壁) 柱 台 B 1	流域 3 4.16	IV-3層	-	(4.70)	-	(16.90)	縫隙 1/8	内面ヨコナガ。内面タキハゲ後づき部上をタキナ ガ。縫隙柱付柱状底付ヨコナガ。	0.5~1 mm 程の砂粒を含む		28	80	
507	排水土器	溝岸	A	流域 3 4.16	IV-3層	-	(4.55)	-	8.40	縫隙 完全	縫隙柱付柱状底付ヨコナガ。内面ハゲ付ヨコナ ガ。	2 mm 以下の大砂粒含む		28	80	
508	排水土器	溝岸	A	流域 3 5.616	IV-3層	-	(2.90)	-	(7.30)	縫隙 1/6	内面ヨコナガ。上端は接合の剥離面	1.5 mm 以下チャート・石英 中量含む		28	80	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	幅員	底深							
509	衛生土管	便	B 2	直通3 4孔	IV-2層	(14.70)	(3.00)	-	-	○縫隙部1/6	○縫隙部外面に3条のV字型縫隙。内外面ヨコナガ	3mm以下の砂粘合む	28	81		
510	衛生土管	便	B 3	直通3 4孔	IV-2層	-	(2.65)	-	-	○縫隙部1/6 底下	○縫隙部外方に3条の縫隙。内外面ヨコナガ。底面ヨコナガ。	繊粗砂少々含む	28	81		
511	衛生土管	便	B 3	直通3 4孔	IV-2層	(16.80)	(2.10)	-	-	○縫隙部1/6	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	1mm以下の小石を少々含む	28	81		
512	衛生土管	便	B 2	直通3 4孔	IV-2層	(12.80)	(5.40)	-	-	○縫隙部1/7	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	砂粘少々含む	28	81		
513	衛生土管	便	B 2	直通3 4孔	IV-2層	(12.30)	(4.50)	-	-	○縫隙部1/6 底下	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。底面ヨコナガ。	1mm以下的小石と砂粘多々含む	28	81		
514	衛生土管	便	B 3	直通3 4孔	IV-2層	(15.80)	(3.55)	-	-	○縫隙部1/5	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	4mm以下石粘無。砂粘多々含む	28	81		
515	衛生土管	便	B 1	直通3 4孔	IV-2層	(14.50)	(2.60)	-	-	○縫隙部1/7	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	粗砂少々含む	28	81		
516	衛生土管	便	B 4	直通3 4孔	IV-2層	(12.70)	(3.00)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面ヨコナガ。底面内外面ヨコナガ。底面外側ヨコナガ。	2mm以下の砂粘・赤色粘子含む	28	81		
517	衛生土管	便	B 3	直通3 4孔	IV-2層	(12.90)	(2.70)	-	-	○縫隙部1/6	○縫隙部外面ヨコナガ。	繊粗砂少々含む	28	81		
518	衛生土管	便	B 3	直通3 4孔	IV-2層	(14.60)	(4.00)	-	-	○縫隙部1/9	○縫隙部外面に3条の縫隙。縫隙部成形で、質部内側ヨコナガ。質部内側ヨコナガ。	4mm以下の石粘。砂粘多々含む	28	81		
519	衛生土管	便	B 5	直通3 3孔	IV-2層	(17.00)	(4.30)	-	-	○縫隙部1/4	○縫隙部外面ヨコナガ。内面ヨコナガ。	7.5mmの大石。3mm以下の大石含む	28	81		
520	衛生土管	便	B 5	直通3 4孔	IV-2層	(12.70)	(4.20)	-	-	○縫隙部1/3 底下	○縫隙部外面は若干圓錐。内面ヨコナガ。	石粘など3mm以下の砂粘含む	28	81		
521	糞かき抜	便	B 1	直通3 4孔	IV-2層	(16.90)	(7.15)	-	-	○縫隙部1/12	タキ成形で底面ヨコナガ。内面ヨコナガ。	石粘など3mm以下の砂粘含む	○縫隙部 受口	28	81	
522	衛生土管	便	B 5	直通3 4孔	IV-2層	(13.65)	(2.70)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面に3条の縫隙。縫隙部成形で、質部内側ヨコナガ。	3mm以下の砂粘含む	28	81		
523	衛生土管	便	B 2	直通3 3孔	IV-2層	(16.40)	(3.45)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面ヨコナガ。内面ヨコナガ。	2.5mm以下の砂粘・赤色粘子含む	28	81		
524	衛生土管	便	B 4	直通3 4孔	IV-2層	(15.70)	(4.50)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面ヨコナガ。内面ヨコナガ。	繊粗砂少々含む	28	81		
525	衛生土管	便	B 4	直通3 4孔	IV-2層	(17.70)	(4.20)	-	-	○縫隙部1/4	○縫隙部外面ヨコナガで底面ヨコナガ。	0.5~2mmの砂粘を含む	28	81		
526	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(16.50)	(22.45)	(16.40)	3.30	○縫隙部1/8 底下 底面 底面 底面 底面	タキ成形で底面ヨコナガを最も優先して施す。体部内面上土シケン。下平手・花鳥足を加える。局部底面ヨコナガ。局部内底面下平手・カケ足。底面内側ヨコナガ。底面ヨコナガ。底面は少し上げて。内面ヨコナガ。	3mm以下の砂粘・赤色粘子含む	28	82		
527	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(12.35)	(15.95)	(13.90)	-	○縫隙部1/8	タキ成形で底面ヨコナガ。	粗砂少々含む	28	82		
528	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(15.00)	(4.15)	-	-	○縫隙部1/6	○縫隙部外面に3条の縫隙。縫隙部成形で、質部内側ヨコナガ。	3mm以下の砂粘含む	28	81		
529	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(14.30)	(4.30)	-	-	○縫隙部1/6	○縫隙部外面に3条の縫隙。縫隙部成形で、質部内側ヨコナガ。	0.5~1.5mmの砂粘を含む	28	81		
530	衛生土管	便	H	直通3 4孔	IV-2層	(14.80)	(2.40)	-	-	○縫隙部1/4	○縫隙部外面に3条の縫隙。縫隙部成形で、質部内側ヨコナガ。	2mm以下の砂粘・赤色粘子含む	28	81		
531	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(13.30)	(4.15)	-	-	○縫隙部1/7	○縫隙部外面ヨコナガで底面ヨコナガになるヨコナガ。質部内側はイタダギ。	繊粗砂多々含む	28	81		
532	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(15.40)	(3.65)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面は内側ヨコナガがあるヨコナガ。内側ヨコナガ。	粗砂少々含む	28	81		
533	衛生土管	便	B 7	直通3 4孔	IV-2層	(13.80)	(5.20)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	北近畿系 A	28	81		
534	衛生土管	便	B 7	直通3 4孔	IV-2層	(15.10)	(3.20)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	石粘など2mm以下の砂粘少々含む	北近畿系 B	28	81	
535	衛生土管	便	B 7	直通3 4孔	IV-2層	(17.60)	(3.20)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	北近畿系 石粘のみ可逆性もあり	28	81		
536	衛生土管	便	A 2	直通3 4孔	IV-2層	(14.95)	(4.55)	-	-	○縫隙部1/6	○縫隙部外面に縫隙。タキ成形で底面ヨコナガ。	2mm以下の砂粘・赤色粘子含む	29	81		
537	衛生土管	便	C 5	直通3 4孔	IV-2層	(14.90)	(3.55)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面に縫隙。タキ成形で底面ヨコナガ。	2mm以下の砂粘・赤色粘子含む	北近畿系 A	29	82	
538	衛生土管	便	C 5	直通3 4孔	IV-2層	(17.60)	(5.15)	-	-	○縫隙部1/9	○縫隙部外面に3条の縫隙。内面ヨコナガ。	繊粗砂少々含む。細砂多々含む	北近畿系 A	29	82	
539	衛生土管	便	C 5	直通3 4孔	IV-2層	(13.30)	(3.10)	-	-	○縫隙部1/4	○縫隙部外面ヨコナガ。	3mm以上の砂粘含む	29	82		
540	衛生土管	便	C 5	直通3 4孔	IV-2層	(15.90)	(3.10)	-	-	○縫隙部1/5	○縫隙部外面ヨコナガ。	3mm以下の砂粘含む	北近畿系 A	29	82	
541	衛生土管	便	C 5	直通3 4孔	IV-2層	(14.80)	(3.70)	-	-	○縫隙部1/8	○縫隙部外面ヨコナガ。	石粘など2mm以下の砂粘含む	北近畿系 A	29	82	
542	衛生土管	便	C 3	直通3 4孔	IV-2層	(14.20)	(3.70)	-	-	○縫隙部1/9	○縫隙部外面ヨコナガ。	2mm以上の砂粘含む	北近畿系 A	29	82	
543	衛生土管	便	C 3	直通3 4孔	IV-2層	(14.10)	(2.80)	-	-	○縫隙部1/7	○縫隙部外面ヨコナガ。	粗砂を多く含む	北近畿系 A	29	82	

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	器高	腹径	底径						
544	野生土器	甕	C 2	流域 3 4孔	IV-2層	(16.50)	(3.30)	-	-	口縁部上外表面に4条の明瞭な縦筋線、口縁部内側面底から底部へ向かうと、内側に付着	1mmの小石と粗砂を多量に含む	古墳系A	29	82	
545	野生土器	甕	C 4	流域 3 4孔	IV-2層	(15.20)	(3.20)	-	-	口縁部内側面は幅広が多くなるヨコナギ。底部内側面が方角へラウンドし、底部に付着	2mm以上の大粒の砂粒含む	北古墳系A	29	82	
546	野生土器	甕	C 4	流域 3 4孔	IV-2層	(17.00)	(3.70)	-	-	口縁部内側面に縦筋線があるヨコナギ。底部外表面ヨコナギ、内側ヨコナギとラウンドし、底部に付着	有磯など2mm以下の中砂含む	北古墳系A	29	82	
547	野生土器	甕	C 4	流域 3 4孔	IV-2層	(16.60)	(3.55)	-	-	ヨコナギ底部内側面に外側面に加え、内側に方角へラウンドし、口縁部内側面ヨコナギ。	1mm以下の大粒の砂粒含む	北古墳系A	29	82	
548	野生土器	甕	C 3	流域 3 4孔	IV-2層	(17.80)	(3.35)	-	-	口縁部上外表面ヨコナギが入るヨコナギ。底部外表面ラウンド、内側ヨコナギハ、内側ヨコナギ。	粗砂を少量含む	北古墳系A	29	82	
549	野生土器	甕	C 4	流域 3 4孔	IV-2層	(14.90)	(3.60)	-	-	ヨコナギ底部内側面に外側面が入るヨコナギ。底部内側面ヨコナギハ、外側に付着	1~2mmの小石と粗砂を多量に含む	北古墳系A	29	82	
550	野生土器	甕	C 2	流域 3 4孔	IV-2層	(16.30)	(3.00)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	北古墳系A	29	82	
551	野生土器	甕	C 2	流域 3 4孔	IV-2層	(15.80)	(3.10)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギ。	北古墳系A	29	82		
552	野生土器	甕	C 1	流域 3 4孔	IV-2層	(14.90)	(2.40)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギハ。	石高、雲母など2mm以下の中砂含む	北古墳系A	29	82	
553	野生土器	甕	C 3	流域 3 4孔	IV-2層	(14.30)	(3.50)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギハ、内側ヨコナギ。	粗砂を多く含む	北古墳系A	29	83	
554	野生土器	甕	C 1	流域 3 4孔	IV-2層	(17.60)	(3.70)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギが入るヨコナギ。白縫部と端部内側面ヨコナギ。	3mm以下石少量、細砂を多く含む	北古墳系A	29	83	
555	野生土器	甕	C 1	流域 3 4孔	IV-2層	(17.30)	(3.20)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギ。	3mm以下石少量、細砂を多く含む	北古墳系A	29	83	
556	野生土器	甕	A 3	流域 3 4孔	IV-2層	(16.70)	(5.05)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギハ。	3mm以下の砂粒、赤色粘土含む	29	83		
557	野生土器	甕	A 5	流域 3 4孔	IV-2層	(12.40)	(7.50)	-	-	ヨコナギ底部内側面ハベキヨビサギ。	粗砂を多く含む	29	83		
558	野生土器	甕	A 5	流域 3 4孔	IV-2層	(14.95)	(3.80)	-	-	ヨコナギ底部内側面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒含む	29	83		
559	野生土器	甕	B 5	流域 3 4孔	IV-2層	(13.30)	(3.65)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	粗砂を多く含む	29	83		
560	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(15.30)	(3.60)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	粗砂を多く含む	29	83		
561	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(17.00)	(4.20)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	1.5mmの大粒の石、石高など2mm以下の中砂含む	29	83		
562	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(15.40)	(4.00)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	2mm以下石・粗砂を少量含む	29	83		
563	野生土器	甕	C 8	流域 3 4孔	IV-2層	(13.80)	(4.40)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	粗砂を多く含む	北古墳系B	29	83	
564	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(12.50)	(4.75)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	過の可逆性あり	29	83		
565	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(13.60)	(6.20)	(3.90)	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	1.5mm以下の中砂含む	29	83		
566	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(15.30)	(3.60)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	粗砂を多く含む	29	83		
567	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(17.00)	(4.20)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	過の可逆性あり	29	83		
568	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(14.80)	(4.15)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	1.5mmの大粒の石、石高など2mm以下の中砂含む	29	83		
569	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(14.70)	(6.00)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	2mm以下石・粗砂を少量含む	29	83		
570	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(15.90)	(4.50)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	過の可逆性あり	29	83		
571	野生土器	甕	A 1	流域 3 4孔	IV-2層	(14.40)	(5.30)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	29	83		
572	野生土器	甕	C 6	流域 3 4孔	IV-2層	(15.80)	(4.00)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	2mm以下の大粒の砂粒含む	29	83		
573	野生土器	甕	C 9	流域 3 4孔	IV-2層	(12.40)	(3.60)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	過の可逆性あり	29	83		
574	野生土器	甕	F	流域 3 4孔	IV-2層	(14.80)	(22.00)	(21.00)	-	ヨコナギヨコナギ。	0.5~1.5mmの砂粒を含む	過の可逆性あり	29	83	
575	野生土器	甕	F	流域 3 4孔	IV-2層	(13.30)	(4.90)	-	-	ヨコナギヨコナギ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	測地系A	30	83	
576	野生土器	甕	F	流域 3 4孔	IV-2層	(15.60)	(4.30)	-	-	ヨコナギヨコナギ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	測地系A	30	83	
577	野生土器	甕	C 4	流域 3 4孔	IV-2層	(15.05)	(4.20)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	2mm以下の砂粒、赤色粘土含む	北古墳系A	30	83	
578	野生土器	甕	G	流域 3 4孔	IV-2層	(13.20)	(3.90)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	3mm以下の大粒の砂粒含む	北古墳系A	30	83	
579	野生土器	甕	A 3	流域 3 4孔	IV-2層	(23.00)	(3.85)	-	-	ヨコナギ底部外表面ヨコナギ。	3mm以下の砂粒、赤色粘土含む	北古墳系A	30	84	

番号	種別	種類	難型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
589	弥生土器 ～土師器	器台	玉	深窓3 41cm	IV-2層	(25.96)	(6.60)	-	-	口縁部外側に尖る網織状文陶器。口縁部前面、口縁部背面に網織部外側ヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。口縁部内腹上面と縁面に焼色のスリップ施釉か。	石英など3mm以下の大砂粒含む		北近畿系 589と同一 個体	30	84
591	弥生土器 ～土師器	豆	A 2	深窓3 41cm	IV-2層	(21.00)	(4.55)	-	-	口縁部前面と底面、外腹表面裂離等が見られる。ヨコカズレ、底部内腹ヨコカズレ。底部内腹方向のやや底へヨコカズレ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	北近畿系 589と同一 個体	30	84	
592	弥生土器 ～土師器	豆	A 2	深窓3 41cm	IV-2層	(21.00)	(4.65)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。口縁部外側ヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	3mm以下の大砂粒含む	北近畿系 589と同一 個体	30	84	
593	弥生土器 ～土師器	豆	A 2	深窓3 41cm	IV-2層	(21.00)	(2.92)	-	-	口縁部前面と底面、外腹表面裂離等が見られる。ヨコカズレ、底部内腹ヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	3mm以下石粒～粗砂を多く含む	北近畿系 589と同一 個体	30	84	
594	弥生土器 ～土師器	豆	A 3	深窓3 41cm	IV-2層	(12.50)	(5.30)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など2mm以下の大砂粒含む		30	85	
595	弥生土器 ～土師器	豆	D 1	深窓3 41cm	IV-2層	(19.70)	(2.25)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	0.5～1mm程の砂粒を含む	岩苔の可 能性あり	30	84	
596	弥生土器 ～土師器	豆	B 4	深窓3 41cm	IV-2層	(22.15)	(5.15)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	2mm以下の大砂粒含む		30	84	
597	弥生土器 ～土師器	豆	A 6	深窓3 41cm	IV-2層	(17.90)	(12.05)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂少量化、細砂を多く含む	西部畿内 内底	30	85	
598	弥生土器 ～土師器	豆	B 4	深窓3 41cm	IV-2層	(21.30)	(7.00)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂を多く含む	北近畿系 A 589と同一 個体	30	84	
599	弥生土器 ～土師器	豆	B 4	深窓3 41cm	IV-2層	(24.60)	(5.50)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂を多く含む	北近畿系 A 589と同一 個体	30	84	
600	弥生土器 ～土師器	豆	E 3	深窓3 41cm	IV-2層	(14.85)	(3.80)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	3mm以下の大砂粒含む		30	84	
601	弥生土器 ～土師器	豆	B 3	深窓3 41cm	IV-2層	(14.35)	(8.00)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	3mm以下の大砂粒含む		30	85	
602	弥生土器 ～土師器	豆	B 2	深窓3 41cm	IV-2層	(12.50)	(4.00)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など1mm程。粗砂少量化		30	84	
603	弥生土器 ～土師器	豆	C 2	深窓3 41cm	IV-2層	(13.60)	(11.20)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	3mm以下石粒～粗砂を少量含む		31	85	
604	弥生土器 ～土師器	豆	C 2	深窓3 41cm	IV-2層	(14.45)	(8.35)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	2mm以下の大砂粒含む		31	85	
605	弥生土器 ～土師器	豆	C 2	深窓3 41cm	IV-2層	(12.90)	(9.00)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など1.5mm以下の大砂粒含む		31	85	
606	弥生土器 ～土師器	豆	B 3	深窓3 41cm	IV-2層	(28.90)	(6.45)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など3mm以下の大砂粒含む	東四国系	31	84	
607	弥生土器 ～土師器	豆	B 3	深窓3 41cm	IV-2層	(17.30)	(2.25)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	東四国系	31	84	
608	弥生土器 ～土師器	豆	D 1	深窓3 41cm	IV-2層	(14.00)	(1.70)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂を少量化	岩苔の可 能性あり	31	86	
609	弥生土器 ～土師器	豆	D 1	深窓3 41cm	IV-2層	(14.50)	(4.10)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など4mm以下の大砂粒含む		31	86	
610	弥生土器 ～土師器	豆	D 4	深窓3 41cm	IV-2層	(16.75)	(3.35)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂を少量化		31	86	
611	弥生土器 ～土師器	豆	D 1	深窓3 41cm	IV-2層	(21.20)	(5.50)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂を少量化	北近畿系 豆	31	86	
612	弥生土器 ～土師器	豆	D 1	深窓3 41cm	IV-2層	(28.40)	(3.80)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	北近畿系 豆	31	86	
613	弥生土器 ～土師器	豆	D 4	深窓3 41cm	IV-2層	(19.70)	(7.50)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など2.5mm以下の大砂粒含む		31	86	
614	弥生土器 ～土師器	豆	D 1	深窓3 41cm	IV-2層	(29.03)	(7.60)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	4mm以下の大砂粒含む		31	86	
615	弥生土器 ～土師器	豆	D 3	深窓3 41cm	IV-2層	(28.40)	(4.85)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	2mm以下の大砂粒含む	北近畿系 A	31	86	
616	弥生土器 ～土師器	豆	D 3	深窓3 41cm	IV-2層	(15.45)	(5.20)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	2mm以下の大砂粒含む	北近畿系 A	31	85	
617	弥生土器 ～土師器	豆	D 2	深窓3 31cm	IV-2層	(12.00)	(4.60)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など2mm以下の大砂粒含む		31	86	
618	弥生土器 ～土師器	豆	D 2	深窓3 41cm	IV-2層	(9.60)	(5.05)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	2mm以下の大砂粒含む		31	86	
619	弥生土器 ～土師器	豆	D 5	深窓3 41cm	IV-2層	(14.30)	(5.00)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	0.5～2mm程の砂粒を含む		31	86	
620	弥生土器 ～土師器	豆	F	深窓3 41cm	IV-2層	(11.30)	(3.50)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	粗砂を少量化		31	86	
621	弥生土器 ～土師器	豆	H	深窓3 31cm	IV-2層	(10.00)	(3.85)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。内腹ハタケ後ヨコカズレ。	石英など1mm以下の大砂粒含む		31	86	
622	弥生土器 ～土師器	豆	H	深窓3 41cm	IV-2層	(11.40)	(3.50)	-	-	口縁部前面と底面に網織部が入るヨコカズレ。	0.5～1.5mm程の砂粒を含む		31	87	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	高さ	横幅	底深						
613	衛生土器	蓋	C I	直筒3 4孔	IV-2層	(11.70)	(7.70)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形後外側ヨコナダ。底部内面斜面土壁が目付 立つ。底部内面凹凸。タケツ	2.5mm以上の砂利少量含む	31	87	
614	衛生土器	蓋	C I	直筒3 4孔	IV-2層	(11.30)	(6.90)	-	-	口縁部 蓋下	筒體内部内面ヨコナダ。底部内面凹凸。内面底部凹凸。	2mm以下の砂利含む	31	87	
615	衛生土器	蓋	E I	直筒3 4孔	IV-2層	(10.30)	(6.05)	-	-	口縁部 蓋下	筒體内部内面ヨコナダ。体部外側見張器に似たヘラカ ミヨウ。内面ヨコナダで、根強く握る。	0.5~1.5mmの砂利を含む	31	85	
616	衛生土器	底	体皿	直筒3 4孔	IV-2層	-	(15.00)	(26.30)	(5.70)	口縁部 蓋下	内面ハマで、底部内面ヨコナダ。底部内面ヨコナダ ヒタチ。底部内面ヨコナダ。	1mm小石と粗砂を多量に 含む	31	86	
617	衛生土器	蓋	-	直筒3 4孔	IV-2層	(13.30)	(3.60)	-	-	口縁部 蓋下	筒體内部内面ヨコナダ。内面底部凹凸。	粗砂を多量に 含む	31	87	
618	衛生土器	蓋	開閉	直筒3 4孔	IV-2層	-	(2.70)	-	-	筒體 蓋下	筒體内面にハマガタ。筒體中央の網状物による制約判 定し止め。内面底部凹凸。	3mm以下の砂利多量。粗砂 を多量含む	31	87	
619	衛生土器	蓋	かく	直筒3 4孔	IV-2層	-	(5.05)	-	-	口縁部 蓋下	筒體内部内面に複数 三角文をハラ書き。前面ナダ、内 面ナダ。	0.5~1mmの砂利を含む	31	87	
620	衛生土器	蓋	-	直筒3 4孔	IV-2層	(6.20)	(5.30)	-	-	小片 口縁部	側面外側ヨコナダ。筒内ヨコナダ。内面ヨコナダ。	粗砂を多量含む	31	87	
621	衛生土器	林	F 3	直筒3 4孔	IV-2層	(21.70)	(5.55)	-	-	口縁部 蓋下	筒體外部ヨコナダ。ヨコナダ後内面凹凸と 内面底部凹凸。ハラミヨウを加える。口縁部内面 ハラミヨウ。	粗砂を少量含む	32	87	
622	衛生土器	林	F 4	直筒3 4孔	IV-2層	(32.40)	(4.40)	-	-	口縁部 蓋下	筒體外部内面に3条の横筋。タクタキ成形後口縁部 横筋側面ハラミヨウ。口縁部内面ハラミ。	1mm小石と粗砂を多量に 含む	32	87	
623	衛生土器	林	F 3	直筒3 4孔	IV-2層	(25.95)	(4.10)	-	-	口縁部 蓋下	筒體外部内面横筋。口縁部内面横筋が入る ヨコナダ。体部外側内面。	2mm以下の砂利含む	北近畿 32	87	
624	衛生土器	林	A 1やC の口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(28.00)	(5.60)	-	-	口縁部 蓋下	筒體外部内面ヨコナダ。タクタキ成形後体部内面ナダ、内 面方向ハラミヨウ。	粗砂など1mm以下での砂利 含む	32	87	
625	衛生土器	林	A 1やC の口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(17.80)	(6.15)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形後ヨコナダ。内面横方向ナダ	5mm以下の石、粗砂含む	32	87	
626	衛生土器	林	A 1やC の口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	17.05	9.00	-	2.45	内面 蓋下	部屋荒れている。タクタキ成形から、体部内面横方向 ハラミヨウで正面一部に横筋ハラミヨウ。内面底 部附近ナダ。	3mm以下の砂利、赤色粘土 含む	32	88	
627	衛生土器	林	A 2+B Cの口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(14.30)	(6.20)	-	-	口縁部 蓋下	内面口縫に沈めでます。口縁部ヨコナダ。体部 内面ヨコナダを踏みきりに施す。内面は下半横方向 に凸出	1mmの小石と粗砂を多量 に含む	32	88	
628	衛生土器	林	A 1やC の口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(14.85)	(6.30)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形後内面ナダ。口縁部ヨコナダで端部は 内面横筋で囲む。二段被熱により変化	4mm以下の砂利、赤色粘土 含む	32	87	
629	衛生土器	林	A 2+B Cの口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(14.30)	(2.85)	-	-	口縁部 蓋下	口縁部・体部外面ヨコナダ。体部内面ヨコナダ	2mm以下の砂利含む	32	87	
630	衛生土器	林	A 1やC の口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(17.40)	(4.10)	-	-	口縁部 蓋下	筒上端部内面。タクタキ成形内面とヨコナダ。内 面は網目状のハラキ付ナダ。二段被熱。	6mmの石、3mm以下の 砂利含む	32	87	
631	衛生土器	林	A 2+B Cの口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(16.60)	(5.15)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形外側内面ヨコナダ。口縁部ヨコナダ。内面 内面ヨコナダでハラキ繋ぎ	石英、粗砂など2.5mm大 以下の砂利含む	32	87	
632	衛生土器	林	A 2+B Cの口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(12.90)	(2.40)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形後内面ヨコナダ。口縁部ヨコナダ。外 面内面ヨコナダ	0.5mmの砂利を含む	32	87	
633	衛生土器	林	A 2+B Cの口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(12.60)	(6.70)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形後ヨコナダ外側ヨコナダ。外面底部付近 内面ヨコナダ。内面ヨコナダ	1~2mmの小石と粗砂を 多量に含む	32	88	
634	衛生土器	林	A 2+	直筒3 4孔	IV-2層	(11.85)	6.50	-	3.35	口縁部 蓋下	タクタキ成形外側にナダ有し。底部内面ヨコナダ ハラミ。内面底部内面ヨコナダ。内面底部凹凸。内 面底部内面ヨコナダ。内面底部凹凸。	粗砂を少量含む	32	88	
635	衛生土器	林	A 2+	直筒3 4孔	IV-2層	(11.50)	(5.80)	-	2.30	口縁部 蓋下	タクタキ成形後横筋方向にタクタキ有し。内面ハ ラミ凸起有し。口縁部調整。ドーナツ状上部底	2mm大粒少量。粗砂を 多く含む	32	88	
636	衛生土器	林	A 2+B Cの口縁部	直筒3 4孔	IV-2層	(11.50)	(4.50)	-	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形外側一部ナダ。内面下部ヨコナダ。上 部ハラミ。口縁上端直づつ	3mm以下の砂利含む	32	87	
637	衛生土器	林	A 2+b	直筒3 4孔	IV-2層	(16.70)	(6.80)	-	3.00	口縁部 蓋下	タクタキ成形後外側ナダ有し。口縁部外側ヨコナダ。 底部内面ハラミヨウ。上部底筋ヨコナダ。底部内面 ヨコナダ	2mm以下の砂利、セッター、 石英含む	32	88	
638	衛生土器	林	A 2+a	直筒3 4孔	IV-2層	(16.70)	(5.50)	-	3.50	口縁部 蓋下	タクタキ成形後外側ナダ消し。口縁部不調節。内面 内面ヨコナダ。底部内面ハラミヨウ。底部内面ヨコナダ。 底部内面ハラミヨウ。底部内面ヨコナダ。	石英他2mm大以下の砂利含 む	32	88	
639	衛生土器	林	A 2+a	直筒3 4孔	IV-2層	(16.20)	5.05	-	3.30	口縁部 蓋下	タクタキ成形後内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。内面 内面ヨコナダ	0.5~1.5mmの砂利を含む	32	88	
640	衛生土器	林	A 2+a	直筒3 4孔	IV-2層	(16.20)	9.95	5.50	-	口縁部 蓋下	タクタキ成形後内面ヨコナダ消し。内面上半ハラミ。下 部は無感覚。口縁部不調節。底部内面ハラミ有り。 底部内面ヨコナダ	3mm以下石少量含む	32	88	
641	衛生土器	林	A 3	直筒3 4孔	IV-2層	9.25	5.70	-	2.90	口縁部 蓋下	タクタキ成形外側内面ヨコナダナダ消し。内面ナダ ヨコナダ。ドーナツ状上部底筋が中央膨らむ。内面 内面ヨコナダ	粗砂を少量含む	32	88	
642	衛生土器	林	A 4	直筒3 4孔	IV-2層	(8.90)	5.90	-	2.70	口縁部 蓋下	口縁部ヨコナダ。内面ヨコナダ後ナダ。ドーナツ状 上部底筋	1mmの砂利含む。全賞口合 溝底D	32	88	
643	衛生土器	林	A 4	直筒3 4孔	IV-2層	(8.30)	5.35	-	3.15	口縁部 蓋下	タクタキ成形底周辺ナダ。内面ハラミナダ。 口縁部内面ヨコナダ。底面平滑	1mmの砂利含む	32	89	
644	衛生土器	林	B	直筒3 4孔	IV-2層	(10.40)	6.65	-	1.30	口縁部 蓋下	透達ラセンタクタキのようなタクタキ成形後内面ヨコナ ダ。口縁部不整削。外側に凹頭あり	1mmの砂利含む	32	89	

番号	種別	種類	難型	構造	部位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	園面	写真 図版
						口径	蓄満	腹満	底満						
645	衛生土器	林	D 1	直筒 3 4寸K	IV-2層	(16.85)	(2.55)	-	-	1/6	口縁部に土塊附、口縁部外周切欠。底部外周ヨコナダ+内凹タイプ。内底へ凹み。	堆積物を少許含む	22	87	
646	衛生土器	林	H 1	直筒 3 4寸K	IV-2層	(35.80)	(7.70)	-	-	1/6	口縁部下部外周斜面削り取れ。口縁部外周ヨコナダ。体内内外ハケ調整。内底に凹みあり。	3mm以下の砂粘含む	22	89	
647	衛生土器	林	H 2	直筒 3 4寸K	IV-2層	(45.75)	(9.00)	-	-	1/20	口縁部底面ヨコナダ。口縁部内側ヨコカーブ後1/20。	2mm以下の砂粘含む	22	87	
648	衛生土器 ～土頭器	(林)	D 2	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(6.50)	-	4.30	底部 底部 底部	口縁部タクシ成形。全体の内底が表出しているよう。上平イタナダ。腰白部 内底下部斜面削り取れ。上平イタナダ。腰白部 内底下部斜面削り取れ。上平イタナダ。	2.5mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	89	
649	衛生土器 ～土頭器	(林)	D 2	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.90)	-	4.35	底部 底部 底部	口縁部外周ヨコナダ。タキシ成形か。内底イタナダ+工具のさたり跡が残る。腰白部底面ヨコカーブ	3mm以下の砂粘含む 付けると 思われる	22	89	
650	衛生土器 ～土頭器	(林)	D 2	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.00)	-	3.80	底部 底部 底部	タキシ成形外周ヨコナダ。内底イタナダ。腰白部外周ヨコカーブ	付けると 思われる	22	89	
651	衛生土器 ～土頭器	(林)	D 1'	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.70)	-	2.95	腰白部 腰白部 腰白部	腰白部底面板状の下平ナット仕上げ。内底イタナダ。腰白部の一部に凹部。腰白部の一部に凹部。	1mm以上砂粘含む 付けると 思われる	22	89	
652	衛生土器 ～土頭器	(林)	-	直筒 3 4寸K	IV-2層	4.80	4.20	-	3.65	腰白部 腰白部	手元ねじナット仕上げ。腰白部外周は整形。底面に内凹。棒状の栓孔を多く持つ。	ミニネス 含む	22	89	
653	衛生土器 ～土頭器	董	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	(12.60)	5.90	-	-	1/5 1/5 1/5	口縁部 腰白部 腰白部	(1)腰白部ヨコナダ。外周斜削れ。内底腹斜削れにハケ施す。つまみ部分底面ヨコナサエ。	0.5~1mm程の砂粘含む 付けると 思われる	22	89
654	衛生土器 ～土頭器	董	不明	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.70)	-	-	1/5 1/5 1/5	腰白部 腰白部 腰白部	つまみ部分底面ヨコナサエ。	2mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90
655	衛生土器 ～土頭器	董	不明	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.30)	-	-	1/5 1/5 1/5	腰白部 腰白部 腰白部	内底ヨコナダ。内底脚部の裏側ハケ。下部はイタナダ。つまみ部分底面ヨコナサエ。	1mm程の砂粘含む 付けると 思われる	22	89
656	衛生土器 ～土頭器	董	不明	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.50)	-	-	1/5 1/5 1/5	つまみ部分の外辺。内底ヨコナサエ調整	粗砂を多く含む	22	90	
657	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	B	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(2.40)	-	(4.80)	腰白部 腰白部	腰白部斜削れ内底ヨコナダ。ドーナツ状上上げ1/3。底面は斜削れ且孔也。孔径約8mm	1mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
658	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	H	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.10)	-	4.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底斜削れ内底ヨコナダ。ドーナツ状上上げ4/5。底面は斜削れ且孔也。	0.5~1.5mm程の砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
659	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	H	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(2.85)	-	3.90	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ+ヒカル。内底イタナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。底面少し上辺で内底は約4mm程のヒカル。底面ヨコカーブ	2mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
660	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	B	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(2.20)	-	3.30	腰白部 腰白部	腰白部斜削れ内底ヨコナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	2mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
661	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	C	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(8.75)	-	2.65	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。孔径は約3mm程のヒカル。底面ヨコカーブ	2mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
662	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	C	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(7.10)	-	2.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	2mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
663	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.20)	-	2.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	3mm以下石粉少含む 付けると 思われる	22	90	
664	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(8.65)	-	1.35	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ヨコカーブ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	石英など4mm以下砂粘含む 付けると 思われる	22	90	
665	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(9.40)	-	(1.36)	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ヨコカーブ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	堆積物を少許含む 付けると 思われる	22	91	
666	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(4.35)	-	1.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ヨコナダ+底面ヨコナサエ。孔径約1.1cm。底面は斜削れあり。	2mm以下石粉少含む 付けると 思われる	22	90	
667	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.60)	-	1.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ+ヒカル。内底イタナダ。腰白部の裏側+底面ヨコカーブに施す。	1mmの小石と粗砂を多量 に含む	22	90	
668	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	D	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.30)	-	(1.65)	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。孔径約1.1cm。底面は斜削れに施す。	4mm以下石粉少含む。粗砂を多く含む	22	90	
669	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	E	直筒 3 4寸K	IV-2層	(15.50)	11.00	-	1.40	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ+底面ヨコナサエ。孔径約1.1cm。底面は斜削れあり。	2mm以下石粉少含む。粗砂を多く含む	22	91	
670	衛生土器 ～土頭器	有孔 林	F	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.10)	-	2.25	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。腰白部の裏側+底面ヨコカーブ。タキシ成形内底ヨコナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	細砂を多く含む	22	90	
671	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 3 × α	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.60)	-	3.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	22	91	
672	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 1 × 22	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.00)	-	3.40	腰白部 腰白部	腰白部底面ヨコカーブ。内底ヨコナダ+内底ヨコカーブ。内底ヨコカーブ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	粗砂を多く含む	22	91	
673	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 1 × 21	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(4.90)	-	4.30	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ハケ。タキシ成形内底ヨコナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	1~2mm程の砂粘含む	22	91	
674	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 1 × 22	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.90)	-	3.70	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。底面本體部。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	2mm以下の砂粘含む	22	91	
675	衛生土器	(要) 林	A 1 × α	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(4.40)	-	(4.00)	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底イタナダ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	くさび繩・英石・長石・チヤートなど粗砂を多く含む	22	91	
676	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 1 × α	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.60)	-	4.10	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ハケ。タキシ成形内底ヨコナダ。内底ヨコカーブに施す。	3mm以下砂粘含む。赤色粒子含む	22	91	
677	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 2 × α	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.90)	-	(3.30)	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ+工具当たり痕は斜削れ。底面に凹凸感あり。	2mm以下砂粘含む	22	91	
678	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 3 × 22	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(4.20)	-	3.15	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ヨコカーブ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	石英など3mm以下砂粘含む	22	91	
679	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 1 × α	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(3.90)	-	(3.90)	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。内底ハケ。タキシ成形内底ヨコナダ。内底ヨコカーブ。腰白部の裏側+腰白部斜削れに施す。	粗砂・角閃石少々。細砂を多く含む	22	91	
680	衛生土器 ～土頭器	(要) 林	A 2 × β	直筒 3 4寸K	IV-2層	-	(5.60)	-	(3.90)	腰白部 腰白部	タキシ成形内底ヨコナダ。ターサフ状上上げ底面にナダ。	0.5~1mm程の砂粘含む	22	91	

番号	種別	種類	型番	構構	層位	法量(cm)				残存率	柱法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	高さ	幅員	底深						
601	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.60)	-	5.30	退部 完全	タキ成形後底外側に貼り付く、内面ハガ。底 部外側ナナフサで本體あり。	2mm以下の砂粒含む		33	91
602	排水土器	(便・廻)	A 2 × β1	掘溝 3	IV-2層	-	(4.50)	-	4.95	退部 完全	タキ成形後底外側に貼り付く、内面ハガ。底 部外側ナナフサで本體あり。	石焉など2mm以下の大粒 含む	透の可 能性あり	33	91
603	排水土器	(便・廻)	A 2 b β1	掘溝 3	IV-2層	-	(4.70)	-	4.60	退部 完全	底盤内側外周部にハガキ、底部外側ナナフサ、ドー ナツ状仕上げ底面張りあり。	6mm以下石2個、細砂を多 く含む		33	91
604	排水土器	(便・廻)	A 2 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.90)	-	4.90	退部 完全	内面ヒタチ、底盤外側ヒビサエ、内面ハグ残 分をナナフサで消す。	角閃石・粗砂少許含む		33	92
605	排水土器	(便・廻)	A 2 × β1	掘溝 3	IV-2層	-	(3.65)	-	4.00	退部 完全	タキ成形後底外側ハガキ、内面不定方向ハガ。若干ドー ナツ状仕上げ	2mm以下の砂粒含む		33	92
606	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.05)	-	4.30	退部 完全	タキ成形後底外側ハガキ。底盤外側ヒビサエ、内面ハグ残 分が内面にはみ出る。底面に木葉類や網代のよう な物を施す。	2mm以下の砂粒含む		33	92
607	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.20)	-	(3.30)	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。内面粗目ハガ。底面 イタナフサで、外側粗目ハガ。	3mm以下の大粒 含む		33	92
608	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(7.30)	-	4.35	退部 完全	タキ成形後底外側ハガキ。内面ハグヒタナ チ。底部外側ヒビサエ。底焉や底粗目含む	2mm以下の砂粒含む		33	92
609	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.15)	-	4.25	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。底盤ドーナツ状だが中 央が膨らむ。外側に黒斑あり	粗砂を多く含む		33	92
610	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.70)	-	3.70	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。内面ハグヒタナ チ。底部外側ヒビサエ。	4mm右肩1個、細砂を少 量含む		33	92
611	排水土器	(便・廻)	A 2 × β1	掘溝 3	IV-2層	-	(4.00)	-	3.60	退部 完全	脚部前面方向ヒタナ。底部外側ヒビサ エ。内面ヒタチ。ドーナツ仕上げに近い	0.5~2mmの砂粒を含む		33	92
612	排水土器	(便・廻)	A 2 × β2	掘溝 3	IV-2層	-	(4.90)	-	3.50	退部 完全	タキ成形後底外側ハガ。内面ヒタクリ。底面ヒテ ナゲで底盤の上仕上げ	3mm以下石を多く含む	透の可 能性あり	34	92
613	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.20)	-	3.30	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。内面ハグヒタナ チ。底部外側ヒビサエ。底焉や底粗目含む	3mm以下の右肩、赤色斑子 含む		34	92
614	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(7.60)	-	7.30	退部 完全	脚部前面方向ヒタナ。底部外側ヒビサ エ。内面ヒタチ。ドーナツ仕上げに近い	1cmの石、石焉など3mm大 以下の砂粒を含む		34	92
615	排水土器	(便・廻)	A 2 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.40)	-	(6.00)	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。内面ヒタナ ゲで底盤の上仕上げ	粗砂を多く含む		34	92
616	排水土器	(便・廻)	A 2 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.80)	-	4.60	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。内面ハグヒタナ チ。底盤に木葉類	粗砂を少し含む		34	92
617	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.60)	-	5.70	退部 完全	タキ成形後底外側にハグを標識射出机に施す。底盤 外側一部、底盤に木葉類2回分	0.5~2mmの砂粒を含む	透の可 能性あり	34	92
618	排水土器	(便・廻)	A 2 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.80)	-	6.35	退部 完全	タキ成形後底外側ハガキ。内面ヒビサエとハ ガ。底盤外側にヒタナ	2mm以下の砂粒、角閃石含 む		34	93
619	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.80)	-	(7.90)	退部 完全	タキ成形後底外側と底盤外側ハガ。内面各方向のハ ガ。底盤に木葉類と1種の草花底盤あり	1mm小石と瓶砂を多く含 む。角閃石・金星雲母混合 する	鋼岐山D	34	93
620	排水土器	(便・廻)	A 3 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.10)	-	4.15	退部 完全	タキ成形後底外側で、底盤外側にユビサエ。 内盤はハグを標識射出机に施す。底盤外側ハガ。	1mm以下の大粒の砂粒を含む		34	92
621	排水土器	(便・廻)	A 3 b β1	掘溝 3	IV-2層	-	(2.00)	-	(5.30)	退部 完全	タキ成形後底外側ハガ。底盤ドーナツ。内面ヒタ ナゲ。ドーナツ仕上げが中央部が膨らむ。外側 に黒斑あり	3mm以下の大粒の砂粒含む		34	93
622	排水土器	(便・廻)	A 2 × β2	掘溝 3	IV-2層	-	(4.80)	-	(6.20)	退部 完全	タキ成形後底外側ナナフサ一部ヒタナ。内面物 理的差異・標識射出机に施す。底盤ナナフサ中央へハグ直隣 あり	2.5mm大以下の砂粒含む		34	93
623	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.10)	-	4.40	退部 完全	タキ成形後底外側ナナフサ。底盤外側ヒビサエ。内面 ハグカズリ。	3mm以下の大粒の砂粒含む		34	93
624	排水土器	(便・廻)	A 2 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.75)	-	5.40	退部 完全	タキ成形後底外側と底盤外側ハガ。内面ハグヒタナ チ。底盤に木葉類	1mm以下の大粒の砂粒含む		34	93
625	排水土器	(便・廻)	A 2 × β1	掘溝 3	IV-2層	-	(2.50)	-	4.60	退部 完全	タキ成形後底外側射出机ハグ。ドーナツ仕上げハ グ。底盤に木葉類	3mm以下の大粒の砂粒含む		34	93
626	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(2.40)	-	4.15	退部 完全	タキ成形力、外面タナハグ。内面ヒタナフサ。 底盤ナナフサ。ほぼ平辠。底盤外側に黒斑	堆積砂少許、堆積砂少 量含む		34	93
627	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.95)	-	3.65	退部 完全	タキ成形後底外側ハグ。底盤ドーナツ。内面ヒタ ナゲ。底盤ヒビサエ。底盤上部に黒斑	石焉など2mm以下の大粒 含む		34	93
628	排水土器	(便・廻)	A 2 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(3.40)	-	3.35	退部 完全	タキ成形底外側ナナフサ。底盤外側ヒビサエ。内面 ハグカズリ。底盤標識射出机にハグ。底盤外側ナナフ サ。底盤ヒビサエ	細砂を少し含む		34	93
629	排水土器	(便・廻)	A 3 × β2	掘溝 3	IV-2層	-	(3.80)	-	2.50	退部 完全	タキ成形力。底盤外側ヒビサエ。底盤上部でドーナツ は根張る。底盤上部でドーナツは船底が異なる。基盤薄く、 底盤怪、直邊小さい。内面に黒斑	1mm以下的小石を少量含む		34	93
630	排水土器	(便・廻)	A 1 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(6.90)	-	(7.30)	退部 完全	タキ成形後底外側ヒビサエ。底盤ナナフサ。底盤上部 にヒビサエ。底盤上部に黒斑	粗砂を多く含む		34	93
631	排水土器	(便・廻)	A 1 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.70)	-	7.50	退部 完全	タキ成形後底外側ハガ。内面ヒタクリ。底盤外側に 黒斑とヒタナフサ。内面に黒斑	長石・チャートなど3mm大 以下の砂粒多く含む		34	93
632	排水土器	(便・廻)	A 1 × α	掘溝 3	IV-2層	-	(6.80)	-	(5.90)	退部 完全	タキ成形後底外側ハグ。底盤ドーナツ。内面ヒタナ ゲ。底盤ヒビサエ。底盤上部に黒斑	2mm以下石を多く含む	透の可 能性あり	34	93
633	排水土器	(便・廻)	A 1 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(4.80)	-	(5.00)	退部 完全	タキ成形後底外側ハグ。底盤ドーナツ。内面ヒタナ ゲ。底盤ヒビサエ。底盤上部に黒斑	石焉・チャートなど3mm大 以下の砂粒を含む		34	93
634	排水土器	(便・廻)	A 1 b α	掘溝 3	IV-2層	-	(6.40)	-	(4.80)	退部 完全	タキ成形後底外側ヒタナ。内面ヒタナフサ。外面ヒ タナフサ	石焉・チャート他3mm大 以下の砂粒多く含む		34	93

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
T15	弥生土器	壺形(變、鉢)	A 1 ± 22	深窓 3 4.1K	IV-2層	-	(4.20)	-	3.35	底部 完全	タキ成形後外縁へラミガキ。内面糊壓放射状ハサ。	1mm以下的小石を少額含む	34	92	
T16	弥生土器	壺形(鉢)	A 3b ± 32	深窓 3 4.1K	IV-2層	-	(4.75)	-	3.70	底部 1/4	タキ成形後外縁へラミガキ。内面へラマシヒガキ。	3mm以下的小石を含む	34	93	
T17	弥生土器	壺形(變、鉢)	A 2 ± 24	深窓 3 4.1K	IV-2層	-	(5.10)	-	3.95	底部 完全	タキ成形後外縁ハケタ。内面タマナデ。	0.5~1mmの砂粒を含む	34	93	
T18	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(6.35)	-	3.80	底部 完全	タキ成形後外縁へラミガキ。内面一部ハマヒ。	細粒砂を多く含む	34	94	
T19	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(5.05)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後外縁ハケタ。内面ハマまたはイタナデを糊壓放射状に施す	2mm以下の砂粒含む	34	92	
T20	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(4.90)	-	3.20	底部 完全	タキ成形後外縁ハケタ。底面には方向に向て2度タマヒ施す。内面へラミガキを施す	3mm以下石粒を多く含む	34	94	
T21	弥生土器	壺形(變、鉢)	A 2 ± 4	深窓 3 4.1K	IV-2層	-	(4.00)	-	3.00	底部 完全	タキ成形後外縁ハケタ。内面イタナデをケズリ施す。底部へラミガキ。	5mm以下石粒微量。細砂を少額含む	34	94	
T22	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(6.65)	-	2.80	底部 完全	タキ成形後外縁ハマを充填し状に施す。内面ハケタ後ヨコサキナナデ。	2mm以下の砂粒含む	34	94	
T23	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 2	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(6.40)	-	2.30	底部 完全	タキ成形後外縁ハケタ。内面ハケタケで内面底部にシボアリあり。わずかに平底の突起	1mmの小石と砂粒を多額に含む	34	94	
T24	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 3	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(6.05)	-	2.80	底部 完全	タキ成形後内面糊壓ナナデ。底部内面ナナデ。わずかに平底の突起あり。外縁に黒膜あり	0.5~1mmの砂粒を含む	34	94	
T25	弥生土器	有孔 鉢	C 帶縫	圓窓 3 3.1K	IV-2層	-	(4.70)	-	2.60	底部 完全	タキ成形後外縁ハマを充填し状に施す。内面ハケタ後ヨコサキナナデ。	石英など2mm以下的小石含む	34	94	
T26	弥生土器	壺形(變、鉢)	B 2	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(3.90)	-	1.80	底部 完全	タキ成形後底面付近内面ナナデ。内面糊壓放射状ハマで底面内面ヨコサキナナデ。底面内面イタナデ。	0.5~2mmの砂粒を含む	34	94	
T27	弥生土器	壺形(變、鉢)	-	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(2.30)	-	3.30	底部 完全	平底で底部外縁タマヒ。内面へラマヒ。	2mm大石粒へ細粒。石英、チヤートを多く含む	34	94	
T28	弥生土器	壺形(鉢)	C 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(4.10)	-	2.30	底部 完全	内面糊壓ナナデ。外縁ハケタ後ハマヨガキ。内面ハセヒガキ。内面に黒膜あり	0.5~2mmの砂粒を含む	34	94	
T29	弥生土器	壺形(鉢)	A 2b ± 2	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(3.00)	-	6.65	底部 完全	タキ成形後ハマを充填し状に施す。内面ハケタ後ヨコサキナナデ。	細粒砂を多く含む	34	94	
T30	弥生土器	壺形(鉢)	A 3b ± 22	深窓 3 4.1K	IV-2層	-	(5.00)	-	5.20	底部 完全	タキ成形後底面付近内面ナナデ。内面糊壓放射状ハマで底面内面ヨコサキナナデ。底面内面イタナデ。	砂少額。細粒砂を多く含む	34	94	
T31	弥生土器	壺形(變、鉢)	A 2 ± 22	深窓 3 4.1K	IV-2層	-	(4.40)	-	5.30	底部 完全	タキ成形後外縁タマヒ。内面ハケタケナナデ。内面ハセヒガキで内面糊壓ナナデ。外縁糊壓保付。内面底部糊壓ナナデ	金石石組2mm以下砂粒含む	34	94	
T32	弥生土器	壺形(鉢)	D 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(3.60)	-	4.25	底部 完全	タキ成形後外縁タマヒ。内面糊壓ナナデ。内面ハセヒガキ。外縁に黒膜あり	砂粒を多く含む	34	94	
T33	弥生土器	壺形(鉢)	D 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(2.50)	-	3.25	底部 完全	内面糊壓ナナデ。外縁ハケタ後ハマヨガキ。内面ハセヒガキ。内面に黒膜あり	2mm以下砂粒を含む	34	94	
T34	弥生土器	壺形(鉢)	D 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(3.20)	-	3.20	底部 完全	タキ成形後外縁ハマヨガキ。内面ハセヒガキ。内面ハセヒガキ。外縁ハマヨガキ。内面糊壓ナナデ	砂粒を多く含む	34	94	
T35	弥生土器	壺形(鉢)	D 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(3.20)	-	5.05	底部 完全	内面糊壓ナナデ。外縁ハケタ後ヨコサキナナデ。内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	2mm大石粒へ細粒を多く含む	34	94	
T36	弥生土器	製陶場	輪台型	圓窓 3 3.1K	IV-2層	-	(3.00)	-	5.35	底部 完全	内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	石英など3mm以下砂粒含む	34	94	
T37	弥生土器	壺形(鉢)	D 1	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(2.50)	-	6.60	底部 完全	大型の脚部は糊壓ナナデをヨコサキに巻き、ユビサスで糊壓。底部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	1mmの小石と砂粒を多額に含む	34	95	
T38	弥生土器	壺形	A 1b	圓窓 3 4.1K	IV-2層	-	(2.45)	-	-	口縫部 若干	内面ヨコサキナナデ。外縁に黒膜あり	0.5~2mmの砂粒を多く含む	35	95	
T39	弥生土器	壺形	A 3b	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(25.40)	(4.70)	-	1.70	口縫部 1/8	口縫部内面に2条の脚部。所上部内面ヨコサキナナデ。内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	北近畿系 B 740と同 銀体	35	95	
T40	弥生土器	壺形	A 3b	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(22.35)	(4.90)	-	1.70	口縫部 内面糊壓ナナデ	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	北近畿系 B 720と同 銀体	35	95	
T41	弥生土器	壺形	-部分のため不明	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(28.10)	(4.10)	-	-	口縫部 1/4	口縫部内面に1条の脚部。所上部内面ヨコサキナナデ。内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	0.5~1.5mmの砂粒を含む	35	95	
T42	弥生土器	壺形	A 3b	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(22.90)	(3.75)	-	-	口縫部 1/9	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面ヨコサキナナデ。内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	石英など1mm以下砂粒含む	35	95	
T43	弥生土器	壺形	A 3b	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(26.70)	(4.30)	-	-	口縫部 1/24	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ	3mm以下砂粒含む	35	95	
T44	弥生土器	壺形	A 3b	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(24.70)	(3.20)	-	-	口縫部 1/9	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ	石英など3.5mm以下砂粒含む	35	95	
T45	弥生土器	壺形	A 2	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(19.50)	(3.60)	-	-	口縫部 1/8	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	0.5~1.5mmの砂粒を含む	35	95	
T46	弥生土器	壺形	A 2	圓窓 3 3.1K	IV-2層	(17.30)	(3.90)	-	-	口縫部 1/8	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	石英など3mm以下砂粒含む	35	95	
T47	弥生土器	壺形	A 2	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(26.90)	(3.90)	-	-	口縫部 1/8	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	3mm以下砂粒、赤色含む	35	95	
T48	弥生土器	壺形	A 2	圓窓 3 4.1K	IV-2層	(18.70)	(3.55)	-	-	口縫部 1/12	口縫部内面糊壓ナナデ。所上部内面糊壓ナナデ。内面糊壓ナナデ	747と同 銀体	35	95	

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				残存率	柱法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	高さ	幅員	底深						
749	弥生土器 ～土師器	窓坪	A 2	流域 3 41K	IV-2層	(20.30)	(3.75)	-	-	口縁部	口縁部内部外面ヨコナギ。壁上部内面テガヘタヨコナギ。手前へマガキ。壁上部外側ハケまたはヘタモガキ。环底部外側ハケ等。	粗砂を少含む	35	95	
750	弥生土器 ～土師器	窓坪	A 3e	流域 3 41K	IV-2層	(22.50)	(5.00)	-	-	口縁部 着手	口縁部内部ヨコナギ。口縁部内面ヨコナギによる横底部凹凸。环底部内面ナメ。表面ハケタヨコナギ	0.5～1.5mm程の砂粘。微細な角閃石・金雲母を含む	鶴岡糸A	35	95
751	弥生土器 ～土師器	窓坪	A 3e	流域 3 41K	IV-2層	(22.40)	(4.30)	-	-	口縁部	口縁部内部ヨコナギ。口縁部内面ヨコナギによる横底部凹凸。环底部内面ナメ。表面ハケタヨコナギ	微細な角閃石・金雲母など 1mm以下の砂粘含む	鶴岡糸A	35	95
752	弥生土器 ～土師器	窓坪	A 3c の 跡面	流域 3 41K	IV-2層	-	(4.30)	-	(15.90)	断面	断面外側ヨコナギ後ヘタモガキ。縁部はヨコナギ。手前へマガキ。環底部はヨコナギ。手前へマガキ。上端にもヨコナギ。	3mm以下の砂粘・赤色粘子 角閃石・金雲母含む	鶴岡糸A 750-751の 削面	35	95
753	弥生土器 ～土師器	窓坪	C 2	流域 3 41K	IV-2層	(22.30)	(4.45)	-	-	口縁部	外部基盤～マミガキ	細緻な縫隙多く含む	北岩糸A	35	96
754	弥生土器 ～土師器	窓坪	C 2	流域 3 41K	IV-2層	(25.95)	(4.20)	-	-	口縁部	外部基盤～マミガキ。环底部内面ハテモガキ	2mm以下の砂粘含む	北岩糸A か	35	96
755	弥生土器 ～土師器	窓坪	A 6	流域 3 41K	IV-2層	(23.45)	(3.70)	-	-	口縁部	口縁部底面のため調査不規。环底部外側ハテモガキ	3mm以下1個。粗砂を多く含む	35	96	
756	弥生土器 ～土師器	窓坪	A 6	流域 3 41K	IV-2層	(21.60)	(3.15)	-	-	口縁部	口縁部内部面ヨコナギ。縁部が残るヨコナギ。环底部外側ハテモガキ後ヘタモガキ。	3mm以下の砂粘・赤色粘子 角閃石含む	35	96	
757	弥生土器 ～土師器	窓坪	D 3	流域 3 41K	IV-2層	(13.30)	(11.40)	-	10.15	口縁部	口縁部内部ヨコナギ。外部内面ハテモガキ。外部外側ハテモガキ。环底部内面ハテモガキ。縁部側面ハテモガキ。断面に縫隙多く含む	3mm以下の砂粘・赤色粘子 含む	35	95	
758	弥生土器 ～土師器	縦台	G 2	流域 3 41K	IV-2層	(10.40)	(2.70)	-	-	口縁部	口縁部外側ヨコナギ。環底部内面ナメ。表面ハテモガキ。	0.5～1mm程の砂粘を含む	35	96	
759	弥生土器 ～土師器	窓坪	流域 3 41K	IV-2層	-	(7.65)	-	(11.20)	-	断面	断面外側ヨコナギ。内部ハテモガキ。縁部外側ヨコナギ。手前へマガキ。環底部内面ハテモガキ。表面に縫隙多く含む	石英など2mm以下大以下の砂粘 多く含む	35	95	
760	弥生土器 ～土師器	縦台	流域 3 41K	IV-2層	-	(7.70)	-	12.25	-	断面	タガキ成形。受部内面ヨコナギ。縁部内面ハテモガキ。外部外側ハテモガキ	石英など3mm以下の大砂粘 多く含む	高井や曾 付鉢か	35	96
761	弥生土器 ～土師器	縦台	A 1 b	流域 3 41K	IV-2層	(27.30)	(3.60)	-	-	口縁部	口縁部表面に6条の横縫線なし。円錐文を2箇对で貼り、竹筋文の部分を2箇で周辺を取つて中央を押す方法で受部内面致凹状ハテモガキ。外部面ハテモガキ	0.5～2mm程の砂粘と小石 を含む	35	96	
762	弥生土器 ～土師器	縦台	C	流域 3 41K	IV-2層	-	(4.65)	-	-	下段 口縁部	断面底部の受部。口縁部底部外側に横筋2条か。受部内面ハテモガキ。表面に大きな透溝あり。柄状不明。	石英など2mm以下の大砂粘 多く含む	北岩糸A 763と同一 削面	35	96
763	弥生土器 ～土師器	縦台	C	流域 3 41K	IV-2層	(24.90)	(2.95)	-	-	口縁部	断面底部の受部で口縁部表面に2条の横縫線。受部内面ハテモガキ。内部ハテモガキ	0.5～2mm程の砂粘と小石 を含む	北岩糸A 762と同一 削面	35	96
764	弥生土器 ～土師器	縦台	A 2b	流域 3 41K	IV-2層	(23.60)	(5.40)	-	-	口縁部	断面底部外側に2条の横縫線す。口縁部ヨコナギ。外部内面ハテモガキ	石英など3mm以下の大砂粘 多く含む	北岩糸A A型	36	96
765	弥生土器 ～土師器	縦台	A 2b	流域 3 41K	IV-2層	(22.00)	(4.70)	-	-	口縁部	断面底部外側に4条の横縫線す。口縁部ヨコナギ。受部内面ハテモガキ	1mm以下小石を含む。粗砂を多く含む	北岩糸A A型	36	96
766	弥生土器 ～土師器	縦台	A 4	流域 3 41K	IV-2層	(16.70)	(2.30)	-	-	口縁部	口縁部内面に2ヶ所横筋1条のよう平行線。外側面2条。内面2条か。内外面横筋1条織が残るヨコナギ	3mm以下の大砂粘含む	767と同一 削面か	36	96
767	弥生土器 ～土師器	縦台	A 4	流域 3 41K	IV-2層	(16.80)	(2.35)	-	-	口縁部	口縁部内面にハケ倒伏1条のよう平行線。外側面2条。内面2条か。内外面横筋1条織が残るヨコナギ	3mm以下の大砂粘多く含む	766と同一 削面か	36	96
768	弥生土器 ～土師器	縦台	A 3	流域 3 41K	IV-2層	(16.70)	(4.20)	-	-	口縁部	受部内面にタガキ。口縁部外側ヨコナギ後他の表面と同様ハテモガキ	3mm以下の大砂粘含む	北岩糸A	36	96
769	弥生土器 ～土師器	蓋	D 2	流域 3 41K	IV-2層	(16.80)	(3.30)	-	-	口縁部	口縁部表面に2条以上の横・側面縫隙す。基部の彫みが多く調整不規	2.5mm以下の大砂粘含む	部台の可 能性もあ り	36	96
770	弥生土器 ～土師器	縦台	流域 3 41K	IV-2層	-	(9.80)	-	(13.80)	-	断面	断面外側ハテモガキ後内部ヨコナギ。内部ハテモガキ。断面底部ヨコナギ。縁部側面ハテモガキ。縁部側面ヨコナギ。4方向に透つ	2mm以下の大砂粘含む	36	96	
771	弥生土器 ～土師器	窓坪	縦台	流域 3 41K	IV-2層	-	(9.65)	-	-	脚柱部 完存	脚柱部の受部。脚柱部ヨコナギ。筋状の円錐孔透つ。脚柱部外側ハテモガキ。内部ハテモガキ。表面に縫隙多く含む	3mm以下の砂粘・赤色粘子 含む	36	96	
772	弥生土器 ～土師器	窓坪	縦台	流域 3 41K	IV-2層	-	(6.80)	-	-	脚柱部	脚柱部ヨコナギ後外部内面ハテモガキ。内部ハテモガキ。脚柱部側面ハテモガキ。表面に縫隙多く含む	3mm以下の砂粘含む	36	97	
773	弥生土器 ～土師器	窓坪	縦台	流域 3 41K	IV-2層	-	(8.20)	-	-	脚柱部	内部の脚柱部面にハテモガキ。内面ハテモガキ。脚柱部側面ハテモガキ。内部ハテモガキ。円錐透つ。脚柱部外側ヨコナギを加える。脚柱部外側ヨコナギ。筋状の円錐孔透つ。脚柱部側面ハテモガキ。表面に縫隙多く含む	1mm以下的小石と粗砂を多く含む	東国糸	36	97
774	弥生土器 ～土師器	縦台	縦台	流域 3 41K	IV-2層	-	(8.50)	-	-	脚柱部 完存	受部内面にハテモガキ。脚柱部外側ハテモガキ。表面に縫隙多く含む	3mm以下の砂粘・赤色粘子 含む	36	97	
775	弥生土器 ～土師器	窓坪	(脚) 盤 A 1	流域 3 41K	IV-2層	-	(3.00)	-	(14.70)	断面	断面外側に2条の横縫線す。脚柱部外側面横筋1条織が残るヨコナギ	1.5mm以下の大砂粘含む	36	97	
776	弥生土器 ～土師器	窓坪	脚(脚) 盤 A 1	流域 3 41K	IV-2層	-	(2.35)	-	(15.60)	断面	断面ヨコナギ後内外面ヨコナギ。内面に竹筋文1筋	石英など3mm以下の大砂粘 多く含む	36	97	
777	弥生土器 ～土師器	窓坪	脚(脚) 盤 A 1	流域 3 41K	IV-2層	-	(2.30)	-	(15.85)	断面	断面ヨコナギ後内外面ヨコナギ。内面ハテモガキ。筋状の円錐孔透つ。脚柱部外側ハテモガキ。内部ハテモガキ	粗砂を少含む	36	97	
778	弥生土器 ～土師器	窓坪	脚(脚) 盘	流域 3 41K	IV-2層	-	(3.50)	-	(15.80)	断面	断面ヨコナギ後内外面ヨコナギ。脚柱部外側ハテモガキ。内部ハテモガキ	2mm以下の大砂粘含む	36	97	
779	弥生土器 ～土師器	窓坪	脚(脚) 盘 A 2	流域 3 41K	IV-2層	-	(4.10)	-	(16.00)	断面	タガキ成形後内外面ハテモガキ。内面にヨコナギを加える。脚柱部外側ハテモガキ	1mm以下的小石と粗砂を多く含む	36	97	
780	弥生土器 ～土師器	窓坪	脚(脚) 盘 A 1	流域 3 41K	IV-2層	-	(2.35)	-	(15.20)	断面	脚柱部ヨコナギで端面にハテモガキ。脚柱部外側ハテモガキ。内面ハテナダ	0.5～1mm程の砂粘を含む	36	97	

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)			種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径						
281	弥生土器	壺	(壺) A1	泥窓	IV-2層	-	(1.85)	-	(14.00)	縦断面ヨコテで器内に奥へ傾く。外面部器底斜傾、内面部ハラ。内面部孔の一部一面側生存	粗砂を少含む	36	97	
282	弥生土器	壺	(壺) A2	泥窓	IV-2層	-	(3.30)	-	(14.55)	縦断面内部ヨコナデ。器底外面部テハケ後ハタマリ。外面部ハラ。門脇孔乳の一部一面側生存	粗砂少算。粗砂を多く含む	36	97	
283	弥生土器	壺	(壺) A2	泥窓	IV-2層	-	(3.10)	-	(14.15)	縦断面ヨコナデ。4方向の円形透孔2面側生存	2mm以下の中砂含む	36	97	
284	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(3.85)	-	(14.00)	タキ成形後横部外面ヨタマギ。縦断面内部ヨコナデ。4方向の円形透孔2面側生存	石英など3mm以下の中砂含む	36	97	
285	弥生土器	壺	(壺) B2	泥窓	IV-2層	-	(2.55)	-	(16.10)	縦断面ヨコナデ。外面部ハラマギ。内面部ヨコナデ。透孔の一部生存	2mm以下の中砂含む	36	97	
286	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(3.80)	-	(16.00)	縦断面D形に折り出げる。縦断面外面ハラ、内面部ハラマギナダ。透孔の一部生存	3mm以下石少算。粗砂を多く含む	36	97	
287	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(5.20)	-	(15.20)	縦断面内部ヨコナデ。器底外面部ハラ、外面部にイタナデれる	0.5~1mmの砂粒を多く含む	36	98	
288	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(4.50)	-	(15.40)	縦断面内部ヨコナデ。器底外面部ハラ。透孔ごく一部生存	0.5~2mmの砂粒を含む	36	98	
289	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(3.35)	-	(16.80)	内面部ハラマギ。内面部横部器底内外ヨコナデ。円形透孔の一部生存	2.5mm以下の中砂含む	36	98	
290	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(4.45)	-	(14.60)	タキ成形後外面部ハラマギ。内面部ハラ。縦断面外面部ヨコナデ	2mm以下の中砂含む	36	98	
291	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(4.80)	-	(16.60)	縦断面内部ヨコナデ。器底外面部後横部方向へラマギナダ。内面部ヨコナデ。透孔の一部生存	0.5~1mmの砂粒を多く含む	36	98	
292	弥生土器	壺	(壺) B1	泥窓	IV-2層	-	(4.70)	-	(15.80)	縦断面外面ヨコナデ。縦断面外面部ハラマギ。内面部ハラマギナダ	0.5~1mmの砂粒を多く含む	36	98	
293	弥生土器	器台	泥窓	IV-2層	-	(6.10)	-	(13.75)	縦断面ヨタマギ成形後横部外面ヨタマギ。内面部ナナナ。下半ハラマギ	2mm以下の中砂含む	部分合計 3~4.2% 部分合計	36	98	
294	弥生土器	壺	(壺) B2	泥窓	IV-2層	-	(4.20)	-	(13.00)	縦断面外部ヨコナデ。縦断面外面部ナナナ。内面部ハラマギ	石英など2mm以下の中砂含む	36	98	
295	弥生土器	壺	B1	泥窓	IV-1層	(1.00)	(3.10)	-	口縁部	D形壁上端に水平な面あり。口縁部内部ヨコナデ。内面部ハラマギ。内面部後横部方向へラマギナダ	粗砂を多量に含む	36	98	
296	弥生土器	壺	A1	泥窓	IV-1層	(14.90)	(5.80)	-	口縁部	口縁部内部ヨコナデ。内面部ヨコナデヨコナデ。同部外面部後横部、内面部イタマギ。口縁部前面に横付着	0.5~1.5mmの砂粒を含む	36	99	
297	弥生土器	壺	A1	泥窓	IV-1層	(15.20)	(7.35)	-	口縁部	口縁部内部ヨコナデ。内面部ヨコナデ。同部外面部後横部、内面部イタマギ。内面部ハラマギ	0.5~2mmの砂粒を多く含む	36	99	
298	弥生土器	壺	A2	泥窓	IV-1層	(13.95)	(5.35)	-	口縁部	タキ成形後底面内部ヨコナデ。口縁部内部ヨコナデ。口縁部外部ハラマギ	6mm以下1個。粗砂を多く含む	37	99	
299	弥生土器	壺	A2	泥窓	IV-1層	(15.70)	(5.15)	-	口縁部	口縁部背面に横付着。内面部後横部方向へラマギ。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	粗砂を少含む	37	99	
300	弥生土器	壺	B4	泥窓	IV-1層	(12.30)	(4.45)	-	口縁部	口縁部背面は前面。口縁部前面ヨコナデ。口縁部背面ナナナ。内面部ハラマギ。内面部方向へケマツ	0.5~2mmの砂粒を含む	37	99	
301	弥生土器	壺	C5	泥窓	IV-1層	(15.70)	(6.00)	-	口縁部	口縁部背面は前面。口縁部前面ヨコナデ。口縁部背面ナナナ。内面部ハラマギ	1mm以下小石を少算。粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
302	弥生土器	壺	C3	泥窓	IV-1層	(11.00)	(5.00)	-	口縁部	口縁部背面は前面。口縁部背面ヨコナデ。口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
303	弥生土器	壺	C5	泥窓	IV-1層	(15.30)	(4.80)	-	口縁部	口縁部背面は前面。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
304	弥生土器	壺	C3	泥窓	IV-1層	(15.30)	(6.90)	-	口縁部	口縁部背面は前面。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
305	弥生土器	壺	B4	泥窓	IV-1層	(14.40)	(4.20)	-	口縁部	口縁部背面は前面。内面部後横部方向へラマギ。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	粗砂を多く含む	37	99	
306	弥生土器	壺	C3	泥窓	IV-1層	(15.50)	(5.50)	-	口縁部	口縁部背面は前面。内面部後横部方向へラマギ。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	1mm以下小石を少算。粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
307	弥生土器	壺	B7	泥窓	IV-1層	(17.80)	(7.35)	-	口縁部	口縁部背面2つ目の前面に横付着。内面部後横部方向へラマギ。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	2mm以下の中砂含む	北近畿系 B	37	99
308	弥生土器	壺	C2	泥窓	IV-1層	(16.10)	(4.10)	-	口縁部	口縁部背面に横付着。内面部後横部方向へラマギ。タキ成形で口縁部背面ヨコナデ。内面部ハラマギ	0.5~2.5mmの砂粒を多く含む	北近畿系 A	37	99
309	弥生土器	壺	C2	泥窓	IV-1層	(14.10)	(4.70)	-	口縁部	口縁部背面に横付着。内面部後横部方向へラマギ。内面部ナナナ。口縁部背面ヨコナデ	0.5~2mmの砂粒を含む	北近畿系 A	37	99
310	弥生土器	壺	C1	泥窓	IV-1層	(13.15)	(6.00)	(13.85)	口縁部	タキ成形で体部内部ナナナ。口縁部背面ヨコナデ。内面部後横部方向へラマギ	石英など3mm以下の中砂含む	北近畿系 A	37	99
311	弥生土器	壺	C3	泥窓	IV-1層	(16.20)	(8.30)	-	口縁部	タキ成形で体部内部一面に横付着。内面部後横部方向へラマギ。内面部ヨコナデ。内面部ナナナ。口縁部背面ヨコナデ	0.5~1.5mmの砂粒を含む	北近畿系 A	37	99
312	弥生土器	壺	C4	泥窓	IV-1層	(12.90)	(9.05)	-	口縁部	口縁部背面は前面。内面部後横部方向へラマギ	石英など4mm以下の中砂含む	北近畿系 A	37	99

番号	種別	種類	難型	構構	層位	法量(cm)				堆存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	高さ	幅員	底厚						
803	衛生土器 ～土壌器	便	C 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.90)	(4.60)	-	-	0.5m	口縁部外側面粗粒化、タクタ成形で周辺内面にイナザチ、口部内部内面ヨコナガで内面には排水孔がある。外面に保付着	粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
804	衛生土器 ～土壌器	便	A 2	深路 3 41K	IV-1層	(16.10)	(3.35)	-	-	0.5m	口縁部外側面は細粒で粗粒が入るヨコナガ、内面ヨコナガ、底部内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒を含む	北近畿系 A	37	99
805	衛生土器 ～土壌器	便	C 1	深路 3 21K	IV-1層	(16.90)	(3.40)	-	-	0.5m	口縁部外側面上手にヨコナガ、粗粒が多い点もヨコナガ。地若干、外面は内面ヨコナガ、周辺内面にタケナガ。	1mm以下小石を少量、粗砂を多く含む	北近畿系 A	37	99
806	衛生土器 ～土壌器	便	C 8	深路 3 21K	IV-1層	(15.00)	(3.20)	-	-	0.5m	口縁部内面ヨコナガ。タクタ成形で周辺内面にヨコナガ、外面に保付着	0.5～1.1mm程の粗粒と小石を含む	北近畿系 B	37	99
807	衛生土器 ～土壌器	便	F	深路 3 21K	IV-1層	(15.90)	(7.30)	-	-	0.5m	口縁部前面の部分があり、口縁部内面ヨコナガ後回り、粗粒内面ヨコナガ。周辺内面にヨコナガ、底部内面ヨコナガ。タクタ成形で周辺内面にヨコナガ。形状比較的無い。	2mm以下の砂粒含み、角閃石・金雲母混含	湖岐系 A'	37	99
808	衛生土器 ～土壌器	便	F	深路 3 21K	IV-1層	(14.90)	(4.80)	-	-	0.5m	口縁部前面に上下二つの凹面、口縁部内面と周辺内面に2面ヨコナガ。周辺内面にヨコナガ。	粗砂を多く含む。強熱の角閃石・金雲母含む	湖岐系 A	37	100
809	衛生土器 ～土壌器	便	F	深路 3 41K	IV-1層	(13.20)	(2.80)	-	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガ。周辺内面にヨコナガによる凹面がある。周辺内面ヨコナガ、底部内面ヨコナガ。周辺内面にヨコナガ、内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒を含み、角閃石・金雲母含む	湖岐系 A	37	100
810	衛生土器 ～土壌器	便	F	深路 3 11K	IV-1層	(13.70)	(8.70)	(18.90)	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガによる凹面があり、周辺内面ヨコナガ、底部内面ヨコナガ。周辺内面にヨコナガ、底部内面ヨコナガ。	粗砂を多く含む。多量の角閃石・金雲母含む	湖岐系 A	37	100
811	衛生土器 ～土壌器	便	C 2	深路 3 21K	IV-1層	(16.70)	(2.70)	-	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガによる凹面があり、周辺内面ヨコナガ。周辺内面にヨコナガ。	粗砂を多く含む	古賀系 A	37	100
812	衛生土器 ～土壌器	便	E	深路 3 21K	IV-1層	(14.30)	(5.70)	-	-	0.5m	口縁部内面多量の凹面の周囲のヨコナガ。周辺内面にヨコナガ。周辺内面ヨコナガ。周辺内面ヨコナガ。	粗砂を多く含む	山陰系 A	37	100
813	衛生土器 ～土壌器	便	体皿	深路 3 21K	IV-1層	-	(28.40)	(24.10)	5.30	深路 完形	タクタ成形後周辺外側面ニッケルを飛起状に廻す。内面追付石ハケアリ。周辺内面ヨコナガ。	1mm以下小石と粗砂を多く含む	湖岐系 A	37	100
814	衛生土器 ～土壌器	便	体皿	深路 3 21K	IV-1層	-	(30.75)	(30.60)	5.12	体皿	タクタ成形後周辺外側面ハリ中心にハケアリ。内面上半ナメドサリ下手ナメタケアリ。周辺内面ヨコナガ。	石など2mm以下砂粒含む	湖岐系 A	38	100
815	衛生土器 ～土壌器	直	D 1	深路 3 21K	IV-1層	(12.30)	(3.70)	-	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガによる凹面。周辺内面ヨコナガ。周辺内面ヨコナガ。	粗砂を多く含む	湖岐系 A	38	100
816	衛生土器	直	D 4	深路 3 21K	IV-1層	(15.60)	(4.60)	-	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒を含む	湖岐系 A	38	101
817	衛生土器	直	C 2	深路 3 21K	IV-1層	(13.80)	(8.15)	-	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガ。周辺内面ヨコナガ。	3mm以下の砂粒含む	湖岐系 A	38	101
818	衛生土器 ～土壌器	直	C 2	深路 3 31K	IV-1層	(12.60)	(6.70)	-	-	0.5m	口縁部前面にヨコナガ。周辺内面ハケアリ。周辺内面ヨコナガ。	3.5mm以下砂粒含む	湖岐系 A	38	100
819	衛生土器 ～土壌器	直	F	深路 3 21K	IV-1層	(16.10)	(6.30)	-	-	0.5m	口縁部前面外側面ヨコナガ。タクタ成形ハケアリ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
820	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	0.5m	口縁部外面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	3mm大粒粗粒無	北近畿系 A	38	101
821	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 31K	IV-1層	(13.00)	(20.70)	20.70	3.90	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
822	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
823	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.00)	(20.70)	20.70	3.90	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
824	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
825	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
826	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
827	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
828	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
829	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部前面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒と小石を含む	湖岐系 A	38	101
830	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(15.75)	(3.90)	-	-	1/2	口縁部外面に2条の鋸歯面。タクタ成形で口縁部仕上げ後ハリナメ。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	3mm大粒粗粒無	北近畿系 A	38	101
831	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 31K	IV-1層	-	(13.00)	20.70	3.90	1/2	タクタ成形後周辺外側面上手にハケアリ。内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	3mm以下砂粒・赤色粘土含む	湖岐系 A	38	101
832	衛生土器 ～土壌器	直	E 1	深路 3 21K	IV-1層	(11.15)	(6.25)	-	3.20	1/2	口縁部前面と内面の周囲の粗粒。口縁部内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。周辺内面ヨコナガ。	0.5～1mm程の砂粒を含む	湖岐系 A	38	101
833	衛生土器 ～土壌器	直	A 3	深路 3 11K	IV-1層	(9.80)	(5.60)	-	3.35	1/4	口縁部不整然。タクタ成形で周辺外側面ナメ。内面ヨコナガ。	1～2mmの小石と粗砂を多量に含む	湖岐系 A	38	101
834	衛生土器 ～土壌器	林	A 1やC のG	深路 3 11K	IV-1層	(17.60)	(5.15)	-	-	1/7	部表面削減。内面下面ナメ方舟ナメ。周辺外側面ヨコナガ。	粗砂を多く含む	湖岐系 A	38	101
835	衛生土器 ～土壌器	林	C の脚	深路 3 21K	IV-1層	-	(6.40)	-	7.20	2/2	体部内面ハリナメハケアリ。周辺外側面ナメ。周辺内面ヨコナガ。体部内面ヨコナガ。	0.5～2mm程の砂粒と小石を多く含む	湖岐系 A	38	101
836	衛生土器 ～土壌器	林	-	深路 3 21K	IV-1層	(17.40)	(6.15)	-	-	2/2	口縁部外側面粗粒。口縁部外側面ヨコナガ。体部内面ハリナメハケアリ。	0.5～1.5mm程の砂粒を含む	湖岐系 A	38	101
837	衛生土器 ～土壌器	林	F 4	深路 3 21K	IV-1層	(37.25)	(8.60)	-	-	1/12	口縁部外側面粗粒。口縁部外側面ヨコナガ。体部外側面ハリナメハケアリ。内面ハリナメガラ。	5mm以下ハリナメ砂・微細砂・粗粒砂を多量に含む	湖岐系 B	38	101
838	衛生土器 ～土壌器	有孔 林	B	深路 3 21K	IV-1層	-	(12.50)	-	3.00	2/2	タクタ成形後外側面ハケアリ。内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメハケアリ。内面ヨコナガ。	粗砂を多く含む	湖岐系 B	38	102
839	衛生土器 ～土壌器	有孔 林	C	深路 3 31K	IV-1層	-	(3.20)	-	2.75	深路 完形	タクタ成形後内面ハリナメ。周辺に縦約6mmの乳突。	5mm以下石粒・粗砂を多量に含む	湖岐系 B	38	102
840	衛生土器 ～土壌器	有孔 林	C	深路 3 21K	IV-1層	-	(4.60)	-	2.50	深路 完形	タクタ成形後外側面ヨコナガ。内面ヨコナガとハリ。縦約6mmの乳突。	0.5～1.5mm程の砂粒を含む	湖岐系 B	38	102
841	衛生土器 ～土壌器	有孔 林	C	深路 3 21K	IV-1層	-	(4.70)	-	2.50	深路 完形	タクタ成形後外側面ハリナメ。縦約8mmの乳突。周辺内面ハリナメあり。	石など2mm以下砂粒含む	湖岐系 B	38	102
842	衛生土器 ～土壌器	有孔 林	C	深路 3 21K	IV-1層	-	(4.90)	-	2.50	深路 完形	タクタ成形後外側面ハリナメ。内面ヨコナガ。周辺内面ハリナメ。	粗砂を多く含む	湖岐系 B	38	102
843	衛生土器 ～土壌器	有孔 林	G	深路 3 11K	IV-1層	-	(4.15)	-	2.55	深路 完形	体部内面ハリナメ。周辺内面ハリナメ。	堆積砂少額。粗砂・角閃石・金雲母を多く含む	湖岐系 A	38	102
844	衛生土器 ～土壌器	成路 (成土)	A 2×B 2×2	深路 3 21K	IV-1層	-	(2.55)	-	3.90	4/5	タクタ成形後外側面ハリナメ。内面ナメ。周辺外側面ヨコナガ・ナメ。	粗砂を多く含む	湖岐系 A	38	102
845	衛生土器 ～土壌器	成路 (成土)	A 3×a 11K	深路 3 11K	IV-1層	-	(4.60)	-	6.20	深路 完形	タクタ成形後内面ヨコナガ・ナメ。周辺内面ハリナメ。	堆積砂少額。粗砂を多く含む	湖岐系 A	38	102
846	衛生土器 ～土壌器	成路 (成土)	A 3×a 21K	深路 3 21K	IV-1層	-	(3.50)	-	4.70	深路 完形	タクタ成形後内面ヨコナガ・ナメ。周辺外側面ヨコナガ・ナメ。	粗砂を多く含む	湖岐系 A	38	102
847	衛生土器 ～土壌器	成路 (成土)	A 3×a 41K	深路 3 41K	IV-1層	-	(6.30)	-	3.00	深路 2/5	タクタ成形後外側面ヨコナガ・ナメ。周辺内面ハリナメ。	0.5～2mm程の砂粒を含む	湖岐系 A	38	103

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	特徴・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版	
						口径	基高	腹径	底径							
848	弥生土器	流域	(變)	A 2 ± a	流域 3 11K	IV-1層	-	(5.35)	-	3.25	底部 完全	タケキ成形後内面イナダ。底部外周ヨコサエ	I mm以下の小石を少量、粗砂を多く含む	38	163	
849	弥生土器	流域	(變)	A 3 ± β	流域 3 11K	IV-1層	-	(3.70)	-	3.20	底部 完全	タケキ成形後内面ハケ。底部外周ヨコサエ。底面は土色で底面内に木製板	粗砂を多く含む	38	163	
850	弥生土器	流域	(變)	A 3 ± a	流域 3 21K	IV-1層	-	(3.80)	-	3.15	底部 完全	体外表面ハゲ往上来。内面はハケ。底面は江平造で下ドトーフ。外側底面凹	I mmの小石を少量含む	小形鏡5+	163	
851	弥生土器	流域	(變)	A 3 ± a	流域 3 31K	IV-1層	-	(4.90)	-	4.60	底部 5/6	タケキ成形後内面ハケ。底部外周上げ状況にみるが平底。底面木蓋	石粉など3 mm以下の大砂多く含む	38	163	
852	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± a	流域 3 21K	IV-1層	-	(4.60)	-	4.30	底部 完全	タケキ成形後内面ハケ。底部外周上げ状況にみるが平底。底面木蓋	粗砂を多く含む	38	163	
853	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± a	流域 3 21K	IV-1層	-	(5.30)	-	(4.65)	底部 2/3	タケキ成形後内面ハケ。底部外周ビセサエ。底部外周ヨコサエ。外側底面凹	8 mmの石1個。3 cm以下有孔粗砂、粗砂少く含む	出の可逆性もあり	38	163
854	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± a	流域 3 11K	IV-1層	-	(4.25)	-	4.00	底部 完全	タケキ成形後内面イナダ	1~2 mmの小石を多く含む	39	163	
855	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± a	流域 3 21K	IV-1層	-	(3.00)	-	4.05	底部 完全	タケキ成形後外周タケハケ。内面ハケ。底面ナダ。外側底面凹	0.5~2 mm程の砂粒を含む	39	163	
856	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± a	流域 3 11K	IV-1層	-	(3.90)	-	3.85	底部 完全	タケキ成形後内面イナダか。底部外周ヨコサエ。底面にヨコタガ加えら	粗砂を少く含む	39	163	
857	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± a	流域 3 11K	IV-1層	-	(3.70)	-	3.40	底部 完全	タケキ成形後内面イナダ。底面木蓋ほか	粗砂を多量に含む	39	163	
858	弥生土器	流域	(變)	A 2 ± β	流域 3 21K	IV-1層	-	(3.10)	-	2.90	底部 完全	タケキ成形後外周ナダ。内面螺旋放拡付にハケ。外側底面凹	粗砂を多く含む	39	163	
859	弥生土器	流域	(變)	A 3 ± a	流域 3 11K	IV-1層	-	(3.10)	-	2.80	底部 完全	タケキ成形後外周ハケ。内面ハタサエ。底部外周ヨコサエ	粗砂を多く含む	39	163	
860	弥生土器	流域	(變)	B 3	流域 3 21K	IV-1層	-	(2.50)	-	2.30	底部 完全	タケキ成形後内面ナダ。内面黒墨	0.5 mm程の砂粒を含む	39	163	
861	弥生土器	流域	(變)	A 1 ± γ	流域 3 21K	IV-1層	-	(2.10)	-	4.50	底部 7/8	内面と底面ハタサエ。内面ハケタグリ。薄手のつりで外側施けたげ状に底面	0.1~0.5 mm程の砂粒を含む。細かな凹凸多く含む	測斜系A	163	
862	弥生土器	流域	(變)	A 2 ± β	流域 3 21K	IV-1層	-	(3.00)	-	2.30	底部 完全	タケキ成形後外周ヨコサエ。内面イナダ。底部外周はナダ	粗砂を多く含む	39	163	
863	弥生土器	流域	D 1	流域 3 21K	IV-1層	-	(2.60)	-	2.70	底部 4/5	内面ハケ。内面イナダ。腰部内面ナダ。深い輪状凹	粗砂を多く含む	39	163		
864	弥生土器	流域	D 1	流域 3 41K	IV-1層	-	(3.70)	-	4.50	底部 3/4	タケキ成形後内面ナダ。腰部内面凹面と底面コヨサエ	0.5~2.5 mm程の砂粒を含む	39	164		
865	弥生土器	流域	D 2	流域 3 11K	IV-1層	-	(4.20)	-	5.00	腰部 完全	内面イナダ。腰部内面ナダ	1 mmの小石を少く含む	39	164		
866	弥生土器	流域	D 2	流域 3 21K	IV-1層	-	(3.60)	-	2.90	腰部 7/8	体外表面ハケ。腰台(柱)脚部ナダ。腰台(柱)部外面と内面コヨサエ	7.5~10 mmの石1個。石粉など3 mm以下の大砂多く含む	39	164		
867	弥生土器	腰台	A	流域 3 31K	IV-1層	-	(4.25)	-	(0.33)	腰台 1/2	腰台内面ナダ。腰台内面外周コヨサエ	石粉など4 mm以下の大砂多く含む	39	164		
868	弥生土器	腰台	B	流域 3 11K	IV-1層	-	(4.00)	-	(7.40)	腰部 1/2	腰台内面ナダ。腰台脚部面。内面ヨコサエ。ナダ。腰台内面底面。粘土質目立つ	粗砂を多く含む	39	163		
869	弥生土器	腰台	B	流域 3 21K	IV-1層	-	(3.50)	-	(5.60)	腰部 1/2	腰台内面。腰台脚部内面。腰台脚部内面ハケ。腰台内面上部ナダ加えら	粗砂を多く含む	下單なる くり	163		
870	弥生土器	腰	B	流域 3 21K	IV-1層	(16.30)	4.90	-	-	-	口縁部 内面ハケ	内面ハケで口縁部付コヨナダ。つまみ部分コヨナダ	1 mmの小石と粗砂を多く含む	39	164	
871	弥生土器	腰	B	流域 3 21K	IV-1層	-	(7.15)	-	4.20	底部 2/3	タケキ成形後内面ナダで内面底付コヨナダ。底面ナダ。	5 mmの大石数個。3 mm以下粗砂を多く含む	39	164		
872	弥生土器	腰	A 2	流域 3 21K	IV-1層	(19.30)	(5.60)	-	-	0.70	口縫部 内面内ヨコサエ底付粗砂	内面内ヨコサエ底付粗砂	39	164		
873	弥生土器	腰	A 3 a	流域 3 41K	IV-1層	(24.40)	(3.90)	-	-	1/6	口縫部底面直上1条の凹面。口縫部内面コヨナダ	1~2 mmの砂粒を含む	39	164		
874	弥生土器	腰	A 4	流域 3 11K	IV-1層	(19.30)	(5.70)	-	-	1/8	口縫部底面。口縫部上部内面と口縫部内面にハケの上に細い縦溝が多くなるコヨナダ	粗砂少く含む。細砂を多く含む	出の可逆性あり	39	164	
875	弥生土器	腰	A 6	流域 3 21K	IV-1層	(21.60)	(3.95)	-	-	1/3	口縫部底面。腰部内面ハケ。腰部内面ハケ。腰部内面2条の凹面	3 mmの小石少く含み。赤岩色	岩色 (井波)岩	163		
876	弥生土器	腰	C 1	流域 3 21K	IV-1層	-	(6.35)	-	-	1/8	口縫部上部脚部内面に多條の凹面。口縫部内面2条の凹面と口縫部底面コヨナダ。その他内面内面ハケ	0.5~2 mm程の砂粒をやや多く含む	赤岩色 (井波)岩 A	164		
877	弥生土器	腰	A 7	流域 3 11K	IV-1層	(19.50)	(3.65)	-	-	1/6	脚部 脚部	脚部脚部。脚部底面。底面ハケ。底面内面ハケ。底面内面コヨナダ	1 mmの小石と粗砂を多量に含む	39	164	
878	弥生土器	腰	D 4	流域 3 21K	IV-1層	(12.00)	(11.40)	-	9.70	腰部 脚部 1/3	口縫部内面外面に腰部脚部底面の縫合を嵌ら。腰部内面ハケ工具当たり最も多く。腰部内面ハケ。腰部内面コヨナダ。腰部脚部内面コヨナダ	1 mmの小石と粗砂を多量に含む	39	165		
879	弥生土器	腰	D 2	流域 3 21K	IV-1層	(12.70)	(4.90)	-	-	1/8	脚部 脚部	脚部脚部。脚部内面ハケ。内面ハケ。脚部内面ハケ。脚部内面ハケ	0.5~1 mm程の砂粒を含む	39	165	
880	弥生土器	腰	D 2	脚部	流域 3 21K	IV-1層	-	(8.50)	-	-	脚部 完全	脚部内面ハタマギ。脚部外面ハタマギ。内面ハケ工具当たり最も多く。腰部内面ハケ。腰部内面コヨナダ。腰部内面ハケ	粗砂を多く含む	39	165	
881	弥生土器	腰	D 2	脚部	流域 3 21K	IV-1層	-	(5.10)	-	(8.70)	脚部 1/4	脚部内面ハタマギ。脚部外面ハタマギ。内面ハケ工具当たり最も多く。腰部内面ハケ。腰部内面コヨナダ。腰部内面ハケ	1 mmの小石を少量、粗砂を多く含む	39	165	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)			残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	横幅							
382	衛生土器 ～土器部	鋤台	A	深溝3 2.5K	IV-1層	-	(3.70)	-	(0.80)	鋤部 1/4	鶴嘴端面削面斜状の凹頭。鋤部外側ハフタガキ。 鋤部内面・鋤端部コロナザ	堆積砂を多く含む	39	104	
383	衛生土器 ～土器部	鋤(粗)部 B 1	深溝3 2.5K	IV-1層	-	(3.80)	-	(1.80)	鋤部 1/7	鋤部外側斜状になりきの鋤端部がある。鋤部外面 1/7イタザ。内面ハフタガキ。鋤端部外側コロナザ。	1mm以下小石を少量。 粗砂を多く含む	39	104		
384	衛生土器 ～土器部	鋤	B 3	深溝3 1-2K	Ⅲ層	(16.00)	(6.65)	-	1/8	鋤端部削面斜状分岐し、口縁部内外側コロナザ。鋤部 内面ハフタガキ。内面ハフタガキアズミ	3mm以上以下の砂粒多く含む	39	105		
385	衛生土器 ～土器部	鋤	A 1	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(17.00)	(3.70)	-	1/8	タケキ成形で口縁部突起し斜面。口縁部外側コロナザ 1/8。内面ハフタガキ。	0.5~1.5mm粒の砂粒と小石 を含む	39	105		
386	衛生土器 ～土器部	鋤	A 1	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(16.00)	(6.50)	-	1/8	鋤部 1/8	鋤端部削面にみがきがある面をもつ丸い形状に近似。 の見。鋤端部底面ハフタガキや底面カ 内面ハフタガキ。外側ハフタガキ	0.5~1mm粒の砂粒を含む	39	105	
387	衛生土器 ～土器部	鋤	D 1	深溝3 3.5K	Ⅲ層	(11.90)	(2.50)	(13.80)	1/4	鋤部 1/4	鋤端部削面にみがきがある面をもつ丸い形状に近似。 の見。鋤端部底面ハフタガキや底面カ 内面ハフタガキ。外側ハフタガキ	粗砂を多く含む	39	106	
388	衛生土器 ～土器部	鋤	D 3	深溝3 1-2K	Ⅲ層	(12.70)	(4.10)	-	1/5	鋤端部削面斜状分岐し、口縁部内外側コロナザ。鋤部 内面ハフタガキハフタガキ。内面ハフタガキ	1mm以下以下の砂粒多く含む	39	105		
389	衛生土器 ～土器部	鋤	D 4	深溝3 1-2K	Ⅲ層	(14.80)	(4.00)	-	1/2	鋤端部削面にさざなくみがきの凹頭。鋤部外側 ハフタガキ。鋤端部内側ハフタガキ	1mm以下以下の砂粒多く含む	39	106		
390	土器部	鋤	D 5	深溝3 4.5K	Ⅲ層	(12.00)	(3.60)	-	1/7	鋤端部削面にみがきと差異がある面が前面になら。 口縁部外側ハフタガキコロナザ	0.5~1.5mm粒の砂粒	40	105		
391	衛生土器 ～土器部	鋤	B 6	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(13.00)	(7.70)	(13.25)	1/2	鋤端部削面 1/2	鋤端部削面斜状分岐し、口縁部外側に3角の鋤端部 形成。口縁部内面・体部外側ハフタガキ。体部内面ナゲ 2。	2mm以下の砂粒・赤色粘土 を含む	北近畿系 A	40	106
392	衛生土器 ～土器部	鋤	C 2	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(13.30)	(4.95)	-	1/8	（縁部端部）反し、表面には開削面があり。鋤端部が多く 1/8。内面ハフタガキ・コロナザ。体部内面ハ 内面ハフタガキ	0.5~1.5mm粒の砂粒を含 む	北近畿系 A	40	106	
393	衛生土器 ～土器部	鋤	C 1	深溝3 2-4.5K	Ⅲ層	(13.80)	(5.10)	-	1/9	口縁部内外側削面斜状分岐し、タケキ成形で鋤端 内面ハフタガキ。内面ハフタガキコロナザ。	2mm以下の砂粒・赤色粘土 を含む	北近畿系 A	40	105	
394	衛生土器 ～土器部	鋤	E	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(14.90)	(6.80)	-	1/8	口縁部内外側削面斜状分岐多く人々のコロナザ。鋤部 内面ハフタガキ。内面ハフタガキ	0.5~1.5mm粒の砂粒を多 く含む	山陰系 A	40	105	
395	衛生土器 ～土器部	鋤	G	深溝3 4.5K	Ⅲ層	(13.60)	(5.40)	-	1/4	（縁部端部）反し、表面には開削面があり。鋤端部多く 1/4。内面ハフタガキ・コロナザ。体部内面ハ 内面ハフタガキ	石英・閃長岩から1mm以 下の砂粒含む	古墳系 A	40	105	
396	衛生土器 ～土器部	鋤	I	深溝3 1-2K	Ⅲ層	(12.10)	(26.15)	(15.80)	1/12	（縁部端部）反し、表面ハフタガキ。内面ハフタガキ。タケキ成形後体部 内面ハフタガキ。内面ハフタガキコロナザ。追削 部端部の近い部分は底盤に重ねて置か。鍔などつりで 定存有り。目接合部自立	石英など3mm以下以下の砂粒 を含む	40	106		
397	衛生土器	鋤	II	縫隙3 5.5K	Ⅲ層	(26.20)	(6.30)	-	1/12	口縁部端面に切口を正面にす。口縁部内面から端部付 近外側90°ナギ。口縁部外側タケキ	1mmの小石と粗砂を少 量含む	40	106		
398	衛生土器 ～土器部	鋤	D 1	深溝3 2~4K	Ⅲ層	(13.80)	(2.35)	-	1/8	（縁部端部）反し、表面には開削面あり。鋤端部。口縁部 内面ハフタガキナゲ	4mm以下以下の砂粒多く含む 性あり	器台の可 能性あり	40	106	
399	衛生土器 ～土器部	鋤	D 2	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(14.00)	(2.75)	-	1/8	（縁部端部）上方向にまみ上げる。外曲面方向のイ タナザ。	1mm以下小石と砂粒多量に 含む	40	106		
400	衛生土器 ～土器部	鋤	D 1	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(1.60)	-	1/8	（縁部端部）外側削面斜状底盤状底と端面下に開削面施 工有り。ヨコナザ調和。上端1層削除	器台の可 能性あり	40	106		
401	衛生土器 ～土器部	鋤	B 1	深溝3 2~4.5K	Ⅲ層	(15.70)	(5.45)	-	1/8	（縁部端部）内面に3角の鋤端部が多く人々のコロナザ 2角。無頭部ハフタガキ。粗砂剥離・削離	3mm以下の砂粒・赤色粘土 を含む	北近畿系 A	40	107	
402	衛生土器 ～土器部	鋤	C 2	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(13.90)	(5.40)	-	1/5	（縁部端部）内面にコロナザによる凹頭より。口縁部内 外側コロナザ。端面内面コロナザ。外側不規 則面	0.5~1.5mm粒の砂粒を含む 性あり	岐阜系 A	40	106	
403	衛生土器 ～土器部	鋤	E 2	深溝3 5.5K	Ⅲ層	(15.20)	(8.30)	-	1/3	（縁部端部）内面底盤状底と端面下に開削面施 工有り。ヨコナザ調和。上端1層削除	1mmの小石と粗砂を多 量に含む	40	106		
404	衛生土器 ～土器部	鋤	F	深溝3 2.5K	Ⅲ層	(14.40)	(6.05)	-	1/3	（縁部端部）内面に3角の鋤端部多く人々のコロナザ 2角。無頭部ハフタガキ。粗砂剥離・削離	4mm以下の砂粒・赤色粘土 を含む	高岡の可 能性あり	40	107	
405	衛生土器 ～土器部	鋤	G	深溝3 2~4K	Ⅲ層	(15.20)	(3.60)	-	1/8	（縁部端部）内面にコロナザによる凹頭より。口縁部内 外側コロナザ	3mm以下の砂粒含む	40	107		
406	衛生土器 ～土器部	鋤	H	深溝3 5.5K	Ⅲ層	-	2.30	-	1/3	（縁部端部）内面底盤状底。鍔5.5cm孔を南北中央 に穿つ。	1mm以下小石を少量。粗砂を 多く含む	40	107		
407	衛生土器 ～土器部	鋤	H	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(4.25)	-	2.30	（縁部端部）内面底盤状底。鍔5.5cm孔を南北中央 に穿つ。	0.5~1.5mm粒の砂粒を含 む	40	107		
408	衛生土器 ～土器部	鋤	A 2~a	深溝3 5.5K	Ⅲ層	-	(3.70)	-	4/5	（縁部端部）内面底盤状底外側ビオサス。内面ハフタガキを標準 配置有り。表面無頭部	堆積砂と粗砂を多く含む	40	107		
409	衛生土器 ～土器部	鋤	A 2~a	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(3.60)	-	3.40	（縁部端部）内面ハフタガキ内イタナザ	0.5~2mm粒の砂粒を含む	40	107		
410	衛生土器 ～土器部	鋤	A 1~a	深溝3 5.5K	Ⅲ層	-	(4.10)	-	5.15	（縁部端部）内面底盤状外側イタナザで底盤外周と底面に再度 タケキ施す。内面多方向イタナザ	1~2mmの小石と粗砂を多 量に含む	40	107		
411	衛生土器 ～土器部	鋤	A 1~a	深溝3 5.5K	Ⅲ層	-	(5.40)	-	5.55	（縁部端部）内面底盤状外側タケキ施す。底盤 ノーブルナット上端に打だしが内部が黒化する。	1mmの小石と粗砂を多 量に含む	40	107		
412	衛生土器 ～土器部	鋤	H 1	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(3.80)	-	2.90	（縁部端部）内面底盤状外側タケキハフタガキ。内面コビオサ ス。1段に複数有り。表面無頭部	粗砂と細砂を多く含む	40	107		
413	衛生土器 ～土器部	鋤	C 1	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(3.70)	-	6.90	（縁部端部）内面底盤状外側タケキハフタガキ。内面コビオサ ス。1段に複数有り。表面無頭部	赤色粘土と粗砂を含む	40	107		
414	衛生土器 ～土器部	鋤	A 2~a	深溝3 5.5K	Ⅲ層	-	(5.20)	-	4.95	（縁部端部）内面底盤状外側タケキハフタガキ。内面ハフタガキを標準 配置有り。表面無頭部	堆積砂少量。粗砂を多く含む	40	107		
415	衛生土器 ～土器部	鋤	A 2~a	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(3.30)	-	3.30	（縁部端部）内面ハフタガキ。内面ナゲコロナザ。底盤外側コロナザ。中 央上端に打だしが底盤ナット	0.5~2mm粒の砂粒を含む	40	108		
416	衛生土器 ～土器部	鋤	D 1	深溝3 4.5K	Ⅲ層	-	(3.30)	-	3.75	（縁部端部）内面ハフタガキ。底盤外側面コロナザ。二 次被覆状内面ハフタガキ。底盤外側面一走筋を有する	石英など2mm以下以下の砂粒 を含む	40	108		
417	衛生土器 ～土器部	鋤	D 1	深溝3 2.5K	Ⅲ層	-	(3.60)	-	5.00	（縁部端部）内面ハフタガキ。内面コビオサ ス。1段に複数有り	1~2mm粒の砂粒を多く含む	器台の可 能性あり	40	108	
418	衛生土器 ～土器部	鋤	D 2	深溝3 5.5K	Ⅲ層	-	(4.25)	-	3.60	（縁部端部）内面ハフタガキ。内面ナゲコロナザ。底盤外側面コロナザ	粗砂を多く含む	40	108		

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)			残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	横幅							
919	弥生土器 ～土師器	輪台	B	圓筒3 4孔	壁面	-	(4.20)	-	(6.90)	輪台部 台面に底面ハケ、体部外裏と輪台部外側面ナガ。輪 台部内面に底面ナガ、内面に凹溝。	I mm以下の中砂含む	40	108		
929	弥生土器 ～土師器	環状	D 2	圓筒3 5孔	壁面	(11.50)	(7.05)	-	-	口縁部 外側面ナガ、輪台部外側面ナガ。輪 台部内面ナガ。	複数孔を多く含む	40	108		
931	弥生土器 ～土師器	環状	B	圓筒3 2～4孔	壁面	-	(6.60)	-	-	輪台部 内面底面ナガ、輪台部外側面ナガ。輪 台部内面ハケ。	3mm以下の砂粒・赤色粘土 の輪郭含む	40	108		
932	弥生土器 ～土師器	輪台	G 2	圓筒3 5孔	壁面	(10.50)	(2.50)	-	-	口縁部 1/4	露表層により調整不規、内面赤褐色呈する	粗粒・赤色粘土を少量含む	40	108	
933	弥生土器 ～土師器	輪台	B	圓筒3 2孔	壁面	-	(7.80)	-	(11.20)	輪部 外側面ナガ、輪台部外側面ナガ。輪 部内面1cm円周孔を2方向に穿つ	0.5～1mm程の砂を含む	40	108		
934	弥生土器 ～土師器	輪台	B	圓筒3 1～4孔	壁面	-	(5.10)	-	11.65	輪台部 内面底面ナガ、輪台部外側面ナガ。輪 部内面ハケ。	露表層より1mmの円周孔を4方向に穿	露表層より1mm以下の砂粒 多く含む	41	108	
935	弥生土器 ～土師器	輪台	A	圓筒3 2～4孔	壁面	-	4.30	-	(10.40)	輪部 外側面ナガ、輪台部外側面ナガ。輪 部内面コナガ。	2mm以下の砂粒含む	41	109		
936	弥生土器 ～土師器	環状	B	圓筒3 2～4孔	壁面	-	(8.90)	-	-	輪部外側面ナガ、輪台部外側面ナガ。輪 部内面コナガ。輪台部外側面ナガ。輪 部内面コナガ。輪台部外側面ナガ。	2 mm以下の砂粒・赤色粘土 含む	41	109		
937	弥生土器 ～土師器	袋	D 2	圓筒3 4孔	壁面	(10.70)	(2.80)	-	-	口縁部 1/8	端面を下に少し肥厚させる(輪部)、内面とも都 合的削除、輪底に上調整不規	I mm以下の中砂含む	41	108	
938	弥生土器 ～土師器	袋	B 2	圓筒3 2孔	II-3層	(14.45)	(3.30)	-	-	口縁部 1/5	口縁部前面に底面凹溝2条。ロ縁部外側面コナガ。 輪部内面コナガ。	粗砂を少含む	41	109	
939	弥生土器 ～土師器	袋	B 1	圓筒3 2孔	II-3層	(15.70)	(3.50)	-	-	口縁部 1/6	口縁部内面コナガ。輪部前面に底面凹溝2条。輪 部内面コナガ。	輪底を少含む	41	109	
940	弥生土器 ～土師器	袋	B 1	圓筒3 2孔	II-3層	(14.30)	(5.85)	(14.00)	-	口縁部 1/8	タキ成形で口縁部にカミツギ加える。輪 部内面コナガ。輪台部内面コナガ。	2 mm以下の砂粒含む	41	109	
941	弥生土器 ～土師器	袋	A 1	圓筒3 2孔	II-3層	(13.00)	(4.70)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。ロ縁部外側面コナガ。	3mm以下石粒・複数孔多く含む	41	109	
942	弥生土器 ～土師器	袋	A 1	圓筒3 2孔	II-3層	(13.80)	(5.10)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部外側面ハコ2孔。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	3mm以下の砂粒含む	41	109	
943	弥生土器 ～土師器	袋	A 1	圓筒3 2孔	II-3層	(14.60)	(4.70)	-	-	口縁部 1/7	タキ成形で輪部外側面コナガ。内面ハケアリ。 ロ縁部1孔。ロ縁部外側面コナガ。	砂少・繊維砂を多く含む	41	109	
944	弥生土器 ～土師器	袋	D 3	圓筒3 2孔	II-3層	(14.90)	(2.70)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。ロ縁部外側面コナガ。 輪部内面コナガ。内面ハケアリ。	石英など1mm以下の中砂 含む	41	109	
945	弥生土器 ～土師器	袋	D 1	圓筒3 2孔	II-3層	(17.00)	(2.45)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	2mm以下の砂粒含む	41	109	
946	弥生土器 ～土師器	袋	D 3	圓筒3 2孔	II-3層	(16.00)	(3.30)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面ハコ2孔。内面ハケアリ。	繊維砂を多く含む	41	109	
947	土師器	袋	D 5	圓筒3 4孔	II-3層	(13.80)	(7.50)	-	-	口縁部 1/2	タキ成形で輪部内面コナガ。輪部外側面コナガ。 輪部内面コナガ。内面ハケアリ。	繊維砂を多く含む	41	110	
948	弥生土器 ～土師器	袋	B 2	圓筒3 5孔	II-3層	(11.30)	(3.70)	-	-	口縁部 1/5	タキ成形で輪部内面コナガ。ロ縁部内面コナガ。 輪部内面コナガ。	1mmの小石と粗砂を多く含む	41	110	
949	弥生土器 ～土師器	袋	B 6	圓筒3 2孔	II-3層	(15.85)	(5.15)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。タカキ成形で輪部内面ビスピ サチ+コナガ。ロ縁部内面コナガ。	粗砂を少含む	41	110	
950	弥生土器 ～土師器	袋	C 2	圓筒3 1孔	II-3層	(12.70)	(7.00)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 ロ縁部1孔。輪部内面ハケアリ。内面に崩れ	3mm大石と粗砂を多く含む	41	110	
951	弥生土器 ～土師器	袋	C 3	圓筒3 5孔	II-3層	(11.40)	(3.60)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	北近畿系 A	41	110	
952	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(15.45)	(6.30)	-	-	口縁部 1/3	タキ成形で輪部内面コナガ。輪部外側面ハコ2孔。 内面ハケアリ。	2mm以下の砂粒・赤色粘土 含む	山陰系 A	41	111
953	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(15.50)	(5.40)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面ハコ2孔。内面ハケアリ。	3mm以上の砂粒多く含む	山陰系 A	41	110
954	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(15.90)	(4.85)	-	-	口縁部 1/5	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	2mmの右2個と0.5mm大 以下の砂粒含む	山陰系 A	41	110
955	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(14.80)	(4.90)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	1mmの小石と粗砂を多く含む	山陰系 A	41	110
956	弥生土器 ～土師器	袋	C 2	圓筒3 2孔	II-3層	(11.80)	(7.00)	-	-	口縁部 1/7	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	繊維砂を少し含む	41	110	
957	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(15.50)	(5.40)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	3mm以上の砂粒多く含む	山陰系 A	41	110
958	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(15.90)	(4.85)	-	-	口縁部 1/5	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	1mmの右2個と0.5mm大 以下の砂粒含む	山陰系 A	41	110
959	弥生土器 ～土師器	袋	E	圓筒3 2孔	II-3層	(14.80)	(4.90)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部内面コナガ。	1mmの右2個と0.5mm大 以下の砂粒含む	山陰系 A	41	110
960	弥生土器 ～土師器	袋	D 3	圓筒3 2～4孔	II-3層	(15.30)	(4.80)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	繊維砂を少し含む	41	110	
961	弥生土器 ～土師器	袋	D 2	圓筒3 5孔	II-3層	(17.00)	(2.70)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	1mmの小石と粗砂を多く含む	769-927と 同一削除	41	110
962	弥生土器 ～土師器	袋	A 2	圓筒3 2孔	II-3層	(21.20)	(5.10)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	3mm以下の砂粒含む	北近畿系 B	41	110
963	弥生土器 ～土師器	袋	A 1'	圓筒3 2孔	II-3層	(13.10)	(20.15)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	0.5～1.5mmの砂粒を多く含む	41	111	
964	弥生土器 ～土師器	袋	A 2'	圓筒3 5孔	II-3層	(17.00)	(2.70)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	粗砂を多く含む	41	111	
965	弥生土器 ～土師器	袋	A 2'	圓筒3 2孔	II-3層	(21.20)	(5.10)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	0.5～2mmの砂粒を多く含む	41	111	
966	弥生土器 ～土師器	袋	A 3'	圓筒3 2孔	II-3層	(15.60)	(7.10)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	0.5～1.5mmの砂粒を多く含む	東四国系	42	111
967	弥生土器 ～土師器	袋	A 3'	圓筒3 5孔	II-3層	(16.60)	(5.00)	-	-	小片	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	粗砂を多く含む	41	111	
968	弥生土器 ～土師器	袋	B 4	圓筒3 2～4孔	II-3層	(17.80)	(8.60)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	0.5～2mmの砂粒を多く含む	北近畿系 A	42	111
969	弥生土器 ～土師器	袋	B 3	圓筒3 2孔	II-3層	(15.60)	(7.10)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	0.5～1.5mmの砂粒を少含む	41	111	
970	弥生土器 ～土師器	袋	B 2	圓筒3 2孔	II-3層	(18.50)	(11.70)	-	-	口縁部 1/8	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	3mm以下の石粉少、粗砂を多く含む	北近畿系 A	42	111
971	弥生土器 ～土師器	袋	B 2	圓筒3 5孔	II-3層	(16.70)	(2.70)	-	-	口縁部 1/7	タキ成形で輪部内面コナガ。内面ハケアリ。 輪部外側面コナガ。	0.5～1.5mmの砂粒を多く含む	41	111	

番号	種別	種類	難型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
956	野生土器 ～土器部	磁	D 3	3区	II-3層	(19.20)	(5.20)	-	-	口縁部外表面に側脚部に沿った細い条溝が多く入るヨコナダ。口部内面裏ヨコナダ。底部外表面タフカヘヨコナダ。底部内面タフカヘヨコナダ。	口縁部外表面に側脚部に沿った細い条溝が多く入るヨコナダ。口部内面裏ヨコナダ。底部外表面タフカヘヨコナダ。底部内面タフカヘヨコナダ。	1~2mmの小石と粗砂、赤色鉄を多量に含む	北近畿系 A	42	111
957	野生土器 ～土器部	磁	H	泥窓3 5区	II-3層	9.00	18.00	(16.20)	4.00	口縁部外表面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	口縁部外表面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	42	111	
958	野生土器 ～土器部	林	G	2~4区	II-3層	(19.50)	(5.20)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	口縁部外表面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	0.5~2mmの砂粒を多く含む	939と同一 個体	42	112
959	野生土器 ～土器部	林	G	2~4区	II-3層	(18.70)	(5.20)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	口縁部外表面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	粗砂少々。細砂を多く含む	939と同一 個体	42	111
960	野生土器 ～土器部	林	A 2+B, Cの 口縁部	泥窓3 2区	II-3層	(13.95)	(4.45)	-	-	口縁部タクシ成形外表面荒落き。内面上半ヨコナダ。下半ヨコナダ。	口縁部タクシ成形外表面荒落き。内面上半ヨコナダ。下半ヨコナダ。	粗砂を多く含む	42	111	
961	野生土器 ～土器部	林	A 2s	2区	II-3層	(11.30)	5.40	-	(2.95)	口縁部1/4	口縁部端不整然。タクシ成形で内面ハケ。	粗砂を少量含む	42	112	
962	野生土器 ～土器部	林	A 4	泥窓3 2区	II-3層	(8.60)	5.50	-	3.00	口縁部1/2	口縁部端不整然。外表面凹凸不規。内面ハラミガキ。内面端と底部外表面ヨコナダ。底面中央膨らむ。	粗砂と概ね同量の砂を多く含む	42	112	
963	野生土器 ～土器部	林	E 1	泥窓3 2区	II-3層	(11.40)	(6.30)	-	(4.70)	口縁部端	口縁部端内面ヨコナダ。底部外表面ナダ。	2mm以下の砂粒多く含む。赤色粘子含む	42	112	
964	野生土器 ～土器部	製塗場	-	泥窓3 1区	II-3層	(9.10)	(3.50)	-	-	口縁部1/8	口縁部端調整。タクシ成形で外表面ナダ。内面ハケ。出筋が付く。出筋が付く。不整然つくり。	0.5mm以下の石粒微細含む	二式被焼 認められない	42	111
965	野生土器 ～土器部	製塗場	-	泥窓3 2区	II-3層	(8.00)	(4.40)	(9.40)	-	口縁部1/4	口縁部端外表面ヨコナダ。体部外表面不整調。内面ナダ。外表面端凹凸。	3mm以下の砂粒含む	二式被焼 認められない	42	111
966	野生土器 ～土器部	製塗場 等	聯合部	泥窓3 2区	II-3層	-	(6.80)	-	2.40	底部外表面	底部端部。体部タクシ成形で内面ナダ。支脚部外表面ナダ。ユビオサム。二次被焼認められない。	粗砂を多く含む	西面断面 内面被塗 土器端	42	112
967	野生土器 ～土器部	有孔 林	B	泥窓3 1区	II-3層	-	(3.50)	-	3.45	底部外表面	タクシ成形で内面ナダ。底面中央に長筋約5mmの穿孔。孔上部は斜面状に削り出た。外面上に黒斑。	2mm以下の大粒含む	42	112	
968	野生土器 ～土器部	有孔 林	C	泥窓3 2区	II-3層	-	(3.45)	-	2.75	底部外表面	タクシ成形で内面ナダ。底面からかんざしちれた柱状に横筋約3mmの穿孔。内面に黒斑。	3mm以下の大粒含む	42	112	
969	野生土器 ～土器部	有孔 林	D	泥窓3 2区	II-3層	-	(6.05)	-	2.90	底部外表面	タクシ成形で内面ナダ。底面に横筋約5mmの穿孔。孔上部は斜面状に削り出た。外面上に黒斑。	3mm以下の大粒含む	42	112	
970	野生土器	磁	底盤	泥窓3 2区	II-3層	-	(4.60)	-	(9.10)	1/4	底部外表面ヘラミガキ。内面ナダヘラミカズリ。内面表面	粗砂を多く含む	42	112	
971	野生土器 ～土器部	(追加)	A 2 b a	泥窓3 2区	II-3層	-	(5.30)	-	5.65	底部外表面	体部タクシ成形後外表面ヘラミガキナダ。内面ナダ。外表面ヨコナダ。底部外表面ビニエ。	0.5~2mmの砂粒を含む	42	112	
972	野生土器 ～土器部	(追加) ～土器部	A 2 a a	泥窓3 2区	II-3層	-	(5.10)	-	5.50	底部外表面	タクシ成形後外表面ナダ。底面にもタクシか。内外面黒斑あり。	1mm以下の石粒少々。細砂を多量に含む。角閃石微細含む	42	112	
973	野生土器 ～土器部	(追加) ～土器部	A 2 a a	泥窓3 2~4区	II-3層	-	(3.90)	-	4.95	底部外表面	タクシ成形後外表面ナダ。外表面黒斑あり。内面全端黒斑。	0.5~2mmの砂粒を含む	42	112	
974	野生土器 ～土器部	(追加) ～土器部	A 1 x β1	泥窓3 2区	II-3層	-	(8.00)	-	6.80	底部外表面	タクシ成形後内面ハナベ加えある。外表面黒斑あり。内面全端黒斑。	0.5~1.5mmの砂粒を含む	42	112	
975	野生土器 ～土器部	(追加) ～土器部	B 1	泥窓3 3区	II-3層	-	(3.10)	-	2.75	底部外表面	タクシ成形後内面ナダ。底面にもタクシか。内外面黒斑。	1~2mmの小石と粗砂を多量に含む。角閃石微細含む	林と思ひ れる	42	112
976	野生土器 ～土器部	(追加) ～土器部	B 1	泥窓3 2区	II-3層	-	(3.50)	-	2.20	底部外表面	タクシ成形後外表面ナダ。内面ハラミカズリ。底面に黒斑あり。	2mm以下の砂粒含む	42	112	
977	野生土器 ～土器部	(追加) ～土器部	B 2	泥窓3 3区	II-3層	-	(4.00)	-	1.30	底部外表面	底延。タクシ成形後内面ハナベ。内面ハラミカズリ。底部外表面に黒斑あり。	5mmの大粒1個。粗砂少々含む	42	112	
978	野生土器 ～土器部	(追加)	C 2	泥窓3 2~4区	II-3層	-	(8.10)	-	-	底部外表面	タクシ成形。内面表面研磨。底部外表面ヨコオサム。内面表面ヨコオサム。	0.5~2.5mmの砂粒。角閃石含む	講岐系 A	42	113
979	野生土器 ～土器部	(追加)	A 2 b β1	泥窓3 2区	II-3層	-	(4.55)	-	(5.20)	底部外表面	タクシ成形後内面ヘラミガキ。内面ナダ。ジーナフ。内面表面ヨコオサム。	8mmの石1個。2mmの大粒。粗砂少々含む	42	112	
980	野生土器 ～土器部	(追加)	A 2 a β2	泥窓3 1区	II-3層	-	(3.30)	-	4.30	底部外表面	タクシ成形後内面ヨコオサム。底部外表面ヨコオサム。中央部が壊れ上げ底延。	粗砂と細砂を多く含む	42	113	
981	野生土器 ～土器部	底盤	D 1 "	泥窓3 2区	II-3層	-	(3.50)	-	3.90	底部外表面	体部外表面ハラミカズリ。内面ヘラミガキ。底部開閉部内面ヨコオサム。内面ヘラミカズリ。底部外表面ヨコオサム。内面ヨコナダ。	2mm以下右方に粗砂を多く含む。林と思ひ れる	42	112	
982	野生土器 ～土器部	底盤	泥窓	泥窓3 2区	II-3層	-	(11.15)	-	-	底部外表面	内面ヨコナダ。内面ハラミカズリ。底部外表面ヨコナダ。内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	1.5mm以下の大粒。粗砂含む	底盤B	42	113
983	野生土器 ～土器部	底盤	泥窓	泥窓3 2区	II-3層	-	(10.30)	-	-	脚柱部 底部外表面	脚柱部内面ヨコナダ。脚柱部内面ヘラミガキ。内面ナダ。	3mm以下右方に粗砂を多く含む。赤色粘子含む	42	114	
984	野生土器 ～土器部	底盤	泥窓	泥窓3 2区	II-3層	-	(8.40)	-	-	脚柱部 底部外表面	脚柱部内面ヨコナダ。脚柱部内面ヘラミガキ。内面ナダ。	石英など7mm以下の大粒。粗砂多々含む	43	114	
985	野生土器 ～土器部	脚柱	A 1 b	泥窓3 2区	II-3層	(15.60)	(3.10)	-	-	口縁部外表面	口縁部外表面ヨコナダ。	5mm以下D下部の右方に粗砂を含む	43	114	
986	野生土器 ～土器部	脚柱	A 3	泥窓3 2区	II-3層	(19.30)	(4.20)	-	-	口縁部外表面	口縁部外表面ヨコナダ。内面ナダ。	5mm以下D下部の右方に粗砂を多く含む	北近畿系 A	43	114
987	野生土器 ～土器部	脚柱	泥窓3 2~4区	II-3層	-	(8.50)	-	-	-	脚柱部	受部内面ヨコナダヘラミガキ。内面ヘラミガキ。	0.5~2mmの砂粒を多く含む	43	114	
988	野生土器 ～土器部	脚柱	泥窓	泥窓3 2区	II-3層	-	(8.40)	-	-	脚柱部	受部外表面ヨコナダヘラミガキ。内面ヘラミガキ。	0.5~2mmの砂粒を多く含む	43	114	
989	野生土器 ～土器部	脚柱	G 1	泥窓3 2区	II-3層	(8.90)	(2.10)	-	-	口縁部	口縁部端内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	1mm以下の砂粒含む。角閃石微細含む	43	114	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	高さ	幅員	底深						
990	衛生土管	管台	脚部	流路3	II-3層	-	(8.25)	-	(11.20)	1/4	脚部外側ターキング、内面リサイラ、約1.0mの透込3方向。外面に増色スリップ施設	粗砂を少量含む	昭和G1・G2の段	43	114
991	衛生土管	脚部	B1	流路3	II-3層	-	(4.50)	-	(16.80)	1/7	脚部外側ターキング、内面ハケ面、内面・脚部底ヨコナダ、外面ターキング	粗砂少額、粗砂を含む		43	114
992	衛生土管	脚部	壁土置か	流路3	II-3層	-	(7.00)	-	-	脚部 脚部 脚部	外面土面方向。下部廻り方向のハケ後流跡部分の貼付とヨコナダ。内面リヨカハ	粗砂を多量に含み、赤色粒含む	地盤に 地盤に 地盤に	43	114
993	衛生土管	壁	B2	流路3	II-3層	(17.40)	(3.00)	-	-	脚部 脚部 脚部	脚部外側ターキング、内面リヨカハ。脚部外側面ナジテ。他の部分は表面剥離のみあり	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	43	115	
994	衛生土管	壁	B2	流路3	II-3層	(16.20)	(3.30)	-	-	脚部 脚部 脚部	脚部外側面ヨコナダの傾斜あり。脚部外側面ヨコナダ、内面ヨコナダヘタリターキング	粗砂を少額含む	43	115	
995	衛生土管	壁	B3	流路3	II-2層	(19.00)	(2.60)	-	-	脚部 脚部 脚部	脚部外側面ヨコナダ。ヨコナダ外側ヨコナダ	2mm以下の砂粘土が多量に含む	地盤に 地盤に 地盤に	43	115
996	衛生土管	壁	B1	流路3	II-2層	(14.70)	(3.05)	-	-	脚部 脚部 脚部	脚部外側面2条の凹窓。ヨコナダ外側ヨコナダ。脚部外側面ヨコナダ、内面足場用ターキング	2mm以下砂粘土が含む	43	115	
997	衛生土管	壁	B1	流路3	II-2層	(18.80)	(2.50)	-	-	脚部 脚部 脚部	脚部外側面ヨコナダ。脚部には剥離が多く入り。外側に複数の付着	2mmの小石、2mm以下砂粘土が含む	43	115	
998	衛生土管	壁	B1	流路3	II-2層	(13.95)	(3.50)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ成形ヨコナダ各面へ開口ヨコハク状の隙間。ヨコナダ内面ヨコナダ	3mm以下の砂粘土が含む	43	115	
999	衛生土管	壁	B4	流路3	II-2層	(21.30)	(4.50)	-	-	脚部 脚部 脚部	脚部表面凹凸。背筋横断のため調節不規。ヨコナダ外側面・脚部内面ヨコナダ	0.5~3mmの砂粘土を多く含む。赤色粒含む	43	115	
1000	衛生土管	壁	B2	流路3	II-2層	(17.70)	(3.10)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ外側面ヨコナダ2条。踏面が削減のため調整不規。ヨコナダ内面ヨコナダ	地盤に外れの可能性あり	43	115	
1001	衛生土管	壁	B5	流路3	II-2層	(15.25)	(7.05)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ外側面ヨコナダ。タキシドリ剥離内面ハケ剥離ナジテ。ヨコナダ内面ヨコナダ	赤色に近い色調	43	115	
1002	衛生土管	壁	B7	流路3	II-2層	(29.80)	(3.40)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ内面剥離ナジテ。ヨコナダ外側ヨコナダ。ヨコナダ凹凸。剥離ナジタケ形成	粗砂へ細砂を多く含む	43	115	
1003	衛生土管	壁	B5	流路3	II-2層	(13.90)	(3.70)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ表面の凹凸。タキシドリヨコナダ出し。凹凸。内面各方向にターキング。ヨコナダ外側面ヨコナダ。ヨコナダ外部に小さな凹	4mm以下砂粘土が含む	43	115	
1004	衛生土管	壁	A3	流路3	II-2層	(13.30)	(3.55)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ内面ヨコナダは剥離が多くなるヨコナダ。剥離ナジテ。内面調整不明	4mm以下砂粘土が含む	43	115	
1005	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(12.10)	(3.80)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形ヨコナダ。ヨコナダ外側面ヨコナダ	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	43	115	
1006	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(14.30)	(3.50)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ内面ヨコナダによる調節不規	0.5~1mmの砂粘土を多く含む	43	115	
1007	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(5.60)	-	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ内面ヨコナダ。肩部外観強度。内面右方ヨコナダヘタリ。外側に付着物	粗砂を多く含む	43	115	
1008	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(12.00)	(6.75)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ内面ヨコナダは剥離が多くなるヨコナダ。剥離ナジテ。	2mm以下砂粘土が含む	43	115	
1009	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(15.60)	(3.70)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形ヨコナダ。ヨコナダ外側面ヨコナダ。外面保護材	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	43	115	
1010	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(15.60)	(2.40)	-	-	脚部 脚部 脚部	ヨコナダ内面ヨコナダは剥離が多くなる。背面接着材	1mmの小石と粗砂を多量に含む	43	115	
1011	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(14.30)	(6.50)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形ヨコナダ。ヨコナダ内面ヨコナダ	石粉など3mm以上砂の砂粘土多量に含む	43	115	
1012	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(16.00)	(5.30)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリは剥離し出し技術。肩部外側面にハケ加え。ヨコナダ内面ヨコナダでヨコナダ外側面に織り剥離が多く入り。内面剥離・剥離剝離	0.5~3mmの砂粘土を多く含む	43	115	
1013	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(14.80)	(4.05)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形肩部外側面ヨコナダ。ヨコナダ内面ヨコナダは剥離が多くなるヨコナダヨコナダ	6mm以下砂粘土が含む	43	115	
1014	衛生土管	壁	A3	流路3	II-2層	(14.90)	(4.10)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形肩部外側面ハケ。内面右方向ハタケナジテ。	1mm以下の砂粘土が含む	43	115	
1015	衛生土管	壁	A3	流路3	II-2層	(16.20)	(7.50)	(14.50)	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形体部外側面ナジテ。内面ハケ。ヨコナダ内面ヨコナダヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工	5mmの砂粘土。2mm以下砂粘土が含む	43	115	
1016	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(13.60)	(3.90)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形肩部外側面ハケ。内面左方向ハタケナジテ。	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	44	115	
1017	衛生土管	壁	A4	流路3	II-2層	(16.20)	(4.30)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形外側面ハケ。内面ハケナジテ。外側に保護材	2mm以下砂粘土が含む	44	115	
1018	衛生土管	壁	A4	流路3	II-2層	(12.55)	(7.65)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形体部外側面ナジテ。内面ヨコナダ。内面ハケ。ヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工	2mm以下の砂粘土、赤色粒含む	44	116	
1019	衛生土管	壁	A1	流路3	II-2層	(15.95)	(4.55)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形肩部外側面ナジテ。内面充填。ヨコナダ内面ヨコナダ外側面ヨコナダ。外側は剥離・剥離剝離が多くの入り	2mm以下の砂粘土が含む	44	116	
1020	衛生土管	壁	I	流路3	1~4層	(12.00)	(5.55)	-	-	ヨコナダ ヨコナダ ヨコナダ	タキシドリ成形外側面ナジテ。内面ヨコナダ。内面剥離・剥離剝離が多くの入り	石粉など2mm以下砂粘土が含む	44	116	
1021	衛生土管	壁	A2	流路3	II-2層	(15.60)	(4.05)	-	-	脚部 脚部 脚部	タキシドリ成形ヨコナダ。内面充填。ヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工	2mm以下の砂粘土が含む	44	116	
1022	衛生土管	壁	A2	流路3	II-2層	(14.20)	(4.15)	-	-	ヨコナダ ヨコナダ ヨコナダ	タキシドリ成形ヨコナダ。内面充填。ヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工する縫隙がある人を入れ	2mm以下の砂粘土が含む	44	116	
1023	衛生土管	壁	A2	流路3	II-2層	(11.00)	(6.05)	-	-	ヨコナダ ヨコナダ ヨコナダ	タキシドリ成形ヨコナダ。内面充填。ヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工	2mm以下の砂粘土、赤色粒含む	44	116	
1024	衛生土管	壁	D2	流路3	II-2層	(14.30)	(4.75)	-	-	ヨコナダ ヨコナダ ヨコナダ	ヨコナダ外側面ヨコナダタキシドリ充填。内面右方向ハタケナジテ。ヨコナダ内面ヨコナダヨコナダ内側に施工	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	地盤に 地盤に 地盤に	44	116
1025	衛生土管	壁	D6	流路3	II-2層	(14.90)	(3.45)	-	-	ヨコナダ ヨコナダ	ヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工する縫隙がある人を入れ	石粉など0.5~1mmの砂粘土を多く含む	44	116	
1026	衛生土管	壁	D3	流路3	II-2層	(14.60)	(3.30)	-	-	ヨコナダ ヨコナダ	ヨコナダ外側面ヨコナダタキシドリ充填。内面ハケ。ヨコナダ内面ヨコナダ内側に施工する縫隙がある人を入れ	粗砂を多量に含む	44	116	
1027	衛生土管	壁	D2	流路3	II-2層	(15.00)	(3.00)	(21.40)	-	ヨコナダ ヨコナダ	ヨコナダタキシドリ成形ヨコナダヨコナダ内側に施工する縫隙がある人を入れ	粗砂を多量に含む	44	120	

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				堆存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	高さ	幅員	底深						
1028	新生土 ～土壌部	発	D 1	深路3 1.2K	II-2層	(16.70)	(3.60)	-	-	0.5m級 1/8	横壁内面下端～斜面外側斜面タク付れ。斜面内 面～タクタリ。口縁部外側面ヨコナダで内面ヨコ ハウタリ。斜面外側に傾・通溝がある。外面に保付垂 れ。	堆積砂を多く含む	44	116	
1029	新生土 ～土壌部	発	D 2	深路3 4.1K	II-2層	(14.20)	(2.85)	-	-	0.5m級 1/4	横壁部内面は直面。口縁部外側面ヨコナダが、蓋 面に付る。	0.5m級の砂粘を多く含む	44	116	
1030	新生土 ～土壌部	発	D 2	深路3 1.1K	II-2層	(14.40)	(4.90)	-	-	0.5m級 1/4	斜面外側斜面タク。内面ヨコナダで口縁部外側面は直面。口縁部 外側面ヨコナダで口縁部外側面は直面。口縁部外側 面ヨコナダで口縁部外側面は直面。口縁部外側面 ヨコナダで口縁部外側面は直面。	粗砂を多量に含む	44	116	
1031	新生土 ～土壌部	発	D 2	深路3 1.1K	II-2層	(16.40)	(3.65)	-	-	0.5m級 1/4	横壁タクが口縁部から出し技抜。斜面内面右方 向～タクタリ。口縁部外側面ヨコナダで内面ヨコ ハウタリ後に付る。口縁部外側面ヨコナダ。	2m以下下の砂粘・石砂等多く含む	44	116	
1032	新生土 ～土壌部	発	D 4	深路3 4.1K	II-2層	(13.30)	(3.20)	-	-	0.5m級 1/5	斜面外側斜面タク。内面右方～タクタリ。口縁部 外側面ヨコナダ。口縁部外側面は少しづつ 削除。	粗砂を含む	44	116	
1033	新生土 ～土壌部	発	D 2	深路3 4.1K	II-2層	(16.10)	(3.45)	-	-	0.5m級 1/8	斜面外側斜面タク。内面右方～タクタリ。口縁部 外側面ヨコナダ。口縁部外側面は少しづつ削除。 内面ヨコナダ。	1mm以下の砂粘含む	44	116	
1034	新生土 ～土壌部	発	D 4	深路3 1.1K	II-2層	(15.70)	(6.50)	-	-	0.5m級 1/4	斜面内面ヨコナダで斜面内面右方～タクタリ。口 縁部外側面ヨコナダ。斜面内面ヨコナダが右側 面に付る。	0.5～1mmの砂粘を含む	44	116	
1035	新生土 ～土壌部	発	D 4	深路3 4.1K	II-2層	(14.30)	(4.15)	-	-	0.5m級 1/6	斜面内面右方に付る。斜面内面右方は削除す る。斜面内面ヨコナダで内面はハク後。削除す る。斜面外側面ヨコナダ。	粗砂を少量含む	44	116	
1036	新生土 ～土壌部	発	D 4	深路3 1.1K	II-2層	(11.40)	(3.70)	-	-	0.5m級 1/5	横壁部内面左上端に少し削除。斜面外側面ハケ。内面 ヨコナダが、口縁部外側面ヨコナダで内面はハク後 に削除。	0.5m級の砂粘を含む	44	116	
1037	新生土 ～土壌部	発	D 4	深路3 4.1K	II-2層	(15.00)	(3.95)	-	-	0.5m級 1/7	口縁部内面ヨコナダで上手に手削れが立付 る。斜面内面右方向～タクタリ。	1mm以下下の砂粘含む	44	116	
1038	土壌部	発	D 4	深路3 4.1K	II-2層	(12.70)	(3.20)	-	-	0.5m級 1/8	横壁部の横壁部。口縁部内面ヨコナダで内面は ハク後。削除する。斜面外側面ハケ。内面～タクタリ	石砂など1mm以下下の砂粘含む	44	116	
1039	土壌部	発	D 5	深路3 1.1K	II-2層	(16.90)	(6.40)	-	-	0.5m級 1/8	横壁部の横壁部。口縁部外側面ヨコナダ。斜面外側 面ヨコナダの右側。内面右方～タクタリ	0.5m級の砂粘を多く含む	44	116	
1040	土壌部	発	D 5	深路3 4.1K	II-2層	(12.90)	(3.10)	-	-	0.5m級 1/8	横壁部の横壁部。口縁部外側面ヨコナダ。斜面外側 面ハケ。内面右方～タクタリ。斜面外側面付	粗砂を少量含む	44	116	
1041	土壌部	発	D 5	深路3 1.1K	II-2層	(15.20)	(4.05)	-	-	0.5m級 1/8	布削形に近い口縁部。口縁部外側面ヨコナダ	0.5mm以下の砂粘多く含む	44	117	
1042	土壌部	発	D 5	深路3 1.1K	II-2層	(14.10)	(5.50)	-	-	0.5m級 1/8	横壁部の横壁部。口縁部内面ヨコナダ。斜面外側 面ヨコナダ。内面右方～タクタリ。	1mm以下下の小石と粗砂を含む	44	117	
1043	新生土 ～土壌部	発	D 2	深路3 1.2K	II-2層	(19.40)	(5.90)	-	-	0.5m級 1/12	横壁部外側面。口縁部外側面ヨコナダで斜面内面 ヨコナダでハク削除。斜面外側面ハケ。	2mm以下下の砂粘含む	44	117	
1044	新生土 ～土壌部	発	D 2	深路3 1.1K	II-2層	(17.70)	(4.65)	-	-	0.5m級 1/8	横壁部外側面。口縁部外側面ヨコナダで内面ハケ 付。斜面外側面ハケ。内面右方～タクタリ。斜面外側面 付。	2mm以下下の砂粘含む	44	117	
1045	新生土 ～土壌部	発	C 4	深路3 1.1K	II-2層	(15.90)	(3.65)	-	-	0.5m級 若干	横壁部外側面。口縁部内面ヨコナダ。タクタリ形成で 若干。斜面切出付。口縁部外側面に保付垂	粗砂を多く含む	北岩系 か	117	
1046	新生土 ～土壌部	発	C 7	深路3 4.1K	II-2層	(11.30)	(3.45)	-	-	0.5m級 1/7	横壁部外側面切出。口縁部外側面ヨコナダ。斜面 内面右方～タクタリ。内面ピカツキ。	粗砂を多く含む	小型	117	
1047	新生土 ～土壌部	発	C 7	深路3 1.1K	II-2層	(14.70)	(7.02)	-	-	0.5m級 1/4	横壁部外側面。口縁部外側面ヨコナダで横壁外側面に 削除。斜面外側面ハケ。内面ナダ。	2mm以下下の砂粘・赤色粘子	44	117	
1048	新生土 ～土壌部	発	C 7	深路3 4.1K	II-2層	(16.90)	(5.20)	-	-	0.5m級 1/8	口縁部外側面。横壁部が人間のヨコナダ。タクタリ形成 で。内面右方～タクタリ。	0.5～1mmの砂粘を含む	北岩系 か	117	
1049	新生土 ～土壌部	発	C 5	深路3 1.1K	II-2層	(14.40)	(2.60)	-	-	0.5m級 1/6	横壁部内面ヨコナダ。柔軟が人間ヨコナダ	2mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1050	新生土 ～土壌部	発	C 3	深路3 4.1K	II-2層	(15.45)	(4.90)	-	-	0.5m級 1/7	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面ナダ。内面 ヨコナダ。内面ナダ。	2mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1051	新生土 ～土壌部	発	C 3	深路3 1.1K	II-2層	(16.40)	(3.80)	-	-	0.5m級 1/8	口縁部外側面ヨコナダで内面は削除。柔軟が入り、内 面ヨコナダでタクタリ削除。斜面外側面ハケ。	3mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1052	新生土 ～土壌部	発	C 4	深路3 4.1K	II-2層	(14.60)	(3.35)	-	-	0.5m級 1/12	口縁部外側面ヨコナダで柔軟が入り。内面はハク 後に削除。	石砂など1mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1053	新生土 ～土壌部	発	C 2	深路3 4.1K	II-2層	(15.20)	(6.60)	(15.00)	-	0.5m級 1/5	口縁部外側面ヨコナダ～柔軟。口縁部外側面ヨコナ ダで内面ナダ。柔軟が入り。斜面外側面ハケ。	石高・黄石など2.5mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1054	新生土 ～土壌部	発	C 4	深路3 1.1K	II-2層	(15.90)	(3.10)	-	-	0.5m級 1/8	割れ。内面ヨコナダ	2mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1055	新生土 ～土壌部	発	C 3	深路3 4.1K	II-2層	(14.30)	(3.40)	-	-	0.5m級 1/8	横壁部外側面ヨコナダの柔軟。口縁部外側面ヨコナ ダ。斜面外側面タクタリ。	3mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1056	新生土 ～土壌部	発	C 4	深路3 4.1K	II-2層	(15.10)	(8.05)	-	-	0.5m級 1/9	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面に削除。斜面外側面 付でタクタリ。内面ヨコナダでハク後削除。口縁部 外側面ヨコナダで斜面外側面に削除。柔軟が入り。	0.5～2.5mmの砂粘を含む	北岩系 か	117	
1057	新生土 ～土壌部	発	C 4	深路3 1.1K	II-2層	(14.10)	(3.45)	-	-	0.5m級 1/8	口縁部外側面ヨコナダ。斜面外側面ナダ。内面ナ ダ。	2mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1058	新生土 ～土壌部	発	C 1	深路3 4.1K	II-2層	(14.40)	(6.70)	-	-	0.5m級 1/6	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面ナダ。内面ナ ダ。	2mm以下下の砂粘含む	北岩系 か	117	
1059	新生土 ～土壌部	発	A 4	深路3 1.1K	II-2層	(11.90)	(6.00)	-	-	0.5m級 1/11	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面ナダ。内面ナ ダ。	粗砂を多量に含む	北岩系 B	117	
1060	新生土 ～土壌部	発	C 7	深路3 4.1K	II-2層	(16.80)	(3.60)	-	-	0.5m級 1/8	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面ナダ。内面ナ ダ。	2mm以下下の砂粘・赤色粘子	45	117	
1061	新生土 ～土壌部	発	A 4	深路3 1.1K	II-2層	(12.60)	(5.60)	-	-	0.5m級 若干	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面ナダ。内面ナ ダ。	石高・黄石などチャートなど	45	117	
1062	新生土 ～土壌部	発	C 2	深路3 1.1K	II-2層	(17.40)	(6.65)	-	-	0.5m級 1/8	口縁部外側面に削除2条。斜面外側面と口縁部外 側面タク。	0.5～2.5mmの砂粘・赤色粘子	45	117	
1063	新生土 ～土壌部	発	C 6	深路3 1.1K	II-2層	(13.80)	(4.15)	-	-	0.5m級 1/6	口縁部外側面上に5条の困難面。口縁部外側面ヨコナ ダで斜面外側面タクあり。	1mmの大い小石と粗砂を多量 に含む	北岩系 A	117	
1064	新生土 ～土壌部	発	C 9	深路3 1.1K	II-2層	(11.75)	(3.70)	-	-	0.5m級 1/8	タクタリ成形で口縫き出付。斜面外側面ナダ。内面ナ ダ。	2mm以下下の砂粘・赤色粘子	山森系	45	117

番号	種別	種類	類型	構造	部位	法量(cm)			残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	横径	底径						
1065	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(15.30)	(4.00)	-	-	口縁部外側に横筋2本、口縁部内側ヨコナギ。 底部内側面は1条筋があるヨコナギ。肩部外側 ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	右曲など1mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1066	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(11.00)	(4.90)	-	-	口縁部外側に横筋2本、口縁部内側ヨコナギ。 肩部外側ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂多く含む	山陰系A	45	118	
1067	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(14.50)	(4.20)	-	-	口縁部外側に横筋2本、口縁部内側ヨコナギ。 肩部外側ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	2mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1068	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(15.10)	(3.85)	-	-	口縁部外側はハニに近い、細い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	0.5mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1069	弥生土器	甕	E	圓錐3 1-2孔	H-2層	(15.50)	(5.30)	-	-	口縁部外側はハニに近い、細い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1070	弥生土器	甕	E	圓錐3 1-2孔	H-2層	(13.50)	(3.90)	-	-	口縁部外側はハニに近い、細い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	細砂多く含む	山陰系A	45	118	
1071	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(15.50)	(4.70)	-	-	口縁部外側はハニに近い、細い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	2mm以下の砂粘多く含む、 赤色粘子含む	山陰系A	45	118	
1072	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(13.25)	(3.90)	-	-	口縁部外側はハニに近い、細い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘多く含む、 赤色粘子含む	山陰系A	45	118	
1073	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(15.90)	(5.20)	-	-	口縁部外側はハニに近い、細い条筋があるヨコナ ギ。内面右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘多く含む	山陰系A'	45	118	
1074	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(16.20)	(5.60)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナギ。肩 部内側面ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂多く含む、 赤色粘子含む	山陰系A	45	118	
1075	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(16.90)	(6.60)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	2mm以下の砂粘多く含む、 赤色粘子含む	山陰系A'	45	118	
1076	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(16.00)	(6.00)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	0.5mm以下の砂粘多く含 む	山陰系A	45	118	
1077	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(12.40)	(4.50)	-	-	口縁部外側内面ハニに近い条筋があるヨコナギ。肩 部内側右方向へケツメイ。	粗砂多く含む	山陰系A	45	118	
1078	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(15.50)	(4.70)	-	-	口縁部外側内面ハニに近い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	0.5mm以下の砂粘多く含 む	山陰系A'	45	118	
1079	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(14.70)	(5.00)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側面右方向へケツメイ。	粗砂多く含む	山陰系A'	45	118	
1080	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(15.55)	(4.50)	-	-	口縁部外側内面ハニに近い条筋があるヨコナギ。肩 部内側右方向へケツメイ。	2mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1081	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(14.70)	(4.60)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂など1mm以下の砂粘を多く含む	山陰系A	45	118	
1082	弥生土器	甕	E	圓錐3 1-4孔	H-2層	(14.40)	(4.45)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。内面右方向へケツメイ。	3mm以下の砂粘多く含む	山陰系A'	45	118	
1083	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(16.00)	(4.60)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂多く含む	山陰系A'	45	118	
1084	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(17.20)	(5.10)	-	-	口縁部外側内面ハニに近い条筋があるヨコナギ。肩 部内側右方向へケツメイ。	2mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1085	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(14.30)	(5.00)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。内面右方向へケツメ イ。	粗砂多く含む	山陰系A	45	118	
1086	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(15.50)	(6.80)	-	-	口縁部外側内面ハニに近い条筋があるヨコナ ギ。肩部内側右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘多く含む	山陰系A	45	118	
1087	弥生土器	甕	E	圓錐3 1孔	H-2層	(15.00)	(5.30)	-	-	口縁部外側内面はハニに近い条筋があるヨコナ ギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂多く含む	山陰系A	45	118	
1088	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(16.60)	(5.60)	-	-	口縁部外側内面と外側内面ハニの上の条筋があるヨ コナギ。内面右方向へケツメイ。	0.5~1mmの砂粘を多く含む	山陰系A	45	119	
1089	弥生土器	甕	E	圓錐3 4孔	H-2層	(18.20)	(5.00)	-	-	口縁部外側内面と外側内面ハニの上の条筋があるヨ コナギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂多く含む、 内面右方向を基本としたヘリカス	山陰系A	45	119	
1090	弥生土器	甕	F	圓錐3 1孔	H-2層	(14.50)	(4.00)	-	-	口縁部外側内面と上部端面ヨコナギ。肩部外側内面 ハニ。肩部内側方右方向へケツメイ。	1mm以下の小石と粗砂、角 粒石多く含む	潤岐系A	46	119	
1091	弥生土器	甕	F	圓錐3 1孔	H-2層	(14.30)	(4.90)	-	-	口縁部外側内面ハニ。口縁部内側面ヨコナギ。内面右 方向へケツメイ。	粗砂、角石多く含む	潤岐系A	46	119	
1092	弥生土器	甕	F	圓錐3 1孔	H-2層	(15.80)	(3.90)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。肩部内側ヨコナギ。他の 内面にはケツメイ。	1mm以下の砂粘含む	潤岐系C	46	119	
1093	弥生土器	甕	F	圓錐3 1孔	H-2層	(10.60)	(8.15)	(13.50)	-	口縁部外側内面と外側内面ハニの上の条筋があるヨ コナギ。内面右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘含み、粗 砂の雲母含む	潤岐系C	46	119	
1094	弥生土器	甕	F	圓錐3 1-2孔	H-2層	(13.90)	(3.20)	-	-	口縁部外側内面ハニ。口縁部内側面ヨコナギ。内面ビオサ 等で遮蔽する。内面に付着する。	2mm以下の砂粘含み、角 粒石多く含む	潤岐系A'	46	119	
1095	弥生土器	甕	F	圓錐3 1孔	H-2層	(15.30)	(4.10)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	粗砂、角石多く含む	潤岐系A	46	119	
1096	弥生土器	甕	G	圓錐3 4孔	H-2層	(18.70)	(4.20)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。半圓盤面は腹側面。肩 部内側タマキ。内面右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘含む	古風系か	46	119	
1097	弥生土器	甕	G	圓錐3 1孔	H-2層	(15.60)	(2.30)	(1.30)	-	口縁部外側内面ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。口 縁部内側面に6~7条の横筋突起。口縁部内側面ヨコ ナギ。	2mm以下の砂粘含む	古風系A	46	119	
1098	弥生土器	甕	G	圓錐3 4孔	H-2層	(15.10)	(4.35)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	1mm以下の砂粘含む	古風系A	46	119	
1099	弥生土器	甕	G	圓錐3 1孔	H-2層	(15.50)	(6.10)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。肩部内側面右方向へケ ツメイ。	1mm小石と粗砂を多量に	古風系A	46	119	
1100	弥生土器	甕	G	圓錐3 1孔	H-2層	(13.90)	(3.70)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	0.5mmの砂粘を含む	古風系A	46	119	
1101	弥生土器	甕	G	圓錐3 4孔	H-2層	(14.00)	(3.15)	-	-	口縁部外側内面ヨコナギ。内面右方向へケツメイ。	0.5mmの砂粘を含む	古風系A	46	119	
1102	弥生土器	甕	G	圓錐3 4孔	H-2層	-	(32.70)	(32.80)	-	体部	口縁部外側内面ハニ。口縁部内側面ヨコナギ。	1mm以下の砂粘含む	古風系A	46	120
1103	弥生土器	甕	体部	圓錐3 1孔	H-2層	-	(27.60)	(35.10)	-	体部	口縁部外側内面ヨコナギ。口縁部内側面ハニ。外 面縫合部	0.5mmの砂粘を含む	古風系A	46	120

番号	種別	種種	類型	構構	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	基高	腹深	底径							
1104	衛生土器 ～土瓶	便	体皿	深皿	11K	II-2層	-	(6.20)	-	2,70	体部 1/4	タキ成形地底平手に2×2×2のハガク花咲き地 内、内面・外側にタイダラ印あり、付石付イ ナタダム、底部内面厚約1cm。下部は二次焼物で ある。背面に黒斑点。	2mm以下の中粒含む	46	129	
1105	衛生土器 ～土瓶	便	A 1 "	深皿	41K	II-2層	(15.40)	(11.10)	-	-	口縁部 1/6	口縁部内面ヨコナダ、翼部外側ハゲ。内面上手は ビザギ、下手右側向ヶタケリ	粗砂多く含む	46	129	
1106	衛生土器 ～土瓶	便	A 3	深皿	11K	II-2層	(16.40)	(3.50)	-	-	口縁部 1/4	口縁部内面ヨコナダ地ベニヤガラ。口縁部下面は 黒斑点向か。全面に漆色ロリッジ地。	3mm以下の中粒含む	46	129	
1107	衛生土器 ～土瓶	便	A 3	深皿	31K	II-2層	(19.30)	(8.90)	-	-	口縁部 1/2	口縁部内面ヨコナダで外面下にはタイダラ地、翅 部外側上面は条の羽目地。粗筋な作面ハケで 外側一部へハガクが見える。	3mm以下の中粒多く含む	47	129	
1108	衛生土器 ～土瓶	便	A 1	深皿	31K	II-2層	(17.30)	(8.50)	-	-	口縁部 完全	口縁部内面ヨコナダで内面はハケ後に施す。筋部 内面タクマ後ヨコナダ、内面ビザギオサヒナダ	粗砂多く含む	山根益A	47	121
1109	衛生土器 ～土瓶	便	A 1	深皿	31K	II-2層	(15.00)	(4.35)	-	-	口縁部 1/10	口縁部内面ハゲのようないい条線が入るヨコナ ダ。背面3面2段に分けた施す。	2mm以下の中粒含む	山根益A	47	121
1110	衛生土器 ～土瓶	便	A 1 "	深皿	31K	II-2層	(18.40)	(3.60)	-	-	口縁部 1/6	口縁部内面ヨコナダで外面には細い条線がある 内面ハゲ。背面3面2段に分けた施す。	2mm以下の砂粒、赤色粒子、 粗筋な全質含む	濱田益B	47	121
1111	衛生土器 ～土瓶	便	A 1	深皿	41K	II-2層	(28.40)	(8.40)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコハケ後ヨコナダ。筋部内面も同 様模様。	粗砂多く含む	山根益A	47	121
1112	衛生土器 ～土瓶	便	A 1	深皿	41K	II-2層	(12.25)	(4.70)	-	-	口縁部 小片	口縁部外側ハゲのようないい条線が入るヨコナ ダ。背面3面2段に分けた施す。	粗砂多く含む	山根益A	47	121
1113	衛生土器 ～土瓶	便	A 2	深皿	31K	II-2層	(18.80)	(3.10)	-	-	口縁部 1/6	口縁部外側は開口部、表面に鋸の刃付着物多い。 内面ヨコハケ後正面とともにヨコナダ。	粗砂多く含む	北近畿益 2+	47	121
1114	衛生土器 ～土瓶	便	不明	深皿	41K	II-2層	-	(6.20)	-	-	筋部 1/3	口縁部内面ヨコハケ地。粗筋外側タハケ。内面 ヨコハケナタダム。	1mm以下の中粒含む	47	121	
1115	衛生土器 ～土瓶	便	A 1 "	深皿	11K	II-2層	(14.30)	(12.50)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコハケ後ヨコナダ。口縁部内面ヨコハケ後 ヨコナダ。内面ヨコハケ地。	粗砂多く含む	47	121	
1116	衛生土器 ～土瓶	便	A 4	深皿	1~4K	II-2層	(17.70)	(4.30)	-	-	口縁部 1/2	口縁部内面ヨコナダ。下手左、外面ヨコナダ 後ヨコハケ地。部分二タケ改。	3mm以下の中粒含む	47	121	
1117	衛生土器 ～土瓶	便	A 3	深皿	31K	II-2層	(29.30)	(4.75)	-	-	口縁部 1/12	口縁部外側筋部に2×2の筋と4×5条の複数筋部 と筋部横筋部。その上に筋部上部の複数筋部、 タハケ地。内面はハゲ後施すヨコナダ。	2mm以下の中粒含む	47	121	
1118	衛生土器 ～土瓶	便	A 3	深皿	51K	II-2層	(31.30)	(3.20)	-	-	口縁部 若干	口縁部端壁に2×2の筋と4×5条の複数筋部 と筋部横筋部。内面は、内面ハゲのよきの条 筋部入りヨコナダ。後にハケ施す其状況。ナカは 粗砂多く含む	47	121		
1119	衛生土器 ～土瓶	便	F	深皿	11K	II-2層	(18.00)	(4.10)	-	-	口縁部 1/12	内外ヨコハケ地のヨコナダ。黒斑点あり。	粗砂多量に含む	集合(1) の上手部 か	47	121
1120	衛生土器 ～土瓶	便	A 7	深皿	11K	II-2層	-	(4.50)	-	-	口縁部 若干	内外ヨコナダ。内面付着物あり	0.5~1mmの砂粒、黒斑 点の有無、金粉貝を含む	濱田益 A	47	121
1121	衛生土器 ～土瓶	便	不明	深皿	31K	II-2層	-	(2.90)	-	-	口縁部 若干	内面に隙間あり、タキ成形で内面ヨコナダ加 工。上端部は開口面。	1~2mmの小石と粗砂を多 量に含む	47	121	
1122	衛生土器 ～土瓶	便	D 1	深皿	11K	II-2層	(17.40)	(5.80)	-	-	口縁部 1/6	下部端壁に複数筋部の上面に複数筋部の高い条 筋部内面ヨコナダ。筋部外側タハケ後ヨコハケ 地。内面ヨコハケ地。	石など4mm以下の中粒 多く含む	台場の可 能性もあ り	47	122
1123	衛生土器 ～土瓶	便	D 1	深皿	1~2K	II-2層	(18.30)	(1.60)	-	-	口縁部 小片	複数筋部表面に2×2の複数筋と5×5条の複数筋部。 内面ヨコナダ。	粗砂を多く含む	台場の可 能性もあ り	47	121
1124	衛生土器 ～土瓶	便	D 4	深皿	51K	II-2層	(12.70)	(6.70)	-	-	口縁部 1/12	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。内面 ヨコハケ地。	1mmの小石と粗砂を多量に 含む。赤色柱立つ	47	122	
1125	衛生土器 ～土瓶	便	D 1	深皿	41K	II-2層	(17.30)	(2.30)	-	-	口縁部 1/6	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。筋部横筋部 不規則。	0.5~1mmの砂粒を含む	47	122	
1126	衛生土器 ～土瓶	便	D 2	深皿	11K	II-2層	(18.30)	(2.40)	-	-	口縁部 1/12	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。筋部横筋部 不規則。	1~2mmの小石と粗砂を多 量に含む	47	122	
1127	衛生土器 ～土瓶	便	D 2	深皿	41K	II-2層	(16.80)	(5.65)	-	-	口縁部 1/8	口縁部端壁に複数筋部の筋と条筋多く入り。口縁部端 壁内面ヨコナダ。筋部外側タハケ後ヨコハケ地。 内面ヨコハケ地。	0.5mm以下の中粒少量含 む	47	122	
1128	衛生土器 ～土瓶	便	D 2	深皿	11K	II-2層	(12.00)	(3.15)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコハケ地。筋部外側タハケ地。	粗砂多く含む	48	122	
1129	衛生土器 ～土瓶	便	D 2	深皿	11K	II-2層	(18.00)	(5.16)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナダ。筋部外側タハケ地。	粗砂多く含む	48	122	
1130	衛生土器 ～土瓶	便	D 5	深皿	11K	II-2層	(10.65)	(4.75)	-	-	口縁部 1/4	口縁部内面ヨコナダ。筋部外側タハケ地。	2mm以下の中粒、赤色蛇子 地。	48	122	
1131	衛生土器 ～土瓶	便	D 3	深皿	11K	II-2層	(12.70)	(1.60)	-	-	口縁部 1/8	口縁部端壁に2×2の筋とその間に1条の筋と 内面ヨコナダ。内面ヨコハケ地。	粗砂多く含む	48	121	
1132	衛生土器 ～土瓶	便	C 2	深皿	11K	II-2層	(15.70)	(4.10)	-	-	口縁部 1/12	口縁部内面ヨコナダ。筋部外側タハケ地。内面ヨ コナダ。	1mm以下の中粒を少含む	48	122	
1133	衛生土器 ～土瓶	便	D 3	深皿	11K	II-2層	(19.30)	(6.90)	-	-	口縁部 1/8	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。	粗砂多く含む	48	122	
1134	衛生土器 ～土瓶	便	D 3	深皿	11K	II-2層	(16.95)	(7.95)	-	-	口縁部 1/8	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。タキ成形の筋部内面に横筋と 縦筋を施す。	粗砂多く含む	48	121	
1135	衛生土器 ～土瓶	便	B 2	深皿	31K	II-2層	(16.70)	(7.50)	-	-	口縁部 1/5	口縁部内面ヨコナダ。筋部外側タハケ地。	2mm以下の中粒含む	北近畿益 A	48	122
1136	衛生土器 ～土瓶	便	B 2	深皿	11K	II-2層	(12.55)	(2.35)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側内面に複数筋部と縫い1条の筋と 内面ヨコナダ。	3mm以下の中粒含む	北近畿益 A	48	122
1137	衛生土器 ～土瓶	便	B 1	深皿	11K	II-2層	(16.40)	(5.05)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側内面に複数筋部のヨコナダ。口縁部内 外側タハケ地。	0.5~1.5mmの砂粒と小 石を含む	北近畿益 A	48	122
1138	衛生土器 ～土瓶	便	B 2	深皿	11K	II-2層	(17.40)	(3.10)	-	-	口縁部 1/8	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。筋部外側 タハケ地。	3mm以下石砕~粗砂を多く含む	北近畿益 A	48	121
1139	衛生土器 ～土瓶	便	D 2	深皿	11K	II-2層	(15.00)	(3.80)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナダ。筋部外側内面ハケ	粗砂を多量に含む	48	122	
1140	衛生土器 ～土瓶	便	C 1	深皿	1~2K	II-2層	12.35	(11.00)	-	-	口縁部 1/3	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。筋部外側 ハケ地。	粗砂を多量に含む	山根益B	48	123
1141	衛生土器 ～土瓶	便	E 2	深皿	11K	II-2層	17.55	(7.50)	-	-	口縁部 完全	口縁部端壁に2×2の筋と内面ヨコナダ。筋部内面ハ ケ地。	5mm以下の中粒少量。粗砂 を多量に含む	48	123	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	高さ	幅員	底深						
1142	弥生土器	直	D 2	流路 3 1~2区	II~2層	(14.00)	(6.30)	-	-	口縁部ヨコナギ、口頭部内面ハケ後ヨコナギ、 小片 斜面凹面ヨコタガ底付	粗砂多く含む	48	122		
1143	弥生土器	直	E 2	流路 3 1区	II~2層	(16.00)	(7.00)	-	-	口縁部ヨコナギ 2/5	1mmの小石と粗砂を多量に含む	48	123		
1144	弥生土器	直	E 2	流路 3 1~2区	II~2層	(17.55)	(8.20)	-	-	口縁部内面ヨコナギ、口頭部ヨコタガ後ヨコナギ、 タガ底或は斜面ヨコナギ、内面ヨコサエヒ ハガ、ヨコナギ	粗砂少量化、砂細を多く含む	48	123		
1145	弥生土器	直	E 1	流路 3 1区	II~2層	(11.90)	(8.80)	-	-	口縁部横断面ヨコナギ、口頭部内面ヨコナギ、 1/6	石英など2mm以下の大砂、角閃石無量、金雲母少 量含む	測定点 A	48	122	
1146	弥生土器	直	D 3	流路 3 1区	II~2層	(11.00)	(4.50)	-	-	口縁部ヨコナギ、口頭部外側面ヨコナギ、斜面ヨコ ナギで縦縫合後ヨコナギ	0.5mm以下の大砂を含む	48	123		
1147	弥生土器	直	E 2	流路 3 1区	II~2層	(11.70)	(6.60)	-	-	口頭部内面ヨコナギ、ヨコナギ入るヨコナギ、外側面底部 1/6 に2条の直線的側面ヨコナギ、内面ヨコサエヒ ハガ、ヨコサエヒ	砂細を少量含む	48	123		
1148	弥生土器	直	H	流路 3 1区	II~2層	(13.60)	(6.60)	-	-	口縁部ヨコナギ、口頭部内面ハケ部の側面が入るヨコナギ、外側面 1/4 ヨコナギ、具のたれ地、内面ヨコナギ	粗砂を多く含む	48	123		
1149	弥生土器	直	H	流路 3 1区	II~2層	(16.30)	(5.50)	-	-	タガ底或は外側下部ヨコナギ加えん。内面ヨコナ ギ、口縁部ヨコナギ	0.5~2mmの砂粒を含む 跡の可 能性あり	48	123		
1150	弥生土器	直	E 2	流路 3 1区	II~2層	(15.60)	(6.95)	-	-	口縁部側面ヨコナギ、ヨコナギ入るヨコナギ、外側面底部 1/5 に2条の直線的側面ヨコナギ、内面ヨコサエヒ ハガ、ヨコサエヒ	0.5~1mmの砂粒を含む	48	123		
1151	弥生土器	直	H	流路 3 1区	II~2層	12.10	(6.90)	-	-	口縁部ヨコナギ内面ハケ部の側面が入るヨコナギ、その後 2/4 ヨコサエヒを加えん。内面ヨコサエヒ	砂細を少量含む	48	123		
1152	弥生土器	直	I 2	流路 3 1区	II~2層	-	(8.85)	-	(17.20)	部側面ヨコナギ、ヨコサエヒ内面ヨコナギ付へてハガ、前部内面ハ カ、側面ヨコナギ、内面ヨコサエヒ付へてハガ、後部内面ハ カ、側面ヨコナギ、内面ヨコサエヒ付へてハガ、後部内面ハ カ、側面ヨコナギ付へてハガ	2mm以下の砂粒、赤色粘子 古褐色系、柱付 赤褐色	48	124		
1153	弥生土器	直	I 2	流路 3 1区	II~2層	-	(5.90)	-	-	口縁部ヨコナギ内面ハケ部の側面が入るヨコナギ、体部内面ハ カ、側面ヨコナギ付へてハガ	2mm以下の砂粒含む	48	123		
1154	弥生土器	直	I 2	流路 3 1区	II~2層	-	(5.60)	8.90	-	内面ヨコナギ、内面ヨコサエヒ付へてハガ、後部内面ハ カ、側面ヨコナギ付へてハガ	2mm以下の砂粒、赤色粘子 赤褐色	48	124		
1155	弥生土器	直	G	流路 3 1区	II~2層	(17.40)	(5.60)	-	-	口縁部側面ヨコナギ、体部内面ハラミヨギか、 1/4、内面ヨコサエヒ付へてハガ、体部ヨコナギ付 へてハガ	0.5~1mmの砂粒を含む 付着点B	49	123		
1156	弥生土器	直	A 2	流路 3 1~2区	II~2層	-	(4.20)	4.15	-	底部 立柱	内部手すねでナゲ往上げ、外面に歯のひび割れ 付	砂細を少量化 モニチャ ア	49	124	
1157	弥生土器	直	D 1	流路 3 1~2区	II~2層	(14.60)	(1.60)	-	-	口縁部側面ヨコナギ、ヨコナギ付へてハガ、内面ヨコナギ付 へてハガ	2mm以下の大砂を含む 測定点C	49	124		
1158	弥生土器	輪台	-	流路 3 1区	II~2層	-	(1.90)	-	-	口縁部ヨコナギ外側ヨコサエヒ底付、内面ヨコナギ。 輪台は圓筒直	0.5~1mmの砂粒を含む 天地逆の 可能性あり 0.5	49	124		
1159	弥生土器	直	A 3	流路 3 1区	II~2層	-	(3.90)	-	-	口縁部ヨコナギ 1/3	内部ヨコサエヒ底付、内面ヨコナギで内面に横方向 ハガとヨリをなす。内面ヨコサエヒ付へてハガ	1mm以下の小石と粗砂を多 く含む 器具の可 能性あり 0.5	49	124	
1160	弥生土器	直	A 3	流路 3 1区	II~2層	-	(4.40)	-	-	口縁部側面ヨコナギ底付ヨコサエヒ付へてハガ、内面ヨコナギ付 へてハガ	0.5~1mmの砂粒を含む 器具の可 能性あり	49	124		
1161	弥生土器	輪台	-	流路 3 1区	II~2層	-	(2.80)	-	-	体部 直立柱	内面に横方向凹凸され、屈曲部下端に刻みを留す。 内面ヨコサエヒ付へてハガ	0.5~1mmの砂粒を含む 赤色	49	124	
1162	弥生土器	直	体部	流路 3 4区	II~2層	-	(3.70)	-	-	後部 直下	内面ヨコサエヒ底付、内面ヨコナギ付へて上に横方向 ハガとヨリをなす。内面ヨコサエヒ付へてハガ	砂細を多く含む 器具の可 能性あり 0.5	49	124	
1163	弥生土器	手すり	-	流路 3 1~2区	II~2層	-	(4.80)	-	-	体部 直下	横方向凹凸で推定。横方向凹凸と横方向突起で推定 石英等1.5mm 付	石英等1.5mm 大以下の砂 含む	49	124	
1164	弥生土器	突?	E 7	流路 3 1区	II~2層	-	(2.65)	-	-	体部 直下	山形系の山形系推定。背面に横方向凹凸、内面ヨ コナギ付へてハガとヨリ	1mm以下の砂粒含む 山形系 A'	49	124	
1165	弥生土器	直	肩部?	流路 3 4区	II~2層	-	(5.55)	-	-	体部 直下	内面ヨコサエヒ底付を據る。外側調整部ハケ、内面は ヨコサエヒ付へてハガ	2mm以下の砂粒含む	49	124	
1166	弥生土器	直	F 3	流路 3 1区	II~2層	(23.60)	(3.50)	-	-	口縁部 直下	内面に横方向凹凸、内面ヨコナギで内面に横方向 ハガとヨリをなす。内面ヨコサエヒ付へてハガ	砂細を少量化 器具の可 能性あり 0.5	49	125	
1167	弥生土器	直	F 1	流路 3 1区	II~2層	(15.85)	(4.40)	-	-	口縁部 直下	ヨコナギ後ヨコサエヒ底付ヨコサエヒ付、体部外面上部は斜 面ヨコナギ入るヨコサエヒ、内面ナガナカ	3mm以下の砂粒含む 測定点C 小D	49	125	
1168	弥生土器	直	E 1	流路 3 1~2区	II~2層	(10.70)	(3.05)	-	-	口縁部 直下	内面ヨコナギヨコサエヒ付、体部外面上部にテナハガ。 1/6 内面ナガナカ	1mm以下の砂粒含む	49	125	
1169	弥生土器	直	E 1	流路 3 1区	II~2層	(15.30)	(3.80)	-	-	口縁部 直下	内面ヨコナギヨコサエヒ付。体部外面上部ハラミヨギか、内 面ナガナカ	0.5~1.5mmの砂粒を含む 褐色	49	125	
1170	弥生土器	直	E 2	流路 3 4区	II~2層	(11.90)	(4.00)	-	-	口縁部 直下	内面ヨコナギ後ヨコサエヒ底付ヨコサエヒ付。ヨコナギにはハケの ヨコナギ入るヨコサエヒ付	0.5mm以下の砂粒含む 褐色	49	125	
1171	弥生土器	直	E 2	流路 3 4区	II~2層	-	(5.30)	-	-	体部 直下	内面ヨコナギ後ヨコサエヒ底付ヨコサエヒ付。表面削減によらず 含む多い	0.5mmの砂粒を含む 赤褐色	49	125	
1172	弥生土器	直	F 3	流路 3 4区	II~2層	(21.10)	(5.30)	-	-	口縁部 直下	ヨコナギ底付ヨコサエヒ底付ヨコサエヒ付。ヨコサエヒ付 ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付	5mm以下の大砂、砂粒含 む	49	125	
1173	弥生土器	林	A 4	流路 3 4区	II~2層	(8.90)	5.65	-	3.30	口縁部 直下	体部外面上部ハガではナガナカ。体部内面ヨコナギ 付ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付。ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付。底面に木葉灰 ナガナカヨコサエヒ付	0.5~2mmの砂粒を多く含む 器具の可 能性あり 0.5	49	124	
1174	弥生土器	林	A 3	流路 3 1区	II~2層	(9.50)	(6.55)	-	2.70	底盤 直下	器蓋見付。器蓋見付ヨコサエヒ付。ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付。内面 ヨコナギヨコサエヒ付ヨコサエヒ付	2mm以下の砂粒、赤色粘子 含む	49	124	
1175	弥生土器	林	D 1	流路 3 4区	II~2層	(11.30)	(3.90)	-	-	口縁部 直下	外側ヨコサエヒ後ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付。内面削 減によるヨコサエヒ付	2mm以下の砂粒含む 器具の可 能性あり 赤色	49	124	
1176	弥生土器	林	A 2・B・ Cの 口縁部	流路 3 1区	II~2層	(12.90)	(4.90)	-	-	口縁部 直下	ヨコサエヒ後ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付。内面は細いヨコ サエヒ付	6mmの石在り。それ以下の 砂粒・砂粒・角閃石含 む	49	125	
1177	弥生土器	林	D 2	流路 3 1区	II~2層	13.75	6.90	-	-	口縁部 直下	ヨコサエヒ後ヨコサエヒ付ヨコサエヒ付。内面は細いヨコ サエヒ付	6mmの石在り。それ以下の 砂粒・砂粒・角閃石含 む	49	125	

番号	種別	種類	難型	構造	部位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	基部	腹側	底後 壁側						
1178	衛生土器	林	D 1	洞開3 1.5K	II-2層	(16.00)	(3.70)	-	-	II級部	歯道は下部のハケ抜き・外縁が入るコニガナ。内面 には上部のコニガナでモリ加減有り。	3mm以下砂利・赤色粒子 含む	洗い砂利	49	125
1179	衛生土器	林	D 1	洞開3 1.5K	II-2層	(16.00)	(4.15)	-	-	II級部	洞開部は外上方に薄く、切くつみ上げた、タカキ 成形で口部ヨコラミ、内面ナガ。	粗砂を多く含む		49	126
1180	衛生土器	林	A 1+ C の(口)難部	洞開3 1.5K	II-2層	(17.30)	(3.60)	-	-	II級部	内面底部コニガナ。体部外面ヨコササナガ。 内面ハケ付丁寧なナガ。	粗砂を少々含む		49	126
1181	衛生土器	林	A 1 b ～(口)難部	洞開3 1.5K	II-2層	(21.00)	9.60	-	7.35	II級部	口部ヨコラミナガ。体部外表面と底面にヨコハケを保 てなくなり、外縁は内面ヨコササナガでモリカケタツリ。 外縁は底面に凹凸有り。	1～2mm程の砂利を含み、 セメント微量含む	調査益B	49	125
1182	衛生土器	鶴右 部	B	洞開3 4.0K	II-2層	-	(4.50)	-	(6.30)	底部	体部外表面・タケ、内面ナガナガ。脚部ヨコササナ ゲで脚部の難部はモリナガ。底面あり。	0.5～1mm程の砂利を含む		49	125
1183	衛生土器	高坪	D 2	洞開3 1.5K	II-2層	(8.60)	(5.95)	-	-	II級部	小さな凹部がある内面コニガナ。外縫部下部へ脚部 若干のナガ。モリナガ。	粗砂・細砂を少量、複数個 露台の可 能性あり		49	126
1184	衛生土器	鶴右 部	B	洞開3 1.5K	II-2層	-	(4.10)	-	(6.30)	底部	脚部タクミ成形で外表面ハケを削除した後内面丁寧な ナガ。脚部ハケで底面調整で平面ナガ。	0.5～1mm程の砂利を含む		49	125
1185	衛生土器	F 2	C	洞開3 1.5K	II-2層	(16.00)	(2.10)	-	-	II級部	ヨコハケ成形後ヨコラミナガ。内面ハケ。II級部内面 砂利・各縫合入るヨコラミナガ。内面に底面	角開孔なし±1.5mm以下の 砂利から玄瓦	調査益B	49	126
1186	衛生土器	有孔 林	A	洞開3 3.5K	II-2層	-	(4.90)	-	4.90	底部	ヨコハケ成形内面ヨコササナガ。底部ヨコササナ ガ。底面はヨコナガでモリナガで上部は広がる。 底面に不規則凹、外縫に底面	1～2mmの小石と粗砂を多 量に含む		49	126
1187	衛生土器	有孔 林	A	洞開3 1.5K	II-2層	-	(2.50)	-	(6.35)	底部	ヨコハケ成形内面ハケナガ。底面は中央に 約5mmの凹・凹谷。底部に凹面	9.5mm程の砂利と小石を含 む		49	126
1188	衛生土器	有孔 林	H	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.90)	-	3.90	底部	ヨコハケ成形後外縫ナガナ。内面ハケを底面削除時に 削除して。中央部の底面に残る約3mmの凹孔	3mm以下石少少。粗砂を 多く含む		49	126
1189	衛生土器	有孔 林	H	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.00)	-	3.15	底部	ヨコハケ成形内面ハケ。中央上部底筋の底面に内側 約3mmの移行の凹谷。底面に黒膜	1mm以下砂利含む		49	126
1190	衛生土器	有孔 林	B	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.25)	-	3.30	底部	ヨコハケ成形後各縫合ヨコラミナガ。内面ナガ。 底面中央に約8mmの凹谷。外縫面底面	3mmの石粒数個、砂利を少 量含む		49	126
1191	衛生土器	有孔 林	C	洞開3 1.5K	II-2層	-	(4.10)	-	2.70	底部	ヨコハケ成形底面モリナガ。内面ハケ・ナガ。 石など2mm以上4mm以下の砂利 含む	石など2mm以上4mm以下の砂利 含む		49	126
1192	衛生土器	有孔 林	C	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.65)	-	3.30	底部	ヨコハケ成形内面ヨコササナガ。底面に約8mmの凹孔 で削除。外縫に黒膜あり	0.5～1mm程の砂利を含む		49	126
1193	衛生土器	有孔 林	D	洞開3 1.5K	II-2層	-	(4.50)	-	1.60	底部	ヨコハケ成形後各縫合。内面ナガが 底面に凹出する。底面に黒膜	1～2mmの小石と粗砂を多 量に含む		49	126
1194	衛生土器	有孔 林	A	洞開3 1.5K	II-2層	-	(6.00)	-	2.25	底部	ヨコハケ成形後各縫合。内面ナガナガ。 底面に凹出する。底面に黒膜	0.5～1mm程の砂利を含む		49	126
1195	衛生土器	有孔 林	C	洞開3 3.5K	II-2層	(18.20)	(2.05)	-	2.39	II級部	II級部底面に1条の黒膜。ヨコハケ成形後底面に確 かにハケ。内面にハケ。底面から穿孔。II級部内面ヨコ ササナガ。	0.5～2mm程の砂利を含む		49	125
1196	衛生土器	有孔 林	E	洞開3 1.5K	II-2層	-	(5.70)	-	1.25	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガ。内面ナガナガ。移行約8mm の凹谷を内側から穿孔。II級部に黒膜で覆われ。外縫 に黒膜	1mm以下の小石と粗砂を多 量含む		50	126
1197	衛生土器	有孔 林	G	洞開3 3.5K	II-2層	-	(5.40)	-	(2.60)	底部	ヨコハケ成形底面ナガナガ。内面ナガナガ。底面に 横溝有り。底筋前後の凹谷穿孔。外縫に黒膜	0.5～1mm程の砂利を含む		50	125
1198	衛生土器	(A 3 b) II	A 3 b II 1.5K	洞開3 1.5K	II-2層	-	(5.35)	-	3.10	底部	ヨコハケ成形後各縫合ハケナガ。内面底面放射状にハ ケ。ドーナツ状に底筋に穿孔。II級部底面に黒膜	1.5mm以下砂利含む		50	128
1199	衛生土器	(A 2 b) a	A 2 b a 1.5K	洞開3 1.5K	II-2層	-	(4.40)	-	6.10	底部	ヨコハケ成形後各縫合ハケナガナガ。内面ハケ・ナ ガ。底面に2回の黒膜底 面にナガナガ。底面に2回の黒膜底	0.5～1mm程の砂利を含む		50	127
1200	衛生土器	(A 1 b) a	A 1 b a 1.5K	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.50)	-	(9.90)	底部	ヨコハケ成形後各縫合ハケナガナガ。内面ハケ・ナ ガナガ。底面にハケナガ。内面ハケ・ナガナガで剝離 多い	0.5～2.5mm程の砂利を含 む		50	127
1201	衛生土器	(愛・ 難)	A 1 a	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.30)	-	6.00	底部	外縫ナガ。内面ハケ。外縫に黒膜	0.5～2.5mm程の砂利と小 石を含む	色調は黒 系	50	127
1202	衛生土器	(愛・ 難)	A 1 a + 2	洞開3 1.5K	II-2層	-	(5.35)	-	(5.05)	底部	外縫ナガナガ。内面ハケナガ。中央が盛り ていて底。外縫に黒膜	3mm以下石粗砂を多 量に含む		50	127
1203	衛生土器	(愛・ 難)	A 3 a + a	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.20)	-	3.05	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガ。内面ナガナガ。 縫合ナガナガ。外縫ナガナガ。	2mm以下砂利含む		50	127
1204	衛生土器	(愛・ 難)	A 1 b a	洞開3 4.0K	II-2層	-	(3.60)	-	4.40	底部	内面ナガナガ。内面ハケ・ナガナガ。内面中央に隕 あり。底筋中心に黒膜	3mm以下石粗砂を多く 含む		50	127
1205	衛生土器	(難・ 難)	A 1 a + a	洞開3 4.0K	II-2層	-	(4.60)	-	(6.30)	底部	外縫ナガナガ。内面ハケナガナガ	1.5mm以下砂利含む。 角開孔多く青雲日暮含む	調査益A	50	127
1206	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 a + a	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.60)	-	5.90	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。内面ナガナガ。 外縫ナガナガ。底筋側面多くハケ有り。底面に木板被 覆あり。	2mm以下砂利少含む 地の可能性 もあり		50	127
1207	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 b a	洞開3 1.5K	II-2層	-	(3.85)	-	5.90	底部	内面ナガナガ。内面ハケナガナガ。底筋ナガナ ガ。	2mm以下砂利・赤色粒子 含む		50	127
1208	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 a + a	洞開3 3.5K	II-2層	-	(3.80)	-	5.30	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。内面ナガナガ。 底筋ナガナガ。外縫ナガナガ	2mm以下砂利含む		50	127
1209	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 a + a	洞開3 1.5K	II-2層	-	(5.60)	-	5.25	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。内面ナガ。 縫合ナガナガ。内面ハケナガナガ。	0.5～2mm程の砂利と小石 を含む		50	127
1210	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 a + a	洞開3 4.0K	II-2層	-	(3.05)	-	4.90	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。内面ナガナ ガ。中央が盛り込む	粗砂を少含む		50	127
1211	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 b a	洞開3 3.5K	II-2層	-	(2.80)	-	4.25	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。底筋ナガナ ガ。底筋ナガ	0.5～1.5mm程の砂利を含 む		50	127
1212	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 a + a	洞開3 5.0K	II-2層	-	(6.70)	-	4.70	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。内面ナガナ ガ。内面調整不規則	1mmの小石と粗砂を多く 含む		50	128
1213	衛生土器	(愛・ 難)	A 2 a + a	洞開3 1.5K	II-2層	-	(4.60)	-	(5.70)	底部	ヨコハケ成形後各縫合ナガナガ。内面ナガナ ガ。内面調整不規則	粗砂を多く含む		50	127+ 128

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	基高	腹径	底径						
1214	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.65)	-	4.90	底部 完全	タキ成形で内部イナダ後輪らにヘミガタ。底面に小さな凹みがある。	0.5~2mmの砂粒を含む	50	127	
1215	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.20)	-	4.35	底部 7/8	タキ成形で内部イナダ(イナダ)。ドーナツ状上げ底に近く、接地面に木製底や底面に粗筋がある。	0.5~1mmの砂粒を含む	50	127	
1216	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β2	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.35)	-	3.90	底部 2/3	タキ成形で底面イナダ。中央が僅む上げ底で木製底後ナゲ加える。	粗筋を多く有する	50	127	
1217	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β3	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(5.20)	-	4.30	底部 完全	タキ成形で底面外周にビオサ。内部ハケ・イナダ。中央が僅む上げ底で底部端部はコブ整形。	石面など1.5mm以下砂粒、6mmの大砂粒含む	50	128	
1218	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.50)	-	3.90	底部 完全	タキ成形で底面外周にビオサ。内部ハケと底に施す。	粗砂を少許含む	50	128	
1219	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.55)	-	3.40	底部 完全	タキ成形で外面イナダ加え。内部ハケを底に施す。	1mmの砂粒を含む	50	128	
1220	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(2.45)	-	3.15	底部 完全	外面ナゲ、内面ハケで底面整形が軽く、底面は浅いが底面はドーナツ状で接地面に木製底がある。	粗砂を少許含む	50	128	
1221	弥生土器	(變・ 土器)	A 3 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(6.15)	-	6.15	底部 完全	タキ成形後外周ハケをヘリ・ガタ。内面ハケで内面整形はビオサ。底面に木製底。内面に粗筋。	粗砂が多く含む	50	128	
1222	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.50)	-	6.75	底部 完全	タキ成形で底面外周に輪を底に押付けるよう裏面に盛り起し、内面ハケ。表面に粗筋と木製底があり。	粗砂が多く含む	50	128	
1223	弥生土器	(變・ 土器)	A 3 ± α	圓周 3 4.1K	II-2層	-	(3.60)	-	2.60	底部 完全	材料物の内部調整難不順、内面は細かいハケ。部分的に浮遊感と粗筋。	2mm以下の砂粒含む	50	128	
1224	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β1	圓周 3 1.2-1K	II-2層	-	(5.85)	-	3.95	底部 完全	タキ成形後外周ユビオサ。底面外周ユビオサハ、ドーナツ状上げ底で底面ビオサナゲ。	石面など1.5mm以下砂粒含む	50	128	
1225	弥生土器	(變・ 土器)	A 3 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.65)	-	3.70	底部 完全	タキ成形後外周ナゲ・ユビオサ。内面イナダ。底部ナゲ。	石面など1.5mm以下砂粒含む	50	128	
1226	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.65)	-	(6.00)	底部 1/4	タキ成形後内面ハケ。ドーナツ状上げ底。内面と外周底部に粗筋。	1mmの砂粒を含む	50	128	
1227	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.10)	-	3.95	底部 完全	タキ成形で底面外周ユビオサハ。内面にもタキナゲ。	2.5mm以下砂粒含む	50	128	
1228	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.90)	-	4.10	底部 完全	タキ成形後内面粗筋の累積ハケ。内面追加分もハケか。低いドーナツ状上げ底で木製底残る。外面に粗筋。	2mm以下の砂粒含む	50	128	
1229	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1-1.4K	II-2層	-	(2.70)	-	4.15	底部 完全	タキ成形で内面イナダ。ドーナツ状上げ底で底面全体に粗筋がある。	5mm以下砂粒含む	50	128	
1230	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β2	圓周 3 4.1K	II-2層	-	(2.60)	-	4.35	底部 完全	タキ成形で底面外周ユビオサハ。内面ユビオサニエナゲ。底面ケタリにより中央押む上げ底。	粗砂が多く含む	50	128	
1231	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 4.1K	II-2層	-	(3.20)	-	3.30	底部 完全	タキ成形で外周にナゲ加える。底部外周ユビオサハ。ナゲ。内面ケタリ。	3mm以下石粒-粗砂を多く含む	50	129	
1232	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(2.85)	-	3.90	底部 完全	タキ成形で外面にナゲ加える。底面外周ユビオサニエナゲ。	粗砂を多く含む	50	129	
1233	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 4.1K	II-2層	-	(6.75)	-	2.85	底部 完全	タキ成形で底面半分はドーナツ状。もう半分は平底で外周動土を押し込んだように見える。	9.5~2mmの砂粒を含む	50	129	
1234	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.60)	-	(3.75)	底部 完全	タキ成形でタキナゲ。底面外周はドーナツ状。低いドーナツ状上げ底で接地面に木製底残る。	1mm以下の小石と粗砂を多く含む	50	129	
1235	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.30)	-	3.90	底部 完全	タキ成形で外周の間にナゲ加える。内面ハケまたはイナダ。低いドーナツ状上げ底。	2mm以下の石面など含む	50	129	
1236	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.55)	-	(4.30)	底部 1/2	タキ成形後外周ナゲ。内面ハケ。ドーナツ状上げ底。底面にはシラリ目。外周に粗筋。	2mm以下の砂粒含む	50	129	
1237	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β2	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.90)	-	3.70	底部 完全	内面イナダ。底面外周ユビオサハ。内面ハケ後底面ビオサナゲ。内面ナゲナゲ。	0.5~2.5mmの砂粒を含む	50	129	
1238	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(4.00)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後外周ナゲ。底面半分はドーナツ状。底面には低いドーナツ状上げ底に見え、周囲から少し中央押む上げ底に見える。	粗砂を少許含む	50	129	
1239	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(3.60)	-	3.60	底部 完全	タキ成形後ナゲ。内面ナゲ・イナダ。外周に粗筋。	2mm大石粒-粗砂を多量に含む	50	129	
1240	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± α	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(2.70)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後底面輪らにイナダ。内面ハケナゲ。底面に2回タキナゲ。	粗砂を多く含む	50	129	
1241	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.2-1K	II-2層	-	(2.95)	-	2.80	底部 完全	タキ成形後ナゲナゲ。内面ハケで底部附近にシリヤリ目。外周に粗筋。	石面など3mm以下砂粒含む	50	129	
1242	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(2.95)	-	3.00	底部 完全	タキ成形後外周タキナゲ消す。内面ハケ。ドーナツ状上げ底。外周に粗筋。	粗砂を多く含む	50	129	
1243	弥生土器	(變・ 土器)	A 2 ± α	圓周 3 1.2-1K	II-2層	-	(2.60)	-	2.65	底部 完全	外面ナゲ・底面外周ユビオサハ。内面イナダ。底面にはナゲナゲ。	1mm以下砂粒を少許含む	50	129	
1244	弥生土器	(變・ 土器)	A 1 ± β1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(2.90)	-	3.20	底部 完全	タキ成形で内面イナダ後ヘミガタ。低いドーナツ状上げ底。	0.5~1mmの砂粒を含む	50	129	
1245	弥生土器	(變・ 土器)	B 1	圓周 3 1.1K	II-2層	-	(5.10)	-	3.65	底部 完全	タキ成形で底面周囲は壁方向タキナゲで底面に施す。内面ナゲ。底面に粗筋。	5mm以下石粒を少許含む	50	129	

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	特徴	地土	備考	面積	有無
						口径	基高	腹径	底径						
1266	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	A 1 ± a	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.70)	-	3.30	外縁ハケ調整、内面ハケ後ハケ等。外縁に黒斑 等。	0.5~1.5mmの砂粒を含む	山林系	51	129
1267	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	A 3 ± a	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.10)	-	3.15	外縁イナダ後～ハミガミ調整、内面イナダ等。 外縁に黒斑あり	0.5~1mmの砂粒を含む	造の可能性 もあり	51	129
1268	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	A 1 ± a	流域 3 1.1K	II-2層	-	(4.50)	-	(2.90)	内面ナガ調整か、内面イナダ等。底面中央肩下僅む がほぼ平滑でハケ等々。底面に黒斑	2mm以下の中砂少含む	山林系	51	129
1269	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	A 1 ± a	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.00)	-	2.90	外縁イナダ等ハミガミ調整で底面もナダ。内面イナダ等。 外縁に黒斑あり	粗砂少～細砂多く含む	山林系	51	129
1270	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	B 2	流域 3 1.1K	II-2層	-	(5.60)	-	2.90	タクマ成形で底面もタキ加える。内面ヒビオサス- ナダ。外縁上部に横付着	2mm以下の砂粒、赤色粘子 含み、角閃石、全表面黒斑 含む	調査系B	51	130
1271	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	B 1	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.10)	-	2.70	タクマ成形後内面輪郭方向へラミガキ。内面輪郭方向 等。内面に黒斑あり	粗砂少～多含む、細網な 角閃石黒斑	造の可能 性あり	51	129
1272	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	B 1	流域 3 4.1K	II-2層	-	(2.30)	-	1.70	内面輪郭方向のイナダ。内面底盤にシボリ目。	3mm大石粒～粗砂多く含む	造の可能 性あり	51	129
1273	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	B 2	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.45)	-	1.95	タクマ成形後外縁ナダイナダ。内面イナダ等。 内面に黒斑	0.5~1.5mmの砂粒を含む	色調では 区別系	51	129
1274	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	A 2 a ± 31	流域 3 4.1K	II-2層	-	(3.70)	-	2.75	裏(1)底盤で底盤外側ナダ。底盤は中央が荒れており て、極めてハミガミ等のアーチ状に底盤上に張る。体部内 外面ハケ調整。外縁に黒斑あり	2mm以下の砂粒含む	山林系	51	130
1275	衛生土器 ～土器類	流域	D 1	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.25)	-	(6.90)	輪台面 体部外縁ハケ等ラクスア。内面イナダ等ヒビオサス- ナダ。輪台面内面ヒビオサスヒコヨダ	2mm以下の中砂含む	山林系	51	130	
1276	衛生土器 ～土器類	流域	D 1	流域 3 5.1K	II-2層	-	(3.60)	-	(4.70)	輪台面 体部外縁ナダ。内面イナダ等。輪台面ヒビオサス- ナダ。外縁黒斑	0.5~1.5mmの砂粒を多 く含む	二次根植 なし	51	130	
1277	衛生土器 ～土器類	流域	D 2	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.55)	-	4.60	輪台面タクマ成形で内面ヒナダ等。輪台面内面ヨ コヨダ	石面など1mm以下の中砂含む	二次根植 有無不明	51	130	
1278	衛生土器 ～土器類	輪台面	輪台面	輪台面 3 1.1K	II-2層	-	(1.30)	-	-	底盤 輪台面。ヨコヨダ形でビスピナチャク。	2mm以下の砂粒含む	二次根植	51	130	
1279	衛生土器 ～土器類	流域	(愛・ 林)	A 2 a ± 32	流域 3 4.1K	II-2層	-	(4.70)	-	2.90	タクマ成形で底面外縁ヒビオサスヒコヨダ。内面ナダ 等。中央が僅かに上げ面でユコ成形か。二次 根植なし	3mm以下石粒～粗砂少含む	廃棄土器 の可能性	51	130
1280	衛生土器 ～土器類	薺	不明	流域 3 1.1K	II-2層	-	(4.80)	-	-	つまみナダ等～部ハケ等。内面ハケ等ナダ。 内面に黒斑あり	粗砂少含む。砂粒を多く含 む	山林系	51	130	
1281	衛生土器 ～土器類	薺	B	流域 3 1.1K	II-2層	10.30	5.00	-	-	ヨリ縁盤 2/2 ヨリ縁盤 2/2	外縁ハラニギ、内面ハケ。11.0部ヨリナダ。つま み部分ヨリナダ調整。外縫部対称位置に黒斑あり	2mm以下の砂粒含む	山林系	51	131
1282	衛生土器 ～土器類	薺	不明	流域 3 1.1K	II-2層	-	(3.60)	-	-	つまみナダ 充てん	タクマ成形で外縫ハケ加える。内面ハラニギ。 つまみ部分ヨリナダ調整。	2mm以下の中砂含む	造の可能 性あり	51	130
1283	衛生土器 ～土器類	薺	不明	流域 3 4.1K	II-2層	-	(3.30)	-	-	つまみナダ 充てん	内面ハラニギ。	山林系	51	131	
1284	衛生土器 ～土器類	流域	不明	流域 3 4.1K	II-2層	-	(3.10)	-	-	底盤 底盤差	内面ハラニギ調整。下端等に黒斑または集塵の底 盤あり。角閃石等の黒斑あり。内面に黒斑	山林型輪 石置き	51	130	
1285	衛生土器 ～土器類	窓坪	A 2	流域 3 1.1K	II-2層	(25.20)	(4.80)	-	-	1/2縁盤 下	外縫部内面は横・斜張するヨリナダ。内面はヨリ ナダ後ハラニギ。内面に黒斑あり	1mm以下小石と粗砂を多 く含む	山林型輪 石置き	51	131
1286	衛生土器 ～土器類	窓坪	A 1 b	流域 3 1.1K	II-2層	(23.40)	(4.20)	-	-	1/2縁盤 1/8	外縫部内面ヨリナダでは横・斜張するヨリナダ。外縫部内面 ハラニギ。外縫部ヨリナダ等の黒斑あり	微細な金星雲、角閃石黒斑	調査系B	51	131
1287	衛生土器 ～土器類	窓坪	A 5 b	流域 3 4.1K	II-2層	(12.70)	(3.90)	-	-	縫直刺離の前側調整	3mm以下の不純～粗砂を多 く含む	山林系	51	131	
1288	衛生土器 ～土器類	窓坪	B	流域 3 4.1K	II-2層	(16.50)	(4.70)	-	-	縫直刺離 2/2	縫直刺離前側面に縫直離 4 条。縫縫部ヨリナダ。 タクマ成形後底盤内面ハラニギ。下端ハラニギ 等。外縫部黒斑	3mm以下の中砂少含む	山林系	51	131
1289	衛生土器 ～土器類	窓坪	C 1	流域 3 4.1K	II-2層	(21.60)	(4.00)	-	-	縫縫部ヨリナダ 1/10	縫縫部ヨリナダ。内面ヨリナダ等の黒斑あり。ヨリナ ダ後ハラニギ。内面に黒斑あり	1mm以下の中砂含む	北近畿 (丹波) 山林系	51	131
1290	衛生土器 ～土器類	窓坪	E	流域 3 4.1K	II-2層	-	(3.10)	-	-	体部 縫縫部外縫部等	縫縫部外縫部等、外縫部上部等に黒斑等の黒 斑あり。外縫部ヨリナダ等の黒斑あり	0.5~1mmの砂粒を含む	山林系	51	131
1291	衛生土器 ～土器類	窓坪	D 2	流域 3 1.1K	II-2層	(12.00)	(3.50)	-	-	縫縫部ヨリナダ 1/8	縫縫部ヨリナダ等の黒斑あり。縫縫部内面ヨリナ ダ後ハラニギ。外縫部ヨリナダ等の黒斑あり	2mm以下の砂粒含む。粗砂 な金属等を多く含む	調査系C	51	131
1292	衛生土器 ～土器類	窓坪	D 1	流域 3 1.1K	II-2層	(15.50)	(3.30)	-	-	縫縫部ヨリナダ 1/6	縫縫部ヨリナダ等の黒斑あり。縫縫部内面ヨリナ ダ後ハラニギ。縫縫部ヨリナダ等の黒斑あり	1mm以下の小石と多 く含み。粗砂な金属等を含む	調査系C	51	131
1293	衛生土器 ～土器類	窓坪	流域	流域 3 1.1K	II-2層	-	(4.60)	-	-	縫縫部 底盤差	内面内縫ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等が多く ある。縫縫部外縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	0.5~1.5mmの砂粒を多 く含む	造の可能 性あり	51	132
1294	衛生土器 ～土器類	窓坪	A 1 a	流域 3 1.1K	II-2層	(19.60)	(3.10)	-	-	1/2縫縫部 底盤差	縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部外縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	2mm以下の砂粒含む	北近畿 A山系	51	132
1295	衛生土器 ～土器類	窓坪	A 1 a	流域 3 4.1K	II-2層	(17.75)	(3.60)	-	-	1/2縫縫部 底盤差	縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部外縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	2mm以下の砂粒含む	北近畿 A山系	51	132
1296	衛生土器 ～土器類	窓坪	A 2 b	流域 3 4.1K	II-2層	(21.70)	(3.40)	-	-	1/2縫縫部 底盤差	縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部外縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	2mm以下の砂粒含む	北近畿 A山系	51	132
1297	衛生土器 ～土器類	窓坪	B	流域 3 1.1K	II-2層	(21.30)	(3.50)	-	-	1/2縫縫部 底盤差	縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部外縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	2mm以下の砂粒含む	山林系A	51	131
1298	衛生土器 ～土器類	窓坪	B	流域 3 1.1K	II-2層	-	(6.40)	-	(18.30)	縫直刺離	縫直刺離のため縫縫部不規則分岐か。縫縫部内面縫 縫部ヨリナダの上	粗砂を多く含む	山林系B	51	131
1299	衛生土器 ～土器類	窓坪	F	流域 3 1.1K	II-2層	(13.30)	(3.40)	-	-	縫縫部 底盤差	内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	1~2mmの小石を少量含む	山林系B	51	132
1300	衛生土器 ～土器類	窓坪	F	流域 3 4.1K	II-2層	(13.00)	(1.75)	-	-	縫縫部 底盤差	内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	0.5~2mmの砂粒をやや 多く含む	山林系	51	132
1301	衛生土器 ～土器類	窓坪	I 2	流域 3 1.1K	II-2層	-	(2.65)	-	-	縫縫部 底盤差	縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。縫縫部ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等の黒斑等 あり。内面ヨリナダ等の黒斑等の黒斑等	1mm以下の中砂含む	東近畿系	51	132

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	基高	腹径	底径						
1282	排水土器 ～土器類	蓋台	脚部	流路3 1・2(k)	II-2層	-	(3.65)	-	-	脚部 2/5	内部内底部と脚部外底部へカギ。受部内底部と 外底部にベンガラのスリップ塗装	石など2mm以下砂粒 含む	51	131	
1283	排水土器 ～土器類	盖坪	一部のため不規	流路3 4(k)	II-2層	-	(2.65)	-	-	体部 1/8	外面部ハケ後ヨコナダ。内面部ヨコナダ。下部ヨコ ナダ後へカギ	0.5mm級の砂粒を含む	小型器台の可能性 あり	51	132
1284	排水土器 ～土器類	蓋台	G 5	流路3 2(k)	II-2層	II.10	(6.80)	-	-	口縁部 三分	口縁部外底部には少し凹面。受部外底部ヨコナダ。内面へ ヨコナダ。脚部外底部ヨコナダ。底部内面ハケ。 既定往6mmの通孔を3方向に開けた	2mm以下の砂粒・赤色粘土 含む	52	132	
1285	排水土器 ～土器類	蓋台	G 3	流路3 1(k)	II-2層	(9.50)	(2.70)	-	-	口縁部 三分	口縁部底部には少し凹面。受部外底部ヨコナダ。内面へ ヨコナダ。脚部外底部ヨコナダ。底部内面ハケ。 既定往6mmの通孔を3方向に開けた	既定往を多く含み、角開石 少しある	溝端正C	52	132
1286	排水土器 ～土器類	蓋台	G 2	流路3 1(k)	II-2層	(9.40)	(3.25)	-	-	口縁部 三分	口縁部底部には少し凹面。受部外底部ヨコナダ。内面へ ヨコナダ。脚部外底部ヨコナダ。底部内面ハケ。 既定往6mmの通孔を3方向に開けた	3mm以下の砂粒含む	52	132	
1287	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 蓋台	流路3 1(k)	II-2層	-	(7.25)	-	13.5	脚部 完全	外面部表面無し。底部タケハケ後へカギ。内面 ヨコナダで脚部にハケ。尾端下方に付し灰斑	2mm以下の砂粒・赤色粘土 含む	52	132	
1288	排水土器 ～土器類	盖坪	脚部	流路3 1・4(k)	II-2層	-	(4.40)	-	(10.30)	脚部 1/12	外面部表面無し。脚部横方ハケ2つカギ。脚部内 部ヨコナダ。既定往6mmの通孔4方向	2mm以下砂粒含む	52	133	
1289	排水土器 ～土器類	盖坪	脚部	流路3 1(k)	II-2層	-	(6.30)	-	(15.35)	脚部 1/8	脚部外底部、内面ハケとヨコナダ。既定往4mm の通孔2箇所あれば	既定往Aの 脚部か	52	132	
1290	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 蓋台	流路3 4(k)	II-2層	-	(4.70)	-	(11.70)	脚部 1/8	脚部前面に一条の縫合線。上部に脚部。脚部内面ハケ。 既定往6mmの通孔2箇所	砂粒を多く含む	52	133	
1291	排水土器 ～土器類	蓋台	脚部	流路3 1(k)	II-2層	-	(6.00)	-	(12.90)	脚部 1/4	上端は脚部横方ヨコナダ。内面ヨコナダ。内面ナ ダ。既定往8mmの通孔2箇所	0.5~1mmの砂粒を含む 蓋台G 1・ G 2の脚	52	133	
1292	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 蓋台	流路3 B 1	II-2層	-	(4.90)	-	(14.80)	脚部 1/6	外面部ハケ上半ヨコナダ。内面ハケ。脚部内面 ヨコナダ。既定往1箇所既存	2mm以下の砂粒を含む	52	133	
1293	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 B 1	流路3 4(k)	II-2層	-	(5.40)	-	(14.30)	脚部 1/4	内面ナダ。外面部タケハケ後ヨコナダ。既定往1cm の通孔4箇所	0.5~1mmの砂粒を多く含む	52	133	
1294	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 蓋台	流路3 1(k)	II-2層	-	(5.40)	-	(12.10)	脚部 1/10	外面部タケハケ。内面底部脚部削除。脚部内面ハケ。 既定往8mmの通孔2箇所	1mmの小石と砂粒を多量に 含む	52	133	
1295	排水土器 ～土器類	脚台	A	流路3 1(k)	II-2層	-	(3.40)	-	(10.60)	脚部 1/10	外面部ハケ2つカギ。内面底部削除。脚部内面外 部ヨコナダ。外面部混迷	4mm以下砂粒含む	52	134	
1296	排水土器 ～土器類	脚台	A	流路3 4(k)	II-2層	-	(5.50)	-	(10.30)	脚部 1/2	外面部ナダ。脚部内面ヨコナダ	脚部砂を多く含む	52	134	
1297	排水土器 ～土器類	蓋台	脚部	流路3 1(k)	II-2層	-	(6.30)	-	(10.30)	脚部 1/2	受部内面ナダ。内面ハケ。脚部外面部へカギ。内 面ナダ。既定往4mmの通孔2箇所	蓋台G 5 の脚か	52	134	
1298	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 蓋台	流路3 A 2	II-2層	-	(1.80)	-	(12.80)	脚部 1/6	脚部ヨコナダ。外面部ヨコナダ。内面ハケ後ナダ。 既定往1cmの通孔6箇所か。脚部に混迷	1.5mm以下の砂粒含む	52	133	
1299	排水土器 ～土器類	脚台	A	流路3 4(k)	II-2層	-	(2.45)	-	(9.30)	脚部 1/4	外面部ハケとヨコナダ。内面ナダ	青苔など2mm以下砂粒 含む	52	133	
1300	排水土器 ～土器類	盖坪	脚(脚)部 蓋台	流路3 B 2	II-2層	-	(2.00)	-	(11.00)	脚部 1/5	内面ヨコナダ。内面ハケ後少	0.5~1.5mmの砂粒を含 む	52	133	
1301	排水土器 ～土器類	蓋台	脚(脚)部 蓋台	流路3 A 2	II-2層	-	(1.70)	-	(12.90)	脚部 1/6	外面部ナダ。内面ハケ。脚部内面ヨコナダ。既定 往8mmの通孔2箇所既存。4方向	2mm以下の砂粒・赤色粘土 含む	52	133	
1302	排水土器 ～土器類	盖坪	脚部	流路3 1・2(k)	II-2層	-	(6.20)	-	-	脚柱部 完全	脚部内面ナダ。外面部ハケ2つカギ。脚部外面部 ヨコナダ。既定往4箇所	5mmの小石と砂粒を多く 含む	52	134	
1303	排水土器 ～土器類	甕	B 6	流路3 2・3(k) 4(k)	II-1層	(20.30)	(2.70)	-	-	口縁部 1/6	口縁部内面ヨコナダ。底部内面ヨコナダ で内面に縫合线条多数入る。外面部に保有者。外 面底部混迷	1mm以下小石と砂粒を多 く含む	北近畿系 II	52	134
1304	排水土器 ～土器類	甕	B 4	流路3 4(k)	II-1層	(14.90)	(2.75)	-	-	口縁部 1/4	口縁部底部削除。口縁部内面ヨコナダで内面は ヨコナダ。既定往4mmの通孔2箇所	3mm以下の砂粒・赤色粘土 含む	52	134	
1305	排水土器 ～土器類	甕	B 3	流路3 2・3(k) 4(k)	II-1層	(4.85)	(2.65)	-	-	口縁部 1/6	口縁部面に複数縫合の継ぎを発見する。口縁部内面ヨ コナダで内面に縫合线条多数入る。既定往4箇所	粗砂少、細砂を多く含 む	52	134	
1306	排水土器 ～土器類	甕	B 1	流路3 4(k)	II-1層	(15.90)	(4.85)	-	-	口縁部 1/8	口縁部面に凹凸。ダマリ成形。体部と内面ハ ケ。口縁部外面部ヨコナダ	6.5~2mmの砂粒を含む	52	134	
1307	排水土器 ～土器類	甕	D 1	流路3 1(k)	II-1層	(17.60)	(4.90)	-	-	口縁部 1/10	口縁部底部削除。口縁部内面ヨコナダで内面は ヨコナダ。既定往4mmの通孔2箇所	細砂を多く含む	52	134	
1308	排水土器 ～土器類	甕	H 5	流路3 1・2(k) 4(k)	II-1層	(12.30)	(3.00)	-	-	口縁部 1/6	口縁部面に凹凸。既定往4箇所。内面はハケ後。タ ダマリ成形既存。口縁部内面ヨコナダで内面は ヨコナダ。既定往4mmの通孔2箇所	1mm以下の小石を多く含む	52	134	
1309	排水土器 ～土器類	甕	B 1	流路3 1・2(k) 4(k)	II-1層	(14.60)	(3.20)	-	-	口縁部 1/8	タケヨリ成形既存。内面ハケ後カギ。口縁部内 面ヨコナダ	1mmの小石と砂粒を多量に 含む	色調H調 既定D	52	134
1310	排水土器 ～土器類	甕	B 1	流路3 1・2(k) 4(k)	II-1層	(14.70)	(3.30)	-	-	口縁部 1/6	口縁部面に凹凸。既定往4箇所。内面はハケ後カ ギ。内面ヨコナダ	2mm以下の砂粒中藏含む	52	134	
1311	土器類	甕	B 2	流路3 2・3(k) 4(k)	II-1層	(4.30)	(4.50)	-	-	口縁部 1/4	口縁部面に凹凸する。口縁部外底部ヨコナダ で内面はハケ後カギ。内面はハケ後ヨコナダ。既定 往4箇所既存	粗砂少、細砂を多く含む	52	134	
1312	排水土器 ～土器類	甕	B 2	流路3 3・5(k)	II-1層	(13.90)	(3.10)	-	-	口縁部 1/6	口縁部面に凹凸。既定往4箇所。内面はハケ後ヨ コナダ	3mm以下の砂粒含む	52	134	
1313	排水土器 ～土器類	甕	B 2	流路3 4(k)	II-1層	(14.80)	(3.10)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナダ。肩部外底部ヨコナダ。内面ハ ケヘリヨコナダ	3mm以下の砂粒含む	52	134	
1314	排水土器 ～土器類	甕	A 1	流路3 2・3(k) 4(k)	II-1層	(14.80)	(4.60)	-	-	口縁部 1/9	タケヨリ成形既存。内面ハケ後カギ。内面ヨ コナダ。既定往4箇所既存	3mm以下の砂粒含む	52	134	
1315	排水土器 ～土器類	甕	A 1	流路3 2・3(k) 4(k)	II-1層	(16.80)	(4.30)	-	-	口縁部 1/8	表面粗粒・剥離。口縁部内面ヨコナダ。体部タ クダヨコナダ	4mm以下砂粒多く含む	52	134	
1316	排水土器 ～土器類	甕	A 1	流路3 1・2(k) 4(k)	II-1層	(15.80)	(4.10)	-	-	口縁部 1/8	タケヨリ成形既存。内面ハケ後ヨコナダ。内面ヨ コナダ。既定往4箇所既存	1mmの小石と砂粒を少量化 1/2	52	135	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)			残存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版	
						口径	高さ	腹径							
1317	衛生土器	便	A 1	直筒3 4×1K	II-1層	(14.30)	(3.90)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で底部内面の方柱ヘタギリ。口縁部内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	0.5~1mm程の砂粒を多く含む	北近畿系 A	32	135
1318	衛生土器	便	A 1	直筒3 2×4K	II-1層	(9.50)	(5.05)	-	-	口縁部 1/9	口縁部外側ヨコナダ。底部外側ヨコナダハタゲ。	2mm以下の砂粒・赤色粘土	北近畿系 A	32	135
1319	衛生土器	便	C 7	直筒3 4×1K	II-1層	(14.00)	(3.50)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面に3条の凹窓。タキ成形で口縁部内面ヨコナダ。	0.5~2mm程の砂粒を含む	北近畿系 A	32	135
1320	衛生土器	便	C 7	直筒3 1×2×1K	II-1層	(15.40)	(3.70)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側に3条の凹窓。タキ成形で口縁部内面ヨコナダ。	0.5mm程の砂粒を含む	北近畿系 A	32	135
1321	衛生土器	便	C 7	直筒3 4×1K	II-1層	(13.60)	(3.30)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側面ヨコナダ。口縁部内面ヨコナダ。	0.5~2mm程の砂粒を含む	北近畿系 A	32	135
1322	衛生土器	便	C 5	直筒3 2×3 1K	II-1層	(13.70)	(5.90)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	粗砂を少し含む	北近畿系 A	32	135
1323	衛生土器	便	C 5	直筒3 2×3 1K	II-1層	(14.70)	(4.10)	-	-	口縁部 若干	口縁部内面は直面で脚窓構造の縦い線入る。タキ成形で口縁部内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	粗砂を少し含む	北近畿系 A	33	135
1324	衛生土器	便	C 5	直筒3 5×1K	II-1層	(15.95)	(4.05)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面横に3条の凹窓。タキ成形で口縁部内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	2mm以下の砂粒含む	北近畿系 A	33	135
1325	衛生土器	便	C 3	直筒3 2×3 1K	II-1層	(13.30)	(3.30)	-	-	口縁部 1/10	口縁部内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	1mm以下の小石を少量含む	北近畿系 A	33	135
1326	衛生土器	便	C 1	直筒3 4×1K	II-1層	(11.40)	(5.35)	-	-	口縁部 若干	タキ成形で底部内面ヨコナダ。口縁部内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	3mm以下の砂粒含む	北近畿系 A	33	135
1327	衛生土器	便	C 2	直筒3 2×3 1K	II-1層	(13.70)	(2.50)	-	-	口縁部 若干	タキ成形で底部内面ヨコナダ。	粗砂を多く含む	北近畿系 A	33	135
1328	衛生土器	便	C 2	直筒3 2×3 1K	II-1層	(18.00)	(2.20)	-	-	口縁部 1/10	口縁部内面横に3条の凹窓。内面ヨコナダ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	北近畿系 A	33	135
1329	衛生土器	便	C 4	直筒3 2×3 1K	II-1層	(14.80)	(5.80)	-	-	口縁部 1/6	タキ成形で底部内面ヨコナダ。口縁部内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	3mm以下粗砂類、砂粒含む	北近畿系 A	33	135
1330	衛生土器	便	F	直筒3 1×2×1K	II-1層	(15.30)	(3.80)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面横に3条の凹窓。内面ヨコナダ。	0.5mm程の砂粒を含む。圓錐的な底面丸く、金葉目微細穴。	湖底系 A	33	135
1331	衛生土器	便	F	直筒3 5×1K	II-1層	(16.40)	(3.05)	-	-	口縁部 1/6	口縁部内面横に3条の凹窓。内面ヨコナダ。	2mm以下の砂粒含む。鐵錆色の角石多く含む	湖底系 A	33	135
1332	衛生土器	便	A 6	直筒3 4×1K	II-1層	(14.80)	(4.40)	-	-	口縁部 1/8	内面ヨコナダで脚窓。金葉目多く入る。	0.5~1mm程の砂粒を多く含む	山脈系 A	33	135
1333	衛生土器	便	E	直筒3 4×1K	II-1層	-	(5.35)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面に条溝入る。口縁部外側内面ヨコナダ。内面ヨコナダ右方向へタギリ。	山脈系 A	33	135	
1334	土器皿	便	D 5	直筒3 4×1K	II-1層	(12.00)	(6.10)	-	-	口縁部 1/2	器表剥離・崩壊により調査不明	布留原川 隣に岩	33	135	
1335	衛生土器	便	D 1	直筒3 4×1K	II-1層	(21.60)	(3.05)	-	-	口縁部 1/6	口縁部剥離により3条の凹窓。内面ヨコナダ。	2mm以下の砂粒・赤色粘土	33	136	
1336	衛生土器	便	A 3	直筒3 4×1K	II-1層	(13.10)	(4.55)	-	-	口縁部 1/8	器表や内面ヨコナダ。口縁部内面ヨコナダ。底部内面ヨコナダ。	1mmの砂粒を含む	33	136	
1337	衛生土器	便	A 3	直筒3 1×2×1K	II-1層	(11.40)	(4.70)	-	-	口縁部 若干	器表剥離・崩壊。底部内面ハタガキ。口縁部下端にヒトコマヒタガキ埋込	0.5~1.5mm程の砂粒を含む	33	136	
1338	衛生土器	便	A 1	直筒3 5×1K	II-1層	(15.90)	(6.65)	-	-	口縁部 1/4	器表剥離・崩壊、調整不明	赤色望天 砂	33	136	
1339	衛生土器	便	A 3	直筒3 2×4×1K	II-1層	(14.80)	(5.10)	-	-	口縁部 1/8	口縁部外側内面ヨコナダ。内面ヨコナダ。	2mm以下の砂粒含む	33	136	
1340	衛生土器	便	A 5	直筒3 4×1K	II-1層	(21.00)	(3.30)	-	-	口縁部 1/4	タキ成形後口縁部内面ヨコナダで、底部下部はヨコハタ。外側下部ヒンコマヒタガキ。	3mm以下の砂粒・赤色粘土	岩谷の河 垂れ岩	33	136
1341	衛生土器	便	A 7	直筒3 4×1K	II-1層	(26.90)	(3.95)	-	-	口縁部 若干	外側表面剥離のため調査不平。内面ヨコナダと思われる。	0.5~1.5mm程の砂粒をやや多く含む	33	136	
1342	衛生土器	便	不明	直筒3 2×3 1K	II-1層	-	(3.00)	-	-	断面 1/6	口縁部内面ヨコナダヘルマガキ。	4mm以上の大砂粒含む	33	136	
1343	衛生土器	便	不明	直筒3 1×2×1K	II-1層	-	(4.00)	-	-	断面 1/6	内面ヨコナダ剥離。内面タタケで要塞部分にもヨコナダアツタタケが加えまる。	0.5~1.5mm程の砂粒を含む	天地産の 可能性あり	33	136
1344	衛生土器	便	B 4	直筒3 4×1K	II-1層	(13.80)	(4.70)	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナダヘルマガキ後ヨコナダで底部内面ハタガキ。	2mm以下の砂粒含む	北近畿系 A 豊か	33	137
1345	衛生土器	便	C 1	直筒3 1×2 1K	II-1層	(18.30)	(4.20)	-	-	口縁部 1/12	口縁部ヨコナダヘルマガキ	1mm以下の小石を少し含む	北近畿系 A	33	137
1346	衛生土器	便	C 2	直筒3 2×4×1K	II-1層	(12.45)	(3.30)	-	-	口縁部 1/5	タキ成形で口縁き出し仕様。口縁部外側ヨコハタヨコナダ。	3mm以下の砂粒含む	33	137	
1347	衛生土器	便	D 5	直筒3 4×5×1K	II-1層	(16.00)	(3.85)	-	-	口縁部 1/4	口縁部内面ヨコナダ。底部外側ヨコナダヘルマガキ。	3mm以下の砂粒含む	33	137	
1348	衛生土器	便	H	直筒3 2×4×1K	II-1層	(18.30)	(4.00)	-	-	口縁部 1/8	手すり成形で、外面にヒル割れ多数。ユビオサエヨコナダヘルマガキ。	3mm以下の砂粒含む	33	137	
1349	衛生土器	便	-	直筒3 5×1K	II-1層	(12.25)	4.70	3.30	-	口縁部 若干	内面ヨコナダが施設後口縁部内面ヨコナダヘルマガキ状況	2mm以下の砂粒・赤色粘土	ミニホ ア	33	137
1350	衛生土器	便	苔台	A 1b	直筒3 4×1K	II-1層	-	(3.95)	-	-	口縁部 若干	内面ヨコナダが施設後口縁部内面ヨコナダヘルマガキ状況	0.5~2mm程の砂粒を多く含む	33	137
1351	衛生土器	便	不明	直筒3 2×3 1K	II-1層	-	(1.90)	-	-	口縁部 小片	口縁部ヨコナダ内面ヨコナダヘルマガキ。緑面を少しごとに開いてある。	3mm以上2個、緑面を少しごとに個体か	33	137	
1352	衛生土器	便	不明	直筒3 2×3 1K	II-1層	(17.00)	(2.40)	-	-	口縁部 若干	口縁部ヨコナダ内面ヨコナダヘルマガキ後ヨコナダ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	33(1)同 個体か	33	137
1353	衛生土器	便	苔か	直筒3 5×1K	II-1層	-	(3.15)	-	-	体部 若干	ナダ外側面に施設支承。裏状のような堆積を解剖。頭部。底部か	2mm以下の砂粒含む	33	137	

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	基高	腹径	底径						
1354	新生土器	林	B	圓筒3 4孔	II-1層	(11.90)	3.75	-	-	口縁部 1/9	タキ成形後外面ナゲ。内面ナゲ。口縁部内外面コナダガム。	3mm以下の砂粒含む		53	136
1355	新生土器	林	A 4	圓筒3 4孔	II-1層	(8.60)	4.40	-	1.70	口縁部 1/9	タキ成形後外面ハゲ。内面ナゲ・スピオサス。需素の回り多く立つ。	0.5~2mmの砂粒含む		53	136
1356	新生土器	製塙 土器	圓筒3 4孔	II-1層	(11.90)	3.90	-	-	口縁部 1/9	内面表面粗鈍。外面ナゲ。外面上に粘土結合部が明顯に残る。前面二段被覆により多孔立つ。	2mm以下の砂粒含む		53	137	
1357	新生土器	林	D 1	圓筒3 4孔	II-1層	(10.80)	(2.30)	-	-	口縁部 小片	口縁部前面に凹凸がある。内面底面コナダグム。	2mm以下の砂粒含む	葉片の可 能性もあ る	53	137
1358	新生土器	林	E 2 本種	圓筒3 1~2孔	II-1層	(10.40)	(3.10)	-	-	口縁部 1/6	口縁部前面に凹凸がある。内面底面コナダグム。口縁部外側にタキ成形後下部に張り出しがある。	0.5~1mmの砂粒含む		53	137
1359	新生土器	近鉢	D 2	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(5.10)	-	(4.20)	底部 はげ 突出	タキ成形後外側にタキ成形後底面ナゲ。内面ハゲ。脚台部外側スピオサス。底面ナゲで底面に需素が9。	1mm以下の小石と粗砂を多 く含む	蟲の可 能性もあ る	53	138
1360	新生土器	有孔 鉢	H	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(3.40)	-	(3.30)	底部 1/2	タキ成形後内面ナゲ。表面タキ成形後底面ナゲ。内面ハゲ。脚台部外側スピオサス。	0.5~2mmの砂粒・赤色 粘土上に黒い斑点		53	137
1361	新生土器	有孔 鉢	C	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(4.60)	-	(3.35)	底部 1/2	タキ成形後内面ナゲ。表面スピオサス・ナゲ。底面中央に複数の黒い斑点。	1mmの砂粒含む		53	137
1362	新生土器	有孔 鉢	D	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(4.70)	-	-	底部 突出	タキ成形後外側タキ成形後底面ナゲ。内面底面に複数の円孔状孔。上面は広げない。	2mm以下の砂粒含む		54	137
1363	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 5~6孔	II-1層	-	(3.90)	-	5.70	底部 突出	タキ成形後外側タキ成形後底面ナゲ。内面ナゲ。内面底面に複数の円孔状孔。上面は広げない。	3mm以下の砂粒含む		54	138
1364	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 1孔	II-1層	-	(3.05)	-	(6.00)	底部 1/2	タキ成形後外側ナゲ。底面にタキ成形後。外側に黒斑。	1mmの小石と粗砂を多 く含む		54	138
1365	新生土器	(變・ 土器)	A 2 b ± 2	圓筒3 4~5孔	II-1層	-	(4.00)	-	4.10	底部 突出	内面ハゲ・タキ成形後底面ナゲ。内面黒斑。	2mm以下の砂粒含む。微細 な角状石を含む		54	138
1366	新生土器	(變・ 土器)	A 2 b ± 2	圓筒3 2~4孔	II-1層	-	(3.40)	-	6.90	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ・タキ成形後底面ナゲ。内面ナゲ。底面外側ヘラクシ。中央部上部タキ成形後底面ナゲ。	0.5~2.5mmの砂粒を多 く含む		54	138
1367	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 3 I	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(3.50)	-	4.30	底部 突出	タキ成形後外側底部付近ハゲ。底面外側スピオサス。底面黒斑付近タキ成形後底面ナゲ。	1mm以下の小石を少量含む		54	138
1368	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 3 I	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(3.00)	-	4.60	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ。内面ナゲ。内面底面スピオサス。	0.5~1mmの砂粒含む		54	138
1369	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 3 I	圓筒3 4孔	II-1層	-	(3.10)	-	4.05	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ。内面スピオサス。ドーナツ状底面で中央部はスピオサス。	0.5~1.5mmの砂粒を含 む		54	138
1370	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 4孔	II-1層	-	(3.90)	-	3.60	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ。内面スピオサス・ナゲ。底面外側スピオサス。底面不明斑。	0.5mmの砂粒を含む		54	138
1371	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 5孔	II-1層	-	-	(3.65)	-	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ。内面ハゲ後ナゲ。底面外側スピオサス。底面中心に外側に黒斑。黒斑比較的濃 い。	2mm以下の砂粒含む		54	138
1372	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 2 I	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(3.90)	-	(3.40)	底部 1/2	タキ成形後外側ナゲ。内面ナゲ。内面底面スピオサス。	1mmの小石と粗砂を多く含む		54	138
1373	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 2 I	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(2.70)	-	3.40	底部 突出	内面底面粗鈍。内面スピオサス・ナゲ。底面外側スピオサス。中央が黒むけ底。外側黒斑。	石英など2mm以下の大砂 石を含む		54	139
1374	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 2 I	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(1.80)	-	(3.20)	底部 3/4	底面内面ナゲ。底面外側スピオサス。中央が黒むけ底で底面スピオサス・ナゲ。内面底面粗鈍。	粗砂を多く含む		54	139
1375	新生土器	(變・ 土器)	A 3 ± a	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(3.80)	-	4.40	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ。内面スピオサス・イタナゲ。底面ナゲ。外側に黒斑。	粗砂を少々含む		54	139
1376	新生土器	(變・ 土器)	A 3 ± a	圓筒3 5~6孔	II-1層	-	(2.70)	-	5.20	底部 突出	タキ成形後外側スピオサス・ナゲ。内面ナゲ。底面外側にひびき出る。底面はリコナダ。	2mm以下の砂粒含む		54	139
1377	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± 3 I	圓筒3 4孔	II-1層	-	(3.70)	-	3.90	底部 突出	タキ成形後外側ナゲ。内面ナゲ。底面外側スピオサス。底面ナゲ。外側に黒斑。	0.5~2mmの砂粒を含む		54	139
1378	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 1孔	II-1層	-	(3.20)	-	4.70	底部 突出	タキ成形後外側スピオサス・ナゲ。内面ナゲ。内面底面粗鈍。底面ナゲ。	石英含む3mm以下の大砂 石を含む		54	139
1379	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(3.40)	-	(3.20)	底部 3/4	タキ成形後外側ナゲ。内面ナゲ。底面外側スピオサス。底面ナゲ。外側に黒斑。	粗砂を多く含む		54	139
1380	新生土器	(變・ 土器)	A 1 ± a	圓筒3 4孔	II-1層	-	(3.10)	-	3.30	底部 突出	タキ成形後外側スピオサス・イタナゲ。内面に黒 斑。	0.5~1mmの砂粒を含む		54	139
1381	新生土器	(變・ 土器)	A 1 ± 2 I	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(3.95)	-	3.45	底部 突出	タキ成形後外側スピオサス・ナゲ。内面ハゲ。中央部が若干隆む底で。底面に木板痕。	2mm以下の大砂石を含む		54	139
1382	新生土器	(變・ 土器)	A 1 ± 2 I	圓筒3 2~3孔	II-1層	-	(5.60)	-	(3.20)	底部 1/2	タキ成形後外側スピオサス・ナゲ。内面表面粗鈍。中央部が若干隆む底で。底面ナゲ。	4mm以下の大砂石を含む		54	139
1383	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 2~4孔	II-1層	-	(4.70)	-	3.60	底部 突出	内面ナゲハゲ。外側の凸凹多い。底面外側スピオサス・ナゲ・ナダ。	2mm以下の砂粒・赤色粘子 含む		54	139
1384	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(2.40)	-	(3.40)	底部 突出	タキ成形後外側スピオサス・ナゲ。内面ナゲ。内面底面粗鈍。底面に木板痕。	1mm以下の砂石を多く含む		54	139
1385	新生土器	(變・ 土器)	A 2 ± a	圓筒3 1~2孔	II-1層	-	(2.70)	-	(2.90)	底部 突出	タキ成形後底面ナゲ。内面ナゲ。内面底面粗鈍。底面に木板痕。	粗砂を多く含む		54	139

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	基高	腹高	底深						
1366	弥生土器	壺	A 2 ≈ a	深鉢 3 5×3 5cm	II-1層	-	(2.49)	-	3.30	底部 完全	外縁指向方向のイタナダ、内面は荒削りのよう、外縁部に凹溝あり。器腹上面は較軟的削。	3mm以下Vの約少量含む、燃燒した當貝少量。当縁石難観む	54	139	
1367	弥生土器	壺	A 3 ≈ β	深鉢 3 5×6 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	(2.95)	底部 2/3	タキ成形後外縁ハケ付ナダ消し。内面ハケ後に外縁ユビサエ、中央部が磨かれて底面ナダ。	2mm以下Vの砂粒含む	54	139	
1368	弥生土器	壺	A 1 ≈ 31	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(5.60)	-	4.60	底部 三分	タキ成形後外縁ハケ付ナダ消し。内面ハケ後に外縁ユビサエ、中央部が磨かれて底面ナダ。	0.5mm程の砂粒と小石を含む	54	139	
1369	弥生土器	壺	A 1 ≈ 31	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.10)	-	4.00	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ消し。内面ハケ。ドーナツ状上部は残り、内面に凹溝あり	0.5~2mm程の砂粒を含む	54	139	
1370	弥生土器	壺	A 1 ≈ 32	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.20)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後外縁ハケ付ナダ消し。内面ハケ。中央から少し歪む上部で、底面ケズ付ナダ。	1mmの小石を少量含む 地の可能性もあり	54	139	
1371	弥生土器	壺	A 3 ≈ 32	深鉢 3 4×6 5cm	II-1層	-	(3.45)	-	3.90	底部 完全	内面ハケ。底部外縁ユビオサエ、内面ナダ。中央が歪む上部に底面ナダ。	0.5~2mm程の砂粒を含む	54	139	
1372	弥生土器	壺	A 1 ≈ 31	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	(2.70)	底部 2/3	タキ成形後外縁ナダ消し、内面ハケ。ドーナツ状上部は残り、内面に凹溝あり	2mm以下石少量化、粗砂を多く含む	54	139	
1373	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.45)	-	3.75	底部 完全	タキ成形で内面はイタナダ。底面に微細な不規則凹溝あり。外縁に凹溝	0.5~1mm程の砂粒を含む	54	139	
1374	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	-	(3.60)	-	3.90	底部 完全	タキ成形で外縁ハケ付ナダ消し。内面イタナダ。底面長さ0.5~1.0cm。幅約2mmの棒付	0.5~1.5mm程の砂粒を含む	54	140	
1375	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(2.50)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ付。タケナダで削す。内面イタナダ。底面は不調整、器壁比較的薄い。外縁に凹溝	砂粒少量化	54	140	
1376	弥生土器	壺	B 3	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(3.10)	-	3.10	底部 完全	タキ成形で底面も内面も内面イタナダ。ユビオサエ。底面歪む。外縁に凹溝	3mm以下Vの砂粒含む	54	140	
1377	弥生土器	壺	B 1	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	-	(4.80)	-	1.35	底部 完全	タキ成形で外縁歪形付ナダ。内面イタナダがナダ付。内面上部に凹げ外面上部に黒斑	1mmの砂粒を含む	54	138	
1378	弥生土器	壺	B 1	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(6.10)	-	2.10	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ付し、内面横断面にナダ付。底面付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	0.5~1mm程の砂粒を多く含む	54	138	
1379	弥生土器	壺	B 2	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(3.40)	-	2.15	底部 完全	タキ成形で外縁部付外縁タキにより七角形になる。内面イタナダ、ユビオサエ。内面底面	0.5~2.5mm程の砂粒をやや多く含む	54	140	
1380	弥生土器	壺	B 2	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(4.40)	-	(2.10)	底部 2/3	タキ成形後外縁ナダ付し、内面横断面にナダ付。丸底付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	砂粒少量化	54	140	
1381	弥生土器	壺	B 3	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.70)	-	1.60	底部 完全	タキ成形後外縁ハケナダ付。内面イタナダ。丸底付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	0.5~1mm程の砂粒を含む	54	138	
1382	弥生土器	壺	C 2	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(3.40)	-	3.40	底部 完全	タキ成形後外縁ハケ調整。内面ハラフリ化。	3mm以下の砂粒含む。外縁石難観	54	140	
1383	弥生土器	壺	A 1 ≈ γ	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	(3.30)	底部 1/3	内面ハラフリ。内面ユビオサエ。ナダ。底面ナダ。	1mm以下の砂粒含み。角削多量含む。金糸目微塵含む	54	140	
1384	弥生土器	壺	A 1 ≈ γ	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(2.10)	-	(3.60)	底部 1/3	内面ユビオサエ。ナダ。底面ナダ。	1mm以下の砂粒含み。微細な角削が多く含む。金糸目微塵含む	54	140	
1385	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.60)	-	3.60	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ付。内面イタナダ。底面に凹溝	石難観系Aの可能性あり	54	140	
1386	弥生土器	壺	B 3	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.70)	-	1.60	底部 完全	タキ成形後外縁ハケナダ付。内面イタナダ。丸底付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	0.5~1mm程の砂粒を含む	54	138	
1387	弥生土器	壺	C 2	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(3.40)	-	3.40	底部 完全	タキ成形後外縁ハケ調整。内面ハラフリ化。	3mm以下の砂粒含む。外縁石難観	54	140	
1388	弥生土器	壺	A 1 ≈ γ	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	(3.30)	底部 1/3	内面ハラフリ。内面ユビオサエ。ナダ。底面ナダ。	1mm以下の砂粒含み。角削多量含む。金糸目微塵含む	54	140	
1389	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.60)	-	3.60	底部 完全	タキ成形後外縁ハケ付ナダ。内面イタナダ。底面付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	石難観系Aの可能性あり	54	140	
1390	弥生土器	壺	B 3	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.70)	-	1.60	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ付。内面イタナダ。丸底付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	0.5~2.5mm程の砂粒をやや多く含む	54	140	
1391	弥生土器	壺	B 1	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	-	(4.80)	-	1.35	底部 完全	タキ成形後外縁ハケ付ナダ。内面ナダ。	0.5~2mm程の砂粒を含む	54	138	
1392	弥生土器	壺	B 1	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	(2.70)	底部 2/3	タキ成形後外縁ナダ付。内面ハケ。ドーナツ状上部は残り、内面に凹溝	2mm以下石少量化、粗砂を多く含む	54	129	
1393	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.45)	-	3.75	底部 完全	タキ成形で内面はイタナダ。底面に微細な不規則凹溝あり。外縁に凹溝	0.5~1mm程の砂粒を含む	54	129	
1394	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	-	(3.60)	-	3.90	底部 完全	タキ成形で外縁部にハケ付ナダ。内面イタナダ。底面長さ0.5~1.0cm。幅約2mmの棒付	0.5~1.5mm程の砂粒を含む	54	140	
1395	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(2.50)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ付。タケナダで削す。内面イタナダ。	砂粒少量化	54	140	
1396	弥生土器	壺	B 3	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(3.10)	-	3.10	底部 完全	タキ成形で底面にも内面も内面イタナダ。ユビオサエ。底面歪む。外縁に凹溝	3mm以下Vの砂粒含む	54	140	
1397	弥生土器	壺	B 1	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	-	(4.80)	-	1.35	底部 完全	タキ成形で外縁部付外縁タキにより七角形になる。内面イタナダがナダ付。	1mmの砂粒を含む	54	138	
1398	弥生土器	壺	B 1	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(6.10)	-	2.10	底部 完全	タキ成形後外縁ナダ付し、内面横断面にナダ付。底面付付はビビサエ。内面黒斑付	0.5~1mm程の砂粒を多く含む	54	138	
1399	弥生土器	壺	B 2	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(3.40)	-	2.15	底部 完全	タキ成形で外縁部付外縁タキにより七角形になる。内面イタナダ、ユビオサエ。内面底面	0.5~2.5mm程の砂粒をやや多く含む	54	140	
1400	弥生土器	壺	B 2	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(4.40)	-	(2.10)	底部 2/3	タキ成形後外縁ナダ付。タケナダ。内面ハケを削す。	砂粒少量化	54	140	
1401	弥生土器	壺	B 3	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(4.70)	-	1.60	底部 完全	タキ成形後外縁ハケナダ付。内面イタナダ。丸底付付はビビサエ。内面黒斑付外縁に薄く保付	0.5~1mm程の砂粒を含む	54	138	
1402	弥生土器	壺	C 2	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(3.40)	-	3.40	底部 完全	タキ成形後外縁ハケ調整。内面ハラフリ化。	3mm以下の砂粒含む。外縁石難観	54	140	
1403	弥生土器	壺	A 1 ≈ γ	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	(3.30)	底部 1/3	内面ハラフリ。内面ユビオサエ。ナダ。底面ナダ。	1mm以下の砂粒含み。角削多量含む。金糸目微塵含む	54	140	
1404	弥生土器	壺	A 1 ≈ γ	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(2.10)	-	(3.60)	底部 1/3	内面ユビオサエ。ナダ。底面ナダ。	1mm以下の砂粒含み。角削多く含む。金糸目微塵含む	54	140	
1405	弥生土器	壺	A 1 ≈ a	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(6.60)	-	-	底部 1/3	底付付はビビサエ。内面ユビオサエ。ナダ。	石難観系Aの可能性あり	54	140	
1406	弥生土器	壺	D 3	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	-	(3.10)	-	(3.00)	底部 1/3	外縁イタナダか~ハラフリ。内面イタナダか。脚部外縁ナダ付。	石難観系Aの可能性あり	54	140	
1407	弥生土器	壺	D 1	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.60)	-	(3.95)	底部 1/3	タキ成形後外縁ナダ付。内面イタナダが複数剥離状態。	1mm以下の小石を少量化	54	141	
1408	弥生土器	壺	D 1	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.30)	-	3.65	底部 1/3	タキ成形後外縁ナダ付。内面イタナダが複数剥離状態。	1mm以下の砂粒を多く含む	54	140	
1409	弥生土器	壺	D 1	深鉢 3 2×3 5cm	II-1層	-	(3.60)	-	(4.90)	底部 1/3	タキ成形後外縁ナダ付。内面ハケ。	石難観系Aの可能性あり	54	140	
1410	弥生土器	壺	D 2	深鉢 3 2×4× 5cm	II-1層	-	(4.55)	-	9.90	底部 1/2	タキ成形後外縁ナダ付。内面イタナダが複数剥離状態。	0.5~1.5mm程の砂粒を含む	54	141	
1411	弥生土器	壺	A	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	-	(5.60)	-	(10.50)	底部 1/2	内面底付付はビビサエ。内面ハラフリ。底付付はヨコナダ。	3mm以下の砂粒、赤色粒子含む	54	141	
1412	弥生土器	壺	D	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	(13.60)	7.70	-	-	底部 1/2	タキ成形後外縁ナダ付。内面底付付はヨコナダ。つまみ部分ユビオサエ・ヨコナダ	3mm以下の砂粒含む	54	141	
1413	弥生土器	壺	A 1 a	深鉢 3 5×6 5cm	II-1層	(18.00)	(2.65)	-	-	底部 若干	内面底付付はビビサエ。内面ハラフリ。	1mmの大石と角削を多量に含む	55	141	
1414	弥生土器	壺	A 5 b	深鉢 3 1×2× 5cm	II-1層	(16.30)	(2.80)	-	-	底部 1/8	内面底付付はビビサエ。内面ハラフリ。	2mm以下の砂粒含む	55	141	
1415	弥生土器	壺	A 7	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	(17.00)	(2.20)	-	-	底部 1/10	内面底付付はビビサエ。	1mmの大石と角削を多量に含む	55	141	
1416	弥生土器	壺	A 1 b	深鉢 3 4×5 5cm	II-1層	(28.30)	(3.10)	-	-	底部 1/8	内面底付付はビビサエ。	内面ハラフリ。	55	141	
1417	弥生土器	壺	A 1 b	深鉢 3 2×3× 5cm	II-1層	(17.00)	(1.75)	-	-	底部 1/16	内面底付付はビビサエ。	内面ハラフリ。	石難観系Aの可能性あり	55	141

番号	種別	種類	難型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	高さ	幅員	底深						
1408	衛生土器	便器	A 2x	洗頭 3 4×5	II-1層	(21.50)	(3.45)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋ハケ、底面部の縦溝	II縫隙部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋ハケ、底面部の縦溝	2mm以下の中砂含む	北岩礫系A	55	141
1409	衛生土器	便器	F	洗頭 3 1×2.5	II-1層	(17.40)	(2.20)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋ハケ、底面部の縦溝	II縫隙部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋ハケ、底面部の縦溝	1mm以下の小石を少量含む	北岩礫系B	55	141
1410	衛生土器	便器	B	洗頭 3 4×5	II-1層	-	(5.90)	-	-	底部	底部で底部剥離、底面が入るヨコナダ。底部内面ヘラカズリ、外蓋部・底面部ヨコナダ	0.5~1mm程の砂粒を含む	山麓系B	55	141
1411	衛生土器	便器	不明	洗頭 3 3×6.5	II-1層	(15.15)	(2.80)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋部・底面部ヨコナダ	0.5~1mm程の砂粒を含む	山麓系B かく器台以外から	55	141	
1412	衛生土器	便器	G 1	洗頭 3 4×5	II-1層	(8.50)	(2.50)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋部・底面部ヨコナダ	2mm以下の中砂含む	55	141		
1413	衛生土器	便器	G 1	洗頭 3 2×4	II-1層	(8.25)	(2.20)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋部・底面部ヨコナダ	1mm以下の新砂含む	55	141		
1414	衛生土器	林	A 5の U縁部	洗頭 3 2×3	II-1層	(7.60)	(2.65)	-	-	口縁部外表面ヨコナダ、受部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、外蓋部・底面部ヨコナダ	1mmの小石を少量含む	55	141		
1415	衛生土器	林	洗頭 3 4×5	II-1層	-	(4.70)	-	(12.30)	-	底部	脚部外表面に7条の浅い凹筋、脚部内面ヨコナダで平面に凹凸があり、底面部に細かい凹凸がある。口縁部・受部内面ヨコナダで平面に凹凸があり、底面部に細かい凹凸がある。	0.5~1.5mm程の砂粒を含む	山麓系C	55	142
1406	衛生土器	便器	A	洗頭 3 5×6	II-1層	-	(4.55)	-	(8.40)	脚部	口縁部外表面に7条の凹筋と細かい凹凸、脚部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	2mm以下の中砂含む	55	141	
1427	衛生土器	便器	A	洗頭 3 2×3	II-1層	-	(4.20)	-	(11.00)	脚部	脚部外表面タハケ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	3mm以下の中砂含む	55	142	
1428	脚(鉢)部	鉢 B 1	洗頭 3 2×3	II-1層	-	(3.90)	-	(13.80)	脚縁部	タハケ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、内面ヨコナダでヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~1mm程の砂粒を含む	55	142		
1429	衛生土器	脚(鉢)部	A 2	洗頭 3 5×6	II-1層	-	(3.25)	-	(12.70)	脚部	外縁部ヨコカタハケ、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	2mm以下の中砂含む	55	142	
1430	衛生土器	便器	A 7	洗頭 3 1×2.5	I 層	(25.00)	(12.45)	-	-	口縁部	脚部剥離、崩壊、脚部外表面凹凸不平、底部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~1mm程の砂粒多く、角閃石・雲母少量含む	西端系A	55	142
1431	衛生土器	便器	A 2	洗頭 3 1×2	I 层	(26.60)	(7.00)	-	-	口縁部	口縁部外表面ヨコカタハケ、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~2mm程の砂粒を含む	55	142	
1432	衛生土器	便器	D 3	洗頭 3 1×2	I 层	(15.40)	(3.35)	-	-	口縁部	脚部剥離、崩壊、脚部外表面凹凸不平、底部内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	1mm程の砂粒を含む	北岩礫系 かく	55	143
1433	衛生土器	便器	A 3	洗頭 3 1×1	I 层	-	(5.50)	-	-	口縁部	脚部外表面ヨコカタハケ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~2mm程の砂粒を含む	55	143	
1434	衛生土器	便器	E 1	洗頭 3 1×1	I 层	11.00	14.50	(14.60)	-	口縁部	脚部外表面ヨコカタハケ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ、底部内面ヨコカタハケ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~1mm程の砂粒を多く含む	55	142	
1435	衛生土器	便器	A 1	洗頭 3 2×4.5	I 层	(15.30)	(3.10)	-	-	口縁部	ヨコカタツラニカタナダ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5mm程の砂粒を多く含む	55	143	
1436	衛生土器	便器	C	洗頭 3 2×4.5	I 层	-	(4.10)	-	2.90	口縁部	ヨコカタツラニカタナダ後内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~2mm程の砂粒を含む	55	143	
1437	衛生土器	便器	A 5a	洗頭 3 1×1	I 层	(22.20)	(5.00)	-	-	脚部	脚部外表面剥離し易く、底面上に3条の条溝後ナダ	0.5~1mm程の砂粒を含む	赤色	55	143
1438	衛生土器	便器	A 6	洗頭 3 1×1	I 层	(18.80)	(5.10)	-	-	口縁部	外縁部の理が不明瞭な面、底面剥離、脚部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~1mm程の砂粒を含む	赤色目立つ	55	142
1439	衛生土器	便器	G 1	洗頭 3 2×3	I 层	-	(9.30)	(2.30)	-	口縁部	脚部削減、口縁部・受部内面ヨコカタナダ後ナダ	砂粒含む	55	143	
1440	土師器	便	長糸巻	洗頭 3 2×4.5	I 层	18.65	(25.30)	(21.50)	-	口縁部	口縁部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~1.5mm程の砂粒・赤色質土含む	韓式系統 質土質	55	142
1441	土師器	瓶	-	洗頭 3 1×1	I 层	(22.75)	25.90	-	(16.29)	口縁部	口縁部外表面ヨコカタナダ後ナダ	3mm以下の中砂含む	56	143	
1442	衛生土器	便器	-	洗頭 3 2×5	I 层 (茎上 便)	(13.90)	(3.40)	-	-	口縁部	有茎外側面ヨコカタナダ、底部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	初期衛生土器本種式 赤色質土	56	142	
1443	衛生土器	便器	-	洗頭 3 6×6	V下層	-	(2.85)	-	-	天井部	天井部とヨコ縁部の奥にヨコに凹溝、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	0.5~1mm以下の中砂含む	56	144	
1444	衛生土器	便器	-	洗頭 3 6×6	V下層	(0.00)	(2.00)	-	-	口縁部	縁部は少し、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	56	144		
1445	衛生土器	便器	-	洗頭 3 6×6	V下層	-	(3.25)	-	-	口縁部	内外面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	56	144		
1446	衛生土器	便器	口縁～ 体部上半	洗頭 3 2×5	不規	(26.90)	(5.40)	-	-	口縁部	底部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	1~2mmの砂粒・少々黒	56	144	
1447	衛生土器	便器	底部	洗頭 3 6×6	縦管上 上	-	(5.10)	-	(5.60)	底部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	1mm以下の小石と砂粒を多く含む	56	144		
1448	衛生土器	便器	E	洗頭 3 2×5	不規	(15.00)	(3.80)	-	-	口縁部	底部外表面に横筋に沿う、底面が多く入る、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	粗砂含む	山麓系A	56	144
1449	衛生土器	便器	C 5	洗頭 3 4×6	上面	(17.70)	(4.30)	-	-	口縁部	口縁部外表面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	1mmの小石を少し、粗砂含む	北岩礫系 かく	56	144
1450	衛生土器	便器	I	洗頭 3 2×5	不規	(8.80)	(5.10)	-	-	口縁部	内面するヨコカタツラニカタナダ後ナダ	3mm以下の中砂含む	-	144	
1451	衛生土器	便器	底	洗頭 3 3×6	不規	-	(6.35)	-	-	体部	内面に凹凸による2列の凹点、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	1~2mmの砂粒含む	56	144	
1452	衛生土器	便器	底 かく 器台	洗頭 3 3×5	不規	-	(3.20)	-	-	粗砂部	口縁部外表面に斜格子で塗られた複合彫刻文をハラ焼き、内面ヨコカタツラニカタナダ後ナダ	4mm以下の中砂含む	-	144	

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				残存率	柱法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	器高	腹径	底径						
1453	弥生土器 ～土師器	沿行 合・直井	脚部	深路3 3IK	不明	-	(4.70)	-	-	脚柱部 小片	外縁粗部付石に豊富な擦痕。内外面ハケ調整か。 腹径7mmの円形透孔2箇所複数。方向、配置不規	粗砂～細砂を多く含む	-	96	144
1454	弥生土器 ～土師器	林	A 2 b	深路3	不明	(10.40)	6.25	-	3.55	D縫部 1/4 底部 7/8	タタキ成形で内面イタチ。底部外周にビオサエと ナメ。小柄が僅む上げ直	V層出土 5+	96	144	
1455	弥生土器 ～土師器	林か	不明	深路3 3IK	不明	-	(5.05)	-	-	脚柱部 充存	底部・脚柱部外周はタテハケ面へタミガタ。底部内 面ナメ	1～3mmの細粒含む	台付林5+	96	144
1456	弥生土器 ～土師器	有孔 林	E	深路3 4IK	不明	-	(5.20)	-	2.35	底部 充存	底部・脚柱部外周はタテハケ面へタミガタ。底部内 面ビオサエ。	粗砂少、織網砂を多く含む	-	96	144
1457	弥生土器 ～土師器	底部 (壁・ 林)	A 2 a ±2	深路3 3IK	不明	-	(3.95)	-	4.70	底部 充存	タタキ成形後外周にやや緩らにタテハケ。内面リナダと 内面ナメ。底部ハラカ。	3mm以下のみ。表面含む	-	96	144
1458	弥生土器 ～土師器	底部 (壁・ 林)	A 1 ± a	深路3 3IK	不明	-	(4.00)	-	4.70	底部 2/3	タタキ成形後外周表面にタテハケ。内面リナダか。 内面底部堅膜。底部にタタキ跡あり。外面に黒斑	粗砂少、織網砂を多く含む	-	96	144
1459	弥生土器 ～土師器	(壁)	B 1	深路3 4IK	不明	-	(5.05)	-	3.20	底部 充存	タタキ成形で壁の方向推移方向に偏り。外周底部付近 にタタキが加えられ、底部にもタタキ跡す。外面ハケ。 内面全体に保付青	粗砂を少量含む	-	96	144
1460	弥生土器 ～土師器	(壁・ 林)	A 2 ± ±2	深路3 3IK	不明	-	(3.90)	-	4.35	底部 2/3	内面ハケ面へタミガタ。内面リナダなどもタタキ。 底部は比較的薄く、底部外周にビオサエ。中面部が僅む上 げたよう。脚柱部外周ハケ。内面にシザリ目。底部外 面に黒斑あり	織網砂少、織網砂を多く含む	林の可逆性あり	96	144
1461	弥生土器 ～土師器	直井	A 7	深路3 3IK	不明	(12.80)	(8.50)	-	-	D縫部 若干 脚柱部 充存	底部タタキ成形後ナメ。同じ層外周ハケ後ヨコナ メ。内面ヨコナメ後所造内部などにもタテハケタタキ のよう。脚柱部外周ハケ。内面にシザリ目。底部外 面に黒斑あり	1～2mmの砂粒含む	出土層位 不明	96	144
1462	弥生土器 ～土師器	直井	D 1	深路3	抽出面	(15.80)	(4.40)	-	-	D縫部 1/8	塊状外観。基部剥離のため調査等不明	0.5～2mmの砂粒と小石 を含む	褐色	96	144

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	幅員	底厚							
1463	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(30.90)	(6.00)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節、体部外底ナゲ。口縫隙上面 1/2	5mm以下チャート・3mm 以下の高さで充てん	石英	-	145		
1464	衛生土器	便	便1.95D 縦部	横	第5層 (2012)	(30.90)	(3.80)	-	-	1)縫隙 体部外底ナゲビサシ。 2)縫隙コナラ。体部内外 少片	3mm以下石灰へ堆砂を多 く含む	石英	-	145		
1465	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(18.25)	(3.80)	-	-	1)縫隙 体部外底ナゲ上面に網状各条筋、体部内底ナ ゲ少片。 2)外底ハケカ。口縫隙下面に堆砂	3mm以下石灰へ堆砂を少 量含む	石英	-	145		
1466	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(22.80)	(3.40)	-	-	1)縫隙 1/2	6mm以下の砂含む	林の可 能性 もあり	-	145		
1467	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第12層 (3012)	(15.95)	(4.20)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節、外底の縫隙下に10枚の直線直 縫	4mm以下チャート・0.5mm 以上石英	石英	-	145		
1468	衛生土器	便	便1.95D 縦部	横	第5層 (2012)	(15.00)	(3.90)	-	-	1)縫隙 1/2	5mm以下石灰へ堆砂と供 給した多量水を少量含む	石英	-	145		
1469	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(26.60)	(5.60)	-	-	1)縫隙 1/2	3mm以下石灰へ堆砂含む	石英	-	145		
1470	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(31.20)	(3.50)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面に網状各条筋、体部外底タ テ若干。 2)外底ハケカ。内面コナラ	角砂を多く含む	石英	-	145		
1471	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(16.60)	(5.60)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節、外底前部ハケカ、内面ナガヒ ナゲ少片。 2)外底清潔面	1mm以下小石と粗砂を多量 含む	石英	-	145		
1472	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(36.70)	(8.20)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節、外底前部ハケカと具で2個の刺繡針 1/30 又は孔。口縫隙コナラで上端ハケカ。	1mm以下的小石と粗砂を多 量に含む	石英	-	145		
1473	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	(49.50)	(8.40)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面に網状各条筋、内面コナラ 1/2 清潔面。 2)外底ハケカ。内面コナラ	1.5mm以下チャート・石英 他多く含む	石英	-	145		
1474	衛生土器	便	便1.95D 縦部	深筒	第5層 (2012)	-	(5.90)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節、外底前部ハケカ、内面ナガヒ ナゲ少片。	粗砂を多量に含む	石英	-	145		
1475	衛生土器	便か	体部上部	深筒	第1層 (2012)	(10.10)	-	-	-	1)縫隙 鏡片	1mm以下的小石と粗砂を多量 に含む	石英	-	145		
1476	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	-	(4.00)	-	-	1)縫隙 内外面コナラと被覆部分に5条以上の直線直 縫若干。 2)内面ナガヒナゲ	5mm以下での砂粒含むや多く 含む	石英	齒の可 能性 もあり	-	145	
1477	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	-	(3.20)	-	-	1)縫隙 内外面コナラと被覆部分に3条の直線直 縫若干。 2)内面ナガヒナゲ	3.5mm以下の砂粒含む	石英	-	145		
1478	衛生土器	便	体部上部	深筒	第11層 (3012)	(21.80)	(6.50)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/8 鏡片内側ハケ。外表面粗状面	1mm以下チャート・石英多 く含む	石英	-	146		
1479	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	(15.60)	(4.70)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/30 鏡片内側ハケ。外表面粗状面	1mm以下的小石を少量含む	石英	-	146		
1480	衛生土器	便	体部上半	深筒	第5層 (2012)	(22.30)	(8.60)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/10 鏡片内側ハケ。外表面ナガヒナゲ	2mm以下チャート・石英や 多く含む	石英	-	146		
1481	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	(16.30)	(4.10)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/7 鏡片内側ハケ。外表面粗状面	粗砂へ堆砂を多く含む	石英	-	146		
1482	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	(15.00)	(4.80)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/30 鏡片内側ハケで内面ナガヒナゲに沿うにギザ状の ナガヒナゲ	粗砂を多く含む	石英	-	146		
1483	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	(20.60)	(6.40)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/12 鏡片内側ハケ。外表面に堆砂	3.5mm以下での砂粒含む	石英	-	146		
1484	衛生土器	便	体部上部	深筒	第5層 (2012)	(14.60)	(3.30)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節上面はコナラ後に施す。 1/7 鏡片内側ハケ	2mm以下チャート・石英や 多く含む	石英	齒の可 能性 もあり	-	146	
1485	衛生土器	便か	体部上部	深筒	第5層 (2012)	(30.90)	(4.40)	-	-	1)縫隙 内外面コナラ調節で体部内底タハケ後に施す。	粗砂を多く含む	石英	-	146		
1486	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	(19.30)	(4.60)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/6	1)縫隙内面コナラで、端間に細い隙間入る。無 縫隙部内側で端面ハケなし。 2)縫隙部内側コナラで端面に細い隙間入る。 無縫隙部内側ハケで内面ナガヒナゲが見える。 無縫隙部 鏡片付属	粗砂へ堆砂を多量に 含む	-	146		
1487	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	(22.40)	(8.50)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/6	1)縫隙内面コナラで端面に細い隙間入る。 無縫隙部内側ハケで内面ナガヒナゲが見える。 無縫隙部 鏡片付属	石英など2mm以下の砂粒 多く含む	-	146		
1488	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	(22.60)	(11.40)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/6	1)縫隙端面に細い隙子。内面ナガヒナゲ 2)縫隙端面に網状各条筋	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	58	146		
1489	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	(15.70)	(1.50)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/6	1)縫隙端面上平に目列を施し施す。内面ナガヒナ ゲ	1mm以下石灰・長石多く含む	健色	146		
1490	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	(16.80)	(1.30)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/8	1)縫隙大きく外側する。縫隙端面に端面肥厚しない。 無縫隙部 鏡片付属	3.5mm以下の砂粒含む	-	146		
1491	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	-	(8.50)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/4	1)縫隙端面に細い隙間入る。内面ナガヒナ ゲ	1.5mm以下チャート・石英 他の多く含む	58	146		
1492	衛生土器	便か	口縫部	横	第5層 (2012)	-	(5.50)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/5	1)縫隙端面に口縫部端面部に目列を施す。口縫 部若干。 2)内面ナガヒナゲ	1.5mm以下小石と粗砂を多量に 含む	58	147		
1493	衛生土器	便	解剖	横	第5層 (2012)	-	(2.50)	-	-	解剖 鏡片	1)縫隙 鏡片 2/5	1)縫隙端面に細い隙間入る。内面ナガヒ ゲ	1mm以下石灰と粗砂を多量に 含む	58	147	
1494	衛生土器	便	解剖	横	第5層 (2012)	-	(2.90)	-	-	解剖 鏡片 2/14	4 条以上に断面二角形の壳状駆動部。外表面コナラ 内面ナガヒナゲ	1.5mmの小石と粗砂を多く含む	58	147		
1495	衛生土器	便	解剖	横	第5層 (2012)	-	(2.90)	-	-	解剖 鏡片 2/12	3条の壳状駆動部し、奥面に刻目を加える。内面ナ ガヒナゲ	3.5mm以下以下の砂粒 多く含む	-	147		
1496	衛生土器	便	体部	深筒	第5層 (2012)	-	(4.40)	-	-	体部 鏡片 2/14	2条以上の刻目を施し刻目肩押すを加えているよ う。内面ナガヒナゲ、外表面ナガヒナゲ	4.5mm以下以下の砂粒・石英 多く含む	-	147		
1497	衛生土器	便	体部	深筒	第5層 (2012)	-	(2.80)	-	-	体部 鏡片 2/12	2条以上の刻目を施す。内外面ナガヒナ ゲ	3.5mm以下以下の砂粒含む	-	147		
1498	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	-	(2.90)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/2	1)縫隙端面に指面による目列を施す。内外面ナガヒ ゲ	3mm以下チャート・石英他 多く含む	58	147		
1499	衛生土器	便	広口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	-	(2.20)	-	-	1)縫隙 鏡片 2/2	1)縫隙端面に刻目を施す。内外面ナ ガヒナゲ	1.5mm以下チャート・石英、 長石中量	58	147		
1500	衛生土器	便	直口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	(17.00)	(4.55)	-	-	1)縫隙 鏡片 1/2	1)縫隙端面に竹管状原形に沿う3列の列丸を 上に2段以上に施す。内外面コナラベニタガヒ のよう	粗砂少々、粗砂を多く含む	58	147		
1501	衛生土器	便	直口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	-	(6.90)	-	-	鏡片 鏡片 2/5	鏡片端面に竹管状原形に沿う3列の列丸を 上に2段以上に施す。内外面コナラベニタガヒ のよう	4mm以下砂粒・石英含む	-	147		
1502	衛生土器	便	直口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	-	(3.50)	-	-	鏡片 鏡片 2/5	鏡片端面に竹管状原形に沿う3列の列丸を 上に2段以上に施す。内外面コナラベニタガヒ のよう	3mm以下チャート・石英や 多く含む	58	147		
1503	衛生土器	便	直口曲 口縫部	横	第5層 (2012)	-	(6.10)	-	-	鏡片 鏡片 2/5	鏡片端面に竹管状原形に沿う3列の列丸を 上に2段以上に施す。内外面コナラベニタガヒ のよう	2mm以下の中粒含む	58	147		

番号	種別	種種	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	基高	腹径	底径							
1504	衛生土器	便	体部上端	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第11層	-	(6.30)	-	-	底部 小片	表面に多くの網状凹溝又は2段以上に施す。表面ハ ケ面ヨカナザ、内面ナガテ調節	4 mm以下砂利・石英砂 やや多く含む	-	58	147
1505	衛生土器	糞	圓筒	圓筒 1-1 (2013)	第5層 第12層	-	(5.30)	-	-	底部 小片	手取川管より上り下る山形文。直錐文2帯・山形文× 横波文又は、内面ヨカナザ調節	1 mmの小石と粗砂を多く含む	-	58	147	
1506	衛生土器	糞	体部	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(5.50)	-	-	体部 小片	内面に横枝文・直錐文を施す。直下に2列のナ メ条例文を施す。条例は7条か。内面ヨカナザ後ナ ザ	粗砂を多量に含む	-	58	148
1507	衛生土器	糞	肩部	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(4.80)	-	-	肩部 小片	内面に横枝文と直錐文を交互に施す。内面ナ メナガテ調節	堆積砂へ粗砂を多く含む	-	58	148
1508	衛生土器	糞	肩部	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(3.90)	-	-	肩部 若干	肩部外側に横枝文・直錐文を施す。若干に2列のナ メ条例文を施す。内面ナガテ調整	2 mm以下の砂利・石英砂む か	-	58	148
1509	衛生土器	糞	肩部	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(3.90)	-	-	肩部 若干	肩部外側に横枝文・直錐文・例条文・横波文を施す。 内面ヨカナザ調整	2.5 mm以下以下の砂利と 石英砂むか	-	58	148
1510	衛生土器	糞	肩部	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(3.60)	-	-	肩部 若干	肩部外側に直錐文・直錐文を3～4回以上繰 り返し施す。内面調節不明	2.5 mm以下以下の砂利と 石英砂むか	-	58	148
1511	衛生土器	糞	体部下端 ～近底	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第7層 第14層	-	(11.20)	-	-	底部 左方	底部内面ハラニガキで表面は斜面に施す。底面 ヨカナザ、近底に埋設約1.6 cmの孔又は外側から打 せり穿孔。外面に黒墨り	1 mmの小石と粗砂を多量に 含む	-	58	148
1512	衛生土器	糞	体部下端 ～底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第11層	-	(8.90)	-	-	底部 左方	外側ハラニガキ、内面ナガテ。底部外周ヨカナザ 内面黒墨りに変色	1 mmの小石と粗砂を多量に 含む	-	58	148
1513	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(7.00)	-	(5.25)	底盤 1/2	底盤ハラニガキ。内面ナガテ、底面ナガテ。外周二段 傾斜で歩道。外面ナガテ保有者	1.5 mm以下石英砂・長石・ チャート多く含む	-	58	149
1514	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第10層 ～	-	(5.60)	-	(5.45)	底盤 1/2	内面ナガテ。外面へ2次ガラス。内面黒墨りに変 色	1 mm以下チャート・石英砂 やや多く含む	-	58	149
1515	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(6.10)	-	(5.30)	底盤 左方	底盤内面ハラニガキで表面は斜面に施す。底面 ヨカナザ、近底に埋設約1.6 cmの孔又は外側から打 せり穿孔。外面に黒墨り	1 mmの小石と粗砂を多量に 含む	-	58	148
1516	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(5.90)	-	(6.30)	底盤 左方	外側ハラニガキ、内面ナガテ。底盤外周ヨカナザ 内面黒墨りに変色	1 mm以下チャート・石英砂・ 長石多く含む	-	58	148
1517	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(4.00)	-	(6.70)	底盤 左方	底盤ハラニガキ。内面ナガテ。底面は中性細粒 堆積物で黒墨りに変色	1 mm以下石英砂・細砂を多く 含む	-	58	149
1518	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第10層 ～	-	(5.00)	-	(6.00)	底盤 左方	底盤ハラニガキの上より、内面ナガテ、内面黒墨。底 面に黒墨り。外周・底盤保有者	1 mm以下砂利含む	-	58	149
1519	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(4.30)	-	(5.30)	底盤 左方	外周ナガテ後ハラニガキ。内面ナガテ。底盤内 窓付	細砂・堆積砂を多く含む	-	58	148
1520	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(5.40)	-	(5.40)	底盤 左方	外周ナガテ後ハラニガキ。内面ナガテ。中性 細粒堆積物などに成り立つ点で外周に無性5cmの壁等で上 げてある	2 mm以下の砂利・漂母含 む	-	58	149
1521	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(8.40)	-	(8.30)	底盤 左方	外側ハラニガキ。内面ナガテ。底盤はドーナツ状上げ 柱で立てる	1～2 mmの小石と粗砂を多 量に含む	必ず内 	58	149
1522	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(6.90)	-	(6.80)	底盤 左方	外側ハラニガキ。内面ナガテ。底盤は中性細粒 堆積物でハラニガキの上に変色	1 mm以下石英砂・細砂を多く 含む	-	58	149
1523	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(13.70)	-	(12.30)	底盤 若干	底盤ハラニガキ。内面ナガテ底盤ヨコビオサエ 風呂砂・細砂を多く含む	粗砂・細砂を多く含む	-	58	149
1524	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2013)	第11層	-	(7.00)	-	(11.70)	底盤 左方	内面調節等不規則。外側黒墨	1～2 mmの小石と粗砂を多 量に含む	-	58	149
1525	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(5.40)	-	(12.00)	底盤 左方	外側ハラニガキ。内面ナガテヨコビオサエ底盤外周 ドーナツ状で底盤中央は白土で埋め直す	1～2 mmの小石と粗砂を多 量に含む	-	59	149
1526	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(6.30)	-	(6.30)	底盤 左方	外側ハラニガキ。内面ナガテヨコビオサエ底盤外周 ドーナツ状で底盤中央は白土で埋め直す	石英砂と3 mm以下の大砂 多く含む	-	59	150
1527	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(13.70)	-	(13.70)	底盤 若干	底盤ハラニガキ。内面ナガテヨコビオサエ底盤外周 ドーナツ状で底盤中央は白土で埋め直す	石英砂と3 mm以下の大砂 多く含む	-	59	150
1528	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第5層 第12層	-	(5.90)	-	(9.20)	底盤 左方	外側ハラニガキ。内面ナガテヨコビオサエ底盤外周 ドーナツ状で底盤中央は白土で埋め直す	1～2 mmの小石と粗砂を多 量に含む	-	59	149
1529	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2013)	第5層 第12層	-	(15.60)	-	(15.60)	鶴臈 左方	底盤内面ハラニガキ。鶴臈部底盤タケハケ後ハラ ニガキ	2 mm以下の砂利・赤色粘 土	-	59	150
1530	衛生土器	糞	底盤	圓筒	圓筒 1-1 (2012)	第11層 ～	-	(10.15)	-	(10.15)	鶴臈 左方	内面黒墨又は黒墨により調整等不規則。外側ハラニ ガキ	1 mmの小石と粗砂・赤色粘 土を多く含む	-	59	150
1531	衛生土器	糞	鶴臈	A	圓筒 1-1 (2013)	第11層	-	(4.80)	-	(6.60)	鶴臈 左方	内面ナガテ。内面調節不明。少し外反しながら開 く鶴臈	1 mmの小石と粗砂を多 量に含む	-	59	149
1532	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2012)	第4層 下層	(14.90)	(6.00)	-	-	口縁部 若干	口縁部外周面は条理が多く入るヨカナザ。内面ヨカ ナザヨコナザ。脣部内面右方向へカケズ。外側に 保有者	0.5～1 mmの砂利を含む	山陰系 A	59	150
1533	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第4層	(13.70)	(5.50)	-	-	口縫部 小片	口縫部外周面ヨコナザが入るヨカナザ	粗砂を少量含む	山陰系 A'・ 大型か	59	150
1534	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2012)	第4層 下層	(15.30)	(4.10)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザには縫い条理が入る。脣部 内面右方向へカケズ	0.5～1 mmの砂利を多く含む	山陰系 A	59	150
1535	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第1層 第2層	(17.40)	(4.93)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザ。脣部内面右方向へ ハラニガキ	0.5～1 mmの砂利を多く含む	山陰系 A	59	150
1536	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2012)	第4層 下層	(16.40)	(4.10)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザで縫い条理が多く入る。内外 脣部基盤	0.5～1 mmの砂利を含む	山陰系 A'	59	150
1537	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2012)	第4層 下層	(15.30)	(4.15)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザで縫い条理が多く入る。脣部内 面ヨコナザ	0.5～1.5 mmの砂利を含む	山陰系 A'	59	150
1538	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2012)	第4層	-	(4.30)	-	-	口縫部 若干	口縫部ヨコナザで縫い条理が多く入る。脣部内面右 方向へカケズ	0.5～1 mmの砂利を含む	-	59	150
1539	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第1層 第2層	-	(3.75)	-	-	口縫部 若干	口縫部ヨコナザで縫い条理が多く入る	1 mm以下の大砂・石英砂 含む	山陰系 A'	59	150
1540	衛生土器	糞	E	圓筒	圓筒 1-2 (2012)	第4層	-	(3.90)	-	-	口縫部 若干	口縫部ヨコナザで縫い条理多く入り、脣部内面 ヨコナザ	1 mm以下の大砂の砂利含む	山陰系 A'	59	150
1541	衛生土器	糞	A1	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第4層	(13.60)	(6.70)	-	-	口縫部 若干	ヨコナザで内面ヨコナザ。口縫部外周面ヨコナ ザで外側ハラニガキで施す。二次熟熱により底盤黒化 せず	粗砂を多く含む	-	59	150
1542	衛生土器	糞	A1	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第4層	(11.80)	(3.50)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザ。脣部内面右方向へカケズ で施す	1 mmの小石と粗砂を多 量に含む	山陰系 A	59	150
1543	衛生土器	糞	A1	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第4層	(17.30)	(4.40)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザ。脣部内面ヨコナザ。内面 ヨコナザ	粗砂を少量化	-	59	150
1544	衛生土器	糞	A1	圓筒	圓筒 1-2 (2013)	第4層	(14.90)	(5.40)	-	-	口縫部 左方	口縫部外周面ヨコナザ。脣部内面ヨコナザ。内面ヨ コナザで外側ハラニガキで施す。二次熟熱により底盤黒化 せず	0.5～2 mm程の砂利を含む	褐色	59	151

番号	種別	種類	難易度	構構	部位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	基高	腹径	底径						
1545	新生土管 ～土頭部	便	A 1	深掘 1・2	第4層	(12.60)	(4.30)	-	-	1/7	タクシ成形で底径きず仕切。周縁内面ハゲ、底部内面ハゲきずか。口縫部内外面ヨコナガで内面ハゲ。外面ヨコナガで底面	施錆少砂質、砂妙多く含む。外閃石微量。含泥少且つ含む	調査系 A*	59	151
1546	新生土管 ～土頭部	便	B 1	深掘 1・2	第4層	(15.30)	(2.30)	-	-	1/8	口縫部内外面ヨコナガで外面上に細・柔軟が多く入る	施錆少砂質、細錆少多く含む	59	151	
1547	新生土管 ～土頭部	便	B 1	深掘 1・2	第1～ 第2層	(20.40)	(3.60)	-	-	1/9	口縫部内外面ヨコナガで底面ハゲを削除。底部内面ハゲアズミ。口縫部面に黒膜	細錆少砂質、細錆少多く含む	59	151	
1548	土頭部	便	D 5	深掘 1・2	第4層	(14.40)	(3.10)	-	-	1/2	口縫部・端部は場所外に少し削除し表面になる。口縫部内外面ヨコナガで底面を削除する。	5.5～1.5mmの砂妙を含む	59	151	
1549	新生土管 ～土頭部	便	B 1	深掘 1・2	第2層	(14.90)	(3.20)	-	-	1/8	口縫部内外面ヨコナガで底面ハゲを削除。底部内面ハゲアズミ。外面ヨコナガ	0.5～1.5mmの砂妙を含む	59	151	
1550	新生土管 ～土頭部	便	B 1	深掘 1・2	第4層 下層	(21.00)	(3.10)	-	-	1/8	口縫部内外面ヨコナガで外面上に細・柔軟に入れる	3mm以下砂質・粘土含む	-	151	
1551	新生土管 ～土頭部	便	B 3	深掘 1・2	第1層 第2層	(16.80)	(2.10)	-	-	1/8	口縫部・端部は場所外に少し削除し、端部に手削面。口縫部内外面ヨコナガで底面を削除する。	2mm以上砂妙含む	-	151	
1552	新生土管 ～土頭部	便	A 4	深掘 1・2	第4層	(13.70)	(3.60)	-	-	1/6	口縫部・端部は場所外に手削面となる。口縫部内外面ヨコナガで底面を削除する。	1mmの小石と粗砂を多く含む	北近畿系 B	59	151
1553	新生土管 ～土頭部	便	D 3	深掘 1・2	第4層	(19.00)	(7.00)	-	-	1/8	口縫部・端部は場所外に2枚の網・柔軟を削除。底部内面ハゲアズミ。口縫部内外面ヨコナガで外面上に2枚の網・柔軟を削除する。	0.5～1mmの砂妙を多く含む	59	151	
1554	新生土管 ～土頭部	便	F	深掘 1・2	第4層	(12.30)	(2.35)	-	-	1/9	口縫部内外面ヨコナガで外面上に2枚の網・柔軟を削除する。	石糸など3mm以下砂妙含む。微細な開閉孔が多く含む	小型化 調査系 A	59	151
1555	新生土管 ～土頭部	便	体組	深掘 1・2	第4層	-	(11.50)	(3.70)	-	-	1/2	体組外部ハゲカツラ内面は上方側のハゲアズミ。	1mmの小石と粗砂を多く含む	59	151
1556	土頭部	便	体組	深掘 1・2	第3層	-	(15.40)	(8.00)	-	-	1/2	体組外部ハゲカツラ内面は上方側のハゲアズミ。内面全体色赤。外面表面が黄緑色である。	1.5mm以下砂妙含む	59	151
1557	新生土管 ～土頭部	便	A 4	深掘 1・2	第4層	(17.00)	(7.80)	-	-	1/9	口縫部内外面ヨコナガで底面ハゲアズミ。頭部外側タブリ・ハゲアズミ。外面ヨコナガで底面ハゲアズミ。	0.5～1.5mmの砂妙を含む	60	152	
1558	新生土管 ～土頭部	便	A 3	深掘 1・2	第4層	(15.40)	(3.10)	-	-	1/8	口縫部外側面4枚の網・柔軟を削除。口縫部内外面ヨコナガで外面上半分手削ハゲを削除する。	1mmの小石を少量化。粗砂を多く含む	60	152	
1559	新生土管 ～土頭部	便	不明	II型頭	深掘 1・2	第4層	-	(6.30)	-	1/3	頭部外側面4枚の網・柔軟を削除。頭部外側タブリ・ハゲアズミ。	施錆少砂質で相手を多種に含む	60	152	
1560	新生土管 ～土頭部	便	D 3	深掘 1・2	第1～ 第3層	-	(11.90)	(2.30)	-	1/9	頭部外側面は頭部内面は頭部内面ヨコナガで一部ハゲタブリがある。	施錆少砂質で相手を多種に含む	60	152	
1561	新生土管 ～土頭部	便	D 3	深掘 1・2	第1層 第2層	-	(12.70)	(3.10)	-	1/8	タクシ成形が、表面剥離のため調整不明	0.5～2mmの砂妙を含む	60	152	
1562	新生土管 ～土頭部	便	D 2	深掘 1・2	第4層	(21.20)	(6.40)	-	-	1/3	口縫部・端部は場所外に2枚の網・柔軟を削除する。頭部外側ハゲカツラ内面ハゲアズミで削除する。	石糸など1mm以下砂妙含む	東近畿系	60	151
1563	新生土管 ～土頭部	便	D 2	深掘 1・2	第4層	-	(8.60)	-	-	1/2	頭部外側面ハゲハケラミタグリ・頭部と周縁内面ハゲタブリ・外側外部ハゲアズミ	1mmの小石と粗砂を多く含む。頭部系 A	60	151	
1564	新生土管 ～土頭部	便	A 1・5	深掘 1・2	第4層 下層	(16.60)	(5.90)	-	-	1/8	口縫部・端部は場所外に1枚。外面ヨコナガで底面ハゲアズミ。	0.5～1mmの砂妙を含む	60	152	
1565	新生土管 ～土頭部	便	A 1	深掘 1・2	第1層 第2層	-	(14.00)	(4.50)	-	1/6	口縫部外側面4枚の網・柔軟を削除。頭部外側面ハゲアズミで外面上半分手削ハゲを削除する。	1mmの小石を少量化。粗砂を多く含む	60	152	
1566	新生土管 ～土頭部	便	I I	深掘 1・2	第1層 第2層	-	(10.70)	(12.00)	-	1/4	頭部外側面ハゲカツラ内面は上方側のハゲアズミ。	施錆少砂質で相手を多種に含む	60	152	
1567	新生土管 ～土頭部	便	H	深掘 1・2	第1・ 第2・ 第4層	-	(11.70)	(4.90)	-	1/3	頭部外側面ヨコナガ。外面上にハケタブリ。頭部内面ハゲタブリ。	石糸など2mm以下砂妙含む	60	152	
1568	新生土管 ～土頭部	便	H	深掘 1・2	第4層 下層	-	(4.50)	-	1/3	頭部外側面ヨコナガ	1mm以下砂妙含む	-	152		
1569	新生土管 ～土頭部	便	不明	深掘 1・2	第1～ 第3層	-	(4.40)	-	1/3	頭部外側面ハケ状原体による底面漏と波状変形。頭部内面ヨコナガで底面ハゲアズミ。	1mm以下砂妙含む	山陰系 A 西日本部分	-	152	
1570	新生土管 ～土頭部	林	H	深掘 1・2	第4層	(32.40)	(5.20)	-	-	1/3	頭部外側面は頭部内面ヨコナガ。頭部内面ハゲタブリ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	60	153	
1571	新生土管 ～土頭部	林	B	深掘 1・2	第1層 第2層	(13.30)	(6.60)	-	1/4	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを加える。内面イタナデ一部	0.5～1mmの砂妙を多く含む	60	153		
1572	新生土管 ～土頭部	林	E 2	深掘 1・2	第4層	(11.50)	(4.20)	-	-	1/4	口縫部外側面ヨコナガで外面上にハゲアズミ。内面ヨコナガでハゲアズミで底面ハゲを削除する。体組外側面ハゲアズミで底面ハゲを削除する。	2.5mm以下砂妙含む	60	153	
1573	新生土管 ～土頭部	林	C 腹	深掘 1・2	第4層	-	(4.75)	-	(6.30)	1/5	頭部外側面ヨコナガ。頭部内面ヨコナガでハゲアズミ。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	60	153	
1574	新生土管 ～土頭部	有孔	D	深掘 1・2	第4層	-	(8.30)	-	2.10	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを加える。内面イタナデ一部	0.5～2mmの砂妙を含む	60	152		
1575	新生土管 ～土頭部	有孔	D	深掘 1・2	第1～ 第3層	-	(3.30)	-	1.30	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを加える。内面ヨコナガで底面ハゲを削除する。	粗砂を少量化	60	153		
1576	新生土管 ～土頭部	有孔	A 2 b 3	深掘 1・2	第4層	-	(3.65)	-	5.55	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを削除する。	1mmの小石と粗砂を多量に含む	便の可逆性あり	60	153	
1577	新生土管 ～土頭部	有孔	A 3 b 4	深掘 1・2	第4層	-	(3.25)	-	(6.60)	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを削除する。	石糸など1mm以下砂妙含む	便の可逆性あり	60	153	
1578	新生土管 ～土頭部	有孔	A 2 a	深掘 1・2	第4層	-	(3.70)	-	(5.40)	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを削除する。	粗砂を多量に含む	60	153		
1579	新生土管 ～土頭部	A 2 a	A 2 a	深掘 1・2	第4層 下層	-	(3.70)	-	(5.40)	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを削除する。	0.5～1mmの砂妙を含む	60	153		
1580	新生土管 ～土頭部	A 2 a	A 2 a	深掘 1・2	第4層	-	(3.90)	-	4.25	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを削除する。	1mmの小石と少量含む	林の可逆性あり	60	153	
1581	新生土管 ～土頭部	A 3 b a	A 3 b a	深掘 1・2	第4層	-	(5.20)	-	3.35	頭部外側面ヨコナガで外面上半分ハゲを削除する。	石糸・金属性など3mm以下砂妙含む	60	152		

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				堆存率	特徴・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	基高	腹径	底径						
1582	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 2 ± α	圓窓 1-2	第4層	-	(2.60)	-	3.95	底部 完全	タケキ成形後内面ハケ。底面ナデカ チ。ハケ	1mmの小石を少々含む	-	60	153
1583	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 2 ± α	圓窓 1-2	第4層 下層	-	(3.35)	-	3.95	底部 完全	タケキ成形後底部外周ニビオチエ・ナギ。内面イタ ナギ。ハケ	1.5mm以下の大粒・石英 含む	-	60	153
1584	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 1 ± β	圓窓 1-2	第1～ 第3層	-	(2.90)	-	3.79	底部 完全	タケキ成形で内面ハケ。中央が膨む上口底で内を捲 くようにナギ加える	0.5mm以下下粒粗粒、根砂 を少々含む	調査区東 側斜面西 斜面部分	60	153
1585	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 2 ± β	圓窓 1-2	第4層	-	(2.50)	-	3.95	底部 2/3	タケキ成形で外面・部・脚。内面ナデカチ。ドーナ ツ状上げ底で内面はハウオサエ	3mm以上下の砂粒数個、根砂 含む	-	60	153
1586	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 3 ± α	圓窓 1-2	第4層	-	(2.10)	-	4.00	底部 1/4	タケキ成形で内面イタナギ。底面中央部に僅みあり。 底面に木本根	2.5mm以下の大粒の砂含む	-	60	153
1587	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 3 ± α	圓窓 1-2	第4層	-	(2.10)	-	4.00	底部 2/4	外面ナデカチロマギキ。内面ナデカヒラモガキ。 底面に不規則凹凸	4mm以上の大粒含む	-	60	153
1588	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 2 ± α	圓窓 1-2	第4層	-	(4.40)	-	4.90	底部 完全	タケキ成形後外周ナデカチナギ。底部外周ニビオ チエ。内面ナデカチ。底面若干ドーナン発現	3mmの砂含む	鉢の可逆 性あり	60	153
1589	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	C 1	圓窓 1-2	第4層	-	(3.20)	-	4.90	底部 完全	タケキ成形で底面タケキナギ。内面ナデカチ	1mmの小石を多量に含む	-	60	153
1590	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	C 1	圓窓 1-2	第1層	-	(3.20)	-	-	手探れ成形、ユビオサエ・ナギ調整で内面に指紋状 底面微細理。外周に凹凸あり	石英など1mm以下の大粒 少々含む	鉢の可逆 性あり	60	152	
1591	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	B 1	圓窓 1-2	第4層	-	(4.50)	-	2.79	底部 完全	タケキ成形後内面ナデカチロマギキ。内面ヒラモ ガキ。底面に黒斑	根砂を多く含む	-	60	154
1592	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	B 1	圓窓 1-2	第4層 下層	-	(5.85)	-	(3.36)	底部 1/3	タケキ成形後外周ナデカチ。底面にタカタ。内 面に黒斑。外周に黒斑	3mm以下の大粒含む	-	60	154
1593	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	B 1	圓窓 1-2	第4層	-	(2.40)	-	2.70	底部 完全	タケキ成形で外周ノコリタケキ。内面ナデカ チ。ハケ。底面の底は鹿島歌、外周黒斑	3.5mm以下の大粒多く含む 、雲母、石英含む	-	60	154
1594	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 1 ± β	圓窓 1-2	第3層	-	(2.60)	-	2.75	底部 2/4	タケキ成形で外周ノコリタケキ。内面ヒラモ ガキ。底面に黒斑	2mm以下の大粒含む	-	60	154
1595	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	B 3	圓窓 1-2	第4層	-	(2.20)	-	-	底部 完全	内面ナデカチ内面に根筋粗粒。次に被熱に より外周黒斑	根砂少額、細砂を多く含む	-	60	154
1596	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	C 2	圓窓 1-2	第4層	-	(2.00)	-	-	底部 完全	タケキ成形後外周ナデカチ。内面ナデカチ上部は 小片剥離か。外周付着者	細砂へ根砂を多く含む	-	60	154
1597	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	C 2	圓窓 1-2	第4層 下層	-	(2.65)	-	-	内面ナデカチ。外周に黒斑あり	0.5～2mm程の砂含む	-	60	154	
1598	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	D 2	圓窓 1-2	第1層 第2層	-	(3.20)	-	4.00	底部 1/2	外周ナデカチ脚部内面にナデカチ。体部内面イタ ナギのよう。	0.5～1mm程の砂含む	-	60	154
1599	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	B	圓窓 1-2	第4層 下層	(9.60)	4.95	-	-	口縁部 1/8	内面ナデカチ。外周カッコヤシ。つまみ頭上面ナデカ チ一部ハラモガキ。	0.5～2mm程の砂含む	-	60	154
1600	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A	圓窓 1-2	第4層	8.05	(4.45)	-	-	口縁部 2/3	露井剥離により形状不整。つまみ頭上面はナデ カチ	3mm以下の大粒多く含む	-	60	154
1601	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	不明	圓窓 1-2	第4層	-	(5.65)	-	-	外周ヘラモガキでのまみ頭上面はナデカチ。内面ナ デカチ。外周に黒斑あり	根砂少額、細砂を多く含 む	-	60	154	
1602	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	不明	圓窓 1-2	第1～ 第2層	-	(4.25)	-	-	つまみ 2/4	内面ナデカチ。つまみ頭周囲ニビオチエ。上面ナ デカチ。内面調整不明	1.5mm以下の大粒多く含 む。石英含む	調査区東 側斜面西 斜面部分	-	155
1603	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	一部分 のみ	圓窓 1-2	第1層 第2層	-	(4.10)	-	-	部分 1/3	内面ヨコヨリテフリカギキ。所上部ヨコナガ海磯文 模様のハラモガキ。外周に黒斑	根砂を多く含む	鉢色	61	154
1604	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	A 5 a	圓窓 1-2	第4層	(10.30)	(4.90)	-	-	口縁部 1/6	内面内壁に褐色のスリップ能	0.5mmの砂含む	-	61	155
1605	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	D 1	圓窓 1-2	第1層 第2層	(10.50)	(5.10)	-	-	口縁部 1/8	露井剥離により形状不整。脚部内壁に上り剥離 無し。外周に内面ナデカチ	5mmの石1個。細砂を多く含 む	鉢色	61	155
1606	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	一部分 のみ	圓窓 1-2	第4層	-	(6.00)	-	-	脚部 1/8	露井剥離・傾倒のため調整等不整。脚部内壁に指 紋状模様	根砂を含む	-	61	154
1607	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	脚部	圓窓 1-2	第4層	-	(9.85)	-	15.70	脚部 1/2	所内内壁ヘラモガキ。脚部外周ハケ。内面シ リジング。内面に約1cm深の凹孔。脚部内壁ヘラモ ガキ。外壁に内面ヘラモガキ。脚部外周ハケ。内面シ リジング。内面に約1cm深の凹孔。	4.5mmの小石を多く含む 、石英含む	-	61	155
1608	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	脚部	圓窓 1-2	第4層	-	(8.70)	-	-	脚部 1/4	脚部外周ヘラモガキ。内面シリジング。脚部内壁 ヘラモガキ。内面に約1cm深の凹孔。	1mmの小石と細砂を多 量に含む	鉢色	61	155
1609	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	脚部	圓窓 1-2	第4層	-	(8.05)	-	-	脚部 1/4	脚部外周ヘラモガキ。内面シリジング。脚部内壁 ヘラモガキ。内面に約1.5cm深の凹孔。	細砂を多く含む	-	61	155
1610	弥生土器 ～土器類	壺形 (變)	脚部	圓窓 1-2	第4層	-	(10.00)	-	-	脚部 1/4	脚部外周傾倒方向のヘラモガキ。器底内面ヘラモ ガキ。内面に約1.5cm深の凹孔。	1mmの小石と細砂を多 量に含む	鉢色	61	155
1611	弥生土器 ～土器類	器台 A 2 a	圓窓 1-2	第4層	-	(10.30)	(3.10)	-	-	口縁部 1/3	口縁部外周ヨコナガテフリカギキ。器底内面ヘラモ ガキ。内面に約1.5cm深の凹孔。	1mmの小石と細砂を多 量に含む	北岩糞系 A	61	155
1612	弥生土器 ～土器類	器台 A 3	圓窓 1-2	第4層	(28.60)	(5.45)	-	-	-	口縁部 1/7	口縁部外周ヨコナガテフリカギキ。器底内面ヘラモ ガキ。内面に約1.5cm深の凹孔。	石英など2mm以下の大粒 多く含む	北岩糞系 A	61	155
1613	弥生土器 ～土器類	器台 G 3	圓窓 1-2	第4層 下層	(8.10)	(2.50)	-	-	-	口縁部 1/4	口縁部外周ヨコナガテフリカギキ。器底内面ヘラモ ガキ。内面に約1.5cm深の凹孔。	0.5～1mm程の砂含む	-	61	155
1614	弥生土器 ～土器類	器台 G 2	圓窓 1-2	第4層	(8.30)	(2.50)	-	-	-	口縁部 1/6	口縁部外周ヨコナガテフリカギキ。器底内面ヘラモ ガキ。内面に約1.5cm深の凹孔。	0.5～1mm程の砂含む	浅い鉢色	61	155
1615	弥生土器 ～土器類	脚台 A	圓窓 1-2	第4層	-	(5.40)	-	(0.30)	-	脚部 完全	脚部外周ナデカチ。器底内面ヘラモガキ。器底内 面により調整不	1mmの小石を少々含む	-	61	155
1616	弥生土器 ～土器類	壺形 -	圓窓 1-2	第4層	-	(3.70)	-	-	-	全体 難定	全体内面ヘラモガキ。脚部外周に細い条溝多く入る	細砂へ根砂を少々含む	天地逆の 可逆性あり	61	155
1617	弥生土器 ～土器類	壺形	脚部	圓窓 1-2	第4層	-	(5.70)	-	(14.80)	脚部 1/4	タケキ成形後外周上面ナデカチ。脚部内面底面粗粒化 等。脚部外周ヨコナガテフリカギキ。器底内面底面粗粒化 等。脚部内面ヨコナガテフリカギキ。	細砂を多量に含む	基礎Dの 脚部か	61	155

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	基高	腹径	底径						
16018	乳生土器	高环 ～～～～～～	割(部)基 B 2	圓筒 1-2	第1 ～第3層	-	(6.95)	-	(11.15)	鶴卵部 1/3	内面ハゲタガキ。内面内ナタダ。底径8mmの円形透孔を1つ有する。	椎細胞・角質層・全葉身を多く含む	沿岸の砂 分・潮汐系D	61	156
16019	乳生土器	高环 ～～～～～～	割(部)基 B 2	圓筒 1-2	第3層	-	(8.40)	-	(10.40)	鶴卵部 2/5	体外内面ハゲタガキ。端部外側ハゲタガキ後へハゲタガキ。内面ナタダ。端部外側ヨコナタダ。底径1cmの円形透孔を1つ有する。	2mm以下の大粒の砂粒含む	沿岸の砂 分	61	156
16020	乳生土器	脚台	脚部	圓筒 1-2	第4層	-	(4.00)	-	-	脚部 上半	内面ハゲタガキ。下部ヨコナタダかハゲタガキ。内面ハケ	1mm以下の大粒の砂粒含む	沿岸G S の砂	61	155
16021	乳生土器	脚台	脚部	圓筒 1-2	第4層	-	(3.70)	-	-	脚部 下半	内面ナタダ。端部外側ヨコナタダ。底径1.4cmの円形透孔を1つ有する。	1.5mm以下の大粒の砂粒含む	沿岸の砂 分	61	155
16022	乳生土器	脚台	脚部	圓筒 1-2	第1層 ～第2層	-	(1.40)	-	-	脚部 下半	脚部外側ヨコナタダかハゲタガキ。端部外側ヨコナタダ	2.5mm以下の大粒の砂粒多く含む	在来含む	-	155
16023	乳生土器	脚台	脚部	圓筒 1-2	第4層	-	(5.40)	-	-	脚部 下半	内面ハゲタガキ。イタダケ能満能向こハゲタガキ。内面ナタダ。脚部背面にシボリ目。円形透孔の一部3面有性。5.5cmが	3mm以下の大粒の砂粒・石英含む	-	-	155
16024	乳生土器	手短 ～～～～～	脚部 基	圓筒 1-2	第1層 ～第2層	(長6.30)	幅(4.7)	-	-	脚部 鏡片	脚部外側ハゲタガキ。内面ナタダ。上部の横縫合がハゲタガキ。外側ヨコナタダ。縫合は口状の横縫合が入る。外側ヨコナタダ。	0.5～1mm程の砂粒を含む。微細な全葉身含む?	色は黒味 系	61	156
16025	乳生土器	底	広口透 鏡片	圓筒 1-2	第4層	-	(5.50)	-	-	脚部 鏡片	脚部に直面する三角形の葉背脂付し。葉脈に斜め方向の葉脈が走る。葉背脂の下に小さな葉背骨を有し、側面に葉脈が走る。葉背脂表面には網状網状葉脈化。1回葉内内面ハゲタガキ	粗砂少額。細砂を多く含む	-	61	157
16026	乳生土器	底	口縁部	圓筒 1-2	第4層	-	(1.10)	-	-	口縁部 鏡片	木口縁部で縫隙は下外方に曲がる。下面はヨコナタダ	1mm小石と粗砂を多額。石英含む	濱段系B	61	157
16027	乳生土器	底	口縫部 口縫部	圓筒 1-2	第2層 (20.50)	(3.40)	-	-	-	口縁部 鏡片	木口縫部下に縫隙は下外方に曲がる。縫隙部ヨコナタダ	4mm以下の大粒の砂粒・石英含む	-	62	156
16028	乳生土器	発	逆上根 口縫部	圓筒 2 (20.12)	塵土	(24.50)	(3.20)	-	-	口縫部 鏡片	外側ヨコナタダにヨコマサヒナヨコナタダ。根瘤直通直通。内部体外ヨコビオサエ内面ナタダ。外側に保 持する。片付	3mm以下の大粒の砂粒多く含む	-	62	156
16029	乳生土器	発	逆	圓筒 2 (20.12)	塵土	-	(1.45)	-	-	口縫部 鏡片	外側ヨコナタダ。縫隙部に葉脈が認められない	3.5mm以下の大粒の砂粒含む	-	-	156
16030	乳生土器	発	逆	圓筒 2 (20.12)	塵土	-	(3.10)	-	-	体外 鏡片	外側ヨコナタダ下にヨコナタダの葉背脂化。体外部ナタ ダか。前部口縫部と被われる	4mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	156
16031	乳生土器	発か	体部上部	圓筒 2 (20.12)	塵土	-	(6.80)	-	-	体外 鏡片	体外部ヨコナタダ以上半部は葉背脂化。その中に葉 背脂。本筋の葉背脂。外側ヨコナタダ。内面ナタダ	3mmなど4mm以下の大粒の砂粒 含む	-	62	156
16032	乳生土器	發	体部	圓筒 2 (20.12)	上面	-	(6.10)	-	-	体外 鏡片	外側ヨコナタダ。縫隙部に葉脈が認められない	椎細胞を多く含む	-	62	156
16033	乳生土器	發	体部	圓筒 2 (20.12)	第4層	-	(4.50)	-	-	体外 鏡片	外側ヨコナタダ。内面ナタダ	4mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	62	156
16034	乳生土器	發	體	圓筒 2 (20.12)	第4層	-	(2.40)	-	-	脚部 鏡片	脚部背面ヨコナタダ以下の低い葉背脂付。脚部ヨコナタ ダ。内面ナタダ。内面ヨコナタダ。内面黄色色	4.5mm以上の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	156
16035	乳生土器	發	体部	圓筒 2 (20.12)	第5層 ～第6層	-	(2.90)	-	-	体部 鏡片	体部外側ヨコナタダ上の横縫合部付。脚部ヨコナタ ダ。内面ヨコナタダ	3mm以上の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	156
16036	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	(第11 ～13)	-	(11.30)	-	-	脚部 鏡片	脚部下平手部に7mm以上の扁茎付。脚部ヨコナタ ダ。その上に凹状浮きを間隔を空けて斜り。外側ヨコナタ ダ。内面ヨコナタダ。内外とも褐色	1.5mm以下の大粒の砂粒含む	-	62	157
16037	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	第2層 ～第3層	(12.40)	(4.20)	-	-	口縫部 鏡片	大きくなざるするヨコナタダ。縫隙部に葉脈が認められ る。3回葉の横縫合部を有す。7方向か。12 縫隙部ヨコナタダ	椎細胞を多く含む	-	62	157
16038	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	第1層	(20.40)	(3.30)	1/9	-	口縫部 鏡片	脚部下平手部に7mm以上の扁茎付。脚部ヨコナタ ダ。内面ヨコナタダ	3.5mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	157
16039	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	第2層 ～第3層	(34.40)	(2.10)	-	-	口縫部 鏡片	縫隙部を上に紙張する口部で縫隙に2条の開閉。 内面ヨコナタダ調整	2mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	157
16040	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	第1層	-	(17.90)	-	-	底部 定形	外側ヨコナタダ。内面ナタダ。少し上げて底でクリア 化。外側二回次熱熱也崩れあり	1～2mm程の砂粒を多く含む	-	62	157
16041	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	(第11 ～13 層)	-	(3.50)	-	6.95	底部 定形	外側ヨコナタダ底でクリア化。内面ナタダ。底部少し上 げて底でクリア化。外側一面に様。内面に黒い軟 物質付着	石英含む±3mm以下の大粒の砂 粒含む	-	62	157
16042	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	(第11 ～13 層)	-	(4.60)	-	(6.40)	底部 1/2	外側ヨコナタダヨコナタダ。内面ナタダ。底面少し上げて底 でアーティラリ付。内面に黒い軟物質付着	0.5mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	157
16043	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	(第11 ～13 層)	-	(3.05)	-	5.75	底部 定形	外側ヨコナタダ。内面ナタダ。底面少し上げて底でヨコ ナタダ。ナタダ加え。内面に軟物質付着	2mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	157
16044	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	第5層 ～第6層	-	(5.45)	-	11.10	底部 2/3	大粒底面。外側ヨコナタダ後へハゲタガキ。底 ナタダ。内面ヨコナタダ。底面ヨコナタダ。内面ナタダ。	2mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	濱段系D	62	157
16045	乳生土器	發(廢) ～～～～～	A 2 × n	圓筒 2 (20.12)	(第11 ～13 層)	-	(5.30)	-	7.60	底部 1/2	ヨコナタダ成形内面ヨコナタダ。ナタ ダ	6mm以下の大粒の砂粒含む	-	62	157
16046	乳生土器	發	底	圓筒 2 (20.12)	第4層	(5.20)	(6.70)	-	-	土砂附着 鏡片	外側ヨコナタダ。ヨコナタダの左側に横縫合約6mmの開 孔が2つ有る。黒い軟物質用。ラバキモツ理作	1.5mm以下の大粒の砂粒含む	粗用品	62	157
16047	乳生土器	發	A 1	圓筒 2 (20.12)	第2層 ～第3層	(14.90)	(6.65)	-	-	口縫部 鏡片	ヨコナタダ成形口に切開き出しが底部。底部内面ハゲタ ダ。内面ヨコナタダヨコナタダ	1mmの小石を少量。粗砂を多 く含む	-	62	158
16048	乳生土器	發	A 1	圓筒 2 (20.12)	第2層 ～第3層	-	(7.50)	-	-	口縫部 鏡片	ヨコナタダ成形底部外側ナタダとヨコナタダ。内面ナタダ。 内面ヨコナタダヨコナタダ縫隙付有る。底部内面に保 持する。内面に黒い軟物質付着あり	3mm以下の大粒の砂粒・石英含 む	-	-	158
16049	乳生土器	發	A 4	圓筒 2 (20.12)	第2層 ～第3層	(13.20)	(4.40)	-	-	口縫部 鏡片	ヨコナタダ成形内面ヨコナタダヨコナタダ。内面ナタ ダ。内面ヨコナタダ。底面ヨコナタダ	0.5mm以下の大粒の砂粒含む	-	-	158
16050	乳生土器	發	A 1	圓筒 2 (20.12)	第1層	(11.90)	(6.80)	-	-	口縫部 鏡片	ヨコナタダ成形で縫隙付有る。内面ヨコナタダ。内面 ヨコナタダヨコナタダ	1mm以下の大粒の砂粒含む	-	62	158
16051	乳生土器	發	A 1	圓筒 2 (20.12)	第1層	(14.60)	(2.30)	-	-	口縫部 鏡片	口縫部切き出しが底部。口縫部内面ヨコナタ ダ。内面ヨコナタダ。内面ヨコナタダヨコナタダ	1mm以下の大粒の砂粒含む	-	-	158
16052	乳生土器	發	A 4	圓筒 2 (20.12)	第2層 ～第3層	(16.40)	(3.50)	1/8	-	口縫部 鏡片	ヨコナタダ底面で横縫合となる。外側ヨコナタ ダ。内面ヨコナタダ。内面ヨコナタダ。内面ヨコナタ ダ。内面ヨコナタダヨコナタダ	0.5～1mm程の砂粒を多く含む	-	62	158
16053	乳生土器	發	H 5	圓筒 2 (20.12)	第7層	(15.85)	(8.75)	(16.20)	4.30	口縫部 1/2 底部 定形	ヨコナタダ成形外周ヨコナタダ。ナタ。体外内面 ヨコナタダ。内面ヨコナタダ。内面ヨコナタダヨコナタ ダ。内面ヨコナタダヨコナタダ	粗砂を多く含む	-	62	158

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真
						口径	基高	腹高	底径						
1654 糞生土器 ～土壌部	便	C 5	流路 2 (2010)	第 4 層	(12.90)	(16.60)	(12.60)	-	-	口縁部 1/6	タキヨ成形で内面ヨコナリナガヘイタナギヘイガ。口縁部内面ヨコナリヨコナリ。底部入る。外側覆材なし。 2 次洗浄により一部剥離。	3 mm以下石粉少見。粗砂～ 砂利多く含む	北近畿系 A	62	159
1655 糞生土器 ～土壌部	便	C 5	流路 2 (2010)	第 2 層 第 3 层	(17.00)	(4.65)	-	-	-	口縁部 1/7	タキヨ成形後底面下にヨコナリナガヘイナガ。内面ヨコナリ。 ヨコナリ内面ヨコナリヨコナリ。	1 mmの小石と粗砂を少額含む	北近畿系 A	62	158
1656 糞生土器 ～土壌部	便	C 2	流路 2 (2010)	第 4 層	(15.90)	26.80	17.90	2.45	-	口縁部 1/3	タキヨ成形後底面下にヨコナリナガヘイナガ。上半ヨコナリ。 底部入る。内面ヨコナリ後、底部内面に細い条縫付する。 保材充てん。	石英など2 mm以下約の砂粒 含む	北近畿系 A	62	158
1657 糞生土器 ～土壌部	便	C 3	流路 2 (2010)	第 4 層	17.10	26.00	22.25	3.30	-	口縁部 2/3	タキヨ成形から、体部内面を刷毛で拭いた。底部入る。 充てん。底部内面ヨコナリヨコナリ。底部内面に細い条縫付する。 人ら。	石英など2 mm以下約の砂粒 含む	北近畿系 A	62	159
1658 糞生土器 ～土壌部	便	C 5	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(12.30)	(2.40)	-	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナリナガ。外側はヨコナリ。 底部内面に刷毛で拭いた。	粗砂を多く含む	北近畿系 A	62	158
1659 糞生土器 ～土壌部	便	D 3	流路 2 (2010)	第 1 层	15.20	(15.30)	(16.20)	-	-	口縁部 2/3	体部内面ヨコナリ。内面底部方へ向かう。	0.5～1 mm程の砂粒を含む	地色	62	159
1660 糞生土器 ～土壌部	便	D 1	流路 2 (2010)	堆土	(13.00)	(2.80)	-	-	-	口縁部 1/3	タキヨ成形。口縁部内面ヨコナリヨコナリ。底部入る。 2 次洗浄により内面ヨコナリ。	0.5～1 mm程の砂粒を含む	中央混植 幼苗後面	63	159
1661 糞生土器 ～土壌部	便	D 2	流路 2 (2010)	第 4 层	(15.30)	(3.65)	-	-	-	口縁部 1/5	タキヨ成形で底部内面ヨコナリナガ。口縁部内面ヨコナリ。 底部入る。内面ヨコナリ。	石英など2 mm以下約の砂粒 含む	地色	63	159
1662 糞生土器 ～土壌部	便	B 1	流路 2 (2010)	第 4 层	12.00	14.10	-	2.35	ほげ	タキヨ成形後底面下にヨコナリナガヘイナガ。底部内面 ヨコナリビザギ。底部内面ハケナガ。口縁部内面ヨコナリ。	1 mmの小石と粗砂を多量に 含む	地色	63	160	
1663 糞生土器 ～土壌部	便	B 3	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(19.00)	(3.40)	-	-	-	口縁部 1/30	タキヨ成形で口縁部内面ヨコナリナガ。底部内面ヨコナリ。 2 次洗浄により内面ヨコナリ。	1 mmの小石と粗砂を多量に 含む	地色	63	159
1664 糞生土器 ～土壌部	便	F	流路 2 (2010)	堆土	(14.50)	(4.70)	-	-	-	口縁部 1/5	タキヨ成形で底部内面ヨコナリナガ。口縁部内面ヨコナリ。 底部入る。内面ヨコナリ。	0.5～1.5 mm程の砂粒を含む	東四国系 中央混植 幼苗前面	63	159
1665 糞生土器 ～土壌部	便	F	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(15.20)	(6.10)	-	-	-	口縁部 若干	口縁部内面ヨコナリナガ。底部外側ハケナガ。内面ヨコナリ。 若干	1 mm以下的小石と粗砂を多く 含む	山陰系 A 大型	63	159
1666 糞生土器 ～土壌部	便	E	流路 2 (2010)	堆土	(17.40)	(5.45)	-	-	-	口縁部 1/8	タキヨ成形後底面下にヨコナリナガ。内面右方向へ ヨコナリ。底部内面ヨコナリ。	0.5～1 mm程の砂粒を多く 含む	山岳系 中央混植 幼苗前面	63	159
1667 糞生土器 ～土壌部	便	E	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(21.70)	(5.10)	-	-	-	口縁部 小片	口縁部内面ヨコナリ。底部入る。内面ヨコナリ。	堆砂が多く含む	山岳系 A 大型	63	159
1668 糞生土器 ～土壌部	便	C 1	流路 2 (2010)	第 4 层	(14.90)	(3.20)	-	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナリナガ。底部外側ハケナガ。内面ヨコナリ。	4 mm以下約の砂粒多く含 む。在来穴ぐら	北近畿系 A	-	159
1669 糞生土器 ～土壌部	便	D 1	流路 2 (2010)	第 3 层	(15.50)	(2.10)	-	-	-	口縁部 1/6	口縁部内面ヨコナリナガ。底部外側ハケナガ。	1 mmの小石を少見。粗砂 多く含む	地色	63	160
1670 糞生土器 ～土壌部	便	D 1	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(12.70)	(4.80)	-	-	-	口縁部 1/8	口縁部新規外側面 2～3 条の横筋直角面を 2 本に施す。 口縁部内面ヨコナリナガ。内面にはヨコナリ。	1 mmの小石と粗砂を多量に 含む	地色	63	160
1671 糞生土器 ～土壌部	便	A 3	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(20.90)	(5.60)	-	-	-	口縁部 1/8	外側ヨコナリ。底部内面ハケナガヨコナリ。底部外側 ヨコナリ。	0.5～1 mm程の砂粒を多く 含む	地色	63	160
1672 糞生土器 ～土壌部	便	A 4	流路 2 (2010)	第 3 层	(18.30)	(3.40)	-	-	-	口縁部 小片	底部内面ヨコナリ方へカギで底部外側ヨコナリ。	粗砂へ細砂を多く含む	地色	63	160
1673 糞生土器 ～土壌部	便	A 3	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(22.00)	(4.35)	-	-	-	口縁部 1/8	端面に横筋。内面ヨコナリカギヘイヨコナリ。底部内面ヨコナリヘイタナギ。タキヨ成形。内面に黒斑あり。	石英など3 mm以下約の砂粒 含む	地色	63	160
1674 糞生土器 ～土壌部	便	不明 口縁部	流路 2 (2010)	第 1 层	-	(3.10)	-	-	-	口縁部 若干	内面に 1 本のヨコナリ。端面に横筋。斜状の内面開閉部 を黒斑で隠す。下部に半乾燥葉茎葉死。その後葉 茎の横筋にヨコナリヘイタナギ。内面ヨコナリヘイタナギ。	0.5～1 mm程の砂粒を含む り。半乾燥葉茎葉死。	器台の可 能性も含む	63	160
1675 糞生土器 ～土壌部	便	B 4	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(11.40)	(2.60)	-	-	-	口縁部 1/8	口縁部内面ヨコナリナガ。底部外側ハケナガヘイタナギ。 若干	粗砂を多く含む	山陰系 地色	63	160
1676 糞生土器 ～土壌部	便	C 2	流路 2 (2010)	第 1 层	(14.20)	(8.50)	-	-	-	口縁部 若干	タキヨ成形後外側ヨコナリナガ。内面ヨコナリハケナガ。 若干	1 mm以下的小石と粗砂を多 く含む	地色	63	160
1677 糞生土器 ～土壌部	便	H	流路 2 (2010)	堆土	(16.30)	(5.50)	-	-	-	口縁部 1/8	タキヨ成形後外側ヨコナリナガ。内面ヨコナリハケナガ。 若干	0.5～1 mm程の砂粒を含む	地色	63	160
1678 糞生土器 ～土壌部	便	D 2	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	-	(8.70)	-	-	-	端面 1/4	端面、底部内面ヨコナリナガ。底部外側ハケナガヘイタナギ。 内面ヨコナリ。	石英など1 mm以下約の砂粒 多く含む	東四国系	63	160
1679 糞生土器 ～土壌部	便	I 2	流路 2 (2010)	第 4 层	(5.00)	5.60	7.00	-	-	口縁部 1/2	口縁部内面ヨコナリナガ。底部外側ハケナガヘイタナギ。 下部ハケナガに黒斑あり。体部内面ヨコナリナガ。内面も同様 の黒斑。	堆砂を多く含む	地色	63	160
1680 糞生土器 ～土壌部	林	H.1	流路 2 (2010)	第 1 层	(31.00)	(7.00)	-	-	-	口縁部 1/4	口縁部内面は黒斑。入るヨコナリナガ。内面も同様 の黒斑。底部内面黒斑。	1 mm以下的小石と粗砂を多 く含む	山陰系 A	63	160
1681 糞生土器 ～土壌部	林	F.1	流路 2 (2010)	第 4 层	(17.00)	(7.90)	-	-	-	口縁部 1/4	口縁部内面黒斑。底部内面ハケナガヘイタナギ。 底部内面ハケナガを加える。内面工具ナガ。	3 mm以下約の砂粒含む	地色	63	161
1682 糞生土器 ～土壌部	林	A.2	流路 2 (2010)	第 4 层	-	(6.30)	-	4.35	底部 充てん	内面ヨコナリ上げた。内面黒斑充てん。内面工具ナガ。 外側に黒斑あり。	5 mm以下的小石。3 mm以下 の砂粒充てん	地色も可 能性あり	63	161	
1683 糞生土器 ～土壌部	林	A.5	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(6.85)	(4.30)	-	2.75	-	小形の鉢。タキヨ成形。口縁部内面ヨコナリナガ。外側 部外側ヨコナリ。内面ヨコナリナガ。	1 mm以上約の砂粒含む	地色	63	161	
1684 糞生土器 ～土壌部	林	B.2	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	-	(5.85)	-	-	底部 充てん	タキヨ成形から。内面ハケナガヘイタナギ。内面ハケナ ガ。外側ハケナガを加える。	石英など3 mm以下約の砂粒 含む	地色	63	161	
1685 糞生土器 ～土壌部	林	B.5	流路 2 (2010)	第 2 层 第 3 层	(17.10)	22.90	-	-	-	口縁部 1/4	口縁部底面黒斑。体部内面底面ハケナガヘイタナギ。 底部中央に約 1 cm の円孔充てんし上部は漏斗状に広げる。 底部 2 層と対称位置に黒斑あり。	0.5～1 mm程の砂粒を含む	地色	63	161
1686 糞生土器 ～土壌部	有孔 林	D	流路 2 (2010)	第 4 层	(11.50)	10.50	-	1.40	-	口縁部 1/2	内面黒斑充てん。内面黒斑充てん料にタキヨ成形。内 面ヨコナリ充てん。内面ヨコナリ充てん料に内面ヨコナリ。 内面に長径約 6 mm、底面約 5 cm の内貫孔がある。	1 mmの小石と粗砂を多量に 含み。赤色や少額含む	地色	63	161

番号	種別	種類	類型	構構	層位	法量(cm)			種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版	
						口径	基高	腹径							
1687	弥生土器	有孔 土器	H	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.10)	-	2.90	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面にビサオルタ ナガ、中央が僅かに上昇し中央に横約6mmの凹部。 外 面に黒斑	1mm以下の中砂含む	-	63	161
1688	弥生土器	有孔 土器	B	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(2.35)	-	2.05	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。平底 中央に横約6mmの凹部。上面は斜面に少し尖げ る	3.5mm以下の中砂含む	-	63	161
1689	弥生土器	有孔 土器	E	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.70)	-	-	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。底面中 央に横約6mmの凹部。外面上に黒斑あり	1mmの小石と粗砂を多量に 含む	-	63	161
1690	弥生土器	底部 (直)	A 2 b ±1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(8.50)	-	(4.40)	底部 直下	タキ成形後ヒゲを残す底面に凹部。内面へ 及ぶ	堆積物のへ瓶。赤色陶を少 量含む	-	64	161
1691	弥生土器	底部 (直)	A 2 ± 3	深窪 2 (2013)	第1層	-	(3.90)	-	(4.60)	底部 1/2	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。底面中 央に横約6mmの凹部。内面に黒斑あり	1mmの小石を少量、粗砕を 多量に含む	-	64	161
1692	弥生土器	底部 (直)	A 2 a ±1	深窪 2 (2013)	第4層	-	(5.80)	-	4.85	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、底部外周ニビサエ。内面 にヘアリズミ。底面は傷かたに剥がれ土上げ底。	石など2mm以下の砂粒 含む	-	64	162
1693	弥生土器	底部 (直)	A 2 a ±1	深窪 2 (2013)	第1層	-	(3.50)	-	5.00	底部 2/4	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。底部外周ニ ビサエ。内面に黒斑	3mm以上の砂粒含む	-	64	162
1694	弥生土器	底部 (直)	A 2 ± 2	深窪 2 (2013)	第4層	-	(4.30)	-	4.30	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。底面 にヘアリズミ。外面部に凹部あり	2mm以下の砂粒含む	-	64	162
1695	弥生土器	底部 (直)	A 2 a ±2	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.50)	-	4.30	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面に黒斑。底部外 周ニビサエ。中央部に僅かな上凸部で底面ナ カ付	3mm以下の中砂含む	-	64	162
1696	弥生土器	底部 (直)	A 3 b o	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.30)	-	5.60	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。底 面に黒斑あり	粗砂を多く含む	-	64	162
1697	弥生土器	底部 (直)	A 3 b ±1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(1.70)	-	3.45	底部 完全	タキ成形後外面部分のハガ、内面にヘアリズミ。外 面に黒斑あり	0.5~1mmの砂粒を含む	-	64	162
1698	弥生土器	底部 (直)	A 3 b o	深窪 2 (2013)	第1層	-	(3.50)	-	6.15	底部 完全	タキ成形後内面部分のハガを残す。内面にヘアリズ ミ。外面部に黒斑あり	褐色	-	64	162
1699	弥生土器	底部 (直)	A 3 a n	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(4.40)	-	3.60	底部 完全	タキ成形後内面部分のハガ。内面にヘアリズミ。底 面に黒斑あり	1mm以下の砂粒含む	-	64	162
1700	弥生土器	底部 (直)	A 3 a n	深窪 2 (2013)	第4層	-	(4.75)	-	3.40	底部 完全	タキ成形後内面部分にクレータ。底面にもタキ成 形2回目。外面部に黒斑あり	5mm以下石灰→粗砂少含む	-	64	162
1701	弥生土器	底部 (直)	A 2 a ±1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(4.30)	-	3.95	底部 完全	タキ成形後内面部分ヘイタケ加え。長いトーネット状 および底。外面部にもタキ2回目	堆積物の粗砂を少し含む	-	64	162
1702	弥生土器	底部 (直)	A 2 a ±w	深窪 2 (2013)	第1層	-	(4.75)	-	3.45	底部 完全	外面部ナカ、内面部一部へケ残す	0.5~1mmの砂粒を含む	-	64	162
1703	弥生土器	底部 (直)	A 1 a ±2	深窪 2 (2013)	第1層	-	(4.75)	-	3.20	底部 完全	タキ成形後外面部分ナカ。内面ナカナガ。内面 に黒斑あり	0.5~1.5mmの砂粒を含む	-	64	162
1704	弥生土器	底部 (直)	A 1 a n	深窪 2 (2013)	第4層	-	(4.75)	-	3.85	底部 完全	タキ成形後内面部分ナカナガ。内面に黒斑。物質薄 く付着	石粉など3mm以下の砂粒 含み、微弱な角閃石・金雲母 微細結晶含む	堆積系C	64	162
1705	弥生土器	底部 (直)	A 1 a ±1	深窪 2 (2013)	第4層	-	(4.30)	-	3.30	底部 完全	タキ成形後外面部分にナカナガ。外面部黒斑	1.5mm以下の砂粒含む	-	64	162
1706	弥生土器	底部 (直)	A 1 a n	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.15)	-	3.00	底部 完全	タキ成形後内面部分ナカナガ。外面部に黒斑	2.5mm以下の砂粒。石英 含む	-	64	162
1707	弥生土器	底部 (直)	A 3 a n	深窪 2 (2013)	第4層	-	(3.03)	-	3.25	底部 完全	タキ成形後内面部分ナカナガ。外面部に黒斑	2.5mm以下の砂粒。長英 石含む	-	64	162
1708	弥生土器	底部 (直)	B 1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(5.40)	-	3.25	底部 完全	タキ成形後外面部分ナカナガ。内面ナカ 外面部に黒斑あり	3mm以下の中砂含む	-	64	162
1709	弥生土器	底部 (直)	C 1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.05)	-	3.30	底部 完全	内面黒斑剥離・崩壊に上り調整不等。二次剥離 ナカ。表面黒色。外面部黒斑	2.5mm以下の中砂含む	-	64	162
1710	弥生土器	底部 (直)	B 1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(4.20)	-	-	底部 完全	タキ成形後外面部分ナカナガ。内面ヘアリズ ミ。底面もナカナガ	1.5mm以下の砂粒。石英 含む	-	64	162
1711	弥生土器	底部 (直)	R 3	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(4.40)	-	-	底部 直下	内面ナカナガ。内面にヘアリズミ。ナカナガ。外面部に粗 粘土	5mm以下の中砂。石英 含む	-	64	162
1712	弥生土器	底部 (直)	C 1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(5.00)	-	-	底部 完全	底部表面に凹凸不規則。内面ヘアリズミ。外 面に黒斑	堆積物多く含む	-	64	162
1713	弥生土器	底部 (直)	A 1 b o	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.70)	-	-	底部 直下	内面ナカナガナカ。内面ヘアリズミ。外面部黒 斑あり	2.5mm以下の砂粒含む	-	64	162
1714	弥生土器	底部 (直)	A 3 b ±2	深窪 2 (2013)	第4層	-	(3.50)	-	3.40	底部 完全	内面ナカナガ。内面にヘアリズミ。ナカナガ。外面部に黒 斑あり	1mm以下の砂粒を多く含む	堆積系C	64	162
1715	弥生土器	底部 (直)	D 1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(2.50)	-	3.60	底部 完全	底部内面部分ナカナガ。脚部側面削離。底面コヨサ ナカナガ	1mm以下の砂粒を多く含む	-	64	162
1716	弥生土器	底部 (直)	D 1	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	-	(2.70)	-	(4.90)	底部 完全	底部内面部分ナカナガ。脚部側面削離 1/2	0.5~1mmの砂粒を含む	-	64	162
1717	弥生土器	高窓	A 3 a	深窪 2 (2013)	第4層	(22.40)	(6.80)	-	-	1/2	内面端部剥離・崩壊。外面部黒斑。内面黒斑 入り。表面黒色。外面部黒斑	2.5mm以下の砂粒含む	-	64	162
1718	弥生土器	高窓	A 3 a	深窪 2 (2013)	第4層	(25.60)	(4.80)	-	-	1/2	内面端部剥離・崩壊。外面部黒斑。内面黒斑 入り。表面黒色。外面部黒斑	2.5mm以下の砂粒を多く含む	-	64	162
1719	弥生土器	高窓	A 3 a	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	(25.70)	(4.75)	-	-	1/2	内面端部剥離・崩壊。内面黒斑	堆積物を少し含む	-	64	162
1720	弥生土器	高窓	脚部	深窪 2 (2013)	第1層	-	(8.00)	-	-	柳枝根 直下	内面端部剥離・崩壊。内面黒斑。脚部側面削 離。内面黒斑。外面部黒斑。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑	1mm以下の小石と粗砂を多 量に含む	-	64	162
1721	弥生土器	高窓	D 2	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	(12.30)	(3.00)	-	-	1/2	内面端部剥離・崩壊。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑	粗砂を少し含む	-	64	162
1722	弥生土器	高窓	A 1 a	深窪 2 (2013)	第2層 第3層	(23.60)	(2.75)	-	-	1/2	内面端部剥離・崩壊。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑	堆積物を多く含む	北叢系 A	64	162
1723	弥生土器	高窓	G 1	深窪 2 (2013)	第0層 底盤 直上	(9.10)	(8.10)	-	(11.00)	1/3	内面端部剥離・崩壊。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑	0.5~1mmの砂粒を含む	コシラ リート北 側	64	162
1724	弥生土器	高窓	G 1	深窪 2 (2013)	第0層 底盤 直上	(11.40)	(2.10)	-	-	1/3	内面端部剥離・崩壊。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑。内面黒斑。外面部黒 斑。内面黒斑。外面部黒斑	0.5~1mmの砂粒を多く含む	コシラ リート北 側	64	162

番号	種別	種類	類型	造構	層位	法量(cm)				種存率	種法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真 図版
						口径	基高	腹径	底径						
1725	弥生土器 ～土師器	縦台	G-4	深窓2 (2013)	第1層	9.75	8.20	-	10.10	口縁部 1/4 鰐目 玄瓦	口部器、受部内面と受部外面上ヨコナギ。受部外 縁部下へ斜部外側へワミガキ。縫部外側ヨコナギ。 縫部内面輪郭不明	0.5～1.5mm程度の砂粒を多 く含む	北沢山 (丹波)高 B ヨシ クリート 北側	64	164
1726	弥生土器 ～土師器	縦台	G-4	深窓2 (2013)	第2層 第3層	(10.80)	(2.70)	-	-	口縁部 1/9	口部器、受部内面と受部外面上ヨコナギ。受部外 縁部下へ斜部外側へワミガキ。内面ヨコナギ、内面一部へ ワミガキ	1mm以下の中粒少葉含む	64	164	
1727	弥生土器 ～土師器	高坪	鰐目	深窓2 (2013)	第2層 第3層	-	56.90	-	-	鰐目部 1/6	所部内底面と鰐目部外側へワミガキ。内面ナゲナ ゼ付 玄瓦	1.5mm以下の中粒・石色、 短い石含む	-	164	
1728	弥生土器 ～土師器	高坪	鰐目	深窓2 (2013)	第1層	-	(5.40)	-	(9.65)	鰐目部 1/6	鰐目外側ハケ後鰐目部にヘラミガキ。内面ハケ後イ タマザル、縫部内面ヨコナギ	1mm以下の中粒少葉含む	高坪Dの 部分	64	164
1729	弥生土器 ～土師器	高坪 かく 造台	鰐(鰐)部 A 2	深窓2 (2013)	第4層	-	(4.85)	-	(10.20)	鰐場部 1/6	内底タマザル後ハクミガキ、内面ハケ。傾約1.3cm の円柱透孔4方に穿孔。	粗砂で細砂を多く含む	64	164	
1730	弥生土器 ～土師器	高坪	鰐目	深窓2 (2013)	第1層	-	(5.90)	-	-	鰐目部 1/6	所部内底面ハクミガキ。縫部内底タマザル後ハクミ ガキ。所部内底面斜へニヤナギ。傾約1.3cmの円柱 透孔4方に穿孔。外底に赤褐色のハバガラ塗装	粗砂を多く含む	64	164	
1731	弥生土器 ～土師器	高坪	鰐目	深窓2 (2013)	第1層	-	(3.70)	-	-	鰐目 1/6	鰐目外表面方向ハクミガキ。内面ヨコナゲナ ゼ付 玄瓦	0.5～1mm程度の砂粒を含む	64	164	
1732	弥生土器 ～土師器	高坪 かく 縦台	鰐(鰐)部 A 2	深窓2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.50)	-	(9.20)	縫部 1/3	縫部外側タハケ後ナギ。内面ヨコハケ。縫間は不 規則	2mm以下の中粒・石英多 く含む	-	164	
1733	弥生土器 ～土師器	縦台	鰐目	深窓2 (2013)	第2層 第3層	-	(3.20)	-	(7.60)	縫部 1/2	縫部内底ヨコナギ。縫部右内面丁寧なナゲ。外底 調滑不明	1.5mm以下の中粒・石英 多く含む	-	164	
1734	弥生土器	蓋	広口蓋 口縁部	溝1 (2013)	堆土	(19.70)	(4.70)	-	-	口縁部 1/6	口縁部内底ヨコナゲ・外底 ハクミガキサキ。縫部内面ハケ。縫部下端に押江文 字有	2mm以下の中粒含む	64	165	
1735	弥生土器	蓋	広口蓋 口縁部	溝1 (2012)	堆土	(21.30)	(5.40)	-	-	口縁部 1/12	口縁部内面ヨコナギ。縫部内底ヨコナギ。 縫部外側ハケ後ヨコナギ	石英など3mm以下の中粒 含む	64	165	
1736	弥生土器	蓋	口縁～ 体部上部	溝1 (2013)	堆土	(25.80)	(7.10)	-	-	口縁部 1/12	口縁部内底ヨコナギ。縫部に1条の伏線を嵌入。口縁 部内底ヨコナギ。縫部内底ヨコナギ。外底にハク ミガキがある	2mm以下の中粒含む	64	165	
1737	弥生土器	蓋	広口蓋 開脚	溝1 (2013)	堆土	-	(7.00)	-	-	体部 縫部	縫部内底ヨコナギ。縫部外側に浅水木ヒ判明でき る縫植文が3段以上ある。内面ナゲ	6mm以下の中粒・砂粒含む	64	165	
1738	弥生土器	蓋	体部	溝1 (2012)	堆土	-	(6.30)	-	-	体部 縫部	外底に4条以上の伏線縫植文有り。上部にも一部 分縫植。内面ナゲ	4mm以下の中粒含む	64	165	
1739	弥生土器	蓋	縫部	溝2 (2013)	堆土	-	(4.10)	-	-	縫部 縫部	縫部内底ヨコナギ。縫部内底ヨコナギ。外底ハケ 調滑。内面ナゲ	5mm以下の中粒・砂粒多く 含む	64	165	
1740	弥生土器	高坪	水平口縁 口縁部	溝2 (2013)	堆土	-	(1.40)	-	-	口縁部 縫部	本頂口縁部で縫部は下外方に曲げる。上下面是ヨコ ナギ調滑	0.5mm以下の中粒含む	64	165	

番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	柱法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真	
						口径	高さ	幅員	底径							
1741	弥生土器	甕	E	井戸1	埋土	(16.20)	(4.00)	-	-	口縁部若干	口縁部内面ヨコナガ。肩部内面左方向へラケヅリ	粗砂を含む	山陰系A タケツリ源	65	163	
1742	弥生土器	甕	H	井戸1	埋土	(14.20)	(5.05)	-	-	口縁部1/9	口縁部底面減滅または欠損。口縁部内面ヨコナガ複数の凹窓・溝跡多く入り。肩部内面ナガ	1mm以下の小石と粗砂を多量に含み、角閃石、玄長角閃石含む	山陰系C	65	163	
1743	弥生土器	底部(底)	A 2 b a	井戸1	埋土	-	(4.30)	-	(6.10)	底部1/2	底部外側ハケ付。口縁部内面ヨコナガ。内面ヨコナガナダ。底部外側ノボレ形。粗砂若干	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	-	65	163	
1744	弥生土器	器台	A 3	井戸1	埋土	(15.80)	(4.05)	-	-	口縁部1/2	口縁部外側に上1条、下2条の舟形凹溝。口縁部外側ヨコナガ。内面ヨコナガ	1mm以下の小石と粗砂を多量に含む	北近畿系A	65	163	
1745	弥生土器	甕	器皿	井戸1	埋土	-	(3.20)	-	-	肩部若干	外側に8~9条の横縫状状況と直縫状状況。内面ヨコナガ	1.5mm以下の砂粒・石英含む	-	65	163	
1746	弥生土器	甕	B 2	井戸2	埋土	(14.80)	(3.25)	-	-	口縁部1/4	口縁部内面ヨコナガ。底部外側舟形。粗砂若干	1~2mmの砂粒・赤色粘土含む	-	65	163	
1747	弥生土器	甕	B 3	井戸2	埋土	-	(3.90)	-	-	口縁部若干	口縁部内面ヨコナガによりやや底面凹り。内面ヨコナガ。底部外側内面方舟形ハケ入り	1.5mm以下の砂粒・赤色粘土含む	山陰系C 発達の可	-	163	
1748	弥生土器	甕	B 1	井戸2	埋土	-	(3.10)	-	-	口縁部若干	腰合口縫で外面部調整不整	3.5mm以下の砂粒・石英含む	山陰系C 可能の可	-	163	
1749	弥生土器	盆	頭形~体出	井戸2	埋土	-	(20.05)	(26.00)	-	全体	内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側に8~9条の横縫状状況と直縫状状況。内面ヨコナガ	1~2mmの砂粒・赤色粘土や多く含む。石英含む	山陰系B	65	166	
1750	弥生土器	甕	E	井戸2	埋土	(13.70)	3.60	-	-	口縁部1/4	口縁部内面ヨコナガ。外側イタナナとユビオサ。内面ヨコナガ。外側無	1~4mmの砂粒多く含む	-	65	166	
1751	弥生土器	底部(底)	A 1 a a	井戸2	埋土	-	(2.80)	-	3.30	通部	外ハケ・イタナナ。内面イタナ。外側に基盤	1~3mmの砂粒含む	-	65	163	
1752	弥生土器	甕	器(底)部A 1	器台	埋土	-	(2.50)	-	(14.40)	通部1/4	器部剥離のため調整等不明	1~2mmの砂粒や多く含む。赤色粘土含む	褐色	65	163	
1753	弥生土器	甕	D 2	井戸2	土上面	第1層	15.10	21.65	20.20	-	口縁部完全	口縁部内面に凹凸がある。体部横縫タケヅリ成形で下半部分心づけ加え。底部内面下部上方に上手手筋左方向へラケヅリ。豊穣溝。口縁部内面各部ヨコナガ。外側に基盤。二次被熱により縫合辺化	粗砂を多く含む	庄内形攝 奈良型	65	166
1754	弥生土器	甕	D 4	井戸3	土上面	第1層	14.00	38.60	16.70	-	口縁部完全	口縁部内面に凹凸ある。体部横縫タケヅリ成形で下半部分心づけ加え。底部内面下部上方に上手手筋左方向へラケヅリ。豊穣溝。口縁部内面各部ヨコナガ。外側に基盤。二次被熱により縫合辺化	1mm以下の砂粒を多量に含む	庄内形攝 奈良型	65	166
1755	弥生土器	甕	D 4	井戸3	土上面	第1層	(12.45)	(19.65)	(18.70)	-	口縁部3~5	口縁部内面上方少し削除。体部外側内面カケヅリ。体部内面下部上方に上手手筋左方向へラケヅリ。口縁部剥離。豊穣溝	石英など1mm以下の大砂多量に含む	布留原 に近い	65	166
1756	弥生土器	甕	D 2	井戸3	土上面	第1層	14.85	(18.90)	(20.40)	-	口縁部3/4	口縁部内面に凹凸ある。体部横縫タケヅリ成形で下方心づけ加え。底部内面各部左方向へラケヅリ。豊穣溝。口縁部内面各部ヨコナガ。外側に基盤。二次被熱により縫合辺化	2mm以下の砂粒や多く含む	庄内形攝 奈良型	65	166
1757	弥生土器	甕	H 1	井戸3	下層	第8層 第10層	14.50	(33.30)	18.30	-	口縁部3/4	口縁部内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。内面ヨコナガ。豊穣溝	1~3mmの砂粒・石英含む	鉢に近 用	65	166
1758	弥生土器	甕	B 1	井戸3	土上面	第1層	(17.20)	(27.35)	(24.60)	-	口縁部1/6	内面ヨコナガ。器部剥離等確認。底部内面左方向へラケヅリ。体部内面下部ヨコナガ。外側内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。体部下部に基盤付	粗砂相・網砂を多量に含む	-	65	167
1759	弥生土器	甕	A 1	井戸3	土上面	第1層	13.35	(15.95)	16.40	-	口縁部完全	内面ヨコナガ。器部剥離等確認。底部内面左方向へラケヅリ。体部内面下部ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝	1~2mmの砂粒や多く含む	-	65	167
1760	弥生土器	甕	A 1	井戸3	埋土	-	(16.20)	44.50	-	-	口縁部1/8	口縁部内面ヨコナガ。底部内面ハケヅリ。豊穣溝等の調整等不明	2mm以下の砂粒・石英・赤色粘土含む	-	65	167
1761	弥生土器	甕	A 1	井戸3	埋土	-	(16.00)	(4.10)	-	-	口縁部若干	口縁部内面ヨコナガ。豊穣溝等の調整等不明	2mm以下の砂粒・石英含む	-	65	167
1762	弥生土器	甕	D 3	井戸3	埋土	-	(14.60)	(5.00)	-	-	口縁部1/4	剥離・崩壊等してない。口縁部外側ヨコナガ。薄手のつくり	粗砂が少額。網砂を多く含む	65	167	
1763	弥生土器	甕	D 3	井戸3	埋土	-	(16.00)	(2.40)	-	-	口縁部1/8	口縁部底面丸みもつ。口縁部外側ヨコナガ。豊穣溝	0.5~1mmの砂粒多く含む。有茎含む	-	65	167
1764	弥生土器	甕	D 6	井戸3	埋土	-	(16.80)	(6.00)	-	-	口縁部1/6	口縁部底面丸みもつ。口縁部外側ヨコナガ。豊穣溝等ハケキを加える。肩部内面右方向へラケヅリ	1~2mmの砂粒や多く含む	65	167	
1765	弥生土器	甕	D 2	井戸3	第1層	-	(19.00)	(4.30)	-	-	口縁部1/3	口縁部内面ヨコナガ。外側内面右方向へラケヅリ。豊穣溝付	0.5~1mm程の砂粒を多く含む	65	167	
1766	弥生土器	甕	D 6	井戸3	埋土	(17.10)	(5.60)	-	-	口縁部1/9	口縁部内面ヨコナガ。底部内面ハケヅリ。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ	1mm以下の中砂多く含む	65	167		
1767	弥生土器	甕	A 1	井戸3	第1層 第2層	-	(15.00)	(4.30)	-	-	口縁部1/8	口縁部内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝付	2.5mm大以下の砂粒・石英含む	-	65	167
1768	弥生土器	甕	E	井戸3	下層	-	13.50	(11.10)	(18.95)	-	口縁部2/3	口縁部外側ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝付	1mmの砂粒・赤色粘土含む	山陰系A	65	167
1769	弥生土器	甕	E	井戸3	埋土	-	(14.00)	(6.50)	-	-	口縁部若干	内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝付	1~4mmの砂粒多く含む。山陰系A 赤色粘土含む	山陰系A	66	168
1770	弥生土器	甕	E	井戸3	第1層 第2層	-	(16.00)	(5.10)	-	-	口縁部1/4	口縁部内面ヨコナガ。豊穣溝付	2.5mm以下の大砂・石英含む	-	65	168
1771	弥生土器	甕	C 1	井戸3	第1層 第2層	-	(3.40)	-	-	-	口縁部若干	内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝付	1mmの砂粒含む	北近畿系	-	168
1772	弥生土器	甕	E	井戸3	埋土	-	(14.00)	(5.85)	-	-	口縁部1/4	口縁部内面ヨコナガ。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝付	2.5mm大以下の砂粒・石英含む	山陰系A	66	168
1773	弥生土器	甕	G	井戸3	土上面	第1層	(14.30)	(26.50)	(22.80)	-	口縁部1/2	口縁部外側ヨコナガ。内面に橋形に近いラッパ形等。内面ヨコナガ。外側内面カケヅリ。豊穣溝付	0.5~2mmの砂粒を多く含む	古墳系A	66	167

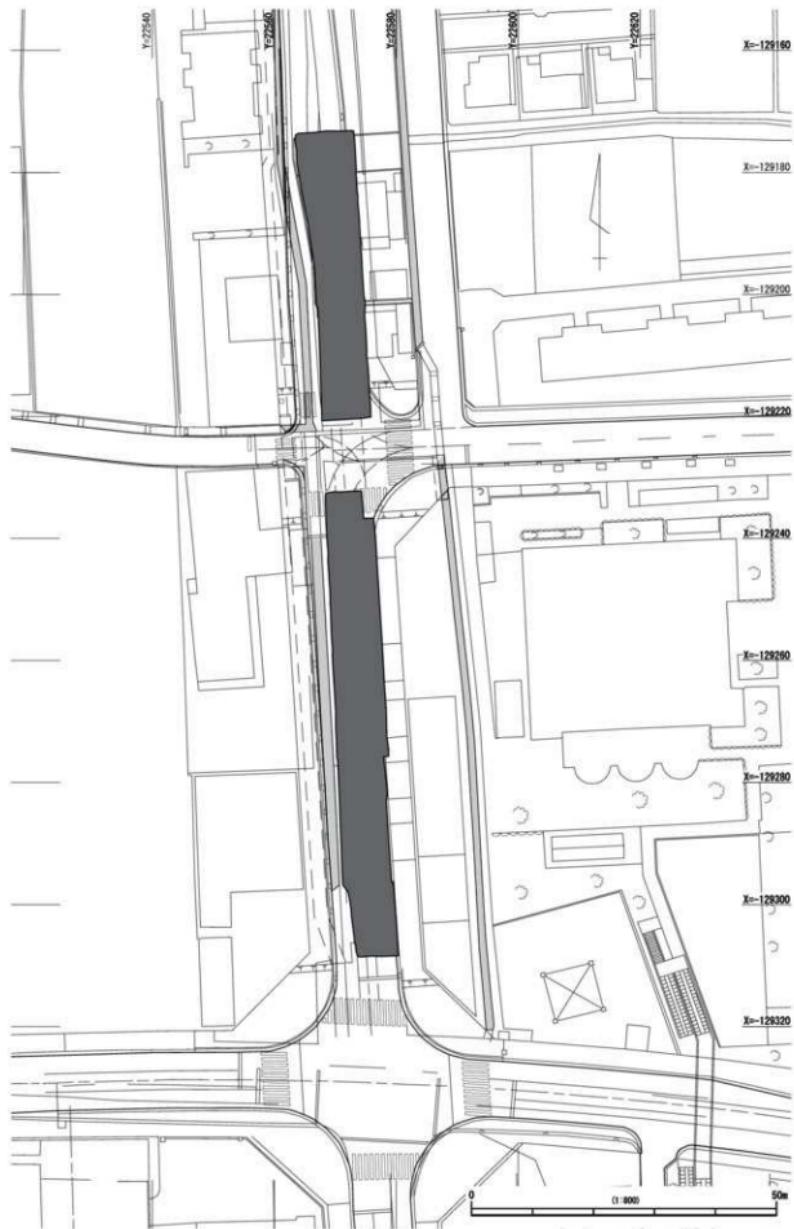
番号	種別	種類	類型	構造	層位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	面積	写真 撮影	
						口径	基高	腹高	底径							
1774	衛生土器	便	体Ⅲ	井戸3 土壌	第1層	—	(14.20)	(20.40)	—	底部外側タクシ成形底ヶ内でナゲがある。底部内面右方向へケタリ。底心外側一帯腐食着、底心に凹み少含む	1mm以下含む、奥深き含む	黒粘土C 5%	66	168		
1775	衛生土器	糞	E 2	井戸3 土壌	第1層	(15.50)	(27.15)	25.40	4.55	口縁部1/2 底心外側一帯腐 食着	タクシ成形底心外側半円にケタリがある。底部内面左方向へケタリ。底心外側一帯腐食着、底心に凹み少含む	粗砂・細砂を多く含む	褐色	66	168	
1776	衛生土器	糞	A 6	井戸3 第3層 第4層	(15.40)	(17.50)	—	—	1/2	口縁部内面ヨコナギ。底部内面ヨコナギで底心外側半円にケタリがある。底部内面左方向へケタリ	2mm以下砂粒やや多く含む、赤色含む	山砂岩A	66	168		
1777	衛生土器	糞	A 6	井戸3 土壌	(15.00)	(4.50)	—	—	1/2	口縁部内面ヨコナギ。底部内面ヨコナギで底心外側半円にケタリがある。底部内面左方向へケタリ	1mm以下の砂粒やや多く含む	黒粘土C 5%	66	168		
1778	衛生土器 糞かご 収容	H 1.5a	井戸3	埋土	—	(5.45)	—	—	—	口縁部下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	0.5mm以下砂粒やや多く含む、石英含む	山砂岩B	—	168	
1779	衛生土器	糞	B 4	井戸3	埋土	(10.30)	(3.70)	—	—	口縁部	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある	1~2mmの砂粒含む	褐色	66	168	
1780	衛生土器	糞	—	井戸3	埋土	(15.60)	(4.70)	—	—	口縁部内面ヨコナギ。底部内面ヨコナギで底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へケタリ	1mm以下砂粒含む	純A・Bの 1/3種	—	169		
1781	衛生土器 退泊(A)	A 3.b a	井戸3	第8~ 第10層	—	(3.35)	—	5.60	—	口縁部下	タクシ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	1mmの砂粒・石英含む	便の可 能性あり	—	169	
1782	衛生土器 退泊(B)	A 2.a a	井戸3	第8~ 第10層	—	(3.40)	—	3.30	—	口縁部	タクシ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	6mm以下石子1個、1mmの砂 粒含む	便の可 能性あり	—	169	
1783	衛生土器 (便)	A 2.a 2.1	井戸3	埋土	—	(2.10)	—	3.30	—	口縁部	タクシ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	2mm以下砂粒、石英やや多く含む	山砂岩 山砂岩B	—	169	
1784	衛生土器 不明	—	井戸3	埋土	—	(6.50)	—	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	2mm以下砂粒、石英やや多く含む	山砂岩 山砂岩B	—	169	
1785	衛生土器	糞	A 5a	井戸3	埋土	—	(5.20)	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	2mm以下砂粒、石英やや多く含む	便の可 能性あり	—	169	
1786	衛生土器 有孔 林	F	井戸3	中層 第6層 第7層	—	(7.60)	—	4.30	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	2.5mm以下砂粒・石英含む	山砂岩 山砂岩B	—	169	
1787	衛生土器 糞	C	井戸3	埋土 下平	(14.00)	(7.10)	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	1~2mmの砂粒・赤色含む	褐色	66	168	
1788	衛生土器 糞	A 2.2b	井戸3	中下層 第6~ 第8層	(9.90)	6.60	—	3.95	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	1~2mmの砂粒・赤色含む	褐色	66	169	
1789	衛生土器 糞	D 1	井戸3 土壌	第1層	—	13.25	(4.55)	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	1~2mmの砂粒やや多く含む	66	169		
1790	衛生土器 糞	B	井戸3	第1層	—	(5.95)	—	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある	1~2mmの砂粒・赤色含む	褐色	66	169	
1791	衛生土器 糞	E 1	井戸3 土壌	第1層	(12.70)	(5.65)	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。底心外側半円多く含む	1mmの砂粒・石英やや多く含む	褐色	66	169	
1792	衛生土器 糞台	B	井戸3	第10層 最下層	—	(3.90)	—	7.60	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1mm以下砂粒・赤色含む	褐色	66	169	
1793	衛生土器 糞	A 5a	井戸3	中層 第1層	—	21.25	(7.00)	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1~2mmの砂粒・赤色含む	褐色	66	169	
1794	衛生土器 糞	B	井戸3	中層 第4層	(20.25)	8.10	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	3mm以下砂粒多く含む	褐色	66	170	
1795	衛生土器 糞	D 1	井戸3	埋土	(16.00)	8.25	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	3mm以下砂粒多く含む	褐色	66	170	
1796	衛生土器 糞	D 2	井戸3	中下層 第6~ 第8層	(12.80)	4.85	—	—	3/4	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1~2mmの砂粒・石英含む	褐色	66	170	
1797	衛生土器	器具	—	井戸3 土壌	第1層	—	(6.30)	—	(16.10)	3/8	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	3mm以下砂粒・石英含む	井戸G 1+ G 2の砂	66	170
1798	衛生土器	糞	器具	井戸3	第1層	—	(6.25)	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	3mm以下砂粒・石英含む	褐色	66	169	
1799	衛生土器	E	ピット 1 (2012)	柱脚	(16.20)	13.70	—	—	1/3	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1mm以下砂粒多く含む	山砂岩A	66	170	
1800	衛生土器	C 5	ピット 5 (2013)	柱脚	(15.80)	(2.75)	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	石英など2mm以下砂粒多く含む	北近畿系 5%	66	170	
1801	衛生土器 糞	B 2	ピット 5 (2013)	屋根	—	(2.25)	—	—	—	井戸下	内面ヨコナギ。内面表面剥離能	1mm以上砂粒・赤色含む	井戸下	66	170	
1802	衛生土器	糞	一部の ため木	糞台	(16.60)	(3.20)	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1mm以下砂粒多く含む	褐色	66	170	
1803	衛生土器	糞	—	糞3	埋土	(15.60)	(3.40)	—	—	井戸下	ヨコナギ下段の段と橋はヨコナギ。ヨコナギは剥離能は弱い。初期段階ではヨコナギ ハラミカギがヨコナギ10mmに近づく。	0.5mm以上の砂粒多く含む	—	170		
1804	衛生土器	糞	—	糞3	埋土	(2.40)	—	—	—	井戸下	ヨコナギ下段は剥離能が弱い。ヨコナギは内面にひびがり、端部内面に凹凸となる。	0.5mm以上の砂粒少含む	—	170		
1805	衛生土器	糞	糞3~ 体部上部	糞3	埋土	(25.70)	(4.90)	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	2mm以下チャート・石英組 やや多く含む	67	171		
1806	衛生土器	糞	広口糞 柱脚	糞3	埋土	—	(3.80)	—	—	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	2.5mm以下砂粒・石英含 む	—	171		
1807	衛生土器	糞	広口糞 柱脚	糞4	埋土	—	(6.65)	—	—	3/4	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	3mm以下チャート・石英 組合せ含む	67	171	
1808	衛生土器	糞	糞4	埋土	—	(6.00)	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1.5mm以下チャート・糞4 組合せ含む	67	171		
1809	衛生土器	糞	糞4	埋土	—	(6.20)	—	—	1/2	井戸下	ヨコナギ成形底心外側半円にヨコナギである。底部内面左方向へ凹みがある。下半 部はヨコナギ、底部内面ハラミカギ。内面に櫛状のスリップ痕能認	1mm以下チャート・糞4 組合せ含む	67	171		

番号	種別	種類	難易度	構造	層位	法量(cm)			残存率	柱法・その他の特徴	地土	備考	面積	写真		
						口径	高さ	横幅								
1800	衛生土槽	直	難	渠	直	-	(2.70)	-	渠	外側ハケ部を斜め上間に高騰又は斜傾を有す。 内面ナガサキ。	3mm以下砂粘含む	-	171			
1801	衛生土槽	直	難	渠	直	-	(2.80)	-	渠	外側に7程度の断面波状化を3段以上施す。内面 ハゲタ。	1.5mm以下砂・石英多く含む	-	171			
1802	衛生土槽	直	難	渠	直	-	(2.90)	-	渠	外側タグマ幾何学的の断面波状化を押し引きのよう に施す。内面ハゲタ等。	2.5mm以下砂粘・石英含む	-	171			
1803	衛生土槽	渠	体部下部	渠	直	-	(0.60)	-	渠	底部へアーチキ、内面シタナゲ後ハラタギキ。内面 に2段式黒色樹脂滑落付着。	2mm以下石面・チャート中 量含む	87	171			
1804	衛生土槽	直	直	渠	直	-	(5.20)	-	渠	底部 1/3	3mm以下チャート・石英他 多く含む	-	171			
1805	衛生土槽	直	難	渠	直	-	(7.20)	-	渠柱部	外側に内面に端に突出部付す。内外面凹凸削離のため開 窓付・削離。	2mm以下石面・長石・チャート 多く含む	複色	171			
1806	蓄留	渠	渠	渠	直	-	(2.10)	-	渠	側引出し蓋台の内地面と内面に露點。見込み筋に 設置。(余水遮室)・鉛錠	筋設	-	172			
1807	無蓋陶器	排水	渠前後	渠	直	-	(28.10)	(5.40)	-	渠	内面面凹リナギキで排水端は被張しない。内面に 1.9mm以上の筋で排水を施す	マーブル化。2mm以下の砂 灰少含む	複合蓋端	67	172	
1808	衛生土槽	渠	渠	渠	直	-	(25.50)	(3.00)	-	渠	外側ハケ部下に3段の波状?高騰又は斜傾。底部横幅 1/3	4mm以下の砂粘多く含む	2013-4-4K	67	172	
1809	衛生土槽	渠	渠	渠	直	-	(26.00)	(3.05)	-	渠	内面面凹リナギキ。外側面下部は舟形が入るな コナギ	3mm以下砂粘含む	2013-4-4K	67	172	
1810	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(6.30)	-	渠	外側面端に斜めに削離し。外側面下部に4条の横筋 小片	1~4mmの砂粘や多く含む	2012-8-K	67	172		
1811	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(2.50)	-	渠	側引出し端部の内面に凹凸。外側面下部に2条以上の筋 切離・削離。	1~4mmの砂粘含む	-	172			
1812	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(5.80)	-	渠	外側ハケ部下に3段式で斜傾を有す。内面に 内面ナガサキ。	4mm以下の砂粘多く含む	2013-4-4K	67	172		
1813	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(4.40)	-	渠	内面面凹リナギキで排水端は被張しない。内面に 内面ナガサキ	1~4mmの砂粘含む	2013-4-4K	-	172		
1824	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(3.50)	-	渠	外側ハケ部下に3段の波状又は斜傾を有す。底部内面へアーチキ。 内面ナガサキ	3mm以下砂粘含む	2012-4-4K	67	172		
1825	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(4.95)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1~4mmの砂粘・石英含む	2013-4-4K	-	172		
1826	衛生土槽	渠	渠	渠	渠	-	(2.60)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1~4mmの砂粘含む	2013-4-4K	-	172		
1827	衛生土槽	渠	D 2	渠	渠	-	(14.00)	(5.40)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1~4mmの砂粘・石英含む	2013-4-4K	-	172	
1828	衛生土槽	渠	A 1	渠	渠	-	(12.99)	(2.30)	-	渠	タッキ成形後底部外側面に内面。内面右方向ハケツリ。 1/4	1~4mmの砂粘・赤色粘・ 石英含む	2013-4-4K	67	172	
1829	衛生土槽	渠	B 1	渠	渠	-	(22.00)	(3.80)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1~5mmの砂粘・石英含む	2013-4-4K	-	172	
1830	衛生土槽	渠	C 2	渠	渠	-	(3.20)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1~3mmの砂粘・石英含む	2012-8-K	-	172		
1831	衛生土槽	渠	A 1	渠	渠	-	(15.00)	(5.70)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1~2.5mmの砂粘・石英含む	1区南端 堤防の可達性	-	172	
1832	衛生土槽	渠	B 1	渠	渠	-	(10.90)	(4.90)	-	渠	タッキ成形後底部外側面に内面。内面右方向ハケツリ。 1/2	0.5~2mmの砂粘を含む	1区中央	67	172	
1833	衛生土槽	渠	C 7	渠	渠	-	(15.90)	(4.10)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	0.5~2mmの砂粘を含む	1区中央	67	172	
1834	衛生土槽	渠	F	渠	渠	-	(14.80)	(4.20)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	0.5~1.5mmの砂粘・ 石英含み、内面右方向ハケツリ。	側引出し端部の内面 堤防の可達性	-	172	
1835	衛生土槽	渠	F	渠	渠	-	(3.00)	-	渠	側引出し端部外側面に内面。内面右方向ハケツリ。 1/2	1~2.5mmの砂粘・石英含む	1区南端	-	172		
1836	衛生土槽	渠	A 3	渠	渠	-	(17.70)	(5.30)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	0.5~2mmの砂粘を含む	1区中央	67	172	
1837	衛生土槽	渠	苔	渠	渠	-	(3.30)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1.5mm以下の砂粘・石英含む	1区南端	-	172		
1838	衛生土槽	渠	林	渠	渠	-	(6.80)	-	渠	タッキ成形で内面に内面ナガサキ。内面内面ナガサキ 内面ナガサキ	林立A日 中央含む	-	172			
1839	衛生土槽	渠	A 1+α	渠	渠	-	(3.90)	-	渠	タッキ成形後外側面に内面ナガサキを加える。内面左 右に内面ナガサキ。	0.5mm以下石粘多く含む	1区北端	67	172		
1840	衛生土槽	高坪	A 4	渠	渠	-	(21.60)	(5.05)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	渠の可達性 あり	1区南端	67	174	
1841	衛生土槽	渠	A 4	渠	渠	-	(9.60)	(3.70)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1.5mm以下の砂粘・石英含 み、内面多く含む	1区南端	-	174	
1842	衛生土槽	渠	A 3 b	渠	渠	-	(15.20)	(3.30)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	1.5mm以下の砂粘・石英含 み、内面多く含む	1区北端	-	174	
1843	衛生土槽	渠	A 3 b	渠	渠	-	(3.30)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	2mm以下の砂粘含む	1区南端	-	174		
1844	衛生土槽	渠	E 4	渠	渠	-	(18.50)	(5.65)	-	渠	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	3mm以下石粘・砂粘多く含む	1区中央	67	174	
1845	衛生土槽	渠	高坪	渠	渠	-	(8.90)	-	渠柱部	側引出し端部の内面に斜傾を有す。内面に凹凸を表現か 内面ナガサキ	0.5~1.5mmの砂粘・石英含 み、内面多く含む	1区南端	-	174		

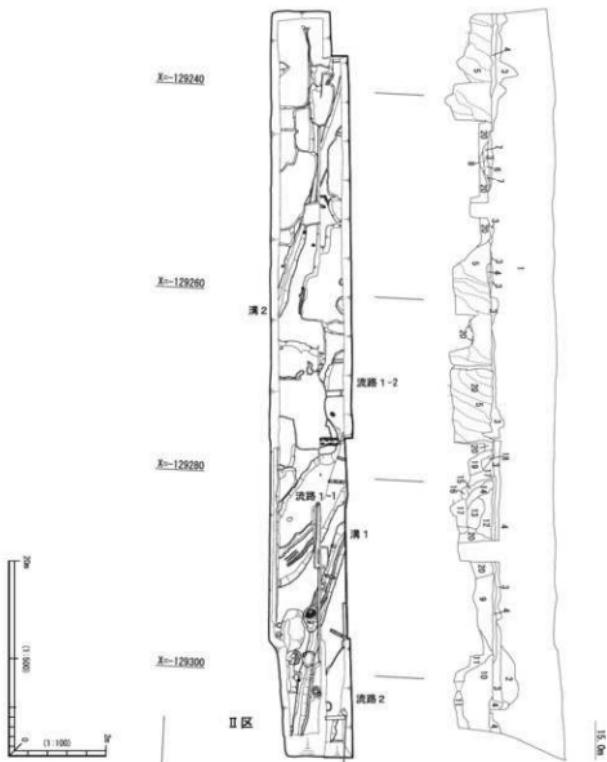
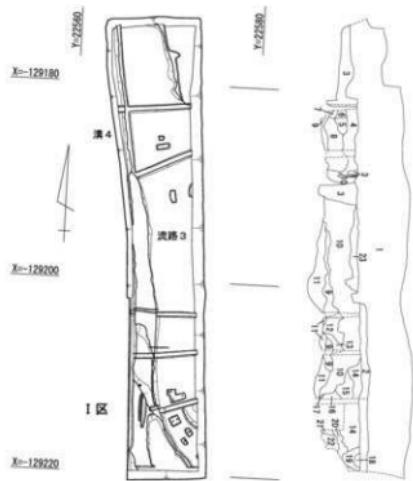
番号	種別	種類	類型	構造	部位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	固相	写真
						口径	高さ	幅	厚さ						
1846	土頭器	便	式系 軸窓	粘土 保護壁	-	-	(6.60)	-	-	部分 剥下	外周格子タキ、内部に凹凸、底部付近の横筋か 柱	0.2~1 mmの砂粒少含む	I区南端	-	174
1848	排水土器 ～土頭器	蓋	A3	粘土 保護壁	-	(25.60)	(4.30)	-	-	口縁部 1/3	(1)縫隙部外側に上下に円柱で取り扱うように構成 外周を柱状格子又は唐草文によるアーチ状、縫隙部に塗 装を施す。底部下部はイタチゲモウカブアズヒに施 す。底部内面はタケハケ面ヨコナナ。口部内部にはヨ コナダの2つ	1~2 mmの砂粒・赤色粘や や多く含む	2012-Ⅲ区	67	175
1849	排水土器	有孔 林	法則	粘土 保護壁	-	-	(8.00)	-	(7.90)	底部 1/2	外周ハガ、内部アマ、底面中央部に突起した位置に堆 積で1.2 mの円柱算出。2.5倍存在	1~4 mmの砂粒含む	2012-Ⅲ区	-	174
1850	排水土器 ～土頭器	B	粘土 保護壁	-	-	(7.80)	-	3.79	底部 完全	タキ文が内部ナメラシ。底面に矢字で記された位置に堆 積で1.6 mの円柱算出。内部に塗装無し。深さ約5 mm の大数と記された円柱孔り	0.5~2 mmの砂粒を含む	2013-1~ 2区	67	174	
1851	排水土器 ～土頭器	製陶土器	脚台部	粘土 保護壁	埋土上部	-	(3.05)	-	(6.30)	脚部 1/2	全体内面アマ、脚部脚台部外側ナマで塗装に面有す る。ツバリはやや丁寧だが二度目二次剥落により赤色 化。斑点状。	繊維少含む。繊維をやや 多く含む	2013-1区	67	175
1852	排水土器 ～土頭器	高环	-	粘土 保護壁	-	-	(10.30)	-	-	脚部 1/2 部分 残存	有孔高所に内外表面漆剥離。縫隙部内面シボリ。外 部縫隙部内面に基盤	1~5 mmの砂粒・長石・ 石英多く含む	2012-Ⅲ区	-	174
1853	排水土器 ～土頭器	蓋	A1	粘土 保護壁	-	(17.00)	(4.50)	-	-	口縁部 1/6	口縫隙部外側コナナ。器皿表面により内面不明	0.5~2 mmの砂粒・長石・ 石英多く含む	2013-1~ 2区	-	174
1854	排水土器 ～土頭器	高环	小型高环	粘土 保護壁	-	-	(4.40)	-	-	瓶底 若干	手探れ形でタキ加えらる?口部内外ナメラ。脚部 に指定幅6 mmの内側削除4方向に斜づ	1 mmの砂粒・石英含む	2013-2区 北西	-	174
1855	蓄音器	身舟	-	粘土 保護壁	-	(12.40)	(3.60)	-	-	脚部 1/3	たわみがる上部面間隔、底部傾斜へカケズリで範囲 は(身舟)に記載	0.5 mm以下の砂粒若干含む	2012-Ⅲ区	-	174
1856	蓄音器	盖	-	粘土 保護壁	-	-	(4.60)	-	-	口縫隙部 若干	口縫隙部外側に内面ナメラの突起と凹 面内側面剥離ナマで外 部若干の脚部へカケズリ	0.5~1.5 mmの大砂粒含む 2区	2013-1~ 2区	-	174
1857	蓄音器	脚台	-	粘土 保護壁	-	-	(7.60)	-	-	瓶底 1/3	瓶底脚台下部に内面ナメラの突起。前面に透孔の一部 若干の砂粒含む	1~2 mmの大砂粒・石英含む	2012-Ⅲ区	-	174
1858	蓄音器	身舟 H型脚	上面	粘土 保護壁	-	-	(4.80)	-	-	口縫隙部 若干	内面剥離、外縫に細縫と側縫を意識した縫隙が支 持く。内面磨擦文	繊維	2012-Ⅲ区	-	175
1859	無動胸器	脚盤	-	粘土 保護壁	-	(28.30)	(8.80)	-	(14.00)	口縫隙部 1/2	底部外側、口縫隙部剥離外表面に1~2条の次発 内縫は織様目録。底面内面は3角形にして 外縫にロカナダケナマ	4.5 mmの大石1個。1~ 3 mmの大砂粒・白色粘含む	2013-1~ 2区	-	175
1860	無動胸器	脚盤	-	粘土 保護壁	-	(28.70)	(8.10)	-	-	口縫隙部 1/6 底部 若干	注口部理容、口縫隙部剥離外表面に1条の次発 内縫は織様目録。外縫にロカナダケナマ	0.5~1.5 mmの大砂粒含む 2区	2013-1~ 2区	-	175
1861	瓶	瓶	肥前赤 波佐尾	粘土 保護壁	-	(15.90)	5.50	-	(5.30)	口縫隙部 1/8 底部 若干	内面にコンニャック印刷の菊花又と折枝栗とと思われる 文思あり。下部に5条の脚部。内面洗浄み面に横筋	聖職	2013-1~ 2区	-	175
1862	無動胸器	林	肥前陶器 傳津	粘土 保護壁	-	(32.30)	(8.80)	-	-	口縫隙部 1/8	いのちの織毛目録。黒色の縫で外表面に白色で4 条の直縫。内面白目録。白ハケで變容	1 mmの砂粒若干含む 2区	2013-1~ 2区	-	175
1875	排水土器 ～土頭器	高环	調友区 西北部	滑鉄	2013	-	(6.80)	-	(10.35)	底部 完全	底部内面アマ。各面ナメラ。脚部外側ハケ後 ワタリガサ。内面ナメラ	高砂Wの 脚部	67	175	
1876	排水土器 ～土頭器	底鉢 (身)	A2 b1 b1	滑鉄	2013	-	(3.95)	-	3.85	底部 完全	やや細縫のタキ文が形成され底鉢に弱いもよどむ。内面 ハケ・タキナ。中央丸小孔がドーナツ状上げ底	細縫・繊維が多く含む	67	174	

番号	種別	種類	類型	構造	部位	法量(cm)				残存率	特徴	地土	備考	固相	写真
						長さ	幅	高さ	厚さ						
1847	瓦	軒 瓦	巴文・ 珠文	粘土 保護壁	-	(8.20)	13.90	-	-	当瓦 1/3	画面灰色に焼成され、巴文の尾部・珠文5個残存	1~3.5 mmの砂粒少含む	I区南端	-	174
1863	瓦	軒 平瓦	唐草文	粘土 保護壁	-	27.35	25.50	6.00	1.70	全体 1/6 火鉢	唐草文の範囲は瓦当中央部の約14.5 cm間、中心部 は(火鉢)の黒色。黑色に焼成されている	1 mm以下の砂粒・石英含む	2012-Ⅲ区	-	176
1864	瓦	軒 平瓦	唐草文	粘土 保護壁	-	-	(8.30)	-	-	軒部 1/3	唐草文は瓦当端から約3 cmの部分まで	0.5~3 mmの砂粒含む。石 英含む	2013-1~ 2区	-	177
1865	瓦	軒 平瓦	唐草文	粘土 保護壁	-	(3.30)	(13.20)	-	1.40	軒部 1/3	唐草文は瓦当端から約3 cmの部分まで	0.2~0.5 mmの砂粒・石英 含む	2013-1~ 2区	-	177
1866	瓦	軒 平瓦	唐草文	粘土 保護壁	(5.45)	(11.10)	-	1.30	軒部 1/3	唐草文は瓦当端から約3 cmの部分まで	1~2 mmの砂粒含む。石英 含む	2013-1~ 2区	-	177	
1867	瓦	軒 平瓦	唐草文	粘土 保護壁	(9.40)	(12.20)	-	1.60	軒部 1/2	軒部の唐草文。唐草文は瓦当端から約6 cmの部分まで	0.5~1 mmの砂粒含む。石 英含む	2013-1~ 2区	-	177	
1868	瓦	軒 平瓦	巴文・ 珠文	粘土 保護壁	-	(12.10)	13.45	-	1.60	当瓦 1/3	唐草文の唐草文。つぶ巴文は瓦のひびき尾部がやや膨 張している。14個の珠文を配する	2 mmの石英含む 2区	2013-1~ 2区	-	177
1869	瓦	軒 平瓦	巴文・ 珠文	粘土 保護壁	-	(5.90)	9.30	-	1.30	当瓦 1/4	当瓦の唐草文。つぶ巴文は瓦のひびき尾部がやや膨 張している。16個の珠文を配する	1 mm以下の砂粒含む。石英 含む	2013-1~ 2区	-	178
1870	瓦	軒 平瓦	巴文・ 珠文	粘土 保護壁	-	-	13.70	-	1.70	当瓦 1/2	当瓦の唐草文。つぶ巴文は瓦のひびき尾部がやや膨 張している。14個の珠文を配する	2 mmの砂粒・石英含む 2区	2013-1~ 2区	-	178
1871	瓦	万力 青瓦	巴文・ 唐草文	粘土 保護壁	-	-	13.10	-	1.25	当瓦 1/2	当瓦の唐草文。つぶ巴文は瓦のひびき尾部がやや膨 張している。14個の珠文を配する	1 mm以下の砂粒含む。石英 含む	2013-1~ 2区	-	178
1872	瓦	平瓦	唐草文	粘土 保護壁	-	(6.80)	(10.80)	-	1.70	軒部 2/4	軒部の唐草文に瓦に虹色が付いた(巴文)と唐草文 の外縫	1~2.5 mmの砂粒含む。石 英含む	2012-Ⅲ区	-	178
1873	瓦	平瓦		粘土 保護壁	-	26.00	24.70	-	1.50	全体 1/2	全体表面黒色の唐草文で内面は褐色呈す	1~3 mmの砂粒含む。石英 含む	2012-Ⅲ区	-	178
1874	瓦	横瓦		粘土 保護壁	-	26.00	25.70	-	1.70	全体 1/2	黒色の横瓦	1~2 mmの砂粒含む。石英 含む	2012-Ⅲ区	-	178

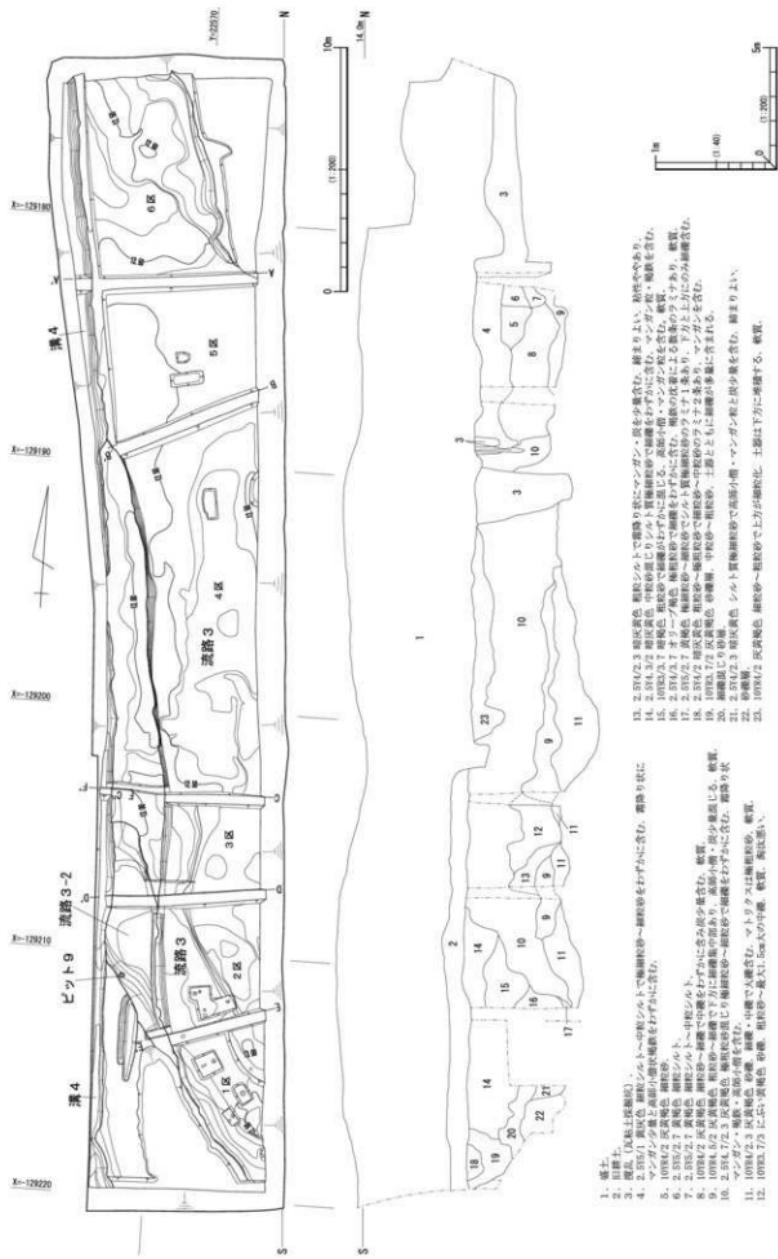
図 版

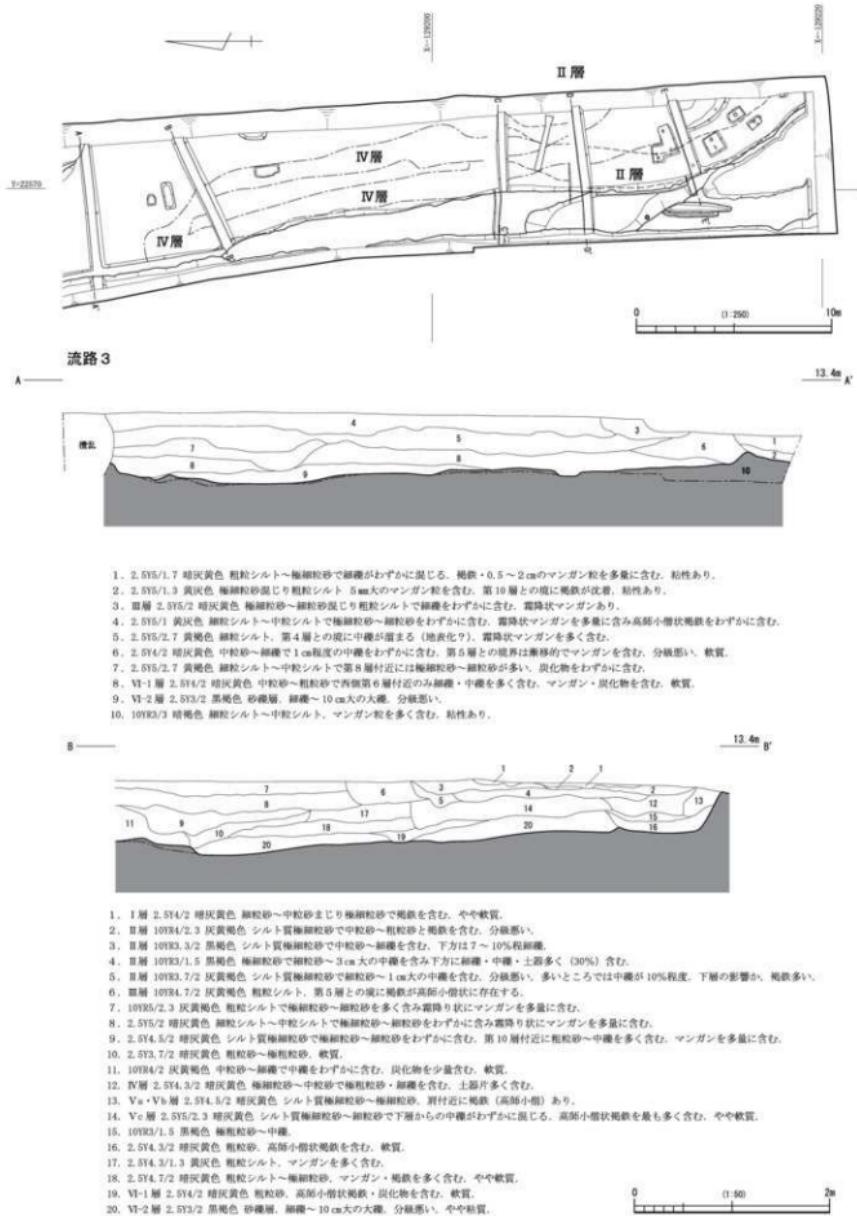


調査区の位置



検出構造全体

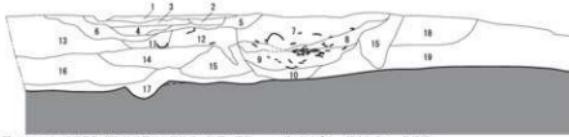




流路3

C

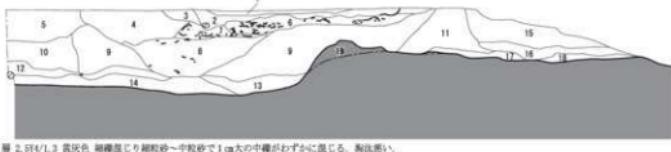
13.4m C'



1. I 層 2.5m/2.7 塗灰黄色。細胞層砂混じり粗粒砂～細粒砂。鈎鉄・マンガン粒を含む。緻まり良い。分級悪い。
2. I 層 2.5m/2.7 塗オリーブ色。細胞層砂混じり中粒砂～粗粒砂。鈎鉄・マンガン粒を含む。軟質。分級悪い。
3. II 層 2.5m/2 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。右側下方に特に多い。分級よい。緻まり良い。マンガン・鈎鉄粒を含む。
4. II 層 2.5m/2 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。左側下方に特に多い。分級よい。緻まり良い。マンガン・鈎鉄粒を含む。
5. III 层 2.5m/3.2 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。右側上方に特に多い。分級よい。緻まり良い。マンガン・鈎鉄粒を含む。
6. 2.5m/4.3.2 黃褐色。細粒砂層で「細粒砂」。鈎鉄・マンガン粒を含む。
7. IV 層 (西) 層 10YR4/2.7 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。
8. IV 層 (西) 層 10YR3/7.2 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。
9. IV 層 (西) 層 10YR4/1.1 黃褐色。中粒砂～粗粒砂で左の方の層と層間砂層が薄い右の方には层間砂層が厚い。黄色中粒砂の水平ラミナ数条あり。高頭小槽も下方にあり。
10. IV 層 (西) 層 2.5m/1.7 黃褐色。細粒シルト。高頭小槽・底付砂層が少く見られ。鈎鉄を含む。第8層との間に層間砂層がある。分級悪い。軟質。
11. IV 層 (西) 層 3.1m/1.7 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。鈎鉄を含む。第8層との間に層間砂層がある。分級悪い。軟質。
12. V 層 (西) 层 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂層で「細粒砂」。鈎鉄を含む。
13. V 層 2.5m/2.3 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。鈎鉄を含む。緻まり良い。分級悪い。軟質。
14. IV 層 (東) 层 10YR3/7.0 黃褐色。細粒砂層。サトリクスは中粒砂・粗粒砂層で細粒・最大1.5cmの中槽を多量に含む。軟質。分級悪い。
15. Vc 層 2.5m/2.7.3 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。高頭小槽多く含む。活性あり。やや軟質。
16. VI 层 10YR4/5.2 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。高頭小槽・底付砂層が少量混じる。軟質。
17. VII 层 10YR4/2.3 黃褐色。細粒砂層で「細粒砂」。マクリクタは細粒砂層・最大10cmの大槽を含む。軟質。
18. 10YR4/1.7 黃褐色。細粒砂混じり粗粒シルト。露呈り状マンガン含む。土槽は含まない。
19. 9YR4/1.7 黃褐色。シルト質複種砂層。鈎鉄を多く含む。活性あり。基盤層。

D

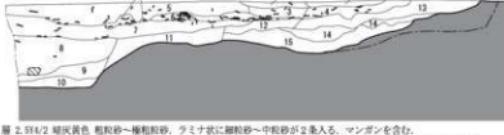
13.4m D'



1. I 层 2.5m/1.3 黃褐色。細粒層から粗粒層へ粒径が1cmの大の中槽がわずかに見じる。胸沈悪い。
2. II 层 10YR5/2.7 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。10cmの大の中槽あり。
3. III 层 2.5m/2.7 黃褐色。細粒シルトで「細粒砂」で細粒砂を含む。土槽含む。
4. 2.5m/2.3 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。鈎鉄を含む。活性あり。
5. 2.5m/2.5 黃褐色。細粒シルト～中粒シルトで細粒砂・中槽約1%ほど見じる露呈り状にマンガン・鈎鉄を含む。第8層との間にマンガン多条あり。緻まり良い。
6. VII 层 10YR3/7.0 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。多量の中槽・大槽を含む。土槽を多量含む。緻まり良い。胸沈悪く。
7. VII 层 文化層 2.5m/2.7 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。中槽を含む。活性あり。
8. VIII 层 2.5m/2.7 黃褐色。細粒シルトで細粒砂を含む。中槽を含む。活性あり。
9. Vc 層 2.5m/2.87 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。露呈り状にマンガン・鈎鉄を含む。活性あり。
10. Va + b 層 2.5m/2.3 黃褐色。細粒シルトで露呈り状にマンガン・鈎鉄を含む。活性あり。
11. 10YR4/3.2 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。中槽を含む。露呈り状にマンガン・鈎鉄を含む。緻まり良い。
12. VI 层 2.5m/2.7 黃褐色。細粒シルト～中粒砂で露呈り状に10層からの半槽を含む。高頭小槽・マンガン・活性物を含む。軟質。
13. VI 层 2.5m/2.2 黃褐色。細粒砂～粗粒砂で「細粒砂」を含む。中槽砂～粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。マクリクタは細粒砂層・中槽砂～粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。やや軟質。
14. VI 层 2.5m/2.3 黃褐色。細粒砂～粗粒砂で「細粒砂」を含む。中槽砂～粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。
15. 滝頭 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂～粗粒砂で「細粒砂」を含む。中槽砂～粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。
16. 滝頭 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂～粗粒砂で「細粒砂」を含む。中槽砂～粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。
17. 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂層で「細粒砂」を含む。やや活性あり。
18. 滝頭 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂層で「細粒砂」を含む。活性あり。
19. 10YR5/3.5 黃褐色。中粒シルトで高頭小槽を多量含む。活性あり。基盤層。

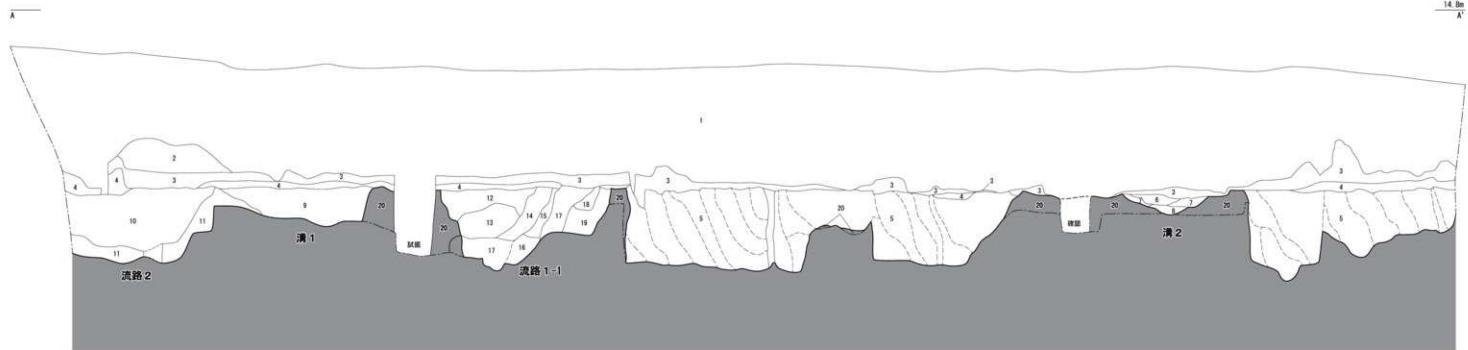
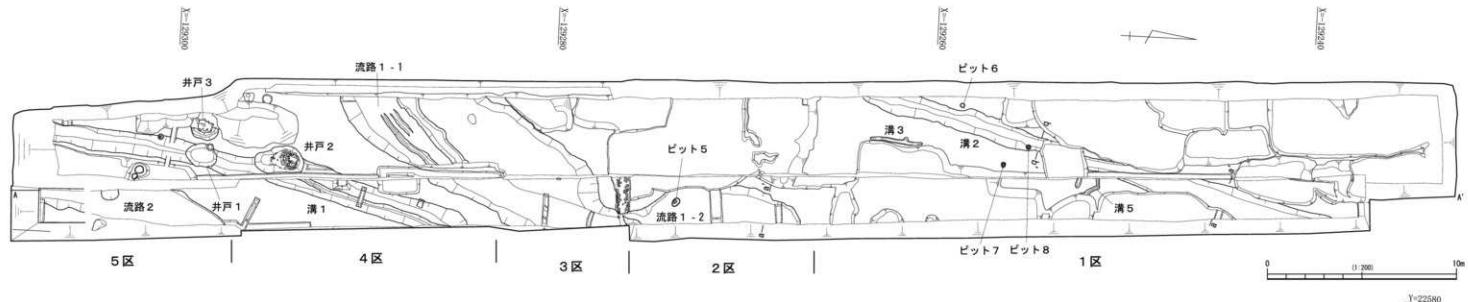
E

13.4m E'



1. I 层 2.5m/2.7 黃褐色。粗粒砂～極粗粒砂。ラミナ状に細粒砂～中粒砂が2条ある。マンガンを含む。
2. I 层 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂～粗粒砂～極粗粒砂・極粗粒砂が1/2ナット位に含まれる。マンガノ粒・鈎鉄を含む。緻まり良い。
3. II 层 10YR3/2.7 黃褐色。砂礫層。マクリクタは中粒砂～粗粒砂。土槽層。砂礫層非常に多く含まれる。
4. II 层 10YR3/2 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。第3層と層間砂層を含む。マンガン粒あり。
5. III 层 2.5m/2.7 黃褐色。細粒砂層で「細粒砂」。中槽砂～粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。露呈り状にマンガン・鈎鉄を含む。
6. III 层 2.5m/2.7 黃褐色。粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。
7. IV 层 10YR3/3.7 黃褐色。粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。
8. IV 层 2.5m/2.7 オーバーパーク。黃褐色。粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。
9. 2.5m/2.7 黃褐色。粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。中槽砂～粗粒砂層のラミナ位あり。第9層との境界に鈎鉄が化着。軟質。
10. 10YR3/7.0 黃褐色。砂礫層。マクリクタは粗粒砂～極粗粒砂・極粗粒砂が1/2ナット位に含まれる。活性あり。
11. 2.5m/2.3 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。活性あり。
12. 2.5m/2.3 黃褐色。シルト質複種砂層で細粒砂を含む。活性あり。
13. 10YR3/7.0 黃褐色。砂礫層。マクリクタは粗粒砂～極粗粒砂・極粗粒砂が1/2ナット位に含まれる。活性あり。
14. 10YR4/2.3 黃褐色。中粒砂～シルト質複種砂層で細粒砂を含む。活性あり。
15. 10YR4/2.7 黃褐色。粗粒砂層で「粗粒砂」を含む。活性あり。基盤層。





1. 鹿草。 11. 1979A/4.6 带状。上方に細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。粗粒砂→細粒砂のラミナリティ、上方に細粒集塊、軟質、マンガんを含む。鹿 2 地帯。

2. 鹿草。 12. 1979A/3.4 [に]。黄色地。シート状細粒砂→一部砂層で、中層を多く含む。常に 3 から 4 層あり。第 1 層は、

3. 緑草。 13. 1979A/5.3 [に]。黄色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。粗粒砂→細粒砂のラミナリティあり。軟質あれ、鹿 2 地帯。

4. 床土。 14. 1979A/4.4 床土。細粒砂→中層で粗粒砂へ細粒を 3 から 5 層含む。鹿 2 地帯。

5. 褐草 (粘土保断層)。 15. 1979A/4.2 褐色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。粗粒砂→細粒砂のラミナリティ、中層を多く含む。軟質、鹿 1 地帯。

6. 1979A/5.3 [に]。黄色地。細粒砂→粗粒砂へ細粒が混じる。バースと層界に褐色・マンガんが混在。鹿 2 地帯。

7. 2. S7S. 6.2.4 带状。黄色地。粗粒砂へ中層砂で一括ラミナイトに粗粒砂→細粒砂あり。バースと層界に褐色・マンガんが混在。鹿 2 地帯。

8. 2. S7V.4.2.8 オリーブ色帶。細粒砂で中層で多く含む。粗粒砂→細粒が中間層を形成する。バース層界に褐色・マンガんが混在。鹿 2 地帯。

9. 2. S7S. 6.2.4 带状。褐色地。細粒砂で中層砂で、下部に中層砂→細粒砂のラミナリティあり。鹿 2 地帯。

10. 1979A/4.4 [に]。黄色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。中層を多く含む。軟質あれ、鹿 2 地帯。

11. 1979A/4.6 带状。上方に粗粒砂から細粒砂へ細粒が混じる。中層を多く含む。大鶴川のわざかにあり。鹿 2 地帯。

12. 1979A/3.4 [に]。[に]。黄色地。シート状細粒砂→一部砂層で、中層を多く含む。常に 3 から 4 層あり。第 1 層は、

13. 1979A/5.3 [に]。黄色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。粗粒砂→細粒砂のラミナリティあり。軟質あれ、鹿 2 地帯。

14. 1979A/4.4 床土。細粒砂→中層で粗粒砂へ細粒を 3 から 5 層含む。鹿 2 地帯。

15. 1979A/4.2 褐色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。粗粒砂→細粒砂のラミナリティあり。軟質、鹿 1 地帯。

16. 2. S7V.4.2.8 オリーブ色帶。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。上方は大鶴川のわざかにあり。軟質、鹿 1 地帯。

17. 2. S7V.4.2.8 オリーブ色帶。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。常に 3 から 4 層あり。上方は大鶴川のわざかにあり。軟質あれ、鹿 1 地帯。

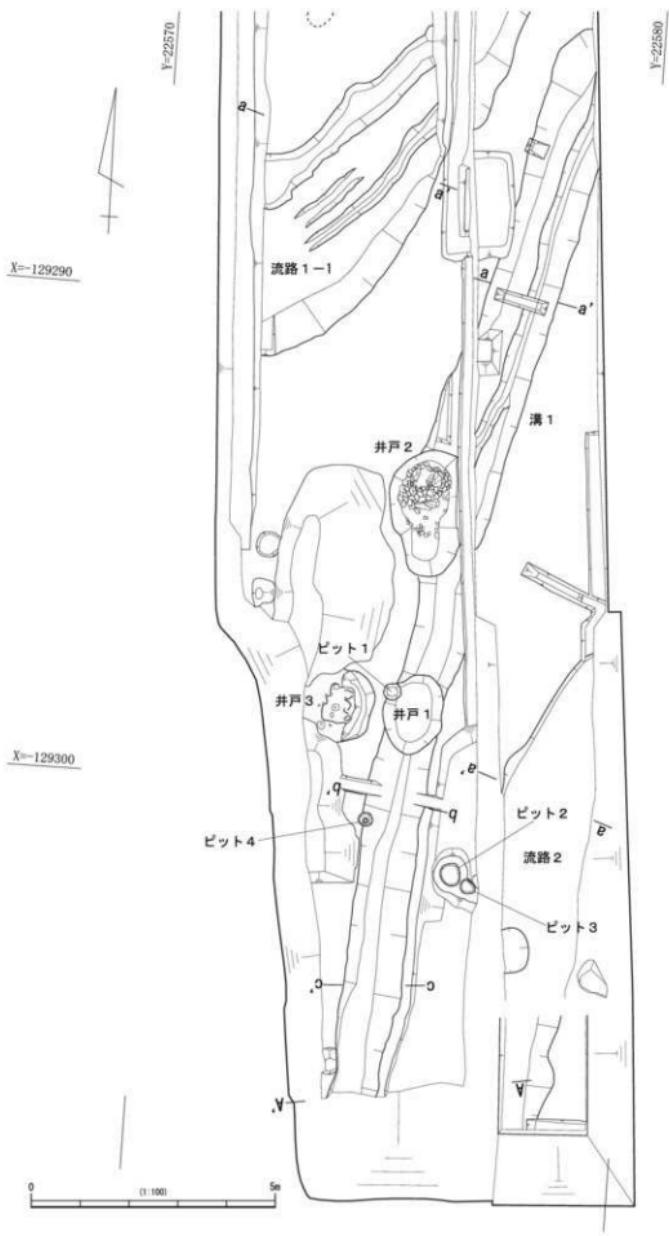
18. 2. S7V.4.2.8 オリーブ色帶。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。常に 3 から 4 层あり。上方は大鶴川のわざかにあり。軟質あれ、鹿 1 地帯。

19. 2. D7S. 4.7 带状。褐色地。細粒砂→中層砂→粗粒砂へ細粒が混じる。上層砂は、鹿 1 地帯。

20. 1979A/4.4 [に]。黄色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。中層を多く含む。軟質あれ、鹿 2 地帯。

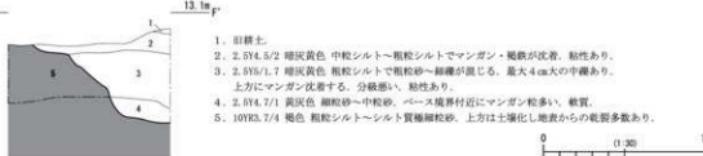
21. 1979A/4.4 [に]。黄色地。細粒砂から粗粒砂へ細粒が混じる。常に 3 から 4 層あり。軟質あれ、鹿 2 地帯。

Ⅱ区平面·土质断面

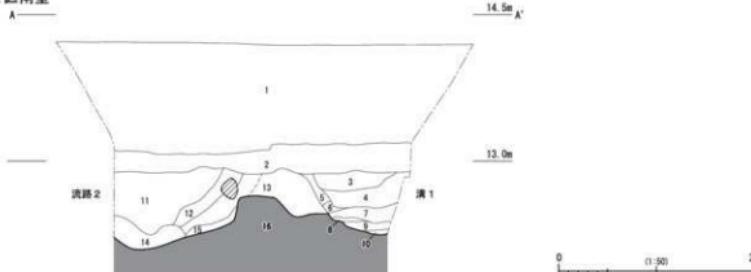


II区南部平面

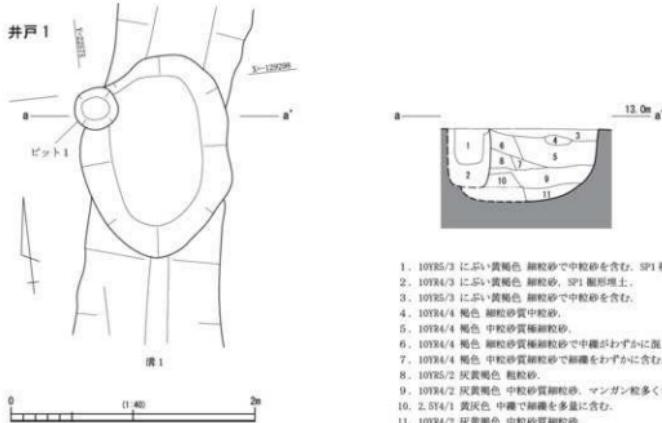
溝 4



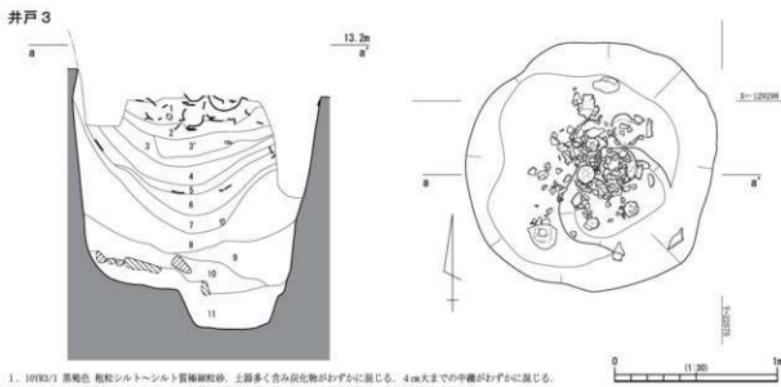
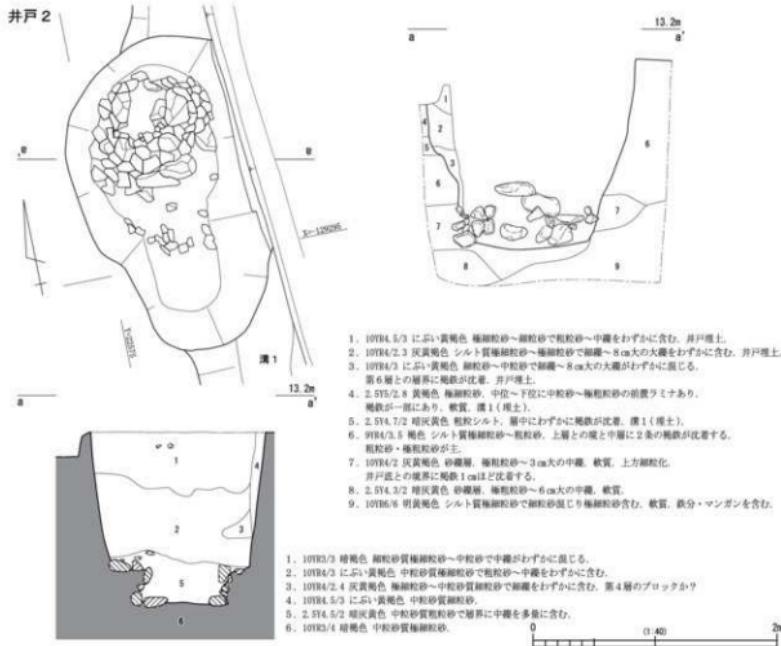
II区南壁



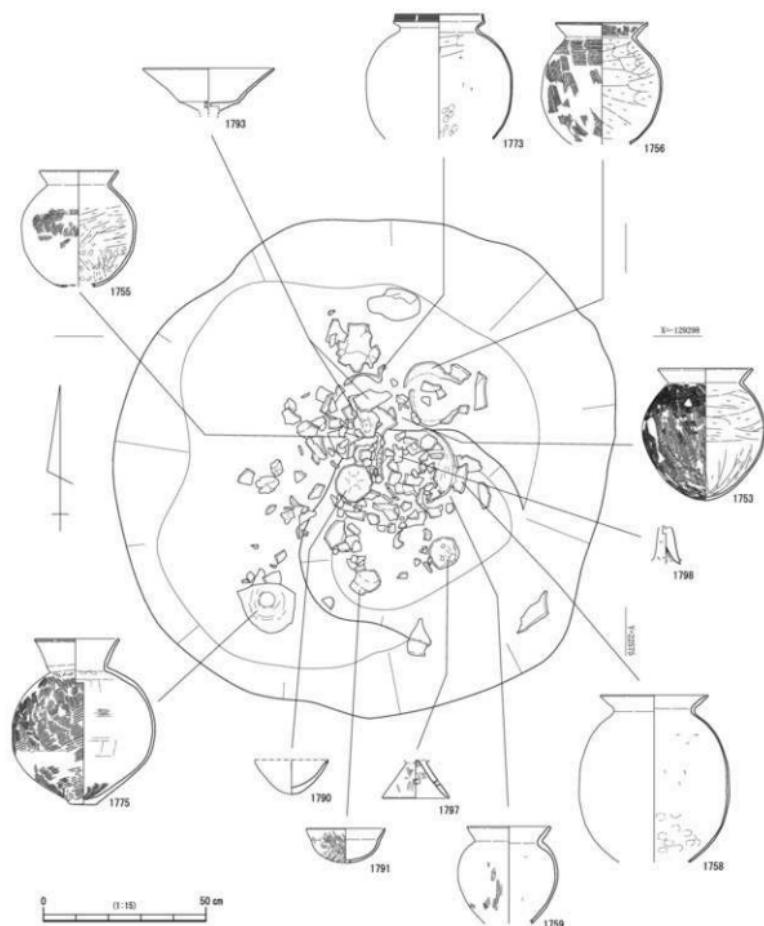
井戸 1



I 区 溝 4 埋土・II区 南壁土層断面、II区 井戸 1

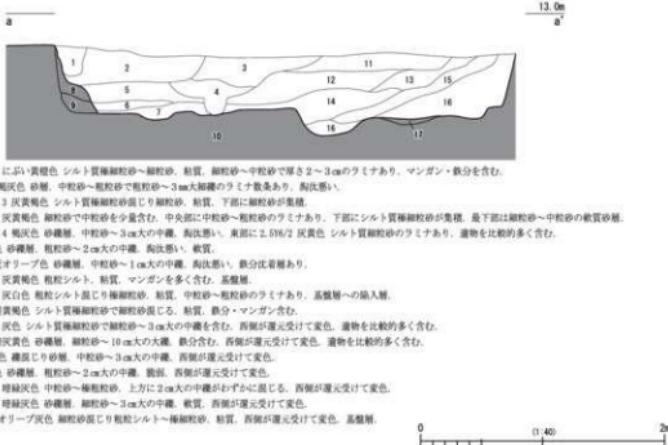


II 区 井戸 2・井戸 3

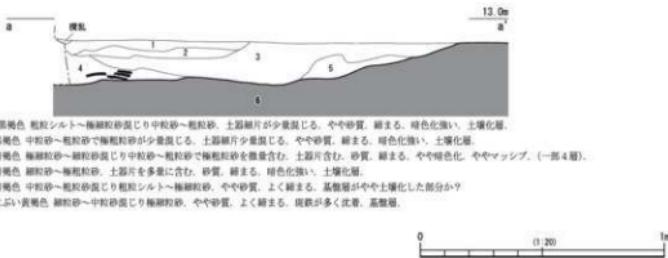


II区 井戸3上層土器出土状況

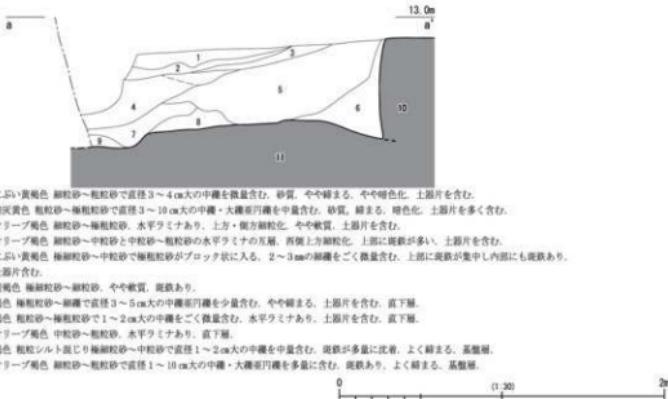
流路 1-1



流路 1-2



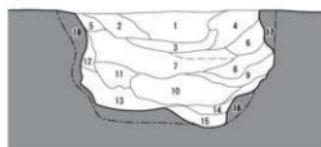
流路 2



II区 流路1・流路2埋土土層断面

溝 1

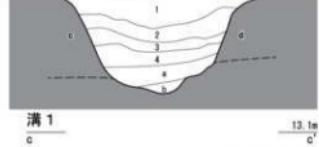
a



1. 10YR 4/3 に近い黄褐色、細粒砂～中粒砂～粗粒シルト～極粗粒砂と
粗粒砂～極粗粒砂が交互に重じる。締まる。
2. 10YR 4/2 に近い黄褐色、中粒砂～粗粒砂、平行ラミナあり。上方は粗粒シルト。
3. 10YR 4/6 黄褐色、中粒砂～粗粒砂、平行ラミナあり。
4. 10YR 4/4 黄褐色、極粗粒砂、虚無あり。締まる。
5. 第4層と同一層。
6. 10YR 4/4 黄褐色、極粗粒砂～細粒砂で中粒砂～粗粒砂が斑状に混じる。締まる。炭化物を含む。
7. 10YR 4/4 喀斯特色、極粗粒砂～粗粒砂、平行ラミナあり。上方は極粗粒砂。上一部でラミナが乱れる。
8. 2. 5YR 6/6 オリーブ褐色、極粗粒砂～細粒砂で中粒砂が斑状に存在。
9. 2. 5YR 6/4 オリーブ褐色、粗粒シルトと重じて極粗粒砂～細粒砂で極粗粒砂が斑状に存在。
炭化物を含む。やや軟質。
10. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、極粗粒砂～粗粒砂、平行ラミナあり。上方は粗粒化。
11. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、細粒砂で中粒砂～粗粒砂が斑状に混じる。泥敷あり。
12. 2. 5YR 6/6 オリーブ褐色、細粒砂で炭化物を含む。やや締まる。第17層が削られたものか?
13. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、粗粒シルト～極粗粒砂、最下部に直径3～4cmの中空円筒を挟む。
炭化物を含む。やや軟質。
14. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、細粒砂で直径2cmの中空円筒をぐる抜き含む。やや軟質。
上方でやや締まる。第1層と同様。
15. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、粗粒シルト～極粗粒砂が混じて粗粒砂～極粗粒砂、やや締まる。泥敷あり。
16. 10YR 4/6 黄褐色、粗粒砂～極粗粒砂混じて粗粒砂～粗粒砂、やや締まる。泥敷あり。地山。
17. 10YR 4/4 喀斯特色、粗粒砂～極粗粒砂が混じて細粒砂～半粗粒砂、やや締まる。炭化物を含む。泥敷あり。
地山。第6層と同質の土か?
18. 10YR 4/3 に近い黄褐色、粗粒シルトと重じて極粗粒砂～細粒砂、虚無あり。地山。

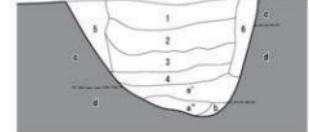
溝 1

b



溝 1

c



1. 2. 5YR 2/2 喀斯特色、極粗粒砂～中粒砂、マンガンを含む。
2. 2. 5YR 2/2 喀斯特色、粗粒砂～極粗粒砂で極粗粒砂～半粗粒砂を含む。
3. 10YR 2/2 灰灰褐色、半粗粒。
4. 2. 5YR 2/2 喀斯特色、極粗粒砂～半粗粒。
5. 2. 5YR 2/2 喀斯特色、極粗粒砂～中粒砂。
6. 2. 5YR 2/2 喀斯特色、極粗粒砂シルト。
- a. 10YR 5/3 に近い黄褐色、半粗粒砂で粗粒砂を多く含む。
- b. 10YR 5/4 に近い黄褐色、極粗粒質シルト。
- c. 10YR 5/3 に近い黄褐色、細粒砂～中粒砂。下方に向て粗粒化し
下方で30%程度中粒化含む。泥敷2理土。
- d. 10YR 5/4 4/4 に近い黄褐色、極粗粒砂～粗粒砂。
- e. 10YR 5/3 に近い黄褐色、半粗粒砂で極粗粒砂～粗粒砂、中粒を含む。
- * 2. 5YR 2/2 喀斯特色、半粗粒質粗粒砂で粗粒、中粒を多量に含む。

0 13.0m
a' a

溝 2

a



1. 10YR 5/3 に近い黄褐色、細粒砂～粗粒砂混じて中粒砂で直径2～3cmの大の中空をぐる抜き含む。
砂質、炭敷。マンガン斑あり。よく締まる。少し上層化。
2. 2. 5YR 3/3 喀斯特色、粗粒砂～極粗粒砂、平行ラミナがわざわざみえる。やや軟質。
3. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、極粗粒砂～中粒砂、炭敷。マンガン斑わざわざかあり。砂質、締まる。
4. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、中粒砂～粗粒砂、平行ラミナあり。土壤断片含む。やや軟質。
5. 10YR 4/3 に近い黄褐色、粗粒砂～極粗粒砂、平行ラミナあり。やや軟質。
6. 10YR 4/4 喀斯特色、粗粒シルト～中粒砂混じて粗粒砂～粗粒砂、炭敷。中粒を多量に含む。

0 13.0m
b' b

溝 2

b



1. 10YR 3/4 喀斯特色、砂質層。
極粗粒砂～7cmの大窓。粘質。

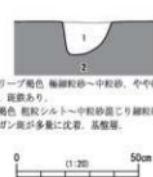
0 13.0m
a' a

溝 5

b

1. 2. 5YR 4/4 オリーブ褐色、極粗粒砂～中粒砂、やや軟質。
よく締まる。泥敷あり。
2. 10YR 3/4 喀斯特色、粗粒シルト～中粒砂混じて粗粒砂～粗粒砂
炭鉄・マンガン斑が多量に沈着。基盤層。

0 (1.40) 1m



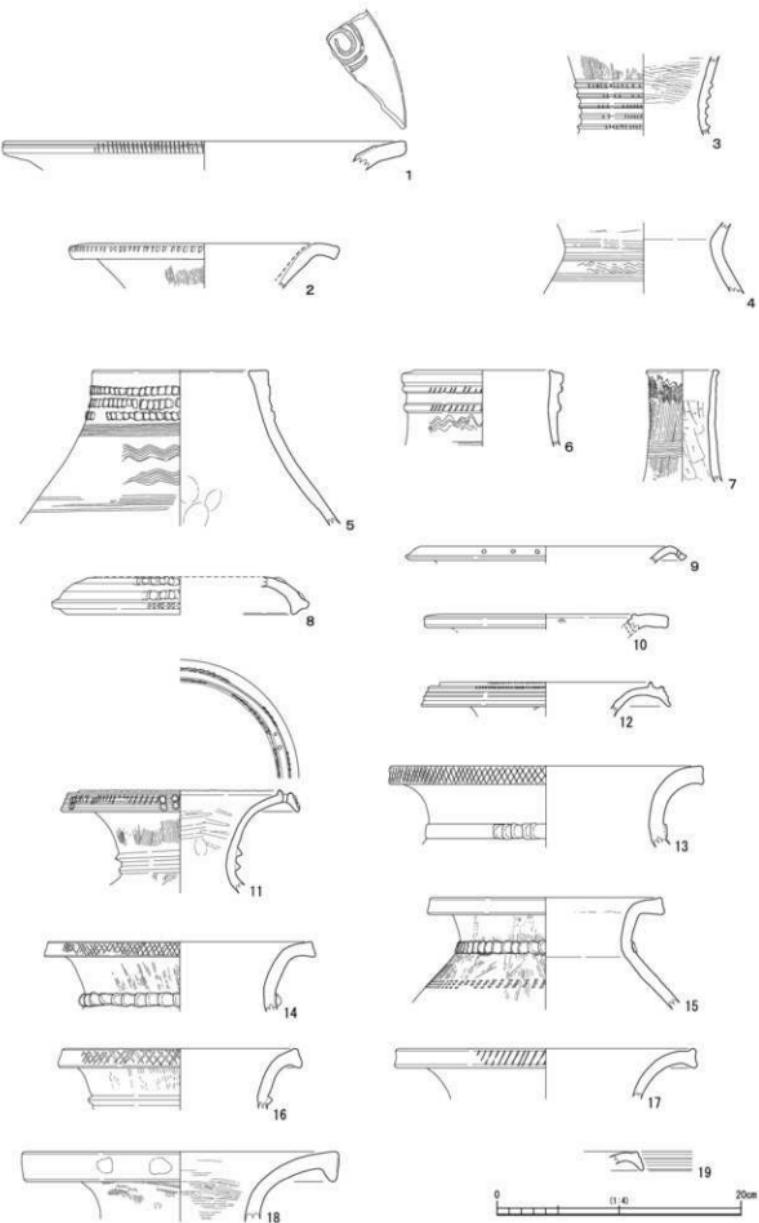
溝 3

a

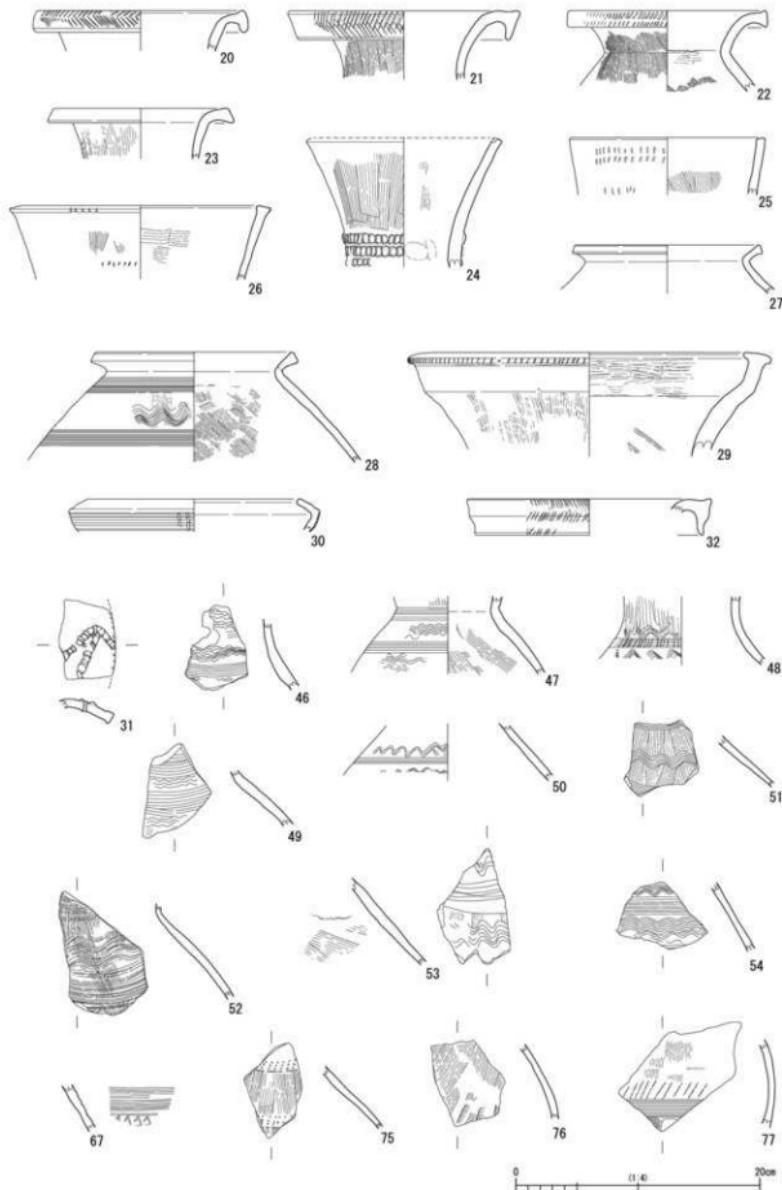


1. 10YR 3/1 黄灰色、極粗粒砂～中粒砂を含む。
2. 10YR 3/1 黑褐色、シルト～極粗粒砂、粘質。
3. 10YR 2/2 灰灰褐色、シルト質粗粒砂、炭鉄多い。
4. 10YR 1/5 黑褐色、粗粒砂～極粗粒砂 含む。下部ほど細粒化。
5. 10YR 4/2.4 黑褐色、細粒砂～3cmの大中窓。炭鉄。

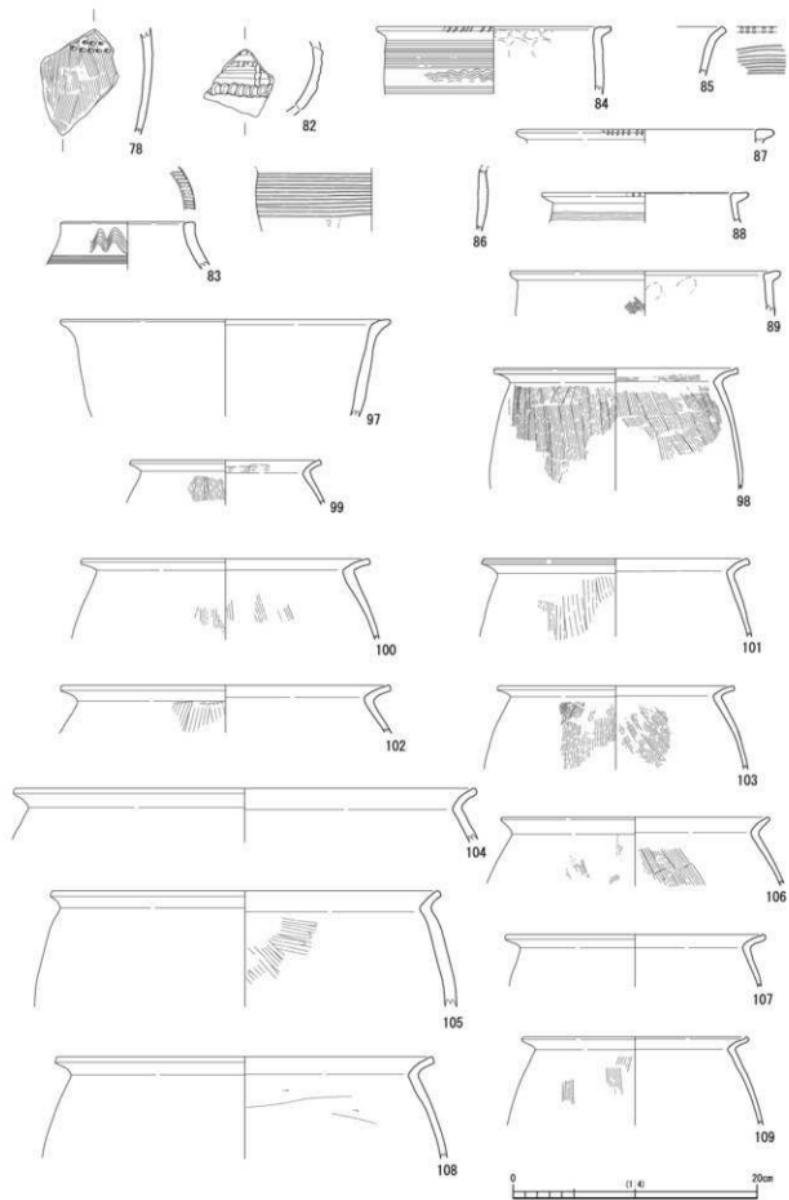
0 (0.20) 1m
a' a



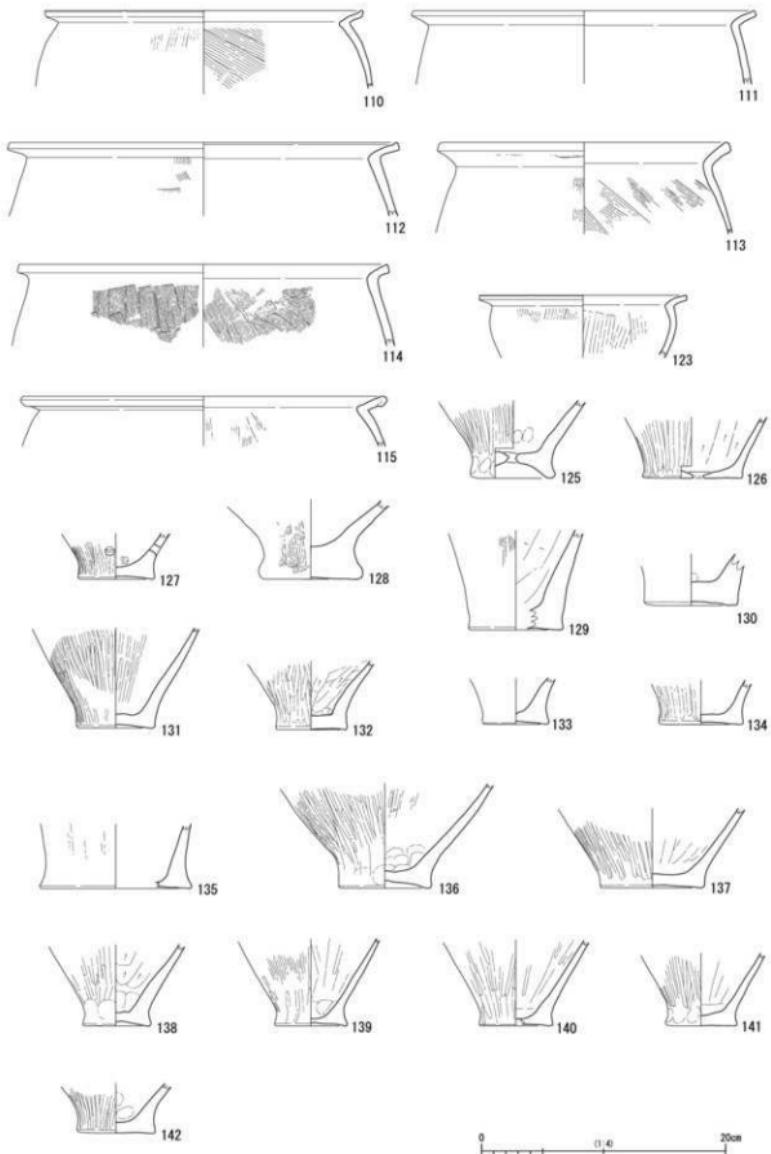
I 区 流路 3 出土土器 (1)



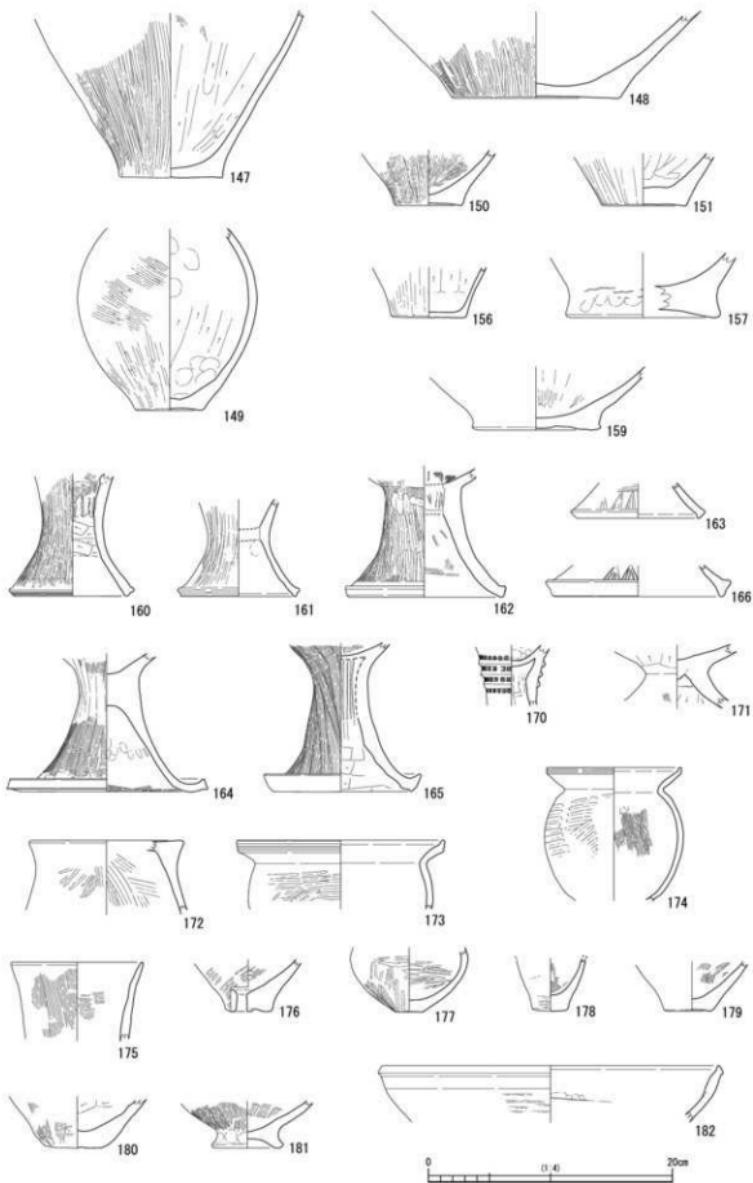
I 区 流路 3 出土土器 (2)



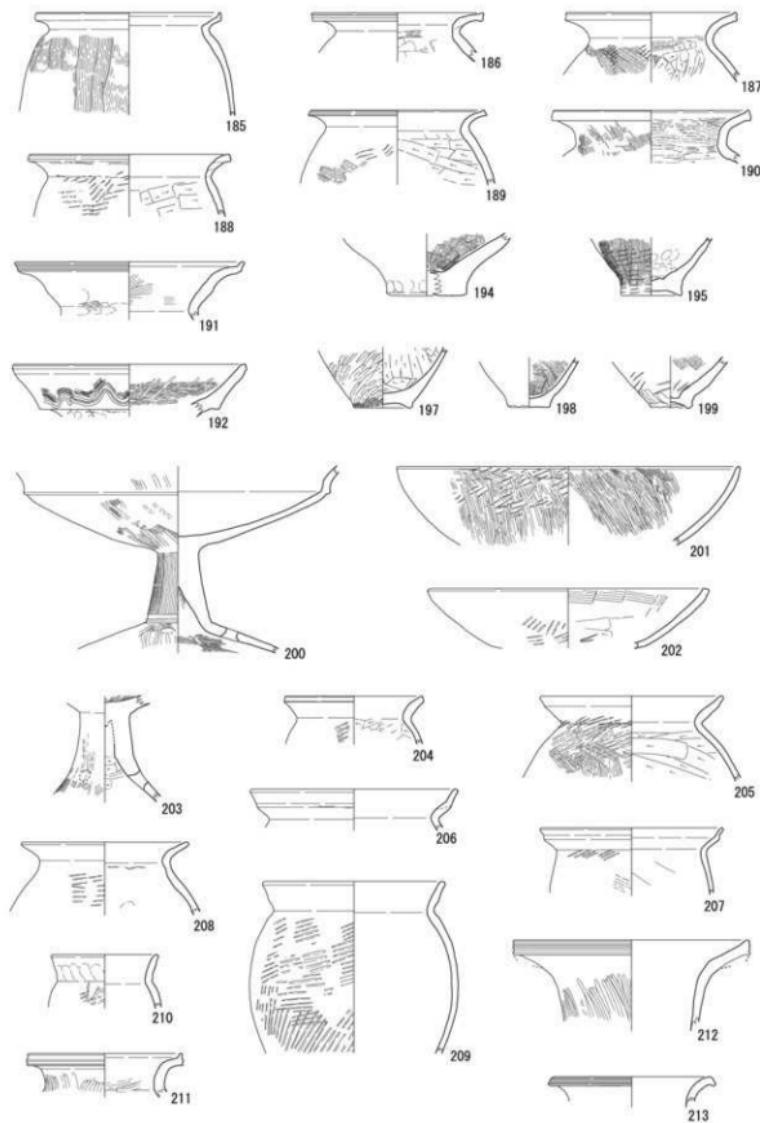
I 区 流路 3 出土土器 (3)



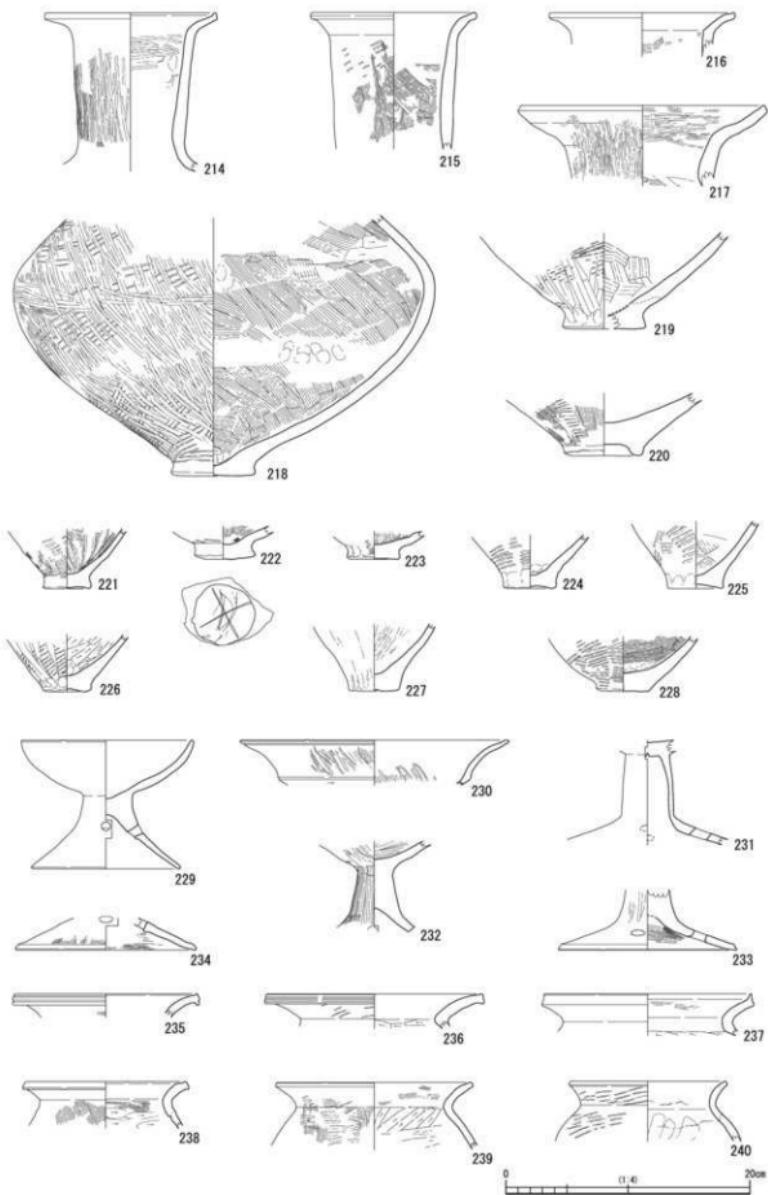
I 区 流路 3 出土土器 (4)



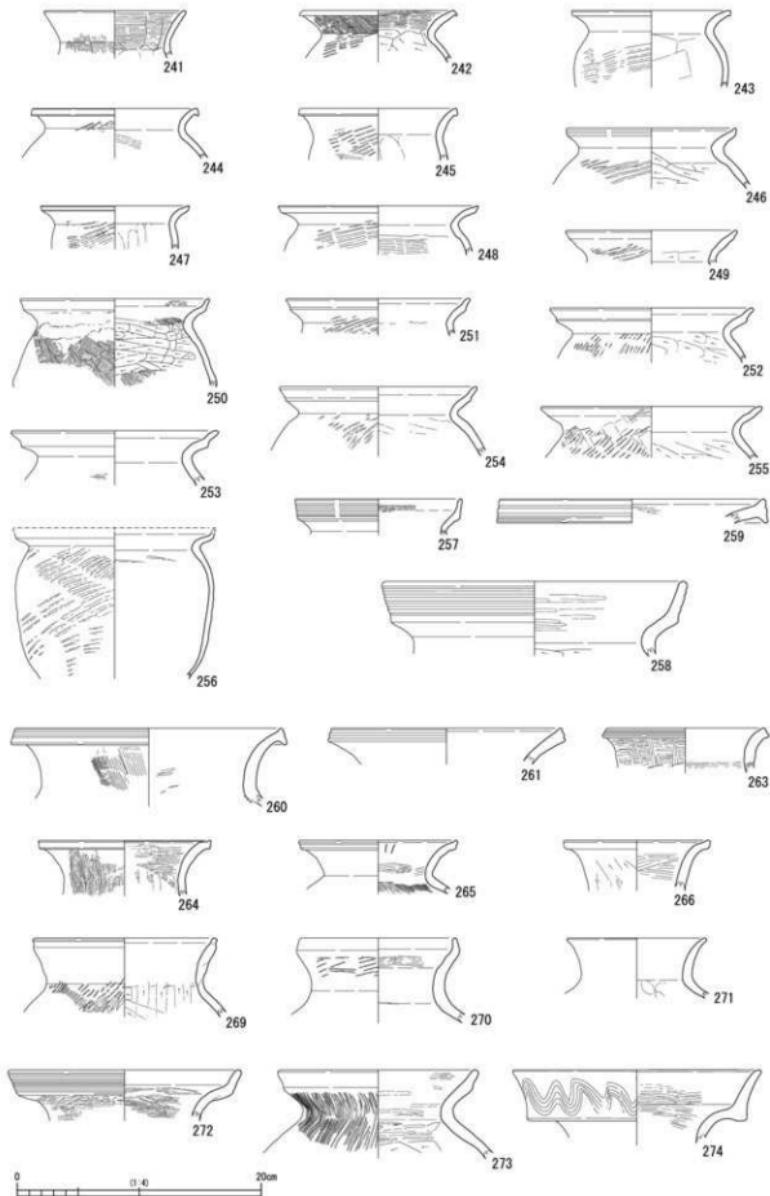
I 区 流路 3 出土土器 (5)



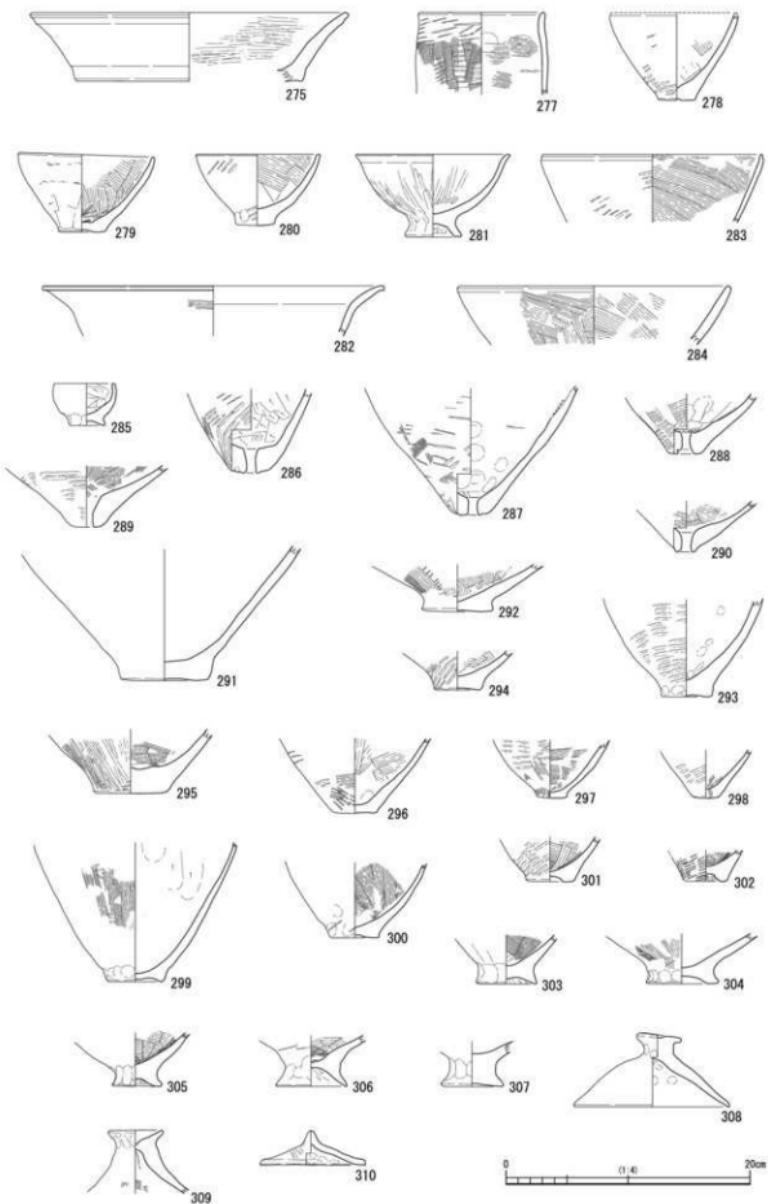
0 (1:4) 20cm



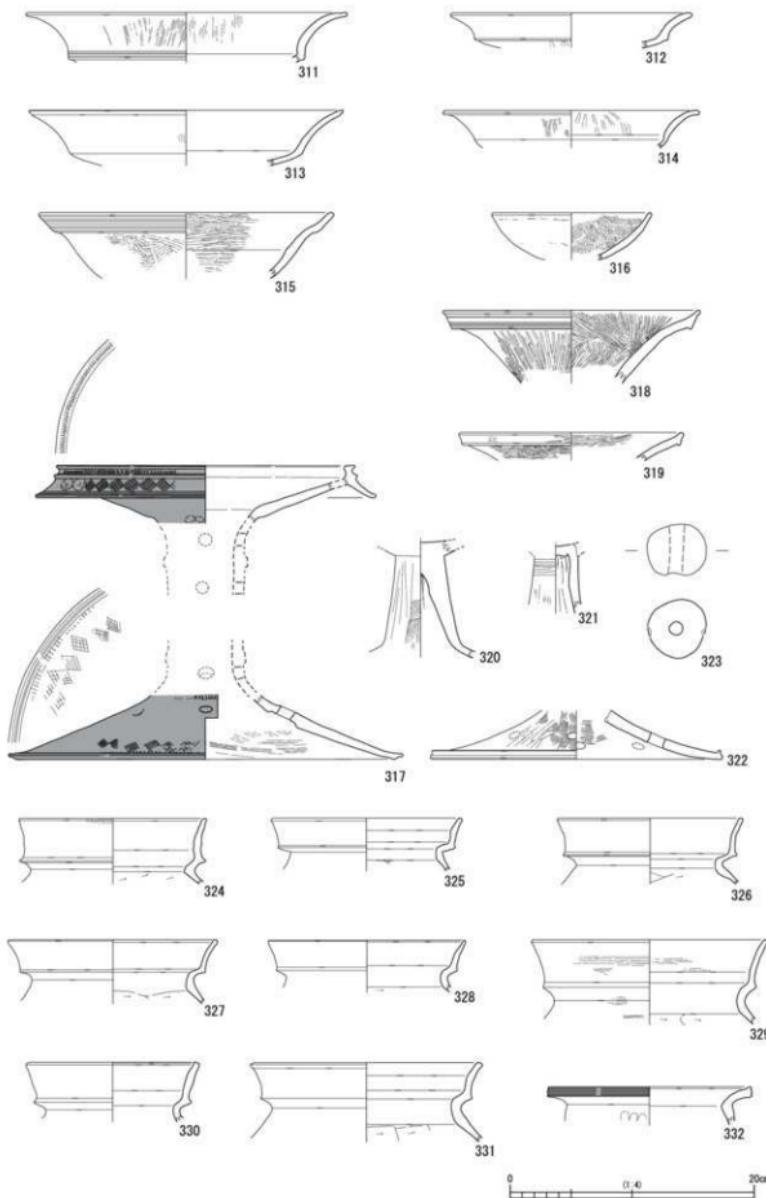
I 区 流路 3 出土土器 (7)



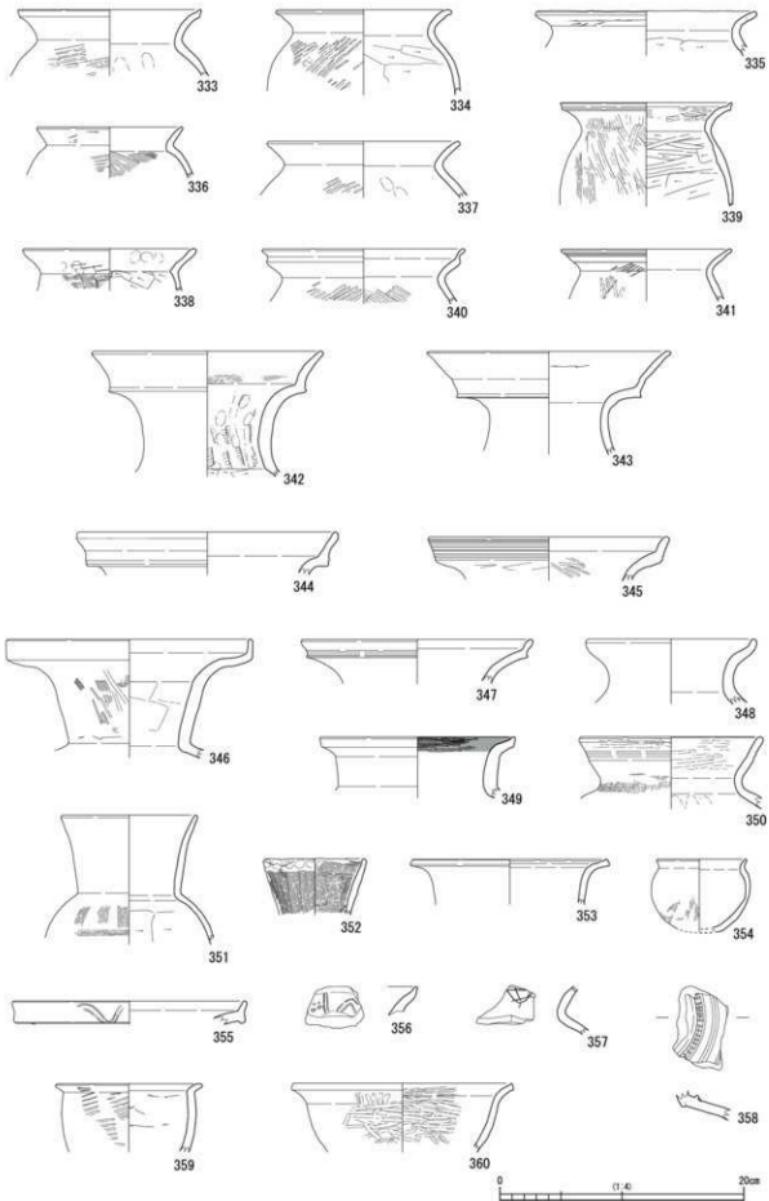
I 区 流路 3 出土土器 (8)



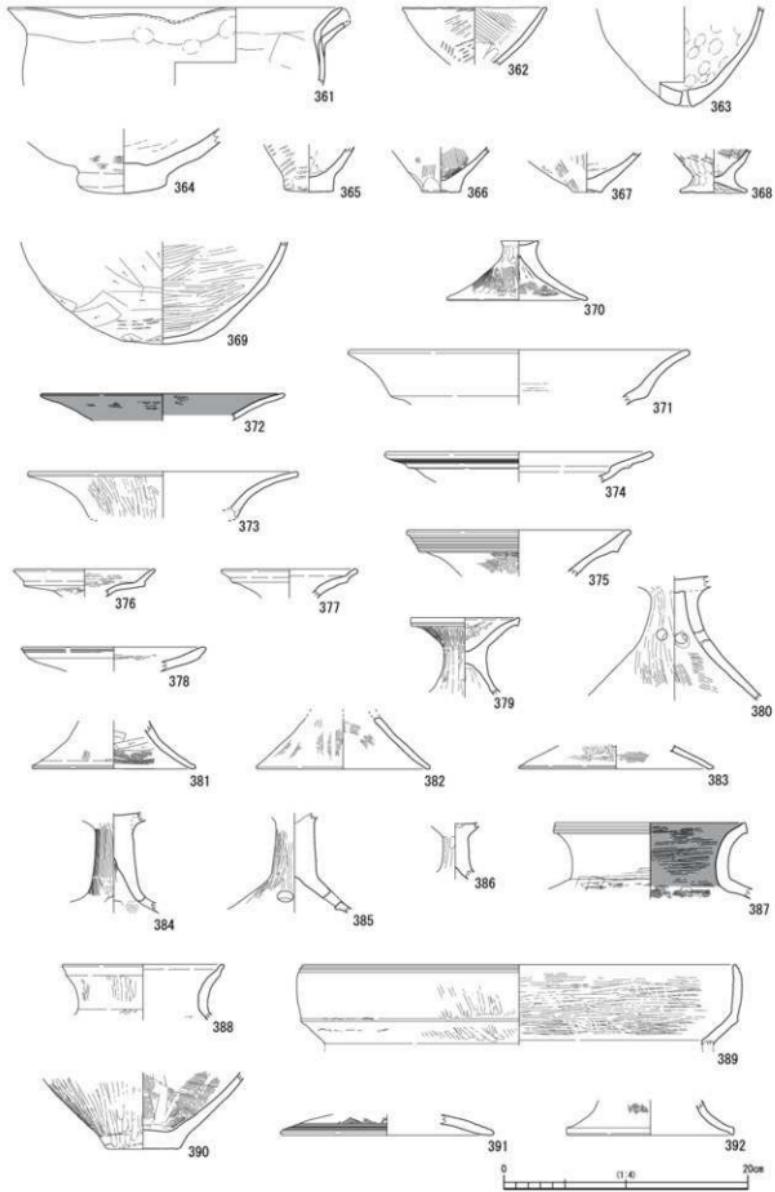
I 区 流路 3 出土土器 (9)



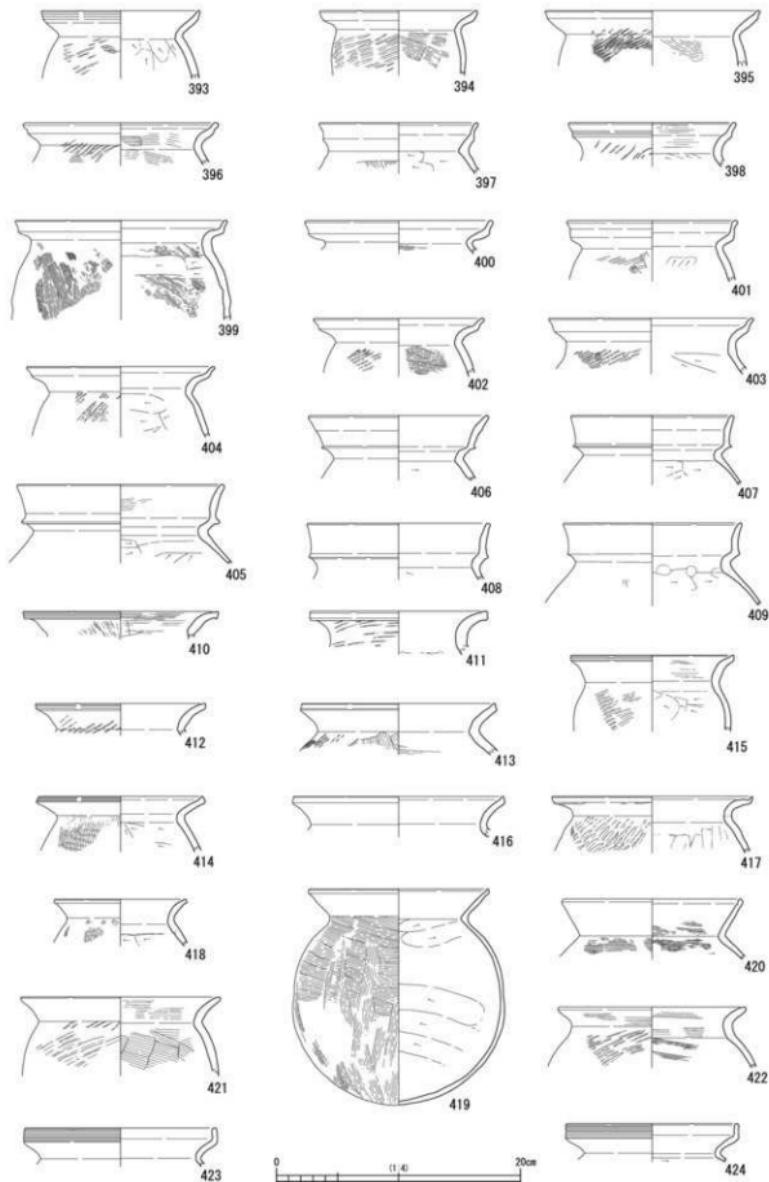
I 区 流路 3 出土土器 (10)



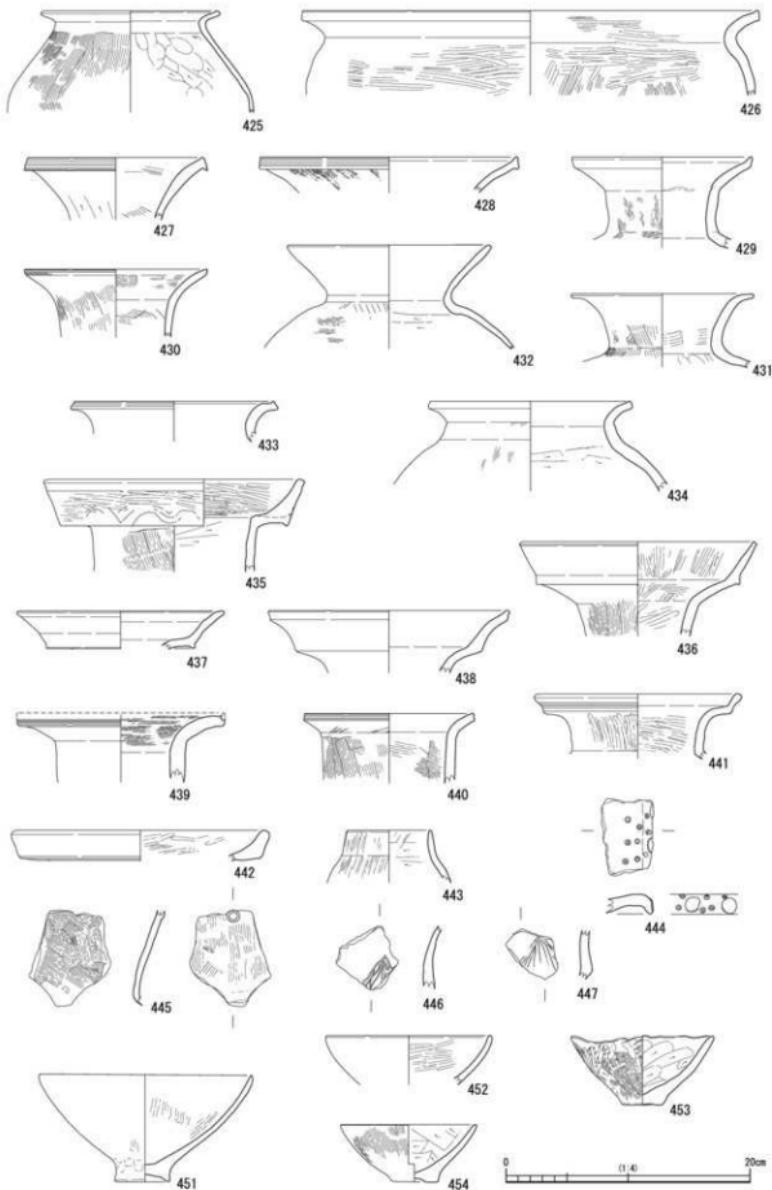
I 区 流路 3 出土土器 (11)



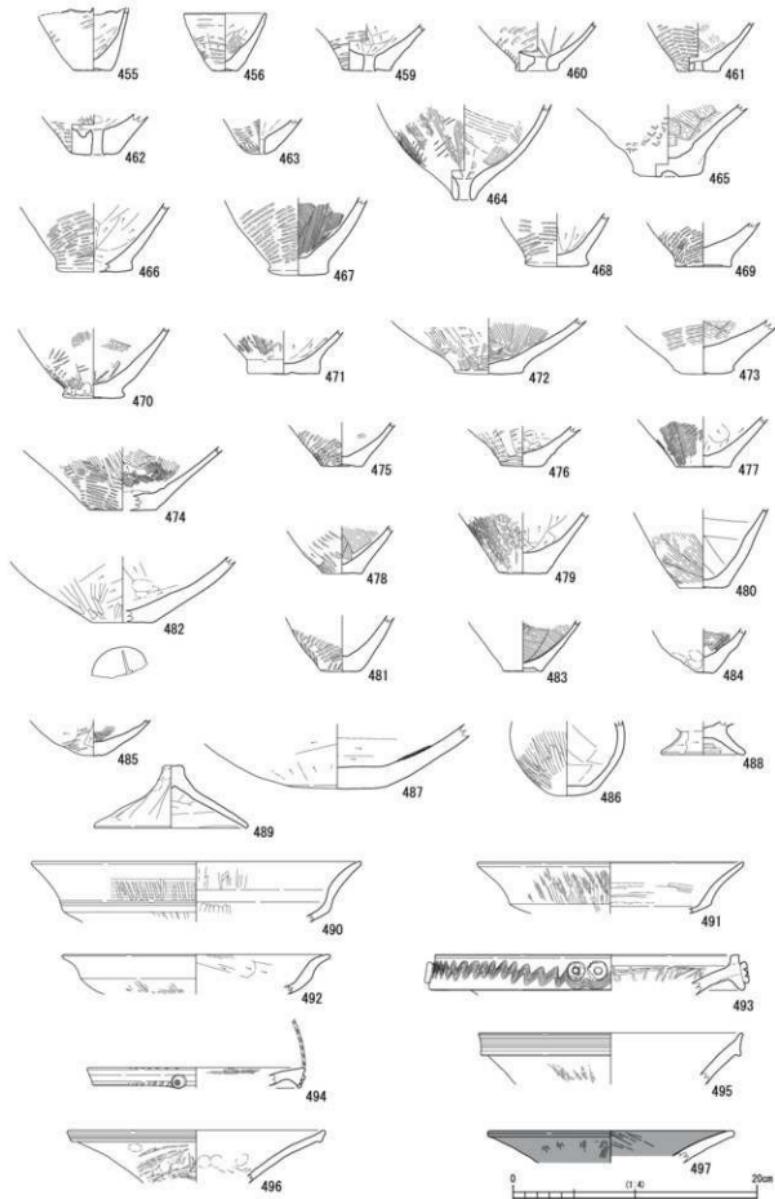
I 区 流路 3 出土土器 (12)



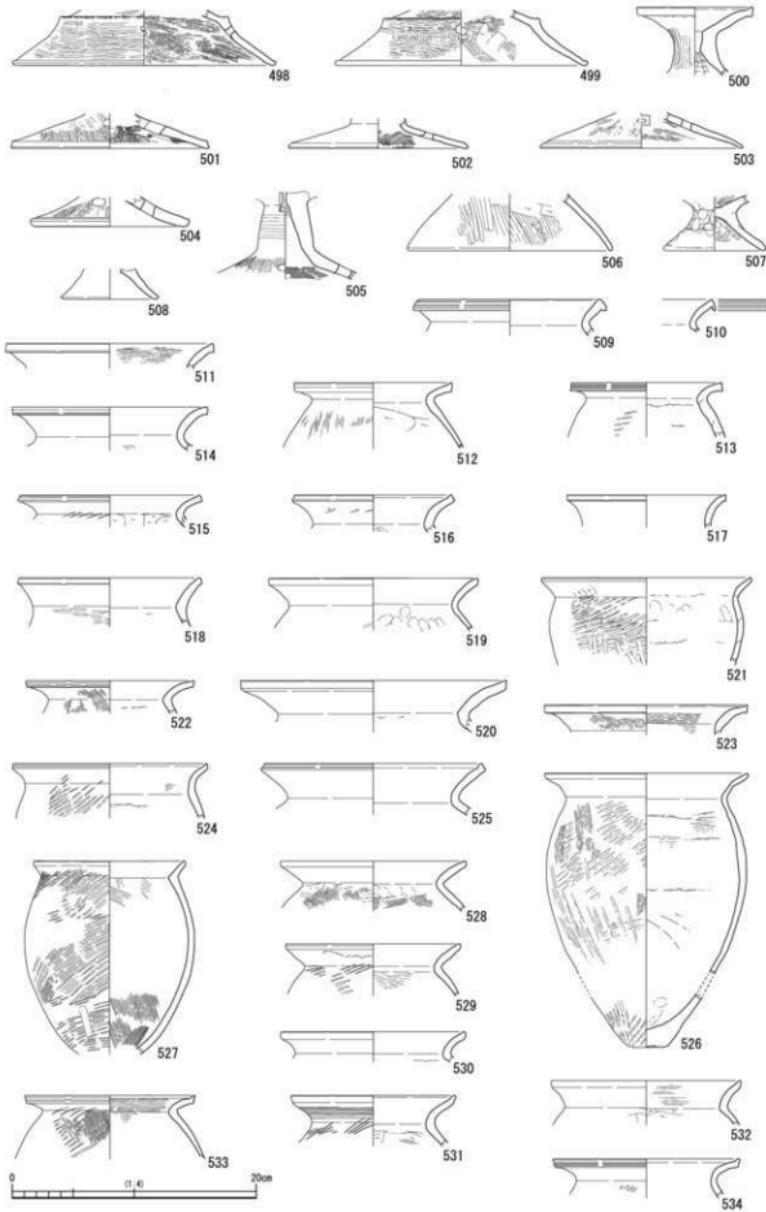
I 区 流路 3 出土土器 (13)



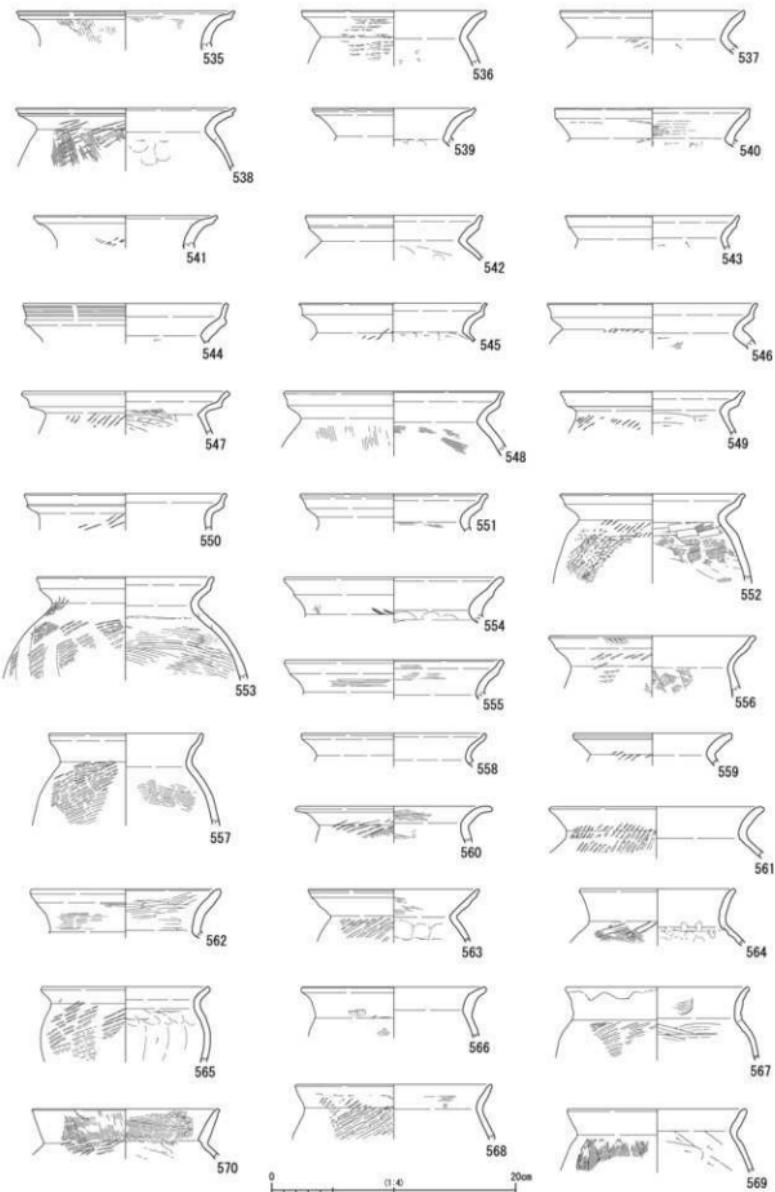
I 区 流路 3 出土土器 (14)



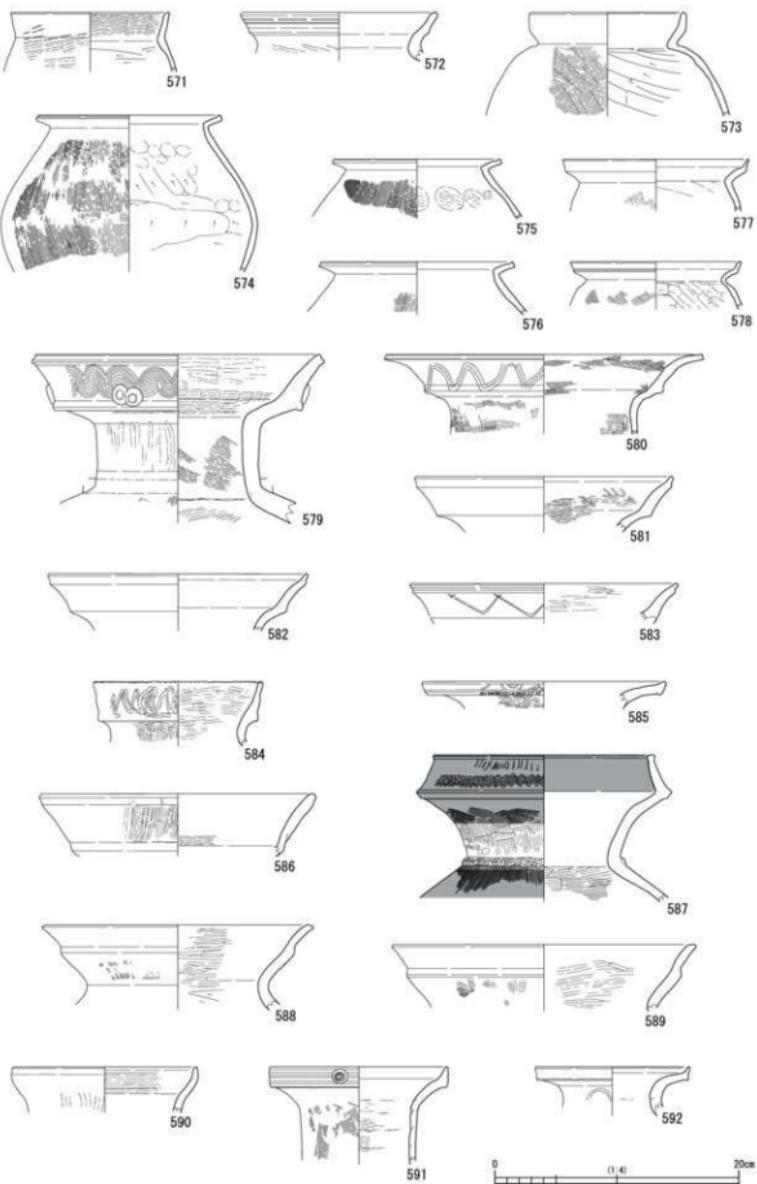
I 区 流路 3 出土土器 (15)



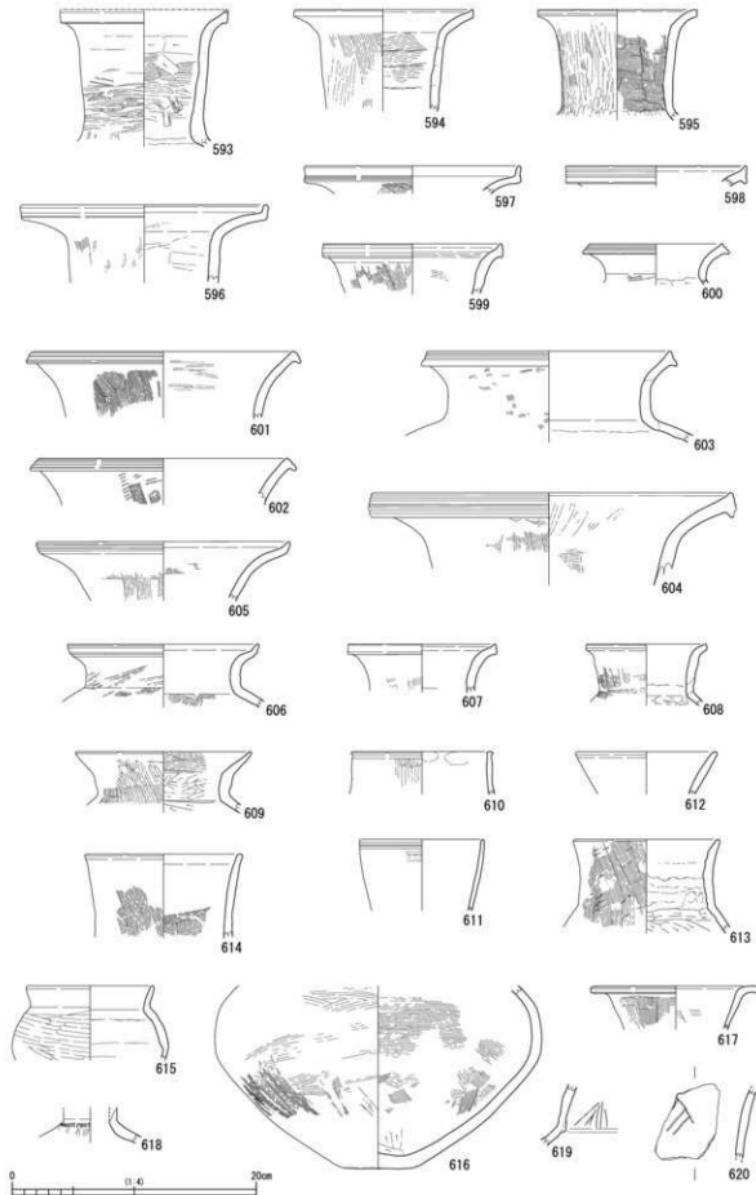
I 区 流路 3 出土土器 (16)



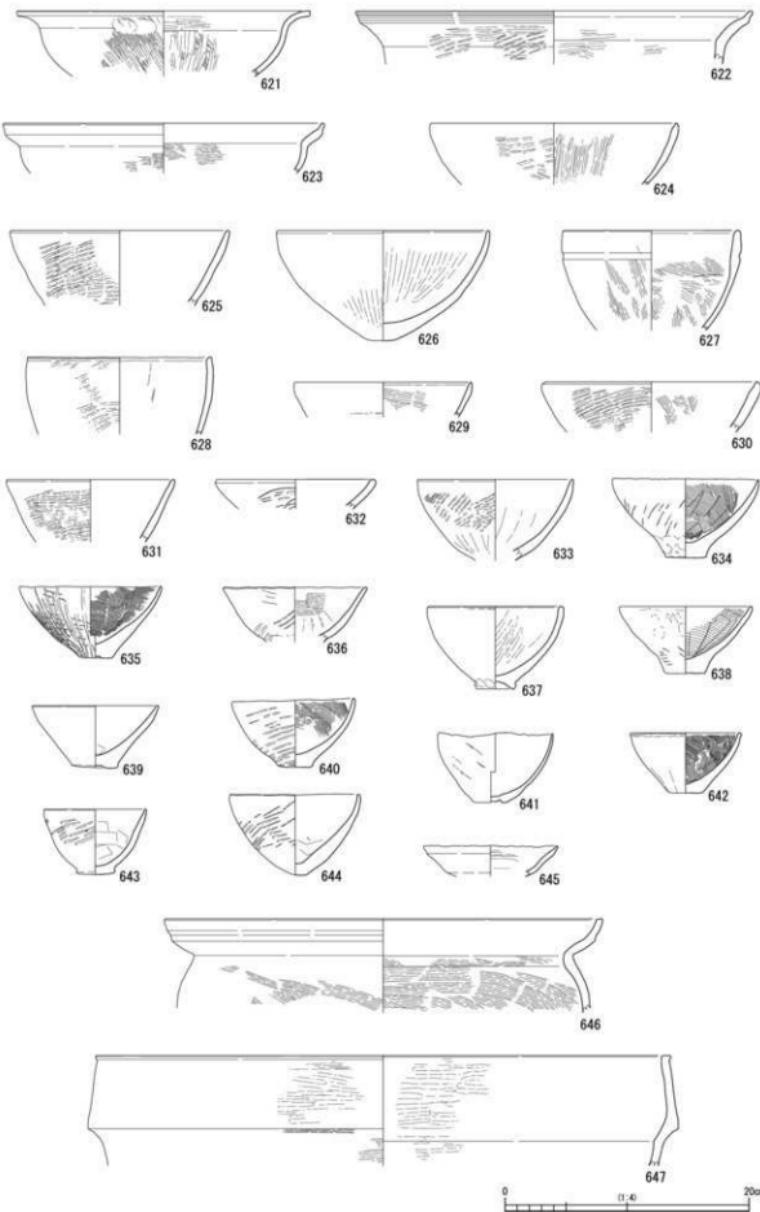
I 区 流路 3 出土土器 (17)



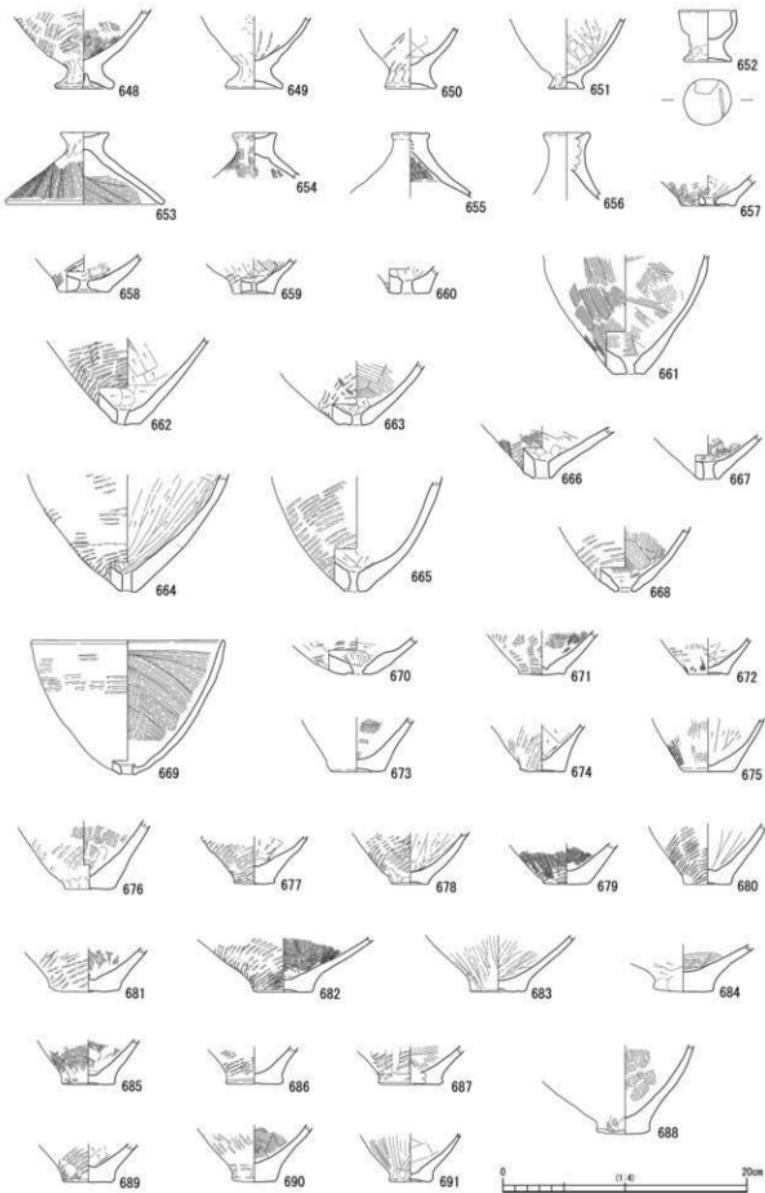
I 区 流路 3 出土土器 (18)



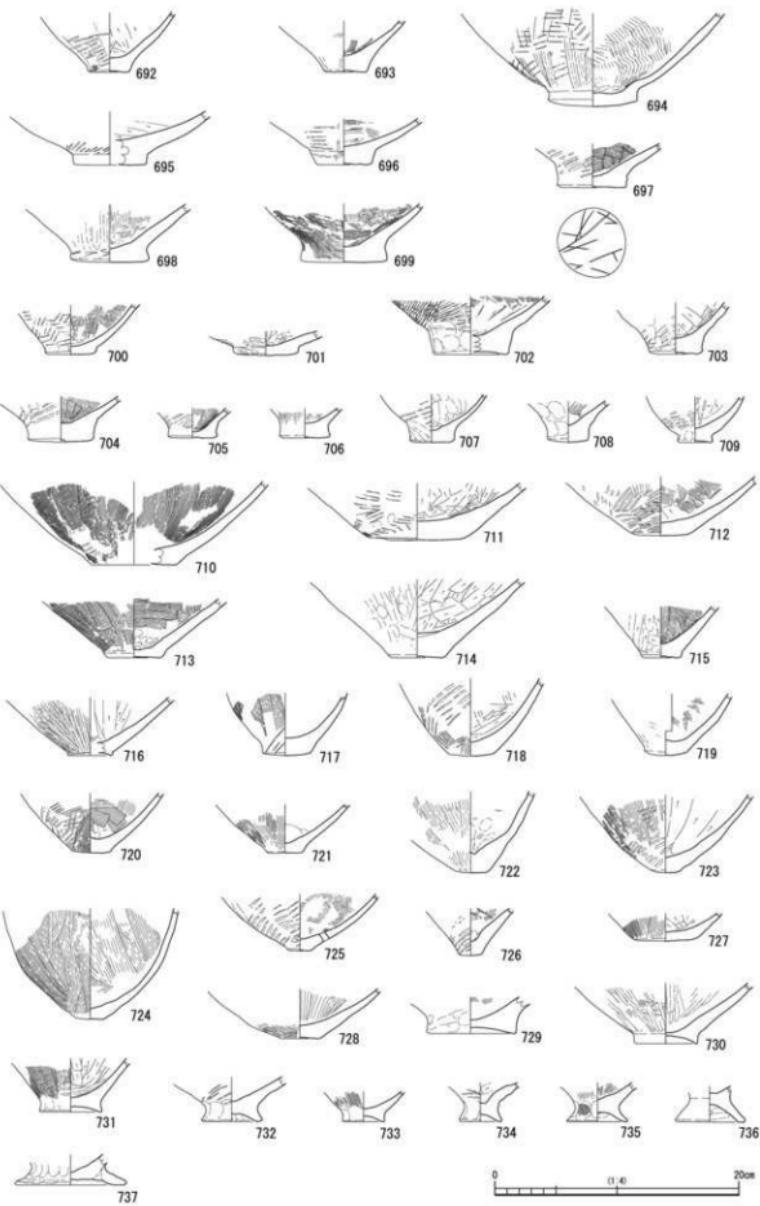
I 区 流路 3 出土土器 (19)



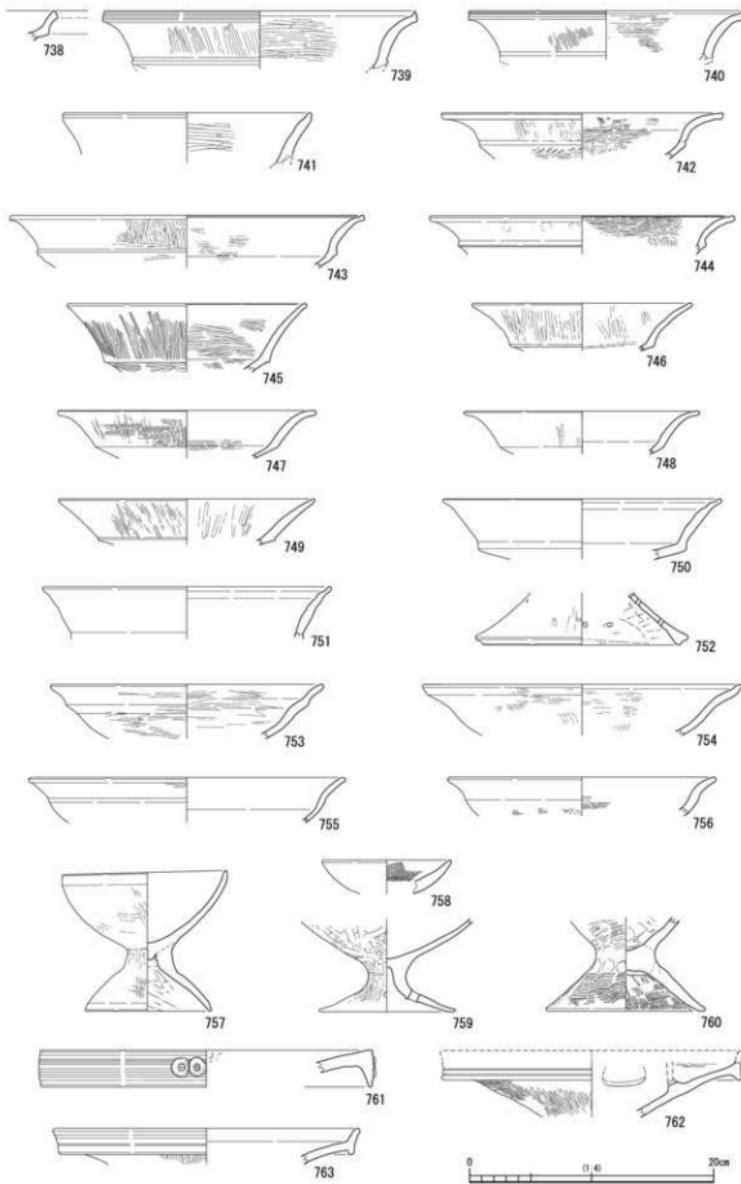
I 区 流路 3 出土土器 (20)



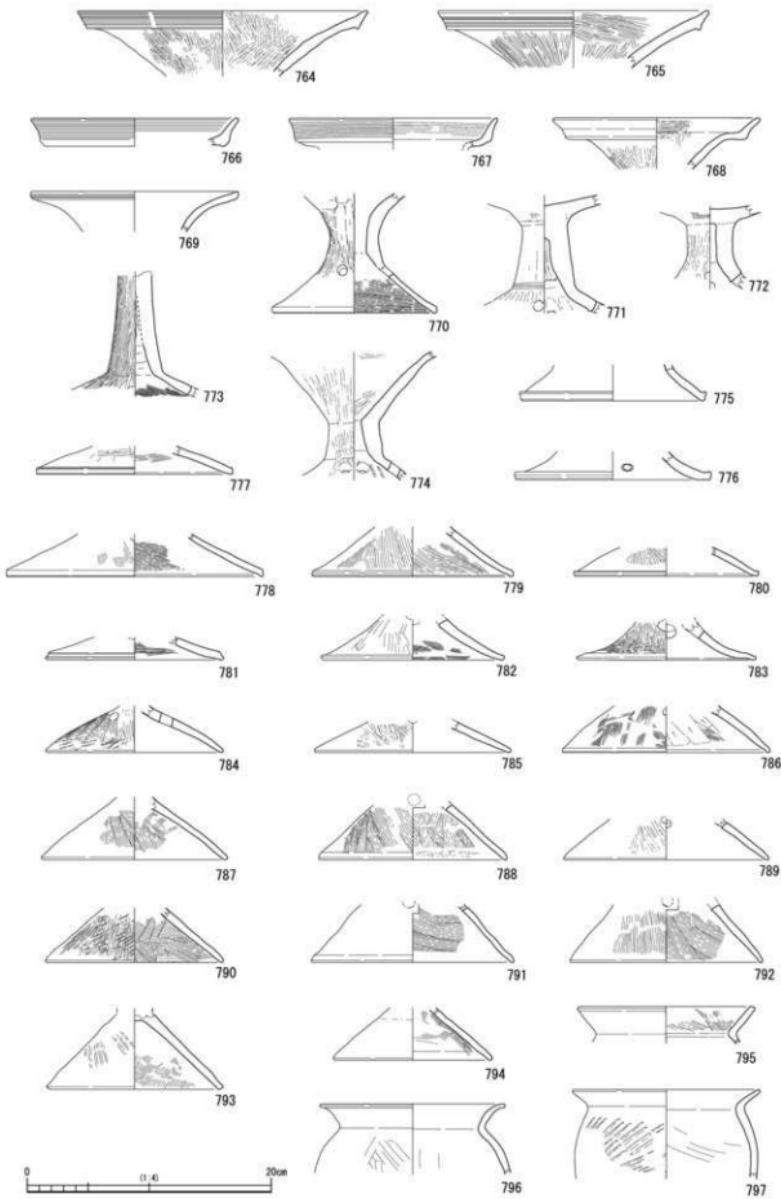
I区 流路3出土土器 (21)



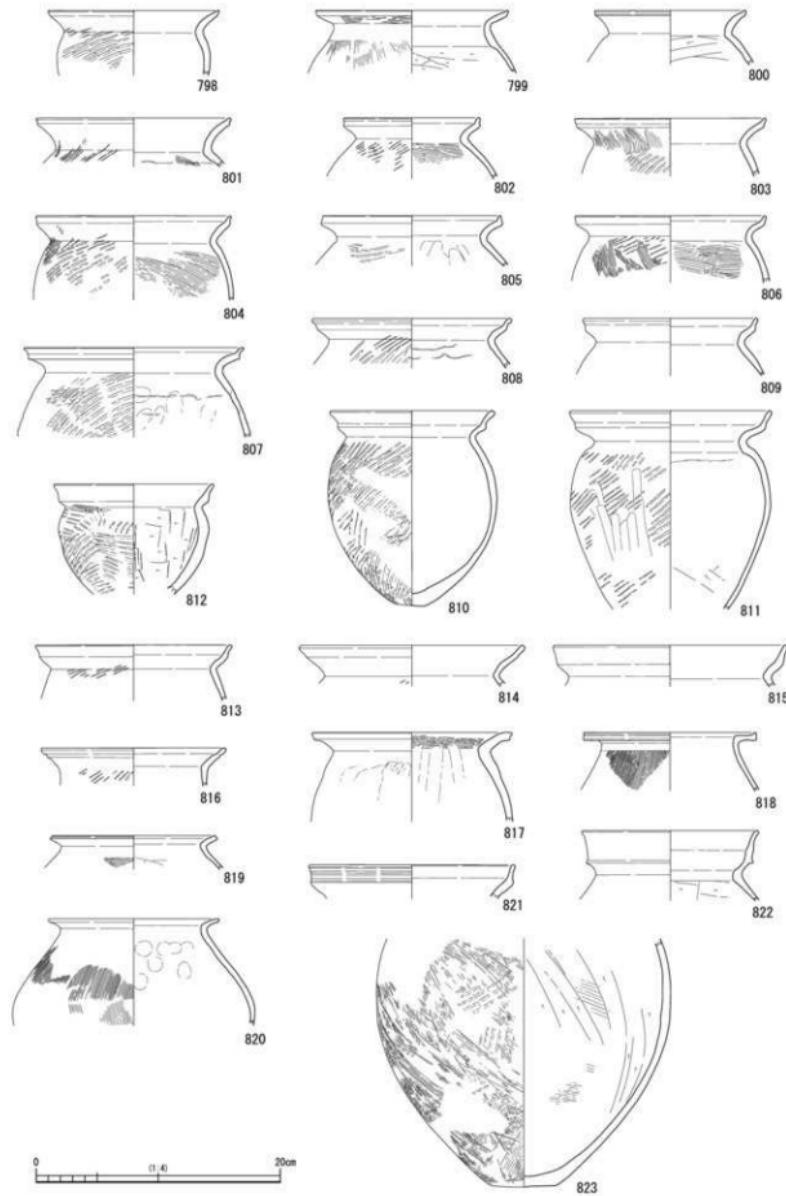
I 区 流路 3 出土土器 (22)



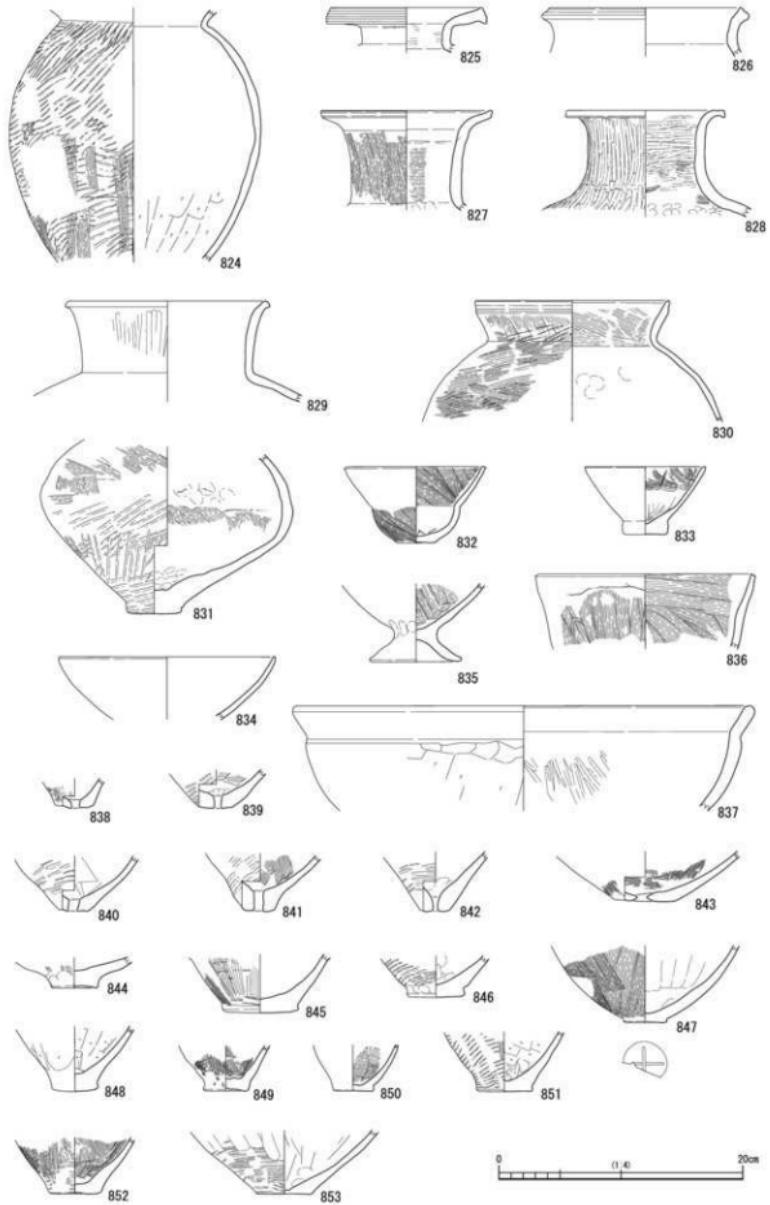
I 区 流路 3 出土土器 (23)



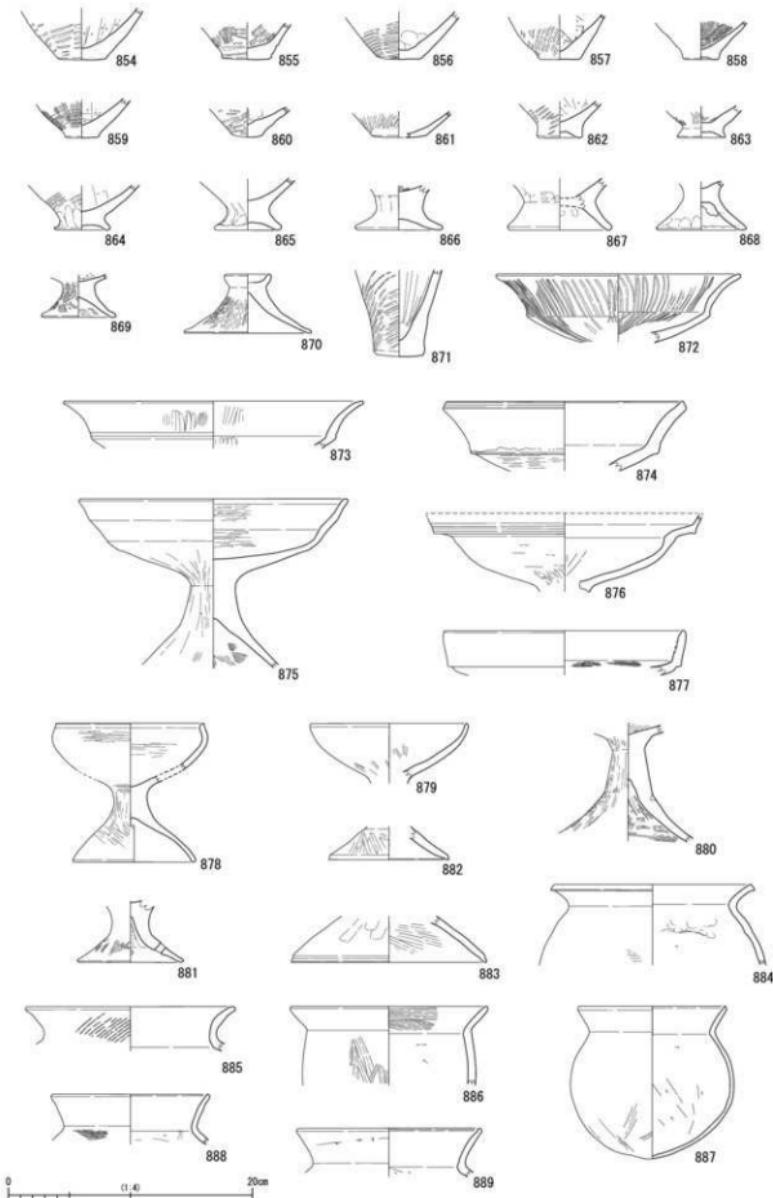
I 区 流路 3 出土土器 (24)



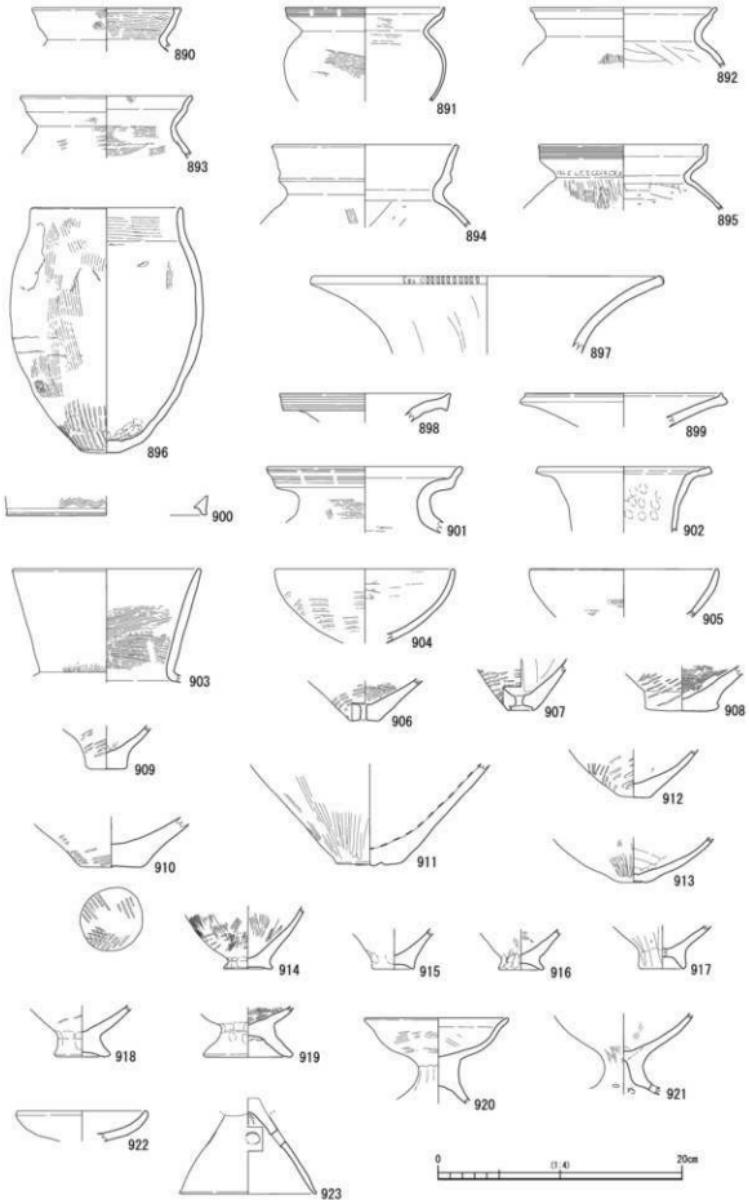
I 区 流路 3 出土土器 (25)



I 区 流路 3 出土土器 (26)



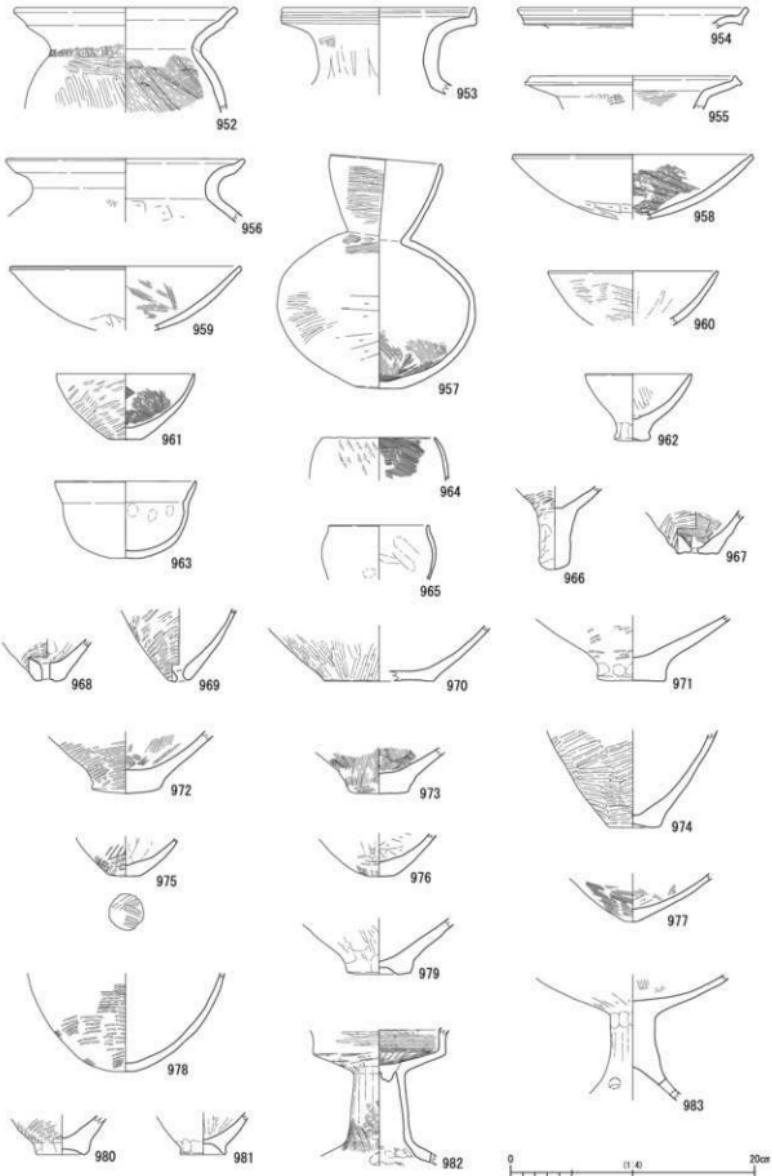
I 区 流路 3 出土土器 (27)



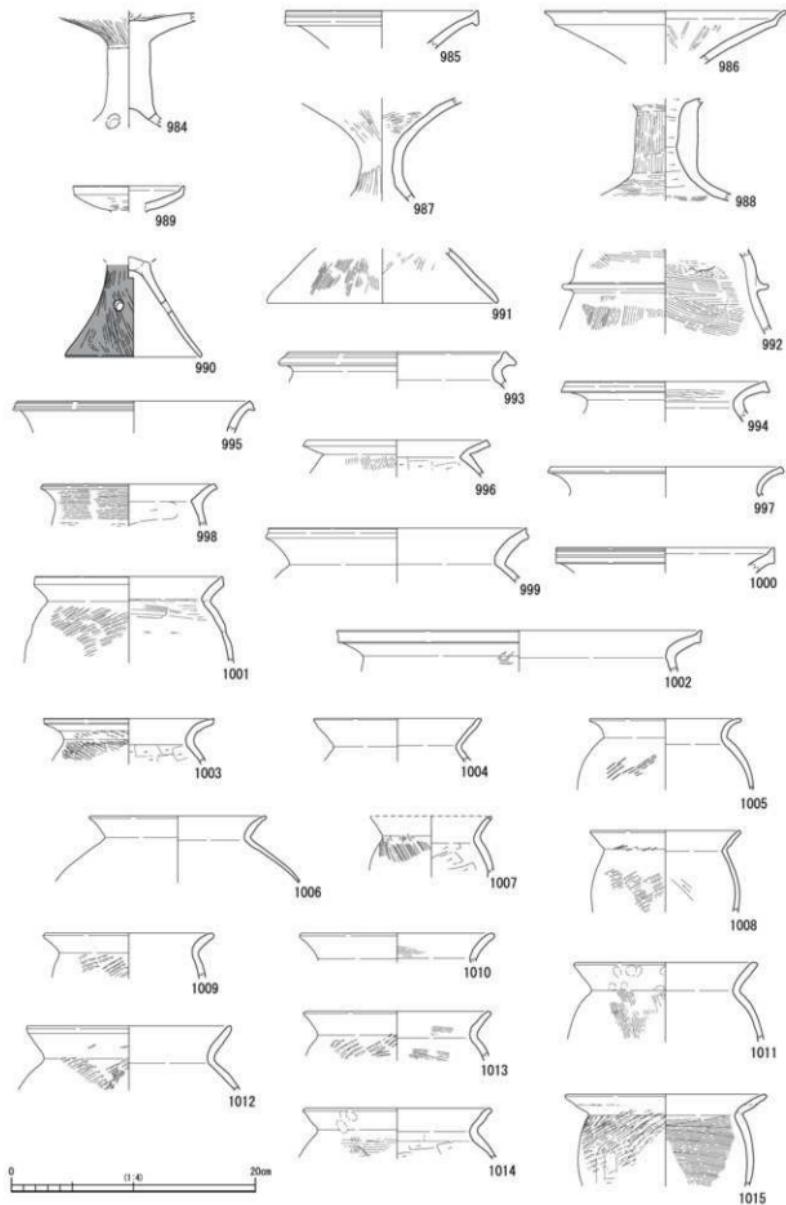
I 区 流路 3 出土土器 (28)



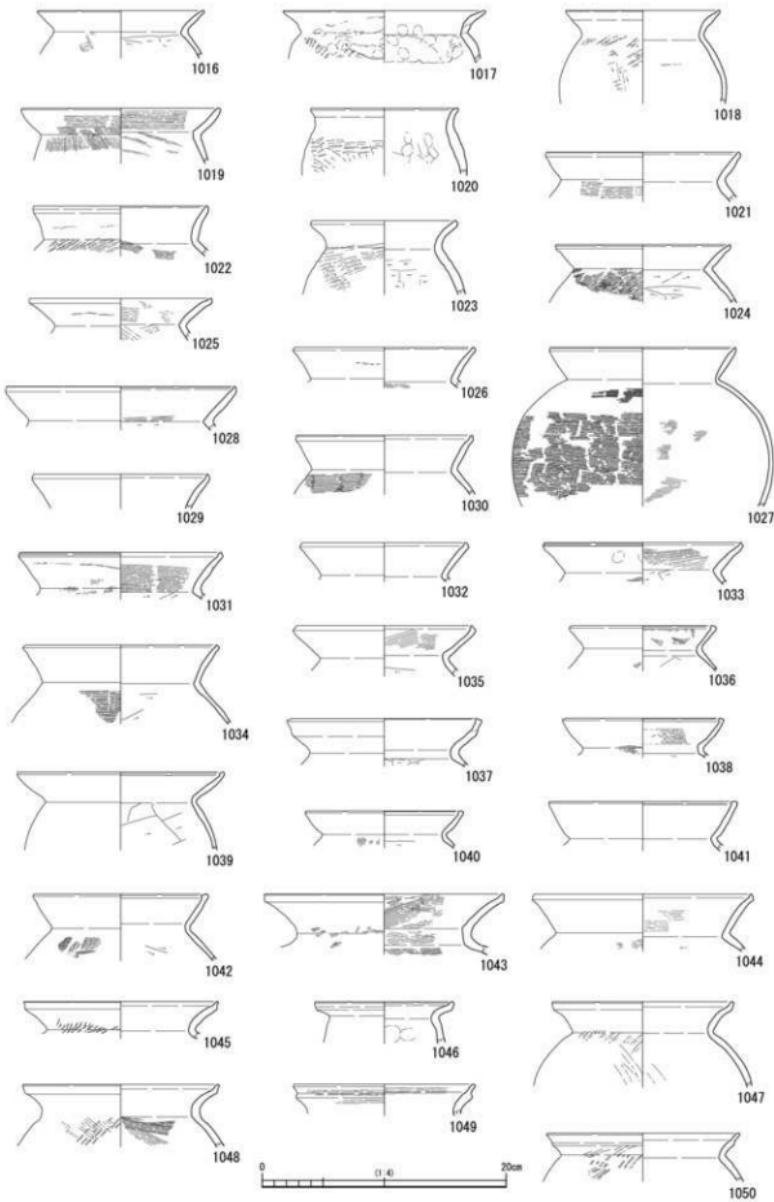
I 区 流路 3 出土土器 (29)



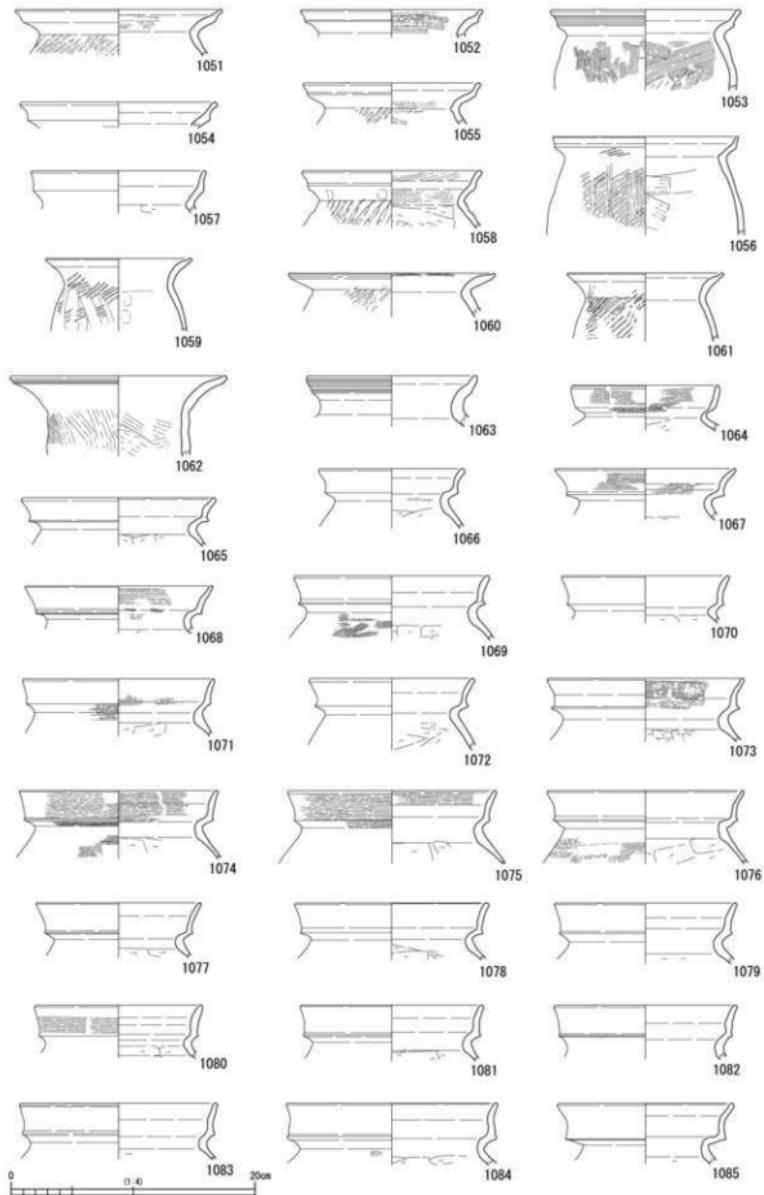
I 区 流路 3 出土土器 (30)



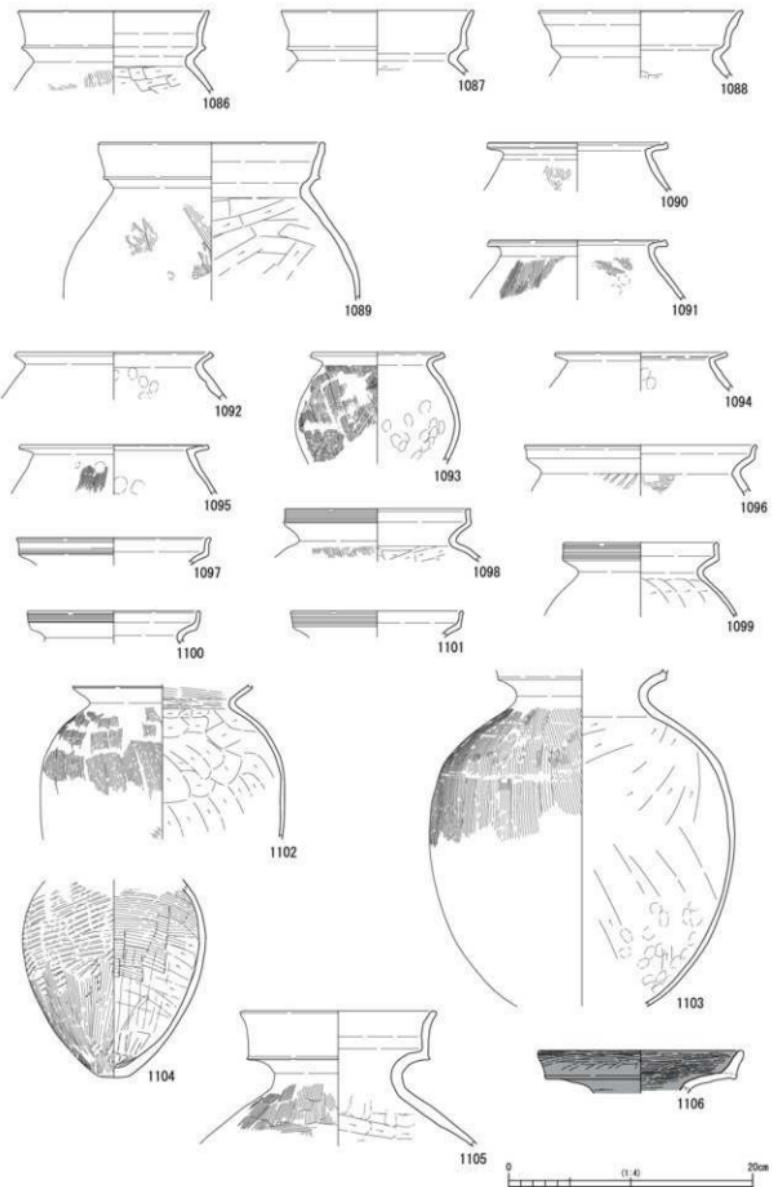
I 区 流路 3 出土土器 (31)



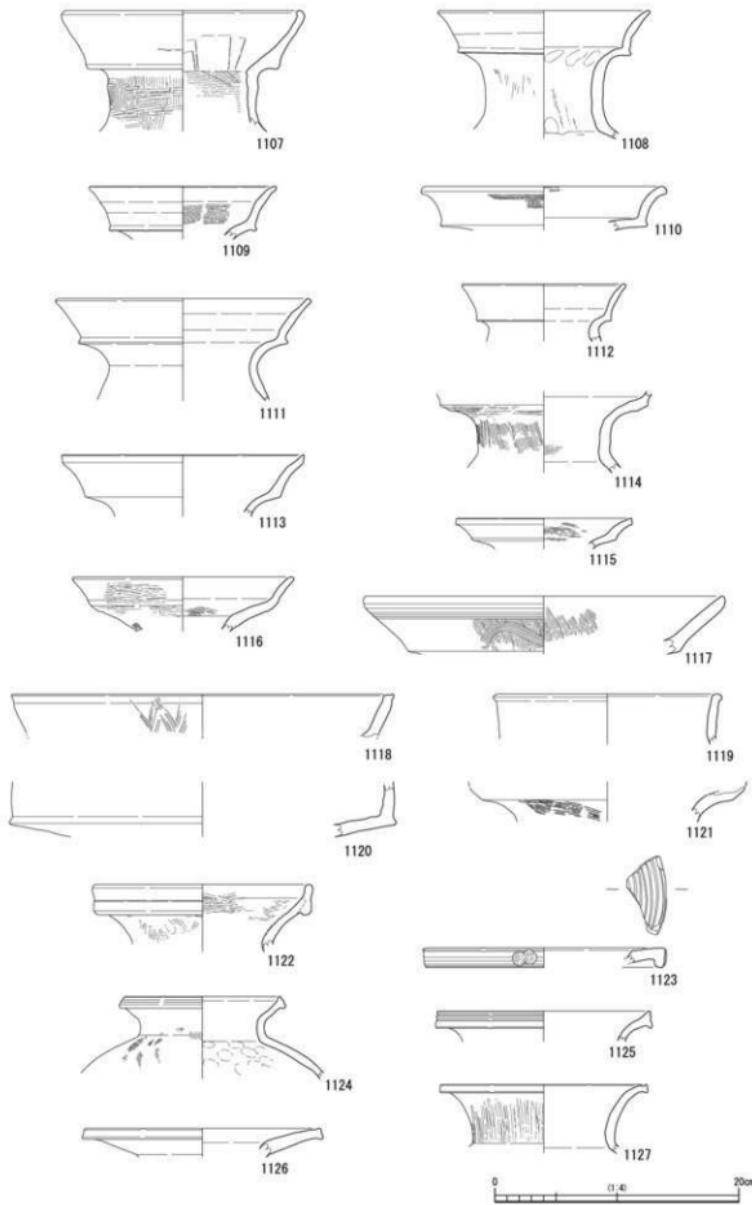
I 区 流路 3 出土土器 (32)



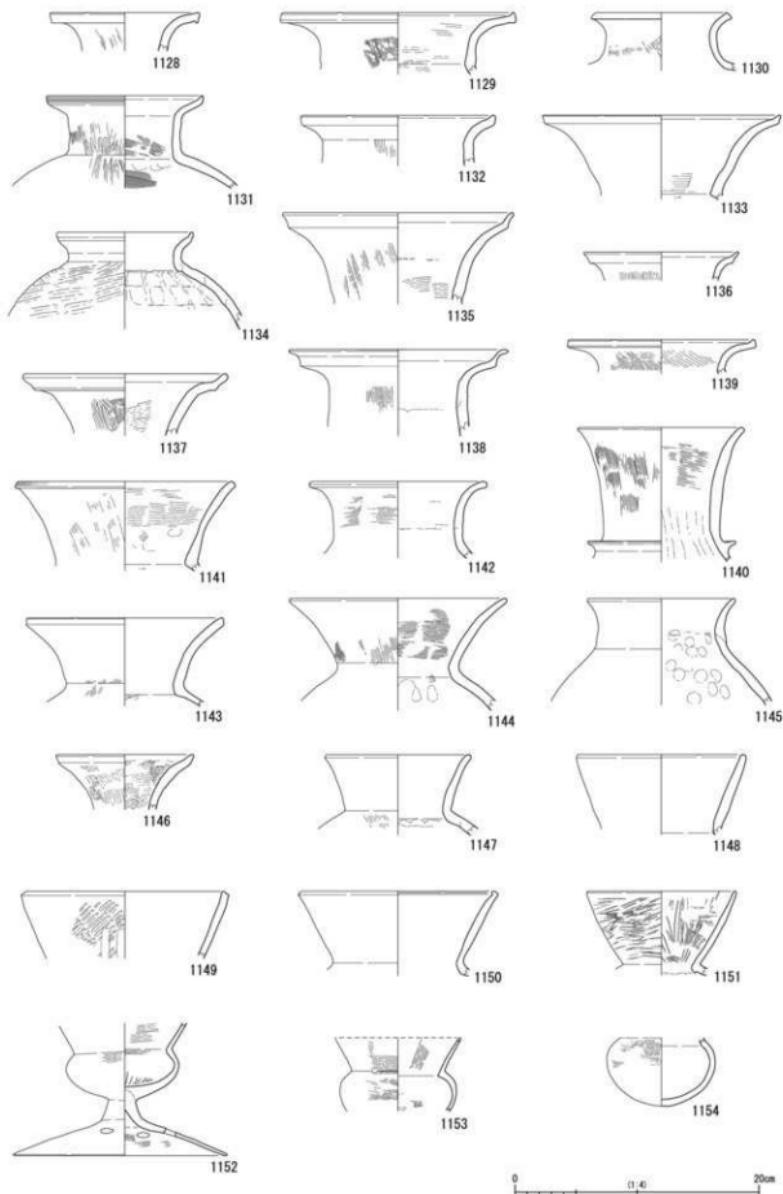
I 区 流路 3 出土土器 (33)



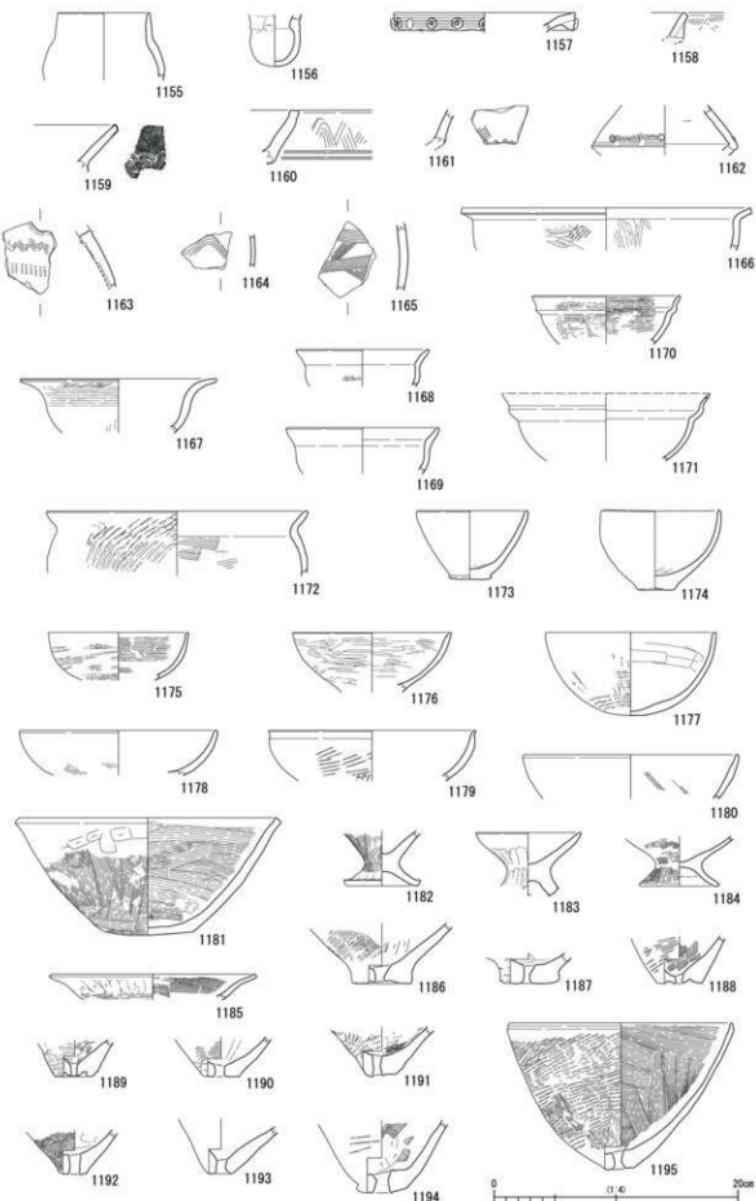
I 区 流路 3 出土土器 (34)



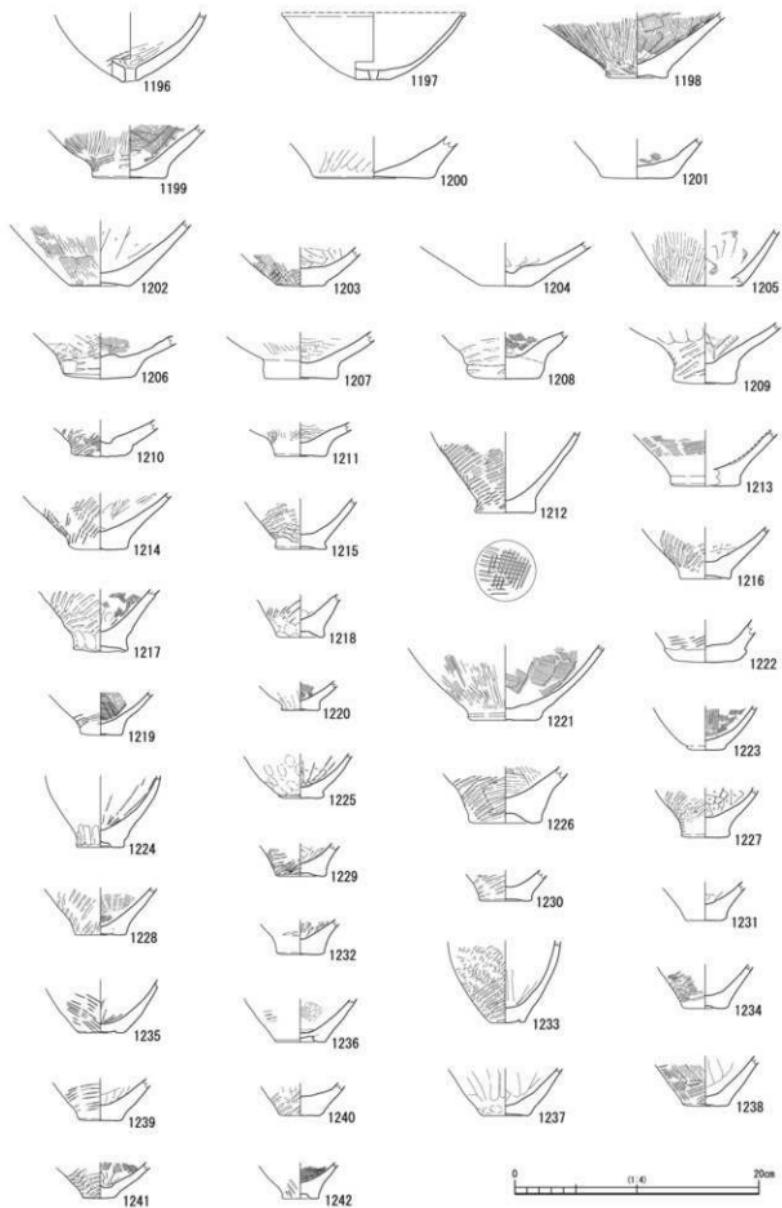
I 区 流路 3 出土土器 (35)



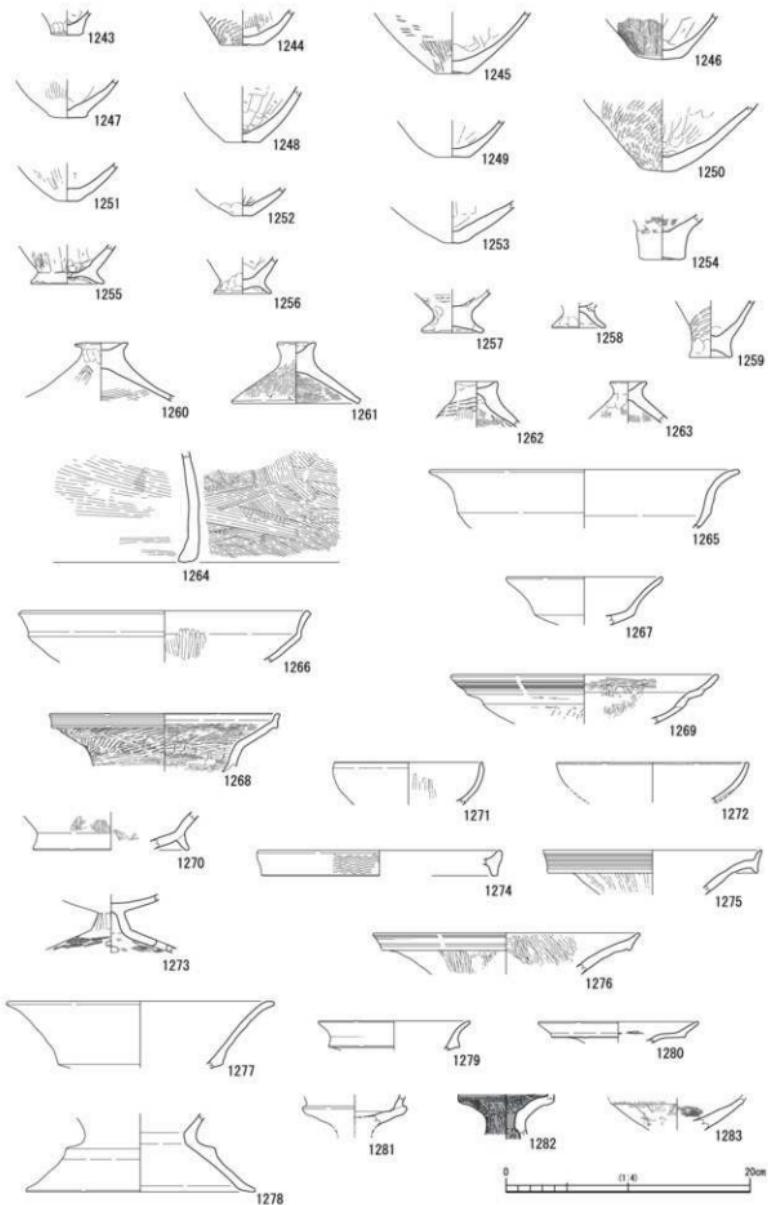
I区 流路3出土土器 (36)



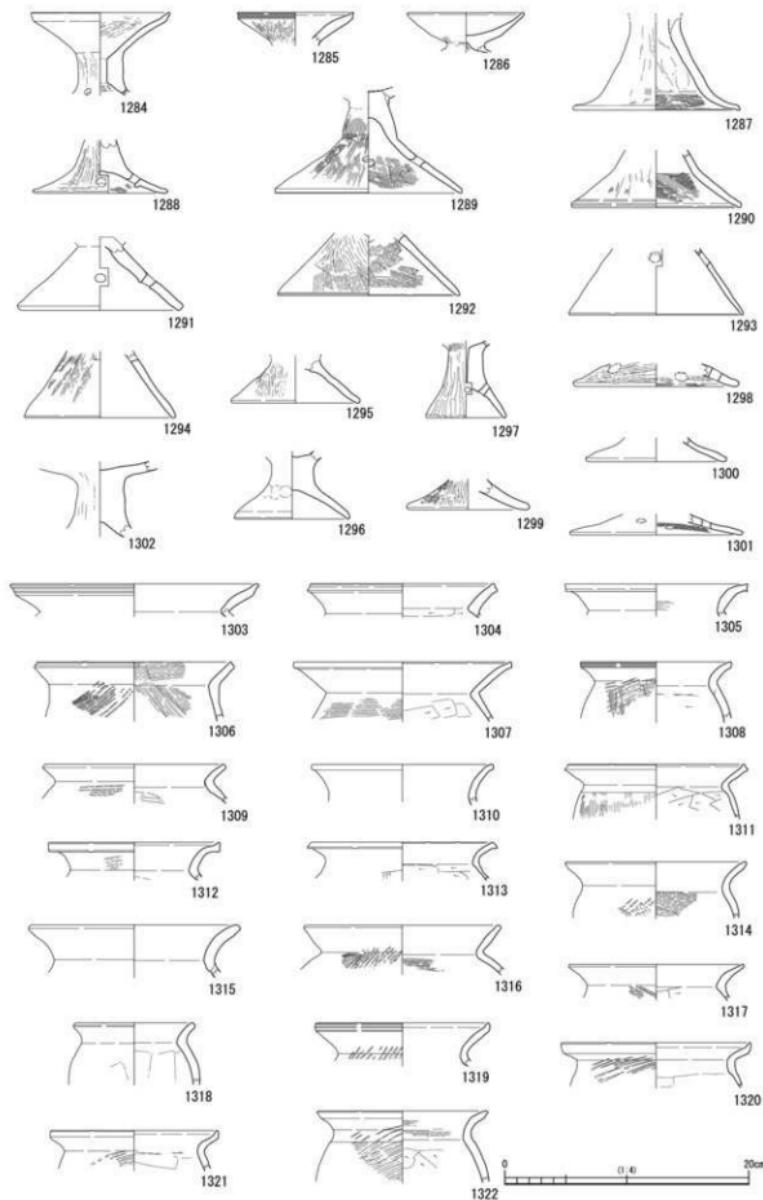
I区 流路3出土土器 (37)



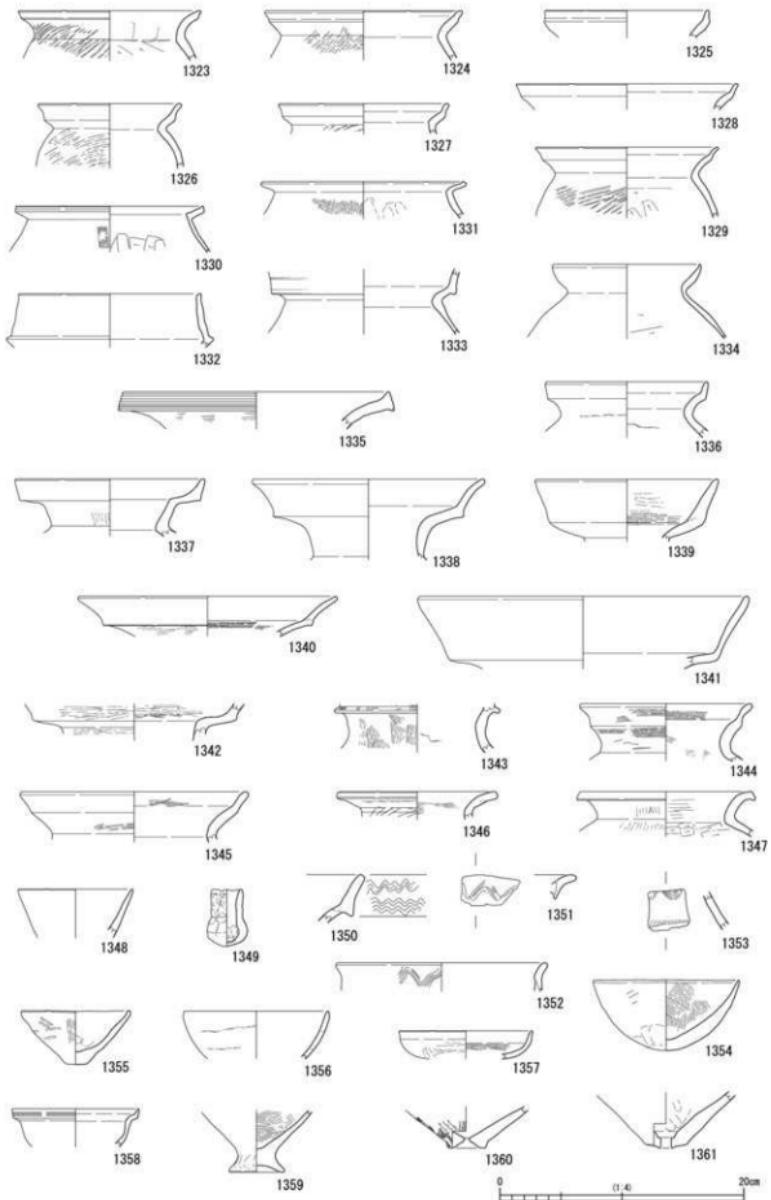
I 区 流路 3 出土土器 (38)



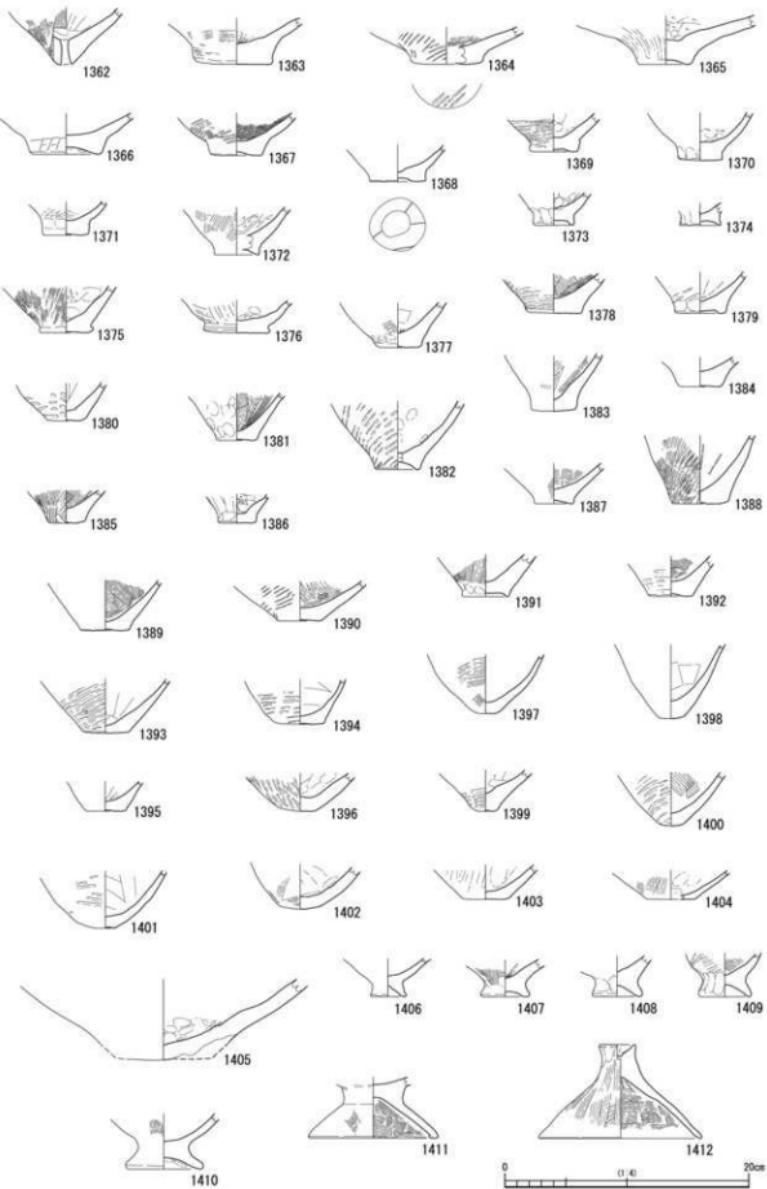
I 区 流路 3 出土土器 (39)



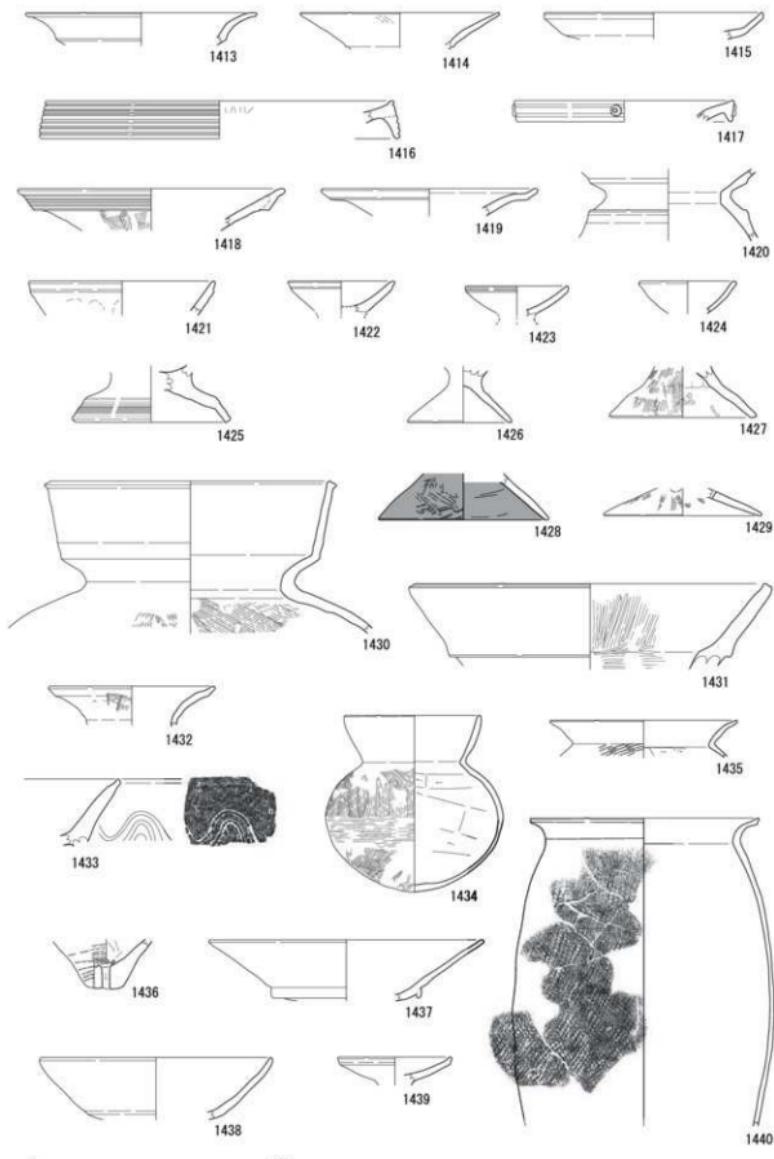
I 区 流路 3 出土土器 (40)



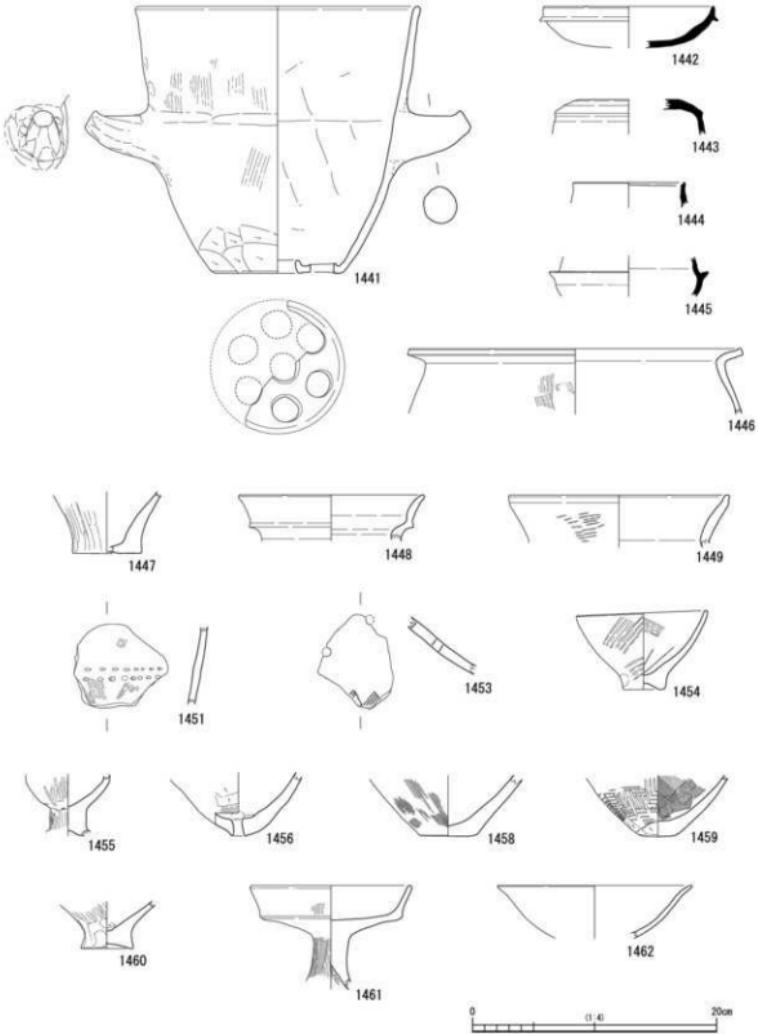
I 区 流路 3 出土土器 (41)



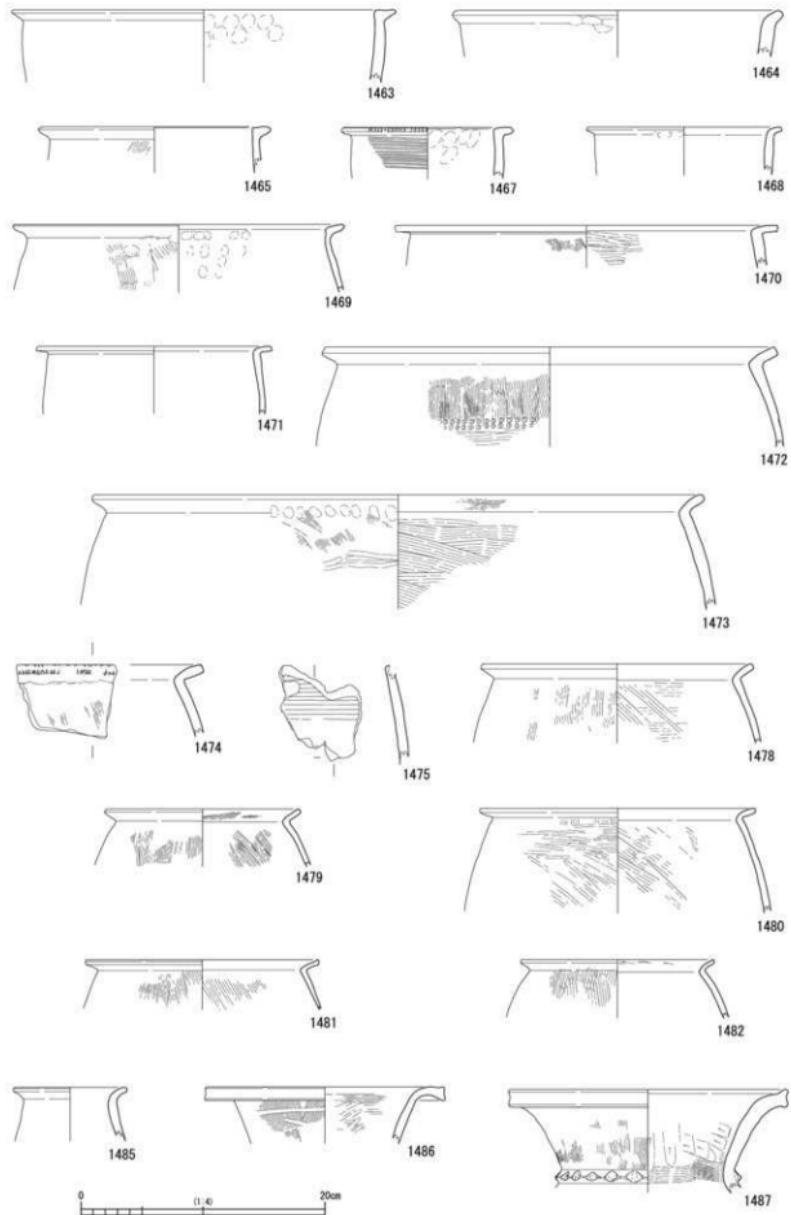
I 区 流路 3 出土土器 (42)



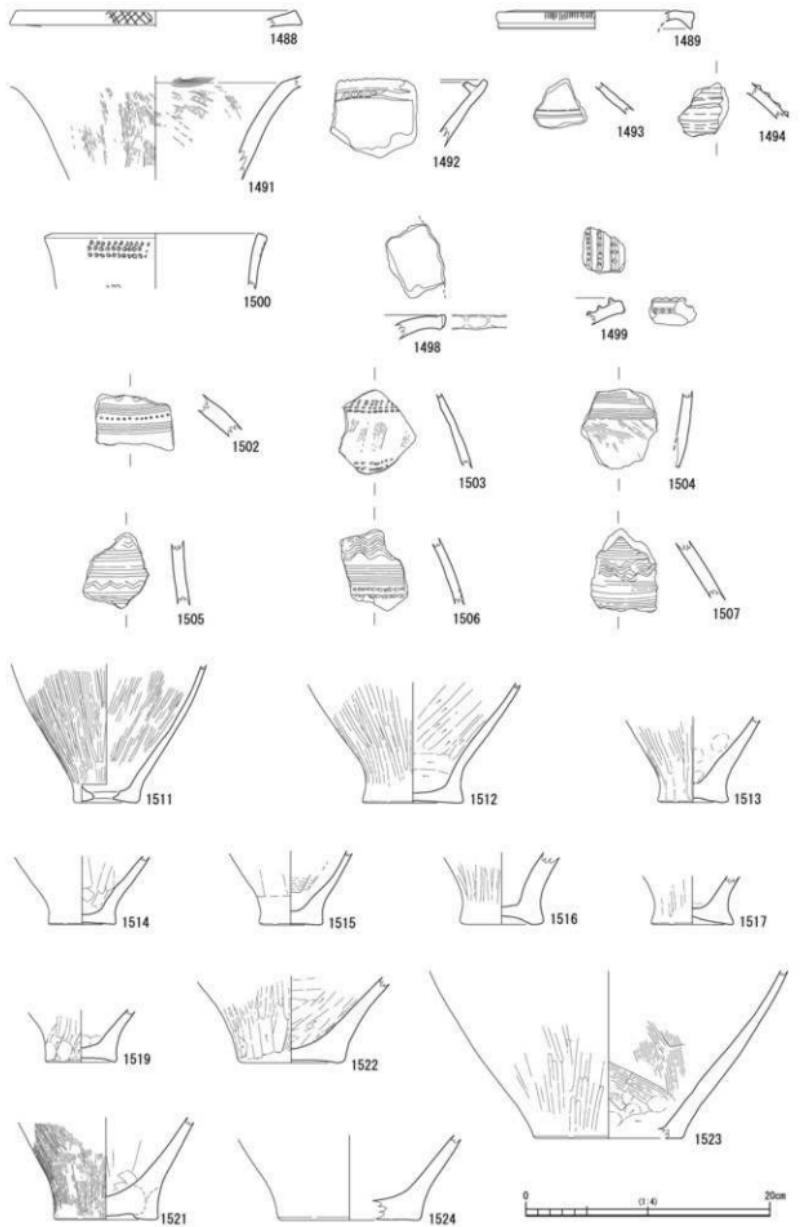
I 区 流路 3 出土土器 (43)



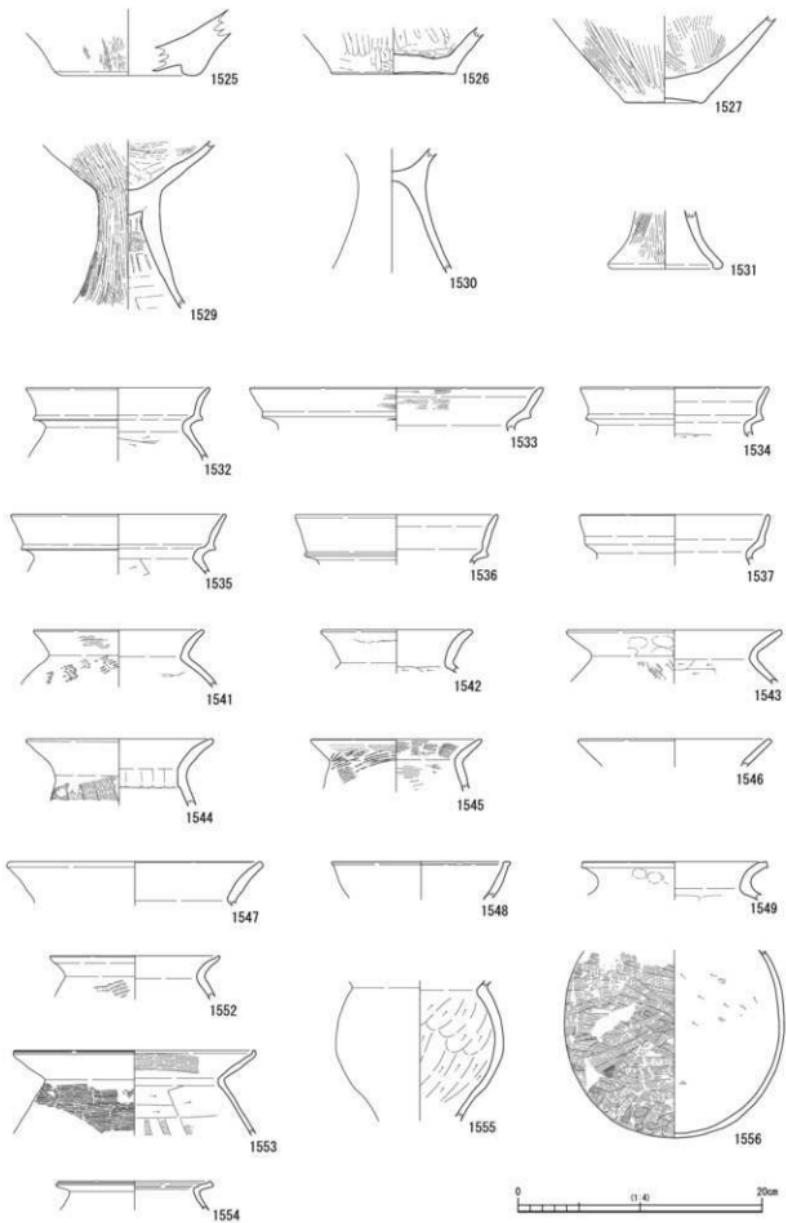
I 区 流路 3 出土土器 (44)



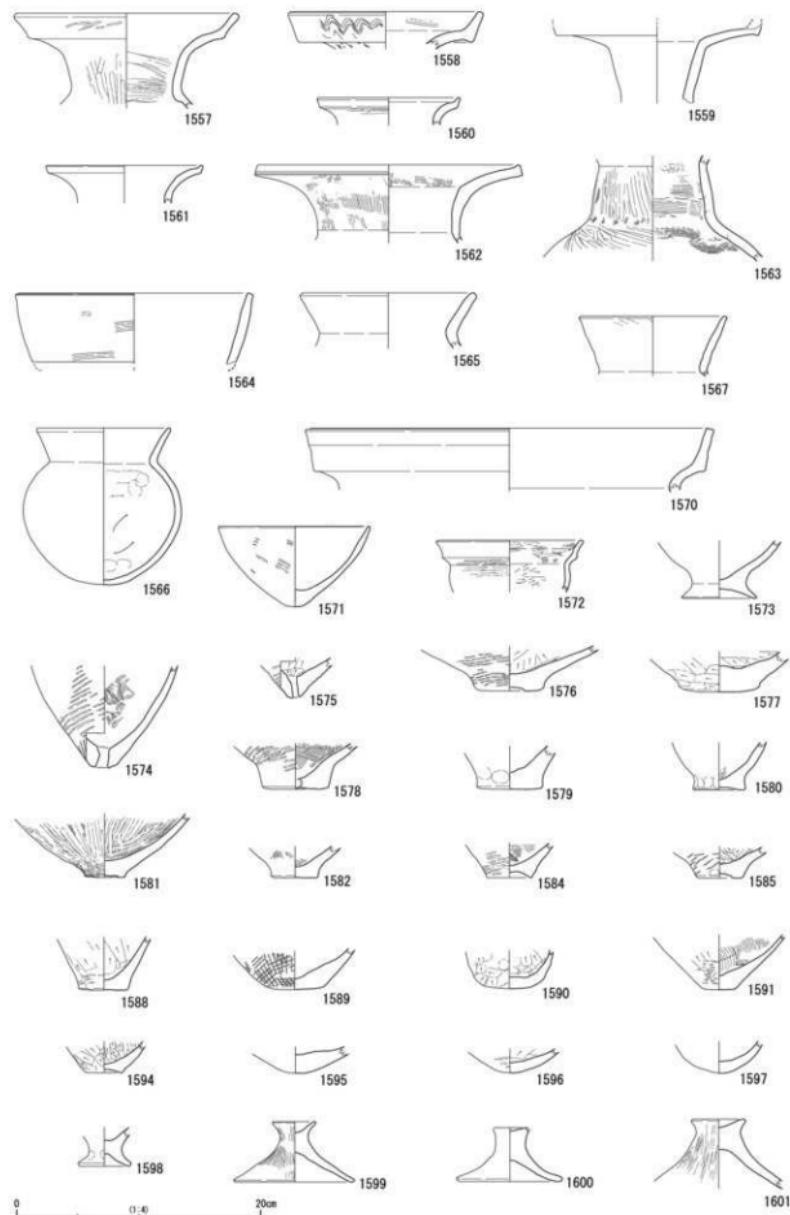
II区 流路1-1出土土器（1）



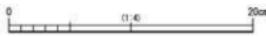
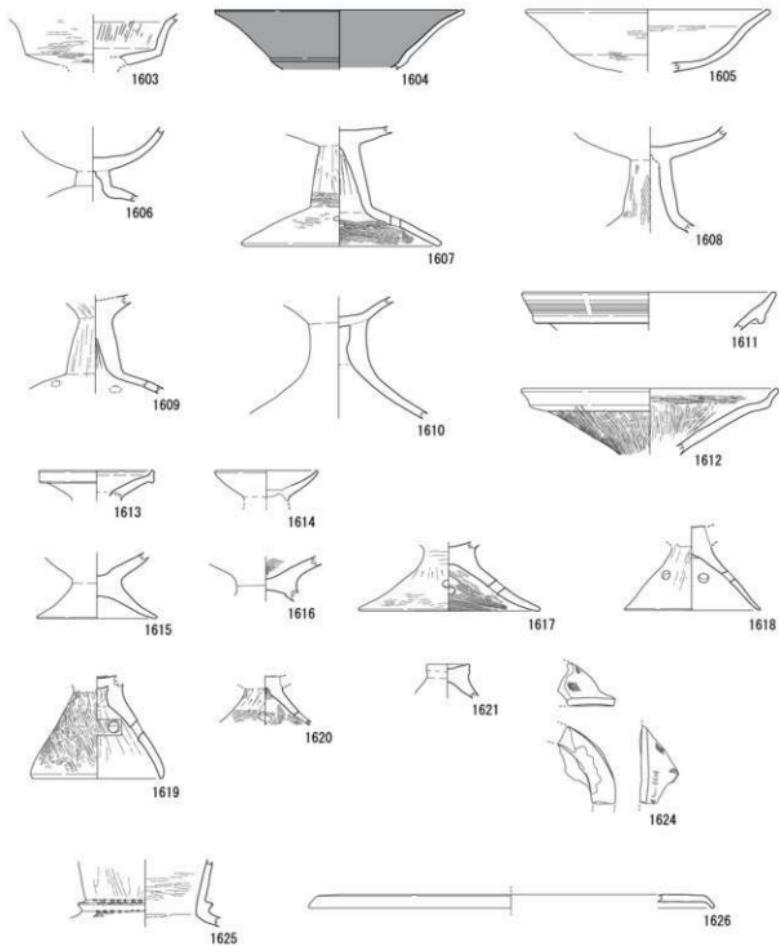
II 区 流路 1-1 出土土器 (2)

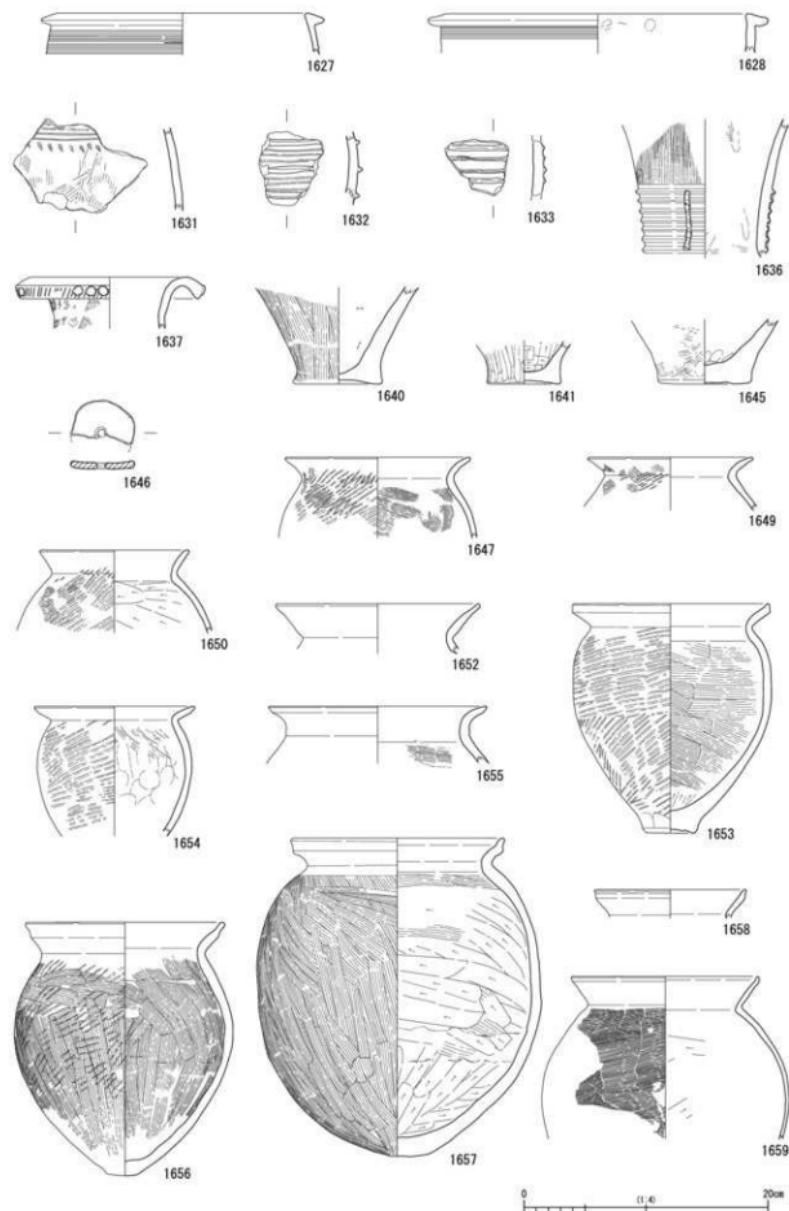


II区 流路1-1出土土器(3)、流路1-2出土土器(1)

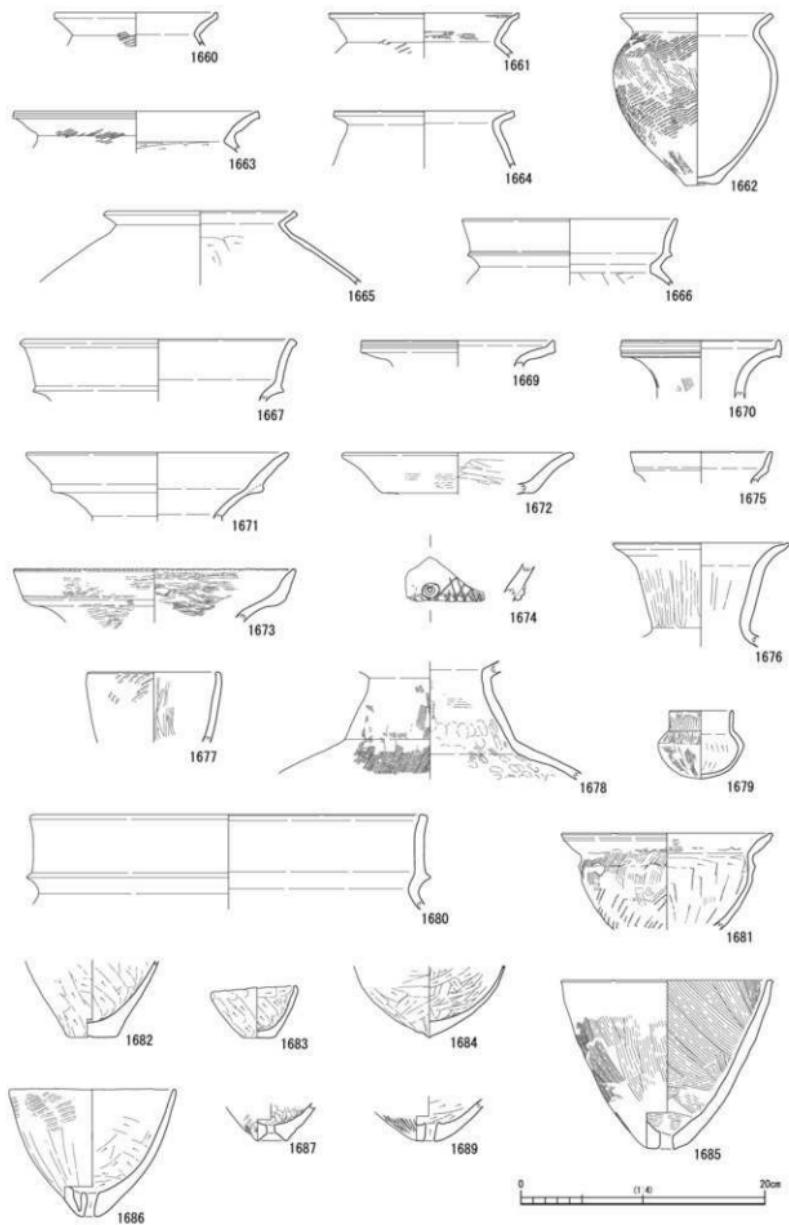


II区 流路 1-2 出土土器 (2)

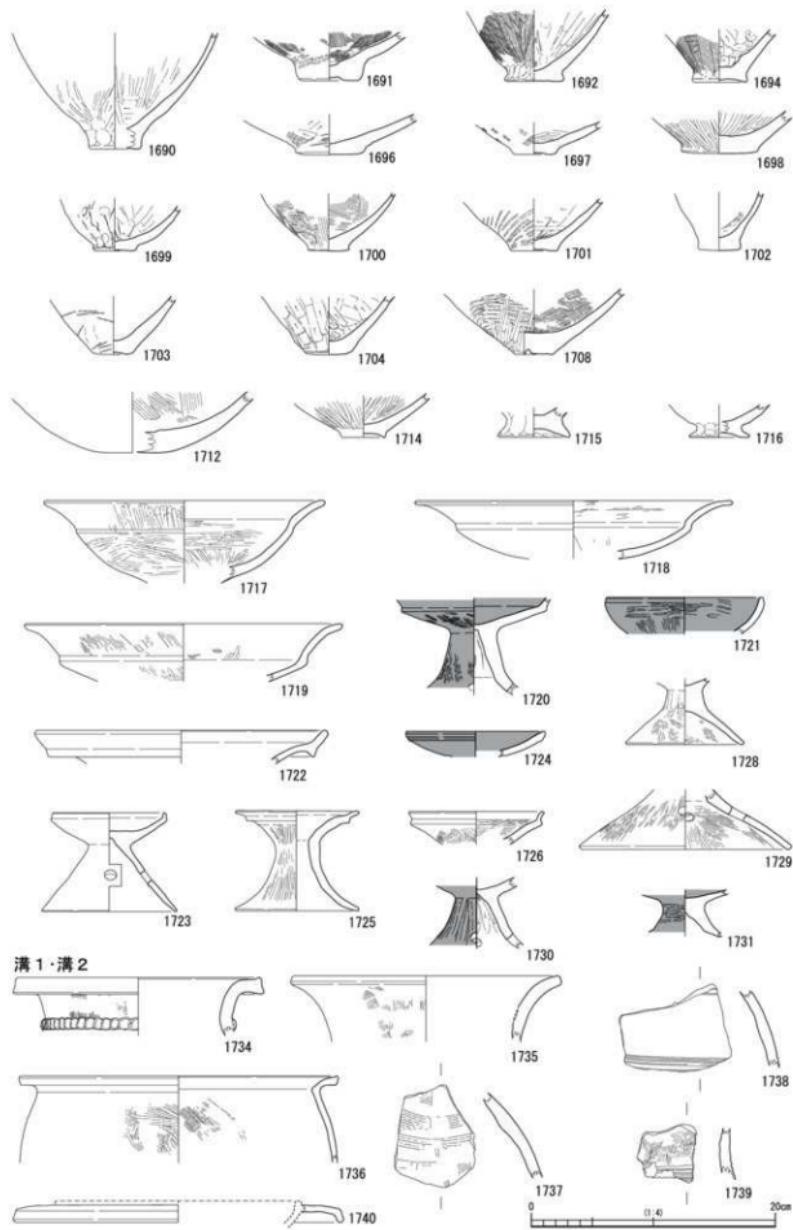




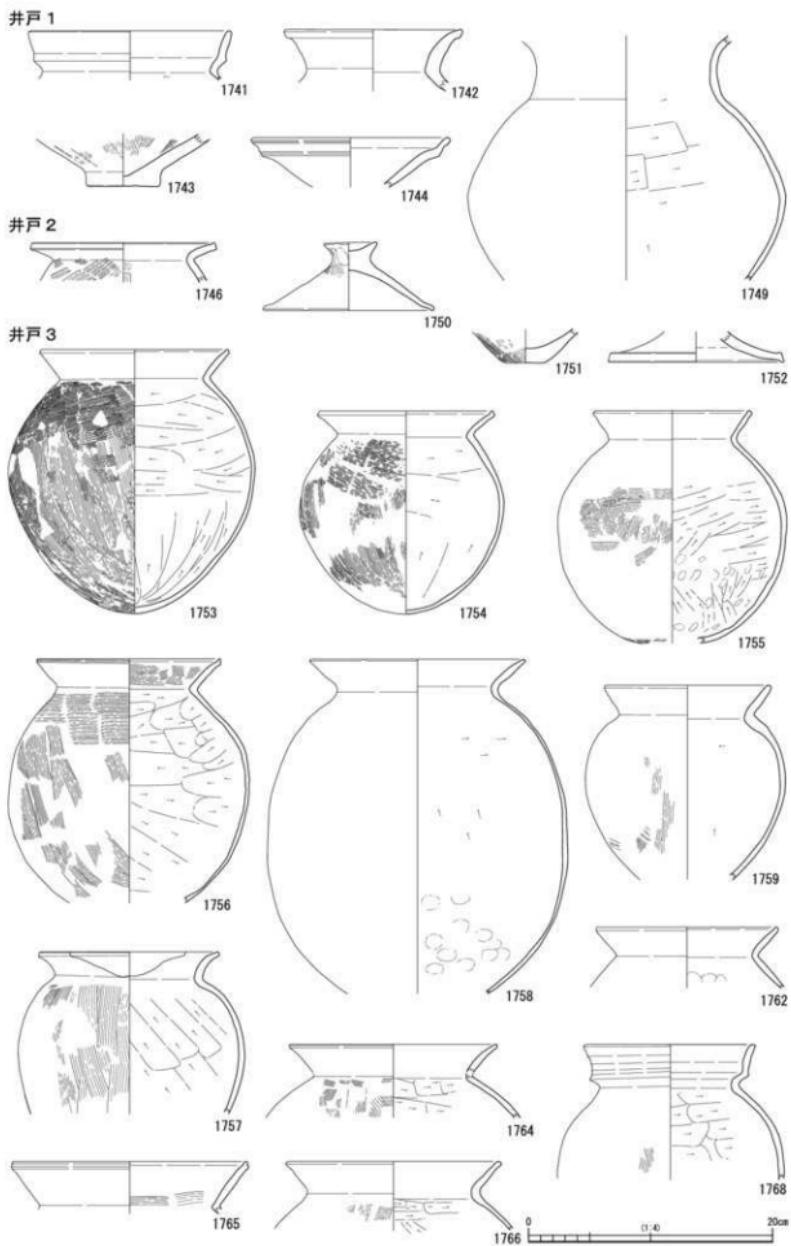
II区 流路2出土土器 (1)



II区 流路2出土土器 (2)

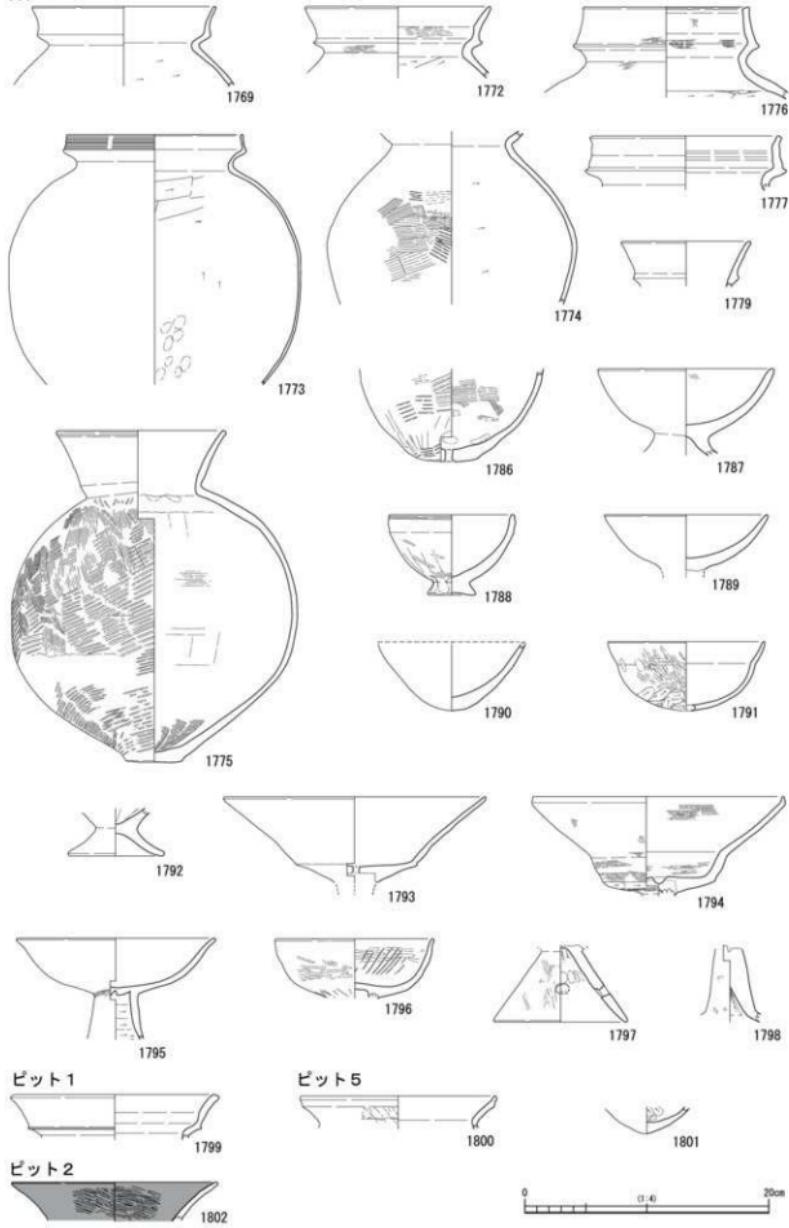


II区 流路2出土土器（3）、満1・満2出土土器

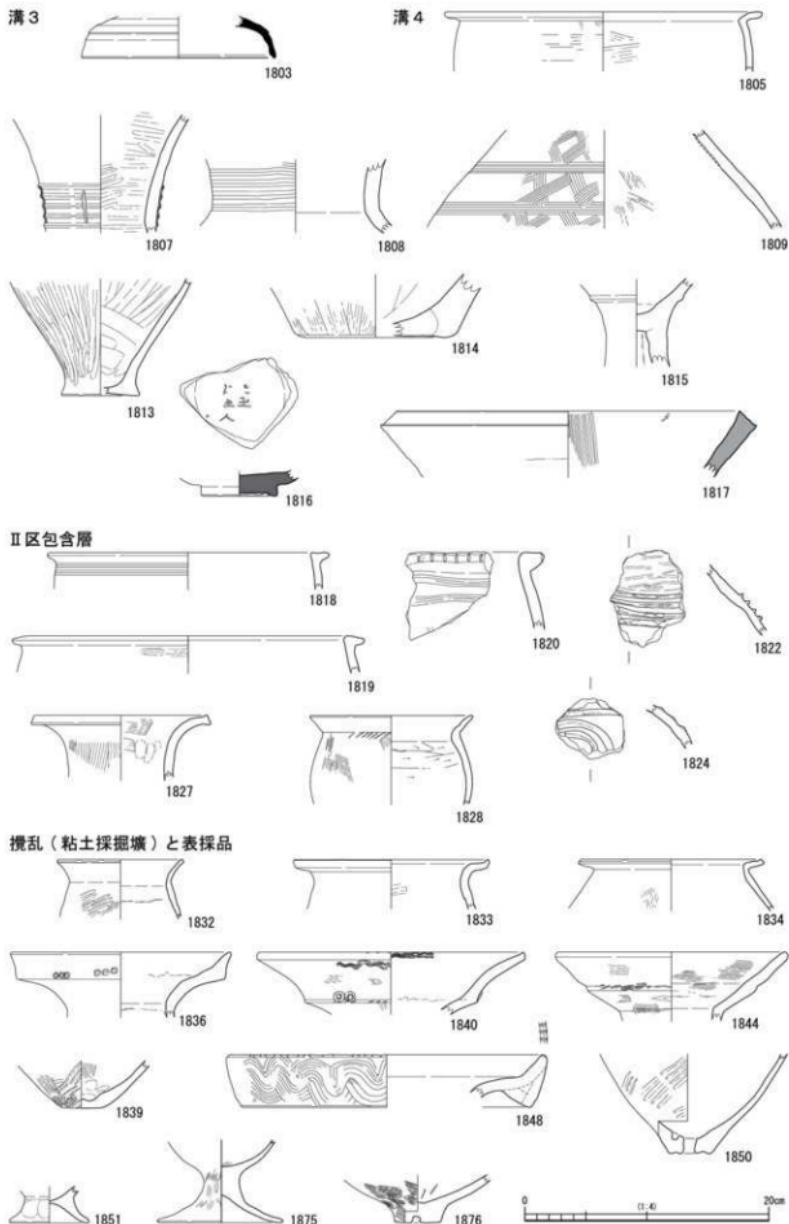


II区 井戸 1・井戸 2出土土器、井戸 3出土土器（1）

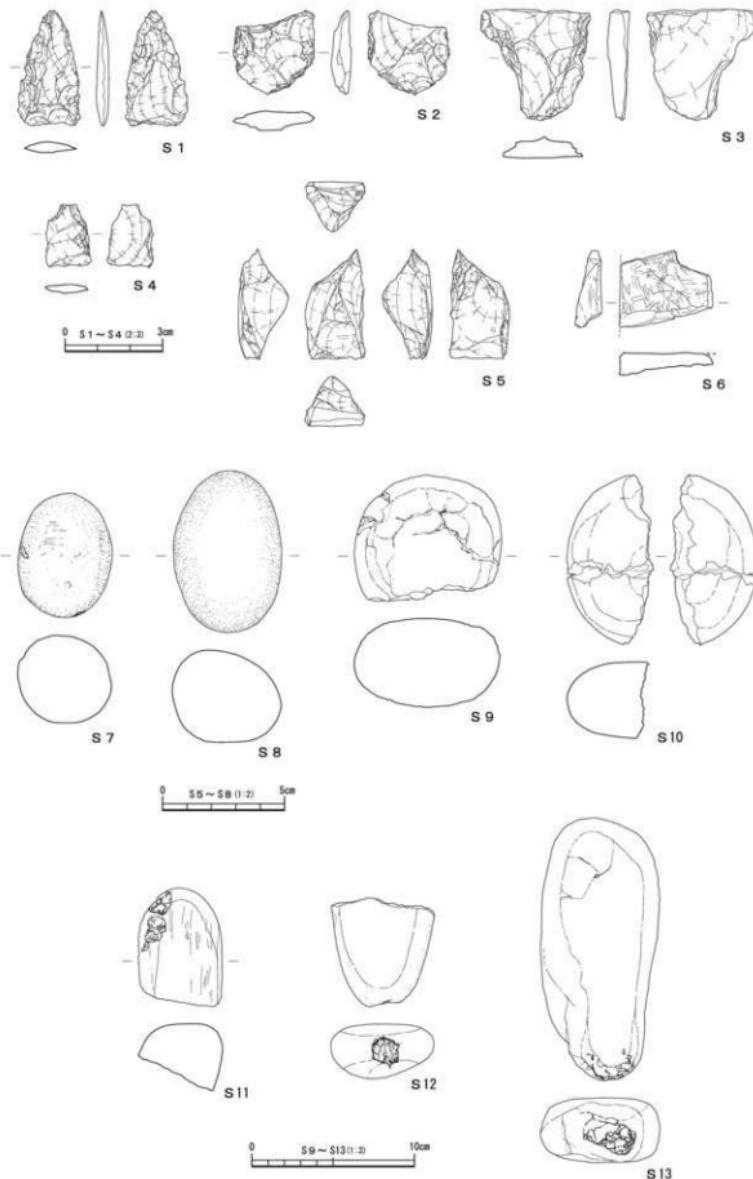
井戸 3



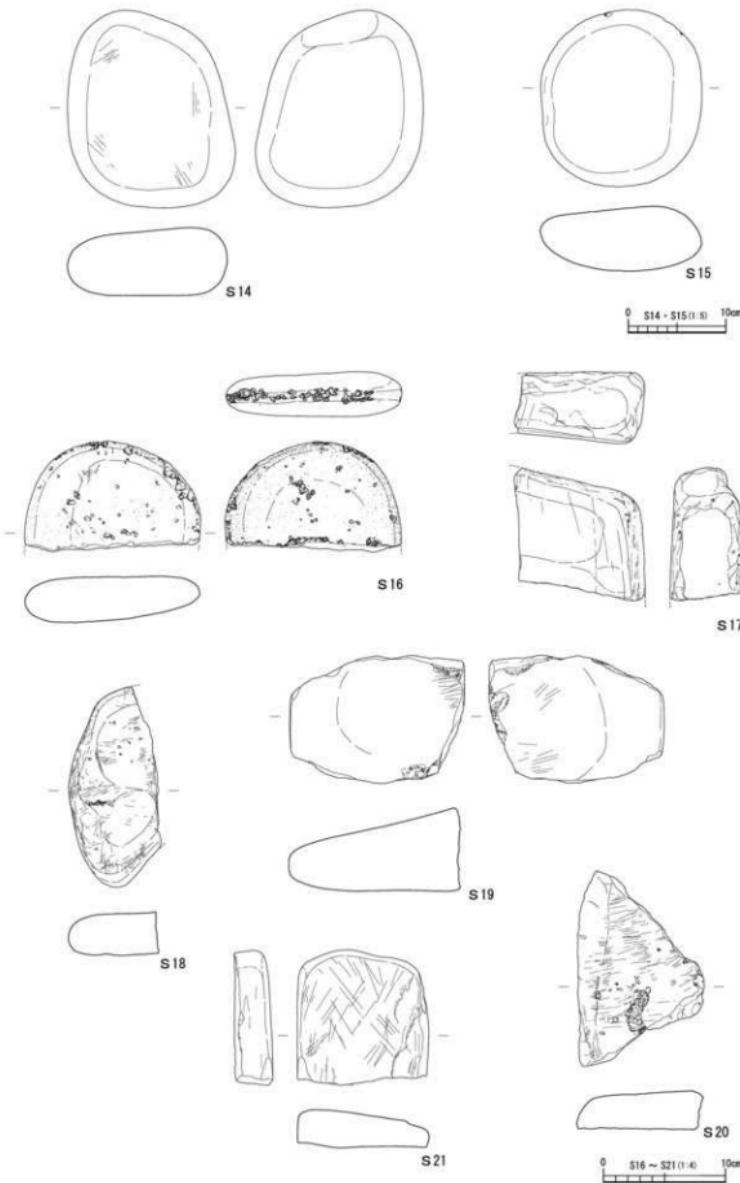
II区 井戸 3 出土土器 (2)、ピット出土土器



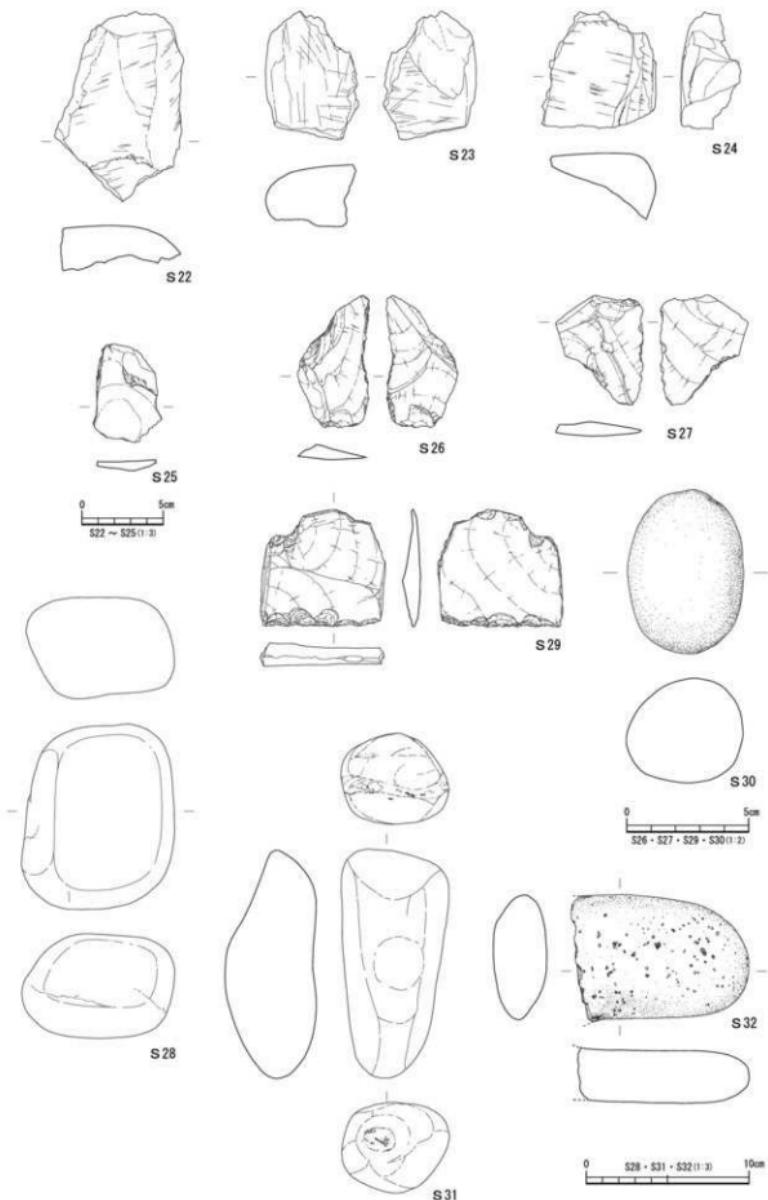
II 区 溝 3・I 区 溝 4・II 区 包含層・搅乱他出土土器



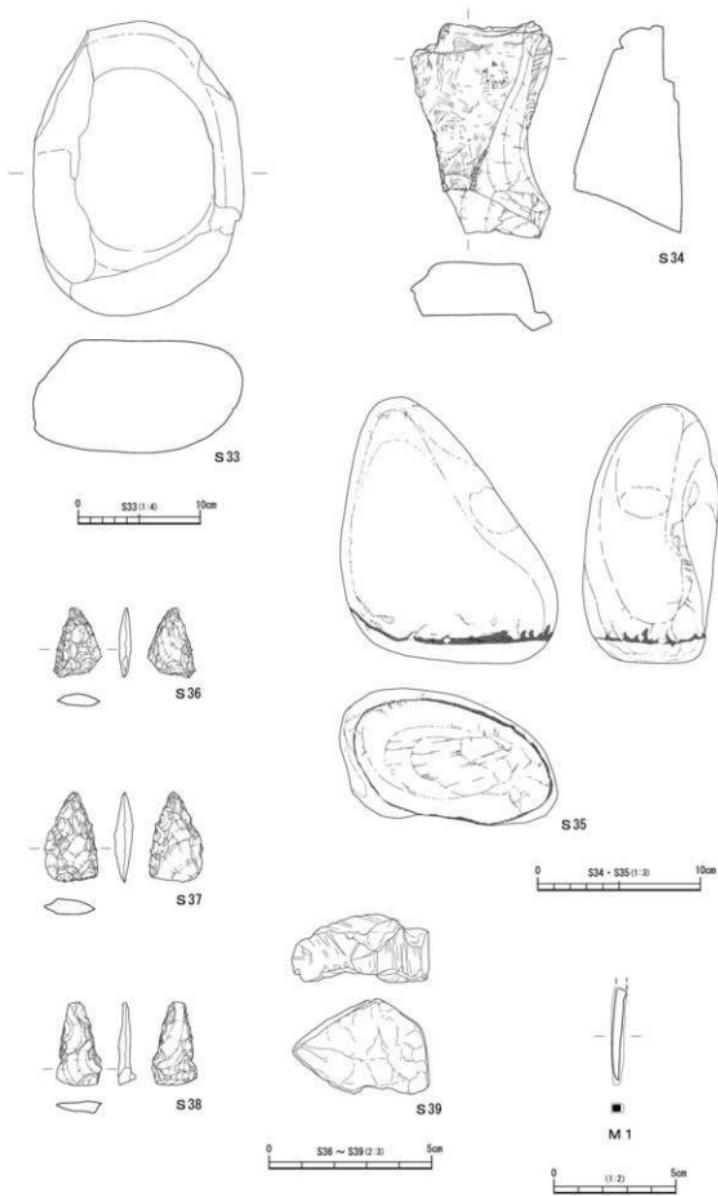
I区 流路3出土石器・石製品（1）



I区 流路3出土石器・石製品（2）



I 区 流路 3 出土石器・石製品 (3)、II 区 流路 1-1・流路 1-2・流路 2 出土石器・石製品



II区 流路2・井戸3・包含層、I・II区 摂乱出土石器・石製品、I区 流路3出土鐵器

写 真 図 版

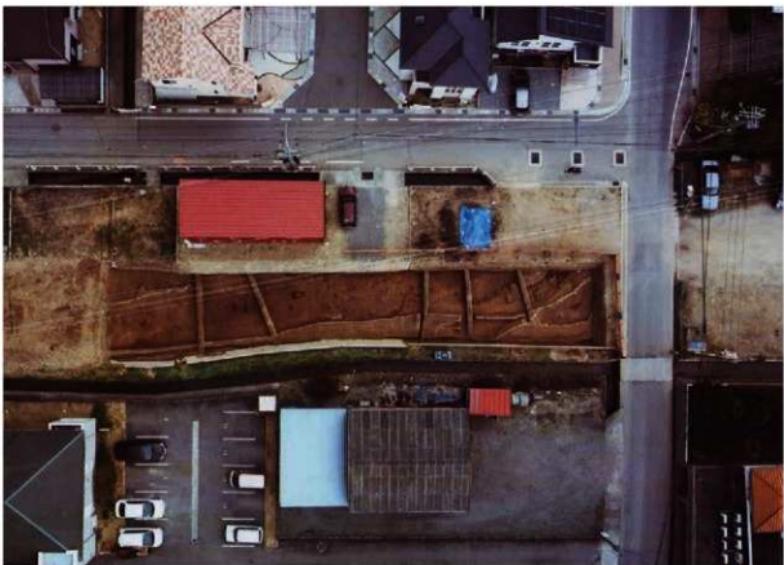


調査区遠景（南上空から、2013年3月撮影）

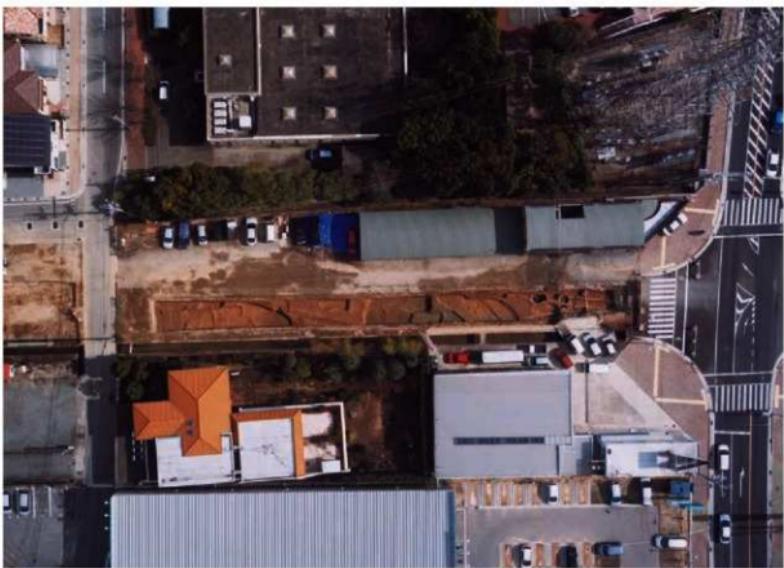


調査区遠景（西上空から、2013年3月撮影）

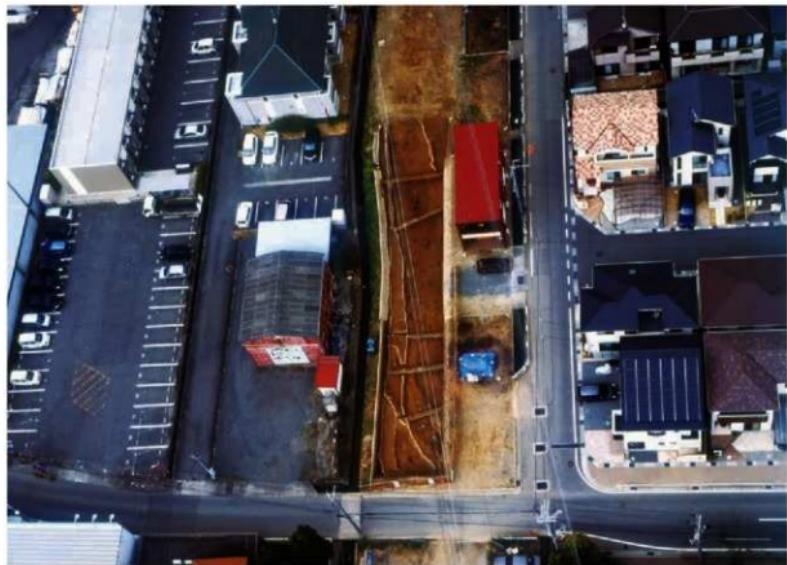
写真図版 2



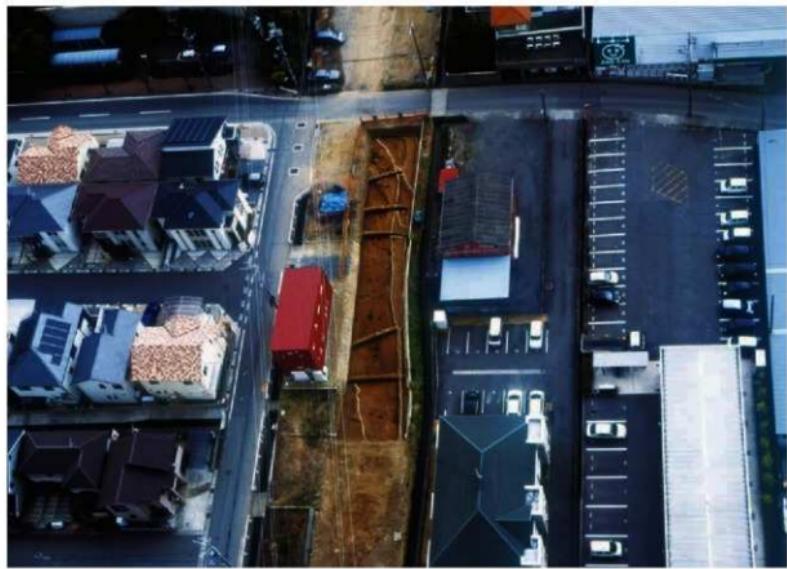
I 区全景（上が東、2013 年 3 月撮影）



II 区西半部全景（上が東、2013 年 2 月撮影）



I 区全景（南上空から、2013 年 3 月撮影）



I 区全景（北上空から、2013 年 3 月撮影）



II区西半部全景（南上空から、2013年2月撮影）



II区西半部全景（西上空から、2013年2月撮影）



2012年度調査 I・II区（左）と2013年度調査 II区（右）全景（上が北）



I区 流路3全景（南から）



I区 流路3全景（北から）



流路3（1区）II層下面・IV層下面 土器出土状況（南西から）



流路3（1区）II層下面・IV層下面 土器出土状況（東から）



流路3（1・2区）II下層～IV層上面 土器出土状況（北西から）



流路3（1区）II下層 土器出土状況（北西から）



流路3（1・2区）土器出土状況（南南西から）



流路3（1・2区）土器出土状況（西から）



流路3（A-A'）埋土土層断面（北から）



流路3（B-B'）埋土土層断面（北から）



流路3（C-C'）埋土土層断面（北から）



流路3（C-C'）埋土土層断面詳細（北から）



流路3（D-D'）埋土土層断面（北から）



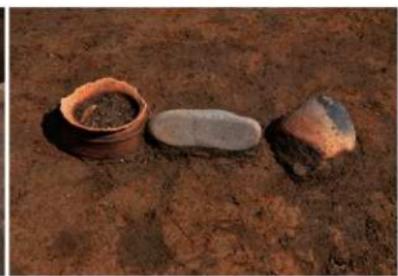
流路3（D-D'）埋土土層断面詳細（北から）



流路3（E-E'）埋土土層断面（北から）



①流路3（3区）IV-7層 214 出土状況（北から）



②流路3（4区）IV-5層 326・363 出土状況（東から）



③流路3（4区）IV-3層 451 出土状況（南から）



④流路3（4区）IV-2層 594 出土状況（東から）



①流路3（4区）IV-2層 757・774 ほか出土状況（東から）



②流路3（2区）II-3層 950 ほか出土状況（北から）



③流路3（2区）II-3層 土器出土状況（南西から）



④流路3（2区）II-3層 953 ほか出土状況（北から）



⑤流路3（2区）II-3層 966・974・990 ほか出土状況（西から）



⑥流路3（2区）II-3層 971 ほか出土状況（西から）



⑦流路3（2区）II-3層 981・983 ほか出土状況（西から）



⑧流路3（2区）II-3層 982・984 ほか出土状況（西から）



①流路3（1区）IV-1層 土器出土状況（南から）



②流路3（1区）II-2層 1047-1152-1154 ほか出土状況（東から）



③流路3（1区）II-2層 1047-1152-1154 ほか出土状況（北東から）



④流路3（1区）II-2層 1108 ほか出土状況（東から）



⑤流路3（1区）II-2層 1141 ほか出土状況（南西から）



⑥流路3（1区）II-2層 1174-1287 出土状況（西から）



⑦流路3（4・5区間）II-1層 1365 出土状況（北から）



⑧流路3（1区）I層 1434 ほか出土状況（東から）



①流路3（1区）I層 1437 ほか出土状況（北東から）



②流路3（1区）I層 1441 出土状況（北東から）



③流路3（2区）I層 1442 出土状況（北から）



④流路3（5区）東壁埋土土層断面（西から）



⑤流路3（4区）東壁北半埋土土層断面（西から）



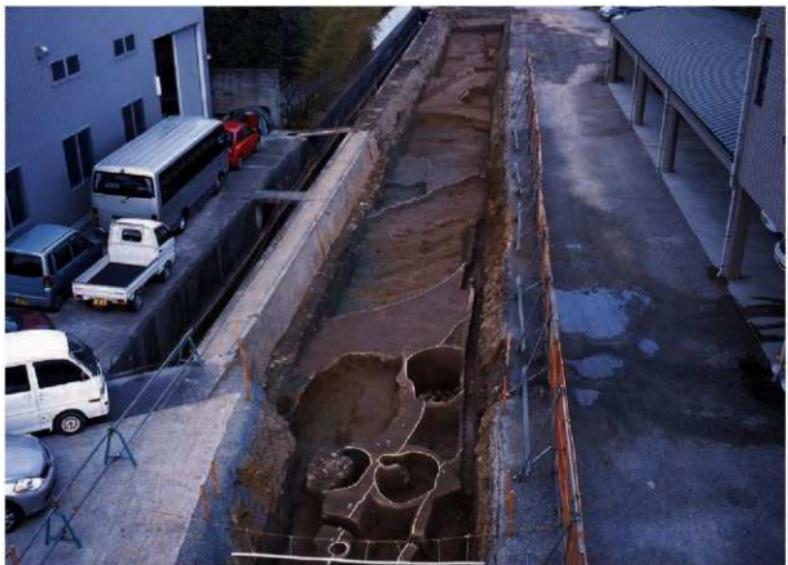
⑥流路3（4区）東壁南半埋土土層断面（西から）



⑦流路3（3区）東壁埋土土層断面（西から）



⑧流路3（2区）東壁埋土土層断面（西から）



II区西半部全景（南から）



II区西半部全景（北から）



II区西半部土層断面（北西から）



II区西半南部全景（北から）



II区西半部 流路 1-1 および埋土土層断面（南西から）



II区東半 3区全景（北から）



II区東半3区 流路1-1部分（真上から、上が東）



II区東 3区 流路1-1および埋土土層断面（南西から）



①II区西半部 流路1-1内 焼土部分截ち割り断面（南から） ②II区東半3区 流路1-1内 下層埋土截ち割り断面（南から）



II区東半1・2区全景（南から）



II区東半1・2区全景（北から）



① II区東半1・2区全景（真上から、上が北）



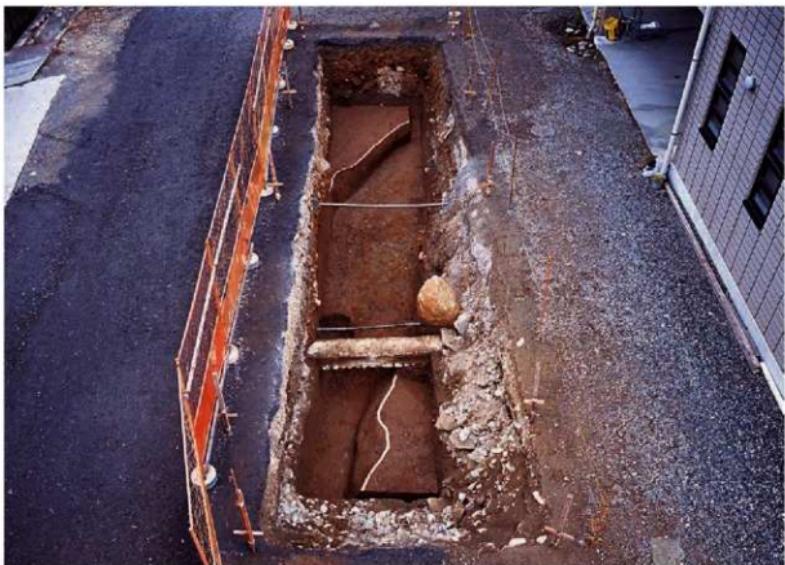
② II区東半2区 流路1-2 埋土土層断面（北から）



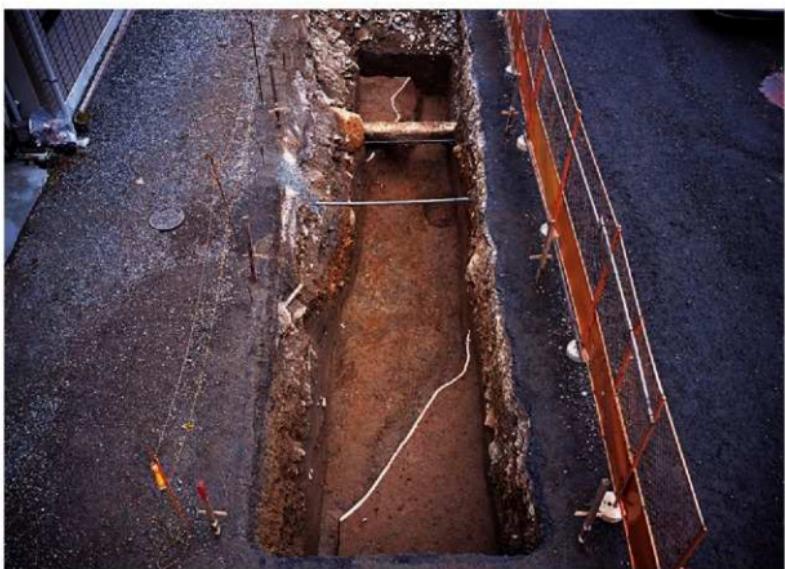
③ II区東半2区 流路1-2 埋土土層断面（南西から）



④ II区東半2区 流路1-2 第4層 1544 出土状況（西から）



II区東半5区 流路2（南から）



II区東半5区 流路2（北から）



① II区東半5区 全景（真上から、上が北）



② II区西半部南端 流路2・溝1埋土層断面（北から）



③ II区東半5区 流路2埋土層断面（北から）



④ II区東半5区 流路2上面土器出土状況（北から）



⑤ II区東半5区 流路2西側壁第4層（北東から）



① II区東半5区 流路2 第7層 1653 出土状況（東から）



② II区東半5区 流路2 1656・1686 出土状況（東から）



③ II区東半5区 流路2 1725 出土状況（南から）



④ II区東半5区 流路2 1725 出土状況（北から）



II区西半部南端 流路2・溝1（南から）



II区東半4区 流路1-1・溝1（南から）



① II区東半4区 流路1-1・溝1（北から）



② II区東半4区全景
(真上から、上が北)



①Ⅱ区東半4区 溝1 (a-a') 埋土土層断面 (南から)



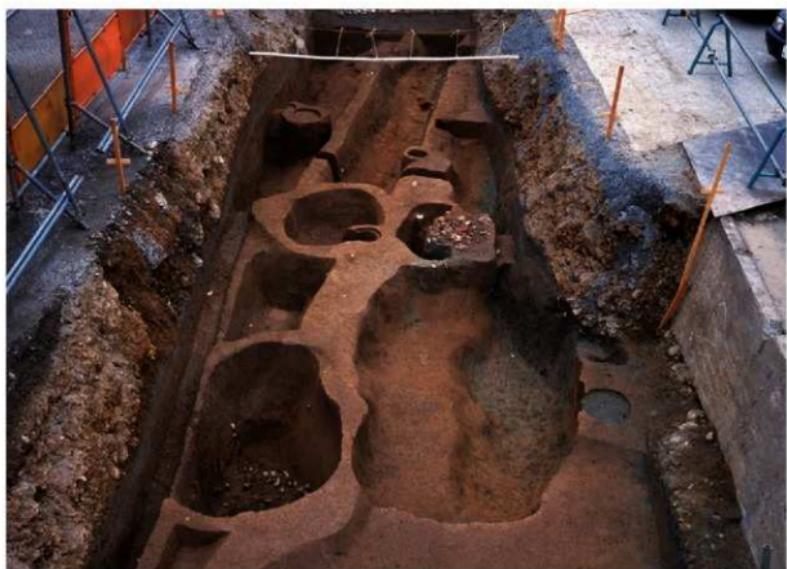
②Ⅱ区西半部 溝1 (b-b') 埋土土層断面 (北から)



③Ⅱ区西半部 溝1 (c-c') 埋土土層断面 (北から)



④Ⅱ区西半部 溝1 (b-b') 下層埋土土層断面 (北から)



Ⅱ区西半部 井戸1～井戸3 (北から)



①II区西半部 井戸 1～井戸 3など検出状況（西から）



②II区西半部 井戸 1など検出状況（西から）



③II区西半部 井戸 2 1749 出土状況（北西から）



④II区西半部 井戸 2（北から）



II区西半部 井戸 1 埋土土層断面（北から）



II区西半部 井戸2 埋土土層断面（北から）



II区西半部 井戸2 底の状況（南西から）



II区西半部 井戸2 底の礫（南から）



① II区西半部 井戸2 底の礫（西から）



② II区西半部 井戸2 底の礫（北から）



③ II区西半部 井戸2 裁ち割り断面（北から）



④ II区西半部 井戸2 裁ち割り断面詳細（北から）



II区西半部 井戸3 上面の土器群（西から）



II区西半部 井戸3 埋土土層断面（南から）



II区西半部 井戸3 底付近の様（西から）



II区西半部 井戸3 完掘状況（西から）



II区西半部 井戸3 上面の土器群（東から）



II区西半部 井戸3 上面の土器群詳細（東から）



①井戸3 上面の土器群 北東部（西から）



②井戸3 上面の土器群 南東部（西から）



③井戸3 1753・1755・1758・1773・1776・1790・1798
出土状況（西から）



④井戸3 1753・1755・1773・1790 ほか出土状況（北から）



⑤井戸3 1753・1755・1758・1773・1790・1798
出土状況（北東から）



⑥井戸3 1753・1755・1758・1773・1790 ほか出土状況（北から）



⑦井戸3 1753・1759・1774 出土状況（南西から）



⑧井戸3 埋土下層 1757 出土状況（東から）



①井戸3 1776 出土状況（北東から）



②井戸3 埋土中層 1776 出土状況（北東から）



③井戸3 土器群南西部 1775・1789 出土状況（西から）



④井戸3 1789 出土状況（南から）



⑤井戸3 1788・1796 出土状況（東から）



⑥井戸3 埋土中層 1794 出土状況（北東から）



⑦井戸3 底部礫層内 1792 出土状況（西から）



⑧井戸3 底部礫層断面（北から）



② II区東半 1区 溝2 (a-a') 埋土土層断面（北から）



① II区西半部 溝2 (b-b') 埋土土層断面（南から）



③ II区西半部 溝3 埋土土層断面（北から、図は反転）



④ I区 溝4 (A - A') 埋土土層断面（北から）



⑤ I区 溝4 (F - F') 埋土土層断面（北から）



⑥ II区東半 1区 溝5 (南東から)



⑦ II区東半 1区 溝5 埋土土層断面（南東から）



⑧ II区西半部 ピット2ほか截ち削り土層断面（南西から）



① I 区 調査前現況（南から）



② II 区西半部 調査前現況（北北東から）



③ 機械掘削状況（II区西半部、南から）



④ 黏土探査 売掘削状況（II区西半部、北西から）



⑤ 全景写真撮影のための清掃状況（II区西半部、南から）



⑥ I 区 流路3 挖削状況（南南東から）



⑦ 土器精査状況（I区 流路3、南東から）



⑧ 土器精査状況（II区西半部 井戸3、北東から）



①ポール写真撮影状況（II区東半1区、北北東から）



②高所作業車からの写真撮影状況（II区東半4区、南から）



③襆工板設置状況（II区東半4区、西北西から）



④埋め戻し状況（II区東半2区、北北東から）



⑤井戸2 土層断面実測状況（北から）



⑥森岡秀人氏による現地指導状況（南から）



⑦地元説明会開催状況（南東から）



⑧地元説明会終了後の発掘体験（北西から）



流路3出土 壺



流路3出土 壺



流路3出土 鉢・有孔鉢ほか



流路3出土 高坏・器台



流路3出土 蓋



流路3出土 韩式系土器ほか



流路2出土 土器



井戸3出土 土器



流路3出土 山陰系壺



出土 譜岐系土器



出土 北近畿系土器



出土 北近畿系壺 C 1



出土 北近畿系壺 C 2 ~ C 3



出土 北近畿系壺 C 4 ~ C 6



出土 北近畿系と想定される壺 A・B



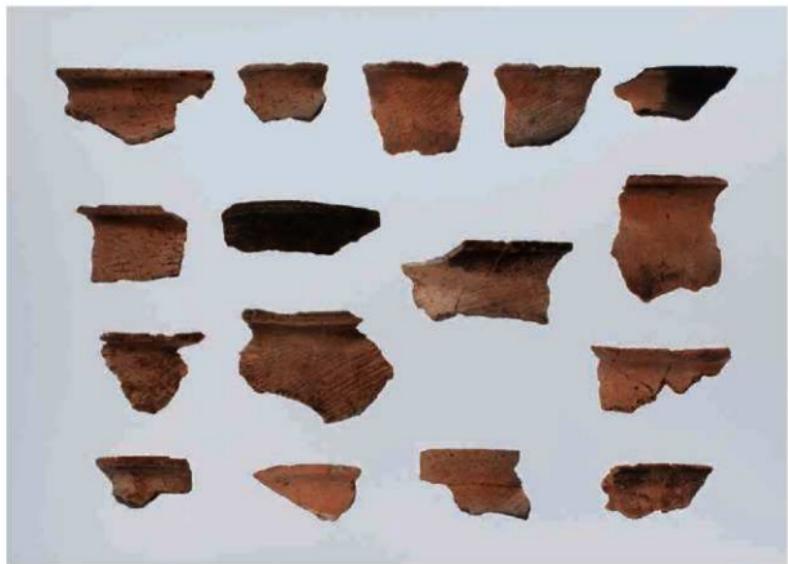
出土 北近畿系壺 B・D・E



出土 北近畿系高坏



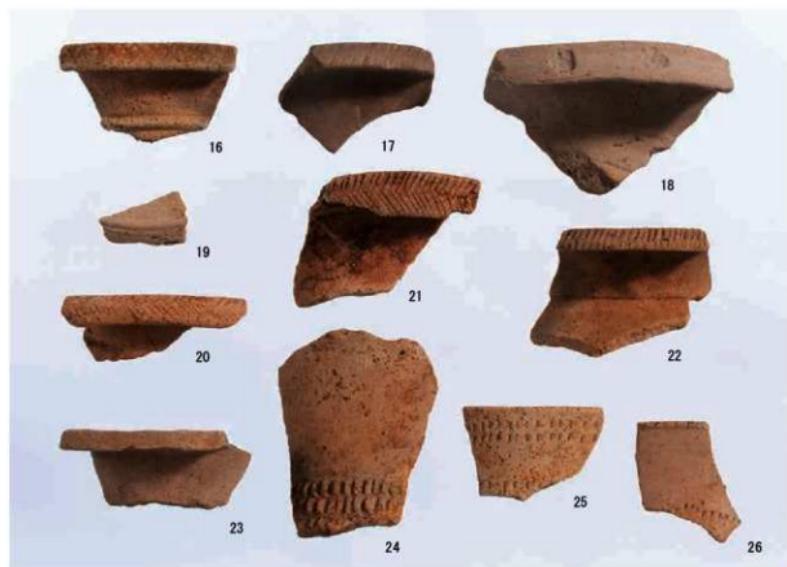
出土 北近畿系器台



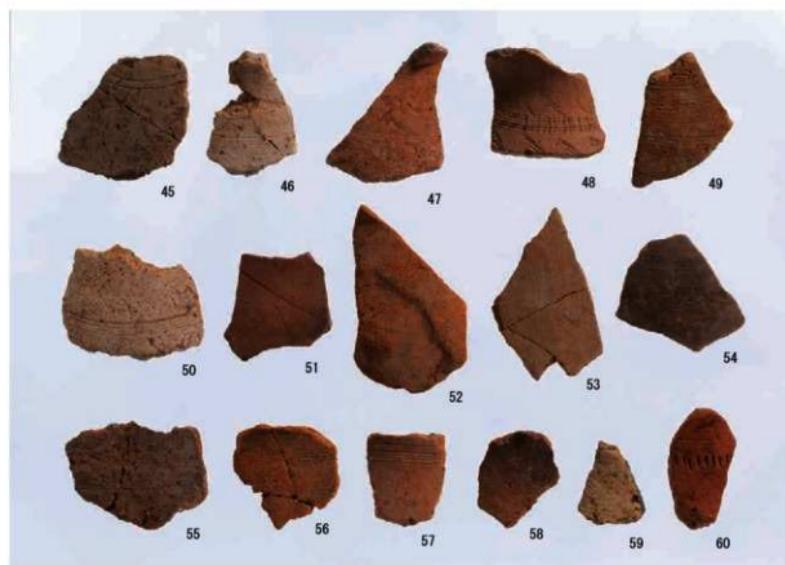
出土 北近畿系と想定される壺A・B・C



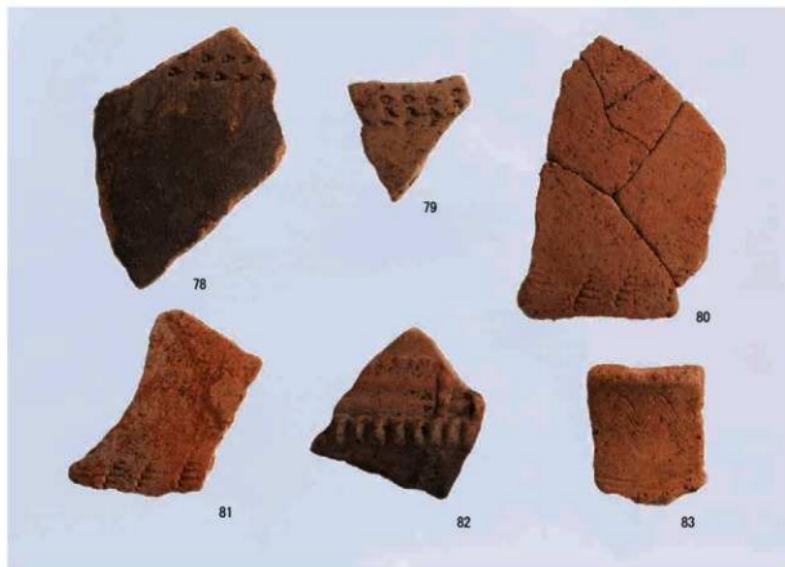
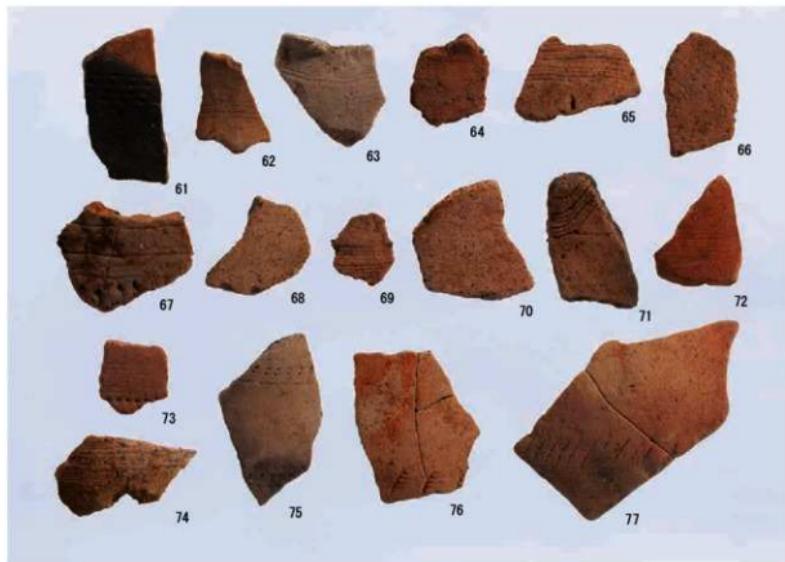
流路3 出土土器（1）



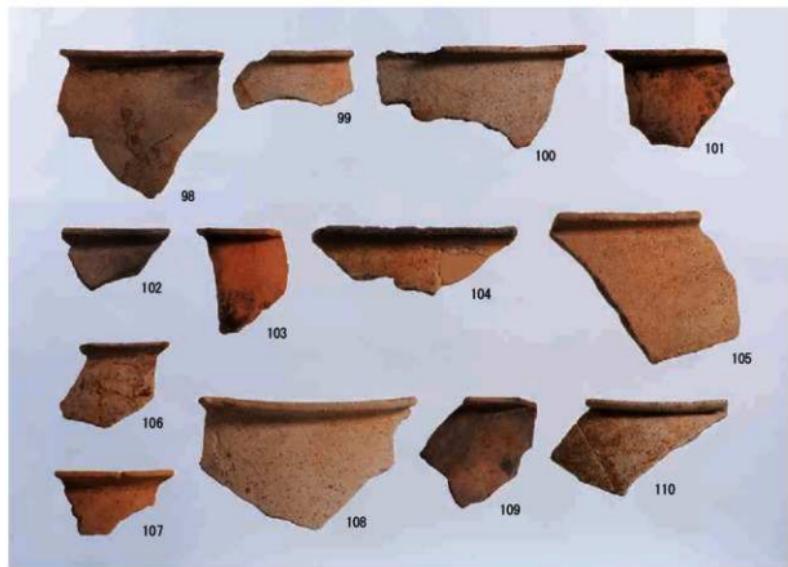
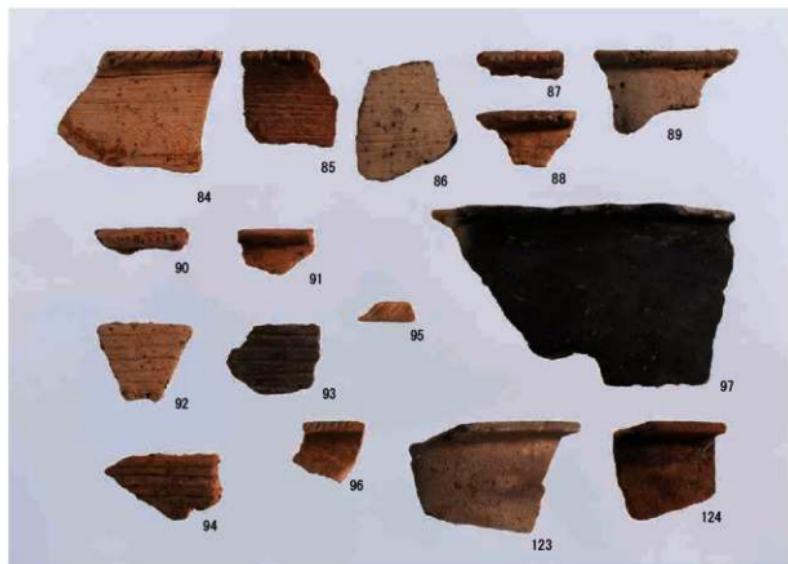
流路3 出土土器（2）



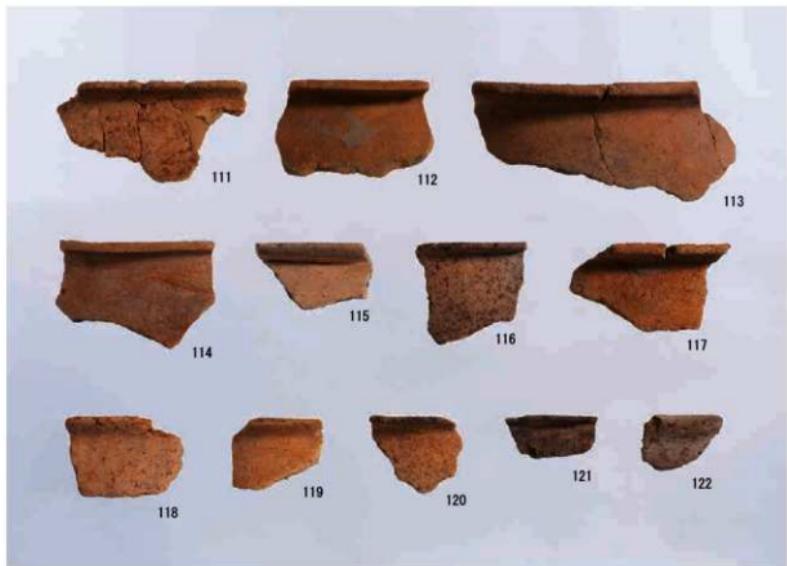
流路3 出土土器 (3)



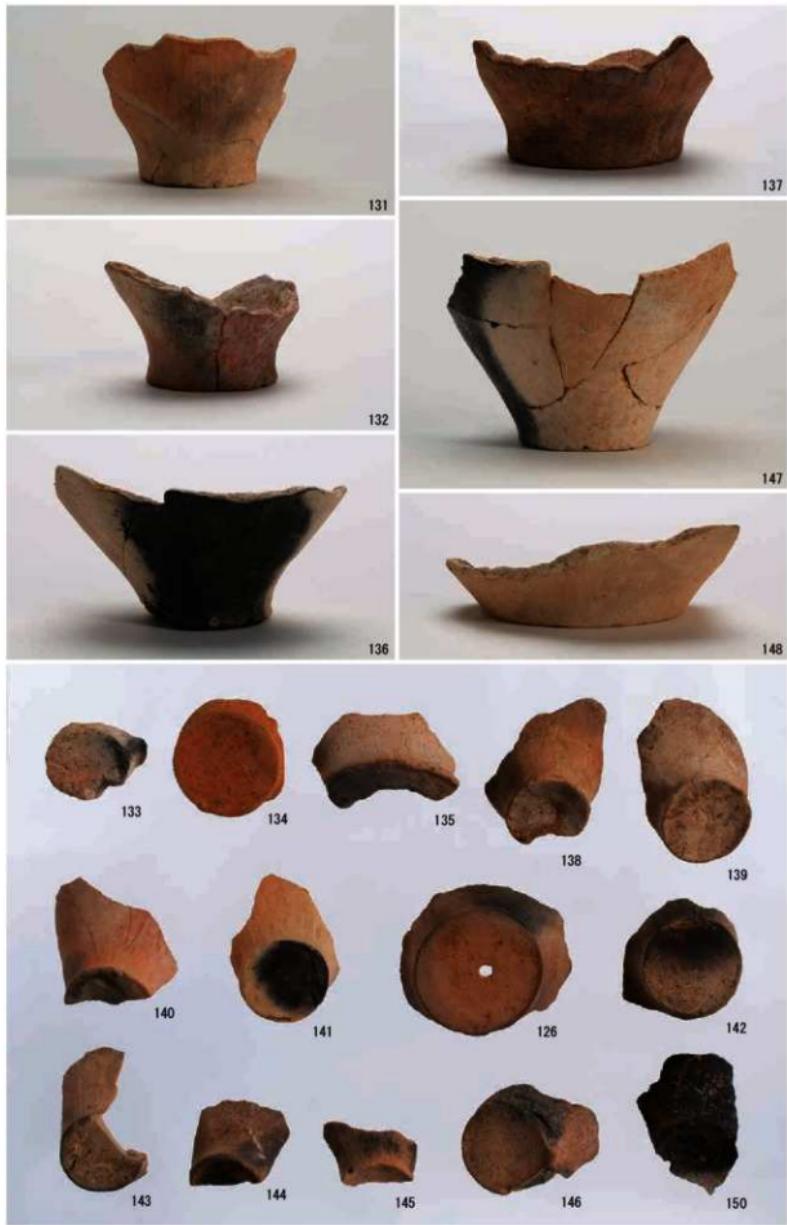
流路3 出土土器 (4)



流路3 出土土器（5）



流路3 出土土器（6）



流路 3 出土土器 (7)



流路3 出土土器 (8)



164



165



170



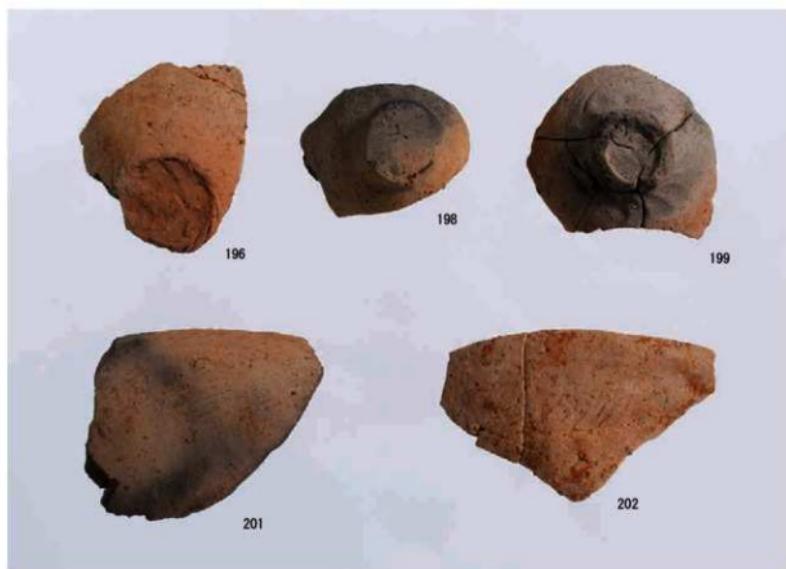
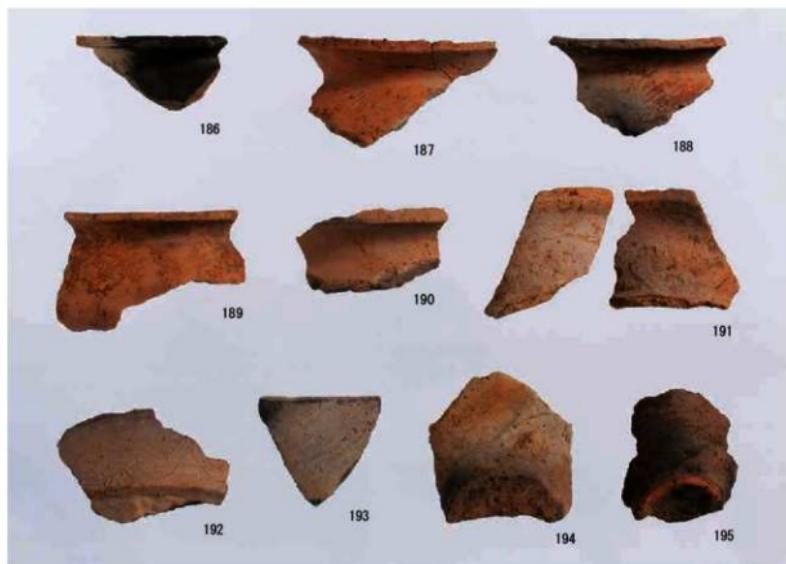
171



流路3 出土土器 (9)



流路3 出土土器 (10)



流路3 出土土器 (11)



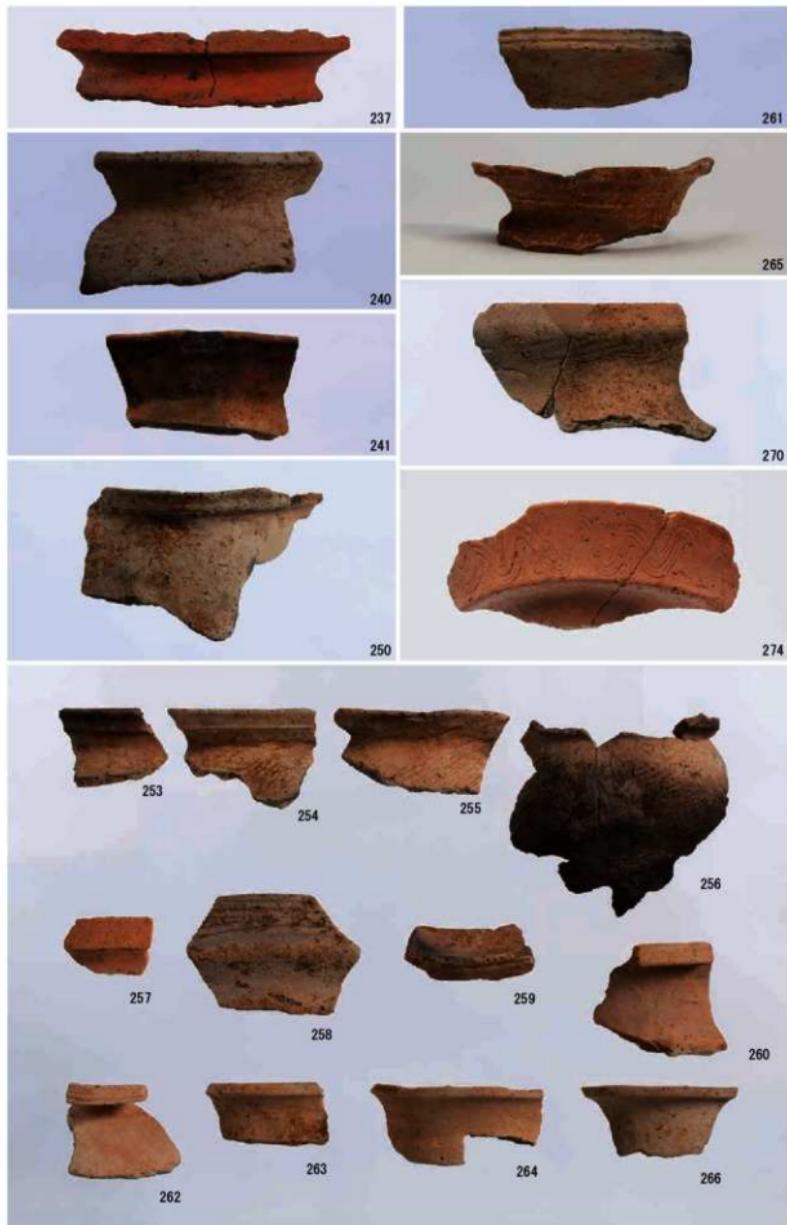
流路3 出土土器 (12)



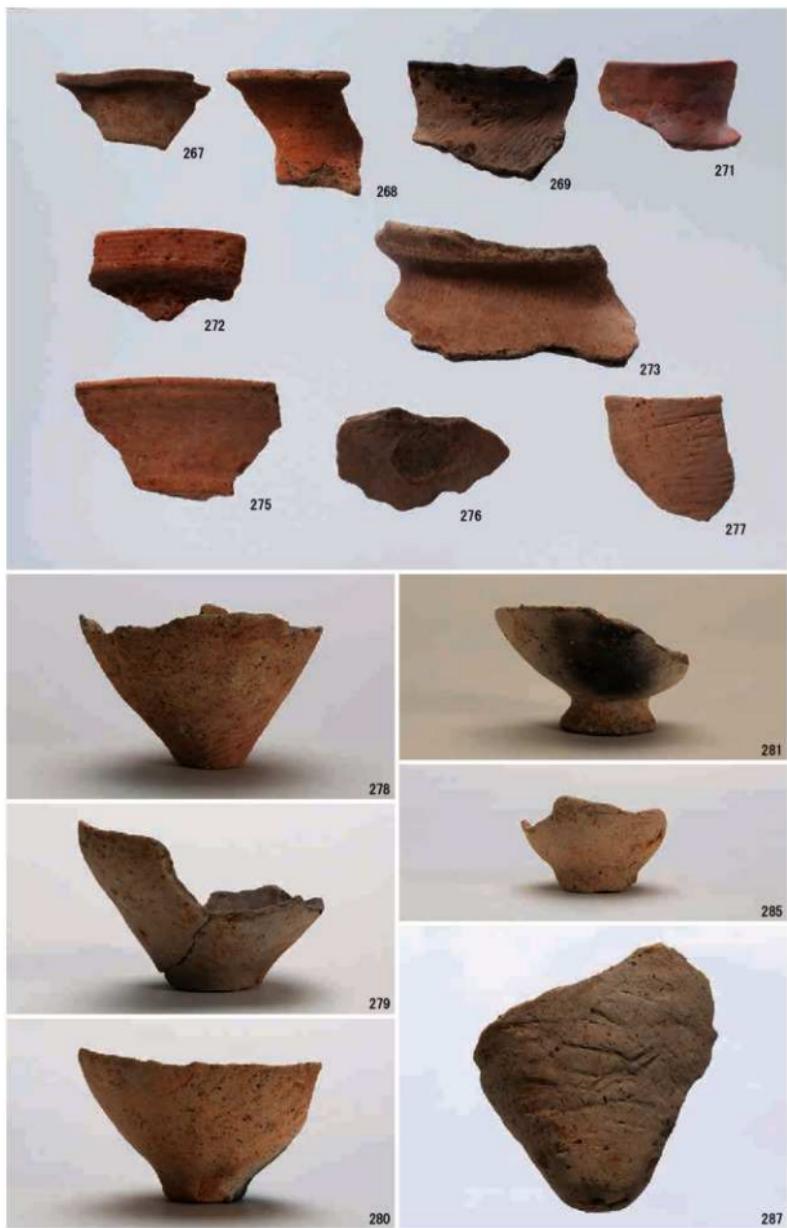
流路3 出土土器 (13)



流路3 出土土器 (14)



流路3 出土土器 (15)



流路3 出土土器 (16)



流路3 出土土器 (17)



流路3 出土土器 (18)



流路3 出土土器 (19)



流路3 出土土器 (20)



流路3 出土土器 (21)



流路3 出土土器 (22)



流路3 出土土器 (23)



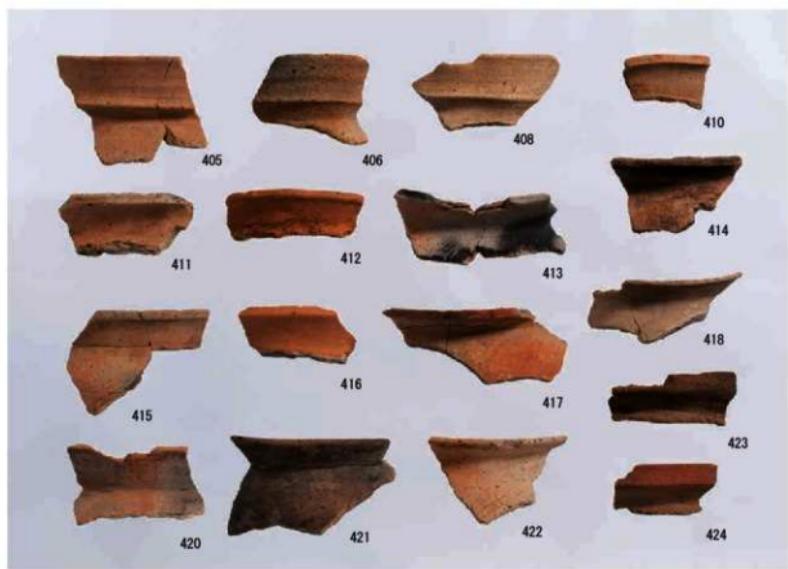
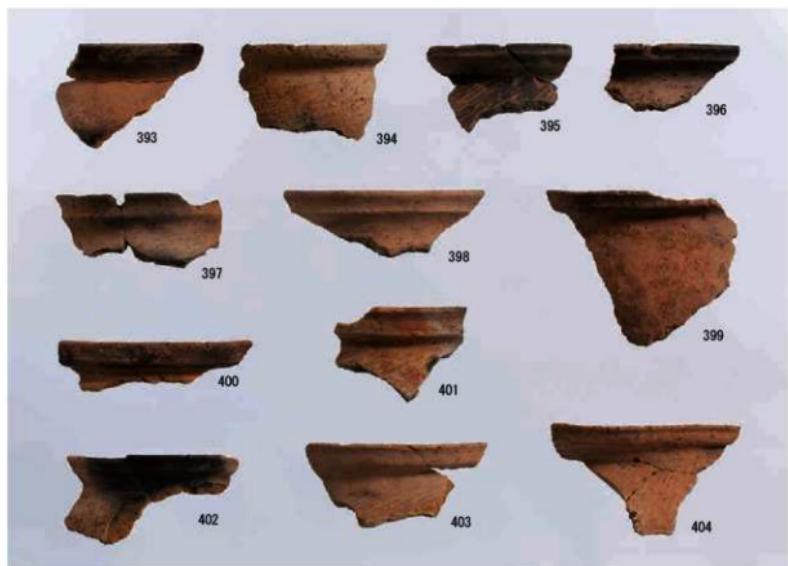
流路3 出土土器 (24)



流路3 出土土器 (25)



流路3 出土土器 (26)



流路3 出土土器 (27)



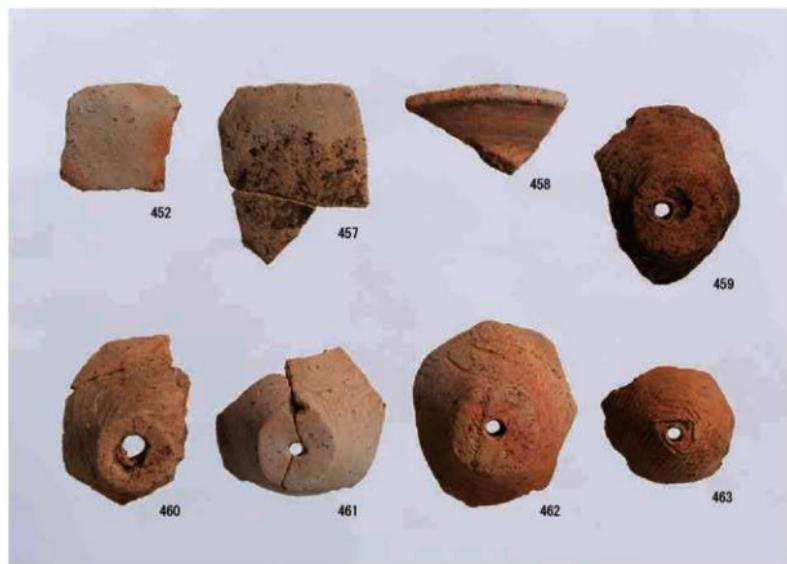
流路3 出土土器 (28)



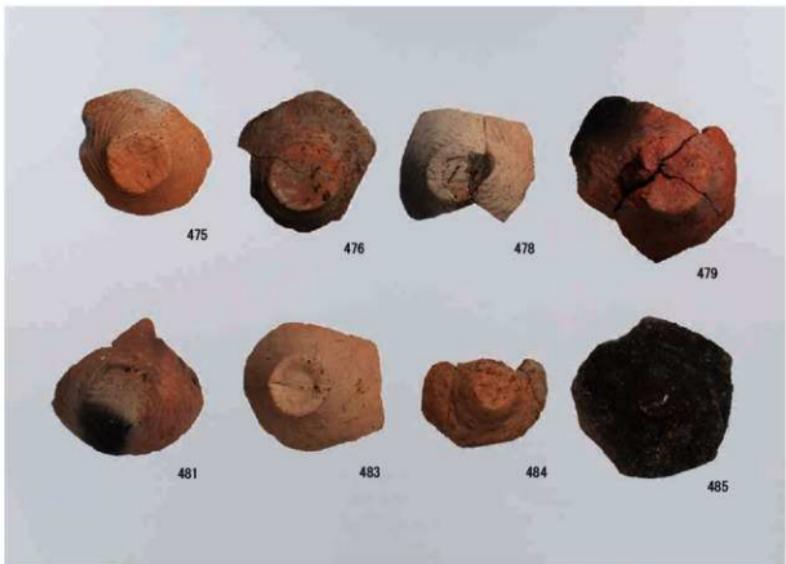
流路3 出土土器 (29)



流路3 出土土器 (30)



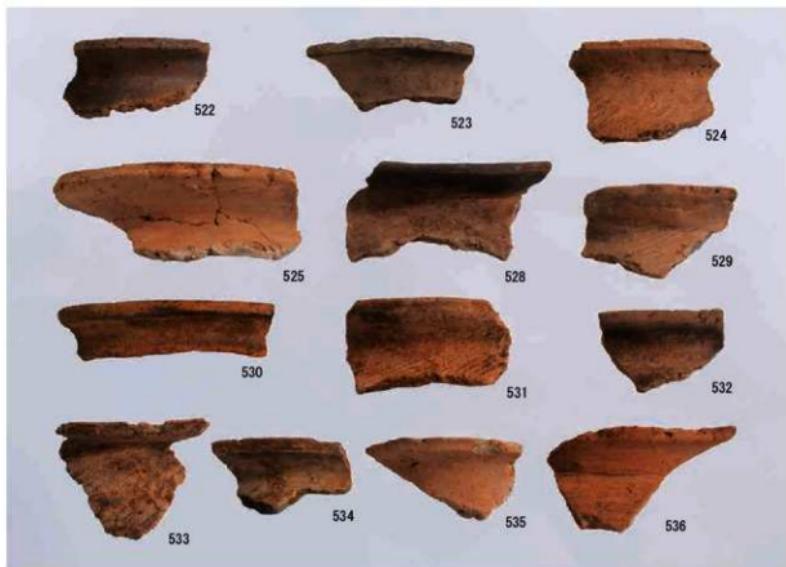
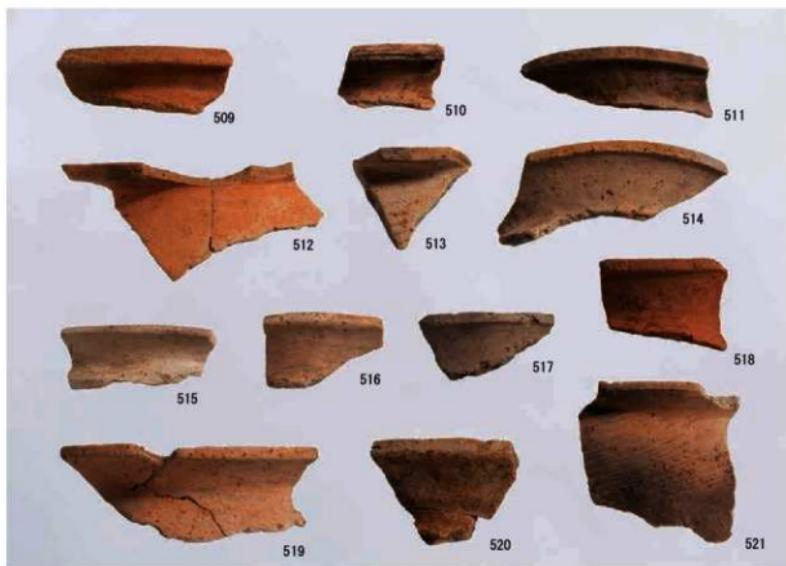
流路3 出土土器 (31)



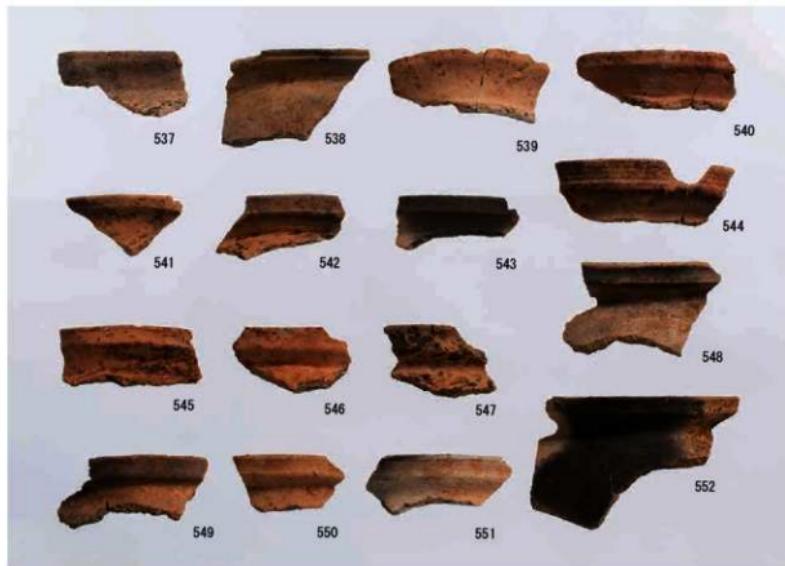
流路3 出土土器 (32)



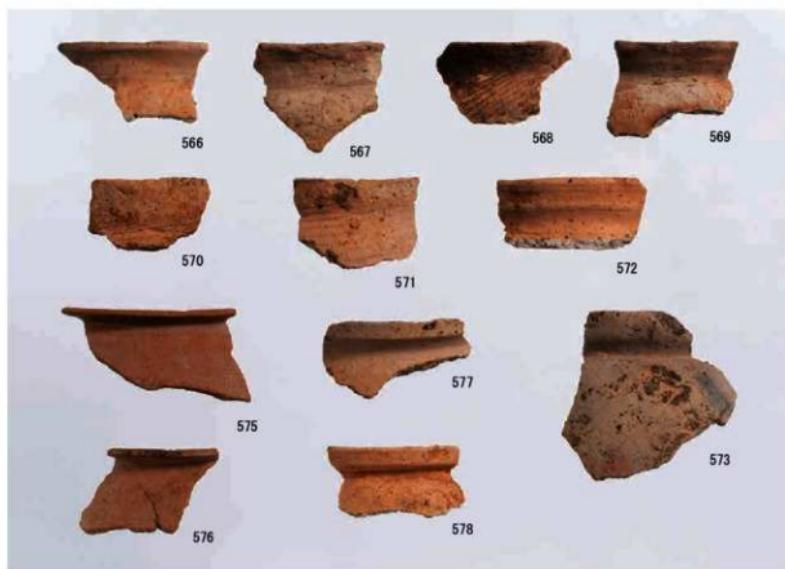
流路3 出土土器 (33)



流路3 出土土器 (34)



流路3 出土土器 (35)



流路3 出土土器 (36)



574



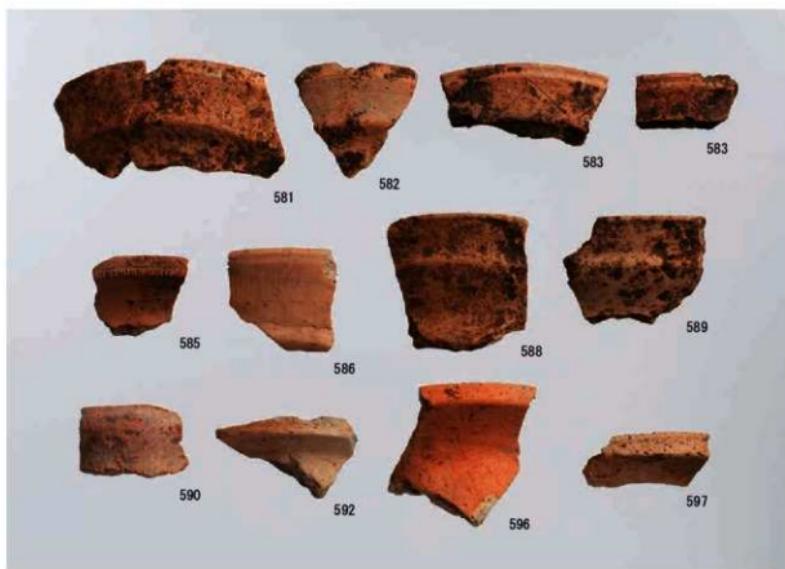
579



580



578



581

582

583

585

586

588

589

590

592

596

597

流路3 出土土器 (37)



584



594



587



595



591



606



593



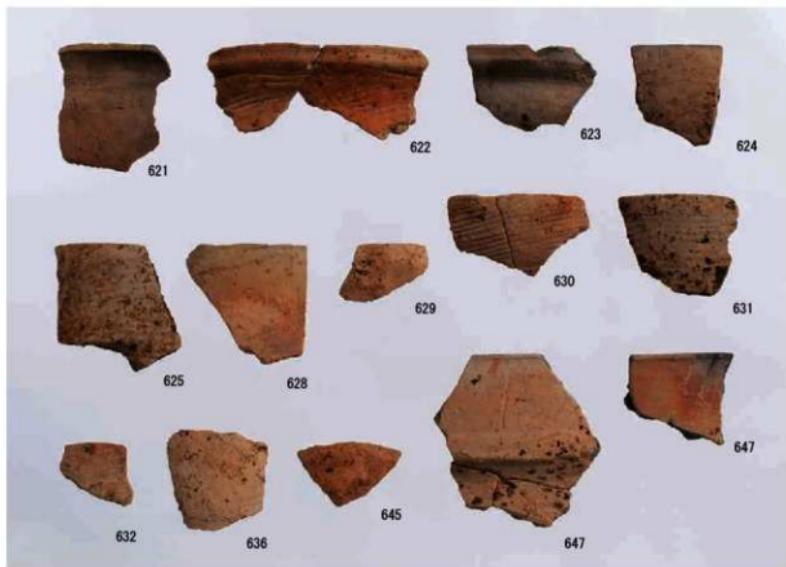
615



616



流路3 出土土器 (39)



流路3 出土土器 (40)



626



637



627



638



633



639



634



640



635



642



流路3 出土土器 (42)



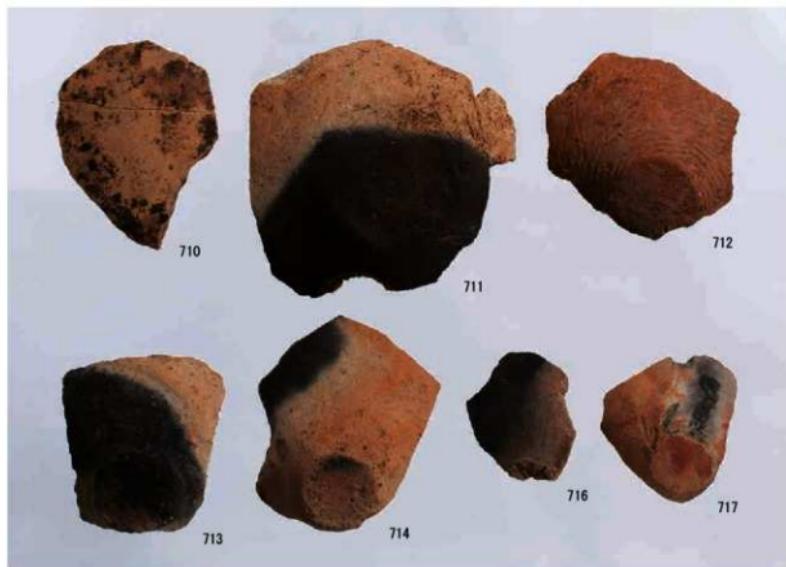
流路3 出土土器 (43)



流路3 出土土器 (44)



流路3 出土土器 (45)



流路3 出土土器 (46)



流路3 出土土器 (47)



流路3 出土土器 (48)





流路3 出土土器 (50)



787



788



789



790



791



792



793



794



795



800



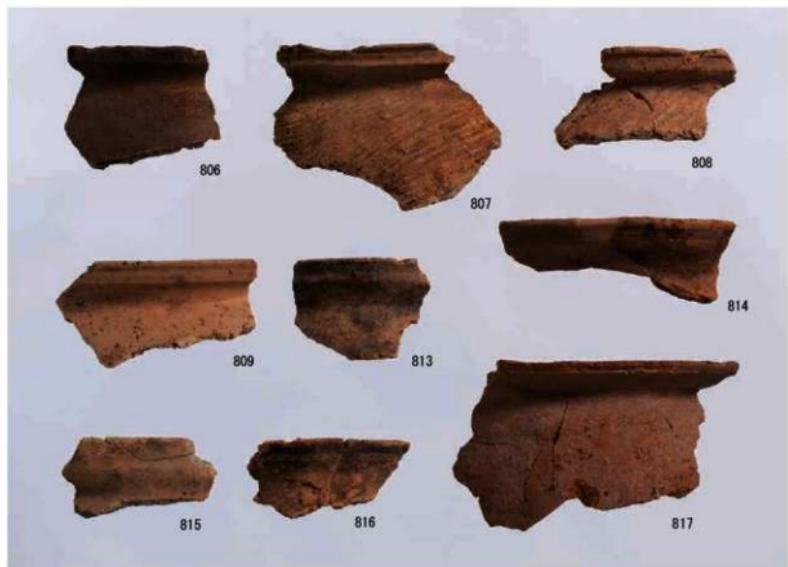
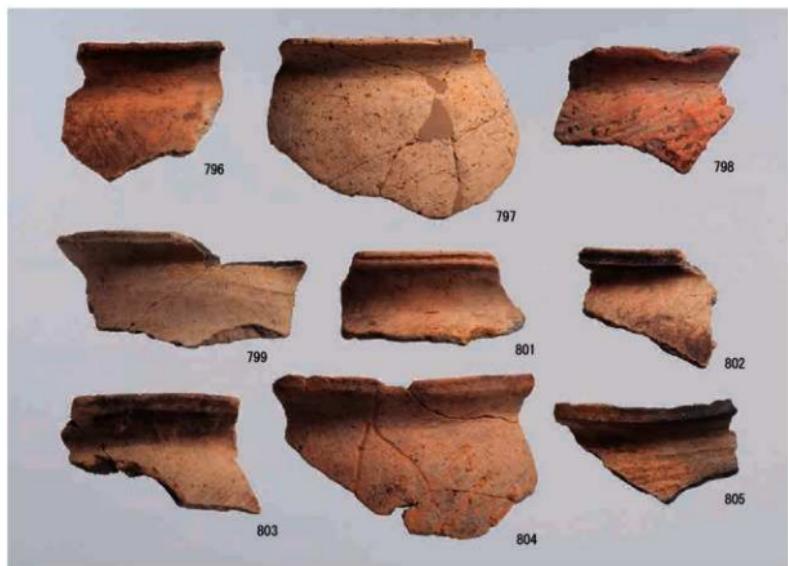
810



811



812



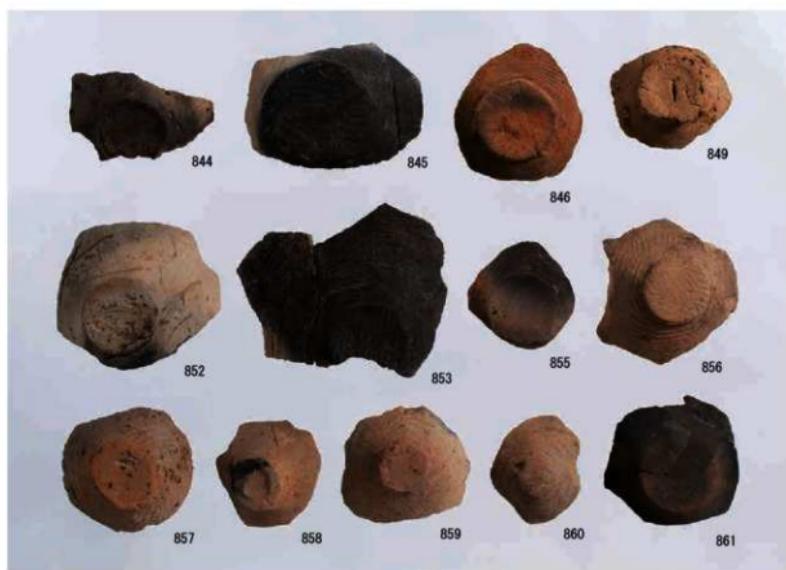
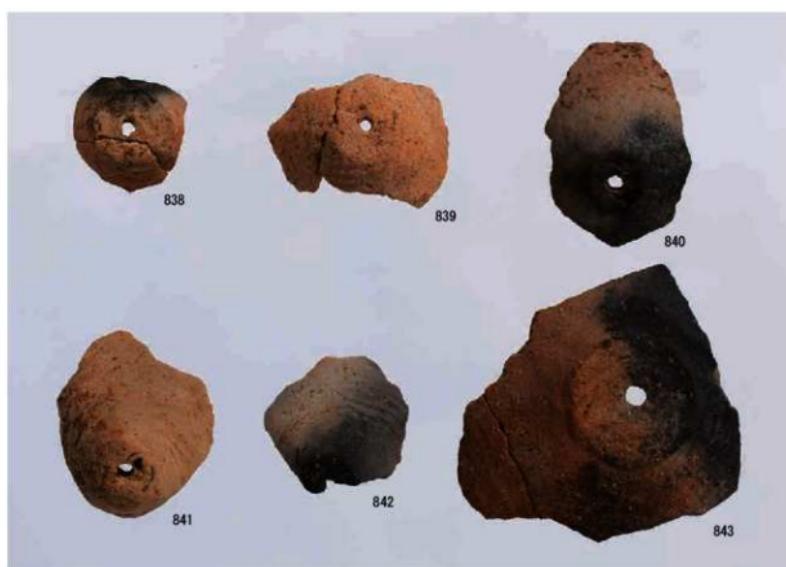
流路3 出土土器 (52)



流路3 出土土器 (53)



流路3 出土土器 (54)



流路3 出土土器 (55)



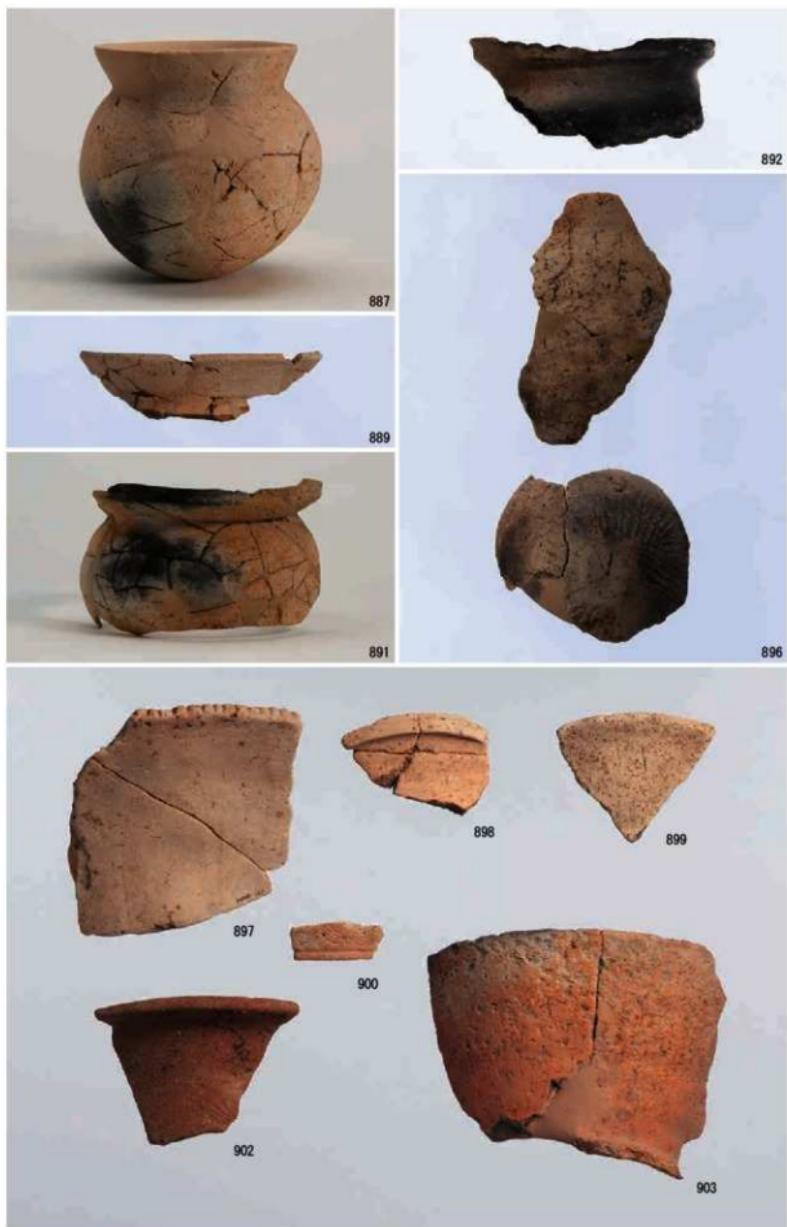
流路3 出土土器 (56)



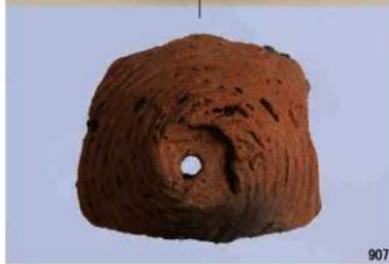
流路3 出土土器 (57)



流路3 出土土器 (58)



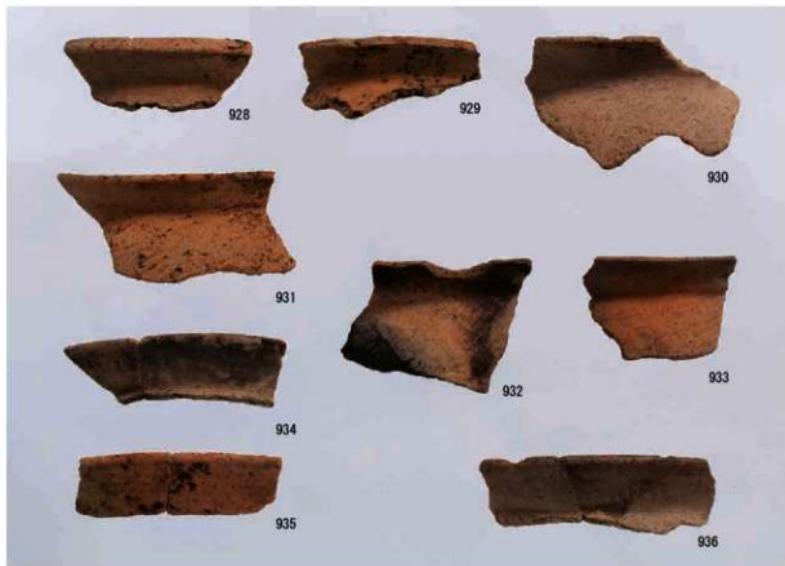
流路3 出土土器 (59)



流路3 出土土器 (60)



流路3 出土土器 (61)



流路3 出土土器 (62)



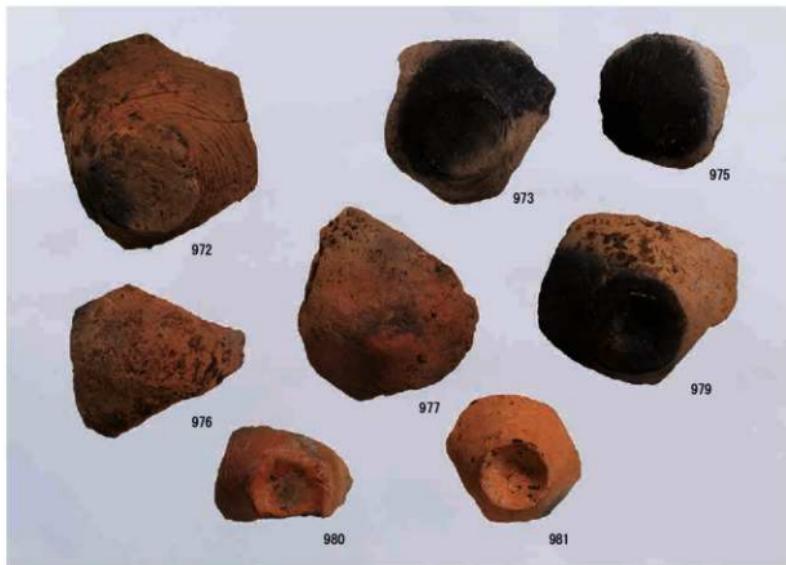
流路3 出土土器 (63)



流路3 出土土器 (64)



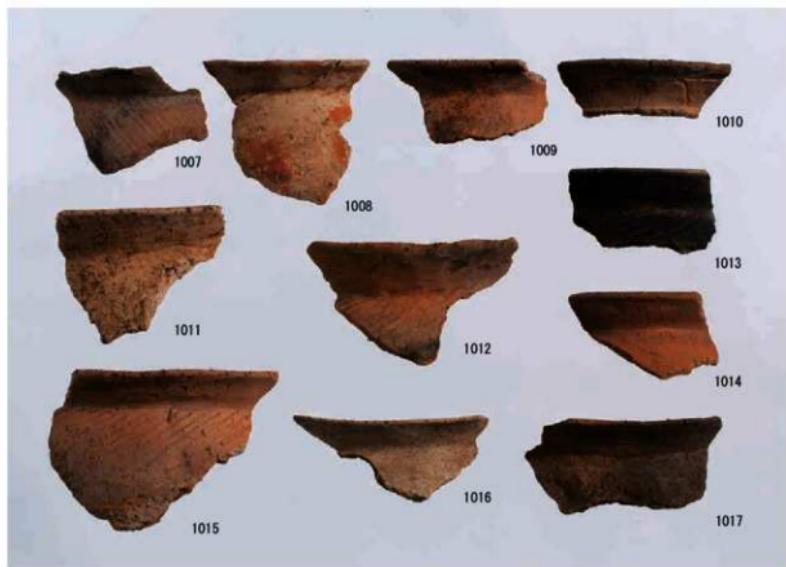
流路3 出土土器 (65)



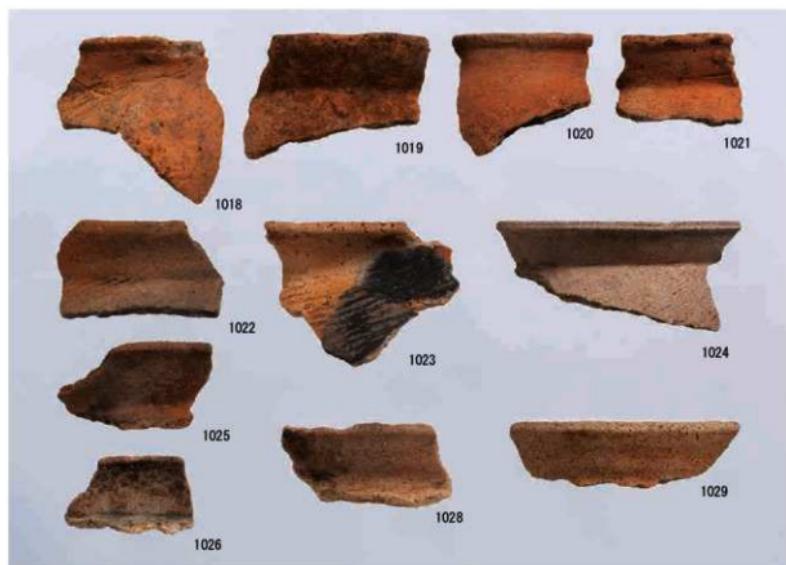
流路3 出土土器 (66)



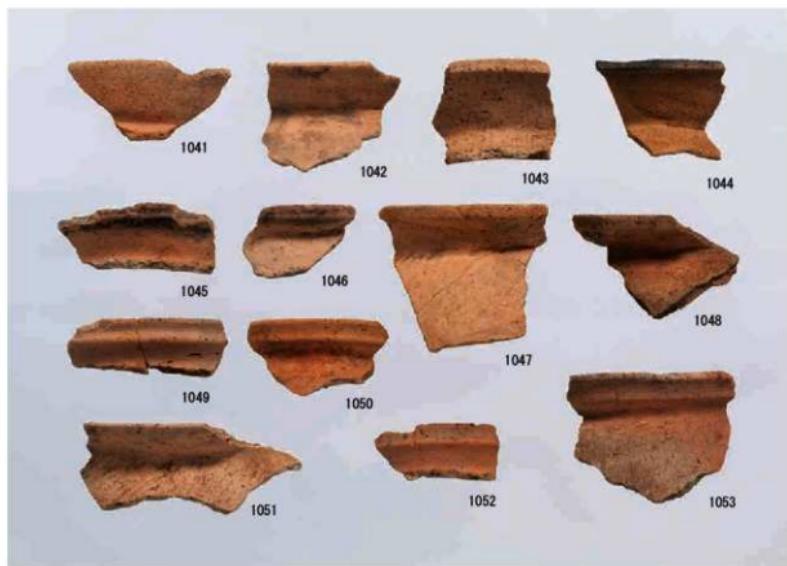
流路3 出土土器 (67)



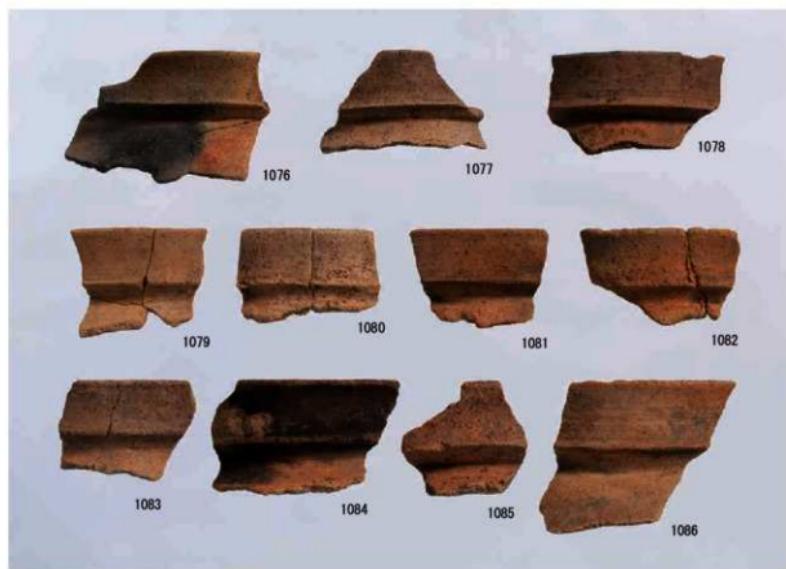
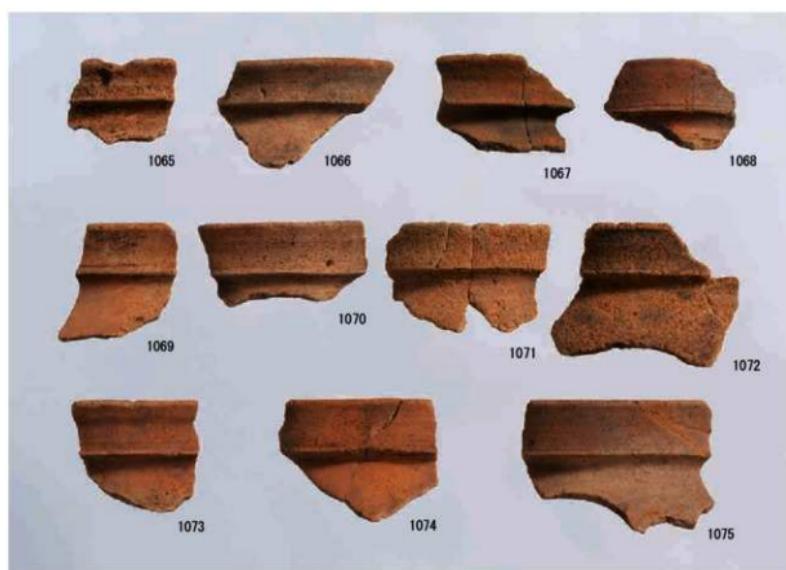
流路3 出土土器 (68)



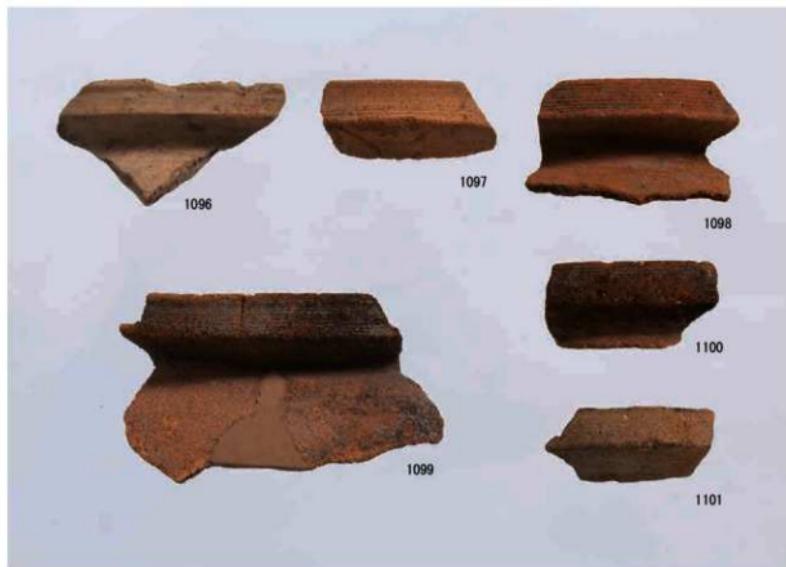
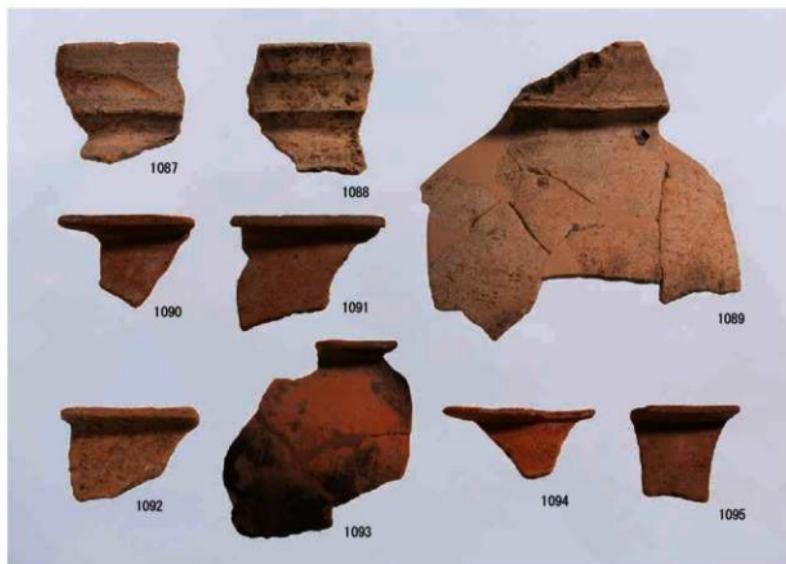
流路3 出土土器 (69)



流路3 出土土器 (70)



流路3 出土土器 (71)



流路3 出土土器 (72)



1027



1104



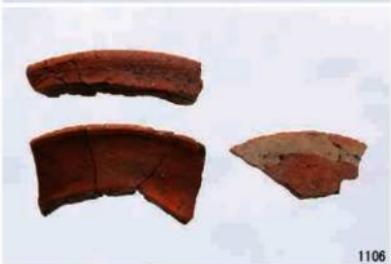
1102



1105



1103



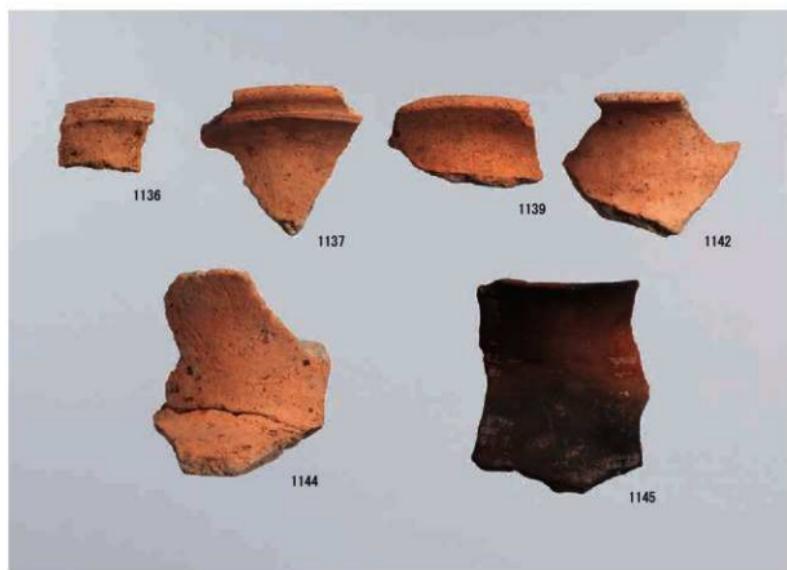
1106



1107



流路3 出土土器 (74)



流路3 出土土器 (75)

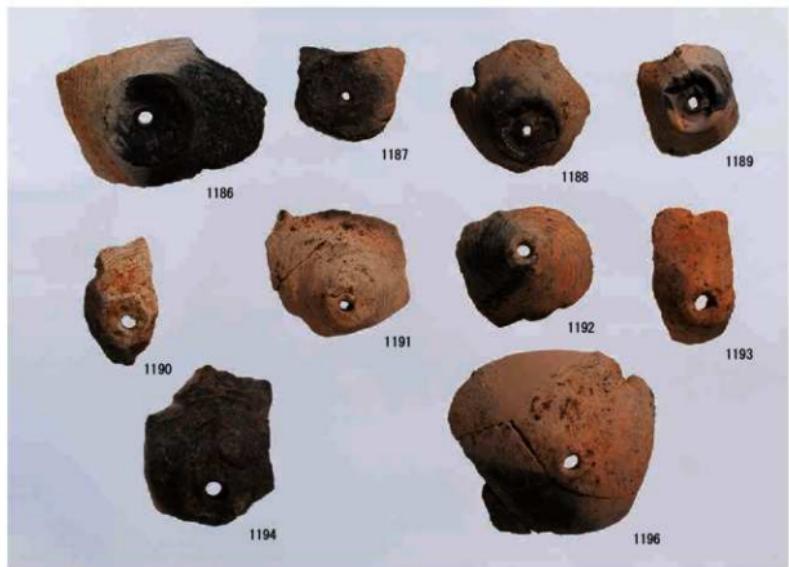


流路3 出土土器 (76)

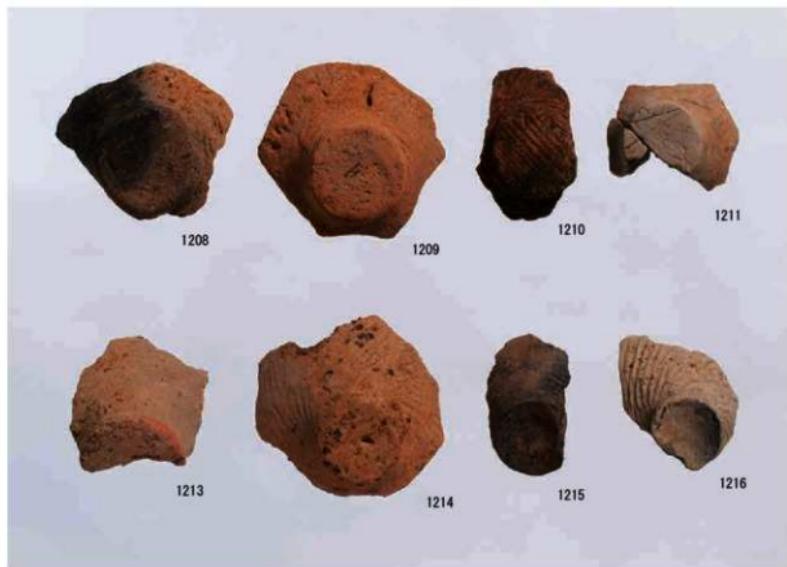




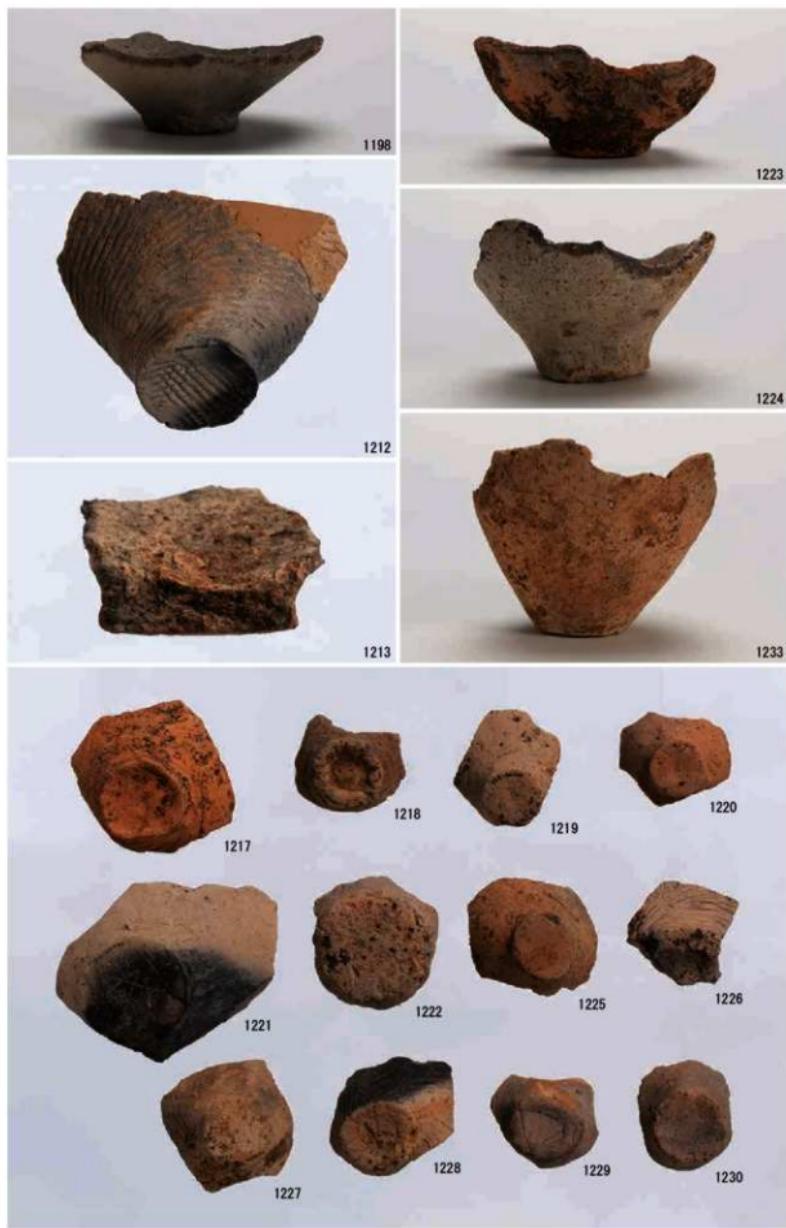
流路3 出土土器 (78)



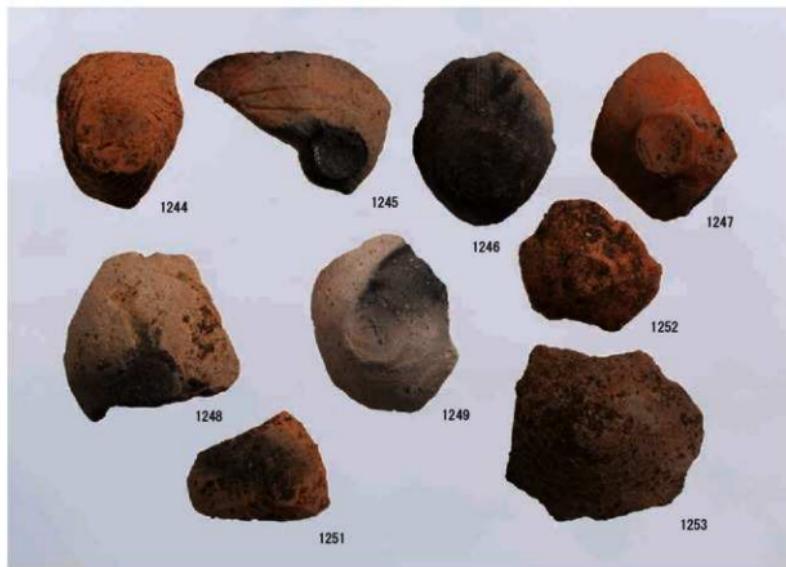
流路3 出土土器 (79)



流路3 出土土器 (80)



流路3 出土土器 (81)



流路3 出土土器 (82)



流路3 出土土器 (83)



流路3 出土土器 (84)



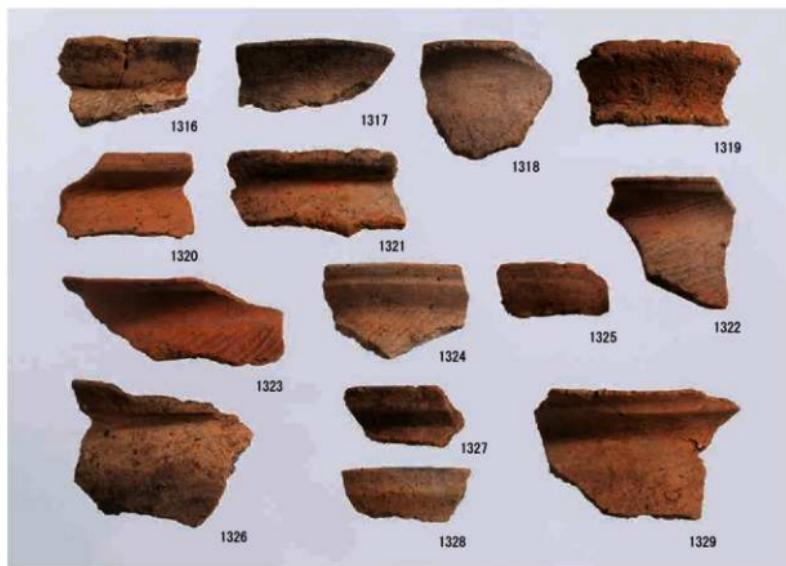
流路3 出土土器 (85)



流路3 出土土器 (86)

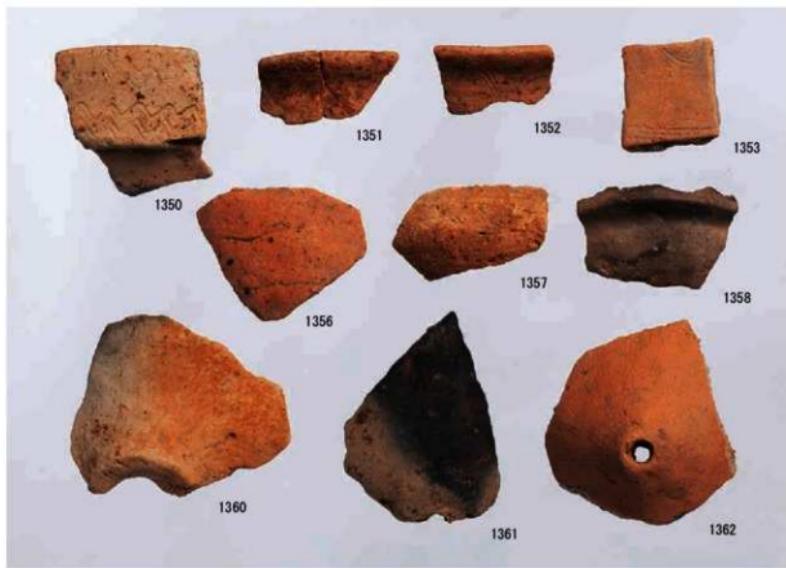


流路3 出土土器 (87)

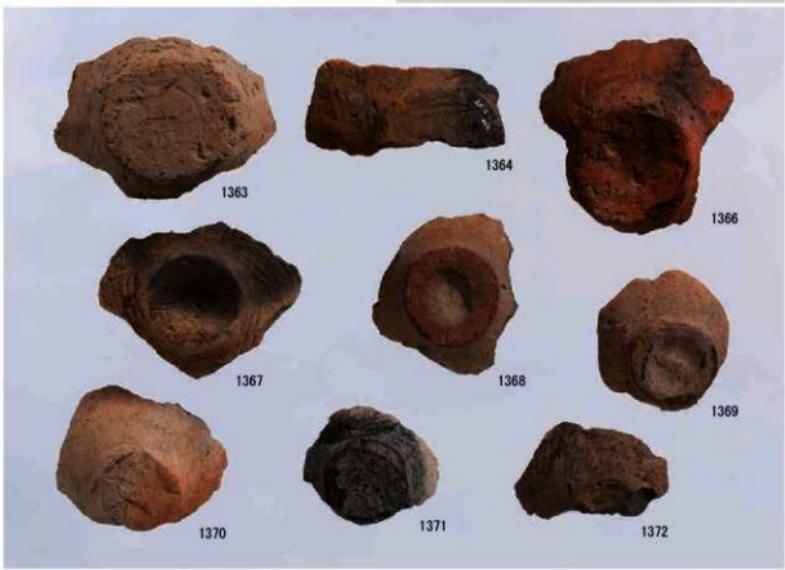
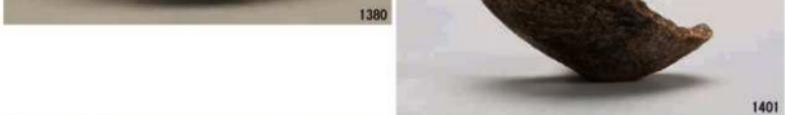
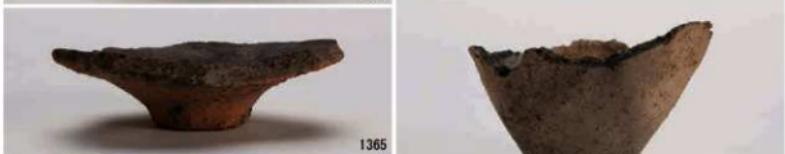
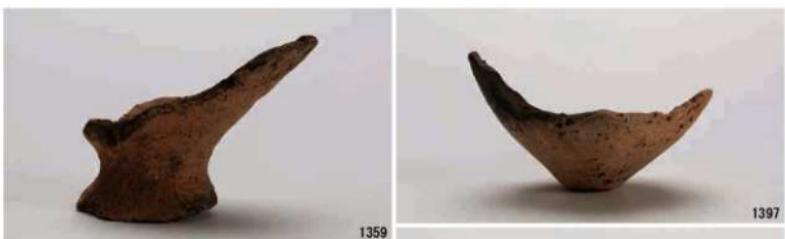


流路3 出土土器 (88)

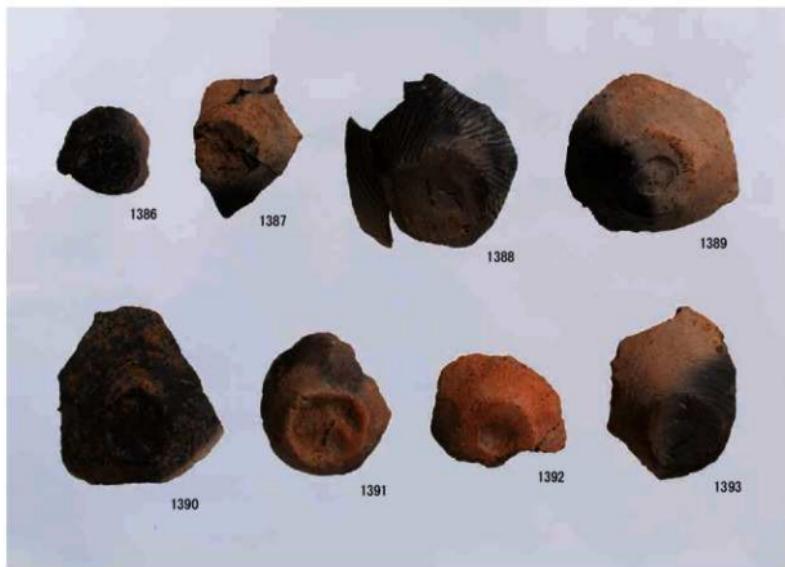
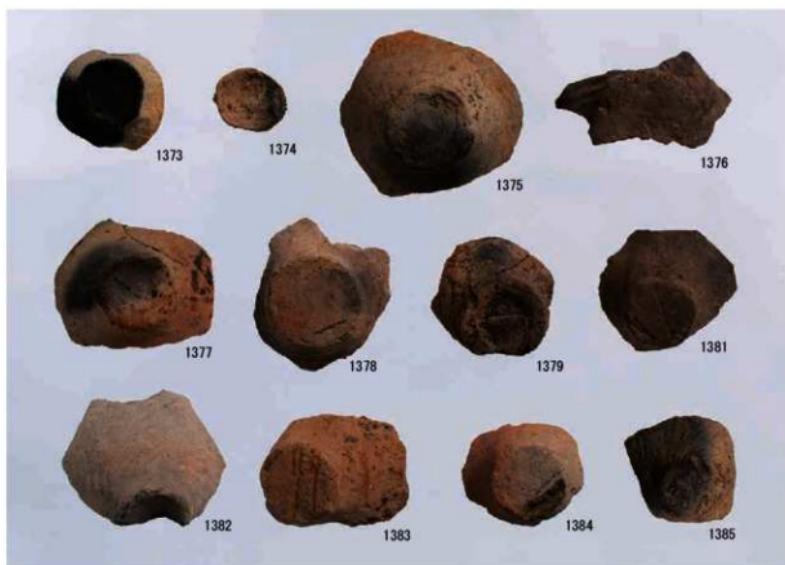




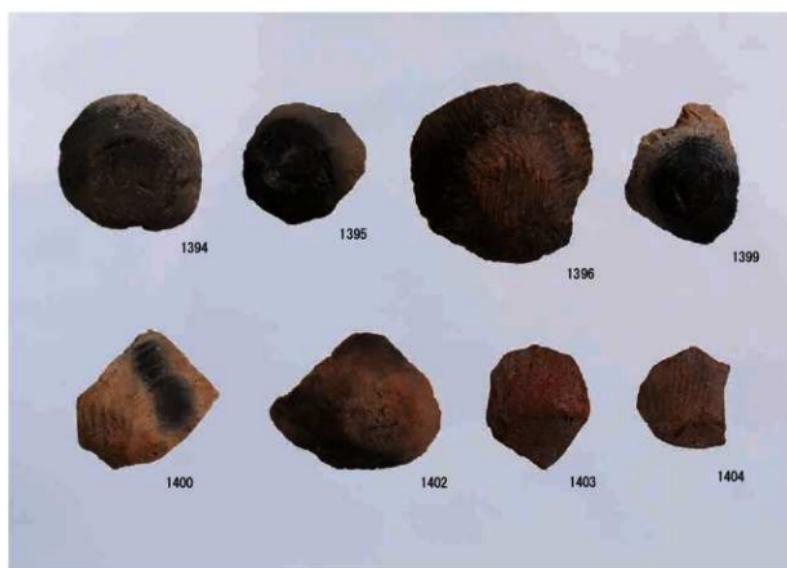
流路3 出土土器 (90)



流路3 出土土器 (91)



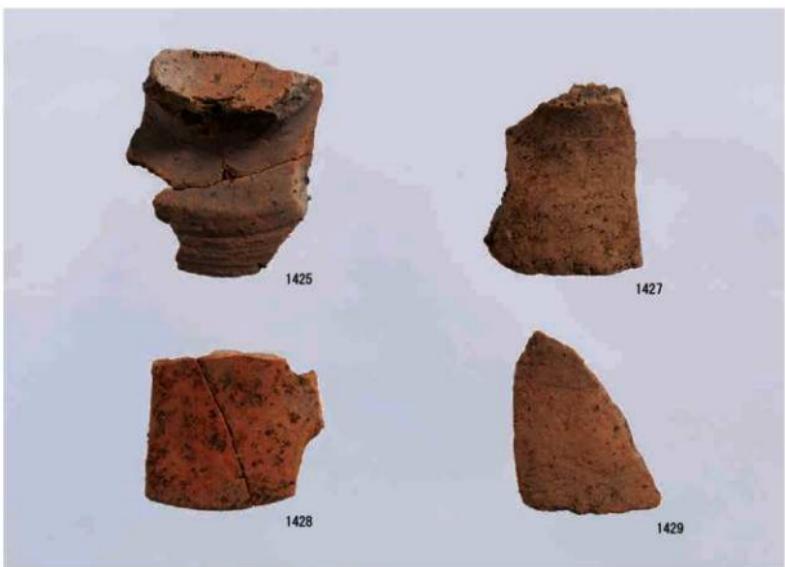
流路3 出土土器 (92)



流路3 出土土器 (93)



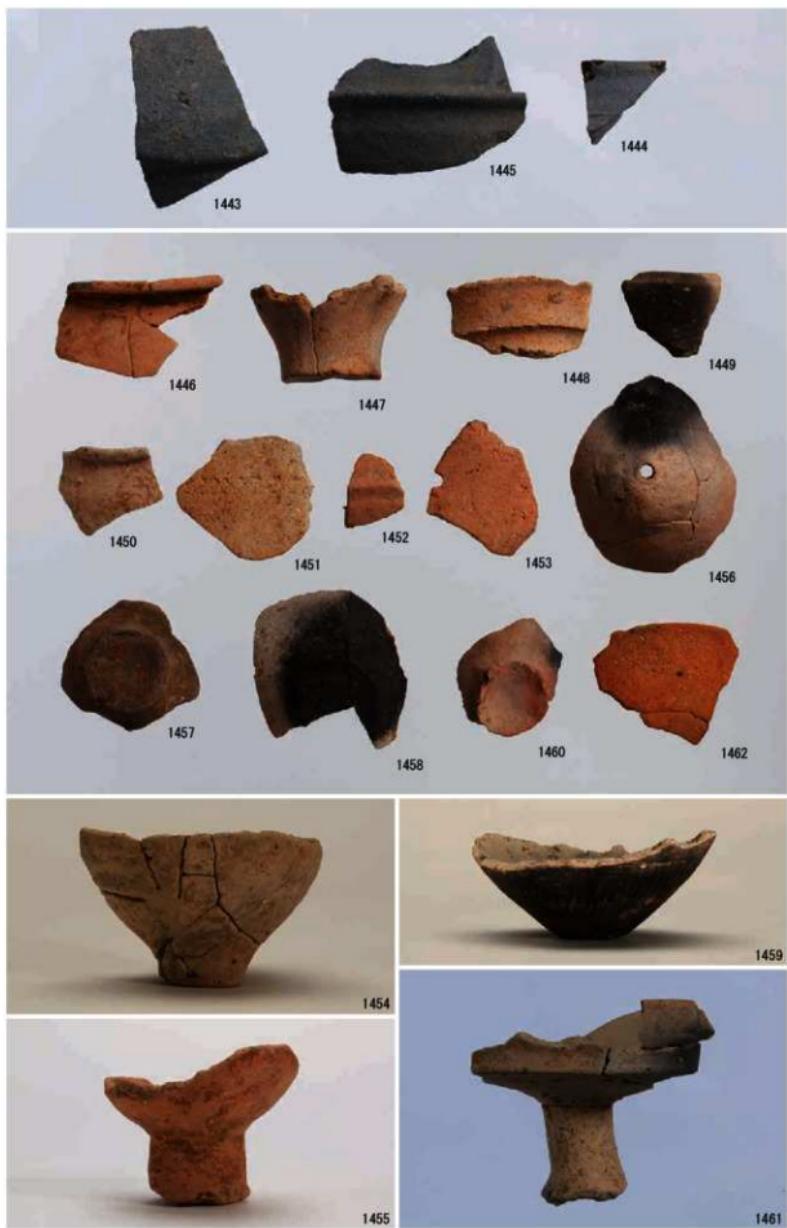
流路3 出土土器 (94)



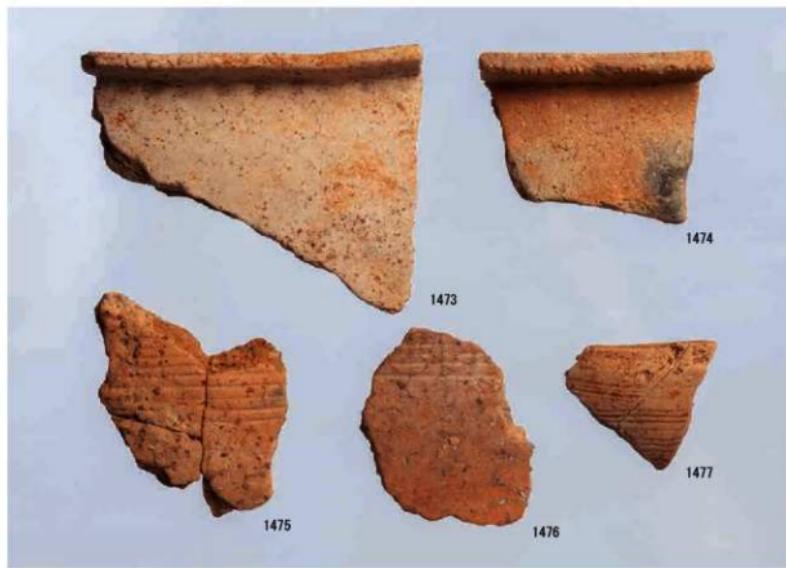
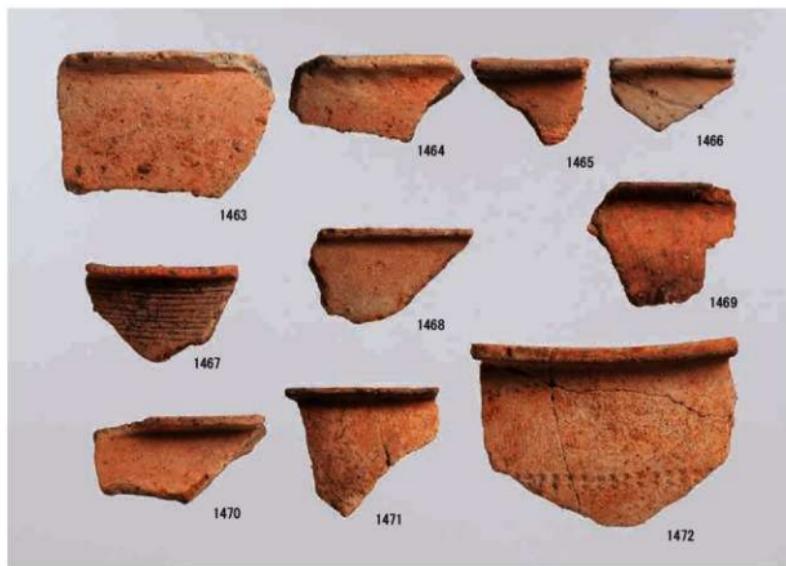
流路3 出土土器 (95)



流路3 出土土器 (96)



流路3 出土土器 (97)



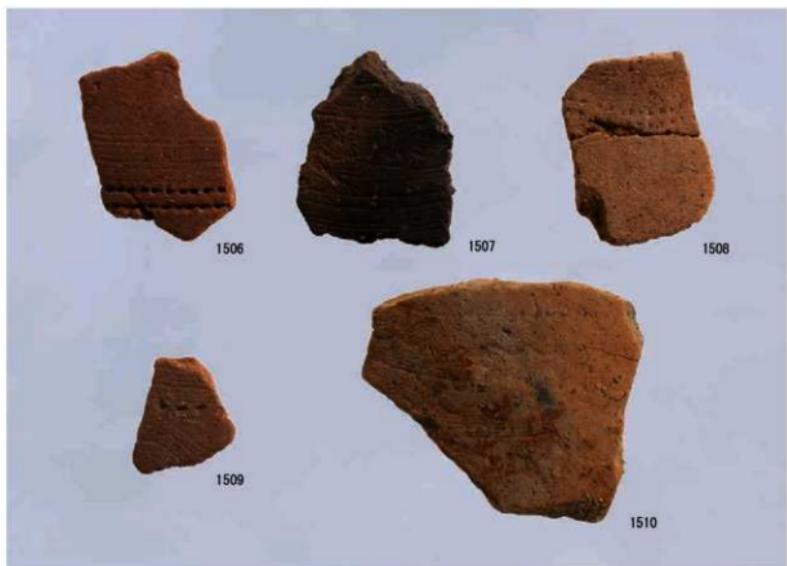
流路 1-1 出土土器 (1)



流路 1-1 出土土器 (2)



流路 1-1 出土土器 (3)



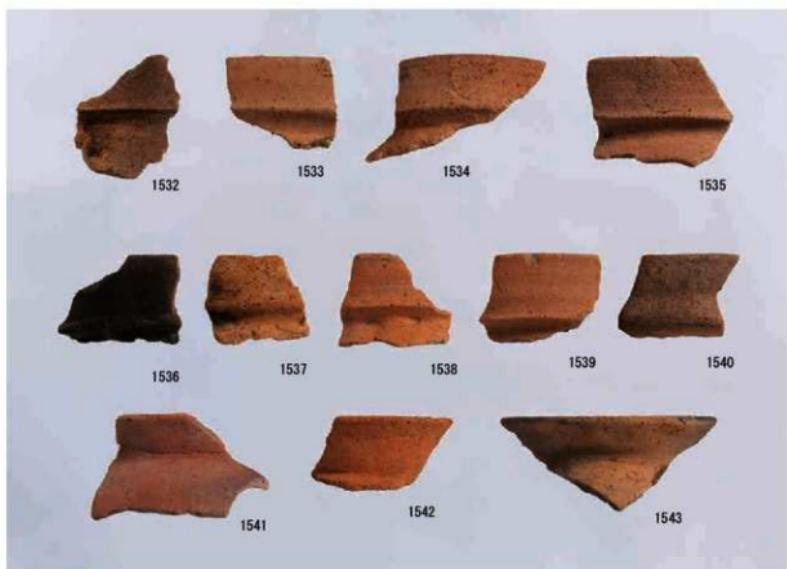
流路 1-1 出土土器 (4)



流路 1-1 出土土器 (5)



流路 1-1 出土土器 (6)



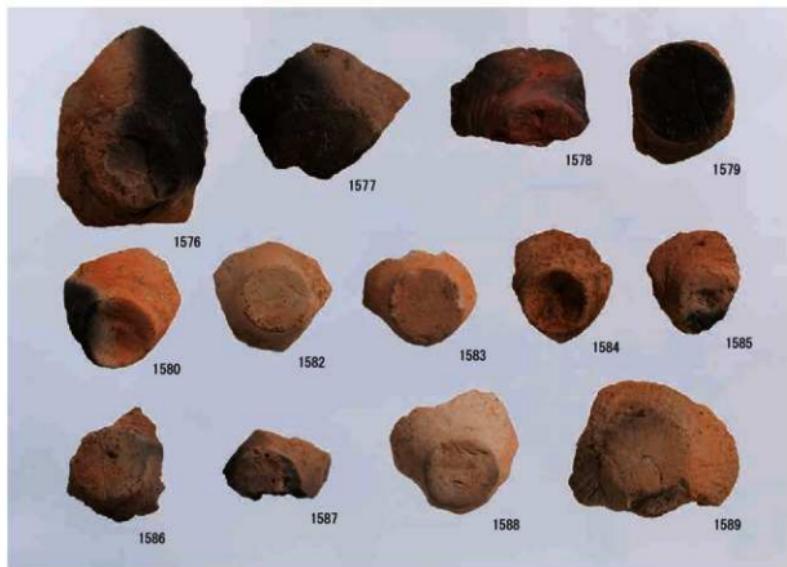
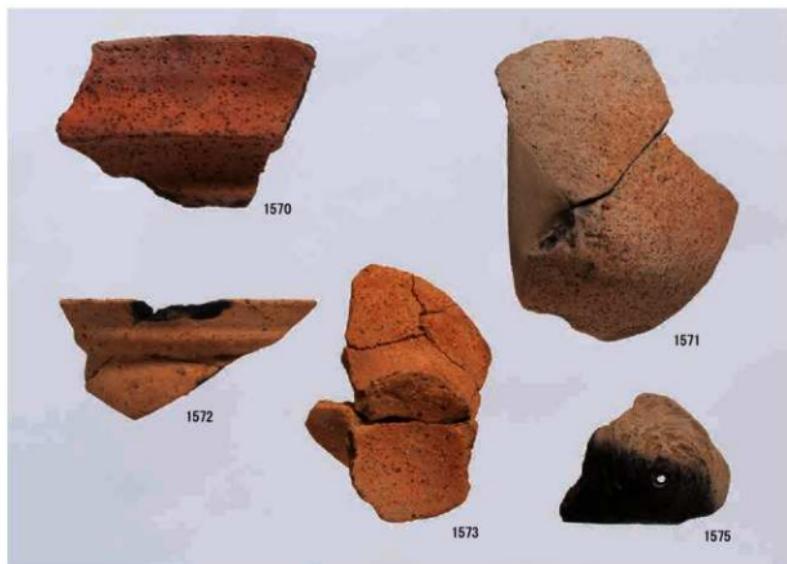
流路 1-2 出土土器 (1)



流路 1-2 出土土器 (2)



流路 1-2 出土土器 (3)



流路 1-2 出土土器 (4)



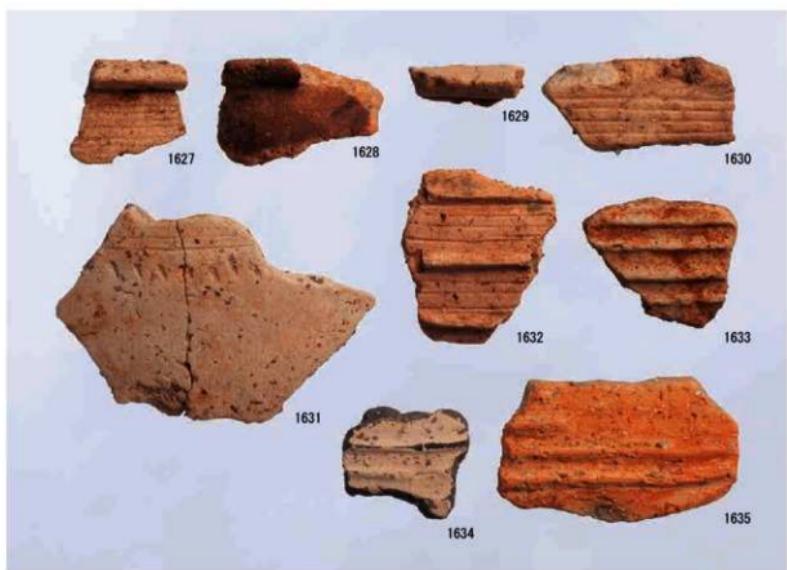
流路 1-2 出土土器 (5)



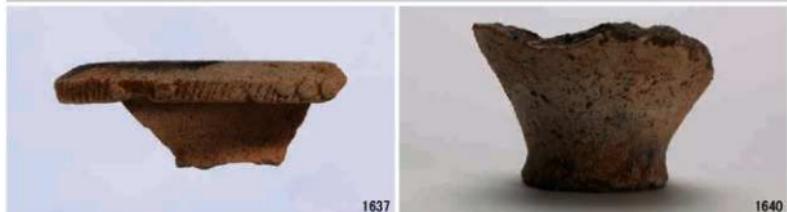
流路 1-2 出土土器 (6)



流路 1-2 出土土器 (7)



流路 2 出土土器 (1)



流路 1-2 出土土器 (8)、流路 2 出土土器 (2)

1644



流路2 出土土器（3）



1654



1657



1659



1660



1661



1663



1664



1665



1666

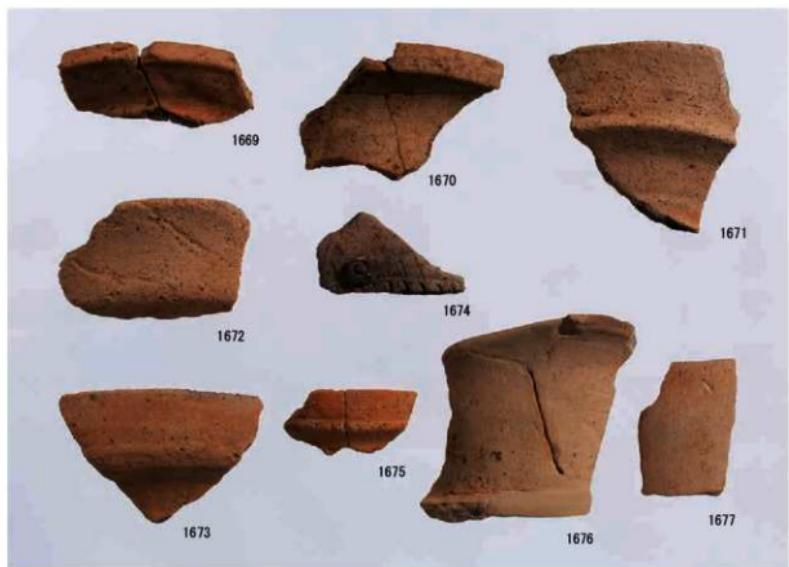


1667

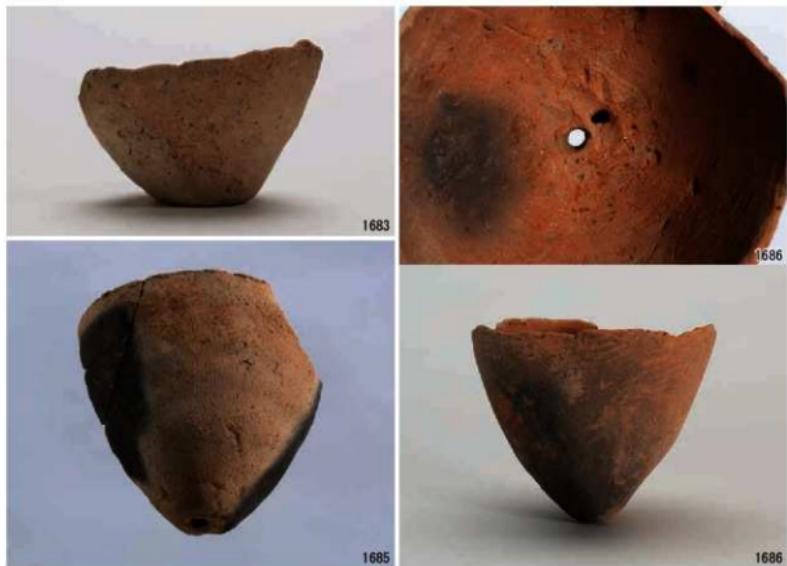
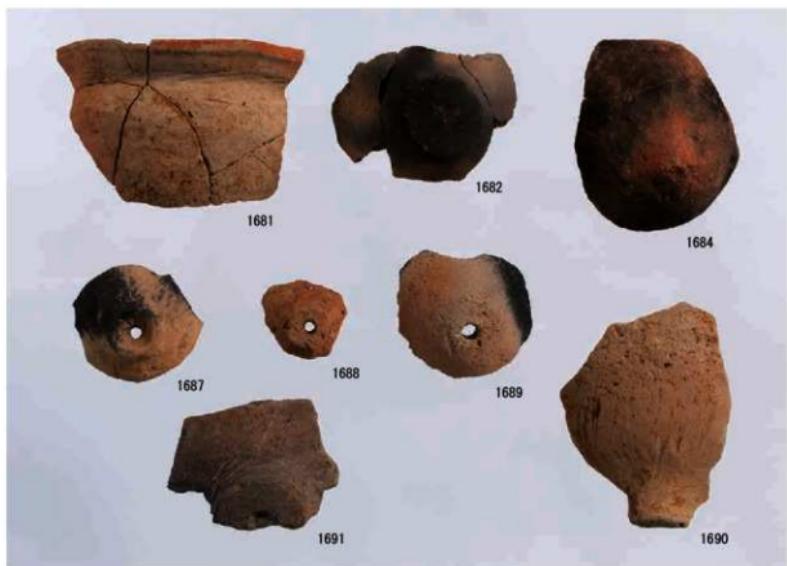


1668

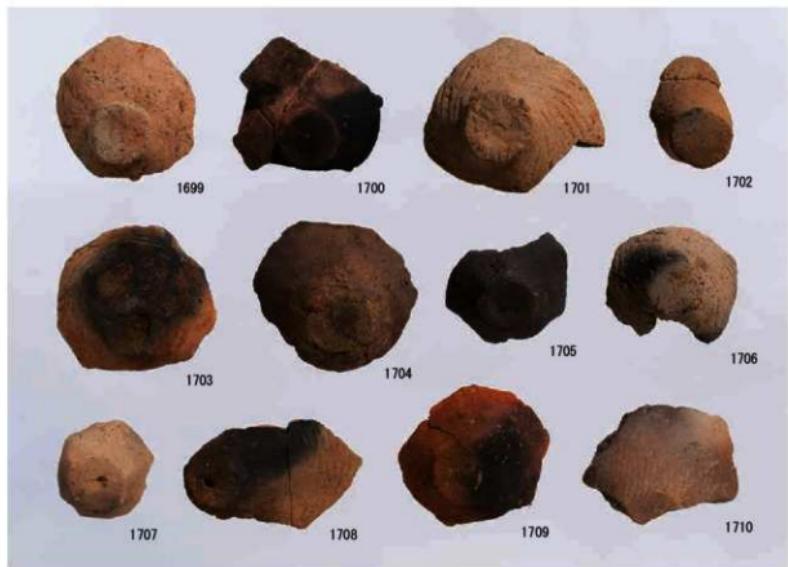
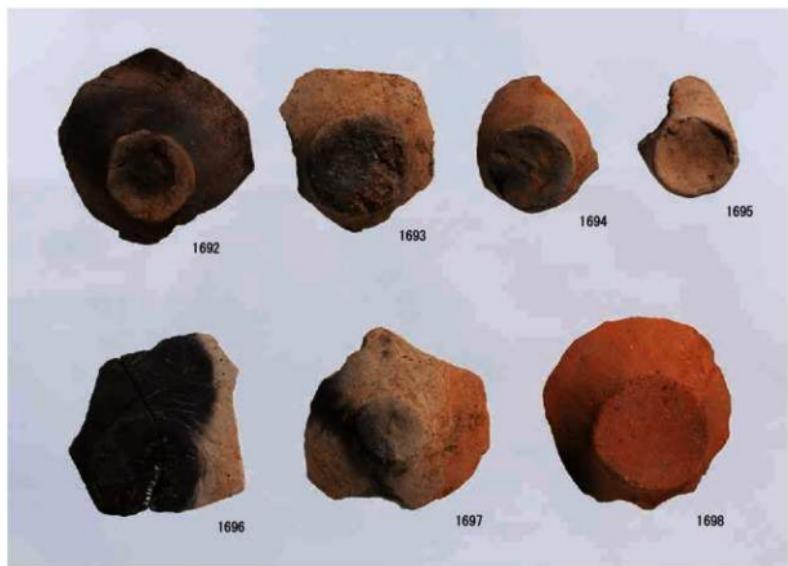
流路2 出土土器 (4)



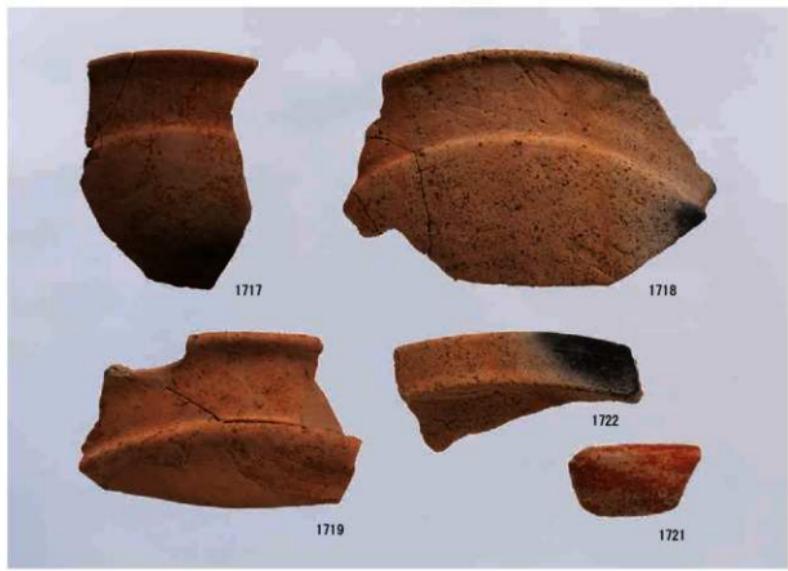
流路2 出土土器（5）



流路2 出土土器（6）



流路2 出土土器（7）



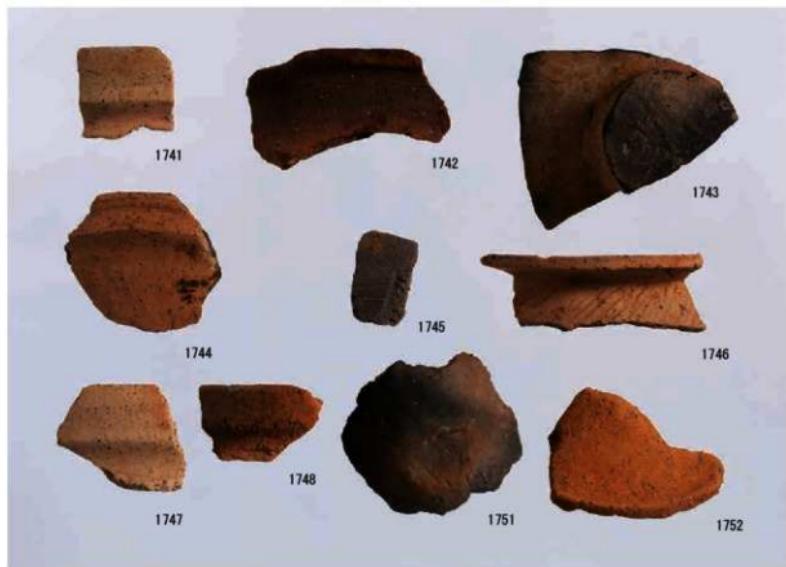
流路2 出土土器 (8)



流路2 出土土器（9）



溝1・溝2 出土土器



井戸1 出土土器、井戸2 出土土器（1）



1749



1754



1750



1753



1755



1757



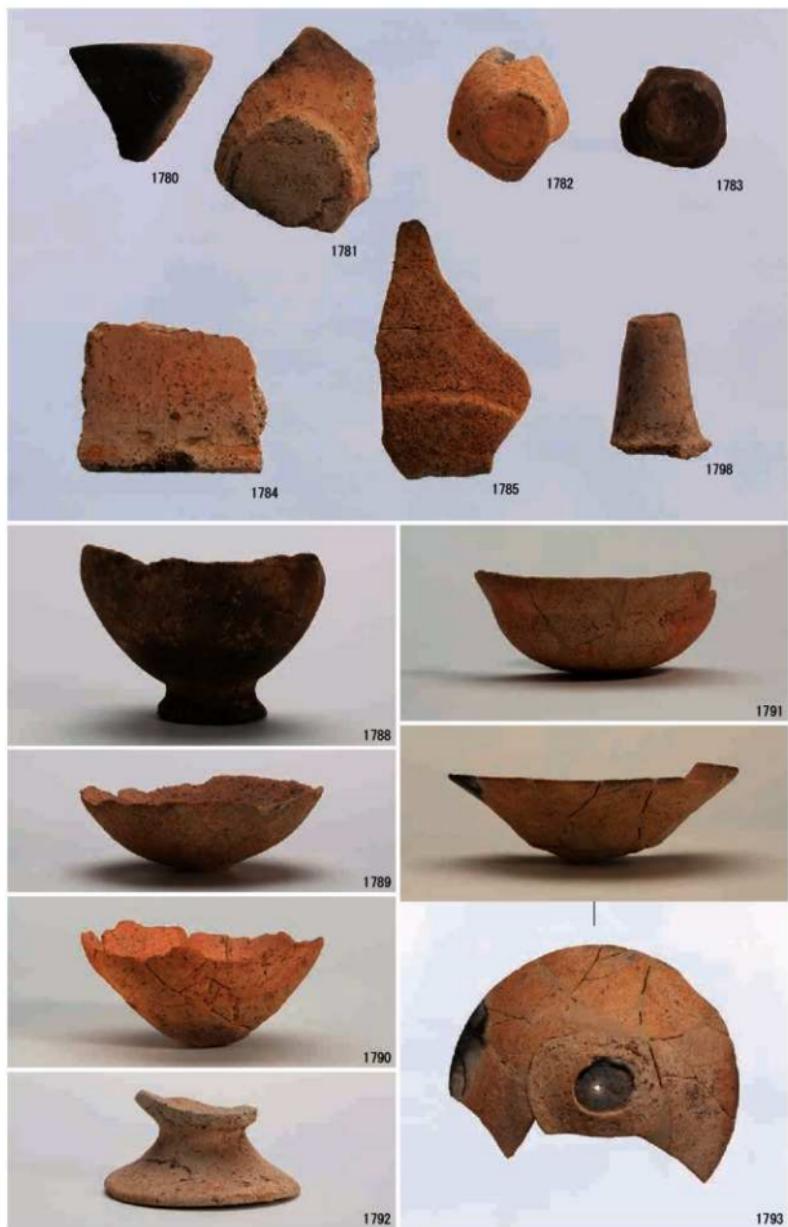
1756



井戸3 出土土器（2）



井戸3 出土土器 (3)



井戸3 出土土器 (4)



井戸3 出土土器 (5)



柱穴・溝3 出土土器



溝4 出土土器（1）



溝4 出土土器（2）



II区包含層 出土土器（1）



II区包含層 出土土器（2）



粘土探査坑 出土遺物（1）



粘土探査坑 出土遺物（2）、表探土器（1）



粘土探掘場 出土遺物（3）、表探土器（2）



|



1863

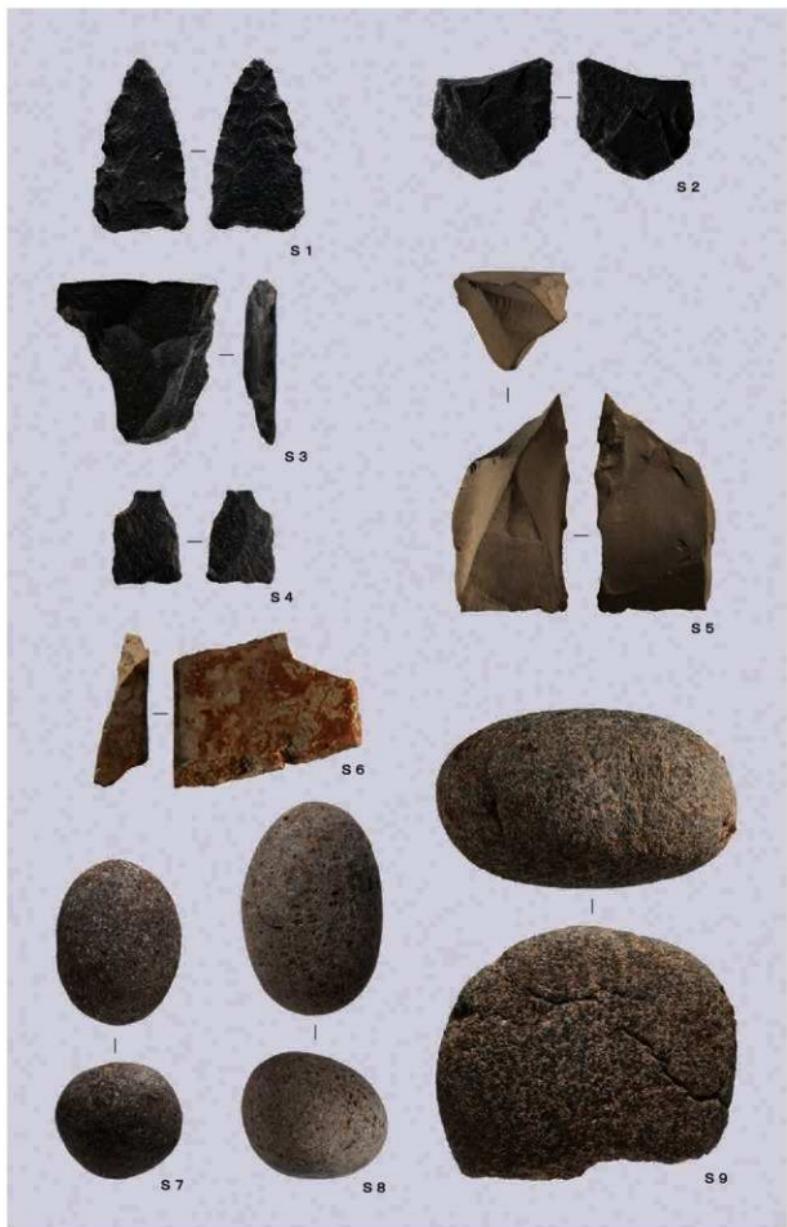
粘土探掘場 出土瓦（1）



粘土探査場 出土瓦（2）



粘土探査場 出土瓦 (3)



流路3 出土石器・石製品（1）



S 11



S 12



S 13



流路3 出土石器・石製品（3）



S 21



S 22



S 24

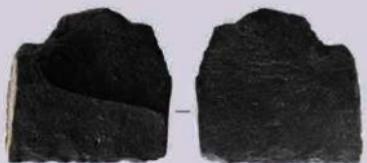


S 25



S 23

流路3 出土石器・石製品（4）



流路 1・流路 2 出土石器・石製品



流路2・井戸3 出土石製品



包含層・粘土探査坑 出土石器・石製品

報告書抄録

ふりがな	いかるがいせき					
書名	鵜遺跡					
副書名	(国)179号(太子道路)道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告					
シリーズ番号	第528冊					
編著者名	岸本一宏 株式会社 古環境研究所					
編集機関	公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部					
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号(兵庫県立考古博物館内) TEL.079-437-5561					
発行機関	兵庫県教育委員会					
所在地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 TEL.078-341-7711					
発行年月日	2023(令和5)年3月24日					
資料保管機関	兵庫県立考古博物館					
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 TEL.079-437-5589					

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
いかるがいせき 鵜遺跡	兵庫県揖保郡太子町鵜	284645	450017	34度50分5秒	134度34分48秒	20121225~20130322 20131220~20140314	本発掘 1,028 m ²	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鵜遺跡	弥生 古墳	弥生時代中期 弥生時代後期~ 古墳時代前期 古墳時代中期~ 後期 中世	流路 溝 井戸	弥生土器・土師器・韓式系土器 須恵器・石器・石製品	他地域系土器多数 韓式系土器 赤色顔料精製用石杵

概要

鵜遺跡は弥生時代後期末～古墳時代初頭の時期を代表とする遺跡で、これまでに大量の土器が出土している。今回の調査では、弥生時代中期前葉と弥生時代中期中葉・後期～古墳時代初期の井戸・柱穴、古墳時代中期の溝、中世まで存続していた条里關係の溝を検出し、同時に、弥生時代後期半～古墳時代前期初頭の土器が大量に出土した。

出土した土器の中には山陰系や丹波・丹後系(北近畿系)、西部瀬戸内系、吉備系の土器のほか、讃岐の胎土で作られた土器も含まれており、他地域との交流が盛んだったことが窺える。流路3の最上層からは韓式系軟質土器甕や陶質土器または初期須恵器の甕または高杯のほか、土師器の瓶形土器も出土した。

井戸3では最上層に古墳時代初期の多くの土器が捨てられた状態で検出され、庄内形播磨型甕のほか、山陰系、吉備系など他地域系の土器も含まれていた。また、井戸底に近い部分からは釣瓶と思われる土器片も出土し、井戸埋土から赤色顔料の精製に使用されたと思われる石杵も出土した。なお、この赤色顔料は分析の結果、ベンガラと同定された。

兵庫県文化財調査報告 第528冊

揖保郡太子町

鶴 遺 跡

— (国) 179 号(太子道路) 道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和5(2023)年3月24日 発行

編集：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号

(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：小野高速印刷株式会社

〒670-0933 姫路市平野町62番地
